

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第1分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 郎 北 堀 遺 跡

(第1分冊)

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

よし じゅう き た 遺 跡
かん じゅう ろ う ぼ り 跡
吉 十 北 遺 跡
勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第1分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団



吉十北遺跡 調査区全景（東から）



勘十郎堀跡 調査区遠景（調査前・南西から）



吉十北遺跡出土繩文土器

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として文化財調査報告書を刊行してきました。

この度、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所による東関東自動車道水戸線（鉾田～茨城空港北間）建設事業に伴って実施した、鉾田市吉十北遺跡、同市勘十郎堀跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、吉十北遺跡においては、縄文時代の竪穴建物跡や袋状土坑などが多数確認でき、当地域における縄文時代中期の集落構造の一端が明らかになりました。また、勘十郎堀跡においては、県内で初めての近世における運河跡の調査であり、その掘削の状況が明らかになりました。これらの成果は学術的な研究資料としてはもとより、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料となることと思います。

本書が、歴史研究の学術資料のみならず郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで多大な御協力を賜りました委託者であります東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、鉾田市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成29年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例 言

- 1 本書は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成26年度に発掘調査を実施した、茨城県鉾田市下富田字吉十984番2ほかに所在する吉十北遺跡及び茨城県鉾田市紅葉字新川添924番4ほかに所在する勘十郎堀跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成26年4月1日～11月30日
整理 平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 寺内久永 平成26年4月1日～11月30日
首席調査員 駒澤悦郎 平成26年4月1日～11月30日
調査員 内田勇樹 平成26年4月1日～11月30日
調査員 緑川正實 平成26年8月1日～11月30日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、以下の者が担当した。
次席調査員 清水 哲 平成28年4月1日～平成29年3月31日
調査員 内田勇樹 平成27年4月1日～平成28年3月28日
調査員 海老澤稔 平成28年4月1日～平成29年3月31日
調査員 仙波 亨 平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 5 本書の執筆・編集分担は、下記のとおりである。
清水 哲 第3章第3節1 (4), 第4章, 編集
内田勇樹 第1章～第3章第2節, 第3節1 (4)
海老澤稔 第3章第3節1 (4), 第4節
仙波 亨 第3章第3節1 (1)～(4), 2, 3, 第4節
- 6 本書の作成にあたり、吉十北遺跡の集落の様相については、國學院大學文学部教授の谷口康浩氏、縄文土器の様相については、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター整理課長の塚本師也氏、石器の材質については、株式会社考古石材研究所代表取締役の柴田徹氏、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化財調査事務所所長の鈴木素行氏、石器の用途と製作技法については、國學院大學文学部兼任講師の大工原豊氏にそれぞれご指導、ご教示いただいた。
- 7 吉十北遺跡の縄文土器・石器の一部の実測図化業務については、株式会社アルカに委託した。
勘十郎堀跡の土壌の年代測定業務については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その成果は付章として巻末に掲載した。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、吉十北遺跡については $X = + 23,520 \text{ m}$ 、 $Y = + 54,440 \text{ m}$ 、勘十郎堀跡については $X = + 25,200 \text{ m}$ 、 $Y = + 53,520 \text{ m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。




大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j, 西から東へ 1, 2, 3, …0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 F - 炉跡 P - ピット SD - 溝跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 SY - 炭窯跡 TP - 陥し穴
遺物 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 T - 瓦
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩  炉・火床面  竈部材・石断面
● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 - - - - - 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

- 7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SK42・44 → SK43 P 1・SK45 P 1, SK103 → SK104 P 1, SK118 → SK211 に統合, SK207 → SK234 に統合,
SK297 → SK296 に統合, SK400 → SI 8, SK454 → TP 1, SK519 → SI 37, SK624・625 → SI 26 貯蔵穴,
SK639 → SI 26 P 6, SK656 → TP 2, SK683・684・691 ~ 695 → SI 5 P 1・P 2・P 10・P 11・P 14・P 15・P 17
欠番 SK97・148・149・168・188・219・220・251・252・257・258・263・268 ~ 270・273・289・324・326 ~
330・353・356・391・393・397・403・423・463・487・488・526・538・560・610・623・637・653・658・
660・708・709

目 次

—第1分冊—

序	
例 言	
凡 例	
吉十北遺跡・勘十郎堀跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と地形	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 吉十北遺跡	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	15
1 縄文時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴建物跡	15
(2) 炉跡	144
(3) 陥し穴	149
(4) 土坑（第1号土坑～第200号土坑）	152

—第2分冊—

(4) 土坑（第201号土坑～第600号土坑）	295
-------------------------	-----

—第3分冊—

(4) 土坑（第602号土坑～第729号土坑）	579
2 奈良時代の遺構と遺物	695
竪穴建物跡	695
3 その他の遺構と遺物	700
(1) 炭窯跡	700
(2) 溝跡	702
(3) 遺構外出土遺物	704
第4節 まとめ	718

第4章 勘十郎堀跡	788
第1節 調査の概要	788
第2節 運河跡	788
第3節 まとめ	795
付 章	798
茨城県銚田市勘十郎堀跡採取試料の年代測定	パリノ・サーヴェイ株式会社

—第4分冊—

写真図版	PL 1 ~ PL188
------------	--------------

よしじゅうきた よしじゅうきた かんじゅうろうぼり かんじゅうろうぼり 吉十北遺跡・勘十郎堀跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

吉十北遺跡と勘十郎堀跡は、ほこた 銚田市の北西部に位置し、ともえがわ 巴川左岸の標高約 29 m の台地中央部から縁辺部にかけて立地しています。ひがしかんとうじどうしゃどうみ とせん 東関東自動車道水戸線（銚田～茨城空港北間）建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が、平成 26 年度に発掘調査を行いました。調査面積は、吉十北遺跡が 5,890㎡、勘十郎堀跡が 5,770㎡です。



吉十北遺跡の調査成果

当遺跡は南北約 260 m、東西約 160 m の範囲で確認されており、調査区はその南部に当たります。調査の結果、旧石器時代から江戸時代以降にかけて断続的に土地利用された遺跡であることが判明しました。



調査区遠景（西から）



有段式の竪穴建物跡（第 1A 号竪穴建物跡）



多量の土器が捨てられていた有段式の竪穴建物跡（第 14 号竪穴建物跡）



径 10 m を超える大型の竪穴建物跡（第 26 号竪穴建物跡）



竪穴建物跡に併設されていた石囲い炉と埋設土器（第 29 号竪穴建物跡）

縄文時代の遺構は、^{たてあなたでものあと}竪穴建物跡 36 棟、^{ろあと}炉跡 7 か所、^{おと あな}陥し穴 2 基、^{どこう}土坑 669 基を確認しました。時期は、すべて縄文時代中期（約 4,500 年前）です。台地縁辺部に竪穴建物が建てられ、環状に巡っています。その内側に数多くの袋状土坑と呼ばれる^{ちようけつ}貯蔵穴が作られており、当地域における拠点集落であったと推測できます。袋状土坑はいくえにも重なり合って作られていることから、この地が長い間使用されていたことがうかがえます。

竪穴建物跡や袋状土坑などからは、多量の縄文土器が出土しました。縄文土器は、在地の^{あたまだいしき}阿玉台式土器や^{か そりいしき}加曽利 E 式土器と言われるものがほとんどです。それらの土器から、当地域の縄文時代中期の土器の移り変わりをみることができます。それ以外に、東北地方や南関東地方などの影響を受けた土器もみられ、広域にわたる人や物の交流の様子をうかがい知ることができます。



底面に縄文土器が残されていた袋状土坑
(第 68 号土坑)



袋状土坑に堆積した土層の様子
(第 322 号土坑)



ほぼ完全な形で出土した縄文土器
(第 588 号土坑)



立ったままの状態出土した縄文土器
(第 581 号土坑)



他地域の影響がみられる縄文土器
(勝坂式・諏訪式・大木式)



様々な石斧と敲砥石

また、石器が多量に出土したことも当遺跡の特徴です。石器は、土掘り具に使用したと考えられる分銅形^{ふんどうがた}やバチ形の打製石斧^{だせいせきふ}、木を切る道具と考えられる定角式^{ていかくしき}や短冊形^{たんざくがた}の磨製石斧^{ませいせきふ}などが約 400 点出土しています。ほかに敲砥石^{たたきといし}と呼んでいる石器も 66 点出土しています。敲砥石は、石斧の成形や刃部を研磨するために用いたもので、手持ちで使用したものと思われます。チャート、石英^{せきえい}、瑪瑙^{めのう}などの硬い石材が選ばれています。当遺跡では、石器や木製品^{こうえきひん}などを作り、交易品としていたと考えられます。

勘十郎堀跡の調査成果



調査区遠景（調査前・北東から）

当遺跡は、江戸時代中期、江戸への物資輸送路として、^{ひぬま} 湫沼から巴川までの総延長約 8 km を結ぶために計画された^{うんがあと} 運河跡です。掘削工事は、^{ほうえい} 宝永 4 年（1707）に始まりましたが、工事の難航や賃金の未払いによる^{のうみんいっき} 農民一揆により、わずか 3 年余りで^{とんざ} 頓挫し、未完成のまま終わりました。



運河跡に堆積した土砂の様子

今回の調査で、運河跡を横断するトレンチを掘削し、断面形や土砂の堆積状況を確認しました。運河跡は浅い谷地形の谷底部に掘削されており、旧地形を利用した工事計画であったことが分かりました。規模は上幅 25.2 m，下幅 20.9 m，肩部からの深さ 5.3 m で、壁面は約 50 度の勾配で立ち上がっています。内部には厚さ 2.7 m ほどの粘土層や砂層が堆積しており、当初は水が流れていましたが、120～130 年後には沼地や湿地のような環境になり、今日に至っている様子が観察できました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所は、銚田市において、東関東自動車道水戸線（銚田～茨城空港北間）建設事業を進めている。

平成24年10月4日、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに東関東自動車道水戸線（銚田～茨城空港北間）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成24年10月22日に吉十北遺跡の現地踏査を、平成24年10月22日及び平成25年10月21日に勘十郎堀跡の現地踏査を実施した。平成25年11月14・20日、12月6日に吉十北遺跡の試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。茨城県教育委員会教育長は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長あてに、平成25年12月24日に事業地内に吉十北遺跡が、平成25年12月26日に事業地内に勘十郎堀跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成26年1月8日、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知をした。平成26年2月3日、茨城県教育委員会教育長は、遺跡の現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成26年2月7日、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、東関東自動車道水戸線（銚田～茨城空港北間）建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成26年2月13日、茨城県教育委員会教育長は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長あてに、吉十北遺跡、勘十郎堀跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成26年4月1日から11月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

吉十北遺跡の調査は、平成26年4月1日から11月30日までの8か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■	■					
遺構調査				■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	■	■
撤収								■

勘十郎堀跡の調査は、平成26年9月24日から11月30日までの3か月間にわたって実施した。現況は、運河跡の底部が湿地状を呈し、常時、滞水している状態であった。そこで、調査区域の草木の伐採を行い、運河跡の現況を記録するため、空中写真撮影を実施した。その後、事前準備として、委託者による排水用釜場の設置工事を実施し、ポンプ排水を行った。ある程度水が引いた段階で、運河跡の断面形状及び堆積状況を観察するため、運河跡の走行方向と直交するトレンチを掘削した。しかし、トレンチ内部の湧水が激しく、なおかつ堆積土が軟弱で崩落の危険性が生じたことから、全面の発掘調査を断念し、トレンチ部の断面観察及びその記録にとどまらざるを得なかった。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	9月	10月	11月
調査準備 空中写真撮影	■		
釜場設置 トレンチ掘削工事 (委託者実施)		■	
遺構調査			■
撤収			■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

吉十北遺跡は、茨城県銚田市下富田字吉十 984 番 2 ほか、勘十郎堀跡は、茨城県銚田市紅葉字新川添 924 番 4 ほか、に所在している。

銚田市は、茨城県の東部に位置し、北は涸沼、東は太平洋、南は北浦に面している。平成 17 年に旧鹿島郡の銚田町・旭村・大洋村が合併して銚田市となった。市域には巴川、銚田川、大谷川の 3 つの主要河川が流れている。巴川は市域西部を北西から南東方向に流れ、北浦に流れ込んでいる。銚田川は市域中央部を南流し、北浦に流れ込む手前で巴川と合流している。また、大谷川は市域北部を北流し、涸沼に流れ込んでいる。市域の地形は、主に北部及び中央部が東茨城台地、東部が鹿島台地、南部の巴川から北浦西岸の一部が行方台地で形成されている。太平洋に面する鹿島台地が標高 20～44m、東茨城台地と行方台地が標高 19～35m で、台地部の周辺には、巴川などによって樹枝状に開析された谷地形が広がっている。

吉十北遺跡は、市域北西部の巴川左岸、標高約 29m の舌状台地の先端部に位置している。調査区域の西側から南側にかけては、巴川の支流によって開析された谷地形で、低地との比高差は 15m である。東側は緩やかな小支谷が入り込んでいる。

勘十郎堀跡は、市域北部に面した涸沼から涸沼川を經由し、東茨城郡茨城町海老沢付近から同町城之内を経て、逆井川池付近を中間地点とし、銚田市紅葉付近で巴川に至る運河跡である。涸沼から巴川まで経路は、東茨城台地をほぼ南北方向に通っており、涸沼川付近で標高 10m、中間地点になる逆井川池付近で標高 23m、巴川に合流する紅葉付近で標高 12m ほどである。涸沼川から逆井川池付近に至る経路は、涸沼川に流入する支谷を利用しており、運河の痕跡は部分的に残っている程度である。一方、逆井川池付近から紅葉地区に至る経路は、台地部を掘削して構築されているため、現在もその形状が良好に遺存している。

第2節 歴史的環境

吉十北遺跡、勘十郎堀跡が所在する巴川流域には、旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』¹⁾ に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺構は確認されていないが、遺物が青柳、借宿、徳宿地区を中心に出土している²⁾。徳宿の稲荷山遺跡からは、石器 17 点が出土している³⁾。

縄文時代の遺跡は、入場台遺跡〈60〉から早期の花輪台式土器が採集され、カキの貝殻が少量散乱していることから貝塚の存在が指摘されている⁴⁾。吉十北遺跡〈①〉の谷津を挟んで南側に位置する梨ノ子木久保遺跡〈6〉からは沈線文系土器が出土している⁵⁾。また、巴川河口部である北浦湖頭の兩岸の台地上には、串挽貝塚や万籬ノ上遺跡など早・前期の土器が採集されており⁶⁾、早期の遺跡が集中している。

前期になると巴川兩岸の台地上に遺跡が増える。巴川右岸の開析谷の入り込む台地縁辺部には、宮後遺跡〈17〉、瀬戸遺跡〈23〉、岡田遺跡〈31〉、中郷谷遺跡〈32〉、前野遺跡〈36〉などで、また巴川左岸の台地縁辺部には、梨ノ子木久保遺跡、外ノ山遺跡〈7〉、稲荷前遺跡〈8〉、柏葉山東遺跡〈25〉、柏葉後口遺跡〈27〉、大乘遺跡〈49〉で花積下層式土器、黒浜式土器、浮島式土器などが表面採集されている⁷⁾。梨ノ子木久保遺跡

では、調査の結果6基の土坑が検出され、出土遺物から当該期の遺構と考えられている⁸⁾。

中期になると遺跡数は増大し、巴川右岸の台地縁辺部に、宮後遺跡、城之内遺跡〈18〉、道海遺跡〈21〉、宿東側遺跡〈42〉などが、また巴川左岸の台地縁辺部には、吉十北遺跡、富田山遺跡〈4〉、吉十南遺跡〈5〉、坂ノ上遺跡〈10〉、香取脇遺跡〈14〉、行中地遺跡〈16〉、柏葉山東遺跡、権現山遺跡〈46〉、大條遺跡〈47〉、浦房地遺跡などがある。浦房地遺跡では、竪穴建物跡7棟、袋状土坑110基が確認されており、巴川流域での当該期の遺跡を考える上で注目される遺跡である⁹⁾。

後・晩期になると遺跡は少なくなっており、生活の場の変化などが考えられる。当遺跡の南東約3kmのところから巴川河口近くの両岸の台地上に金佛遺跡、宮下遺跡、青柳貝塚、神楽場遺跡、権現平貝塚などで当該期の遺物が採集されており¹⁰⁾、特に巴川右岸の台地上に多くみられる。

弥生時代の遺跡は、鉾田川左岸台地上に位置する徳宿遺跡や塙遺跡、北浦湖頭の鹿島台地上に位置する安塚遺跡などで中期の足洗式土器が出土している¹⁴⁾。後期では、外ノ山遺跡、明神後古墳〈29〉、下吉影中郷谷遺跡〈30〉、前野遺跡、岸高山遺跡〈58〉、宮下遺跡、柿の木遺跡などがあり、明神後古墳では、墳丘下から弥生時代後期前半に属する竪穴建物跡2棟が確認されている¹¹⁾。宮下遺跡では、東海系の棒状浮文を口縁部に施した土器片が採集されている¹²⁾。また、柿の木遺跡では、仙台地方の弥生時代終末期に属する天王山式土器の破片が採集されている¹³⁾。吉十北遺跡周辺においては、弥生時代後期に入って集落が形成されるようになっていったことがうかがえる。

古墳時代の遺跡は、手山古墳群〈3〉、香取脇遺跡、香取前遺跡〈15〉、道海古墳〈20〉、道海遺跡〈21〉、新堀古墳〈22〉、松崎古墳〈24〉、後久保遺跡〈28〉、明神後古墳、岡田遺跡、西ノ内遺跡〈37〉、すすき山遺跡〈45〉、大乘遺跡、宿畑遺跡〈53〉、堂越遺跡〈57〉などがある。吉十北遺跡の西南西約1.3kmの巴川左岸の台地上に位置する明神後古墳は、径18m前後の円墳であり、主体部は確認されていないが周溝内の出土遺物から5世紀後半と考えられている¹⁵⁾。また、吉十北遺跡から約1.8kmの巴川右岸の台地上に位置する新堀古墳では、箱式石棺が確認されており、人骨が出土している¹⁶⁾。新堀古墳から巴川を南流すると、右岸台地上に塚崎古墳群、大上古墳群、宮山古墳群、石神東古墳群、石神西古墳、不二内古墳群がある。特に不二内古墳群からは、男子跪坐像埴輪、壺を捧げる女子像埴輪、武装男子埴輪などが出土しており、男子跪坐像埴輪は国の重要文化財に指定されている¹⁷⁾。

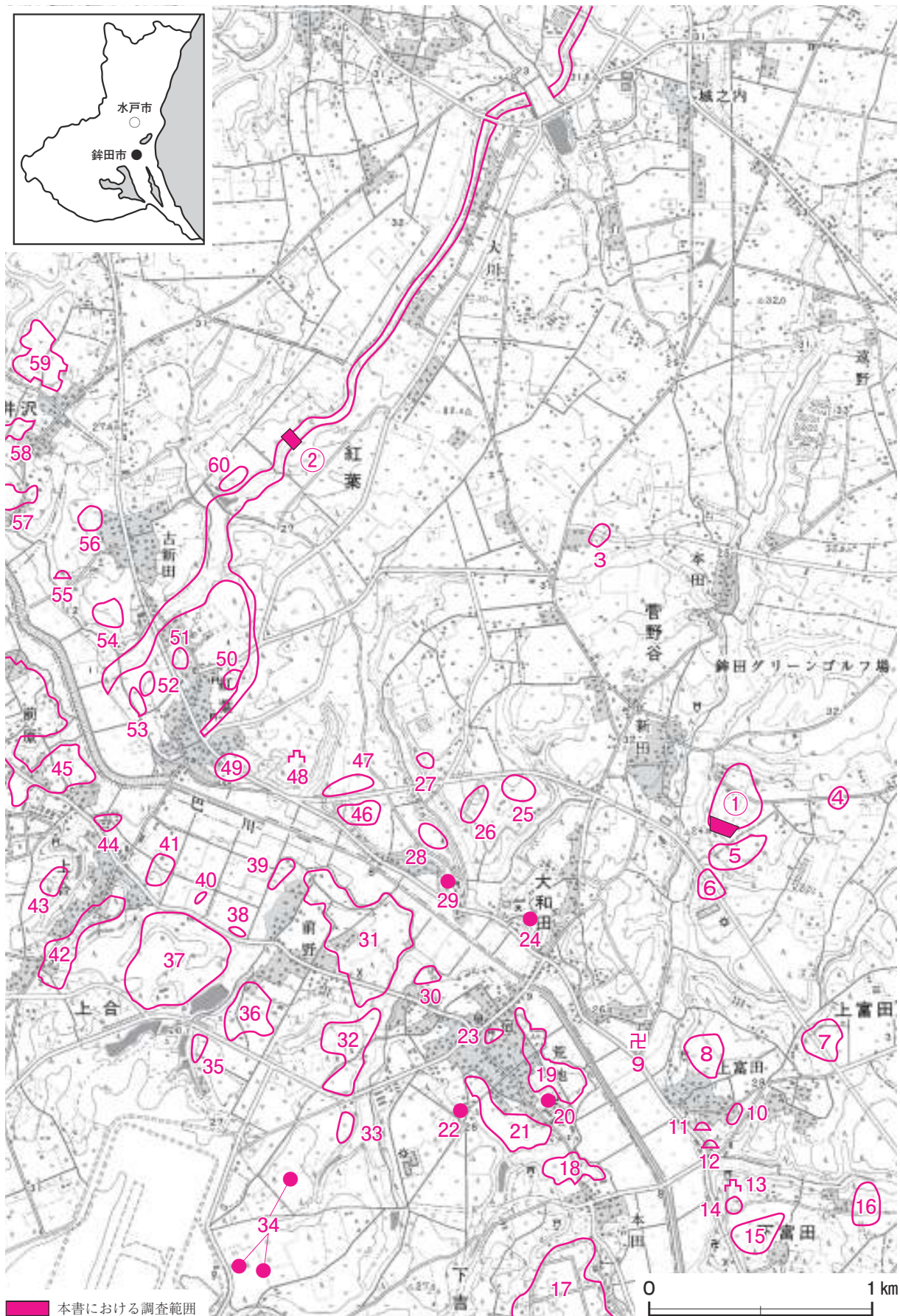
奈良・平安時代の遺跡は、集落跡の調査事例はないが、遺跡分布調査により、外ノ山遺跡、坂ノ上遺跡、香取脇遺跡、香取前遺跡、宮後遺跡、城之内遺跡、窪前遺跡〈19〉、下吉影中郷谷遺跡、旧百里原海軍飛行場掩体壕群〈34〉、道添西手遺跡〈41〉、すすき山遺跡、浜海道遺跡〈52〉、古持台遺跡〈54〉、堂越遺跡などで遺物が確認されている。奈良・平安時代の鉾田地域は、鹿島郡、行方郡、茨城郡の3郡にまたがる地域であった。吉十北遺跡の周辺は、茨城郡白川郷に属する地域である。調査事例は少ないが、当遺跡から東へ約5.5kmのところに鎌田遺跡があり、製鉄を行っていたと考えられる工房跡が見つまっている¹⁸⁾。

中世における遺跡は、富田城跡〈13〉、城之内遺跡、西ノ内遺跡、館小路遺跡〈39〉、すすき山遺跡、紅葉城跡〈48〉、仙助作遺跡〈50〉、新山遺跡〈51〉、浜海道遺跡、宿畑遺跡などがある。紅葉城跡は、常陸大掾氏の一族である鹿島三郎成幹が、北方の守りとして紅葉村に4子助幹を派遣し、助幹は持寺氏を名乗り、助幹が居城として築いたのが紅葉城の始まりとされる¹⁹⁾。巴川流域には富田城跡や堀の内砦などの城館や砦が7遺跡確認されている²⁰⁾。また鉾田川流域には、常陸大掾氏の支族である鹿島氏一族の徳宿親幹が築いた徳宿城跡や安房又太郎の築いた三階城跡など8遺跡の城館や砦が、田中川流域では、畑田幹秀が築いた畑田城跡など9遺跡の城館や砦が確認されている²¹⁾。

近世の遺跡は、勘十郎堀跡〈②〉、^{えんまんじ}円満寺廃寺〈9〉、^{どうしづか}童子塚〈11〉、館小路遺跡、サイカチ遺跡〈40〉、^{きま}木間塚〈55〉がある。近世の銚田地区は、江戸への輸送路の中継地点としての役割を果たしている。勘十郎堀跡は、その輸送路の一つとして計画された運河跡である。

註

- 1) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 銚田町史編さん委員会編『銚田町史 原始古代史料編(銚田町の遺跡)』銚田町 1995年3月
- 3) 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会編『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県 1979年3月
- 4) 註2)に同じ
- 5) 後藤義明「主要地方道茨城・鹿島線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 梨ノ子木久保遺跡 割り塚古墳」『茨城県教育財団文化財調査報告』第47集 1988年6月
- 6) 註2)に同じ
- 7) 註2)に同じ
- 8) 註5)に同じ
- 9) 銚田町史編さん委員会編 図説『ほこたの歴史』銚田町 1995年12月
- 10) 註2)に同じ
- 11) 小沼一夫・小島敏・瓦吹堅「明神後古墳」『茨城県銚田町文化財調査報告書』第7輯 銚田町教育委員会・明神後古墳発掘調査会 1996年5月
- 12) 註2)に同じ
- 13) 註2)に同じ
- 14) 橋本勉・高橋杏二「鹿島線関係遺跡発掘調査報告書 徳宿遺跡 塙遺跡 安塚遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』V 1980年3月
- 15) 註11)に同じ
- 16) 小川町史編さん委員会編『小川町史』下巻 小川町 1988年3月
- 17) 註2)に同じ
- 18) 鹿島郡銚田町教育委員会『鎌田遺跡調査報告』1991年10月
- 19) 銚田町史編さん委員会『銚田町史 通史編』上巻 銚田町 2000年2月
- 20) 銚田町埋蔵文化財発掘調査会「大樋上館跡－土砂採取事業に伴う発掘調査報告書－」『茨城県銚田町文化財調査報告書』第8輯 1998年3月
- 21) 註20)に同じ
- 22) 註19)に同じ



第1図 吉十北遺跡・勘十郎堀跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「下吉影」）

表1 吉十北遺跡・勘十郎堀跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	吉十北遺跡	○	○			○		
②	勘十郎堀跡							○
3	手山古墳群				○			
4	富田山遺跡		○					
5	吉十南遺跡		○					
6	梨ノ子木久保遺跡	○	○					
7	外ノ山遺跡		○	○		○		
8	稻荷前遺跡		○					
9	円満寺廃寺							○
10	坂ノ上遺跡		○			○		
11	童子塚							○
12	富田貝塚		○					
13	富田城跡						○	
14	香取脇遺跡		○		○	○		
15	香取前遺跡		○		○	○		
16	行中地遺跡		○					
17	宮後遺跡		○			○		
18	城之内遺跡		○			○	○	
19	窪前遺跡		○			○		
20	道海古墳				○			
21	道海遺跡		○		○			
22	新堀古墳				○			
23	瀬戸遺跡		○					
24	松崎古墳				○			
25	柏葉山東遺跡		○					
26	柏葉山西遺跡		○					
27	柏葉後口遺跡		○					
28	後久保遺跡				○			
29	明神後古墳			○	○			
30	下吉影中郷谷遺跡		○	○		○		
31	岡田遺跡		○		○			
32	中郷谷遺跡		○					
33	小川街道遺跡		○					
34	旧百里原海軍飛行場掩体壕群	○	○				○	
35	前野台遺跡		○					
36	前野遺跡		○	○				
37	西ノ内遺跡		○		○		○	
38	門田古宮遺跡		○					
39	館小路遺跡							○
40	サイカチ遺跡							○
41	道添西手遺跡		○				○	
42	宿東側遺跡		○					
43	小山遺跡		○					
44	上合天神遺跡		○					
45	すすき山遺跡		○		○	○	○	
46	権現山遺跡		○					
47	大條遺跡		○					
48	紅葉城跡							○
49	大乘遺跡		○	○	○			
50	仙助作遺跡		○					○
51	新山遺跡		○					○
52	浜海道遺跡		○				○	○
53	宿畑遺跡				○			○
54	古持台遺跡		○				○	
55	木間塚							○
56	木間塚遺跡		○					
57	堂越遺跡		○		○	○		
58	岸高山遺跡		○	○				
59	下原遺跡		○					
60	入場台遺跡		○					



第2図 吉十北遺跡調査区設定図（銚田町都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第3章 吉十北遺跡

第1節 調査の概要

吉十北遺跡は、銚田市の北西部に位置し、巴川左岸の標高約 29 m の台地上に立地している。巴川に流れ込む支流の左岸台地上は、西から南側にかけて谷状地形になり、東側に緩やかな小支谷が入り込んで舌状台地を形成している。遺跡は、舌状台地上の南北約 350 m、東西約 200 m の範囲で、今回の調査区は、遺跡南部の台地先端部に位置している。調査面積は 5,890m²で、調査前の現況は山林、畑地である。

調査の結果、竪穴建物跡 38 棟（縄文時代 36・奈良時代 2）、炉跡 7 か所（縄文時代）、陥し穴 2 基（縄文時代）、土坑 669 基（縄文時代）、炭窯跡 1 基（時期不明）、溝跡 2 条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 400 箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・双口深鉢・鉢・浅鉢・小型浅鉢・壺・小型壺・器台・有孔罌付土器・小型台付土器・コップ形土器・ミニチュア土器・手捏土器）、土師器（坏・甕）、須恵器（坏・蓋・短頸壺・壺）、土製品（土器片錘・耳栓・土偶・土器片円盤・有孔円板・きのこ形土製品・支脚・不明土製品）、石器・石製品（ナイフ形石器・角錐状石器・尖頭器・スクレイパー・石錘・鏃・鏃未成品・異形石器・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・磨製石斧未成品・石皿・磨石・敲石・敲砥石・石錘・凹石・砥石・台石・多孔石・炉石・浮子・玦状耳飾り・石棒・石剣）、瓦（棧瓦）、加工痕のある剥片、剥片、石核、母岩などである。

第2節 基本層序

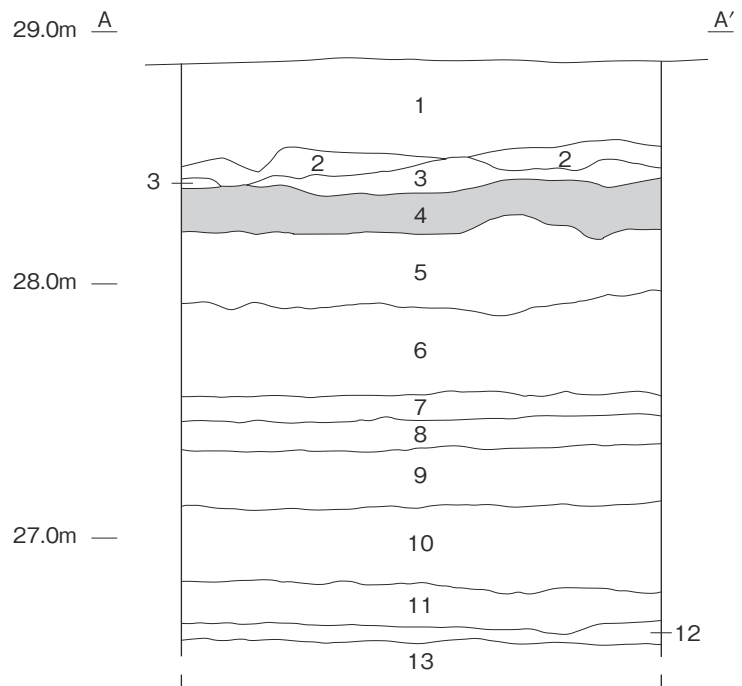
調査区南部中央の台地上の平坦面（D3 d5 区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。

第1層は、黒褐色を呈する表土である。層厚は 34 ~ 44cm である。

第2層は、暗褐色を呈するロームへの漸移層である。炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は 5 ~ 10cm である。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量に含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は 5 ~ 15cm である。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は 12 ~ 24cm である。第II黑色帯と考えられる。



第3図 基本土層図

第5層は、明褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は26～40cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は28～40cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、鹿沼パミスを少量含み、層厚は8～10cmである。鹿沼パミス層への漸移層である。

第8層は、黄褐色を呈する鹿沼パミス層である。粘性・締まりともに強く、層厚は9～12cmである。

第9層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は22～25cmである。

第10層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は27～34cmである。

第11層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は11～17cmである。

第12層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は3～9cmである。常総粘土層への漸移層である。

第13層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性は極めて強く、締まりは強く、層厚は5cmまで確認したが、下部は未掘のため不明である。

なお、遺構は、第2層の上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 36 棟、炉跡 7 か所、陥し穴 2 基、土坑 669 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1A号竪穴建物跡（第4～9図 PL4）

位置 調査区南東部のD4b1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1B号竪穴建物跡、第406号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 二段の掘り込みをもつ有段式竪穴建物である。隅丸長方形で、主軸方向はN-22°-Eである。上段は長軸7.25m、短軸6.51mである。壁は高さ10～24cmで、緩やかに立ち上がっている。下段は長軸4.70m、短軸3.83mで、上段との高低差は20cmである。壁は直立している。

床 上・下段ともほぼ平坦で、下段の中央部が踏み固められている。上段の各壁下には部分的に壁溝が存在し、下段は東壁下に部分的に壁溝が確認できた。上段の北部で焼土塊を確認したが、床面との間に褐色土の間層があり、埋没過程で投棄されたものである。

焼土土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物少量 | 2 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
|--------|--------------------|------|-----------------------|

ピット 22か所。P1～P4は深さ70～110cmで、下段の各コーナー部に位置していることから、支柱穴である。P5・P6は深さ136・123cmで、北・南部の中軸線上に位置していることから、棟持柱の柱穴と考えられる。P7～P22は深さ13～72cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量 | 15 褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 褐色 | ロームブロック中量 | | |

覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

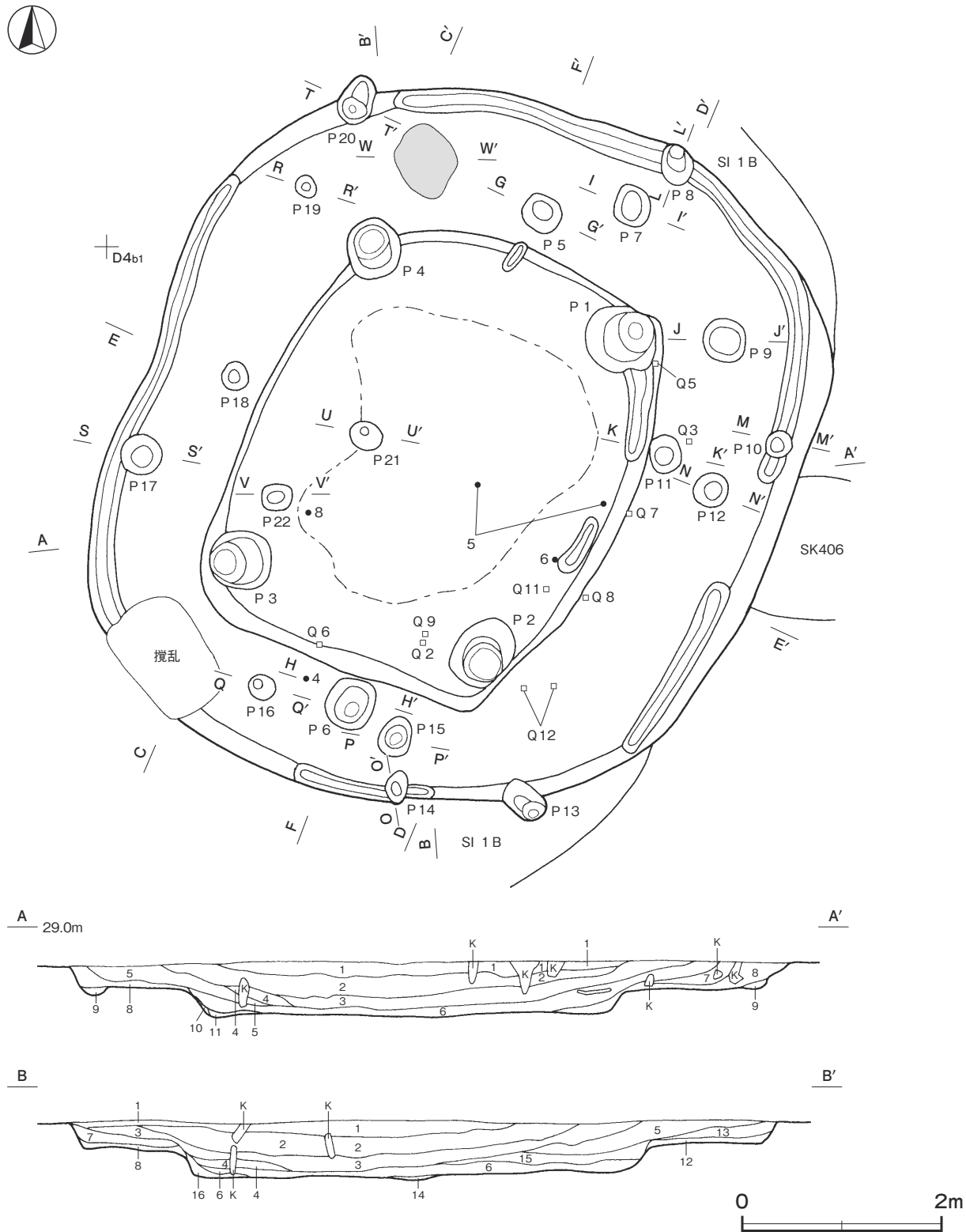
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物少量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

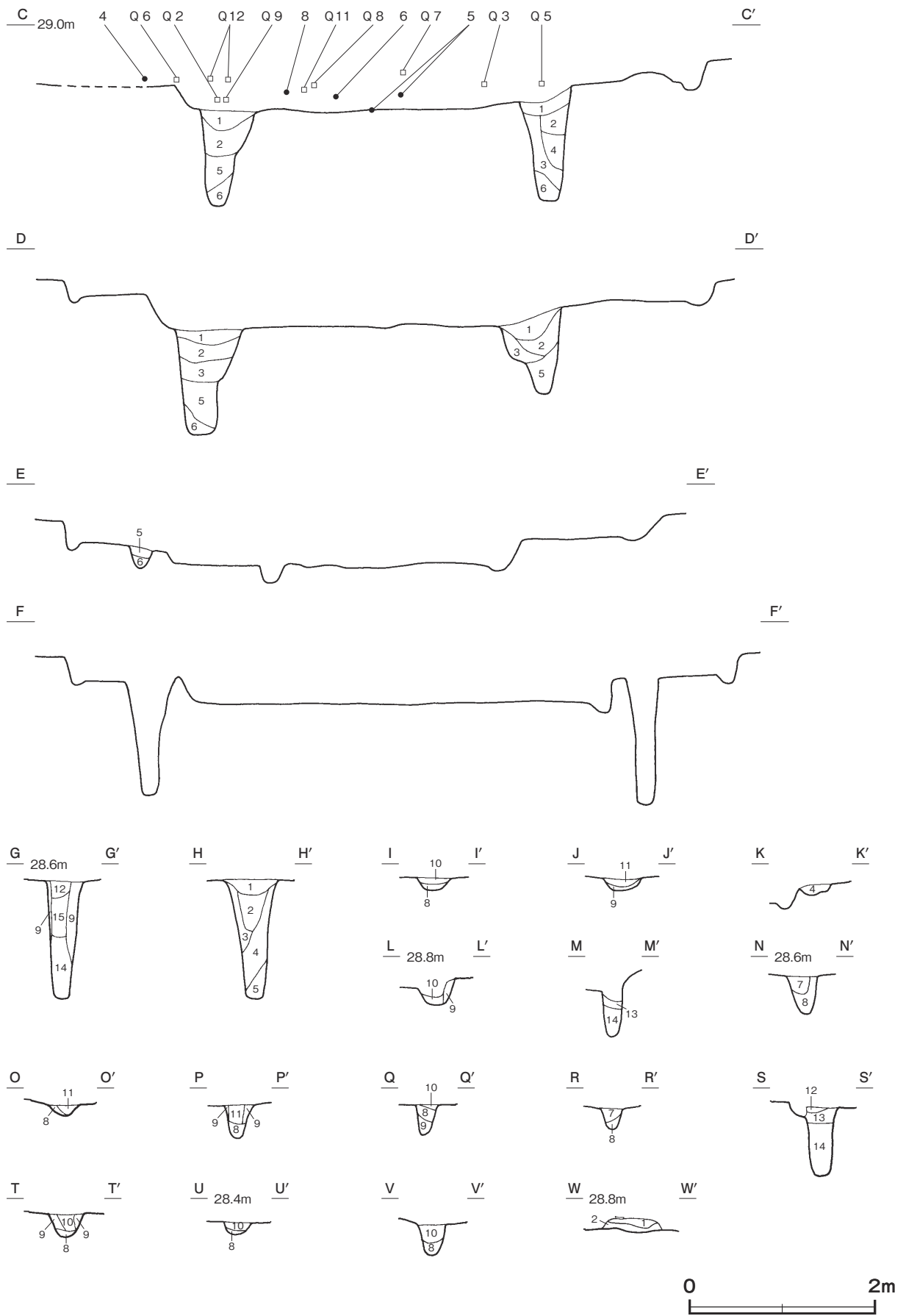
遺物出土状況 縄文土器片 1,390 点（深鉢 1,344、鉢 1、浅鉢 44、小型浅鉢 1）、土製品 2 点（土器片錘）、石器 14 点（鏃 1、打製石斧 1、磨製石斧 7、敲砥石 2、砥石 2、角錐状石器 1）、母岩 3 点（瑪瑙）、石核 94 点（石英 9、瑪瑙 85）、剥片 30 点（黒曜石 3、石英 13、瑪瑙 6、頁岩 1、チャート 3、粘板岩 1、ホルンフェルス 2、石英斑岩 1）が出土している。4 は上段の南部、5 は下段の東部、Q2・Q9 は下段の南東部の覆土下

層から、6, Q3・Q5・Q7・Q8・Q11・Q12は東部, 8は中央部の南西寄り, Q6は南部の覆土中層から、いずれも散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。また、覆土全体から出土している多量の石英・瑪瑙を中心とした石核・剥片類は、石器製作に関連するものと考えられる。

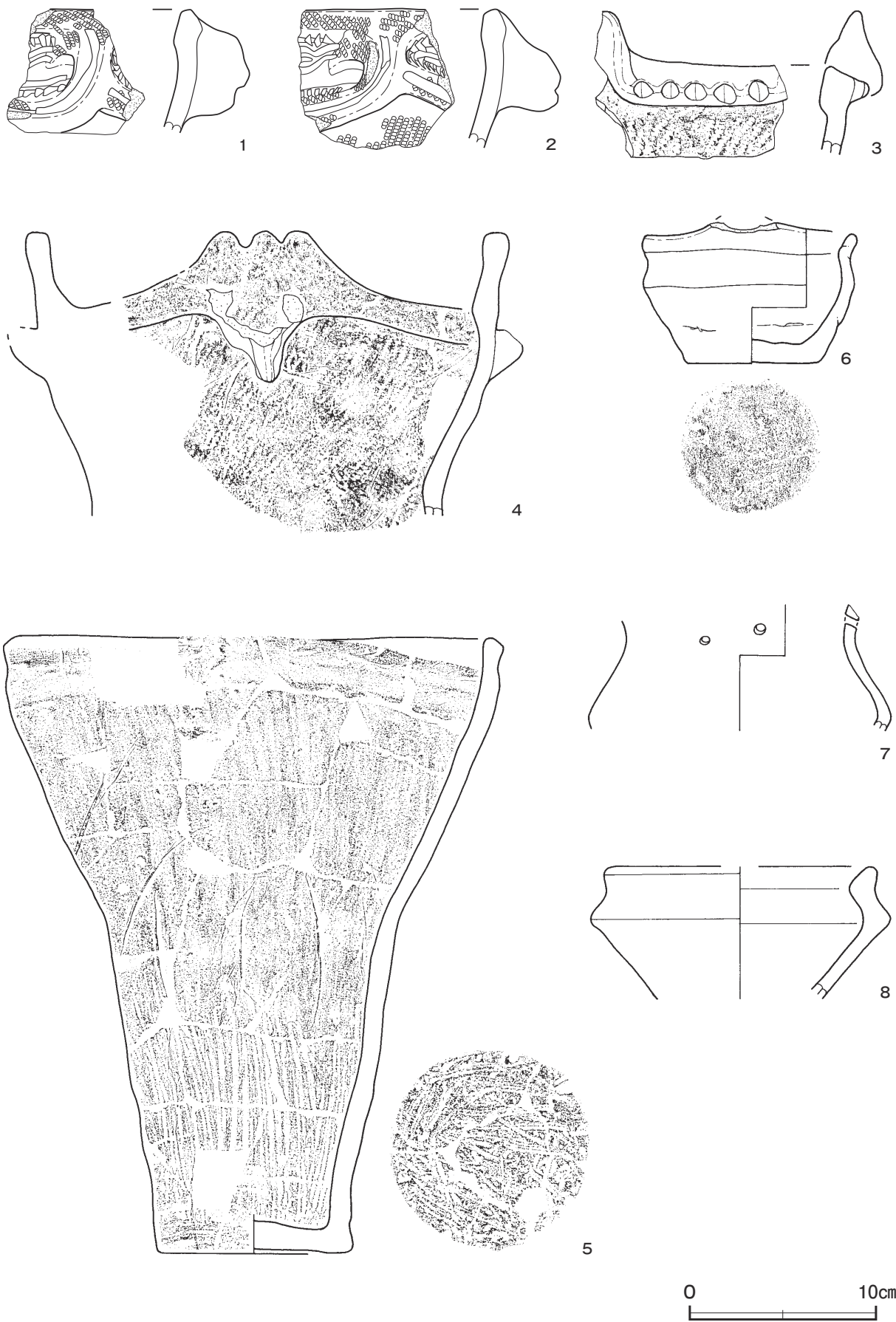
所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



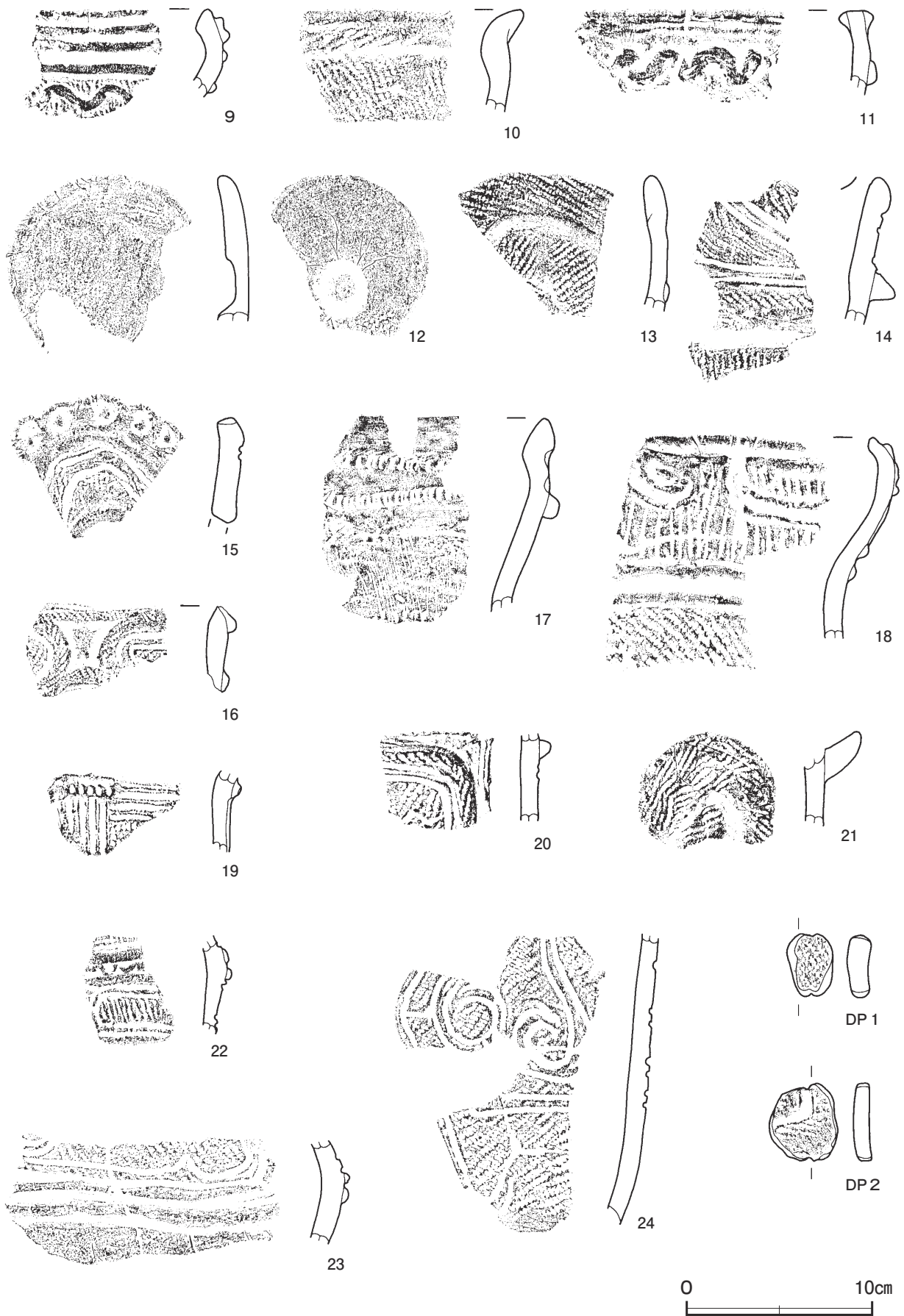
第4図 第1A号竖穴建物跡実測図(1)



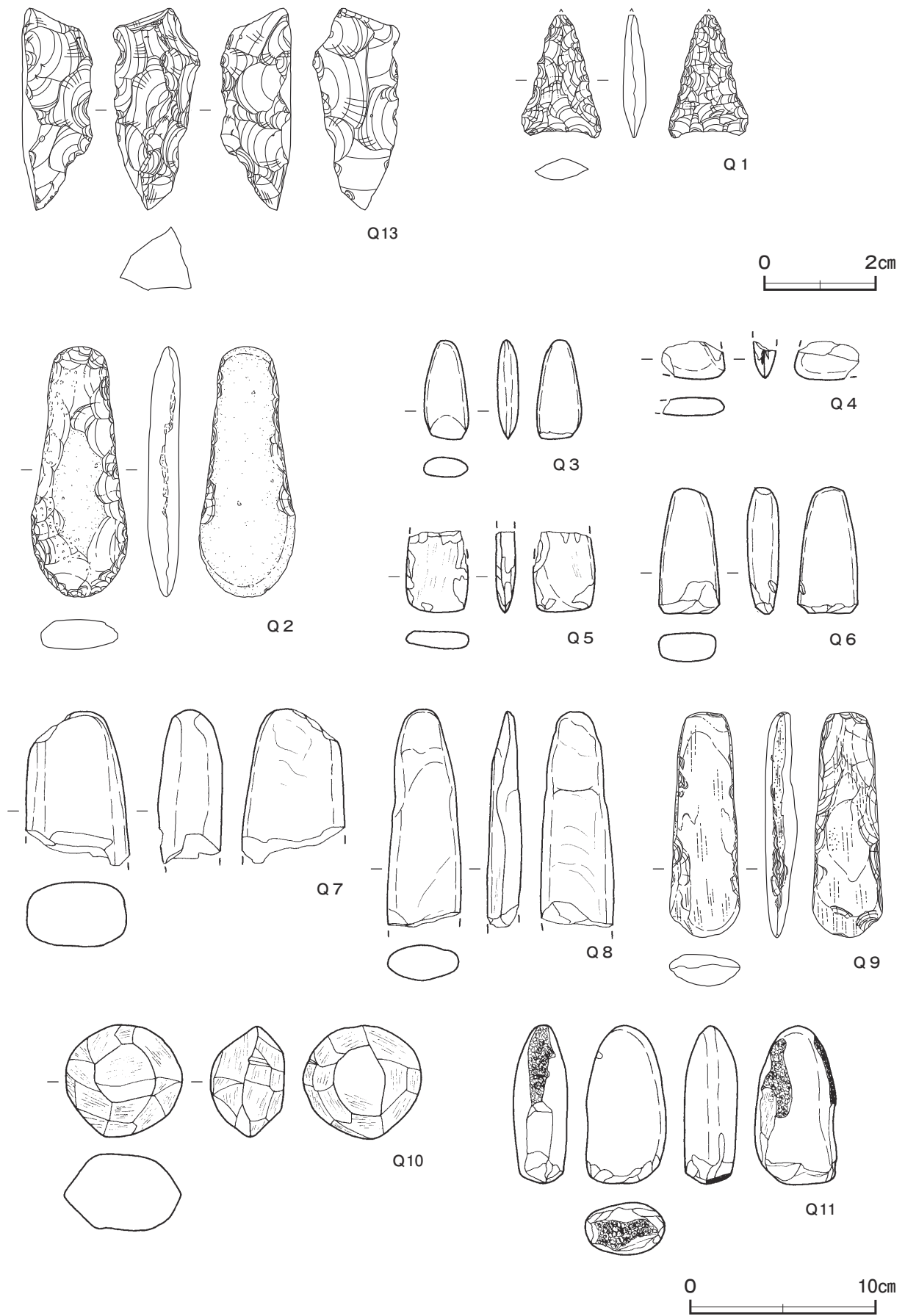
第5図 第1A号竖穴建物跡実測図(2)



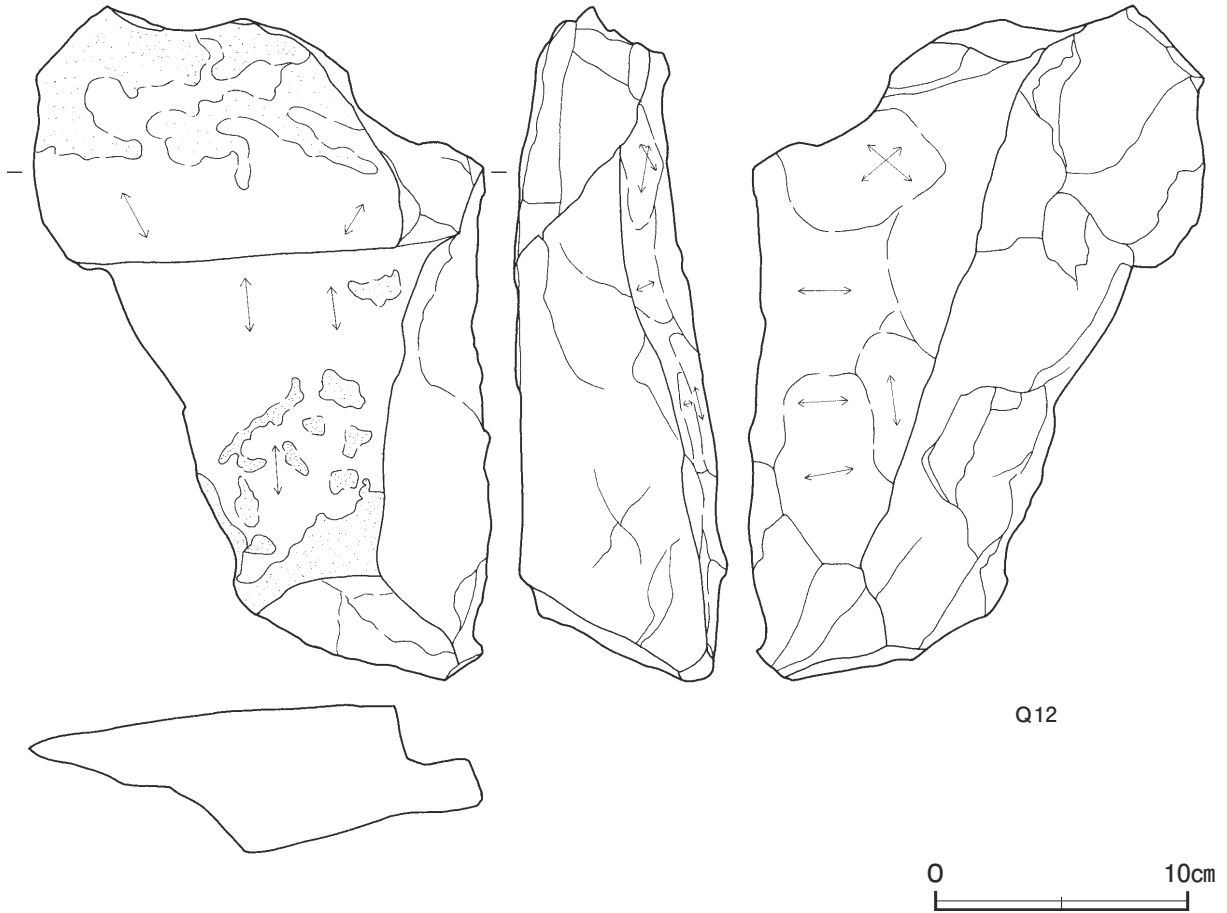
第6図 第1A号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第7図 第1A号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第8図 第1A号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第9図 第1A号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第1A号竪穴建物跡出土遺物観察表(第6~9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯貼付による把手に沿ってペン先状刺突 隆帯上に単節縄文 RL (横)	覆土中	PL104 2と同一個体。
2	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯貼付による把手に沿って楕円文 隆帯上に単節縄文 RL (横)	覆土中	PL104 1と同一個体。
3	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇頂部に平坦面を作り出す 口縁上部は把手から続く隆帯に指頭文 地文に0段多糸縄文 RL (縦)	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	[25.5]	(16.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	良好	波頂部にキザミ目 口縁に沿って隆帯貼付 全面に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	10% PL104
5	縄文土器	深鉢	[25.4]	33.2	10.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面は指頭による横整形 以下縦方向のナデ 胴下半は条線 内面横ナデ 底部植物茎の圧痕	覆土下層	50% PL104
6	縄文土器	鉢	11.3	(7.6)	7.3	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口縁部指頭による横整形 外・内面横ナデ	覆土中層	90% PL104 外面煤付着
7	縄文土器	浅鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	有孔土器 内面磨き	覆土中	10% 破断面煤付着
8	縄文土器	小型浅鉢	[14.0]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	良好	外面磨き 部分的に赤彩痕	覆土中層	20%
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁上部背割れ隆帯による平行線文 地文に撚条文 隆帯による波状文	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部は隆帯貼付により段をもつ 隆帯上に無節縄文 LR (横) 地文に無節縄文 LR (縦)	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口唇頂部に平坦面を作り出す 口縁部は隆帯貼付による波状文	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	把手外面無文 内面中央に指頭による円文 下部に単節縄文 RL (縦)	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 内面に緩い段	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	太めの隆帯と沈線で三角区画 区画内単節縄文 RL (横) 頸部以下(斜) 内面に段	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	把手縁辺部は指頭により波状に圧痕 地文に単節縄文 RL (斜) 把手に沿って2本の沈線 中央部穿孔	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	隆帯による楕円区画 隆帯に沿って沈線 隆帯上及び区画内に単節縄文 RL (横・縦)	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	太い隆帯で区画後キヤタピラ文を施文 頸部に浅い縦の条線文	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部隆帯により文様描画後条線文 頸部に2条の隆帯 胴部は単節縄文 RL (横)	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	隆帯貼付による突起 縦横の並行沈線 一部刺突による楕円区画	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による文様区画 隆帯に沿って並行沈線 隆帯上及び区画内に単節縄文 RL (縦・横) 区画内波状沈線	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	把手外面に無節縄文 L (縦)	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	地文に撚糸文 隆帯による平行線 波状文及び並行沈線による楕円区画	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯による楕円区画 区画内沈線 頸部無文	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に0段多糸縄文 RL (縦) 2本の沈線により逆順手文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土器片錘	3.3	2.4	1.2	11.0	長石・石英・雲母	灰褐	胴部片 周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP 2	土器片錘	4.1	3.7	0.9	17.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	胴部片 周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	鎌	(2.2)	1.4	0.4	(1.1)	チャート	縦長の鎌 基部中央は弱く彎入	覆土中	PL161
Q 2	打製石斧	13.5	5.2	1.8	157.6	安山岩	撥形 両側縁及び片面に微細な敲打調整 刃部は表裏を研磨	覆土下層	PL163
Q 3	磨製石斧	5.3	2.4	1.1	21.2	ホルンフェルス	極小型 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中層	PL169
Q 4	磨製石斧	(2.0)	(3.4)	(1.2)	(7.4)	変質ドレライト	小型 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	
Q 5	磨製石斧	(4.4)	3.4	1.0	(25.1)	緑色岩	小型 表裏面研磨 両側縁に敲打痕 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 平刃	覆土中層	
Q 6	磨製石斧	6.8	3.3	1.7	63.3	変質安山岩	小型 全面研磨 周縁部に稜 刃部欠損後再刃	覆土中層	PL169
Q 7	磨製石斧	(8.3)	5.5	3.5	(263.2)	閃緑岩	定角式 全面研磨 刃部欠損 側縁に弱い稜	覆土中層	
Q 8	磨製石斧	(11.7)	3.9	1.8	(114.6)	ホルンフェルス	短冊形 両側縁研磨 刃部欠損	覆土中層	PL168
Q 9	磨製石斧	12.2	3.8	1.7	114.3	緑色片岩	短冊形 表裏面研磨 両側縁微細な敲打痕 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	PL168
Q 10	敲砥石	6.0	6.3	4.0	207.7	石英	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL171 被熱
Q 11	敲砥石	8.5	4.3	2.8	181.9	緑色岩	楕円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中層	PL171 九龍磨製石斧の再利用
Q 12	砥石	26.7	18.2	8.3	2970.4	砂岩	表裏面に多方向からの砥面をもつ	覆土中層	PL175 被熱
Q 13	角錐状石器	3.6	1.6	1.3	5.8	黒曜石	縦長剥片の縁辺に押圧剥離による調整 断面三角形	覆土中	PL160 神津島産

第1B号竪穴建物跡 (第10・11図 PL4)

位置 調査区南東部のD4al区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第407・408号土坑を掘り込み、第1A号竪穴建物、第457・483号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径10.69m、短径8.74mの楕円形で、長径方向はN-16°-Wである。壁は高さ10～18cmで、緩やかに傾斜している。北東部の壁際には、テラス状の段が存在している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 北部に付設されている。長径94cm、短径70cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

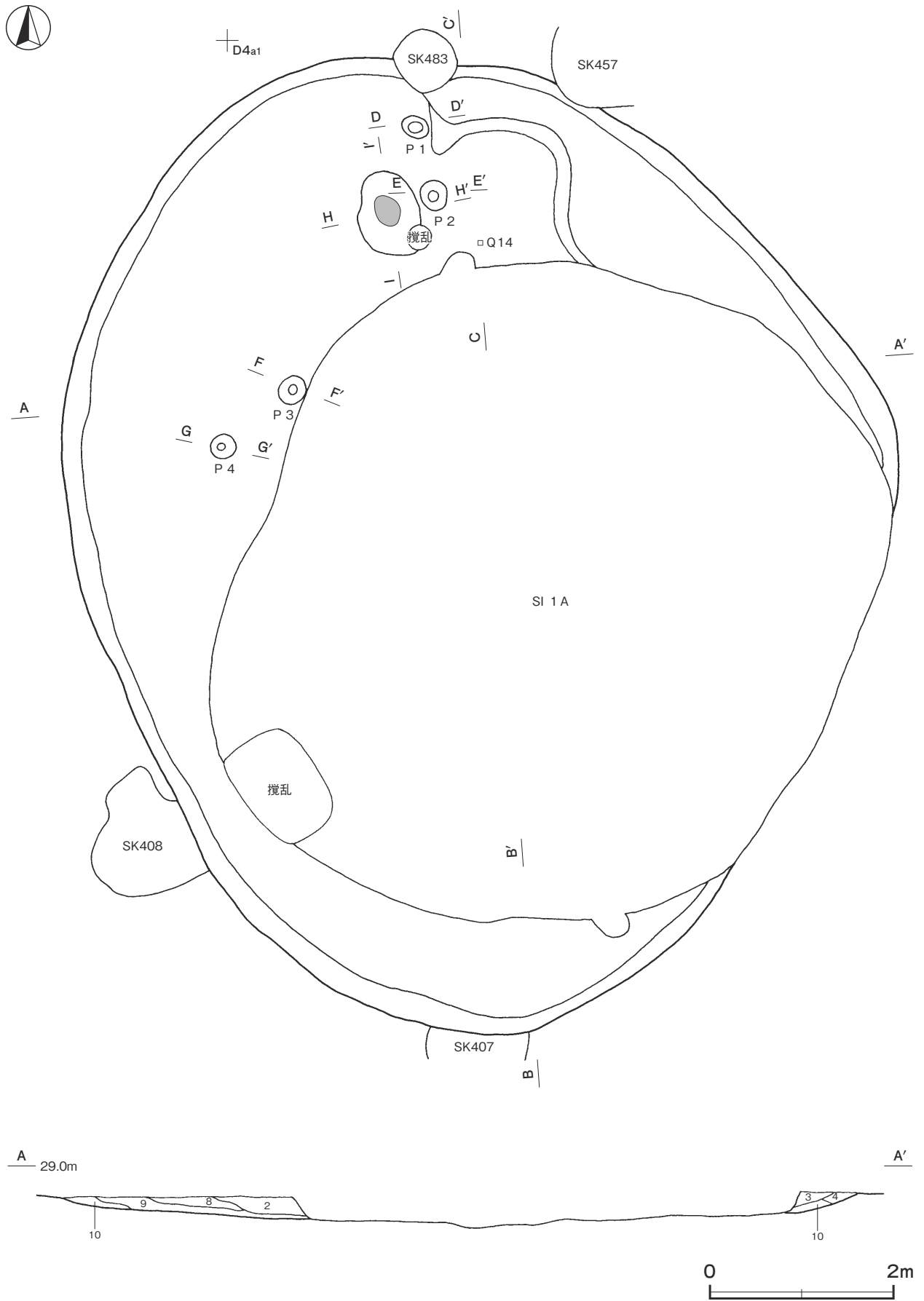
炉土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | |

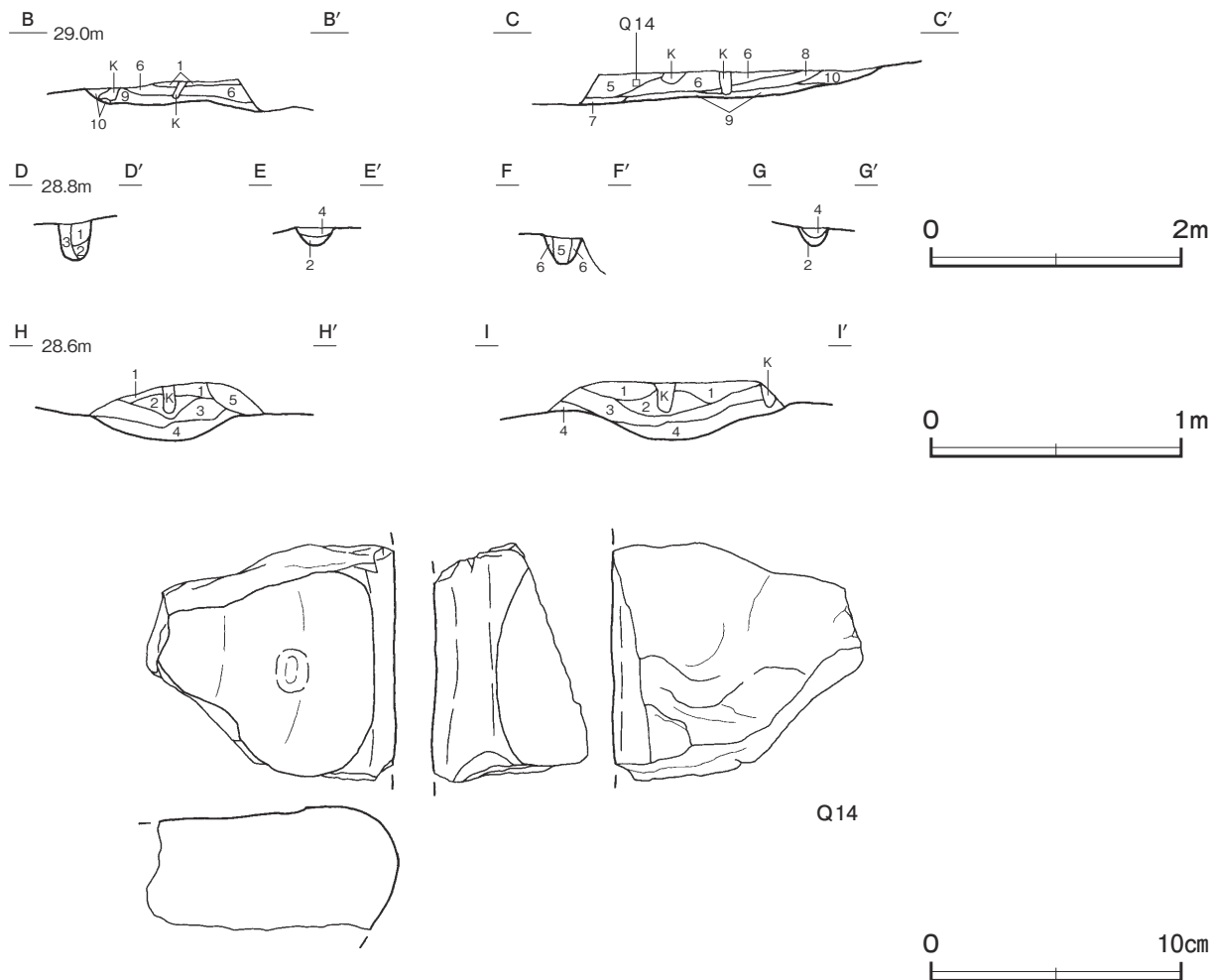
ピット 4か所。深さ15～30cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |



第 10 図 第 1B 号竖穴建物跡実測図



第11図 第1B号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 190点（深鉢185, 浅鉢5）, 石器1点（砥石）が出土している。土器片は、いずれも小破片で、各層にわたって出土していることから、埋没過程で流れ込んだものと考えられる。Q 14は、炉南東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から中期中葉と考えられる。

第1B号竪穴建物跡出土遺物観察表（第11図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	砥石	(9.5)	(10.0)	(6.2)	(682.4)	砂岩	上面及び側面に砥面 上面に凹み痕	覆土上層	

第2号竖穴建物跡 (第12～14図 PL 4)

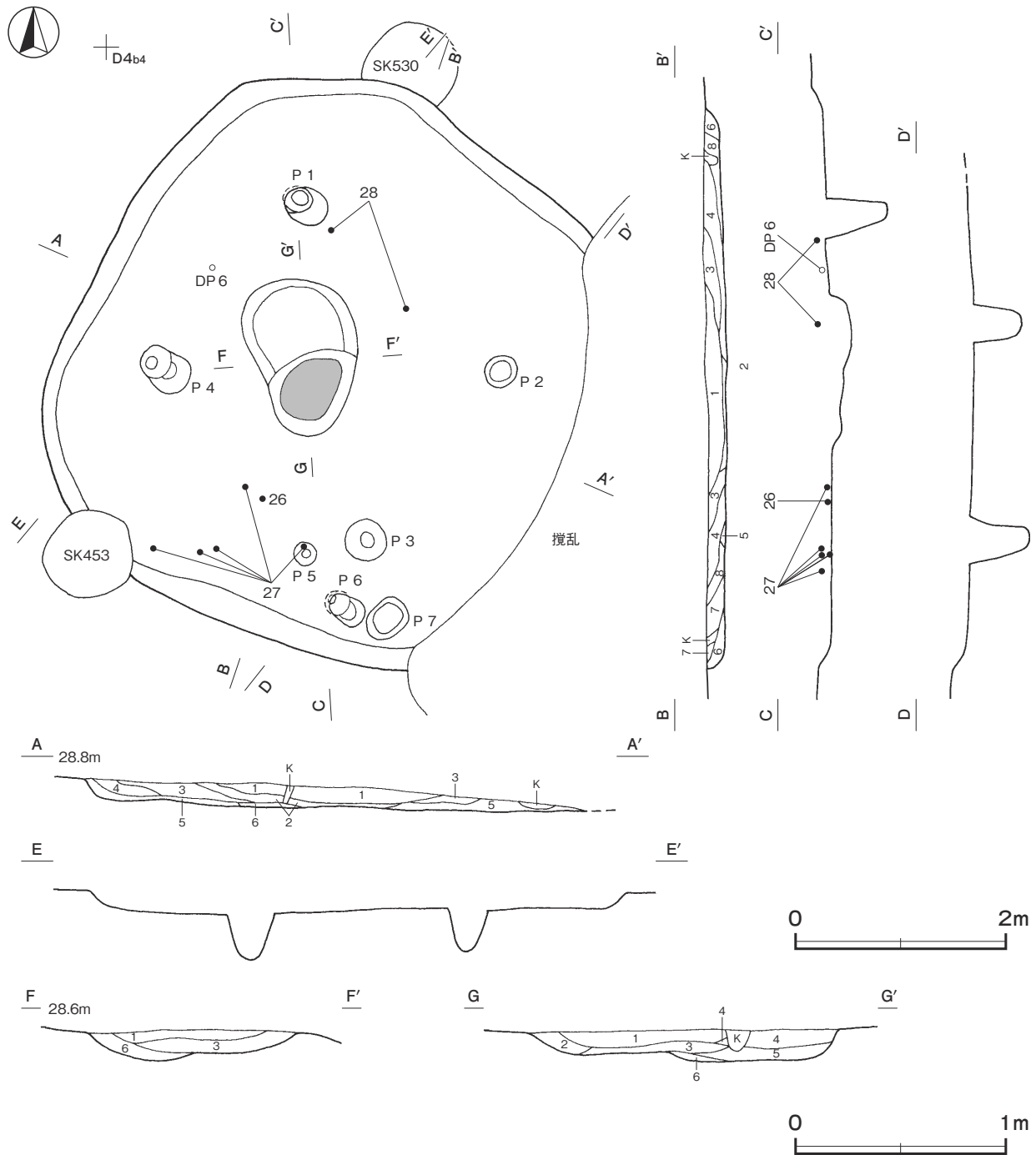
位置 調査区東部のD4b4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第530号土坑を掘り込み、第453号土坑に掘り込まれている。

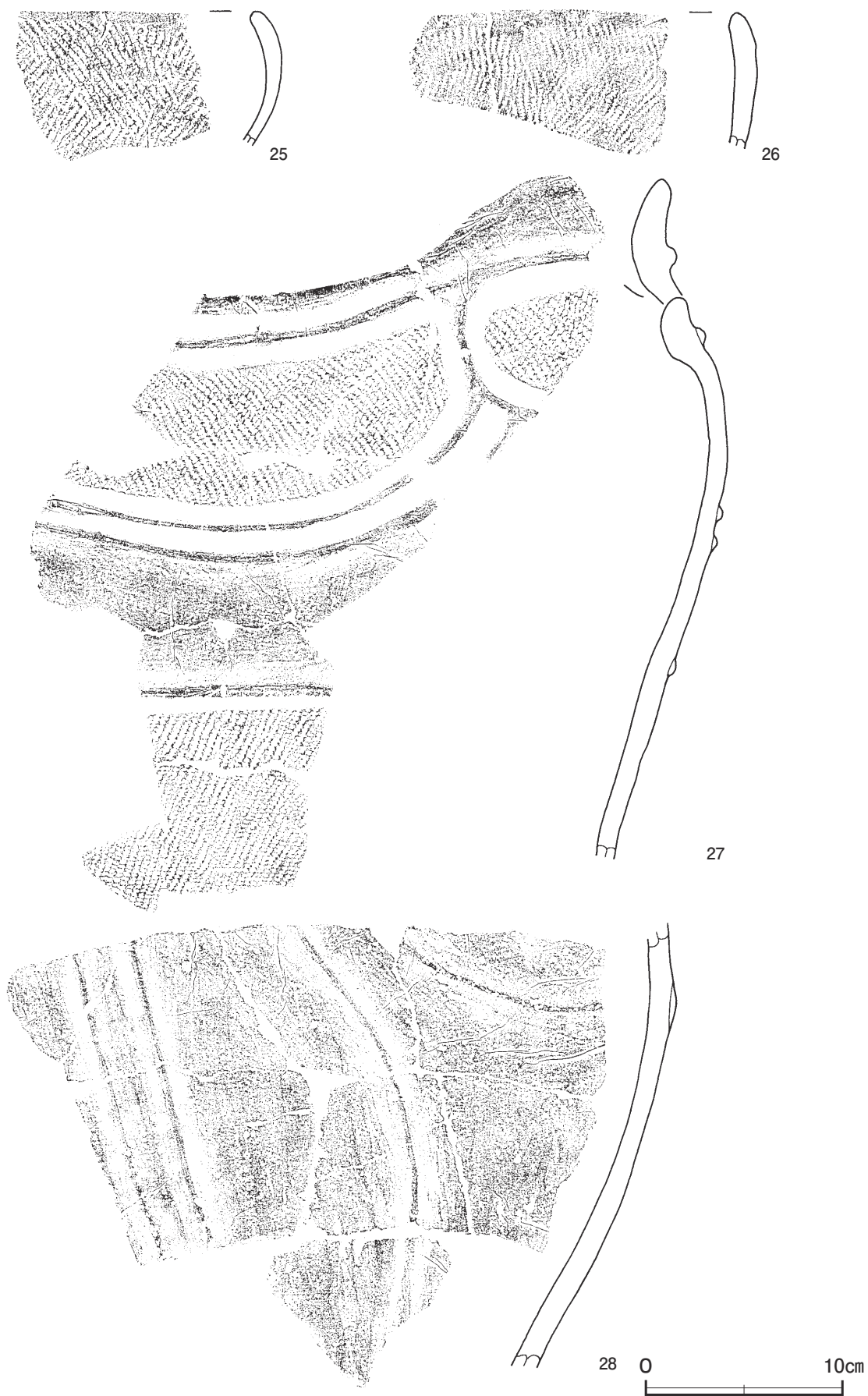
規模と形状 東部が削平されているため、南北軸5.35mで、東西軸は4.80mしか確認できなかった。形状から隅丸方形と推定でき、主軸方向はN-26°-Eである。壁は高さ10～25cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

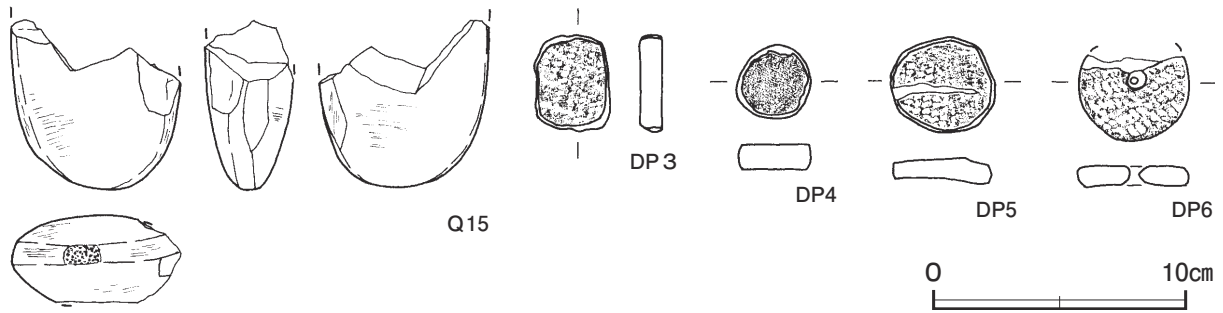
炉 中央部に付設されている。長径150cm、短径100cmの楕円形で、床面を20cmほど掘りくぼめた地床炉である。南半部が火熱を受けて赤変硬化している。



第12図 第2号竖穴建物跡実測図



第 13 图 第 2 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第 14 図 第 2 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

炉土層解説

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量 | 5 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ50～60cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5～P 7は深さ15～30cmで、性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 569点 (深鉢 568, 浅鉢 1), 土製品 6点 (土器片錘 1, 土器片円盤 2, 有孔円板 1, 不明土製品 2), 石器 3点 (石皿 1, 磨石 2), 剥片 3点 (黒曜石, 瑪瑙, チャート) が出土している。27は南部, DP 6は西部の床面, 26は南部の覆土下層, 28は北部の覆土上層と下層からそれぞれ出土している。土器片は, 散乱して出土した破片が接合しており, 廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 2 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 13・14 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇直下から単節縄文 LR (縦・横) 部分的に羽状構成	覆土中	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇直下から単節縄文 RL (横・斜) 部分的に羽状構成	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯に沿って太沈線 区画内1段多糸縄文 RL (横) 胴部 (縦)	床面	PL104
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	断面三角形の微隆起線で文様を描画 磨き	覆土上・下層	PL104

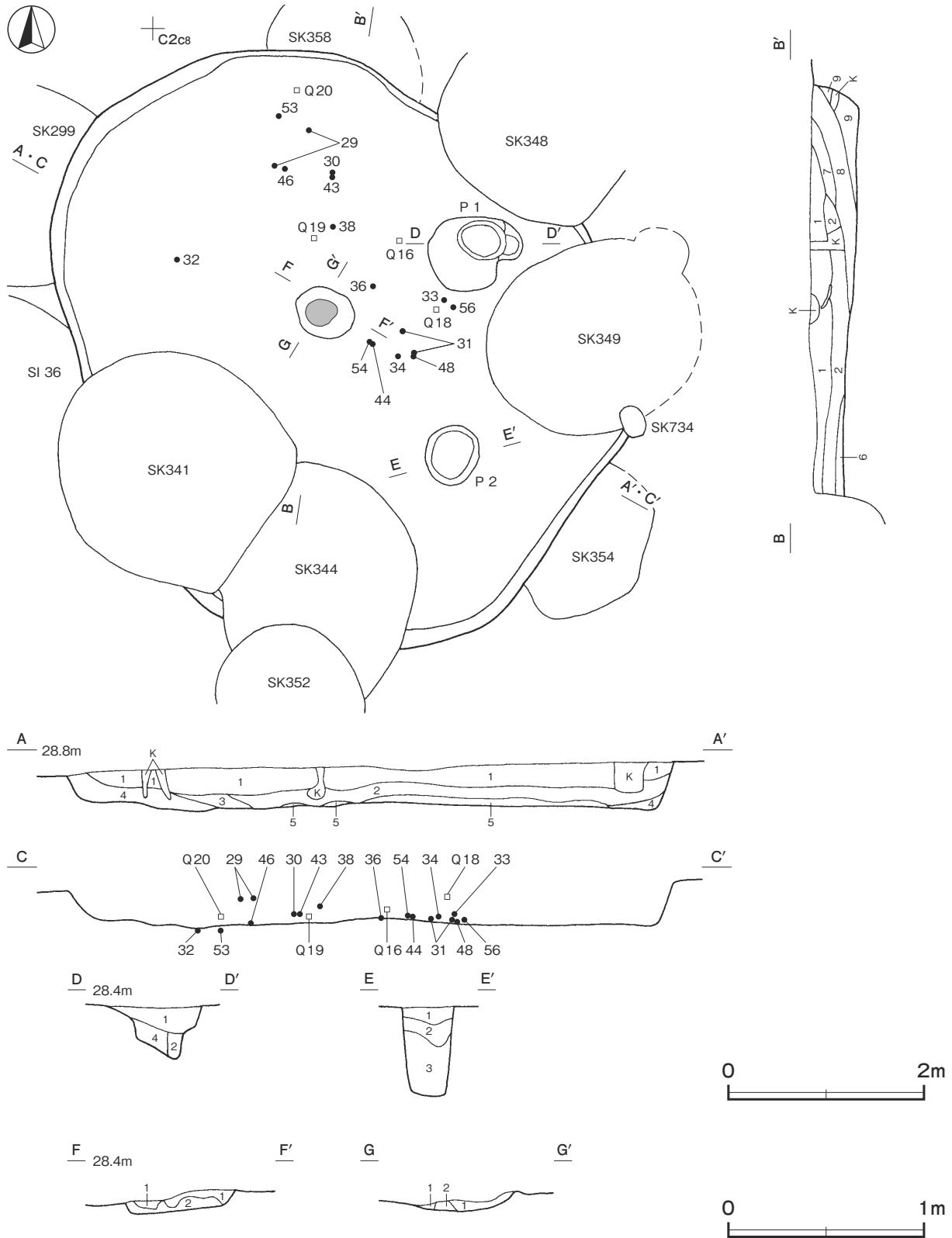
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	土器片錘	3.9	3.2	0.9	14.2	長石・石英・雲母	赤褐	胴部片 周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP 4	土器片円盤	2.9	3.0	1.0	10.6	長石・石英・雲母	褐	胴部片 周縁部研磨	炉覆土	
DP 5	土器片円盤	3.8	4.0	0.9	(15.8)	長石・石英・雲母	赤褐	胴部片 周縁部研磨	覆土中	
DP 6	有孔円板	(3.3)	4.4	0.8	(14.3)	長石・石英・雲母	褐	胴部片 周縁部研磨 中央部両面から穿孔	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 15	磨石	(6.7)	6.7	3.5	(161.5)	砂岩	両側縁を除き全面を研磨 先端部に微細な敲打痕	覆土中	

第4号竖穴建物跡 (第15～20図)

位置 調査区西部のC2c8区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号竖穴建物跡, 第299・300・354・355・358号土坑を掘り込み, 第341・344・348・349・352・734号土坑に掘り込まれている。



第15図 第4号竖穴建物跡実測図

規模と形状 長径 6.50m, 短径 5.40m の楕円形で, 長径方向は N - 27° - W である。壁は高さ 40 ~ 60cm で緩やかに傾斜している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径 60cm, 短径 50cm の楕円形で, 床面を 10cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は, 火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

ピット 2か所。深さは P 1 が 50cm, P 2 が 90cm で, 規模と配置から主柱穴である。

ピット土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

4 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

6 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

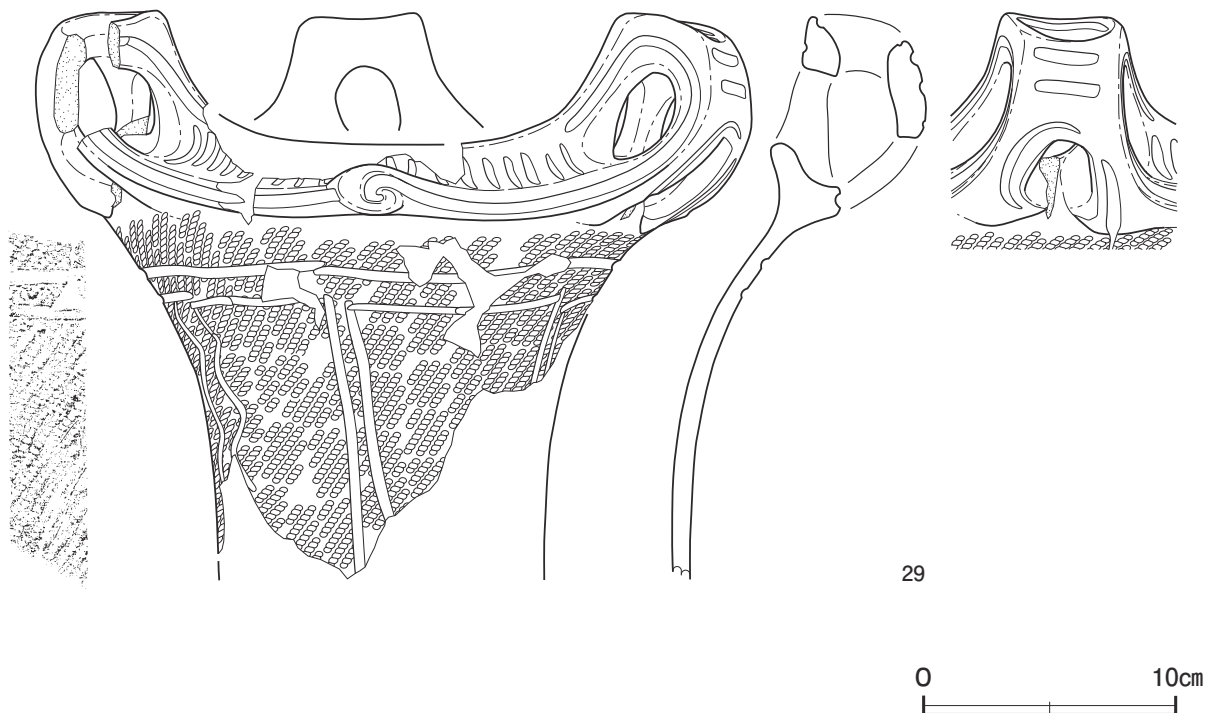
4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

9 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

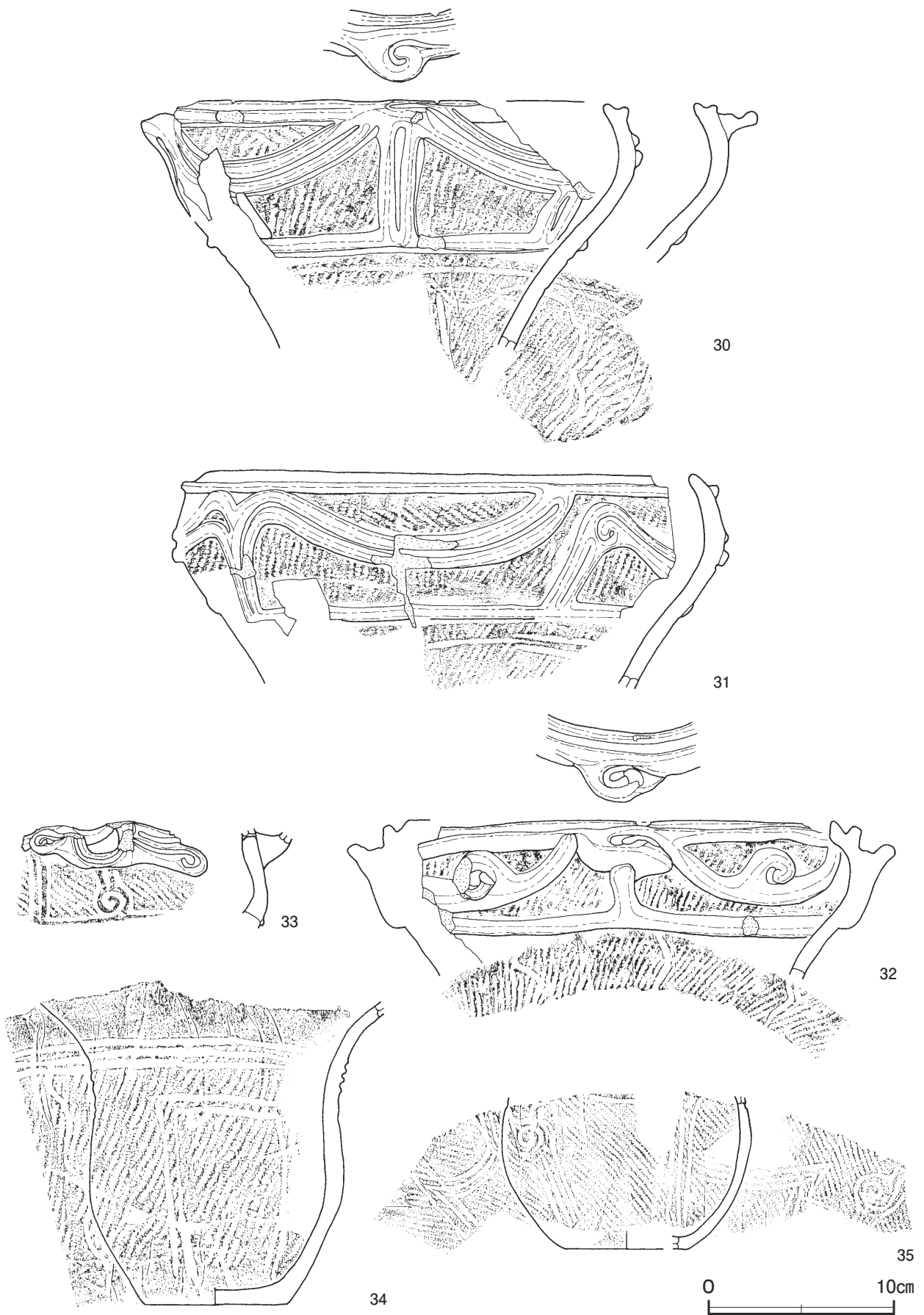
5 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 994 点 (深鉢 967, 浅鉢 25, 小型壺 2), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 11 点 (鏃 1, 打製石斧 3, 磨製石斧 1, 磨製石斧未成品 1, 磨石 3, 敲石 1, 砥石 1), 軽石 1 点, 剥片 1 点 (石英) が出土している。32 は西部, 53 は北部の床面, 31・34・36・44・48・54・56 は中央部, 46 は北部の覆土下層, 33・Q 16 は中央部, 30・38・43, Q 19・Q 20 は北部の覆土中層, Q 18 は中央部, 29 は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも中央部から北部の覆土中層から下層にかけて, まとまって出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

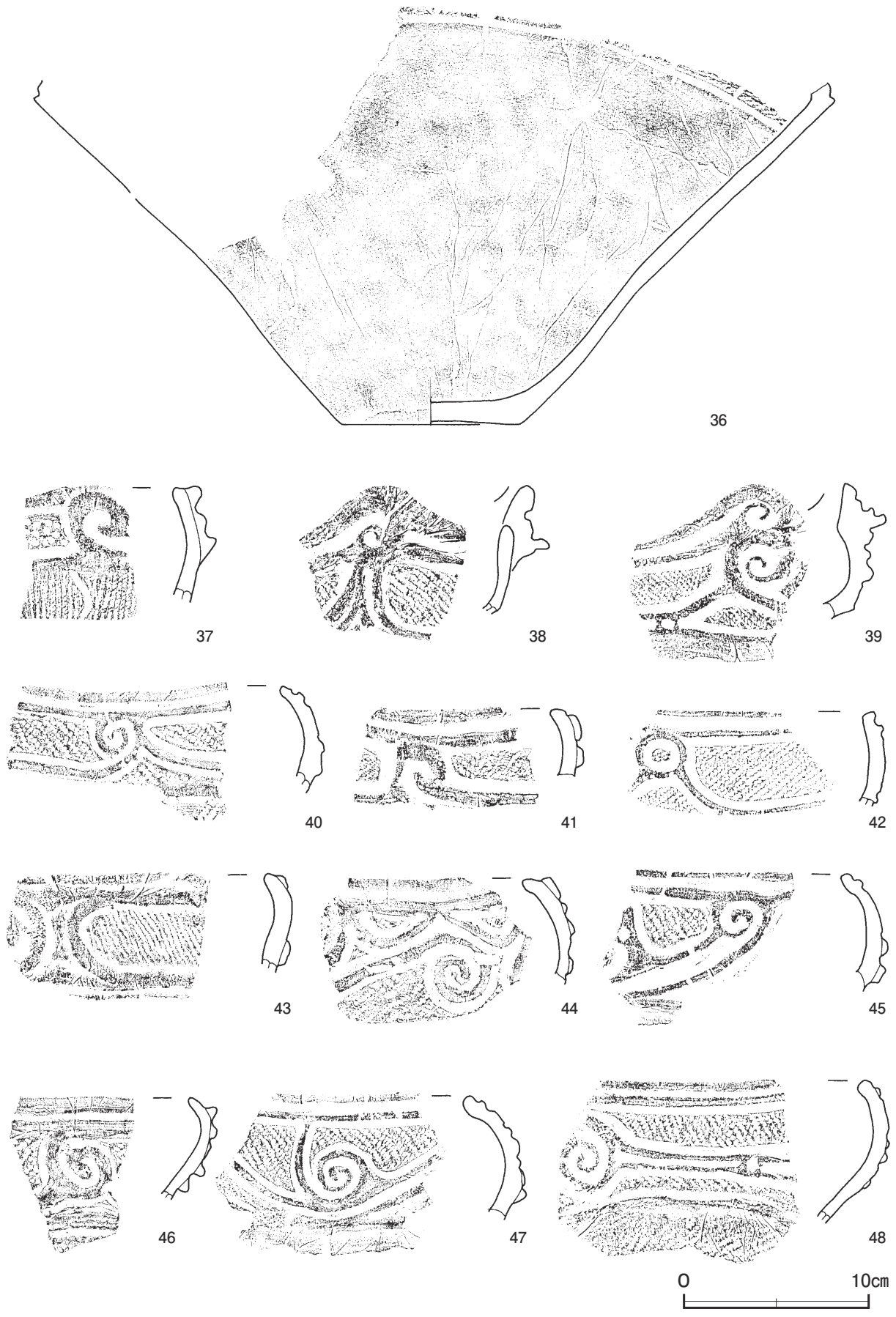
所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



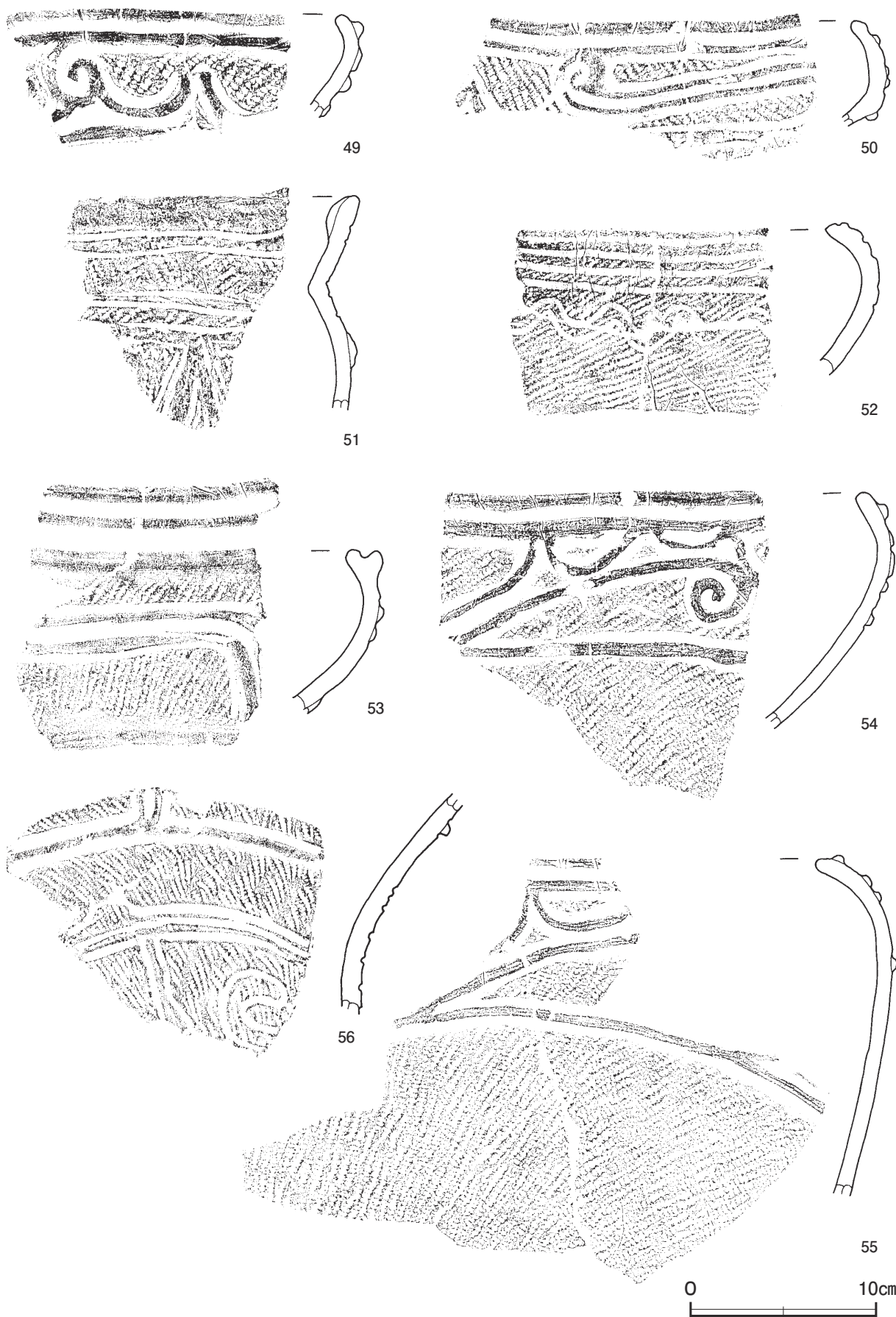
第 16 図 第 4 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



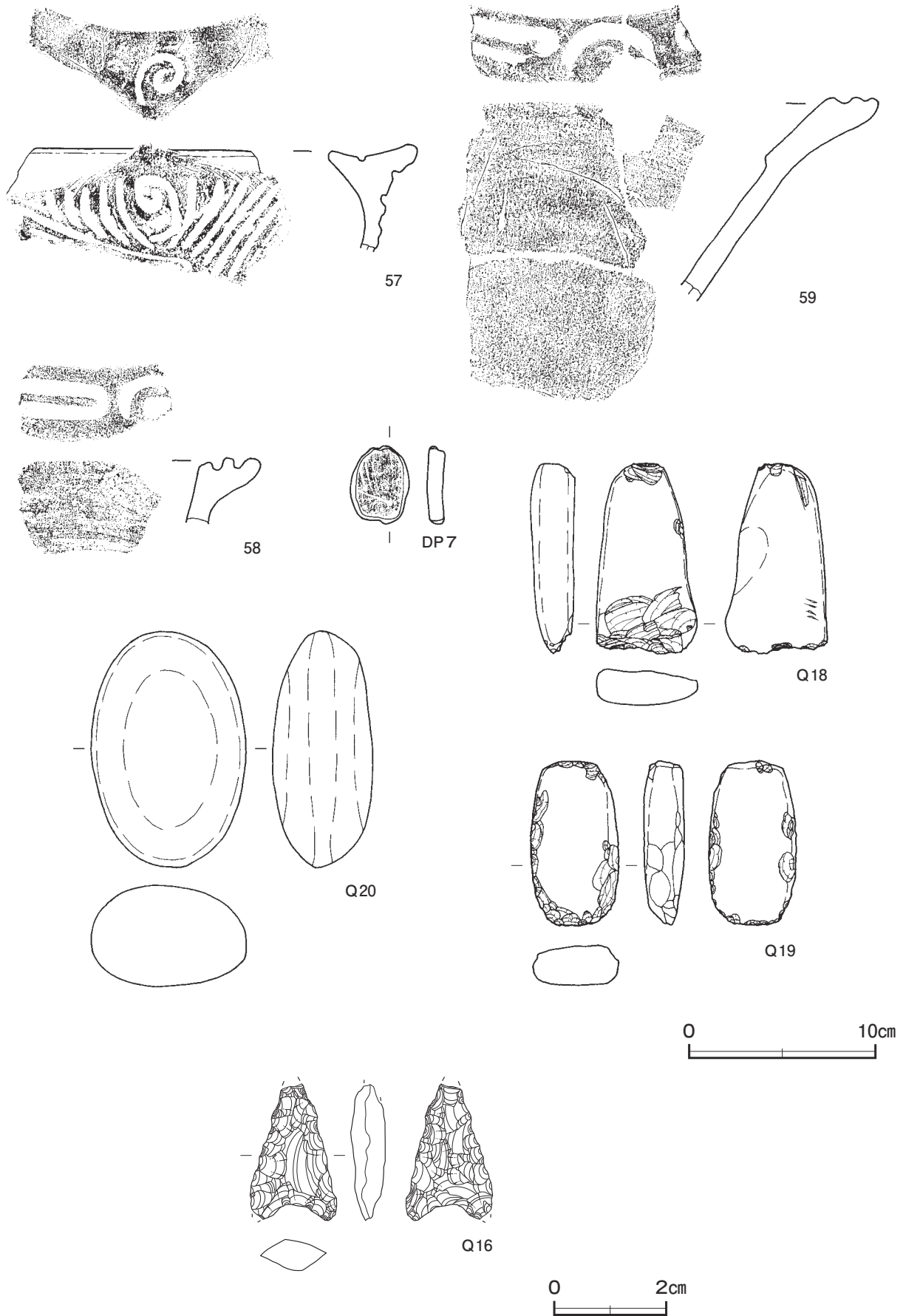
第 17 图 第 4 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)



第 18 图 第 4 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)



第 19 图 第 4 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)



第 20 図 第 4 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (5)

第4号竖穴建物跡出土遺物観察表（第16～20区）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
29	縄文土器	深鉢	20.0	(22.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	把手間に背割れ隆帯による渦巻文 地文に単節縄文LR(横)	覆土上層	30% PL105
30	縄文土器	深鉢	[23.6]	(16.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	口唇頂部沈線が一巡 口縁頂部に上向きの渦巻文 地文に単節縄文RL(縦) 口縁部背割れ隆帯で文様描画 胴部蛇行沈線が垂下	覆土中層	20% PL105
31	縄文土器	深鉢	[26.2]	(11.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇頂部沈線が一巡 地文に単節縄文RL(横・縦) 背割れ隆帯により文様描画	覆土下層	10% PL105
32	縄文土器	深鉢	[23.0]	(8.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇頂部沈線が一巡 隆帯による上向きの把手・渦巻文・区画文 地文に無節縄文L(横) 胴部は蛇行沈線が垂下	床面	25% PL105 内面炭化物付着
33	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	地文に単節縄文RL(横) 細隆帯による渦巻文・区画文を描画	覆土中層	搬入品 _カ
34	縄文土器	深鉢	-	(16.3)	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	頸部無文帯 地文に0段多条縄文RL(縦) 沈線による懸垂文・区画文を描画	覆土下層	30% PL105
35	縄文土器	小型壺	-	(8.2)	[6.5]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に1段多条縄文LR(縦) 三本単位の沈線による渦巻文	覆土中	40% PL105 内面炭化物付着
36	縄文土器	浅鉢	-	(18.6)	9.6	長石・石英・雲母	黄橙	良好	外・内面縦方向の磨き 口縁部に単節縄文LR(横)	覆土下層	30% PL105
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁に渦巻文 沈線による区画 区画内円形刺突 地文に撚糸文(縦) 口縁下蛇行沈線が垂下	覆土中	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に0段多条縄文RL(横) 波状部に渦巻文 口縁部は隆帯と沈線による区画文・渦巻文	覆土中層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文RL(横) 波状部に交互渦巻文 隆帯と沈線による区画文・渦巻文 一部結節隆線 頸部無文帯	覆土中	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文に単節縄文RL(横) 頸部(縦) 隆帯と太めの沈線による区画文・渦巻文	覆土中	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	地文に0段多条縄文RL(縦・横) 隆帯と太沈線による区画文・渦巻文	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	地文に複節縄文LRL(横) 口縁上部に太沈線が一巡 隆帯と沈線による区画文・円文	覆土中	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文に無節縄文R(横) 口唇頂部隆帯貼付による平坦部が一巡 隆帯と沈線による区画文	覆土中層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文LR(横) 隆帯と太沈線による区画文・渦巻文	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文RL(横) 隆帯と太沈線による区画文・渦巻文 一部に円形刺突	覆土中	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 口縁上部に太沈線が一巡 隆帯と沈線による渦巻文・区画文	覆土下層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に0段多条縄文RL(横) 隆帯と沈線による区画文・渦巻文 頸部無文帯	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部単節縄文RL(横) 胴部(縦) 隆帯(一部結節隆線)と沈線による区画文・渦巻文	覆土下層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文RL(横) 隆帯と沈線による区画文・渦巻文	覆土中	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に0段多条縄文RL(横) 隆帯と沈線による区画文・渦巻文 頸部無文帯	覆土中	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文RL(横・縦) 隆帯と沈線で文様を描画	覆土中	PL105
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に無節縄文L(横) 二本単位の沈線による並行線・波状文	覆土中	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・小礫	にぶい褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 地文に単節縄文RL(縦) 隆帯と沈線による文様描画	床面	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁上部に沈線が一巡 地文に単節縄文LR(縦) 隆帯貼付により文様描画	覆土下層	PL105
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 口縁上部に太沈線が一巡 細隆帯による区画文	覆土中	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文LR(斜) 沈線を伴う隆帯区画沈線による渦巻文	覆土下層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇頂部平坦 三角形に張り出した渦巻文 口縁部太沈線により渦巻文・区画文	覆土中	PL105
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口唇頂部に平坦面 太沈線による区画文	覆土中	
59	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	赤褐	普通	口縁頂部に平坦面 太沈線により文様描画	覆土中	PL105 二次焼成

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 7	土器片鏝	4.2	3.1	0.9	14.0	長石・石英・雲母	黒	胴部片 周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 16	鏝	(2.5)	(1.6)	0.6	(1.9)	瑪瑙	基部中央は彎入 先端部欠損	覆土中層	PL161
Q 18	打製石斧	10.2	5.5	2.4	182.4	ホルンフェルス	撥形 自然礫の端部を片面を敲打 基部に敲打痕	覆土上層	PL163
Q 19	磨製石斧 未成品	8.8	4.7	2.2	151.3	石英斑岩	縁辺部に微細な敲打調整 刃部は片面からの敲打調整	覆土中層	PL170
Q 20	磨石	12.7	8.3	5.3	808.3	砂岩	全面に研磨痕	覆土中層	PL180

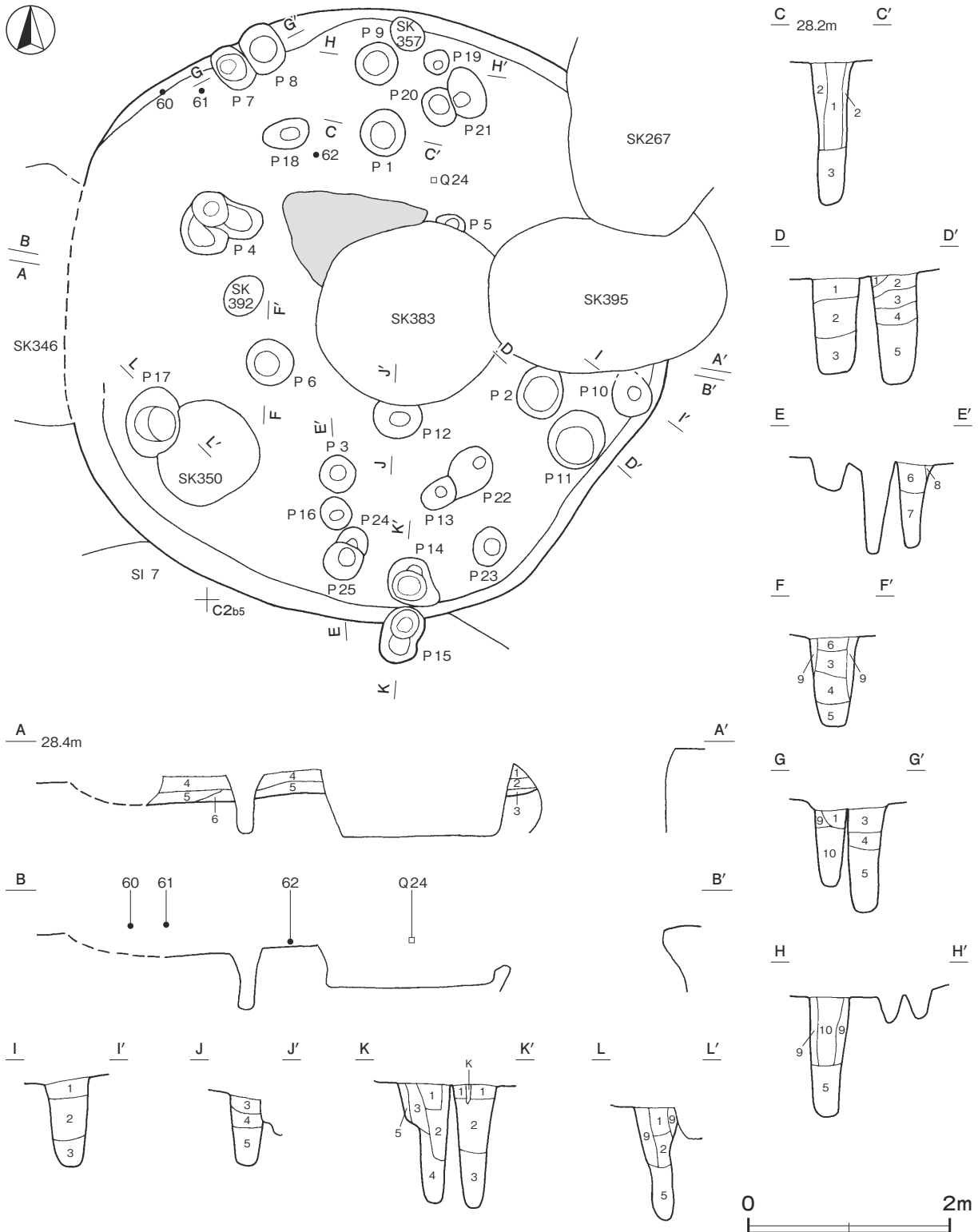
第5号竖穴建物跡（第21～23区）

位置 調査区北西部のC 2a5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号堅穴建物跡，第346号土坑を掘り込み，第267・350・357・383・392・395号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径5.92～6.05mの円形である。壁は高さ12cmで，緩やかに傾斜している。

床 平坦で，硬化面は確認できなかった。中央部で焼土ブロックを確認したが，床面との間に間層があり，埋め戻す過程で投棄されたものである。本跡に伴う炉跡は確認できなかった。



第21図 第5号堅穴建物跡実測図

ピット 25か所。P 1～P 4は深さ86～140cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5～P 17は深さ74～120cmで、支柱穴の間や壁際などに位置していることから、補助柱穴と考えられる。P 18～P 25は深さ10～50cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子微量 |

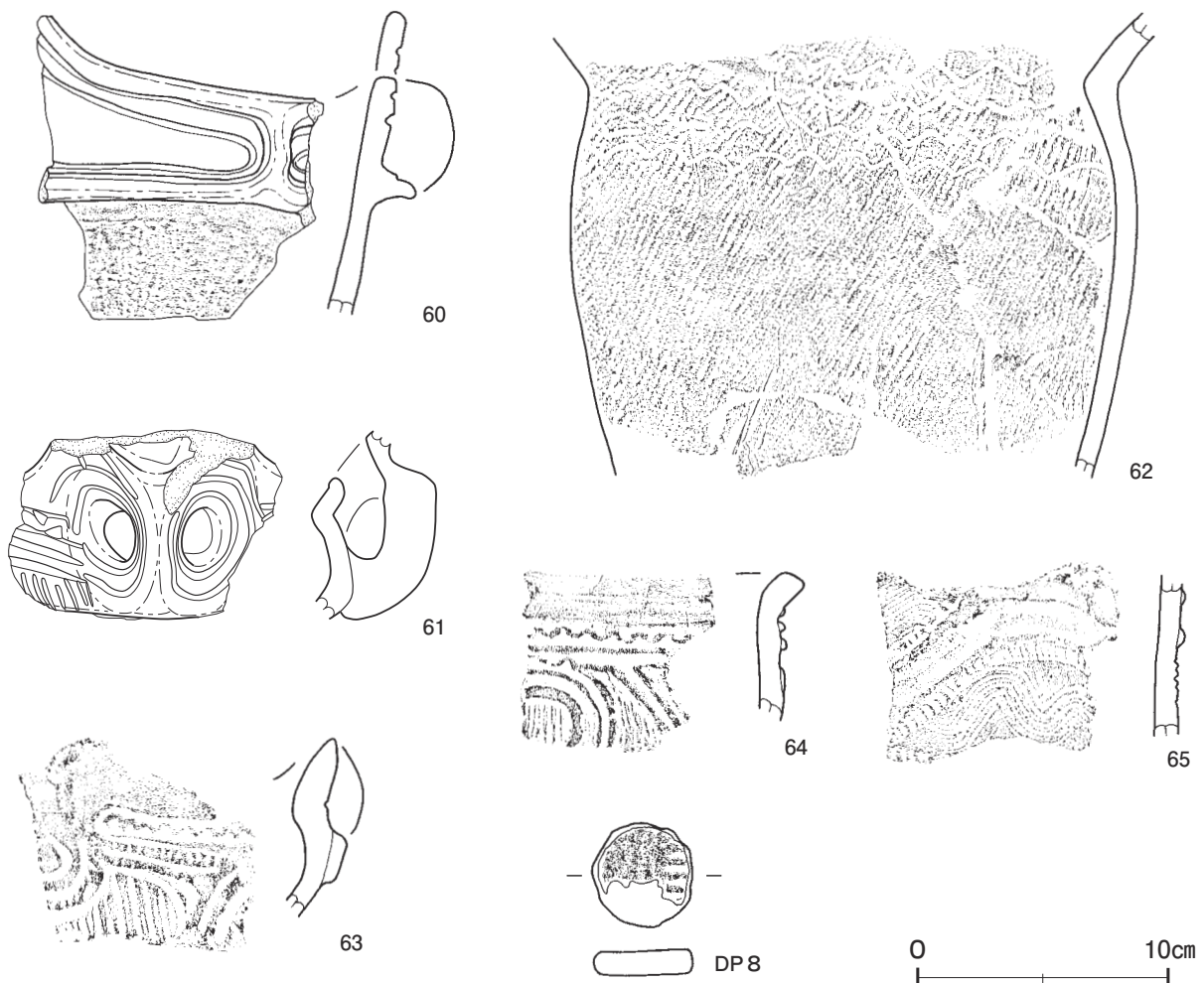
覆土 6層に分層できる。各層に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

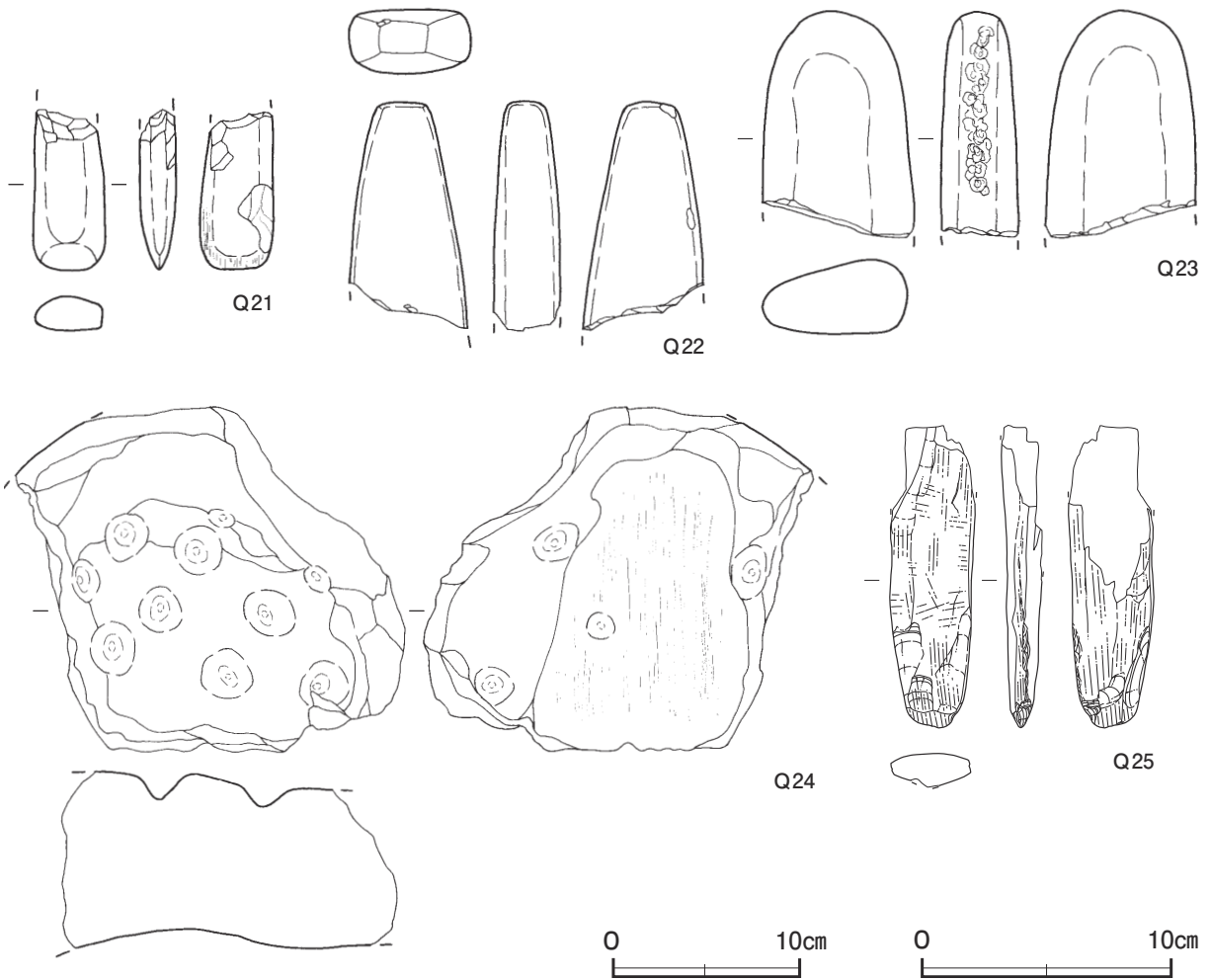
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片712点（深鉢701，浅鉢8，器台3），土製品1点（土器片円盤），石器8点（打製石斧1，磨製石斧3，磨石2，敲石1，砥石1），石製品1点（石剣），剥片3点（チャート，頁岩，泥岩）が出土している。62・Q 24は北部の床面から，60・61は北西壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも破片の状態で，埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第22図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 23 図 第 5 号 堅穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 5 号 堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 22・23 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
60	縄文土器	深鉢	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	鱗状の隆帯による文様区画 隆帯の交点は摘み状の突起 区画に沿って2本の沈線 隆帯上に単節縄文 RL (横) 胴部 (斜)	覆土上層	二次焼成
61	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	把手の両側に円文・交互刺突文・平行線・条線文内側に穿孔	覆土上層	PL104
62	縄文土器	深鉢	-	(18.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 4本の波状沈線が一巡	床面	20% PL104
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	波状口縁 交互刺突文・背割れ隆帯により文様を区画 隆帯上にキザミ目 区画内縦位の沈線で充填	覆土中	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上部は無文 交互刺突による蛇行隆帯・背割れ隆帯による文様描画 隆帯の一部に短蛇行隆帯 区画内縦の条線文	覆土中	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	断面三角形の隆帯で文様を描画 隆帯に沿ってキャタピラ文 区画内5本単位の櫛状工具による波状文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 8	土器片円盤	4.1	4.1	1.0	(20.7)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部片 周縁を研磨 一部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 21	磨製石斧	(6.4)	2.8	1.5	(44.4)	緑色岩	小型 片面に自然面 表裏面研磨 刃部は表裏から研ぎ出す 基部欠損	覆土中	PL169
Q 22	磨製石斧	(9.2)	4.8	2.6	(188.3)	砂岩	定角式 側縁に稜 刃部欠損	覆土中	
Q 23	敲石	(9.1)	6.1	3.1	(264.5)	砂岩	両面研磨 片側縁に敲打痕	覆土中	
Q 24	砥石	(18.2)	(20.5)	9.4	(4000.8)	砂岩	表面に砥面 裏面に凹み痕	床面	PL175 被熱
Q 25	石剣	(12.1)	(3.4)	1.7	(78.1)	粘板岩	表裏面・端部を研磨	覆土中	

第6号竪穴建物跡（第24～27図 PL4）

位置 調査区北西部のB2i4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

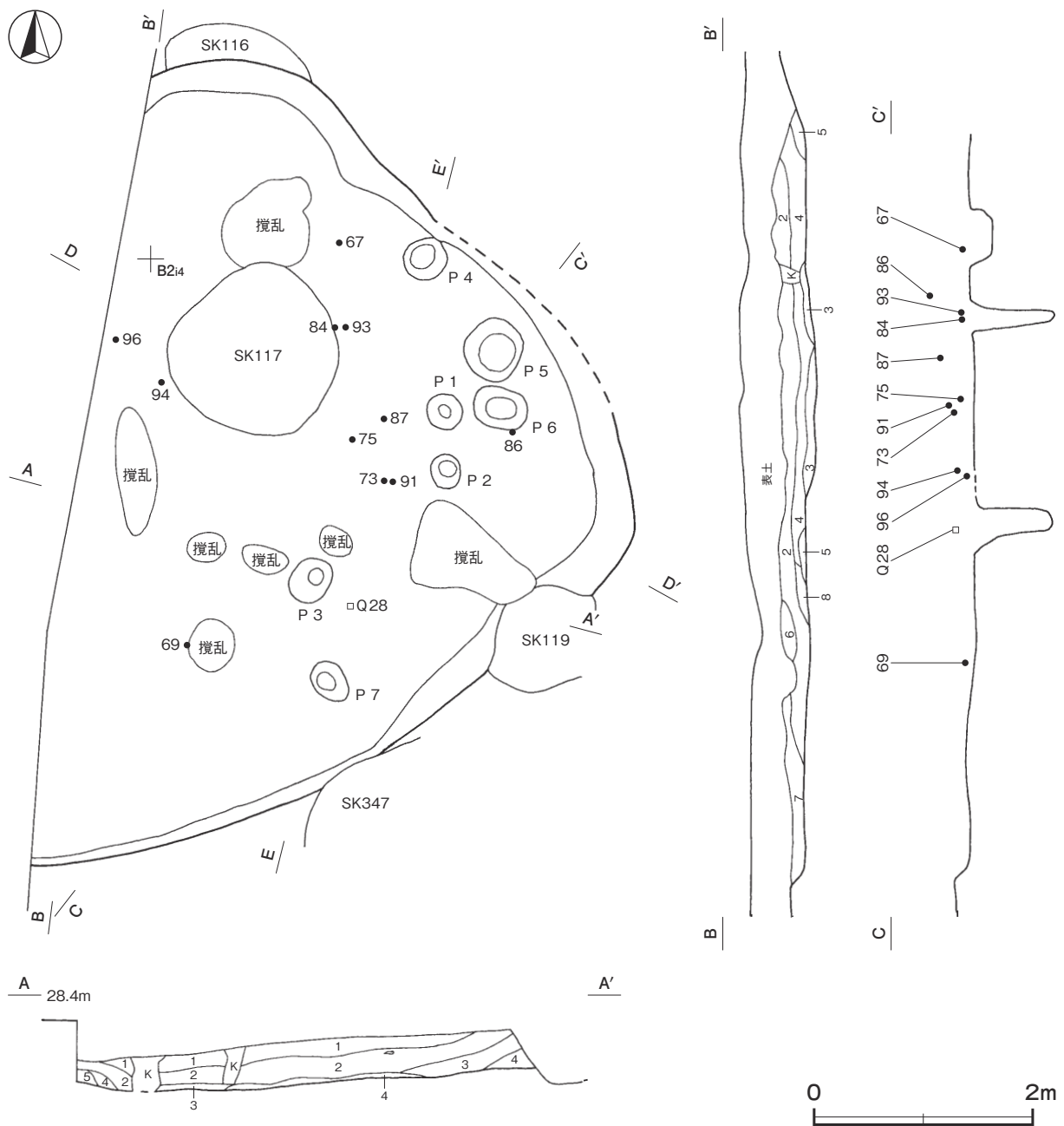
重複関係 第116号土坑を掘り込み、第117・119・347号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西半部が調査区域外へ延びているため、南北軸6.40mで、東西軸は6.00mしか確認できなかった。隅丸方形で、主軸方向はN-58°-Eと推定できる。壁は高さ18～30cmで緩やかに傾斜している。

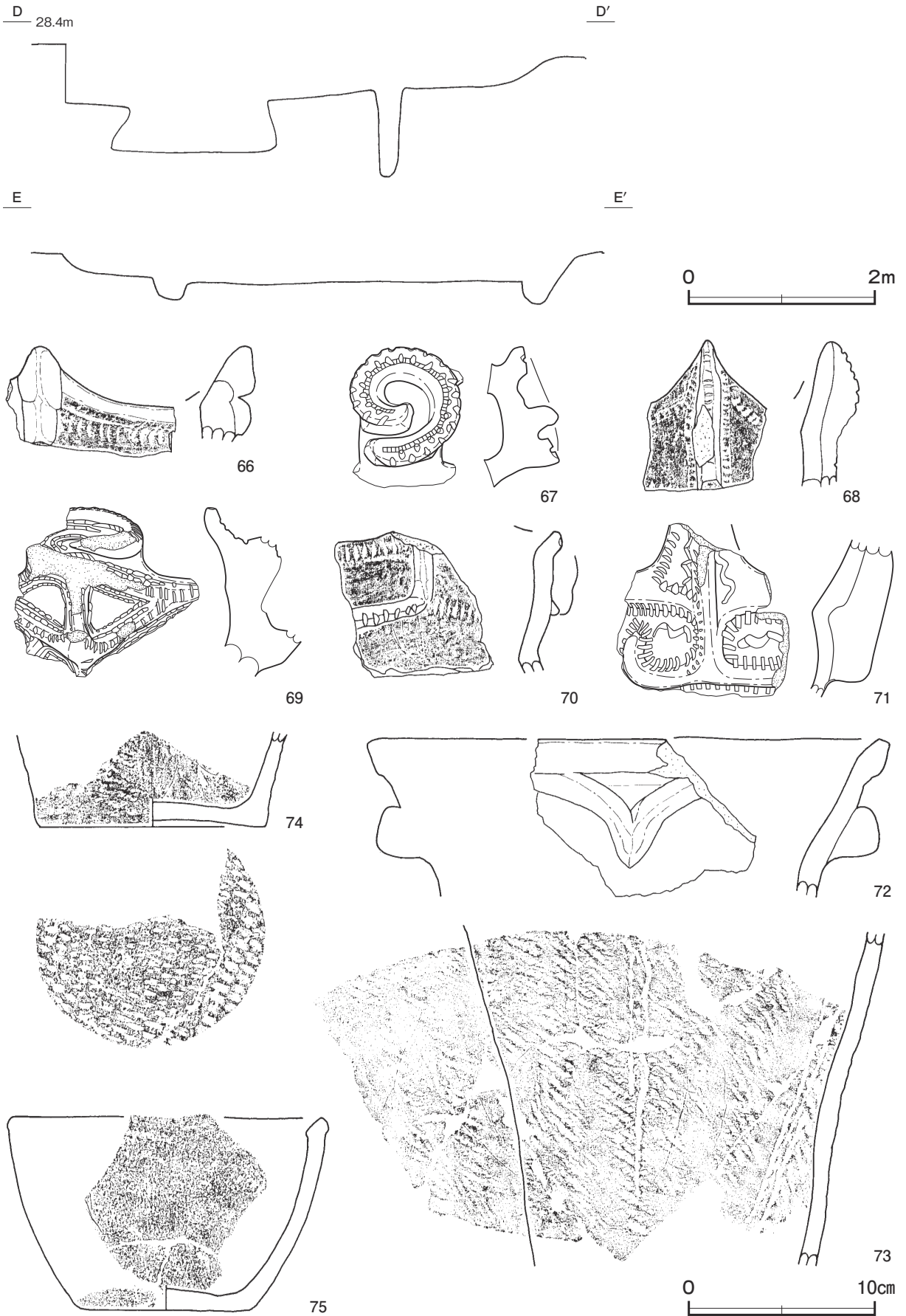
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 7か所。P1～P3は深さ70～90cmで、規模と配置から支柱穴である。P4～P7は深さ20～30cmで、性格は不明である。

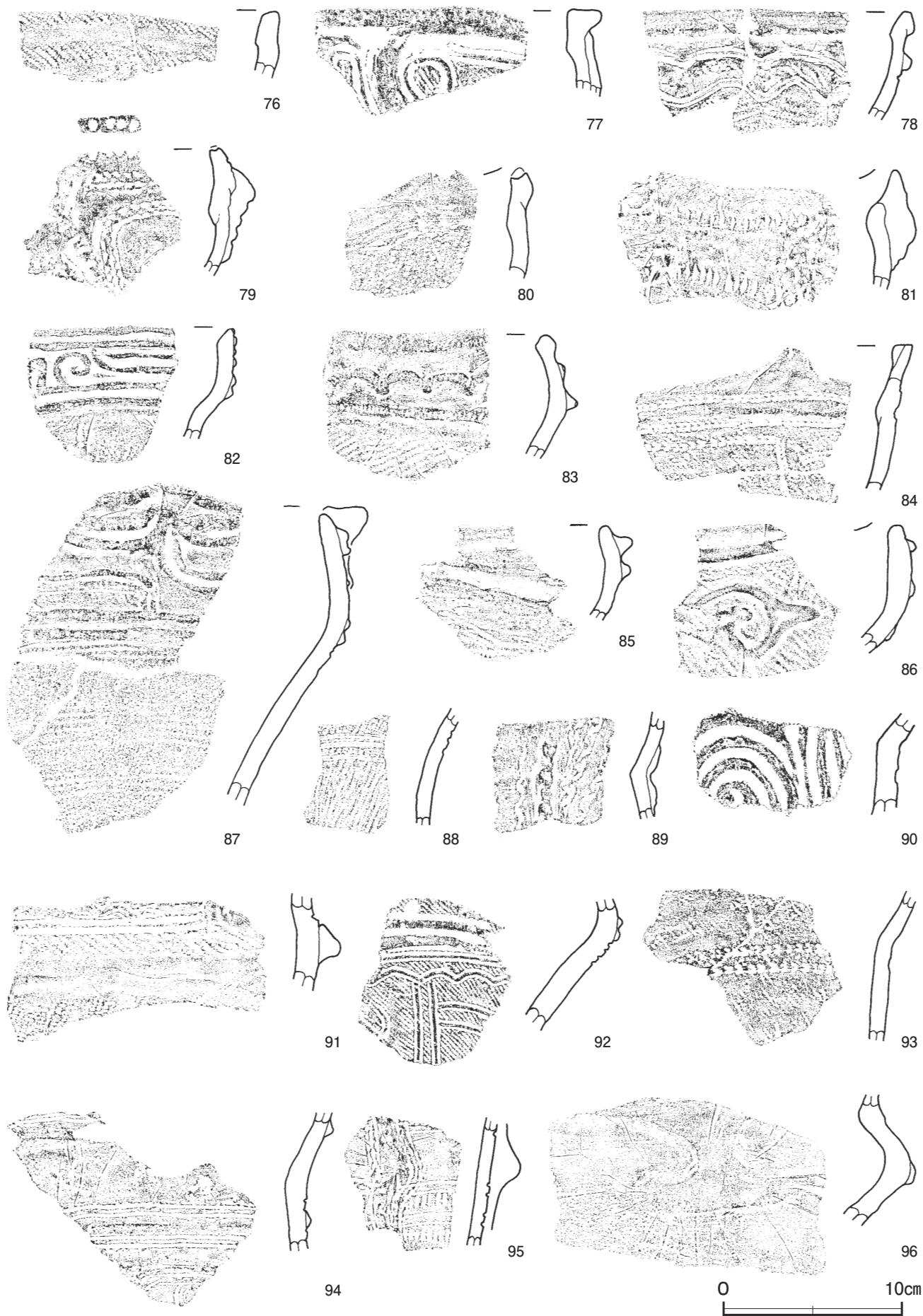
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。



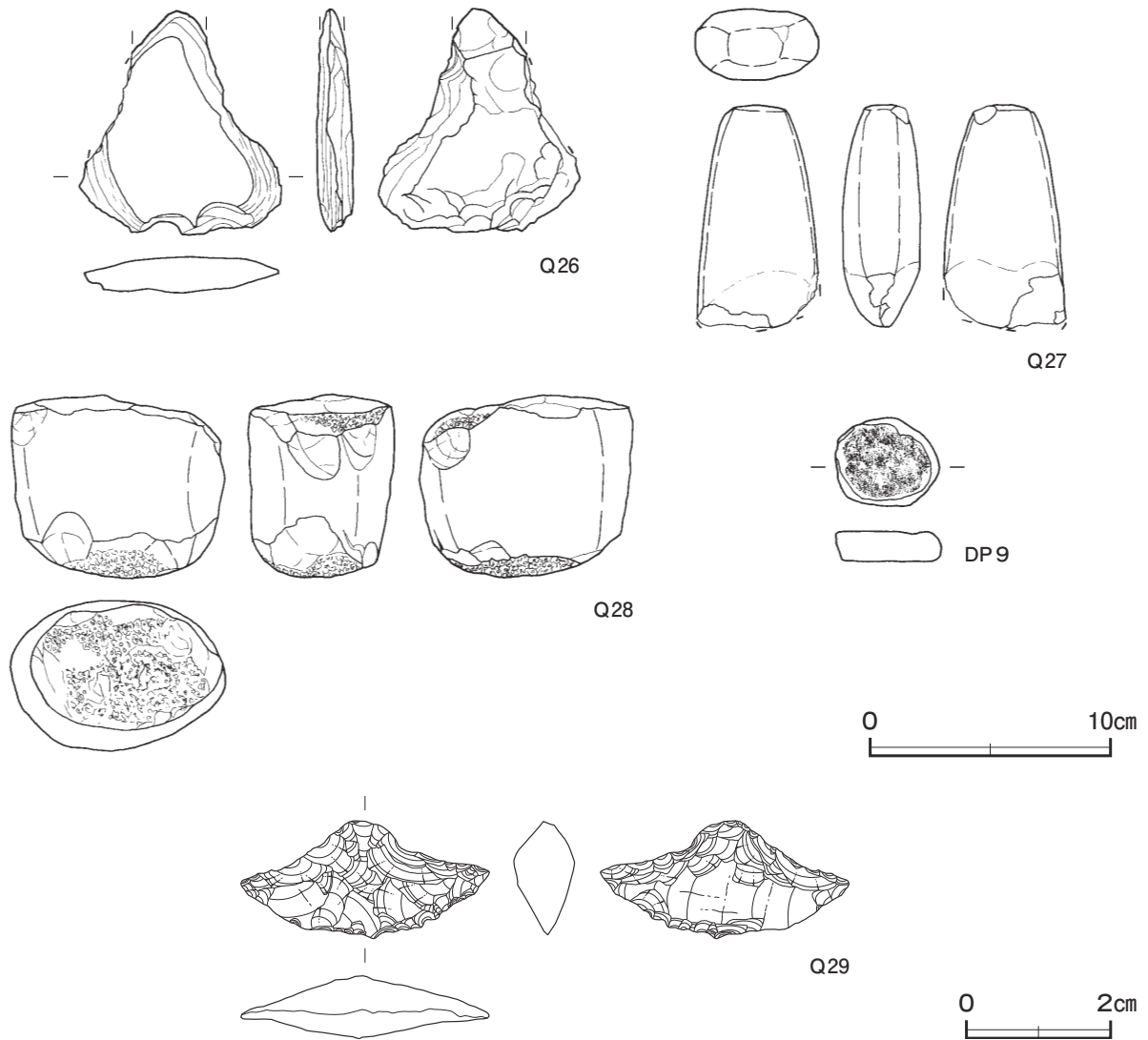
第24図 第6号竪穴建物跡実測図



第 25 图 第 6 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 26 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 27 図 第 6 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 1,173 点 (深鉢 1,148, 浅鉢 24, 小型浅鉢 1), 土製品 1 点 (土器片円盤), 石器 9 点 (打製石斧 1, 磨製石斧 1, 石皿 2, 磨石 1, 敲石 1, 敲砥石 1, 凹石 1, 異形石器 1), 剥片 2 点 (石英, 泥岩) が出土している。69 は南部, 96 は西部, 67 は北部, 75・84・93 は中央部の覆土下層, 73・87・91 は中央部, 86 は東部, 94 は西部, Q 28 は南部の覆土上層からそれぞれ出土しており, 破片が散乱して出土していることから, 埋没する過程で投棄されたもの, あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 25 ~ 27 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
66	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	波頂部に断面三角形の突起 口縁上部隆帯貼付 後連続爪形文	覆土中	
67	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	把手部に「の」の字の隆帯貼付 隆帯外面にキザ ミ目中央部有節沈線が巡る	覆土下層	PL104

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
68	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	把手頂部から断面三角形の隆帯を垂下させ隆帯上にキザミ目 隆帯に沿って有節沈線で描画	覆土中	
69	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	隆帯下に2本の有節沈線 隆帯上にキザミ目 三角区画に沿って有節沈線	覆土下層	PL104
70	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による摘み状の突起 横位区画 隆帯上にキザミ目	覆土中	
71	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	隆帯に沿ってキヤクピラ文・ベン先状刺突・蛇行沈線	覆土中	PL104
72	縄文土器	深鉢	[27.0]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部幅広の隆帯によりV字状文貼付	覆土中	
73	縄文土器	深鉢	-	(17.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に無節縄文L(縦) 有節沈線による懸垂文	覆土上層	20% PL104
74	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	12.2	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文に無節縄文L(縦) 底面に網代痕	覆土中	10%
75	縄文土器	小型浅鉢	[16.6]	10.7	9.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁内面外そぎ 外面内そぎ 外・内面横方向の磨き	覆土下層	30%
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁頂部内そぎ 口縁部単節縄文RL(横) 口縁直下指頭による横ナデ	覆土中	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部平坦面 地文に単節縄文RL(横) 隆帯に沿って並行沈線	覆土中	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁頂部平坦 口縁部肥厚 肥厚部に幅広の蛇行隆帯 隆帯上に0段多条縄文RL(横)	覆土中	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯に沿って並行刺突文 把手頂部にキザミ目	覆土中	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	波頂部に刺突文 口縁部無文 口縁下単節縄文LR(横)	覆土中	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部断面三角形の突起貼付 突起間区画に爪形文	覆土中	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口唇部内面外そぎ 細隆帯による区画文・渦巻文 胴部単節縄文LR(斜)	覆土中	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明褐	普通	口唇部内そぎ 隆帯による横線文・波状文 隆帯上にキザミ目 頸部以下は無節縄文R(縦)	覆土中	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部に突起 地文に無節縄文R(横) 口縁部連続爪形文が巡る	覆土下層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁直下から2条の隆帯により文様施文 地文に単節縄文LR(斜)	覆土中	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文に単節縄文RL(横) 隆帯による剣先文・渦巻文	覆土上層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇頂部に摘み状の突起 突起部から背割れ隆帯が一巡 口縁部は背割れ隆帯によるクランク文	覆土上層	PL104 二次焼成
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) 3本の並行線が一巡	覆土中	内面煤付着
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	断面三角形の隆帯貼付 隆帯上に圧痕 地文に結節縄文(縦)	覆土中	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	太沈線による渦巻文・並行線文	覆土中	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯を横位に巡らせ文様を区画 地文に単節縄文RL(縦) 沈線による波状文・並行線文	覆土上層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に無節縄文L(縦) 屈曲部に幅広の背割れ隆帯を巡らせ並行沈線による平行線・波状文	覆土中	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に無節縄文L(縦) 2条の爪形文が巡る	覆土下層	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	横位の断面三角形の隆帯に沿って並行線文	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	幅広の隆帯に沿って並行有節沈線 横位の有節沈線・爪形文	覆土中	
96	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	X字状に隆帯貼付 外・内面磨き	覆土下層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 9	土器片円盤	3.7	4.4	1.3	25.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁部研磨	覆土中	

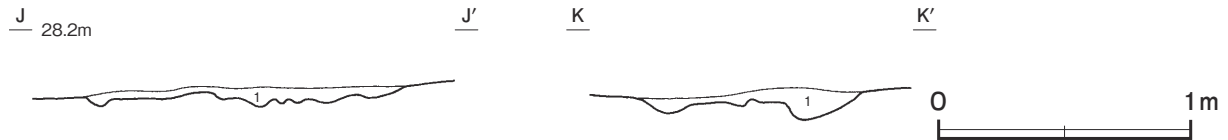
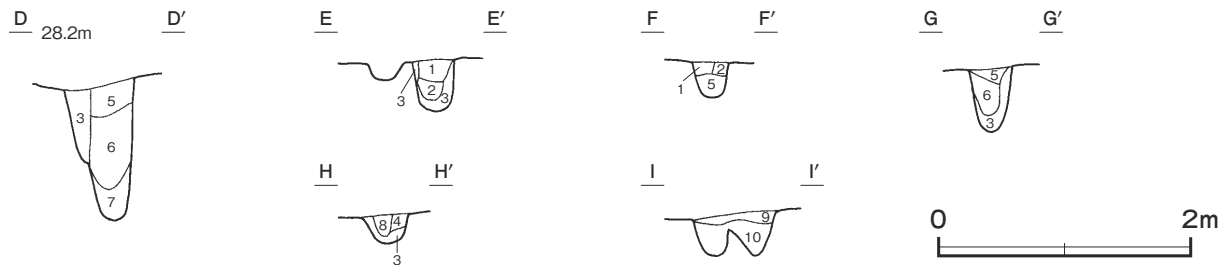
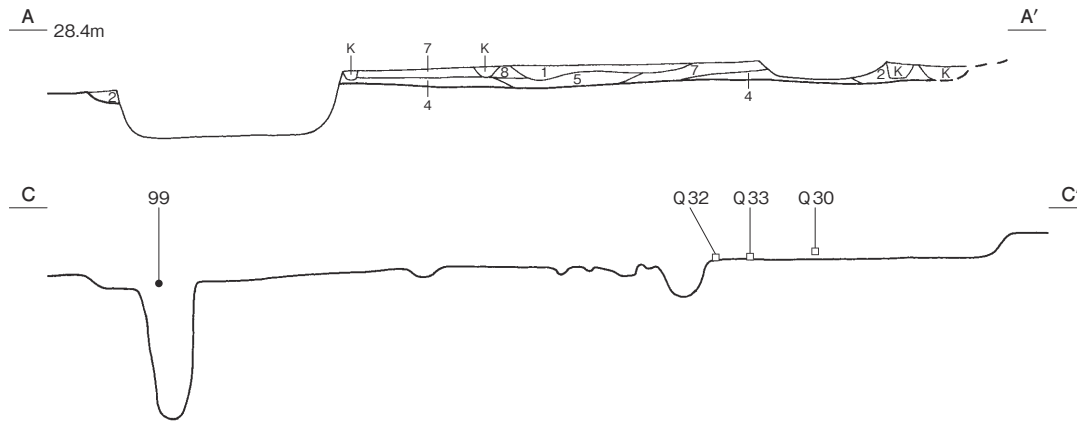
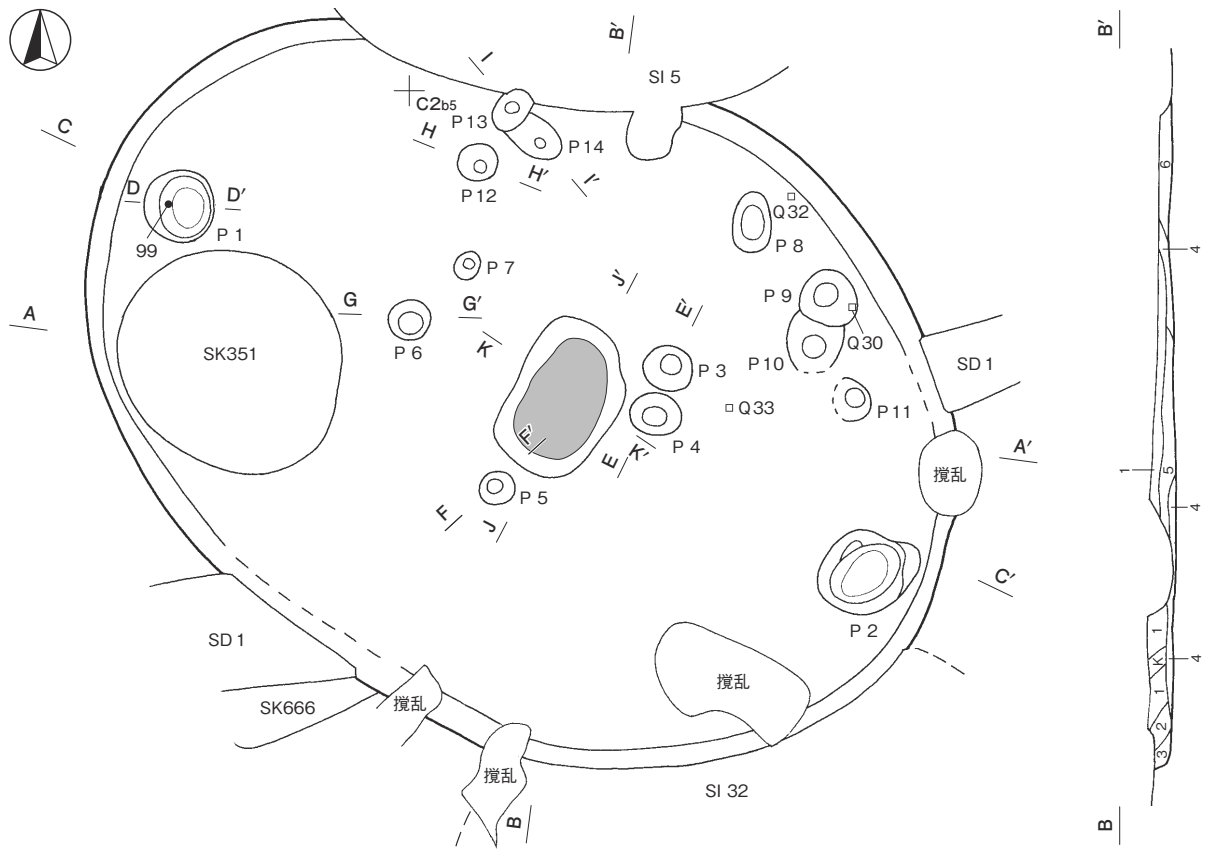
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 26	打製石斧	(9.3)	8.3	1.5	(116.9)	ホルンフェルス	分銅形 袂り部片面を敲打 刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土中	PL162
Q 27	磨製石斧	(9.3)	5.1	3.2	(235.2)	安山岩	定角式 全面研磨 側縁部に弱い稜 刃部欠損後再刃	覆土中	PL166
Q 28	敲砥石	7.6	8.9	6.1	671.7	凝灰岩	円礫の側縁部を敲打・多方向からの砥面をもつ 稜をもたない	覆土上層	PL171 磨石の再利用
Q 29	異形石器	1.6	3.5	0.9	3.2	頁岩	横長の小型の石匙状 全体にいいいな押圧剥離	覆土中	PL160

第7号竪穴建物跡 (第28・29図)

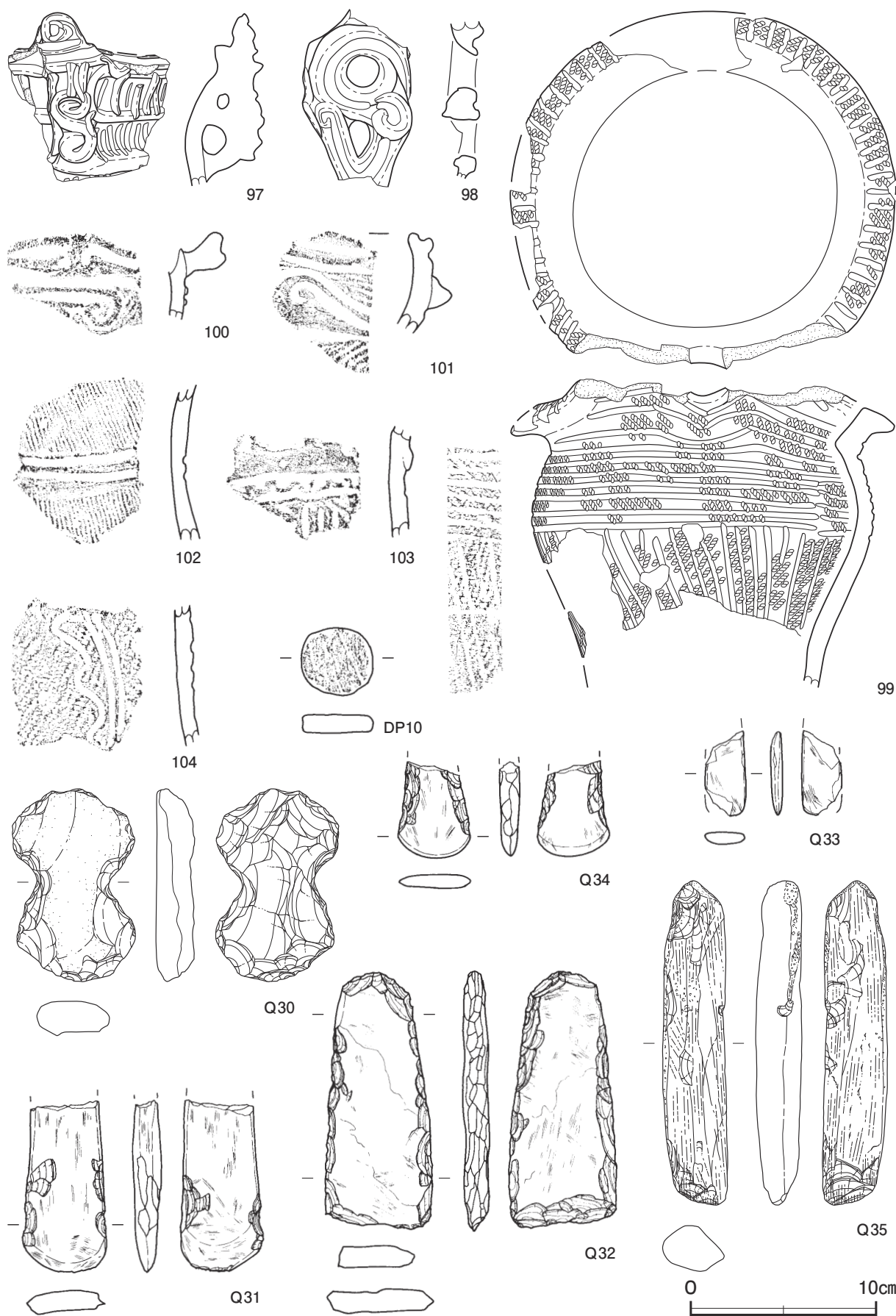
位置 調査区西北部寄りのC2b5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第32号竪穴建物跡、第642・645・666～670号土坑を掘り込み、第5号竪穴建物、第351号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径7.42m、短径5.35mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。壁は高さ20cmで、緩やかに傾斜している。



第 28 图 第 7 号竖穴建物跡実測图



第29图 第7号竖穴建物跡出土遺物実測図

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径 130cm、短径 80cmの楕円形で、床面を 20cmほど掘りくぼめた地床炉である。石皿 1 点が北東部から、自然礫 1 点が東部からそれぞれ出土しており、いずれも炉石として使用されたものである。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 14 か所。P 1・P 2 は深さ 110cm・50cm で、規模と配置から主柱穴である。P 3～P 7 は、深さ 30～50cm で補助柱穴と考えられる。P 8～P 14 は深さ 20～50cm で、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 263 点（深鉢 253、浅鉢 10）、土製品 1 点（土器片円盤）、石器 10 点（打製石斧 3、磨製石斧 2、石皿 2、磨石 2、炉石 1）、石製品 1 点（石剣）、剥片 3 点（チャート 1、瑪瑙 2）、自然礫 1 点が出土している。99 は P 1 の覆土上層から、Q 30・Q 32・Q 33 は東部の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。97・98・100～104、DP10、Q 31・Q 34・Q 35 は、いずれも覆土中から散乱して出土しており、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、中期中葉と考えられる。

第 7 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 29 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
97	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	隆帯貼付による S 字文 2 列の方形区画内沈線による文様描画	覆土中	PL106
98	縄文土器	深鉢	-	(9.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	中空把手 太沈線による円文・蕨手文	覆土中	PL106
99	縄文土器	深鉢	17.8	(16.6)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇頂部平坦面 沈線及び単節縄文 RL (ランダム) 頸部 (横) 胴部 (縦) 縦横の沈線文	P 1 覆土上層	70% PL106
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	把手中央から腕手の沈線 単節縄文 RL (縦) 細隆帯で渦巻文	覆土中	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部に沈線 隆帯貼付による上向きの渦巻文 0 段多糸縄文 RL (斜・縦)	覆土中	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	撚糸文 2 本の横位の太沈線 沈線間磨消	覆土中	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	幅広い隆帯下に並行沈線 交互刺突文 単節縄文 LR (縦) 3 本の懸垂文	覆土中	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (縦) 沈線による蛇行線・並行線による懸垂文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP10	土器片円盤	3.7	3.8	1.0	16.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 30	打製石斧	10.4	6.7	2.1	1820	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 執り部・刃部は表裏を敲打	床面	PL162
Q 31	打製石斧	(9.3)	4.6	1.6	(84.7)	石英片岩	撥形 側縁部研磨 刃部は表裏を研磨 ハマグリ刃 先端部に使用痕 基部欠損	覆土中	PL163
Q 32	打製石斧	14.0	5.9	1.4	167.2	粘板岩	撥形 表裏面研磨 両側縁微細な敲打調整	床面	PL163

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 33	磨製石斧	(4.6)	2.2	6.3	(8.0)	砂岩	極小型 全面研磨 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す 一部欠損	床面	
Q 34	磨製石斧	(5.1)	3.9	1.0	(30.4)	緑色岩	小型 表裏面研磨 両側縁敲打痕 刃部は表裏から研ぎ出す 基部欠損	覆土中	
Q 35	石剣	17.5	3.5	2.5	219.9	角閃岩	自然面残存 両側縁に微細な敲打痕 周縁・端部に研磨痕	覆土中	

第8号竪穴建物跡 (第30・31図 PL5)

位置 調査区西部のC2c4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第32号竪穴建物・第666号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.85m、短軸3.13mの隅丸長方形で、長軸方向はN-51°-Wである。壁は高さ32~46cmで、緩やかに傾斜している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 3か所。P1は深さ45cm、P2は深さ35cm、P3は深さ15cmである。P1・P2は支柱穴、P3は補助支柱穴と考えられる。

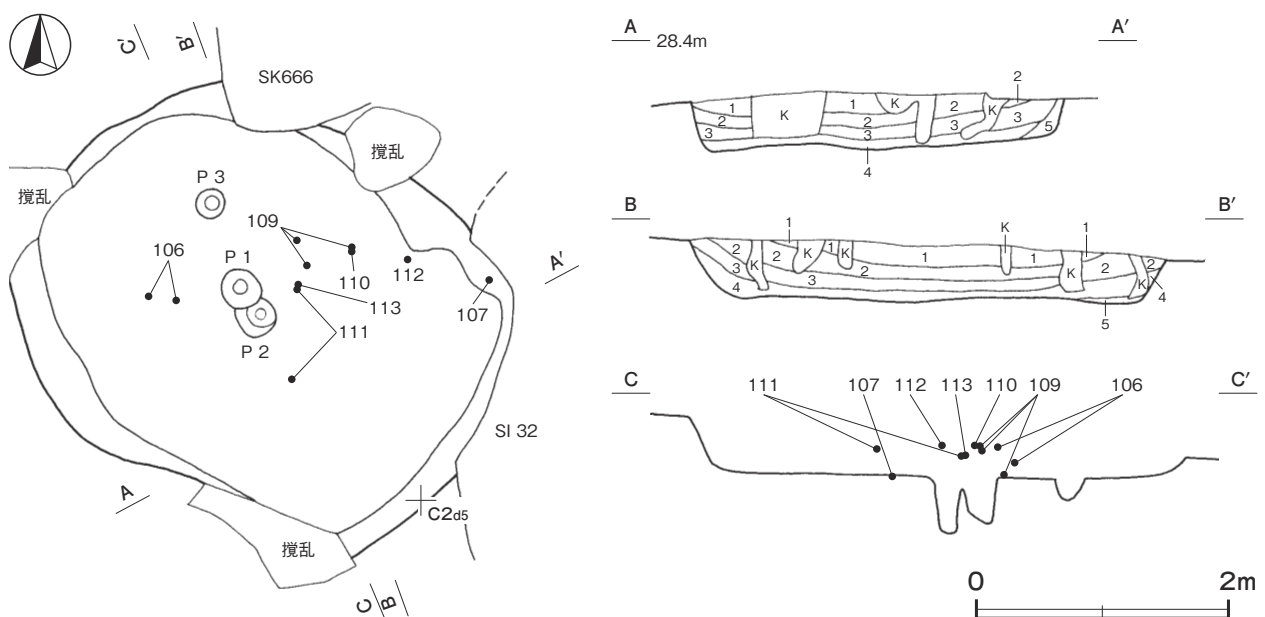
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

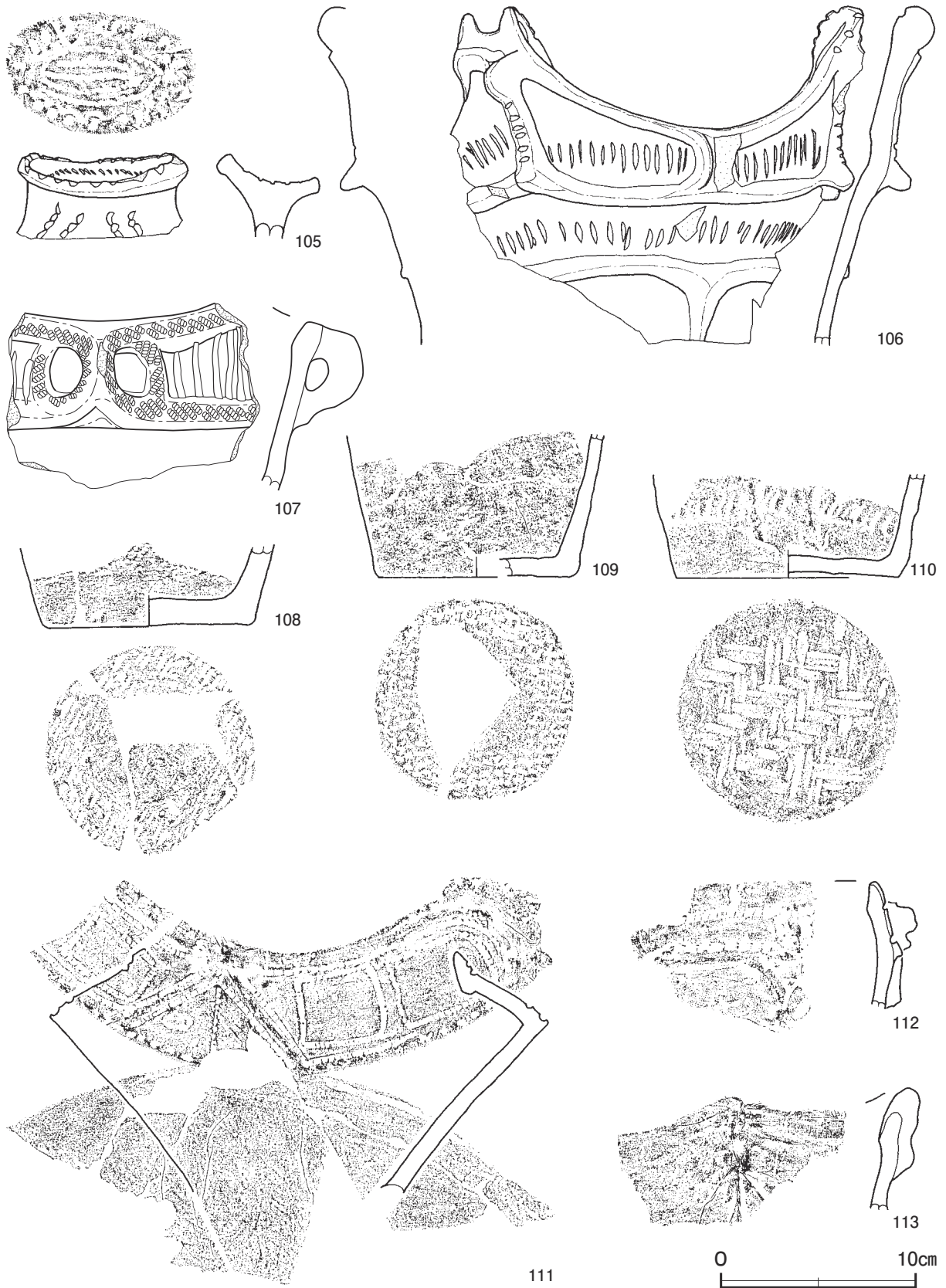
- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片368点(深鉢361, 鉢1, 浅鉢6), 石器1点(磨石)が出土している。109は中央部の覆土下層と上層から出土した破片が接合している。107は東壁際の覆土下層, 106は西部, 110・111・113は中央部, 112は東部の覆土上層から散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻す過程で、投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第30図 第8号竪穴建物跡実測図



第 31 图 第 8 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
105	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	把手部楕円形の頂部内彎 周縁に刺突 楕円に沿って有節沈線 外面に2本のハの字状の有節沈線	覆土中	
106	縄文土器	深鉢	[30.6]	(17.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子・細礫	灰褐	普通	波頂部に摘み状の突起 断面三角形の隆帯により区画文 区画内及び頸部幅広の爪形文 胴部は断面三角形の隆帯による文様描画 地文に無文	覆土上層	20% PL106
107	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇頂部に平坦面 隆帯によるミズク状把手 把手間縦位の沈線 隆帯上に単節縄文 RL (横) 頸部横方向のナデ	覆土下層	PL106
108	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	10.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 横方向のナデ 底面に網代痕	覆土中	
109	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	10.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部下端無文 横方向のナデ 底面に網代痕	覆土上・下層	10%
110	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	11.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	断面三角形の隆帯が垂下 横位の爪形文が一巡 底面に網代痕	覆土上層	10%
111	縄文土器	鉢	[16.0]	(12.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	鋭角に内傾させた口唇部に細隆帯及び有節沈線による区画文 胴部は横方向の磨き	覆土上層	25% PL106
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の隆帯による区画文 隆帯に沿って有節沈線	覆土上層	
113	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	波頂部に摘み状の隆帯貼付 外・内面横方向のナデ	覆土上層	

第9号竪穴建物跡（第32～39図 PL5）

位置 調査区西部中央のC2d6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第32・36号竪穴建物跡、第643・662・663・676・682・690・697・712・717・723号土坑を掘り込み、第33号竪穴建物、第685・689号土坑に掘り込まれている。第674号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 西部が複数の遺構と重複しているが、壁の残存状況やピットの配置から、東西軸7.80m、南北軸6.35mの隅丸長方形で、長軸方向はN-90°と推定できる。壁は高さ8～12cmで、緩やかに傾斜している。

床 全体的に平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長軸95cm、短軸80cmの長方形の石囲い炉である。20個の緑石で構築されており、北辺中央部には緑石の抜き取り痕が確認できた。緑石には石皿や砥石が転用されている。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。また、西辺の石組みの下部から、古い段階の炉床部の一部が確認でき、地床炉から石囲い炉へ作り替えが確認できた。

炉土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 におい赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 におい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | |

ピット 25か所。P1～P5は深さは70～100cmで、規模と配置から支柱穴である。P6～P9は、深さ65cm前後で、補助柱穴と考えられる。P10～P25は深さ10～44cmで、性格は不明である。

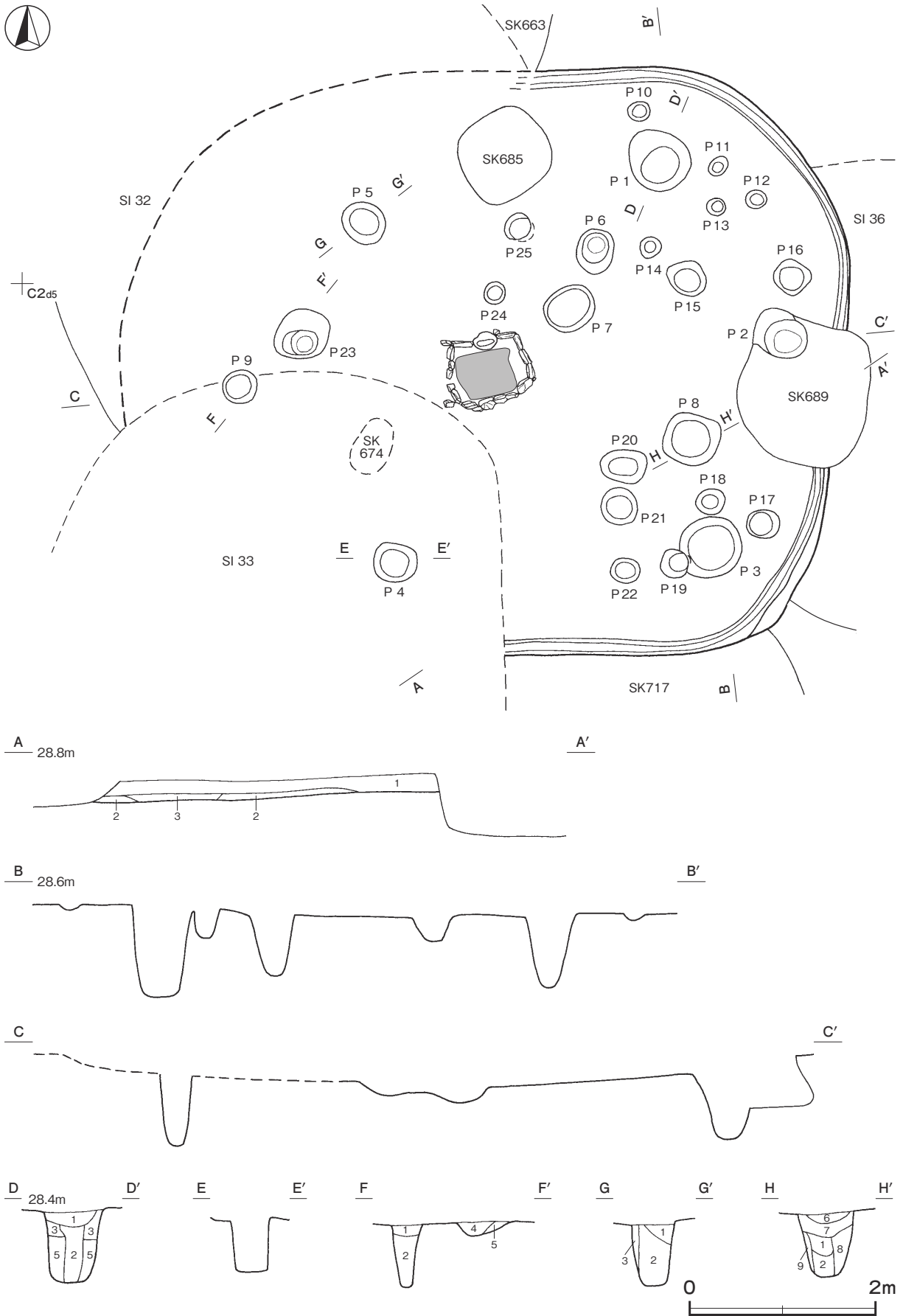
ピット土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 8 灰褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 褐色 ロームブロック少量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |

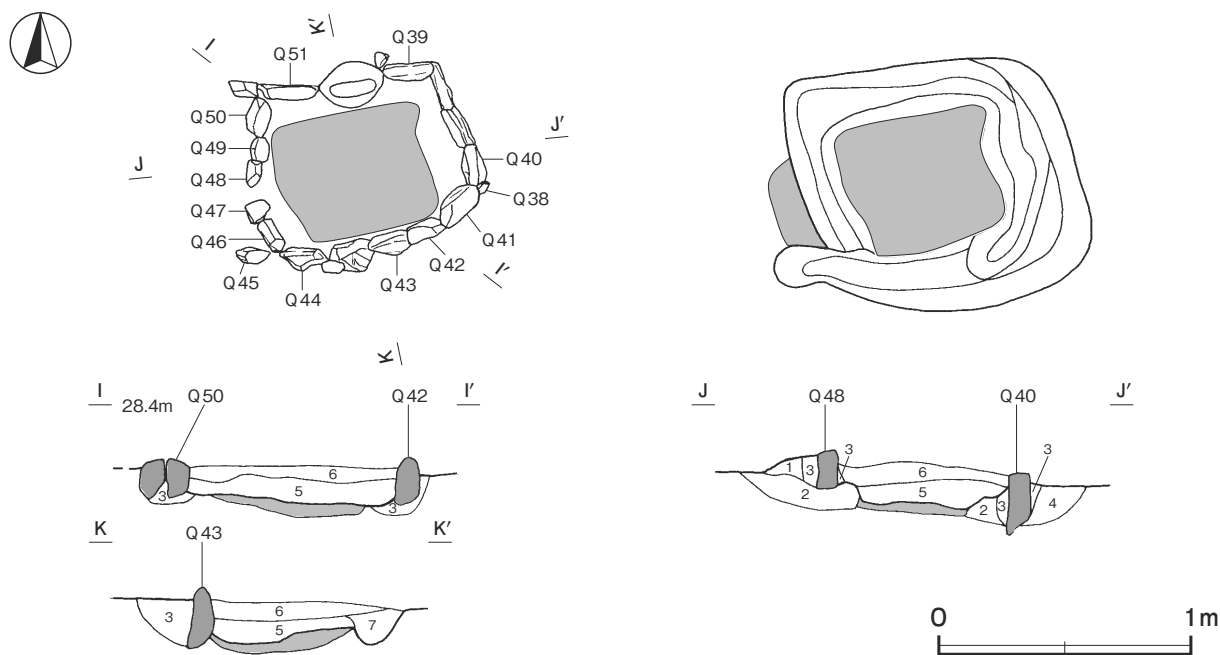
覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | |



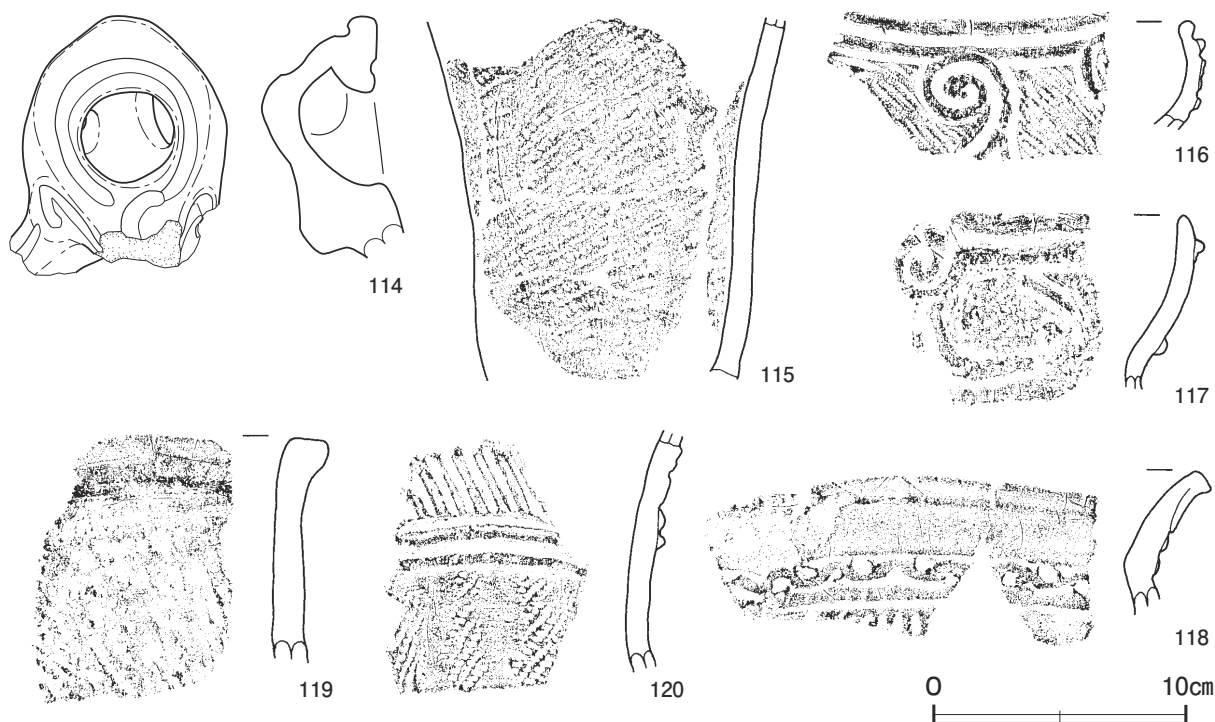
第 32 図 第 9 号竖穴建物跡実測図 (1)



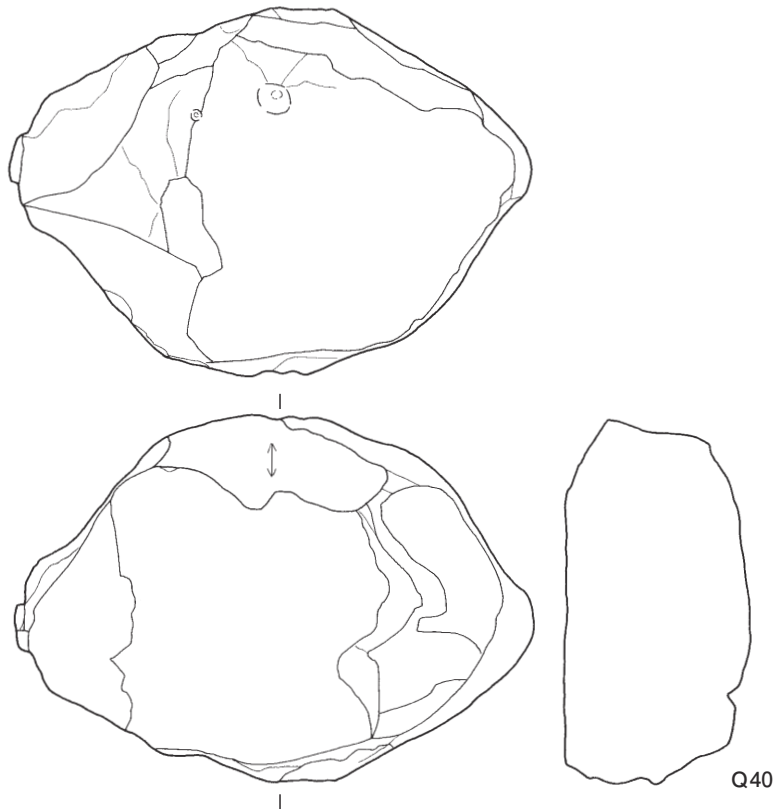
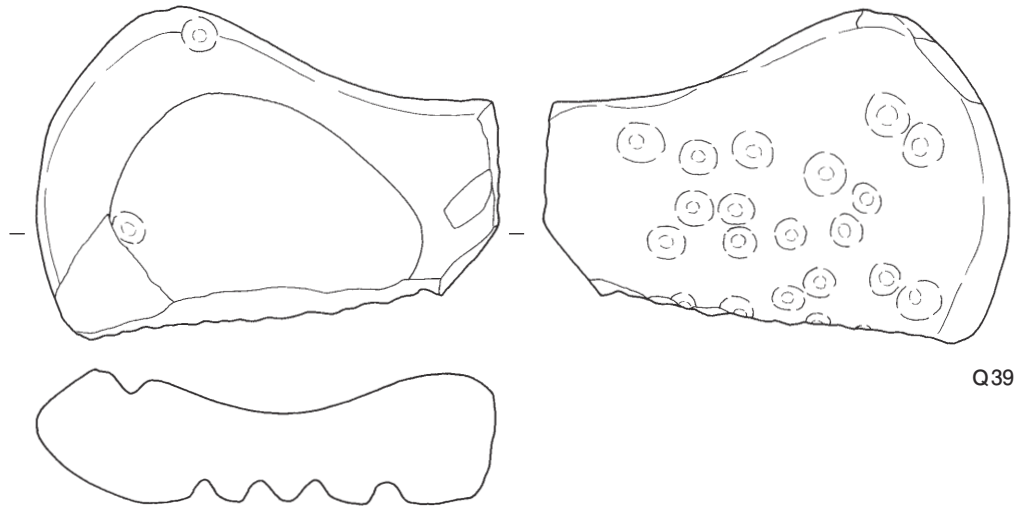
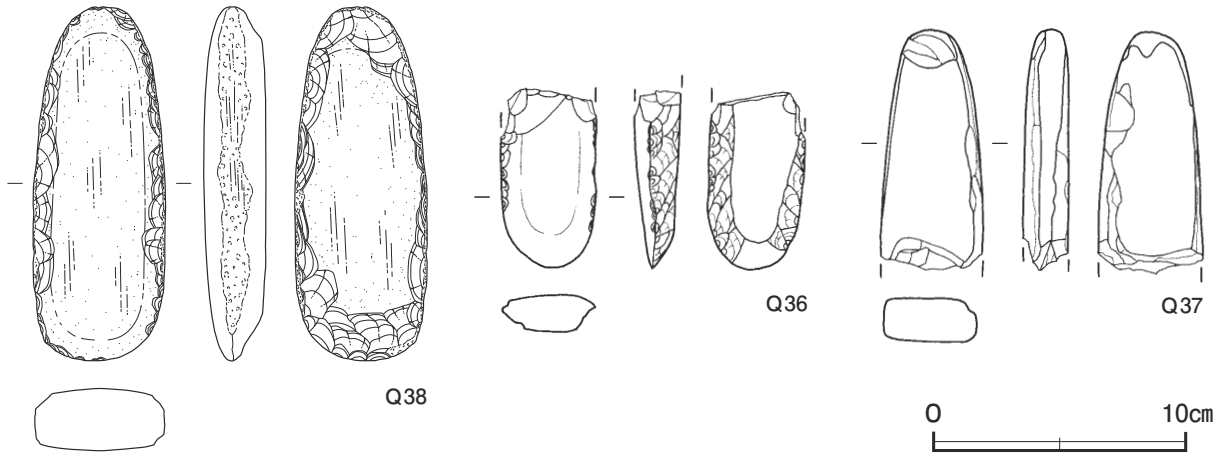
第33図 第9号竪穴建物跡実測図(2)

遺物出土状況 縄文土器片 333点(深鉢327, 浅鉢6), 石器27点(打製石斧2, 磨製石斧1, 磨石1, 凹石1, 炉石22), 剥片3点(瑪瑙, チャート, 石英)が出土している。Q36・Q37はP8の覆土中から出土している。Q38～Q51は石囲い炉の炉石で, 磨製石斧未成品・石皿・砥石・台石が転用されている。土器片は, 覆土中から散乱した状態で出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

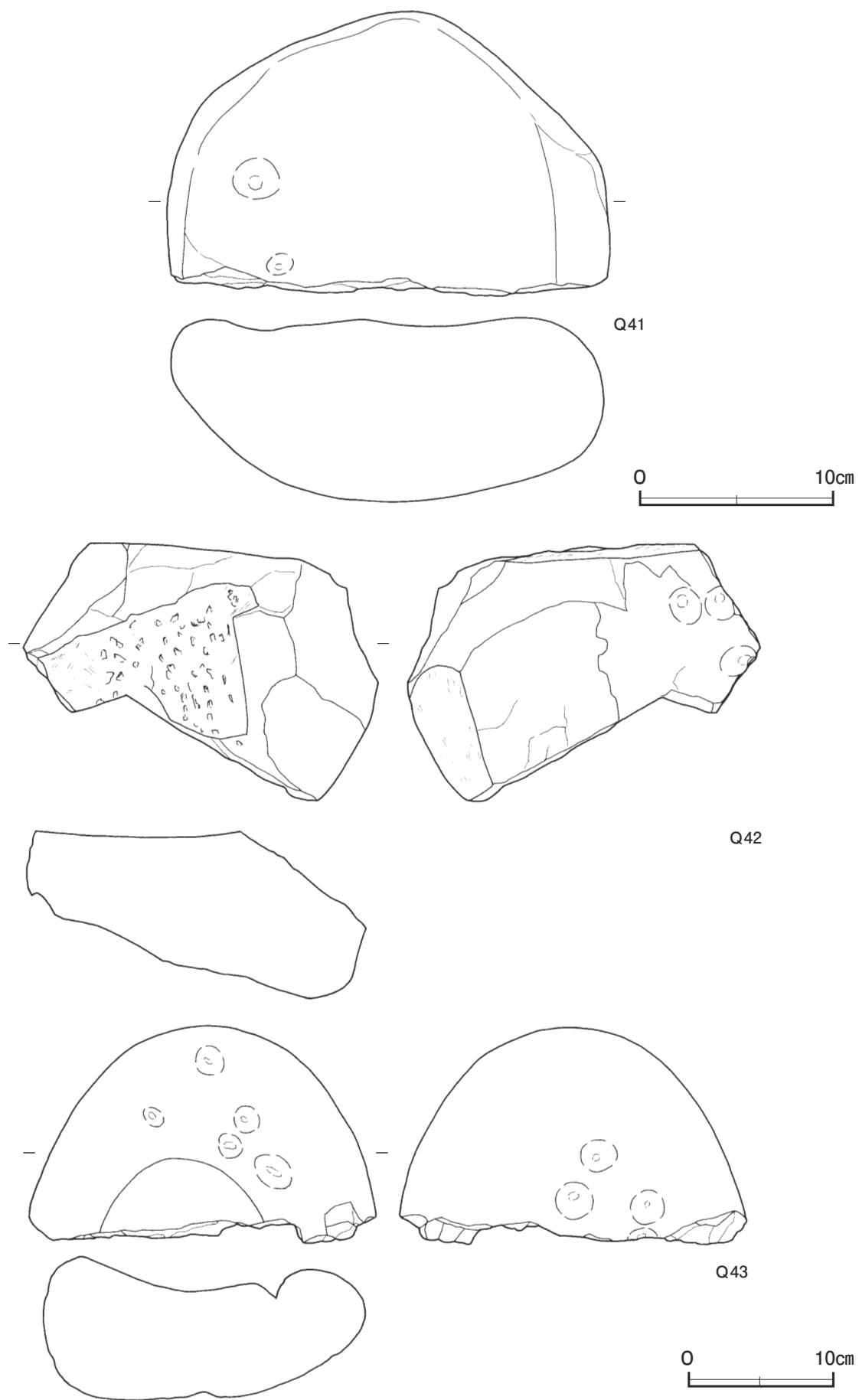
所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



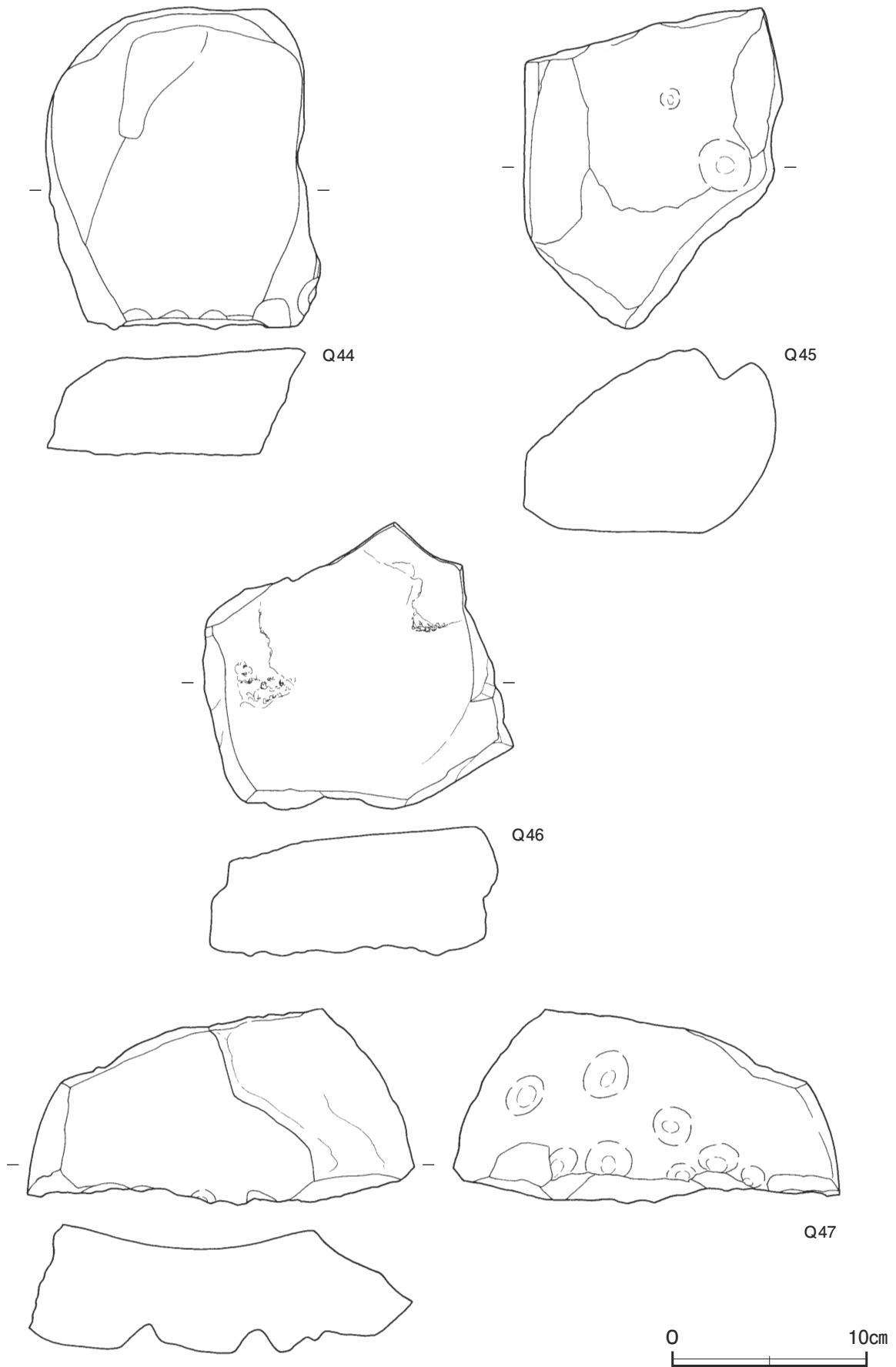
第34図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



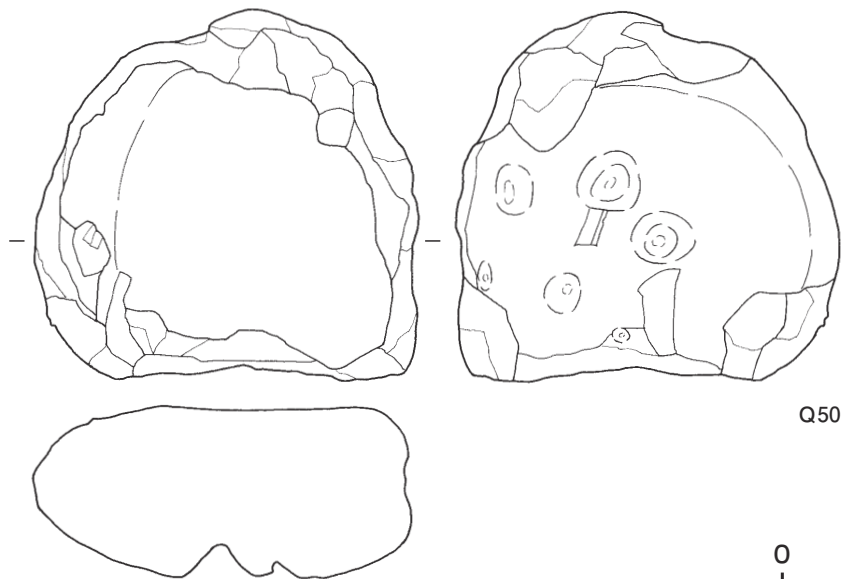
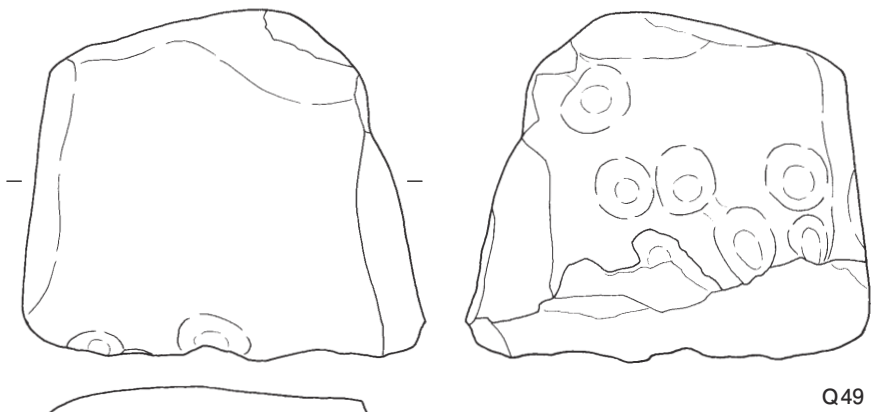
第 35 図 第 9 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



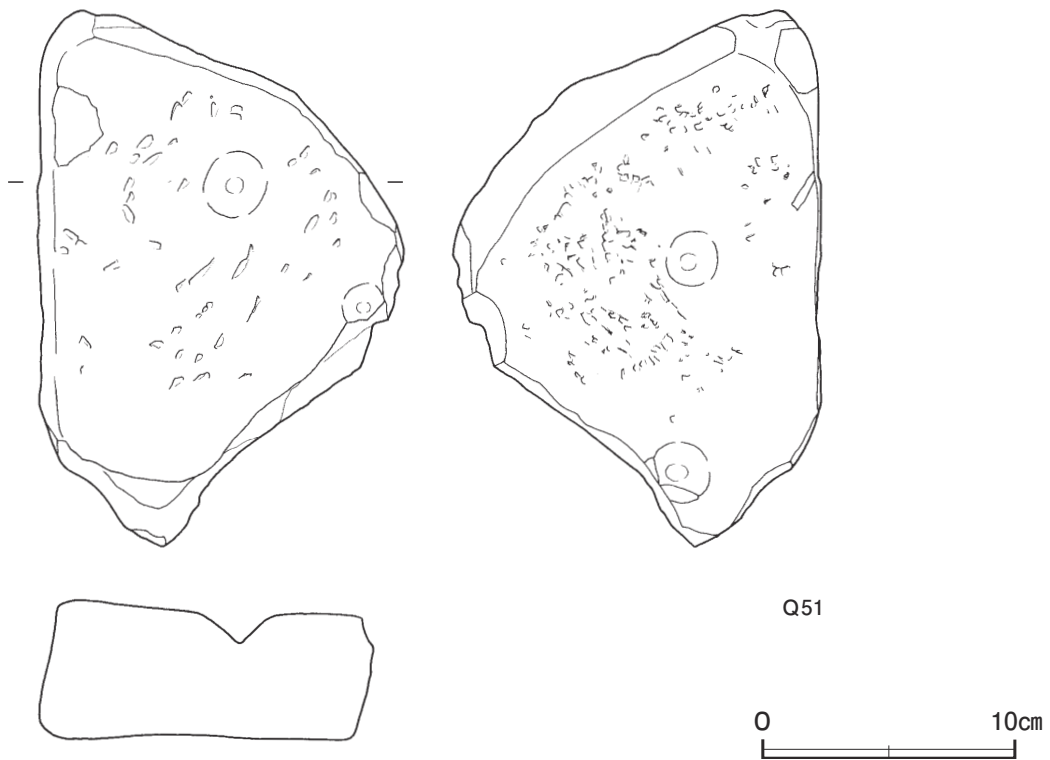
第36图 第9号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第 37 图 第 9 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)



第 38 图 第 9 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (5)



第 39 図 第 9 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (6)

第 9 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 34 ~ 39 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
114	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	良好	把手に沿って太沈線で円文・蕨手文	覆土中	PL106
115	縄文土器	深鉢	-	(14.7)	-	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	普通	把手に0段多条縄文LR(横)	覆土中	30% 内面煤付着
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇頂部に沈線 0段多条縄文RL(横) 隆帯により直線文・渦巻文を描画	覆土中	PL106
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	隆帯により渦巻文・区画文 単節LR縄文(横)	覆土中	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部上部は無文 交互刺突文 沈線で文様描画	覆土中	PL106
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	口唇頂部に平坦面 無節縄文L(縦)	覆土中	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	背割れ隆帯で区画 斜位の沈線 単節縄文RL(縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 36	打製石斧	(7.1)	3.8	1.9	(76.5)	角閃岩	小型 表裏面研磨 両側縁敲打調整 刃部は表裏を研磨 ハマグリ刃 基部欠損	P 8 覆土中	PL166
Q 37	磨製石斧	(9.5)	4.1	1.7	(124.6)	角閃岩	短冊形 全面研磨 両側縁に弱い稜 片面に凹状の研磨痕 刃部欠損	P 8 覆土中	PL168
Q 38	炉石	14.1	5.3	2.5	301.2	砂岩	磨製石斧未成品転用 周縁部に微細な敲打調整	炉石	PL170
Q 39	炉石	17.5	24.7	8.4	4130.0	砂岩	石皿転用 片面皿状 研磨痕 両面に凹み痕	炉石	PL176
Q 40	炉石	19.5	27.5	10.4	6750.0	砂岩	台石転用 端部に研磨痕 片面に凹み痕	炉石	PL176
Q 41	炉石	14.7	22.8	9.7	4450.0	石英斑岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 縁辺部に凹み痕	炉石	PL176
Q 42	炉石	17.8	24.3	11.8	4840.0	花崗岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 微細な敲打痕 片面に凹み痕	炉石	PL176
Q 43	炉石	15.0	23.9	10.7	3400.0	安山岩	石皿転用 片面皿状 研磨痕 両面に凹み痕	炉石	PL176
Q 44	炉石	16.5	14.1	5.6	2265.8	雲母片岩	石皿転用 片面に平坦な研磨面	炉石	
Q 45	炉石	16.6	13.3	10.0	2471.6	砂岩	石皿転用 片面に深い凹みと浅い凹み痕	炉石	PL176
Q 46	炉石	14.8	15.9	7.2	2174.3	砂岩	砥石転用 片面研磨痕	炉石	PL176
Q 47	炉石	10.1	19.9	6.5	1476.0	砂岩	石皿転用 片面皿状 研磨痕 片面に凹み痕	炉石	PL177
Q 48	炉石	16.0	12.4	7.9	2013.7	花崗岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 両面に凹み痕	炉石	PL177
Q 49	炉石	14.0	16.1	8.9	2475.9	石英斑岩	砥石転用 片面研磨 両面に凹み痕	炉石	PL177
Q 50	炉石	14.6	15.3	6.7	2154.3	花崗岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 片面に凹み痕	炉石	PL177
Q 51	炉石	21.4	14.6	6.3	2656.2	砂岩	台石転用 全面研磨 両面に敲打痕・凹み痕	炉石	PL177

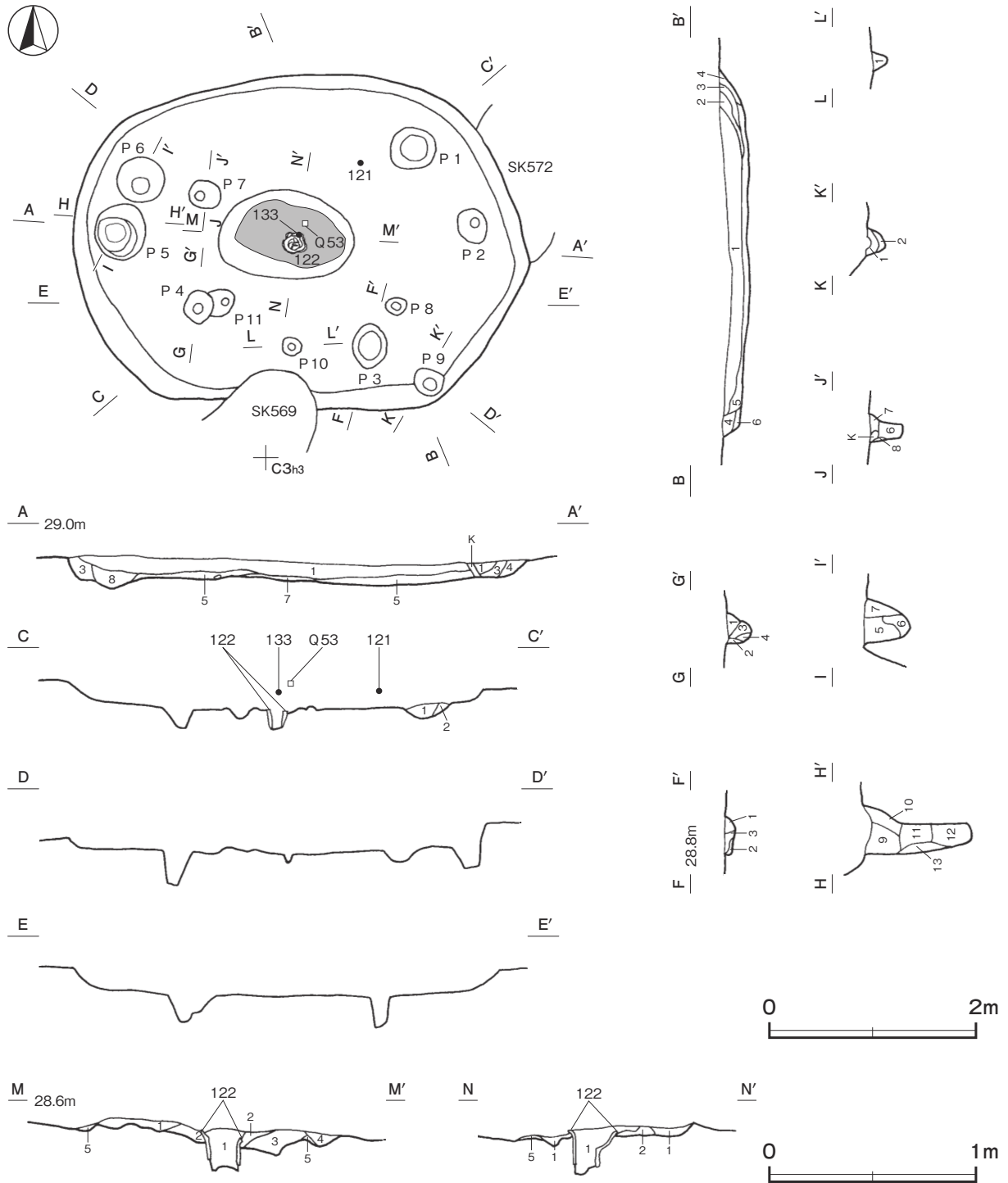
第 11 号 豎穴建物跡 (第 40 ~ 42 図 PL 5・6)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 g3 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 572 号土坑を掘り込み, 第 569 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 4.44 m, 短径 3.25 m の楕円形で, 長径方向は N - 85° - W である。壁は高さ 7 ~ 20cm で, 緩やかに傾斜している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。



第 40 図 第 11 号 豎穴建物跡実測図

炉 中央部に付設されている。長径 130cm, 短径 90cmの楕円形の土器埋設炉で, 中央部に口縁部及び胴部下半を欠いた 122 が設置されている。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 | | |

ピット 11か所。P 1～P 6は, P 5が深さ 110cmと深く, それ以外は深さ 5～40cmである。配置から主柱穴である。P 7～P 11は補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------|-----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

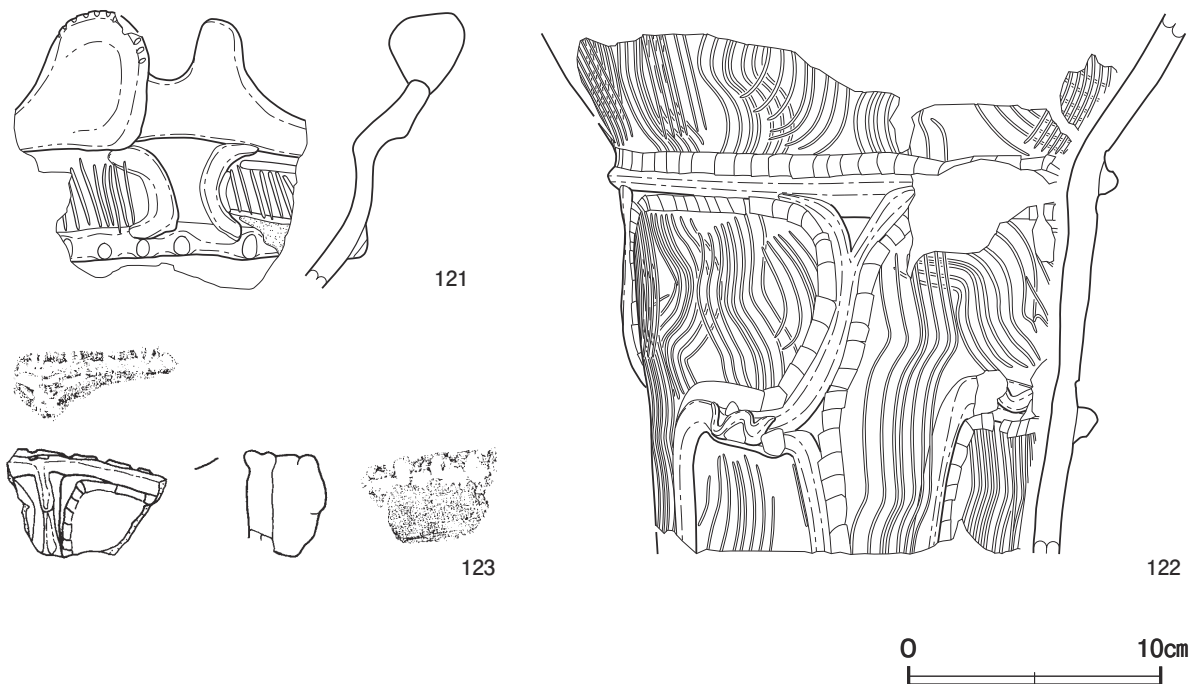
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

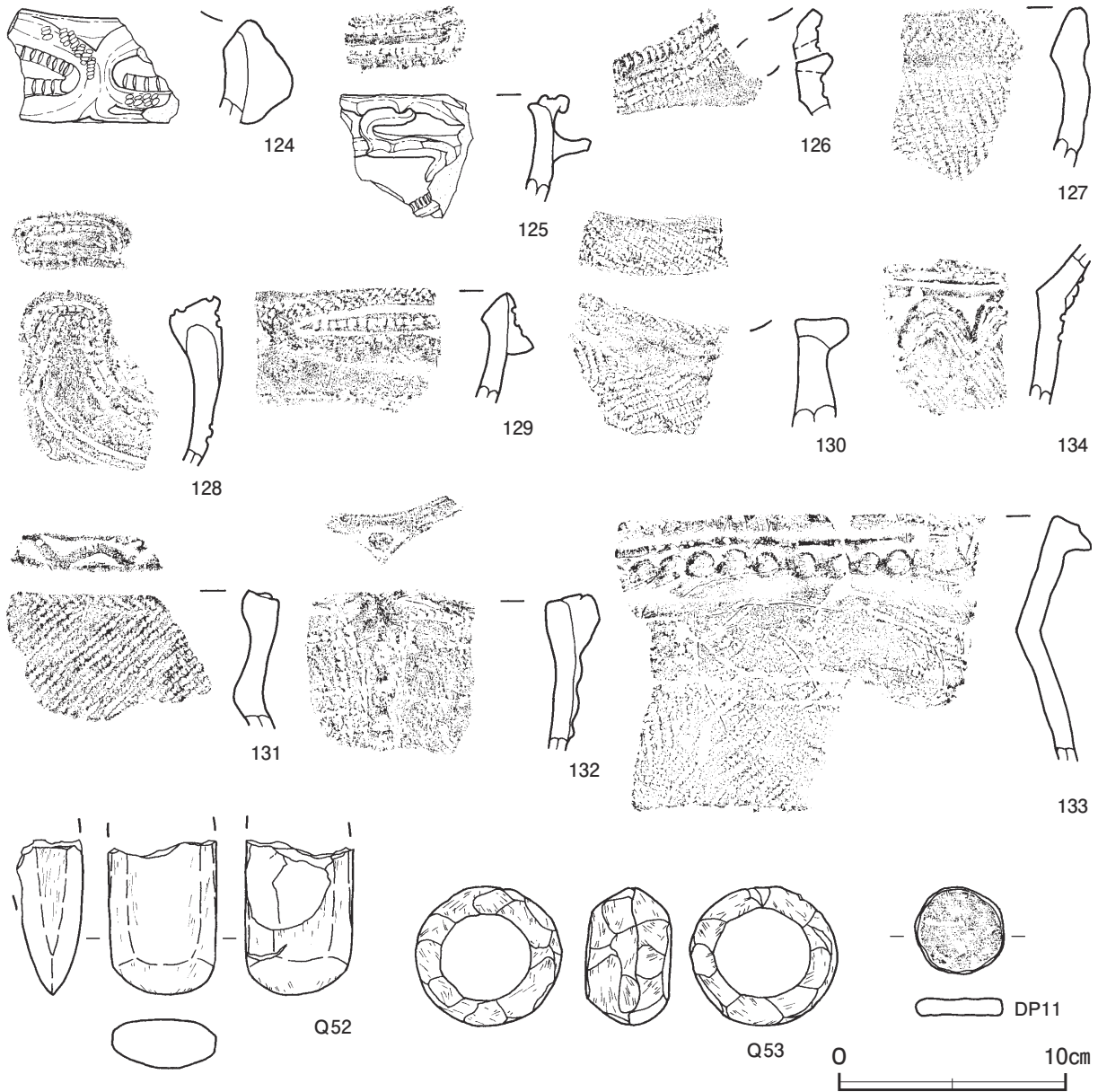
- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-----------------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 310点 (深鉢 309, 浅鉢 1), 土製品 1点 (土器片円盤), 石器 4点 (打製石斧 1, 磨製石斧 2, 敲砥石 1), 石核 7点 (瑪瑙 3, 石英 4), 剥片 3点 (瑪瑙 2, 石英 1) が出土している。122は土器埋設炉の炉体土器である。121は北東部, 133, Q 53は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 土器埋設炉に使用されていた土器から, 中期中葉と考えられる。



第 41 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第42図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第41・42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
121	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	隆帯による区画 区画内沈線を充填	覆土上層	PL106
122	縄文土器	深鉢	-	(21.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	櫛描きによる波状文 隆帯による区画文 隆帯に沿ってキョウヒラ文	炉	60% PL106
123	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇頂部に平坦面 外・内面に有節沈線・刺突文 摘み状の隆帯貼付	覆土中	
124	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	隆帯によるX字状文 隆帯上に単節縄文RL(横) 区画内連続爪形文	覆土中	
125	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇頂部に平坦面 2本の有節沈線 口縁部断面 三角形の隆帯貼付	覆土中	
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁に沿ってキザミ目・有節沈線 中央部に穿孔	覆土中	
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部単節縄文LR(横) 胴部(縦) 口縁直下に指頭による幅広の沈線	覆土中	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	把手頂部及び外面に有節沈線	覆土中	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯による楕円区画 隆帯上に単節縄文RL(横) 区画内1本の有節沈線	覆土中	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口唇頂部に平坦面 単節縄文RL(横) 胴部(縦・横)	覆土中	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇頂部に平坦面 蛇行隆帯を貼付 口唇部単節縄文RL(横) 胴部(縦)	覆土中	

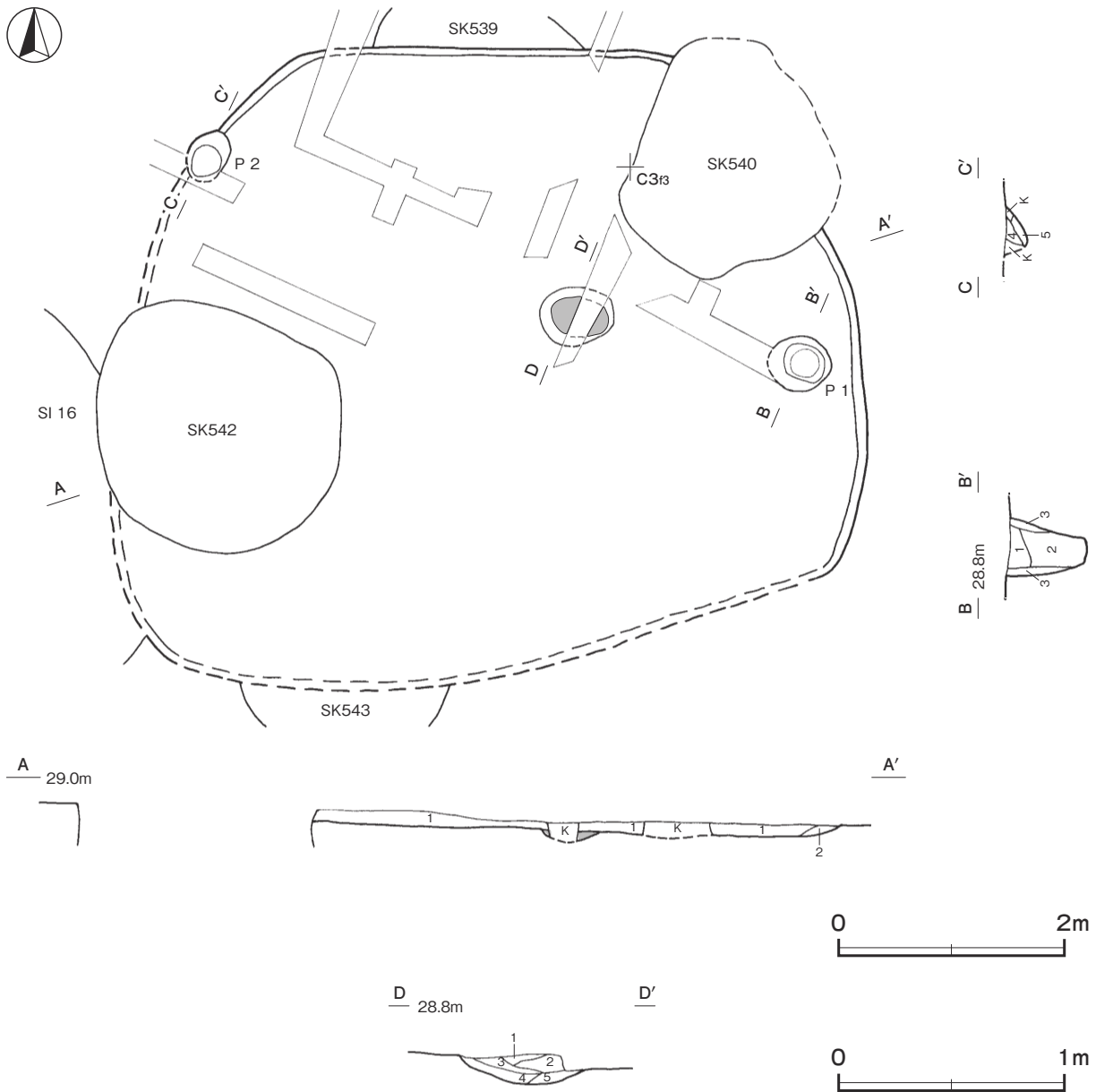
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縦位の隆帯貼付 隆帯上にキザミ目 有節沈線による区画文	覆土中	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	口唇頂部に隆起線 口縁部刺突隆帯が一巡 単節縄文RL(ランダム) 一部羽状構成	覆土上層	PL106
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	無節縄文L(縦) 隆帯による横線文・波状文 隆帯に沿って有節沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP11	土器片円盤	3.8	3.9	8.5	14.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	胴部片 周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q 52	磨製石斧	(6.9)	4.7	(2.9)	(127.0)	砂岩	定角式 側縁に弱い稜 ハマグリ刃	基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	
Q 53	敲砥石	6.1	6.5	3.8	222.0	チャート	円盤の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ		覆土上層	PL171

第 12 号 竪穴建物跡 (第 43・44 図)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 f2 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。



第 43 図 第 12 号 竪穴建物跡実測図

重複関係 第16号竪穴建物跡, 第539・541・543・587号土坑を掘り込み, 第540・542号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作により攪乱を受けているが, 壁の残存状況や炉跡, ピットの配置から, 東西径6.90m, 南北径5.80mの楕円形で, 長径方向はN-82°-Eと推定できる。壁は高さ10cmで, 緩やかに傾斜している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径70cm, 短径50cmの楕円形で, 床面を深さ10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ70cm, P2は深さ20cmで, 性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

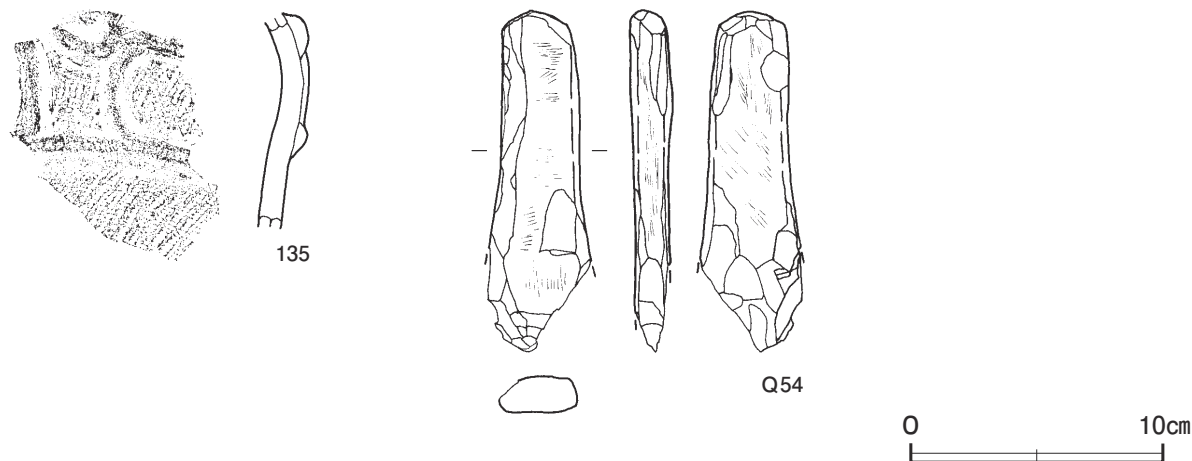
覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため明確でないが, 含有物が少ないことから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|-----------|-------|---------|

遺物出土状況 縄文土器片210点(深鉢202, 浅鉢8), 石器2点(打製石斧, 敲石), 石核1点(瑪瑙), 剥片2点(黒曜石, 瑪瑙)が出土している。135, Q54は, いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第44図 第12号竪穴建物跡出土遺物実測図

第12号竪穴建物跡出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による区画文 区画内及び胴部は1段多条縄文RL(縦)	覆土中	PL106	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q54	打製石斧	(13.5)	4.1	1.7	(112.2)	粘板岩	撥形磨痕	刃部欠損	両側縁微細な敲打調整	表裏面・側縁部に研	覆土中	PL163

第 13 号 竪穴建物跡 (第 45 ~ 47 図 PL 6)

位置 調査区中央部西寄りの C 2 g0 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 16・25 号 竪穴建物跡, 第 582・583・604 号 土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 4.13 m, 短径 3.45 m の楕円形で, 長径方向は N - 75° - W である。壁は高さ 4 ~ 18cm で, 緩やかに傾斜している。

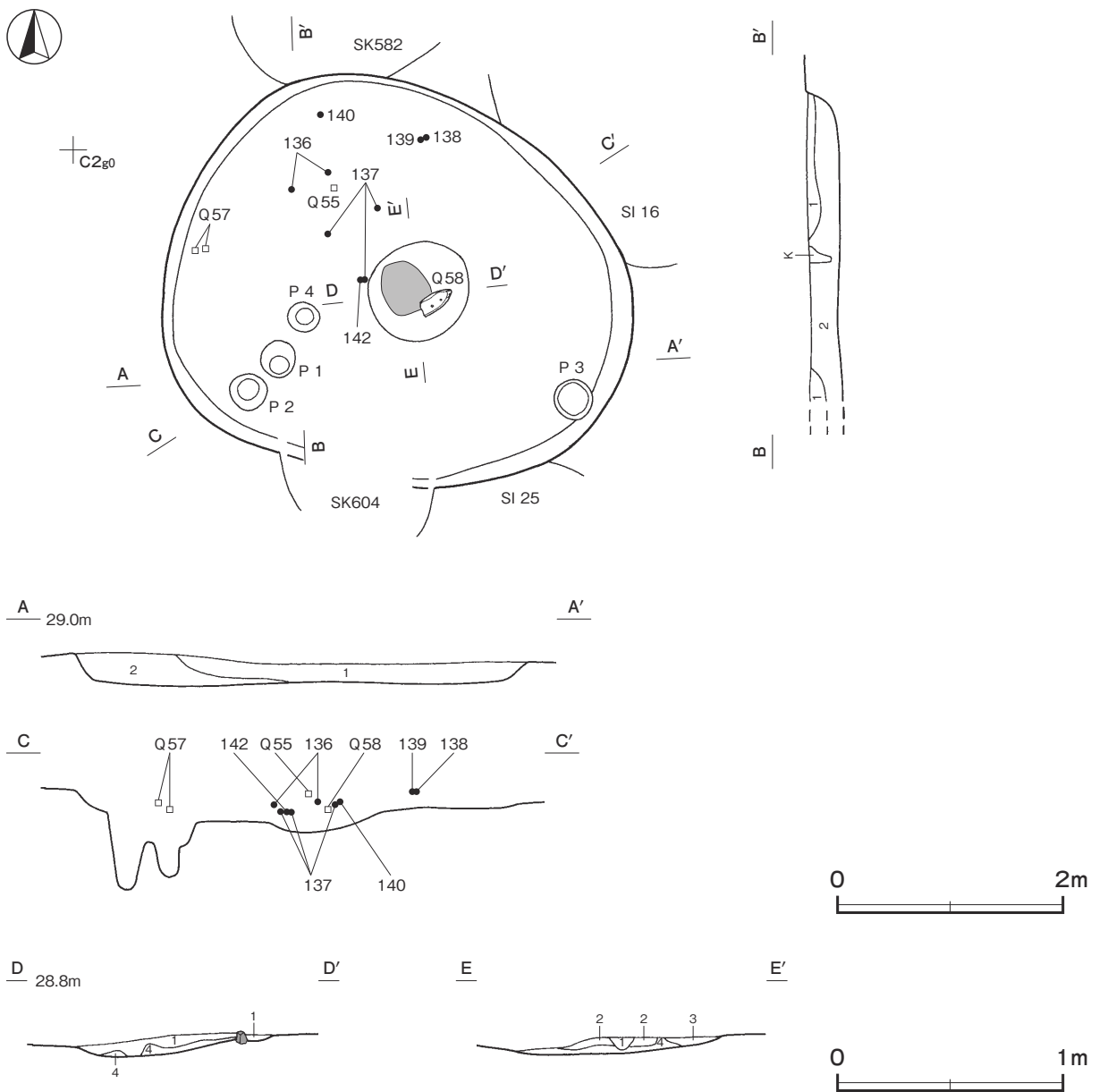
床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径 96cm, 短径 84cm の楕円形で, 床面を深さ 10cm ほど掘りくぼめた地床炉である。東部から石棒 (Q 58) 1 点と自然礫 1 点が出土しており, 炉石として使用されたものと考えられる。

炉床は, 火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |



第 45 図 第 13 号 竪穴建物跡実測図

ピット 4か所。P 1は深さ50cm, P 2は深さ70cmと深く主柱穴, P 3・P 4はいずれも深さ20cm程度と浅く, 補助柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。ローム粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

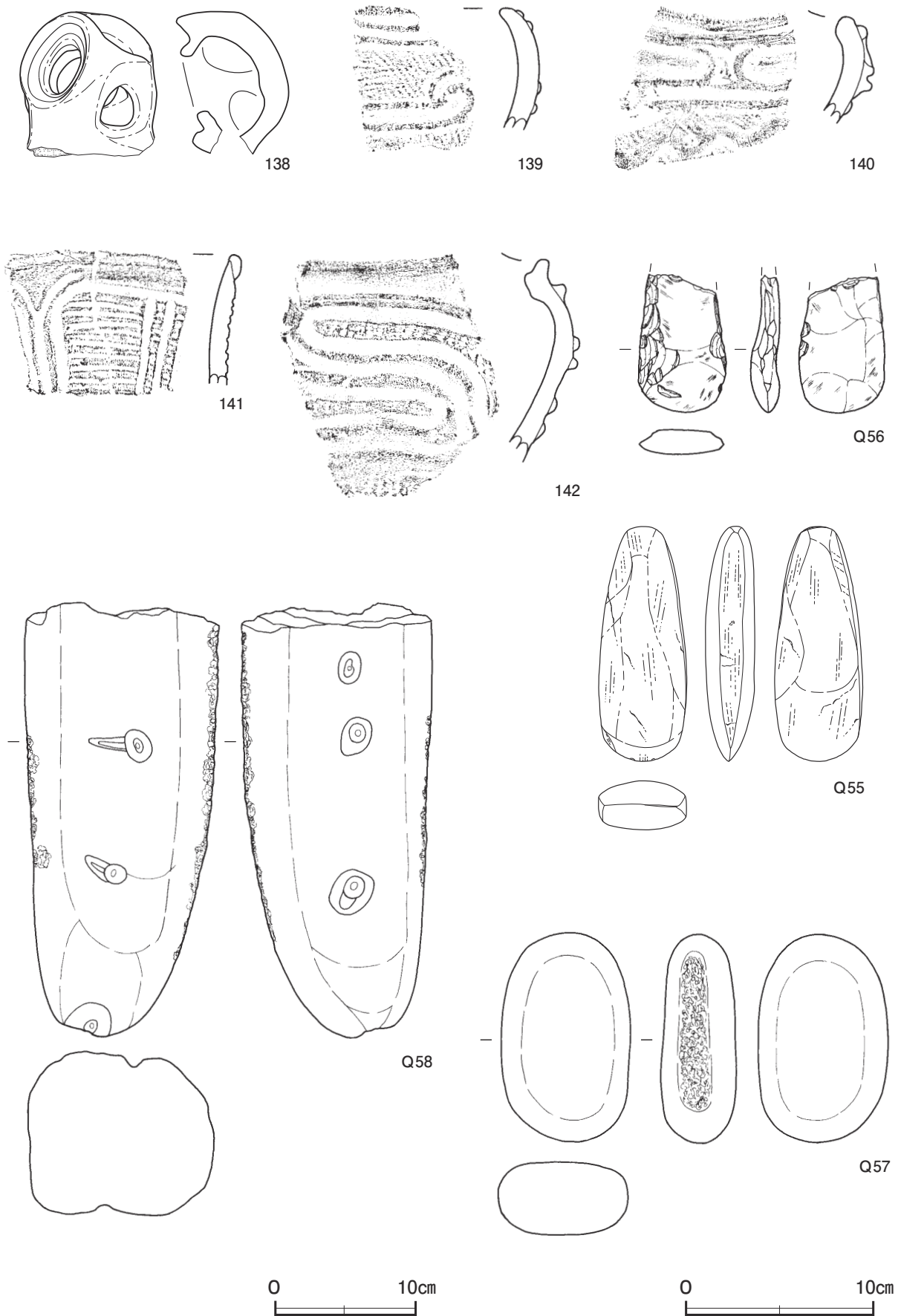
2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片66点(深鉢65, 浅鉢1), 石器8点(磨製石斧3, 磨製石斧未成品1, 敲石1, 炉石3)が出土している。Q 58は炉床面の東部から出土している。石棒の再利用と考えられる。136～140・142, Q 55・Q 57は北西部から中央部にかけてのまとまった範囲から出土していることから, 埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第46図 第13号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 47 图 第 13 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)

第 13 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 46・47 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
136	縄文土器	深鉢	[25.4]	(20.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄褐色	普通	口唇頂部に浅い沈線 隆帯による渦巻文・クラック文 頸部は背割れ隆帯で区画 口縁部単節縄文 RL (横) 胴部 (縦)	覆土中層	25% PL106
137	縄文土器	深鉢	-	(24.6)	10.9	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐色	良好	単節縄文 LR (縦) 沈線による懸垂文 胴部下端横方向の磨き	覆土中層	60% PL106
138	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	4か所の中空把手 穿孔に沿って太沈線	覆土上層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯による渦巻文・並行線文 縄文施文	覆土上層	二次焼成が著しい
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	背割れ隆帯により文様区画 隆帯による楕円区画 横位の蛇行文	覆土上層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙褐色	普通	口唇直下に沈線による方形区画 口唇部磨き 区画内横位の並行沈線	覆土中	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口唇頂部に沈線 単節縄文 RL (斜) 背割れ隆帯によるクラック文	覆土中層	PL106

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 55	磨製石斧	12.6	4.7	2.6	268.2	角閃岩	定角式 全面研磨 周縁部に弱い稜 ハマグリ刃	覆土上層	PL166
Q 56	磨製石斧	(7.3)	4.6	1.5	(64.6)	緑色岩	短冊形 表裏面研磨 両側縁微細な敲打痕 刃部は表裏から研 ぎ出す 基部欠損	覆土中	
Q 57	磨製石斧 未成品	11.3	7.0	4.0	485.6	砂岩	両面研磨 側縁部に微細な敲打痕	覆土中層	PL170
Q 58	炉石	31.3	13.7	11.7	7350.0	花崗岩	石棒転用 側縁部に微細な敲打痕 両面に凹み痕	炉	PL175

第 14 号 竪穴建物跡 (第 48～58 図 PL 7・100)

位置 調査区中央部の C 3 i6 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 556～558 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 二段掘り込みをもつ有段式竪穴建物跡である。隅丸方形で、主軸方向は N - 48° - W である。上段は長軸 7.60m, 短軸 7.10m である。壁は高さ 10cm 前後である。下段は長軸 4.80 m, 短軸 3.90 m で、上段との高低差は 20cm 前後である。壁は、いずれも緩やかに傾斜している。

床 上段、下段ともにほぼ平坦であり、硬化面は確認できなかった。上段の壁下には部分的に壁溝が巡っている。西部には壁溝と下段との間に並行する浅い溝が存在しており、古い段階の壁溝の可能性がある。

ピット 22 か所。下段に伴うピットは 6 か所である。P 1～P 4 は深さ 80～135cm で、配置から主柱穴である。P 5・P 6 は、ともに深さ 35cm で、補助柱穴と考えられる。上段に伴うピットは 16 か所である。P 7～P 22 は、深さ 12～40cm で、性格は不明である。

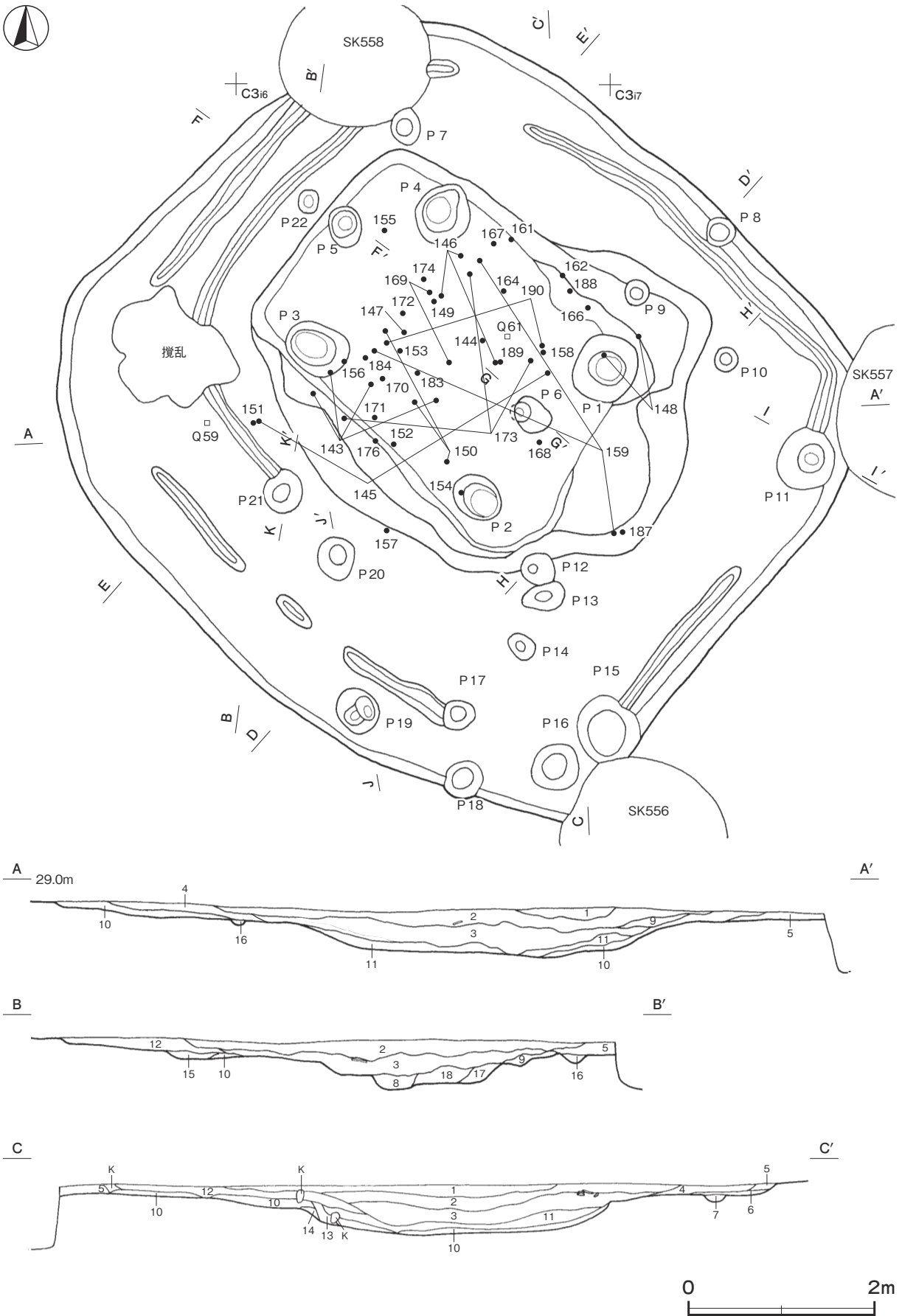
ピット土層解説

1 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 極暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	11 極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック多量
6 褐色	ローム粒子中量	14 暗褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	15 褐色	ローム粒子多量
8 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック少量

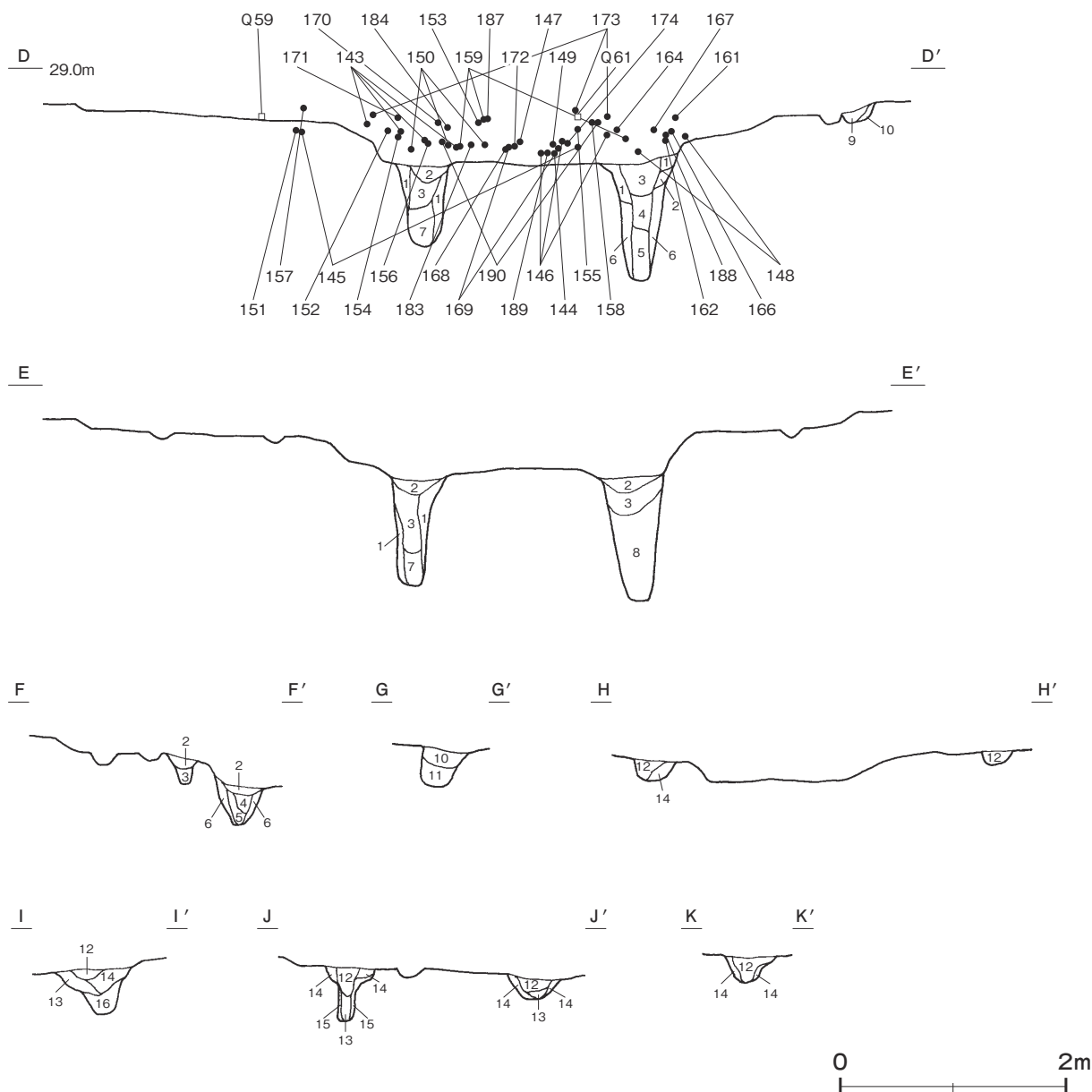
覆土 18 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子多量, ロームブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
7 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	18 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量



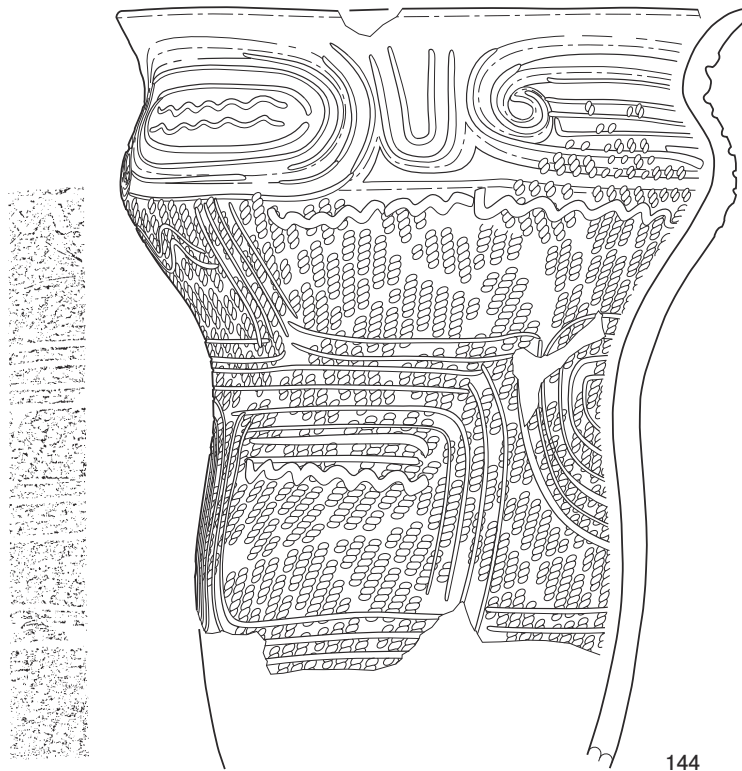
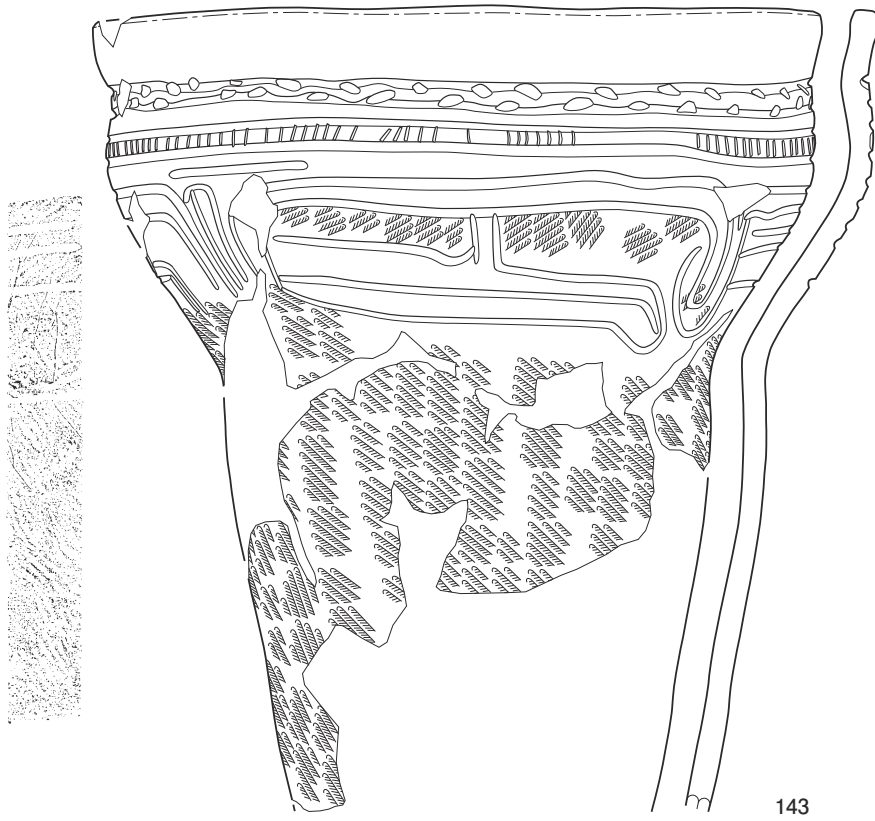
第 48 図 第 14 号竖穴建物跡実測図 (1)



第49図 第14号竪穴建物跡実測図(2)

遺物出土状況 縄文土器片 2,240点(深鉢 2,232, 浅鉢 7, 有孔鏝付土器 1), 土製品 1点(土器片錘), 石器 14点(鏃 1, 打製石斧 1, 磨製石斧 3, 磨製石斧未成品 1, 石皿 1, 磨石 5, 敲石 1, 砥石 1), 石核 2点(石英), 剥片 6点(瑪瑙 1, チャート 3, 石英 1, 安山岩 1), 母岩 2点(瑪瑙・石英), 自然礫 2点が, 主に中央部の覆土中層(第3層)からまとまって出土している。143～159は残存率の高い大型破片であるが, いずれも底部などが欠損しており, 破碎された状態で出土している。ある程度埋め戻された凹地状の部分に一括投棄されたものと考えられる。

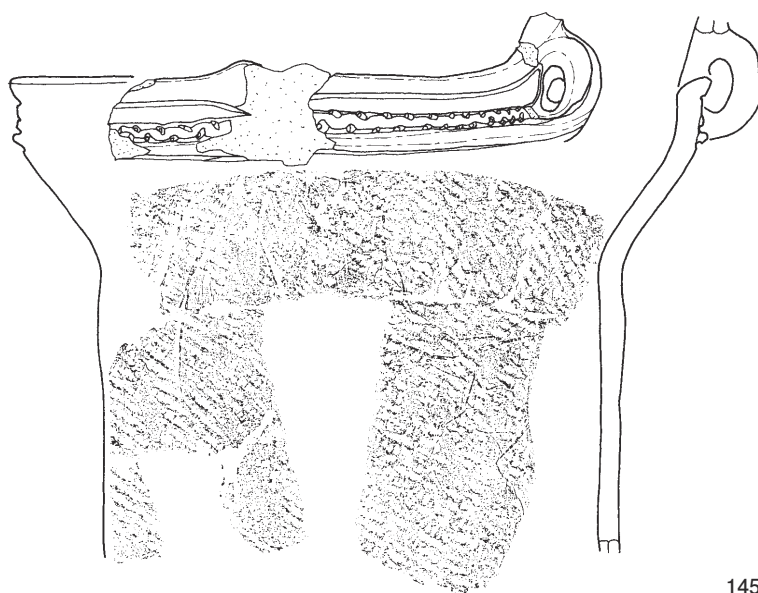
所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。上段西部の床面には, 古い段階の壁溝と考えられる浅い溝が確認でき, 西・南側へ拡幅された可能性を示している。



144

0 10cm

第 50 図 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



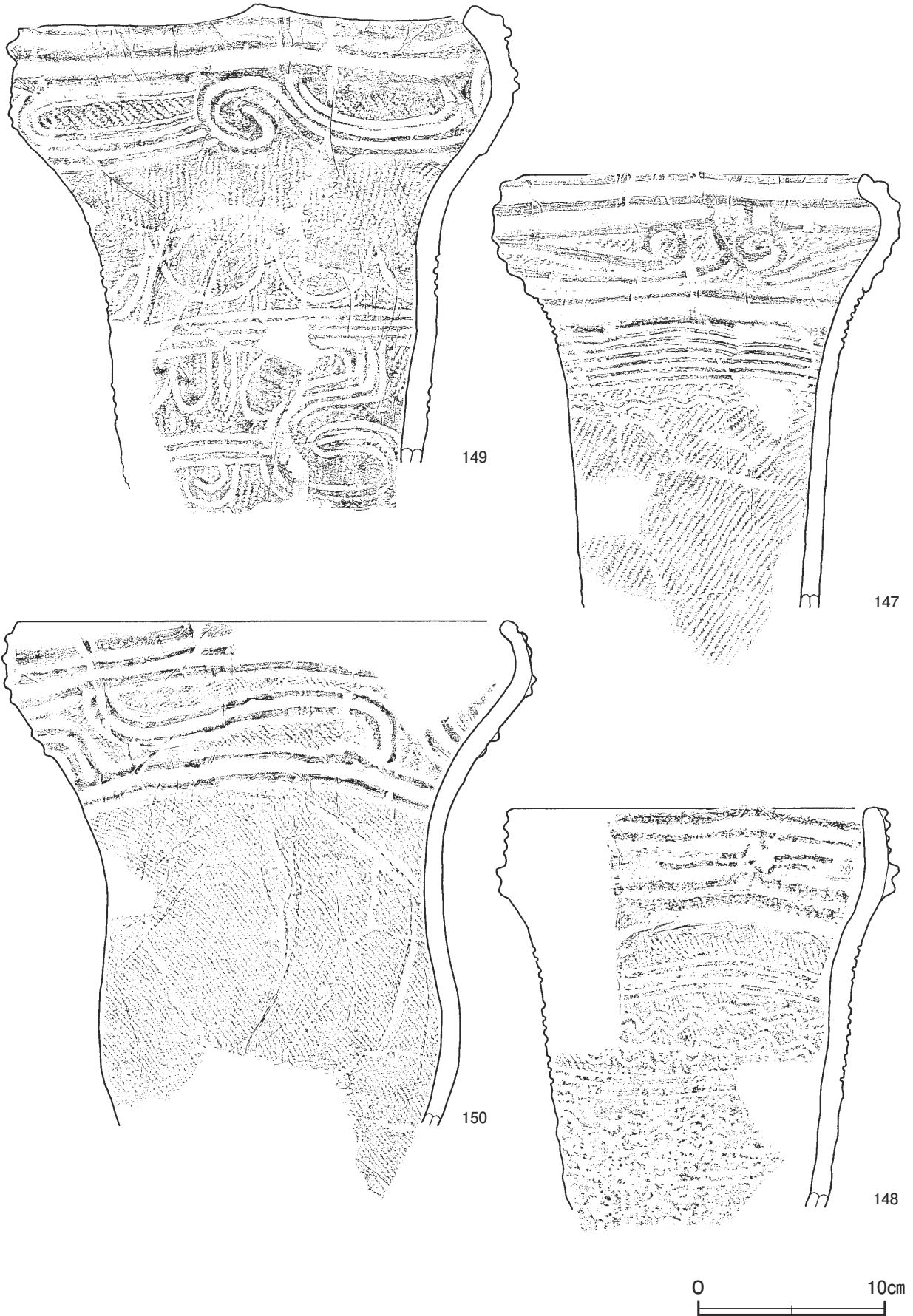
145



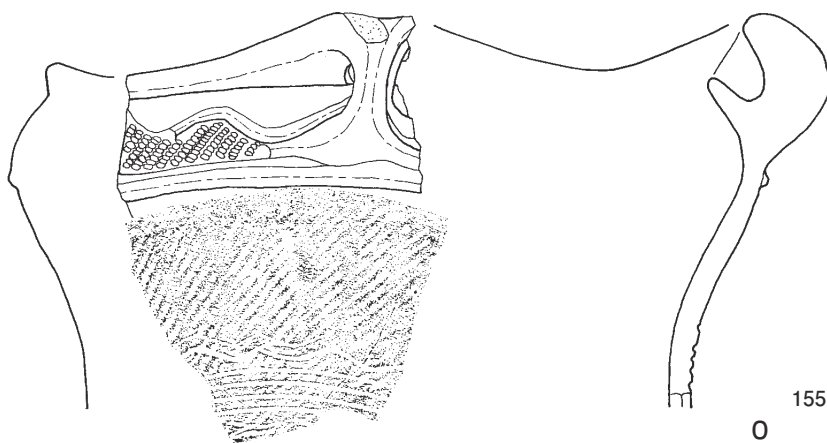
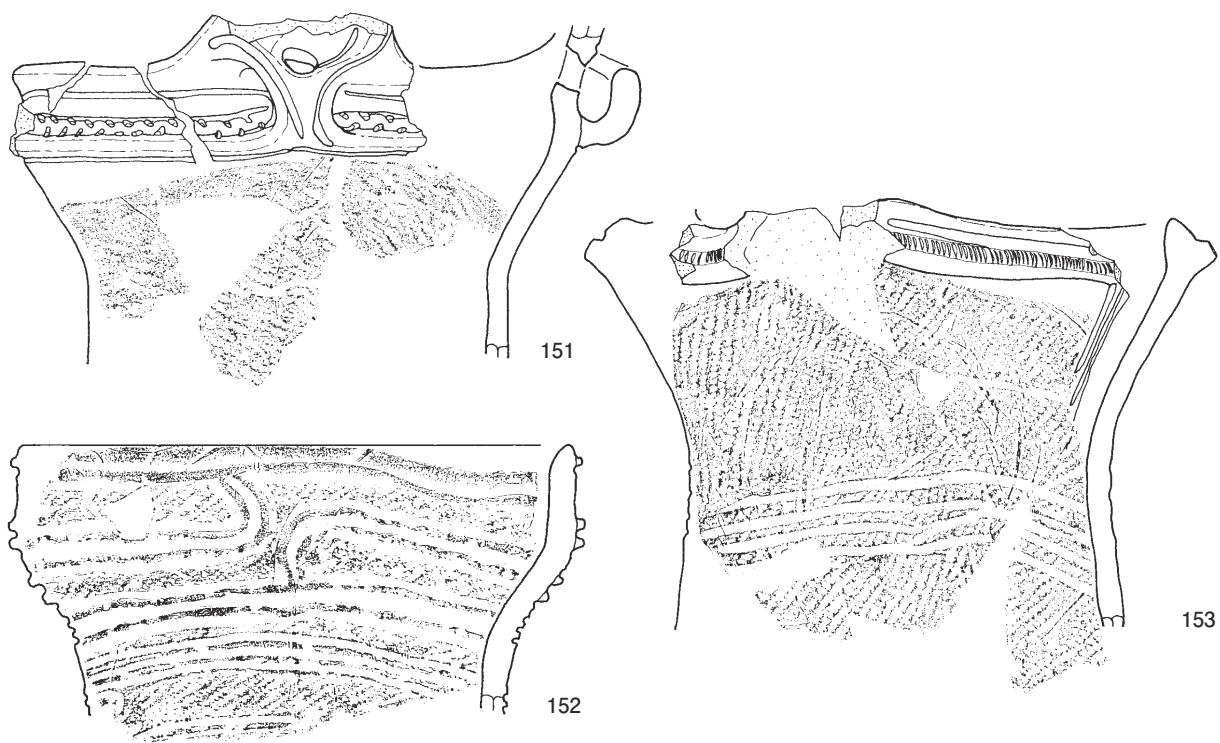
146



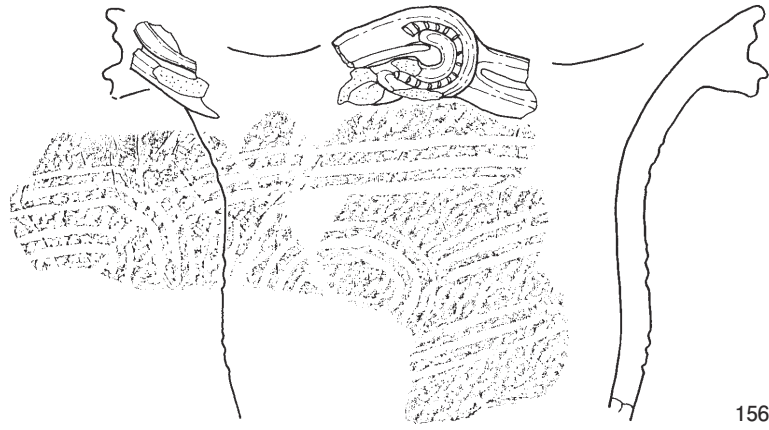
第 51 図 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



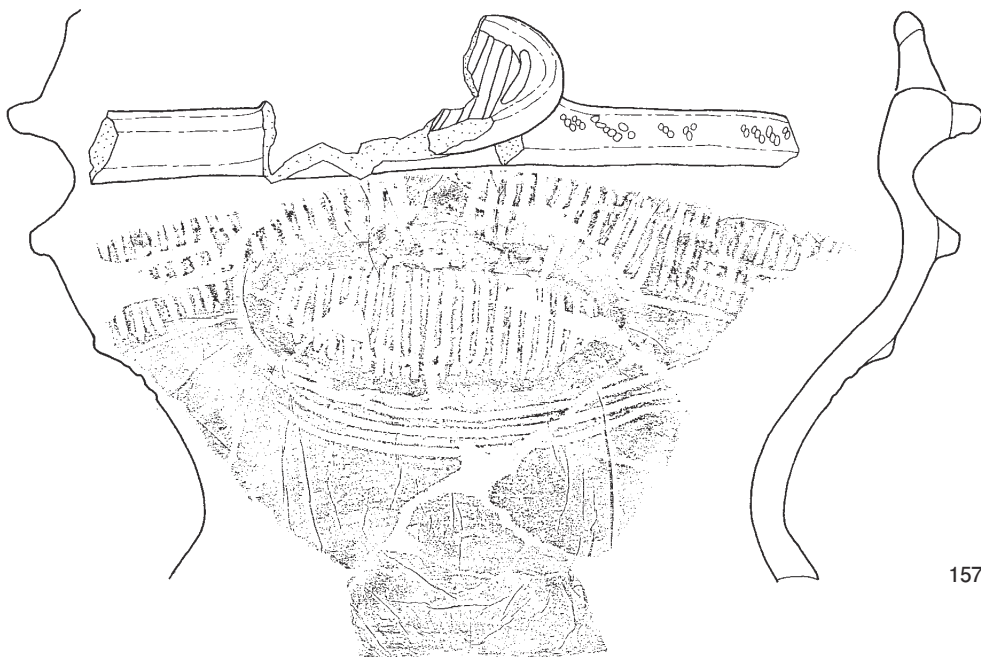
第 52 図 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 53 图 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (4)



156



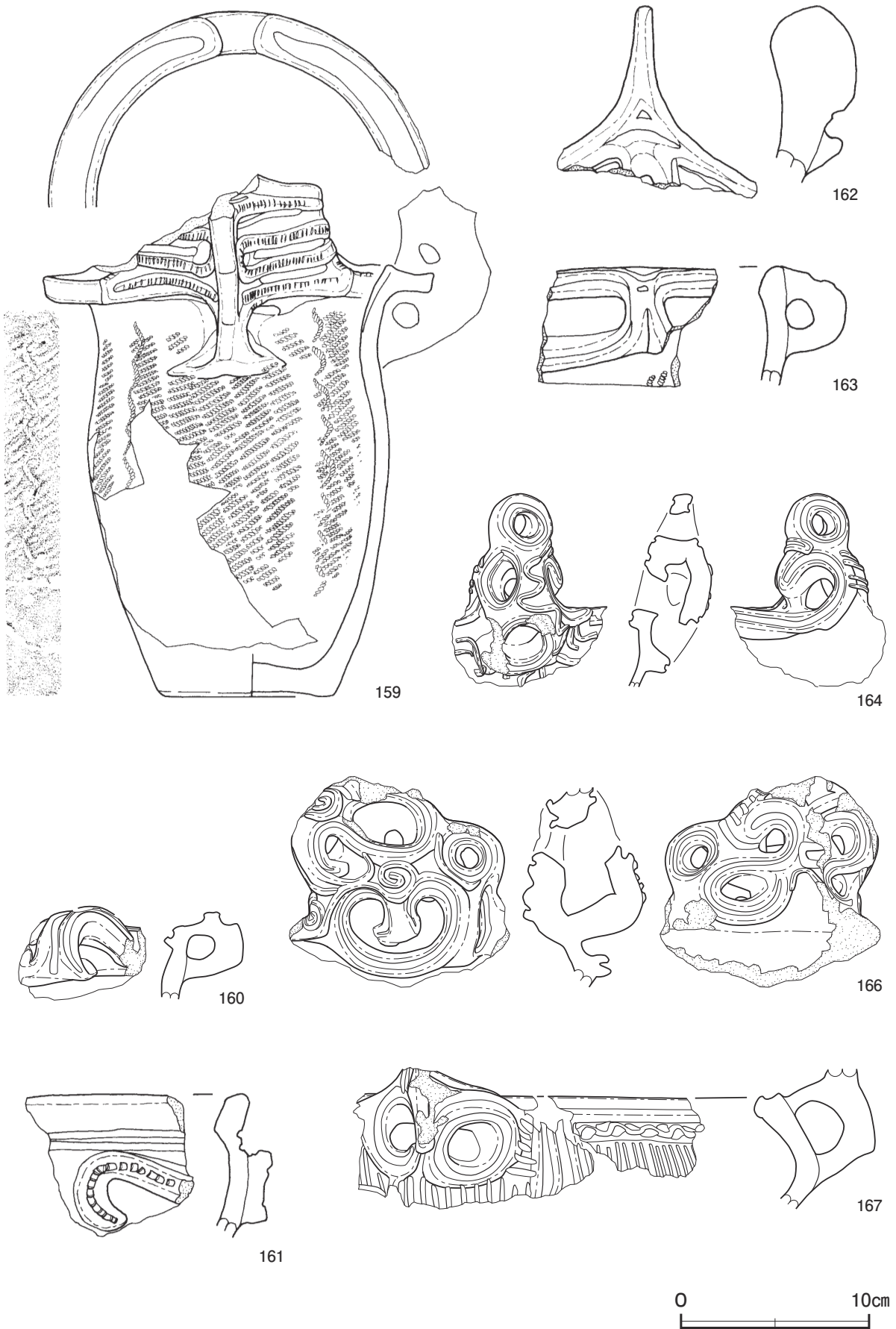
157



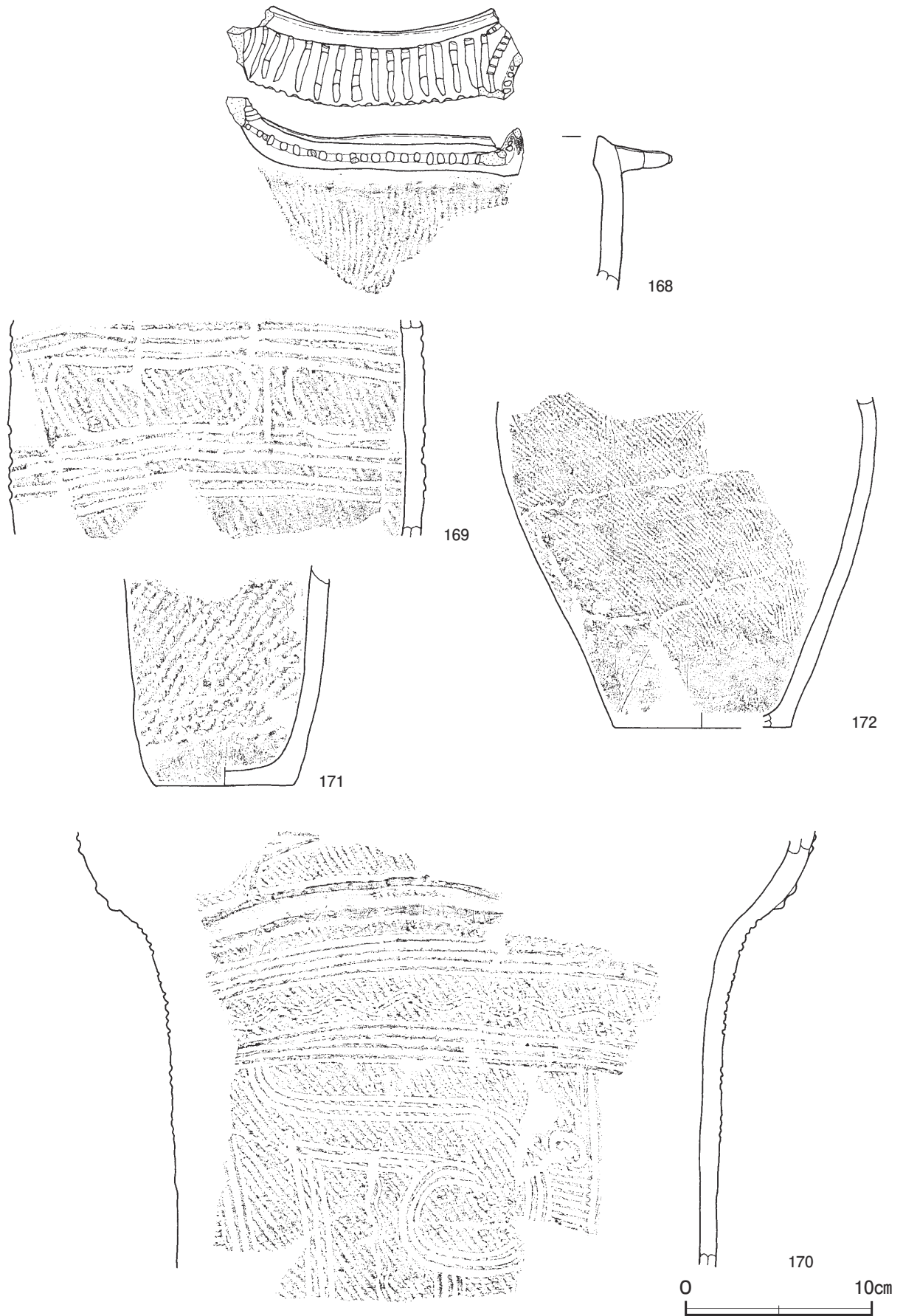
158



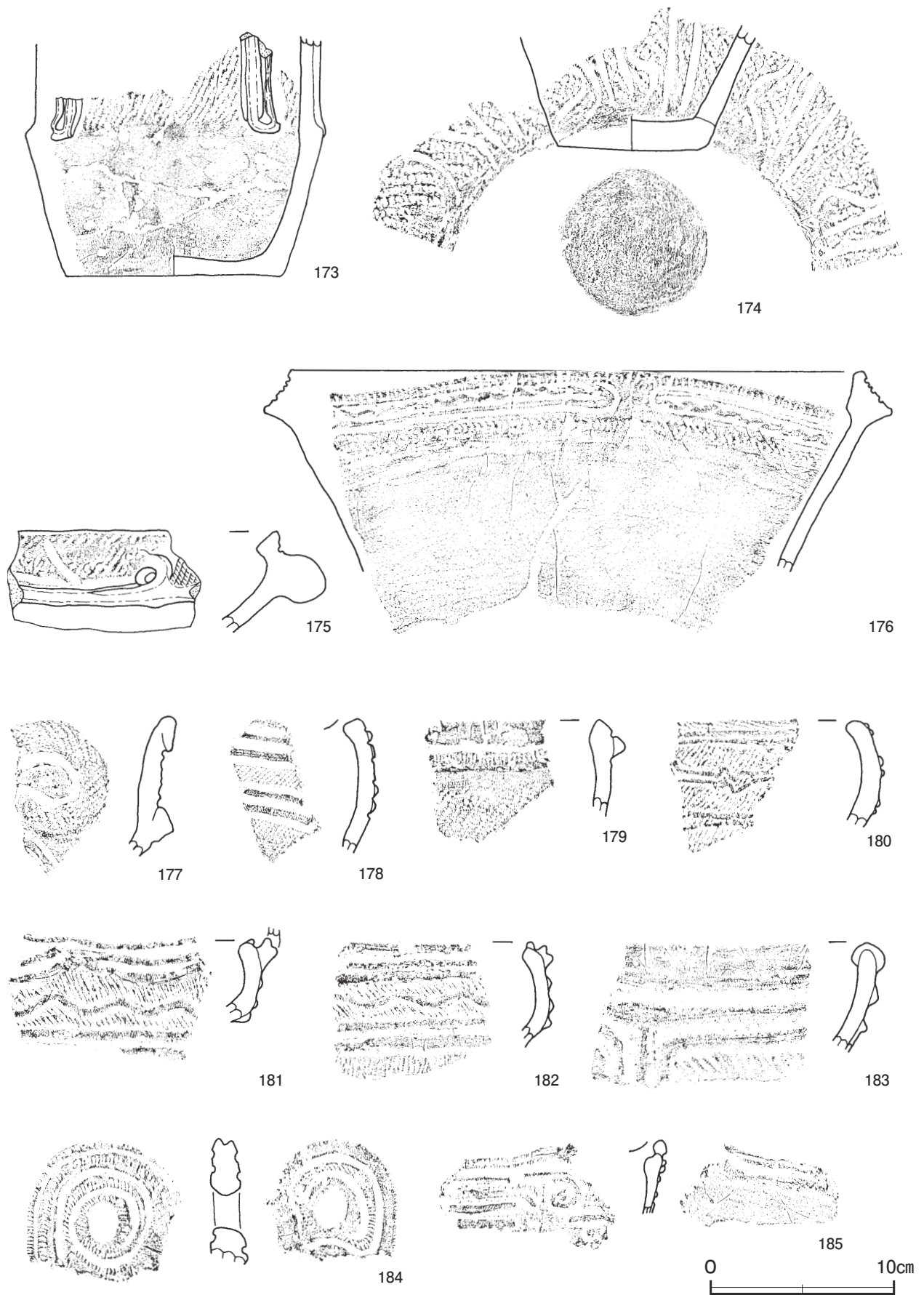
第 54 図 第 14 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (5)



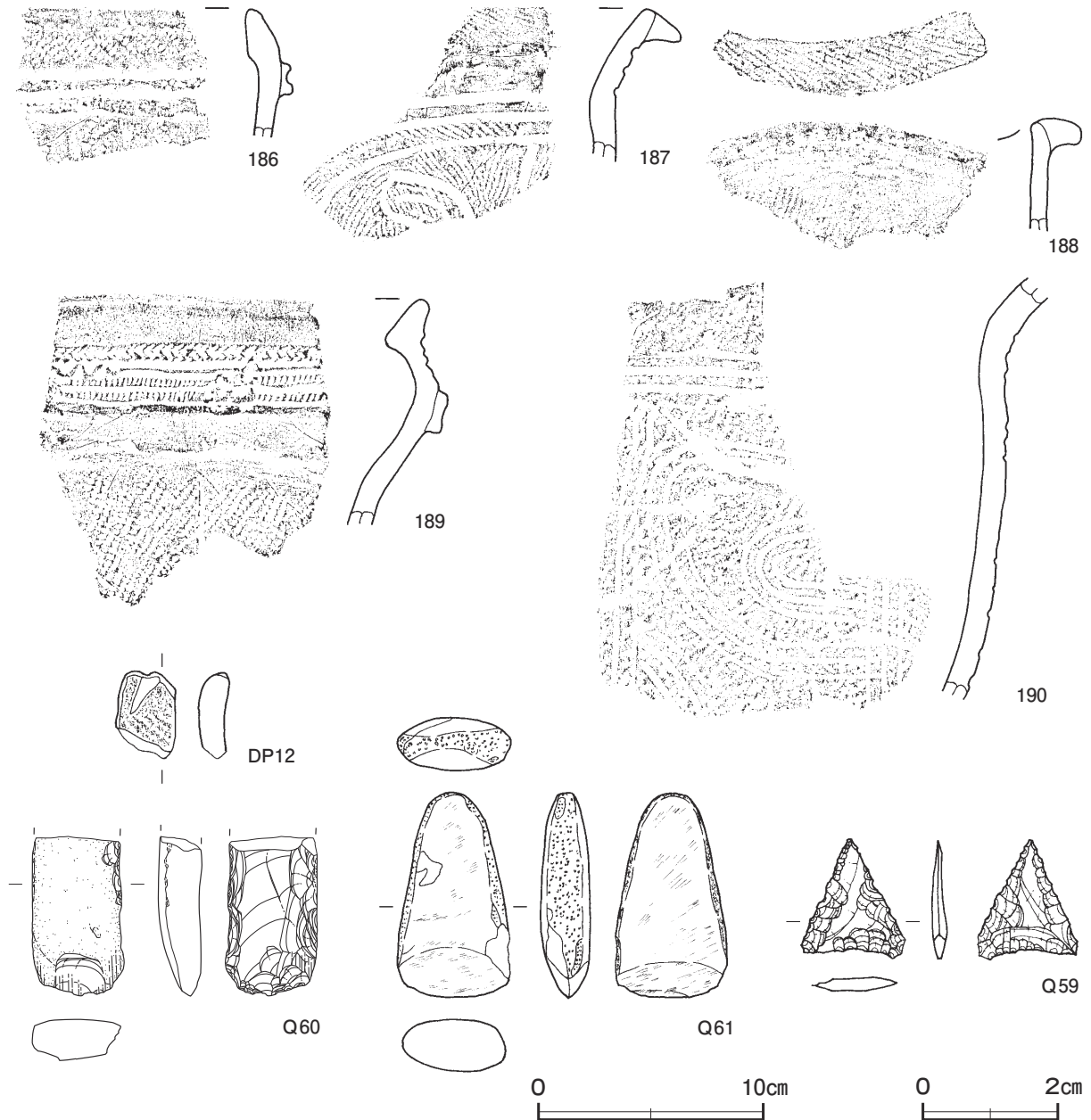
第55图 第14号竖穴建物跡出土遺物実測図(6)



第 56 図 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (7)



第57图 第14号竖穴建物跡出土遺物実測图(8)



第 58 図 第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (9)

第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 50 ~ 58 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
143	縄文土器	深鉢	28.8	(32.0)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁上部無文帯 地文に無節縄文 L (縦) 交互刺突文・並行沈線で文様を描画	覆土中層	80% PL107
144	縄文土器	深鉢	24.8	(30.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (縦・斜) 並行沈線による文様描画	覆土中層	90% PL107
145	縄文土器	深鉢	[21.2]	(21.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯により口縁部文様を描画 中空の把手貼付口縁部交互刺突による連続波状文 口縁以下無節縄文 R (横)	覆土中層	30% PL108
146	縄文土器	深鉢	[34.5]	(35.9)	-	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	口縁上部低い無文帯 背割れ隆帯により文様描画 0 段多条縄文 RL (縦)	覆土中層	30% PL108
147	縄文土器	深鉢	18.3	(23.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部に太沈線 口縁部単節縄文 RL (縦) 隆帯による文様描画 頸部は半截竹管による 7 本の並行沈線で区画	覆土中層	50% PL107
148	縄文土器	深鉢	[19.2]	(21.5)	-	長石・石英・雲母・小礫	にぶい赤褐	普通	口縁部細隆帯により変形クランク文 背割れ隆帯により口縁部を区画 地文に無節縄文 L (縦) 隆帯は平行線文 波状文が一巡 頸部は半截竹管による 7 本の並行沈線で区画	覆土中層	25% PL108
149	縄文土器	深鉢	23.1	(26.0)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口唇頂部に平直面 太沈線 背割れ隆帯による渦巻文等描画 頸部に弧線文 4 本の沈線による文様描画 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	40% PL107
150	縄文土器	深鉢	26.4	(27.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	2 条の隆帯による文様描画 地文に単節縄文 LR (縦)	覆土下層	40% PL108

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
151	縄文土器	深鉢	[21.8]	(13.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	中空の把手 沈線による楕円区画と交互刺突による連続波状文 地文に単節縄文 RL (横)	覆土中層	10% PL109
152	縄文土器	深鉢	[21.4]	(10.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 細隆帯により区画文・クランク文 頸部は3本の並行沈線	覆土中層	20% 二次焼成
153	縄文土器	深鉢	[22.0]	(17.0)	-	長石・石英・雲母・赤色斑点	にぶい橙 灰褐	良好	口唇頂部に平坦面 沈線と連続刺突文 単節縄文 RL (縦) 頸部に4本の並行沈線が巡る	覆土中層	20%
154	縄文土器	深鉢	[26.0]	(15.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯による区画文 区画内隆帯による波状文 頸部は並行沈線と波状文で区画	覆土下層	20%
155	縄文土器	深鉢	[28.1]	(15.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空の把手 地文に0段多糸縄文 RL (縦) 1条の隆帯により口縁部を区画 胴部は並行沈線と波状文	覆土中層	10% PL109
156	縄文土器	深鉢	[25.7]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	背割れ隆帯により口縁部文様を描画 1段多糸縄文 RL (縦) 3本単位の沈線による文様描画	覆土下層	20% PL109
157	縄文土器	深鉢	[33.0]	(23.8)	-	長石・石英・雲母・細礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部肥厚 肥厚部に単節縄文 RL (横) 隆帯による文様描画 隆帯内沈線を充填 隆帯に沿って3本の弧線文 頸部以下無文	覆土上層	15% PL108
158	縄文土器	浅鉢	[48.0]	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部肥厚で無文 縦位の条線と横位の沈線で格子目文 外・内面横方向の磨き	覆土中層	20% PL109
159	縄文土器	深鉢	20.5	27.8	9.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口唇頂部幅広の平坦面 隆帯による楕円区画 0段多糸縄文 RL の結節縄文 (縦) 4条のキザミ目隆帯	覆土中層	80% PL107
160	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	把手外面は2条の背割れ隆帯により文様描画 内面に隆帯による渦巻文	覆土中	
161	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部無文 2本の沈線 隆帯による横S字状文 隆帯上に節沈線	覆土中層	
162	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面に張り出す把手 隆帯により文様描画	覆土中層	内面剥落
163	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇頂部に三角形の張り出し部 中空の把手貼付 把手に沿って沈線 単節縄文 RL (縦)	覆土中	
164	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	4か所穿孔 外・内面とも穿孔に沿って太沈線 穿孔間は細隆帯により蛇行文・並行線文	覆土中層	PL109
166	縄文土器	深鉢	-	(11.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	10か所穿孔 把手に沿って沈線 細隆帯による渦巻文	覆土下層	PL109 二次焼成
167	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	中空の把手 交互刺突による波状文並行沈線により縦横に文様を描画	覆土中層	PL109
168	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・細礫・黒色粒子	にぶい黄褐	良好	口唇頂部に幅広の平坦面 沈線による平行線と有節沈線 地文に単節縄文 RL (横・斜)	覆土下層	
169	縄文土器	深鉢	-	(11.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 沈線による並行線 楕円区画を描画	覆土下層	10%
170	縄文土器	深鉢	-	(23.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部隆帯による文様描画 頸部並行沈線・波状文 0段多糸縄文 LR (縦) 胴部並行沈線による渦巻文・剣先文	覆土中層	PL108 10%
171	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	[7.6]	長石・石英	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中層	25% 二次焼成
172	縄文土器	深鉢	-	(17.7)	[9.5]	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	1段多糸縄文 LR (縦)	覆土下層	25%
173	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	[11.6]	長石・石英・雲母・赤色斑点	にぶい橙	普通	ソロバン玉状の底部 地文に0段多糸縄文 RL (縦) 縦位の隆帯貼付 胴下半部は無文	覆土中層	20% PL107
174	縄文土器	深鉢	-	(6.9)	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	良好	地文に単節縄文 RL (横) 並行沈線 蛇行文 底面は丁寧な磨き	覆土下層	
175	縄文土器	浅鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	鐙状の隆帯 部分的に渦巻状の把手を貼付 口縁部と隆帯上に無節縄文 R (縦)	覆土中	
176	縄文土器	浅鉢	[31.0]	(11.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上部連続爪形文 平坦面に沈線区画 区画内交互刺突文 外・内面横方向の磨き	覆土中層	25% PL109
177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	帯状の隆帯貼付 隆帯上に単節縄文 RL (横)	覆土中	
178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 隆帯による文様描画	覆土中	
179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 口縁上部にキザミ目隆帯	覆土中	二次焼成
180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	地文に撚糸文 (横) 細隆帯による文様描画	覆土中	
181	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇頂部に太沈線 口縁部は蛇行隆帯 頸部を背割れ隆帯で区画	覆土中	182と同一個体
182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇頂部に沈線 背割れ隆帯・蛇行隆帯で文様を描画 隆帯間斜条線 地文に撚糸文 (縦)	覆土中	181と同一個体
183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 隆帯による区画文	覆土下層	
184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	把手周縁部に沈線 把手外・内面とも沈線による渦巻文 沈線間にキザミ目	覆土中層	
185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に無節縄文 R (縦) 隆帯による区画文・渦巻文を描画	覆土中	
186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 背割れ隆帯 隆帯上にも縄文施文	覆土中	
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	口唇頂部に平坦面 平坦面に0段多糸縄文 RL (横) 口唇部以下同一原体 (縦・斜) 沈線文	覆土中層	
188	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇頂部に平坦面 平坦面に単節縄文 LR (横) 口唇部以下同一原体 (縦)	覆土中層	
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上部無文 ベン先状の連続刺突 交互刺突による波状文・条線文 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	PL109
190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に0段多糸縄文 RL (縦) 並行沈線により蛇行線文・楕円文を描画	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP12	土器片錘	(3.9)	2.7	1.3	(14.0)	長石・石英・雲母	灰黄褐	胴部片 一端にキザミ目 下部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 59	鎌	1.7	1.5	0.2	0.5	チャート	無茎鎌 両面丁寧な押圧剥離	覆土中層	PL161
Q 60	打製石斧	(7.1)	4.1	(1.9)	(83.6)	ホルンフェルス	撥形 片面に自然面 側縁部・刃部片面を敲打 基部欠損 平刃	覆土中	
Q 61	磨製石斧 未成品	9.1	5.0	2.3	158.4	変質ドレライト	表裏面粗雑に研磨 両側縁微細な敲打調整 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土上層	再利用 ₂

第 15 号竪穴建物跡 (第 59 ~ 61 図 PL 8)

位置 調査区東部の C 41l 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 561 号土坑と第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 耕作により攪乱を受けているが, 壁の残存状況やピットの配置から, 直径 4.60 m ほどの円形と推定できる。壁は高さ 20 ~ 26cm で, 緩やかに傾斜している。

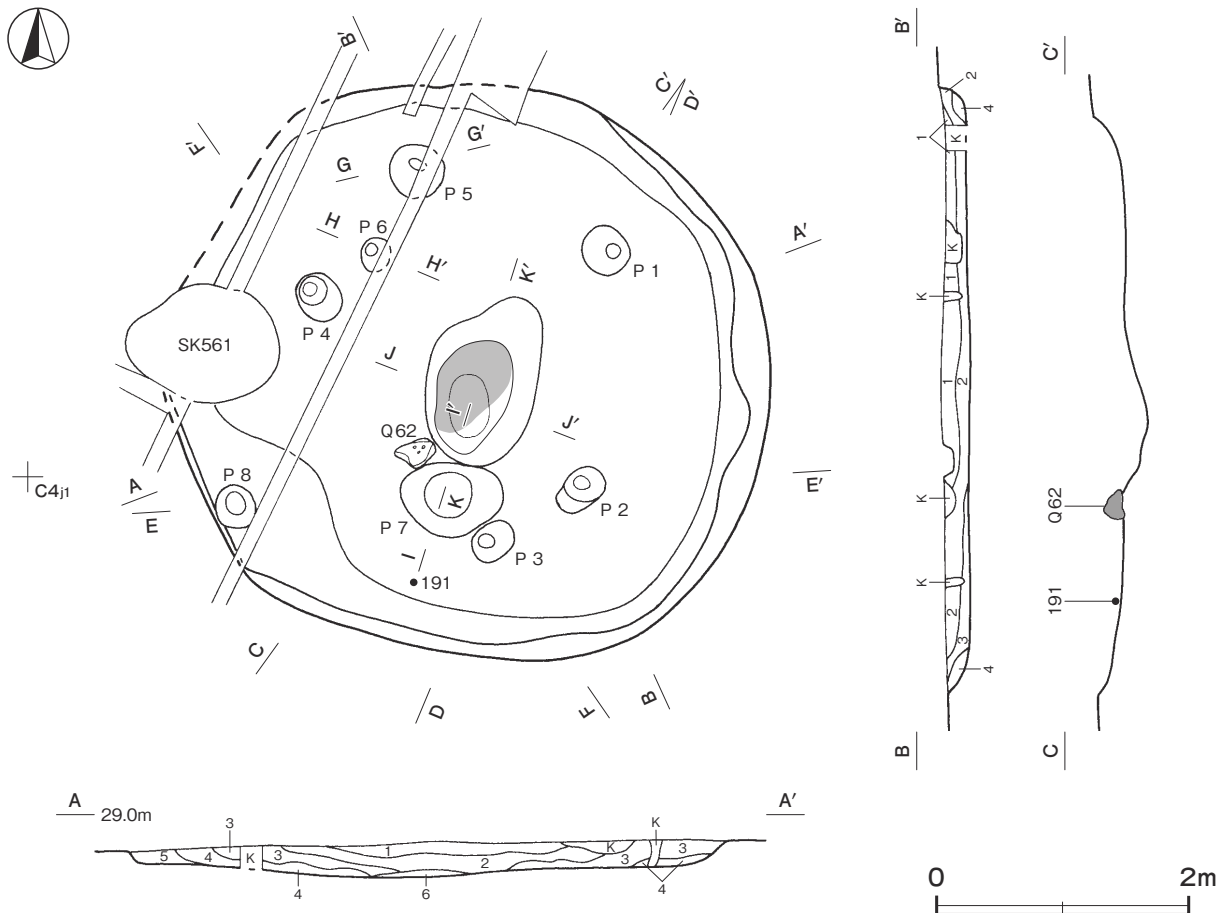
床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長軸 130cm, 短軸 90cm の楕円形で, 床面を 10cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

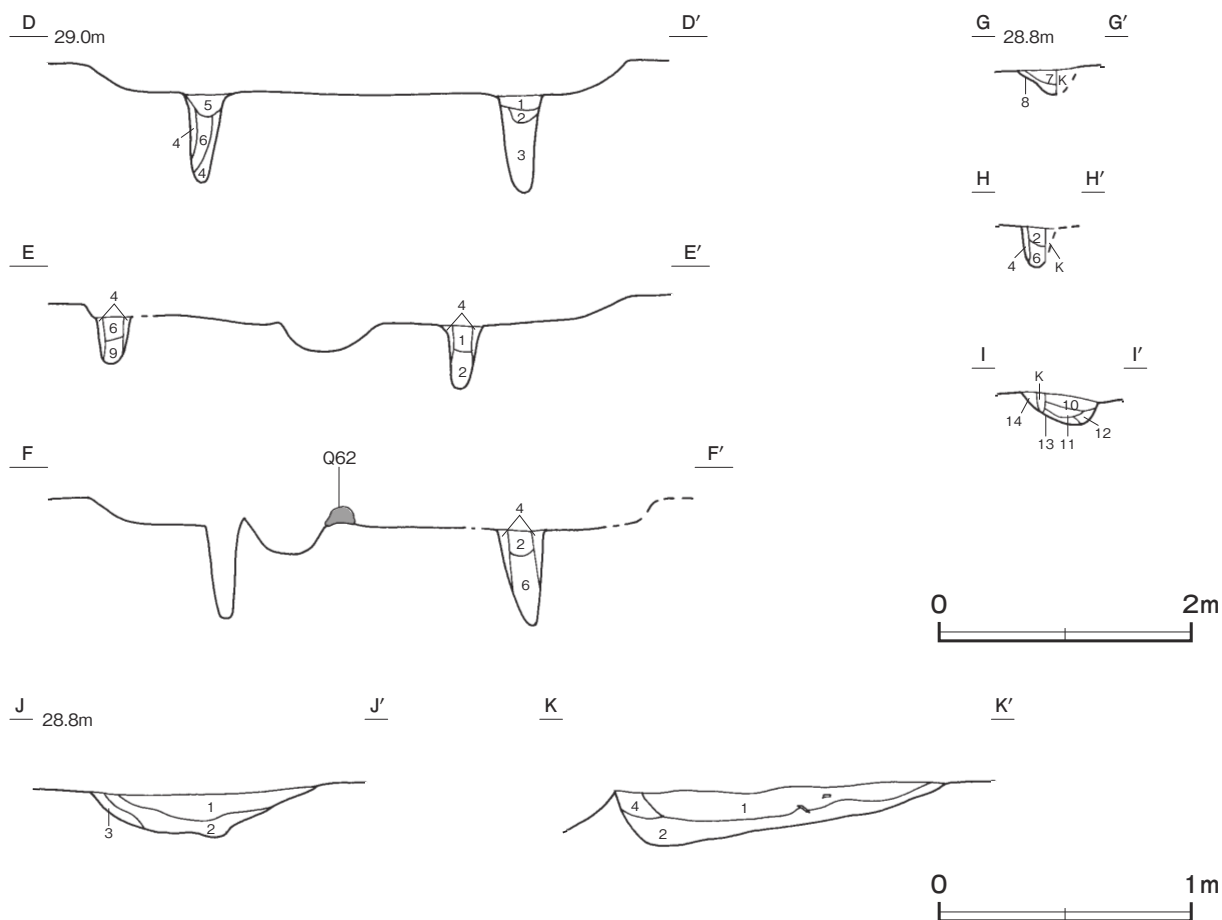
炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 8か所。P 1 ~ P 4 は深さ 50 ~ 80cm で, 配置から支柱穴である。P 5・P 6 は深さ 30cm 前後で, 補助柱穴と考えられる。P 7 は炉の南側に位置し, 深さ 25cm である。底面は皿状で, 壁は緩やかに傾斜している。



第 59 図 第 15 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 60 図 第 15 号竪穴建物跡実測図 (2)

焼土粒子や炭化粒子が混入していることから、灰溜めとしての機能が考えられる。P 8 は深さ 36cm で、性格は不明である。

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 |

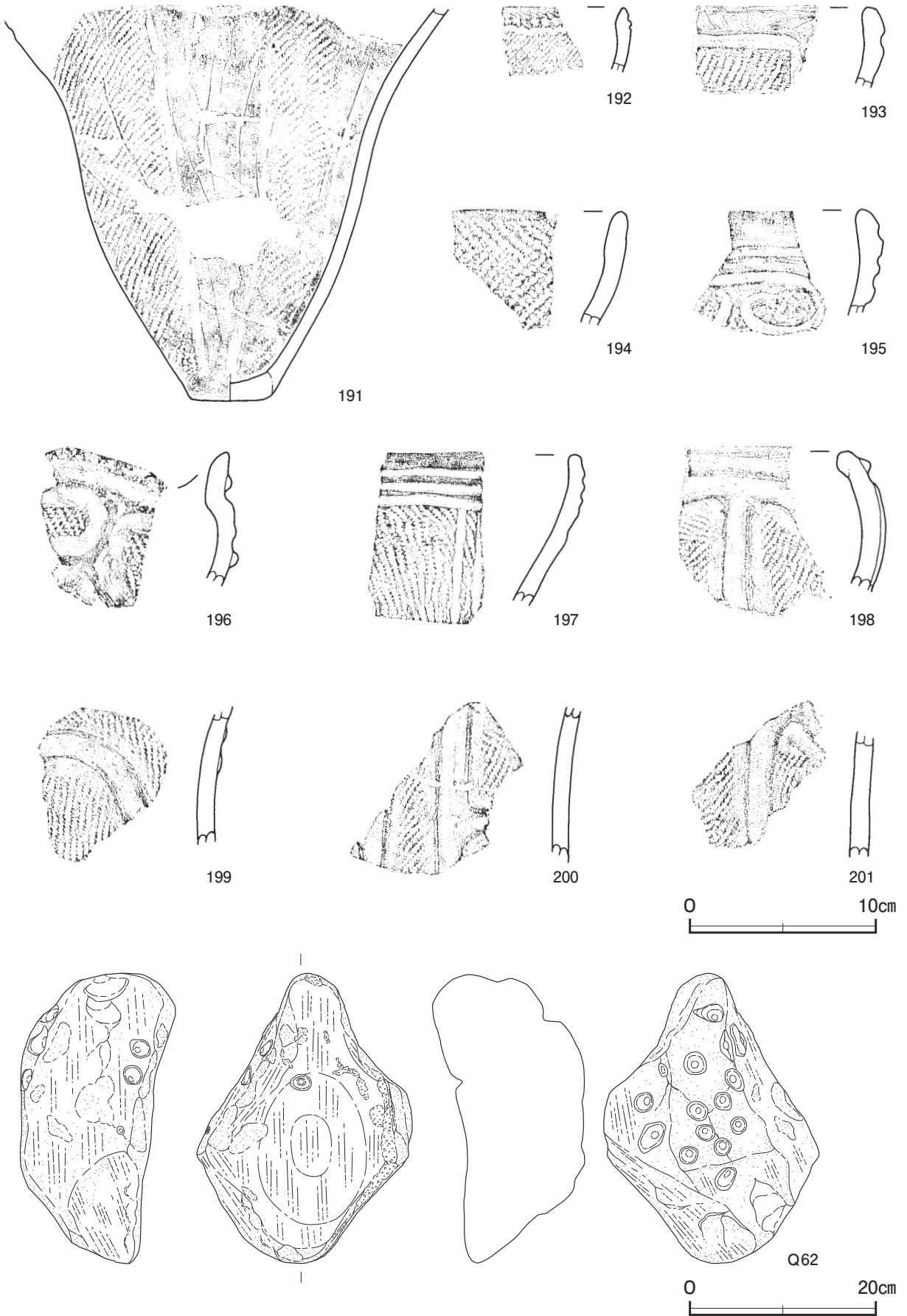
覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 693 点（深鉢），石器 1 点（砥石），剥片 6 点（瑪瑙 4，石英 1，安山岩 1）が出土している。191 は南部，Q 62 は炉の南西側の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。192～201 は、覆土中から散乱した状態で出土しており、埋没過程で投棄されたもの、あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 61 图 第 15 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第 15 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
191	縄文土器	深鉢	-	(21.2)	4.3	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 沈線区画の幅広の磨消縄文が垂下	床面	60% PL109 内面炭化物・霰付着
192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上部に単節縄文 RL (横) 有節沈線 波状沈線を巡らす 口縁下は同一原体による縦施文	覆土中	
193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 太沈線で方形の区画文を描画	覆土中	
194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁直下に単節縄文 RL (横) を一巡させ文様帯を構成 以下同一原体で縦方向に施文	覆土中	
195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) を施文 太沈線で楕円文 並行線文を描画	覆土中	
196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (横) を施文 隆帯貼付 太沈線で文様描画	覆土中	
197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦・斜) を施文 口縁部 3本の太沈線が一巡 沈線直下から 2本の懸垂文	覆土中	
198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL をランダムに施文 隆帯貼付 太沈線で文様描画	覆土中	
199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) を施文 2条の隆起帯により文様描画 隆起帯内外磨消	覆土中	200・201と同一個体
200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) を施文 2条の隆起帯により文様描画 隆起帯内外磨消	覆土中	199・201と同一個体
201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) を施文 2条の隆起帯により文様描画 隆起帯内外磨消	覆土中	199・200と同一個体

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q 62	砥石	31.2	23.2	16.7	10.8	砂岩	表面中央部皿状の砥面 凹み痕 3か所 裏面に凹み痕 15か所 凹みは全体的に深い 側縁全体砥面	床面	PL175

第 16 号竪穴建物跡（第 62・63 図 PL 8・9）

位置 調査区中央部西寄りの C 3 f1 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 12・13 号竪穴建物、第 474・542・549 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の重複が激しいが、壁の残存状況やピットの配置から、長径 4.92 m、短径 4.15 m の楕円形で、長径方向は N - 35° - W と推定できる。壁は高さは 8 cm で、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径 80cm、短径 60cm の楕円形の石囲い炉であり、西半部には 14 個の炉石が残存しており、東部には抜き取り痕が確認できた。西部は残存状態が良好で、石組みが 2 列に構築されている。炉石はほとんどが自然礫であるが、南部の一部には石皿（Q 65）が転用されている。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 6か所。P 1 は深さ 70cm、P 2 は深さ 160cm とかなり深い、P 3 は深さ 50cm、P 4・P 5 は深さ 20cm、P 6 は深さ 30cm である。ピットの配列に規則性が見い出せないが、深さや位置から考えて、P 1～P 3 が支柱穴、P 4～P 6 が補助柱穴と考えられる。土層はいずれも柱抜き取り後の堆積である。

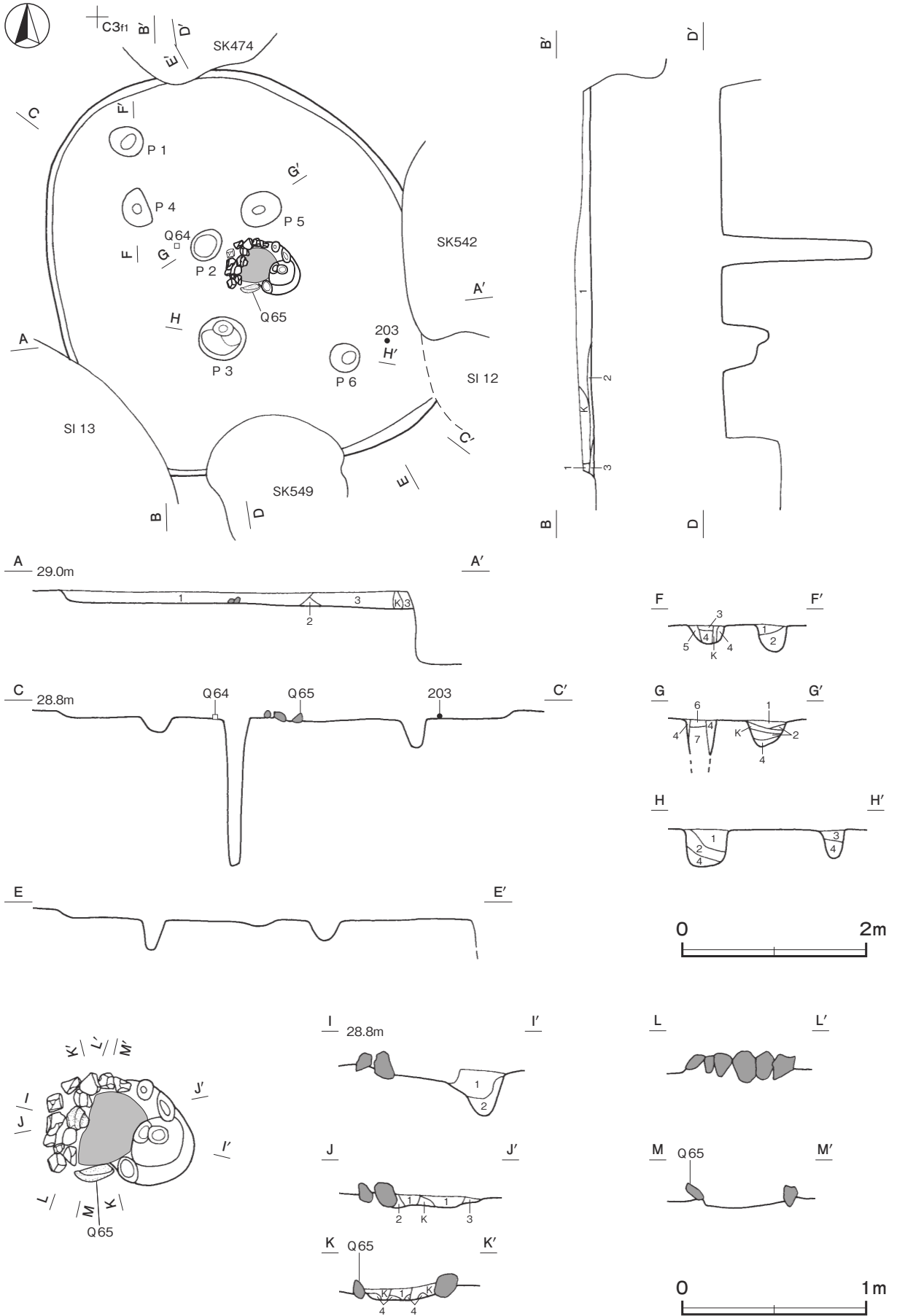
ピット土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック微量 | |

覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため明確でないが、黒褐色土が均一に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

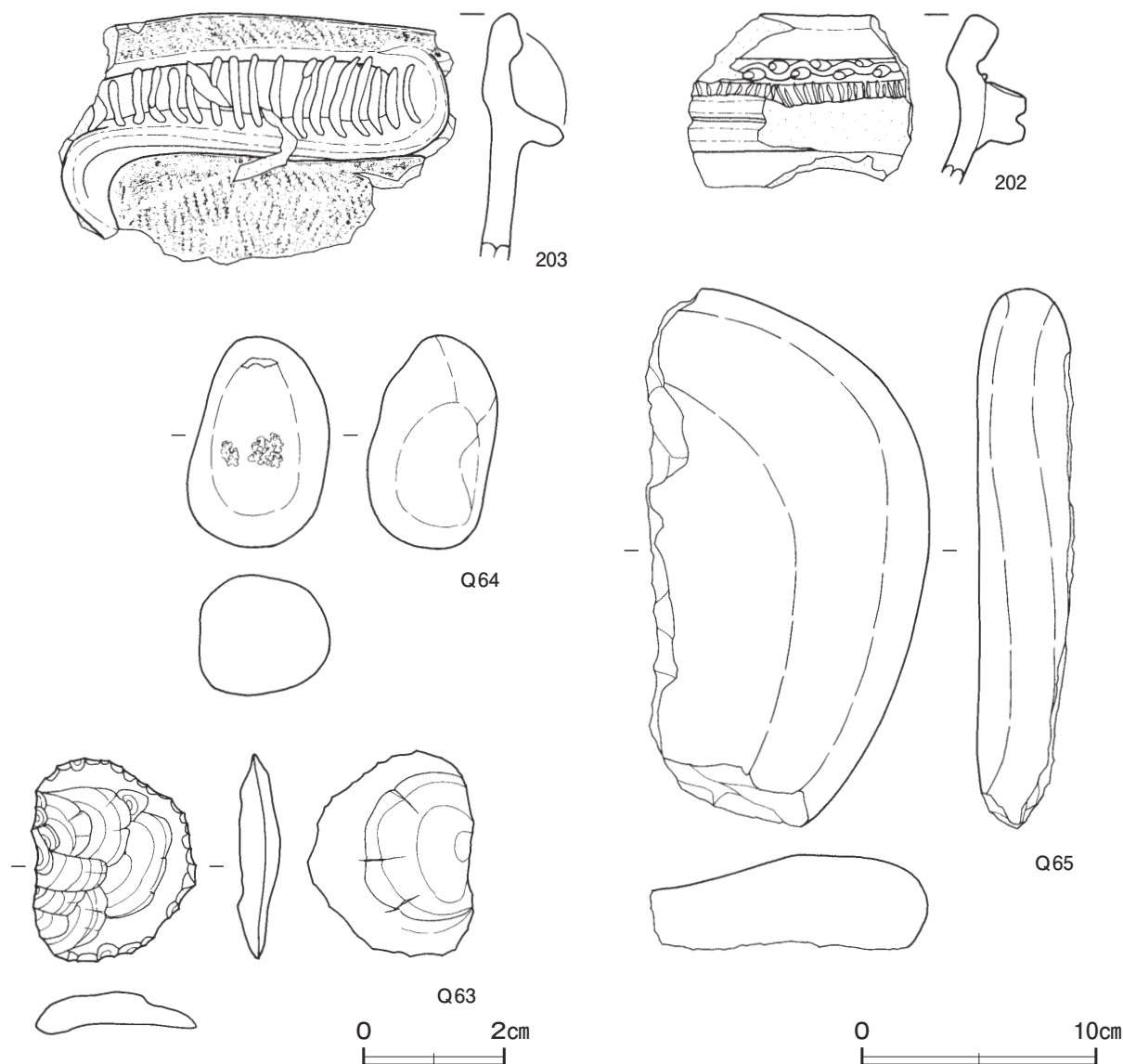
土層解説

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | |



第 62 图 第 16 号竖穴建物跡实测图

遺物出土状況 縄文土器片 206 点 (深鉢), 石器 16 点 (スクレイパー 1, 敲石 1, 炉石 14), 剥片 1 点 (石英) が出土している。203・Q 64 は床面から出土している。Q 65 は, 石囲い炉の炉石で, 石皿を転用している。
所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 63 図 第 16 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 63 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
202	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部交互刺突文と条線文。背割れ隆帯により口縁部を区画。外・内面とも横方向の磨き	覆土中	PL110
203	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部隆帯上に単節縄文 LR (縦) 鏽状の隆帯による横 S 字文。隆帯間に太沈線。胴部 (斜)	床面	10% PL110

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 63	スクレイパー	2.9	2.4	0.6	4.1	石英	周縁部押圧剥離	覆土中	
Q 64	敲石	9.1	6.1	5.6	412.5	チャート	表面に敲打痕	床面	PL171
Q 65	炉石	23.0	12.1	4.2	1460.2	砂岩	石皿転用 表面皿状 裏面剥離	炉	PL178

第 17 号 竪穴建物跡 (第 64 ~ 66 図 PL 9)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 h1 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 25 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 546 号 土坑に掘り込まれている。

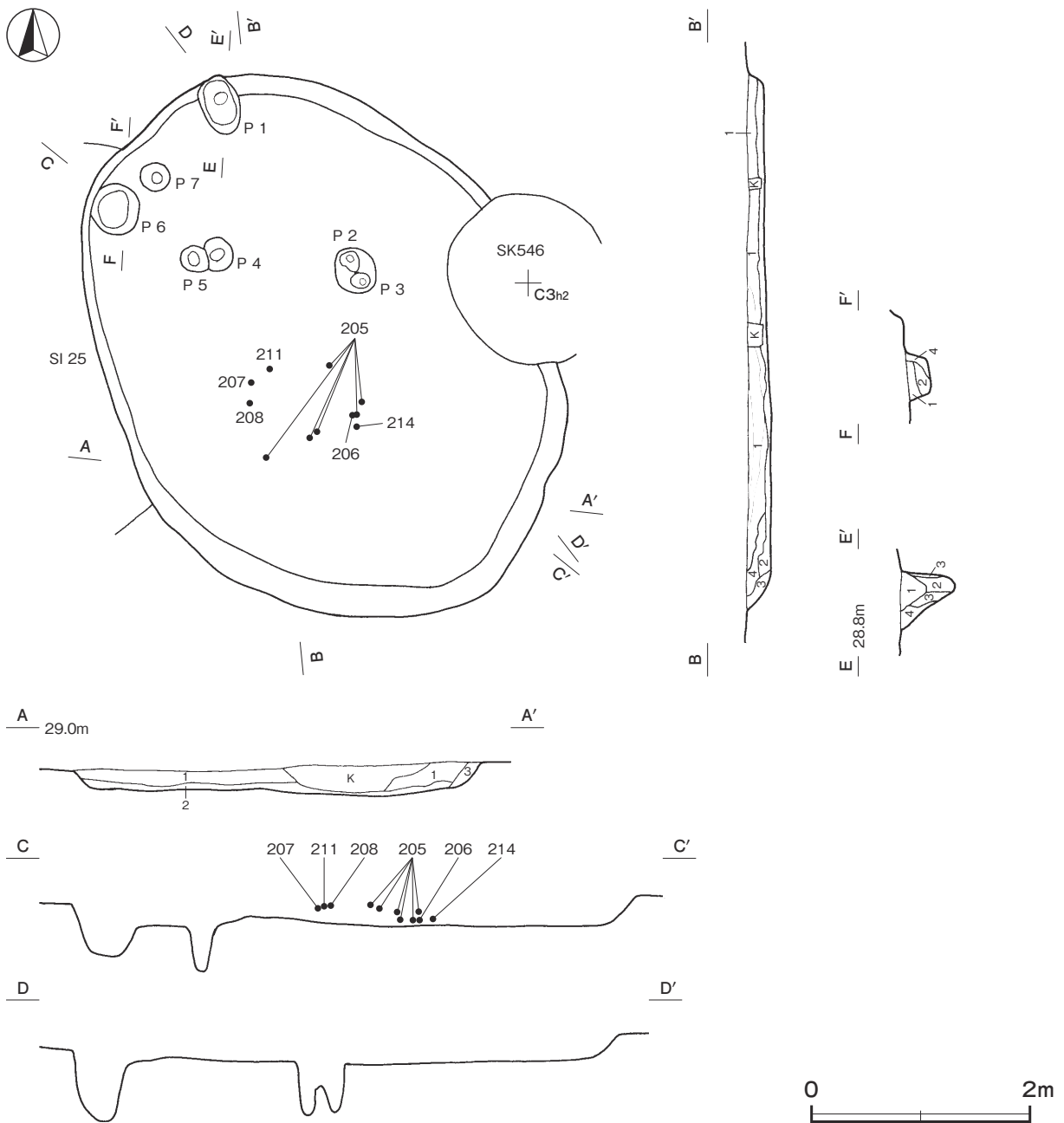
規模と形状 長径 5.30 m, 短径 4.00 m の楕円形で, 長径方向は N - 32° - W である。壁は高さ 14 ~ 25cm で, 緩やかに傾斜している。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は確認できなかった。

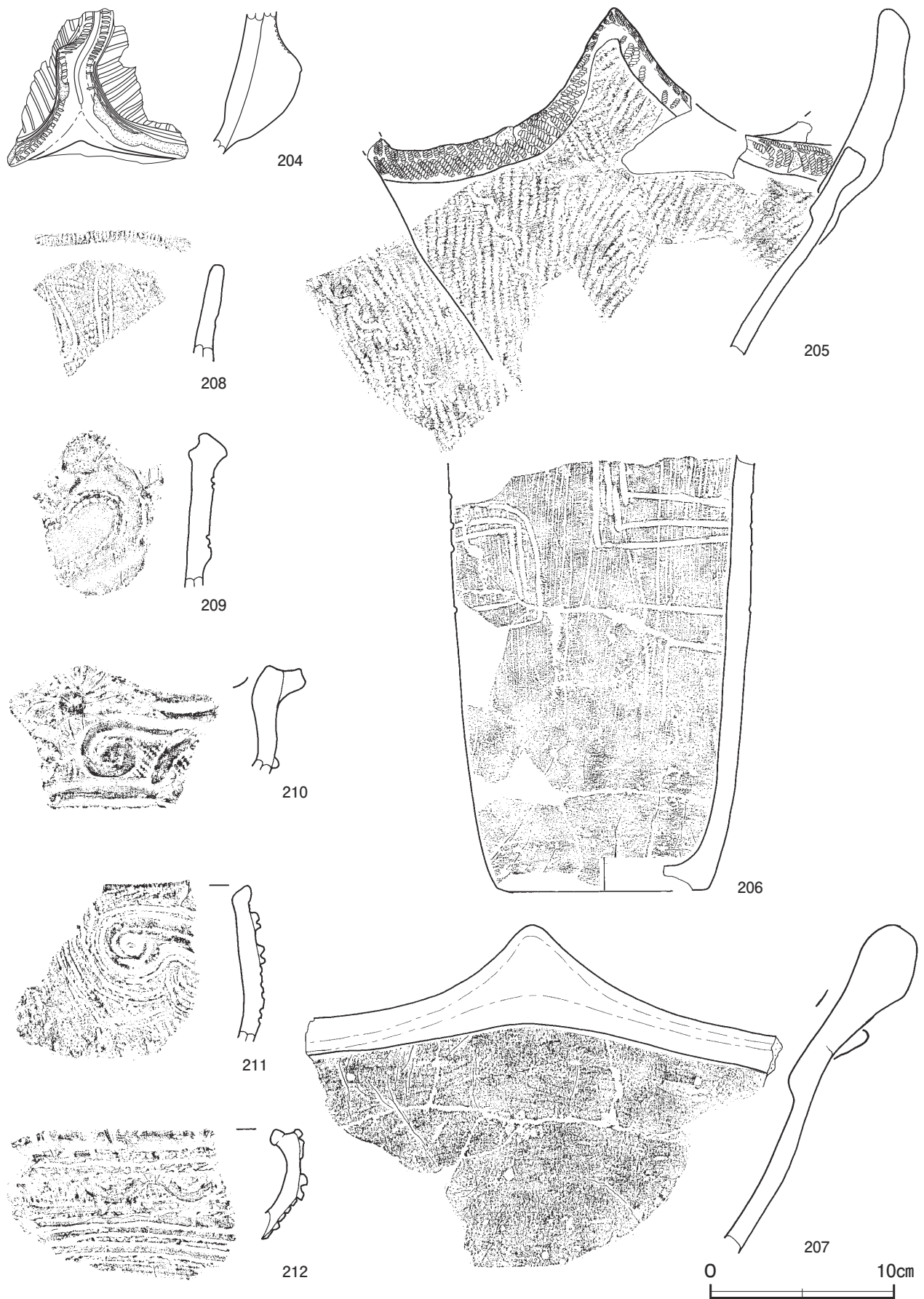
ピット 7 か所。P 1 ~ P 6 は深さ 30 ~ 60cm で, 配置から支柱穴と考えられる。P 2・P 3, P 4・P 5 は重複しており, 立て替えられた可能性がある。P 7 は深さ 20cm で, 補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

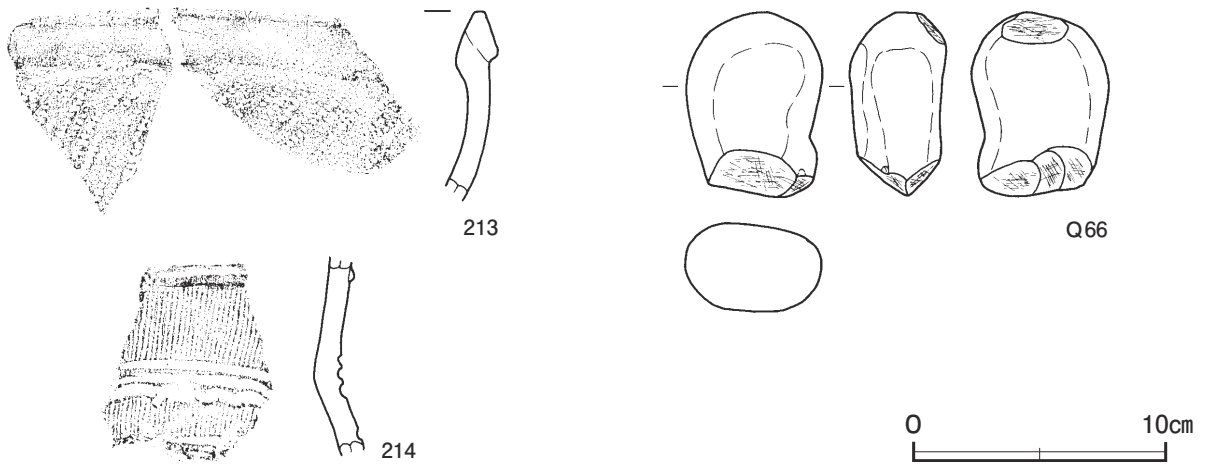
- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |



第 64 図 第 17 号 竪穴建物跡実測図



第 65 图 第 17 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 66 図 第 17 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
- 3 黄褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 389 点（深鉢 387，浅鉢 2），石器 2 点（敲石，敲砥石），石核 2 点（石英，瑪瑙），剥片 1 点（石英）が出土している。206・214 は南東部の床面から，205 は中央部の覆土下層から床面にかけて散乱した状態で，207・208・211 は，中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。まとまった範囲から出土していることから，埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 65・66 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
204	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良好	幅広の隆帯に沿ってキザミ目 隆帯側面にペン先状の刺突と沈線 区画内斜の条線	覆土中	
205	縄文土器	深鉢	27.8	(19.1)	-	長石・石英・雲母・黒色斑点・細礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	波頂部に縦長の隆起帯 口唇頂部及び口唇部に 0 段多糸縄文 RL (横) 口唇直下から同一原体による縦施文 部分的に縦位の結節縄文	覆土下層 ~床面	50% PL110
206	縄文土器	深鉢	-	(23.7)	[11.6]	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	地文に縦位の条線文 沈線による区画文 胴下半部無文	床面	30% PL110
207	縄文土器	浅鉢	-	(18.1)	-	長石・石英・雲母・赤色斑点	にぶい黄橙	良好	無文 口唇部肥厚 内側に段 外・内面とも横方向の磨き	覆土下層	10% PL110
208	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	把手周縁にキザミ目 地文に単節縄文 RL をランダムに施文	覆土下層	
209	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	隆帯による区画 隆帯に沿って並行有節沈線を施文	覆土中	
210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 隆帯による渦巻文	覆土中	
211	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部単節縄文 LR (横) 胴部 (縦) 背割れ隆帯による渦巻文 隆帯上に縄文施文 渦巻を中心に半截竹管による弧文を描画	覆土下層	
212	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇頂部平坦面 太沈線が一巡 口縁部に捺糸文 隆帯による蛇行文・並行線文 口縁下は半截竹管による 3 本の並行線文が巡る	覆土中	
213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部無文 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中	
214	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に捺糸文 隆帯・並行沈線・波状沈線が一巡	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 66	敲砥石	7.3	5.4	3.8	222.4	チャート	楕円礫の両端に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL171

第 18 号 竪穴建物跡 (第 67・68 図 PL 9)

位置 調査区南西部の C 2j0 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 322・563 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 4.72 m, 短径 3.83 m の楕円形で, 長径方向は N - 19° - W である。壁は高さ 10 ~ 18cm で, 緩やかに傾斜している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

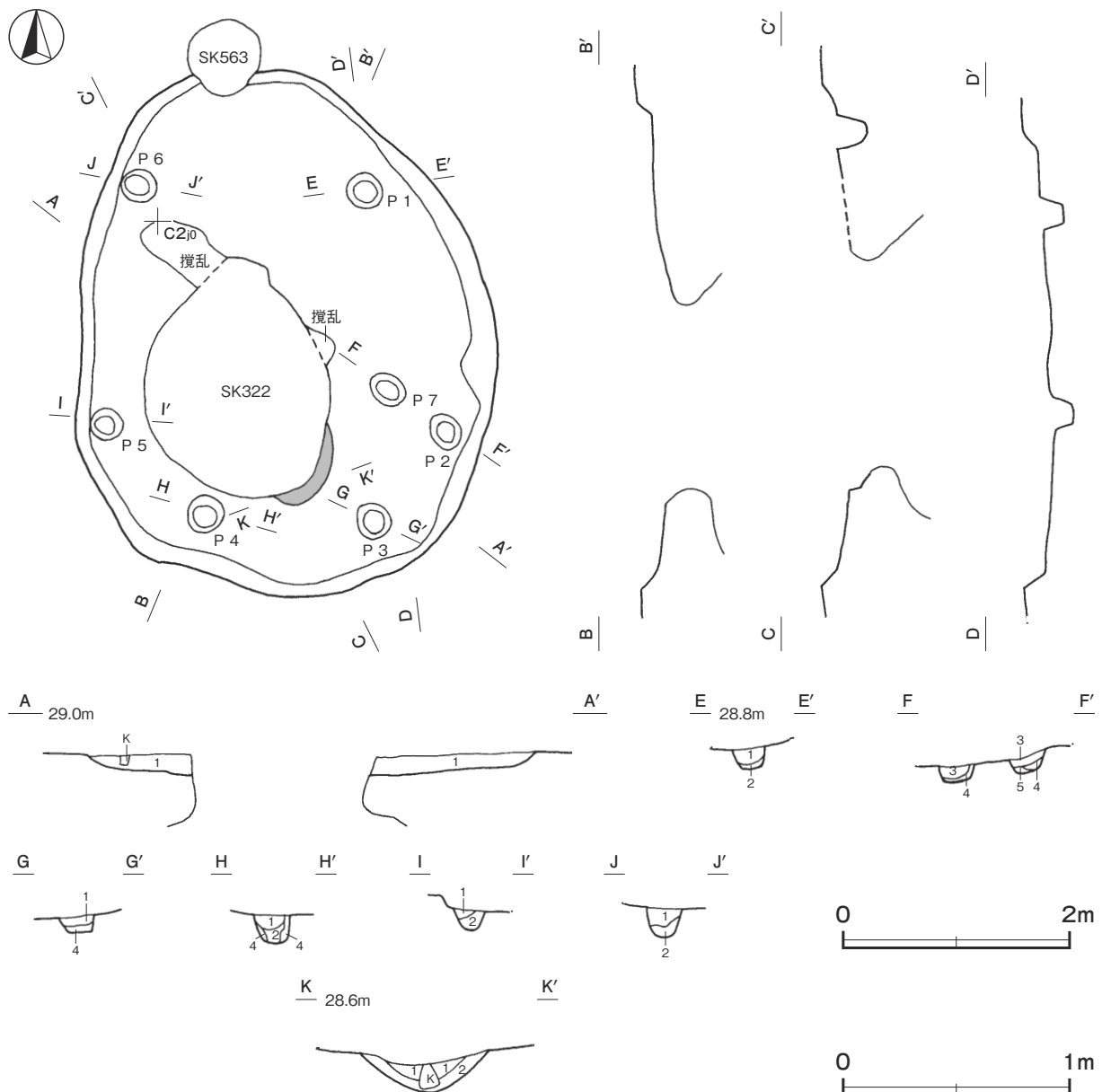
炉 南部に付設されている。第 322 号土坑に掘り込まれているため詳細は不明であるが, 地床炉である。

炉土層解説

1 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 7 か所。P 1 ~ P 6 は, 深さ 16 ~ 25cm で, 配置から支柱穴である。P 7 は深さ 14cm で, 補助柱穴と考えられる。



第 67 図 第 18 号 竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 におい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

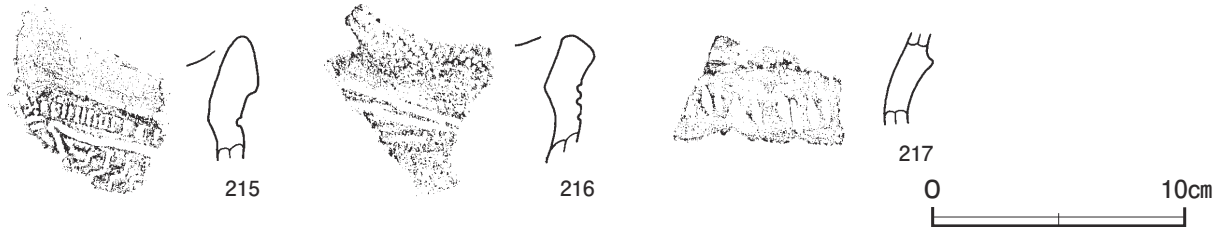
覆土 単一層である。ローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 106 点 (深鉢 105, 浅鉢 1), 自然礫 3 点 (砂岩) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 68 図 第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 68 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部肥厚 内波状沈線 キャタピラ文と沈線で区画 区画	覆土中	
216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい黄褐	普通	口唇部肥厚 並行沈線による区画文 口唇頂部に単節縄文 RL (横)	覆土中	
217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	横位の断面三角形の隆帯貼付 幅広の爪形文が巡る	覆土中	

第 19 号竪穴建物跡 (第 69・70 図 PL10)

位置 調査区中央部東寄りの C 3 h0 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作により攪乱を受けているため, 詳細は不明であるが, 床面の残存状況やピットの配置から, 長径 5.77 m, 短径 5.20 m の楕円形で, 長径方向は N - 3° - E と推定できる。壁は攪乱により確認できなかった。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部が攪乱を受けているが, 残存している焼土や炉床の範囲から, 長径 80cm, 短径 50cm の楕円形で, 床面を 7cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は, 火熱を受けて赤変硬化している。

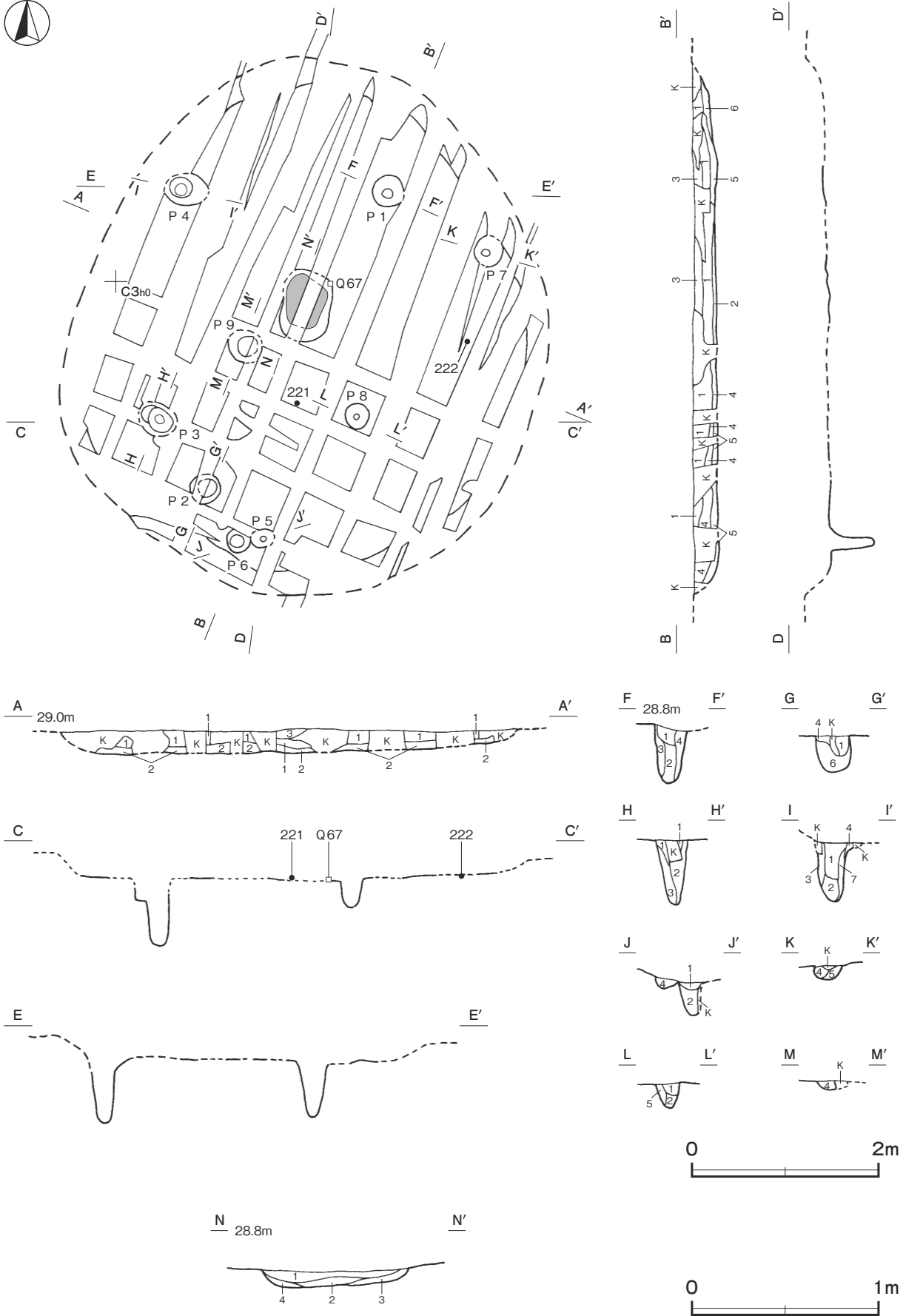
炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

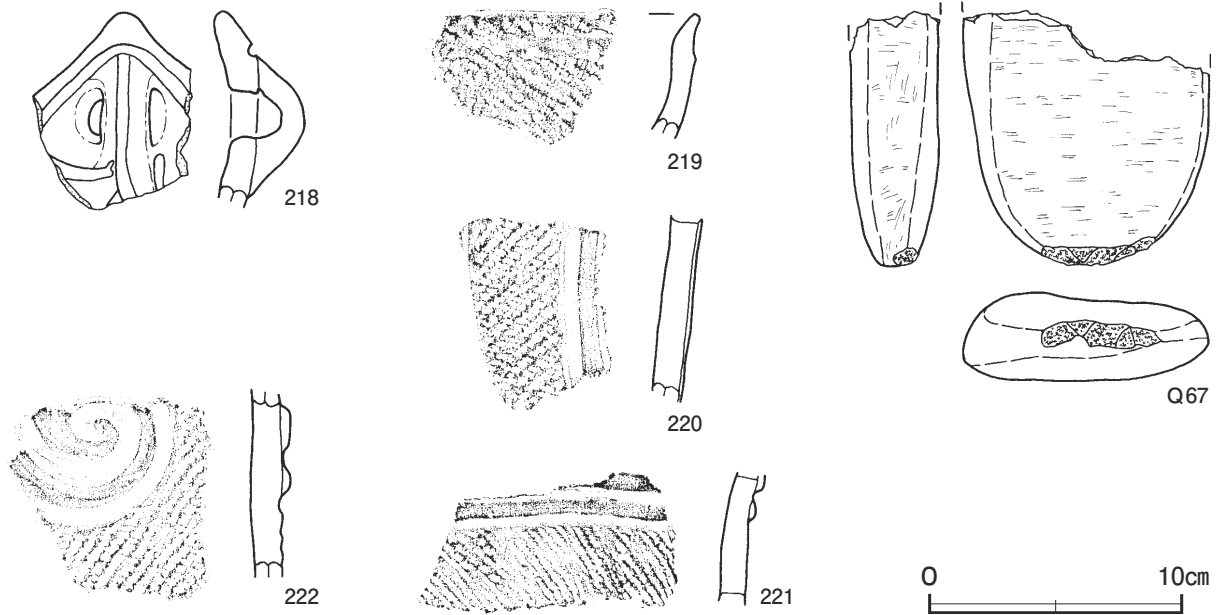
ピット 9 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 40 ~ 70cm で, 規模と配置から支柱穴である。P 5 は深さ 36cm で, 出入口施設に伴う柱穴と考えられる。P 6 ~ P 9 は深さ 10 ~ 20cm で, 補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |



第 69 图 第 19 号竖穴建物跡実测图



第 70 図 第 19 号竪穴建物跡出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 360 点（深鉢 353, 浅鉢 7）, 石器 1 点（磨石）, 石核 3 点（瑪瑙）, 剥片 3 点（石英, 泥岩, 瑪瑙）が出土している。222 は東部, 221 は中央部, Q 67 は炉の北側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 19 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 70 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
218	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	中空の把手 中央部を沈線で区切り把手に沿って沈線	覆土中	
219	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部指頭による太沈線が一巡 0段多条縄文 RL (横・縦)	覆土中	
220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 隆帯に沿って指頭による成形	覆土中	222と同一個体。
221	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 2条の隆帯が一巡	床面	
222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による渦巻文 隆帯に沿って沈線 地文に単節縄文 RL (縦)	床面	220と同一個体。

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 67	磨石	(10.1)	(9.7)	3.5	(482.7)	安山岩	表裏・片側縁に研磨痕 先端部に微細な敲打痕	床面	

第 20 号竪穴建物跡（第 71・72 図）

位置 調査区南西部の C 2h7 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 679・680・711 号土坑を掘り込み, 第 574 号土坑に掘り込まれている。

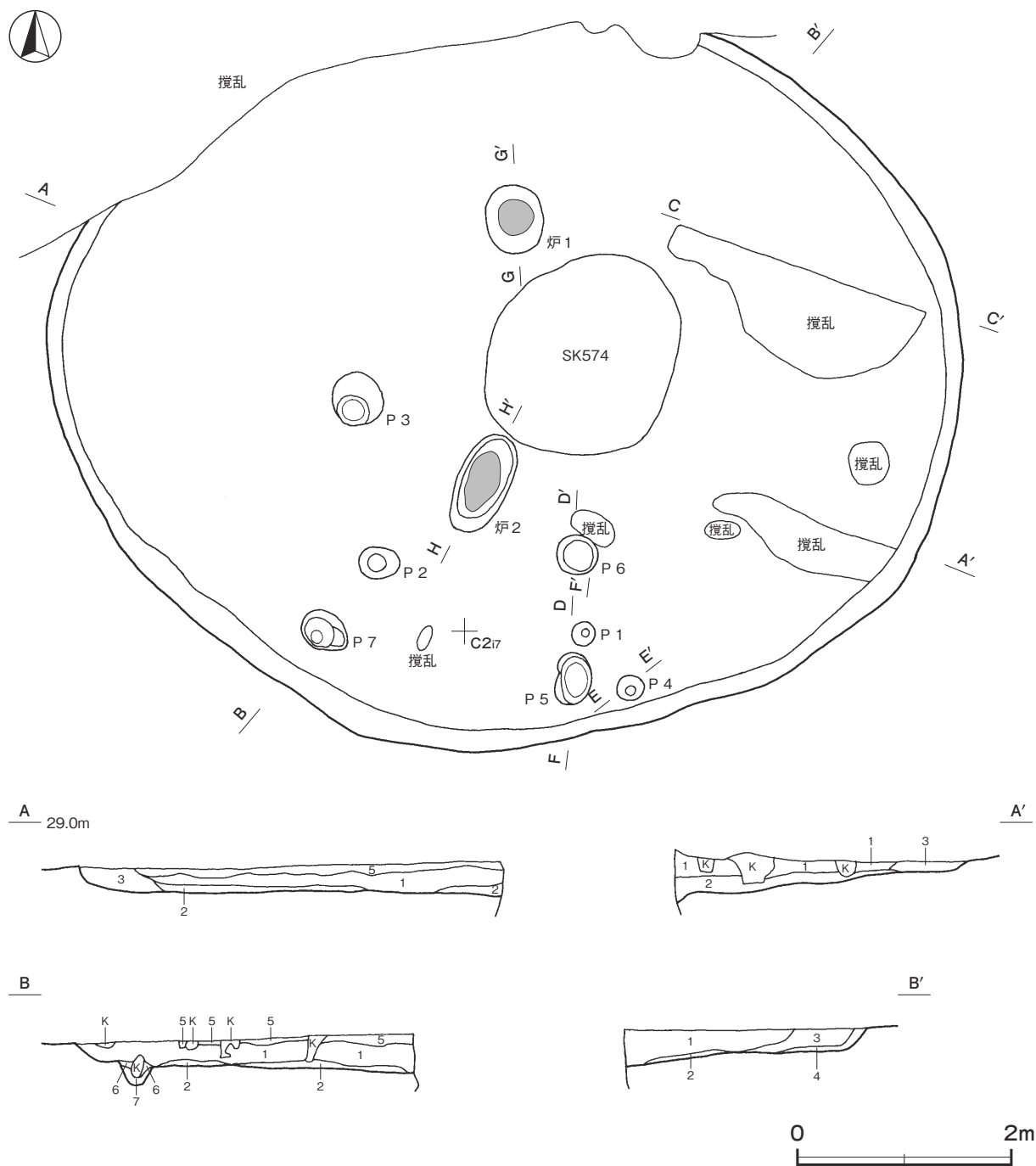
規模と形状 北壁が攪乱を受けているが, 長径 8.46 m, 短径 7.00 m の楕円形で, 長径方向は N - 84° - W と推定できる。壁は高さ 8 ~ 22cm で, 緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

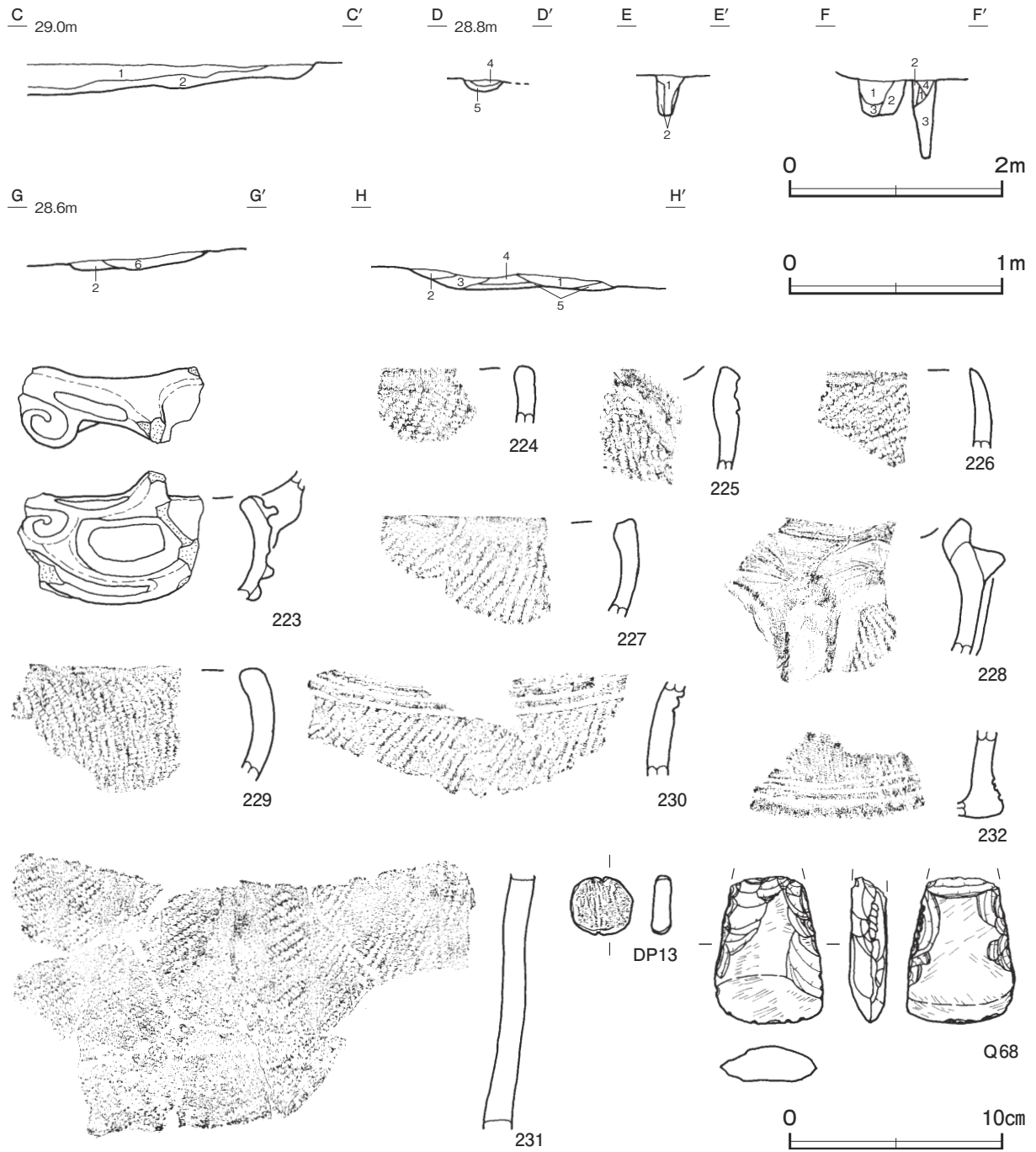
炉 2か所。いずれも床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉1は中央部の北寄りに位置し、長径60cm、短径50cmの楕円形である。炉2は中央部の南寄りに位置し、長径100cm、短径50cmの楕円形である。いずれも炉床は火熱を受けて赤変硬化している。覆土や炉床の状況から、同時に使用されていたものと考えられる。

炉1・2土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 明褐色 ローム粒子中量 |
| 3 赤褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 明褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第71図 第20号竪穴建物跡実測図



第72図 第20号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 7か所。P 1～P 3は深さ38～70cmで、規模と配置から支柱穴である。P 4・P 5はともに深さ40cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ10・25cmで補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

覆土 5層に分層できる。黒色土が周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。第6・7層は、P7の覆土である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 褐色 ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 312点（深鉢 309, 浅鉢 3）, 土製品 1点（土器片錘）, 石器 2点（打製石斧, 磨製石斧）, 調整痕のある剥片 1点（粘板岩）, 母岩 1点（瑪瑙）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
223	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯による上向きの渦巻状把手 把手間に楕円区画 隆帯上に太沈線	覆土中	
224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中	
225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	地文に0段多条縄文 RL (横) 把手に沿って太沈線 沈線に沿って円形刺突	覆土中	
226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁上部無文 地文に単節縄文 LR (横)	覆土中	
227	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇頂部平坦 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中	
228	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	隆帯により文様描画 一部に突起 隆帯に沿って太沈線 地文に単節縄文 LR (縦)	覆土中	
229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁直下よる単節縄文 LR (斜)	覆土中	
230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	半截竹管による並行線が一巡 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中	
231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	灰黄褐	普通	地文に0段多条縄文 RL (縦) を間隔を開けて施文	覆土中	内面剥落 炉体土器
232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	普通	胴部下端に3本の並行沈線が一巡 地文にまばらな捺糸文 (縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP13	土器片錘	2.2	3.0	0.9	9.4	長石・石英・雲母・赤色斑点	にぶい赤褐	胴部片 周縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 68	打製石斧	(6.9)	5.1	1.7	(83.2)	頁岩	新形 両側縁及び表面に微細な敲打痕 刃部は表裏を研磨 未広がり 基部欠損	覆土中	

第21号竪穴建物跡（第73図 PL10・11）

位置 調査区東部のC4j4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第564号土坑を掘り込み、第10号竪穴建物に掘り込まれている。

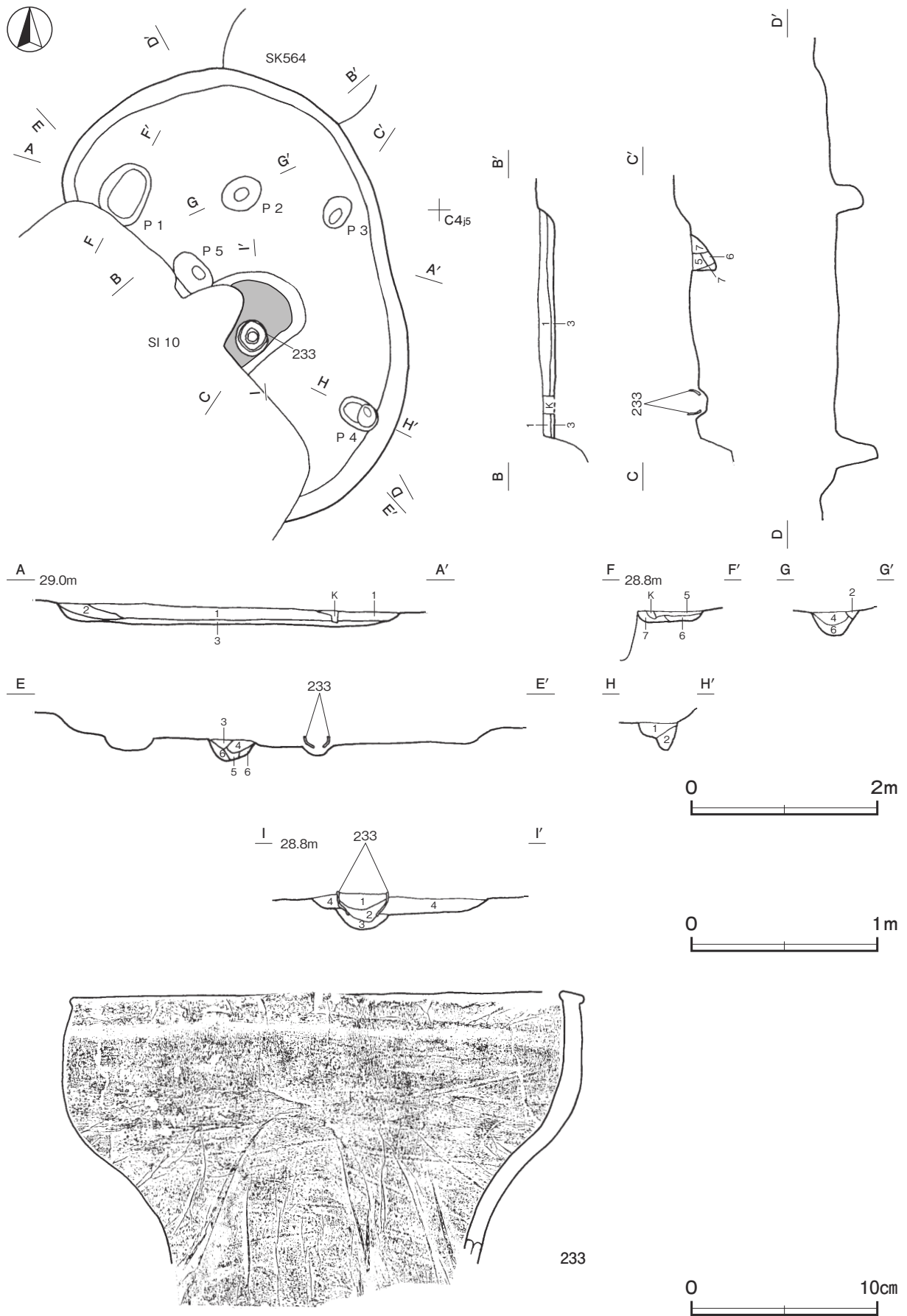
規模と形状 長径4.90m、短径3.05mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。壁は高さ10~18cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。南西部を第10号竪穴建物に掘り込まれており、北東・南西径は100cm、北西・南東径は95cmしか確認できなかった。楕円形の土器埋設炉で、南東部から胴部下半を欠いた233が出土している。炉床及び炉体周辺は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |



第 73 图 第 21 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ16～40cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 3層に分層できる。周囲からの流れ込んでいる堆積状況や、暗褐色土が均一に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 28点（深鉢27, 浅鉢1）が出土している。233は、土器埋設炉の炉体土器である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第21号竪穴建物跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
233	縄文土器	深鉢	27.4	(14.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	無文 細い隆帯を巡らし口唇頂部平坦 口縁部外・内面横ナデ 胴部縦方向のナデ	炉	50% PL109 内面剥落

第22号竪穴建物跡（第74・75図 PL11）

位置 調査区北東部寄りのC4d2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第588号土坑を掘り込み、第584・591・598号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受け、複数の土坑と重複しており、北部が調査区域外へ延びているため、東西径は5.20mで、南北径は4.67mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-20°-Eである。壁は高さ7～15cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径100cm、短径70cmで、楕円形の土器埋設炉である。北東部から胴部下半を欠いた234が出土している。炉床は火熱を受けて、赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-------|--------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

ピット 4か所。P1は深さ50cmで、規模と配置から支柱穴である。P2～P4は深さ10cm前後で、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

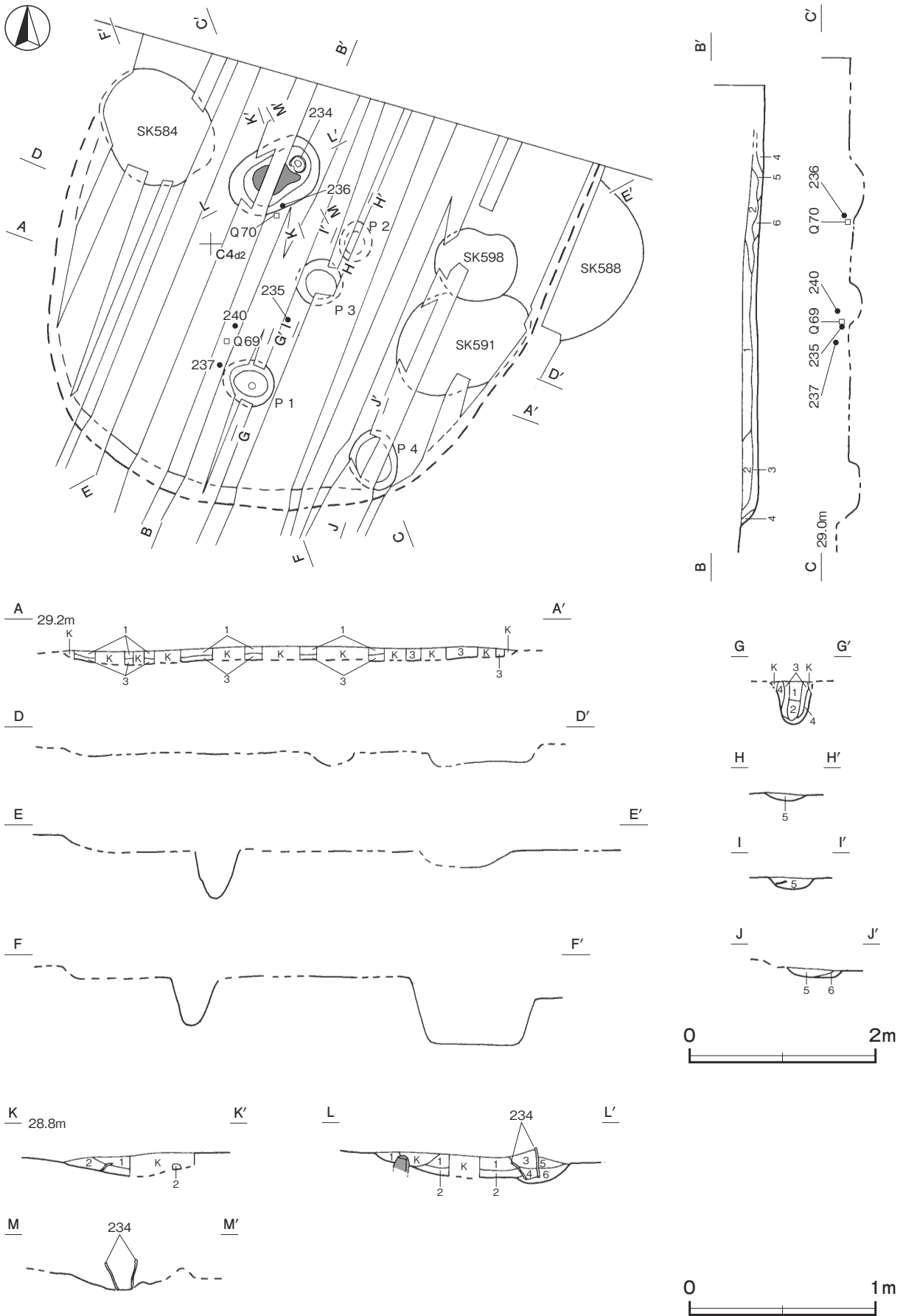
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

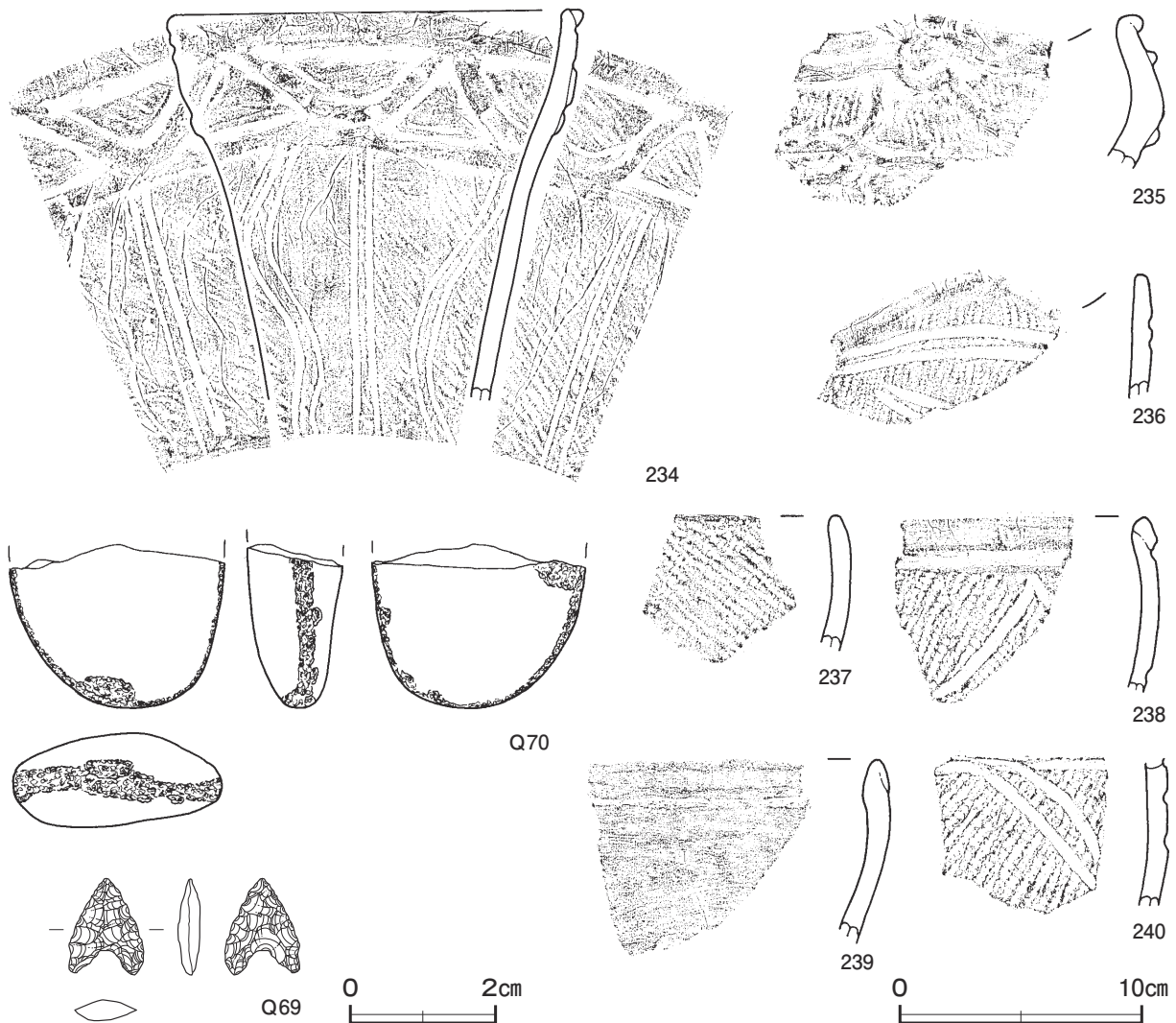
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 259点（深鉢250, 浅鉢9）、石器4点（鍬1, 磨製石斧2, 敲石1）、剥片7点（瑪瑙1, 粘板岩1, 砂岩1, 泥岩2, 黒曜石1, 石英1）、残核2点（瑪瑙）、自然礫1点が出土している。234は



第 74 図 第 22 号豎穴建物跡実測図



第75図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図

土器埋設炉の炉体土器である。Q70は炉の南側の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。236は中央部、235・237・240、Q69は南部の覆土上層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第22号竪穴建物跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
234	縄文土器	深鉢	16.5	(16.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	地文に無節縄文L(縦) 口縁部低い隆帯による三角形の区画文 口縁直下から2本の懸垂文・蛇行線文 口縁部内面横ナデ 胴下半内面縦方向のナデ	炉	70% PL110
235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	地文に無節縄文R(斜) 隆帯により文様描画内面横方向のナデ	覆土上層	
236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	地文に単節縄文RL(斜) 2本の並行沈線	覆土上層	
237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	器面全体に単節縄文LR(縦)	覆土上層	
238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部無文 太沈線が一巡 地文に単節縄文RL(縦) 沈線による弧線文	覆土中	
239	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部隆帯貼付 外・内面横方向の磨き	覆土中	
240	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 並行沈線により文様描画	覆土上層	

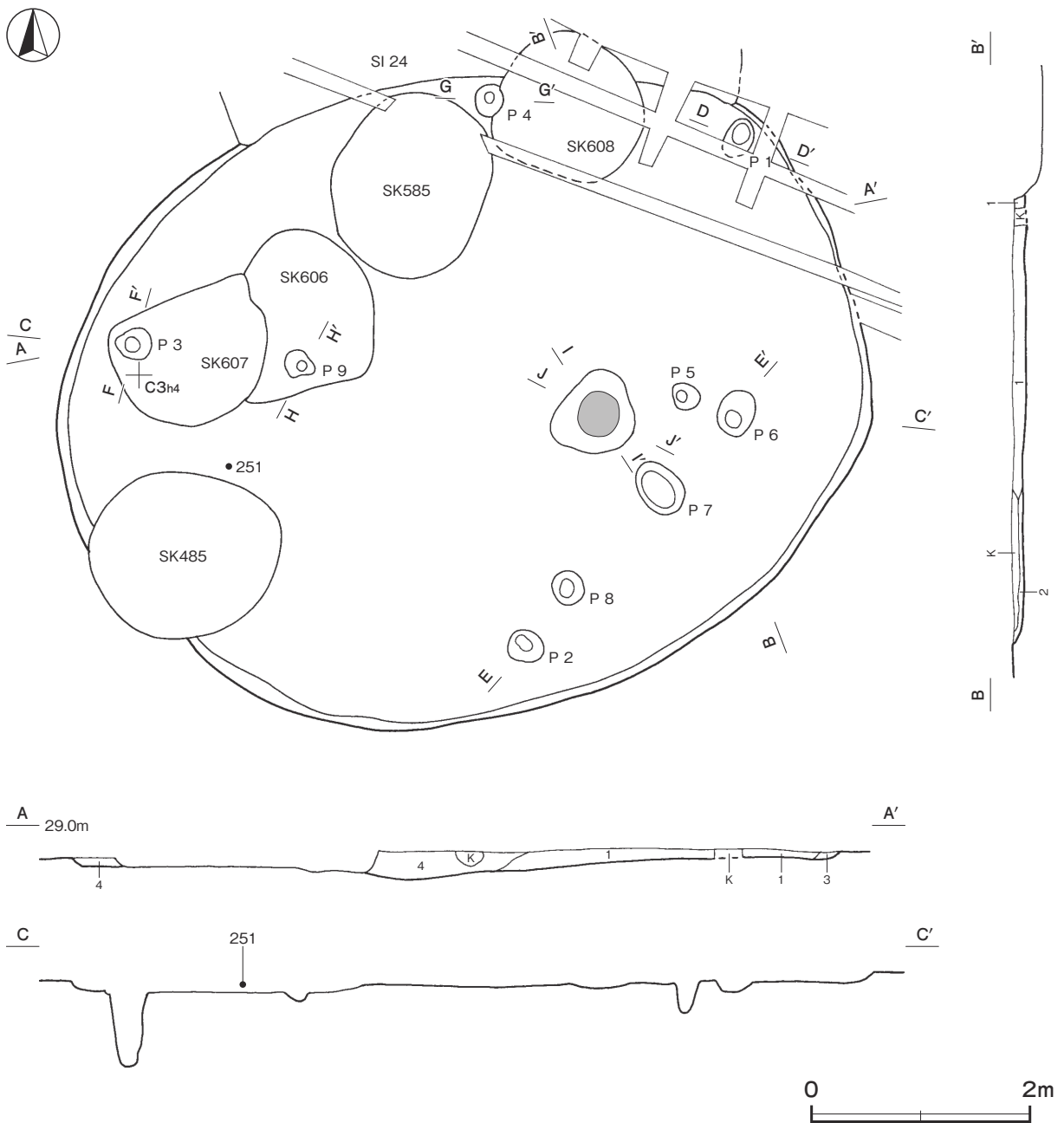
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 69	鎌	1.3	1.0	0.3	0.4	チャート	基部中央は深く彎入 両面押圧剥離	覆土上層	PL161
Q 70	敲石	(6.8)	8.8	3.9	(246.3)	砂岩	周縁部に微細な敲打痕	床面	

第 23 号 竪穴建物跡 (第 76・77 図 PL12)

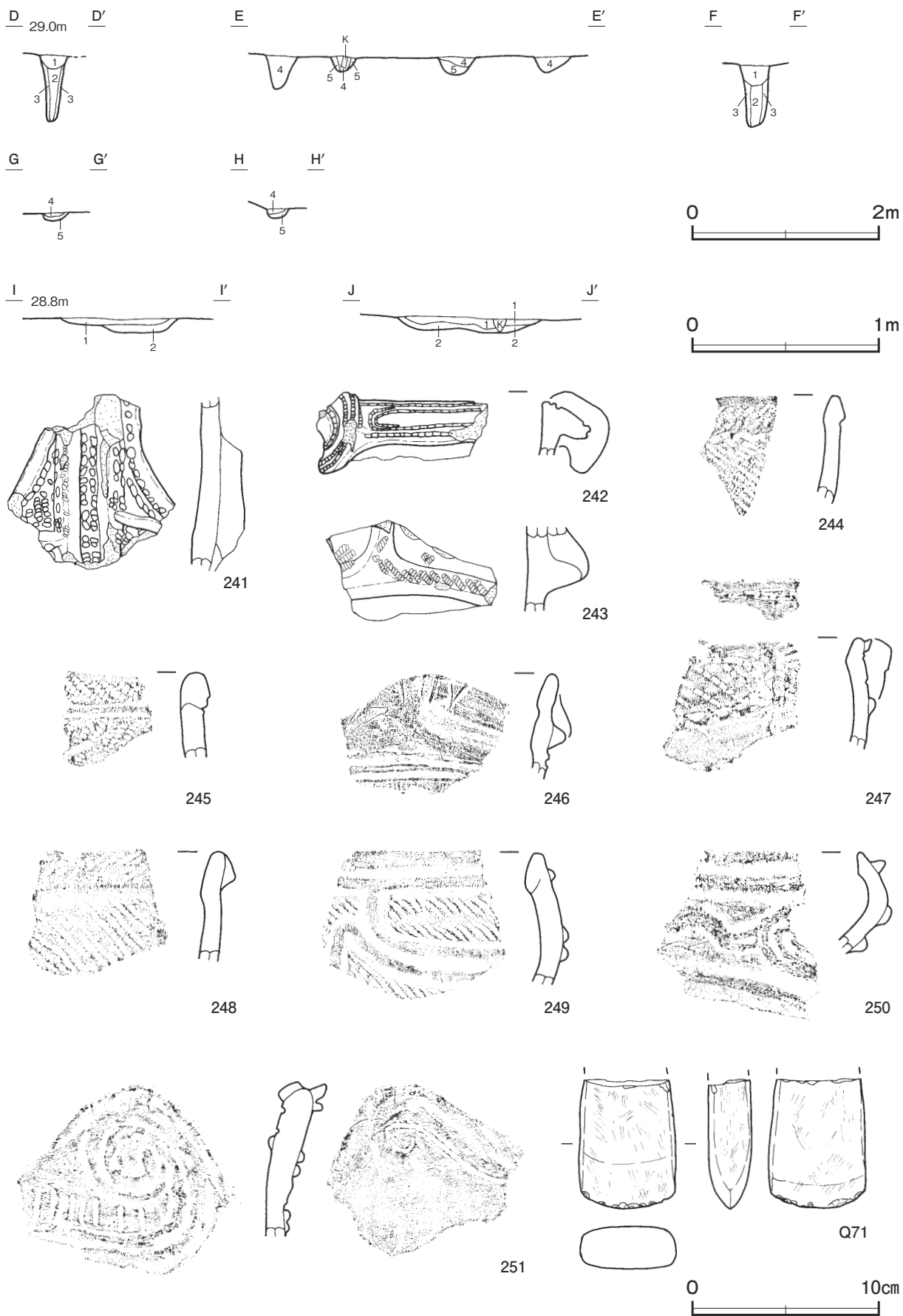
位置 調査区中央部の C 3h4, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 24 号 竪穴建物, 第 485・585・606 ~ 608 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 7.40 m, 短径 5.76 m の楕円形で, 長径方向は N - 88° - E である。壁は高さ 5 ~ 10cm で, 緩やかに傾斜している。



第 76 図 第 23 号 竪穴建物跡実測図



第 77 图 第 23 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 東部に付設されている。長径 80cm、短径 70cmで、不整楕円形の地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 9か所。P1～P3は深さ40～70cmで、配置から主柱穴である。P4～P9は深さ15～28cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量

覆土 4層に分層できる。周囲からの流れ込んでいる堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 243点（深鉢235、浅鉢8）、石器1点（磨製石斧）が出土している。251は西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
241	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	把手頂部から2条の断面三角形の隆帯が垂下隆帯上に単節縄文施文 隆帯間に並行有節沈線	覆土中	
242	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇頂部の平坦面に有節沈線 把手に沿って有節沈線による文様描画	覆土中	
243	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による区画文 隆帯上に単節縄文RL(横) 区画内(縦)	覆土中	
244	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単節縄文LR(横) 胴部(縦) 波状沈線が一巡	覆土中	
245	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	灰褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単節縄文RL(横) 胴部(縦) 口唇下部に半截竹管による並行沈線	覆土中	
246	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	隆帯による摘み状の突起 横方向の並行沈線が一巡 櫛歯状工具による縦施文	覆土中	
247	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色斑点	にぶい赤褐	普通	口唇頂部に有節沈線が一巡 断面三角形の隆帯による区画文 隆帯上に刺突	覆土中	
248	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部単節縄文LR(横) 胴部同原体による縦施文	覆土中	
249	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に0段多糸縄文RL(横) 隆帯貼付により変形クランク文	覆土中	PL110
250	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇頂部の平坦面に太沈線が一巡 隆帯及び背割れ隆帯により文様描画 隆帯を一巡させ口縁部文様を区画	覆土中	PL110
251	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	背割れ隆帯による渦巻文 区画内縦方向の並行沈線 内面隆帯による横位の麻手文 隆帯に沿って鏡的な沈線	覆土下層	PL110

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 71	磨製石斧	(6.9)	5.2	2.3	(164.7)	緑色岩	定角式 全面研磨 側縁部に稜 基部欠損 刃部に使用痕 平刃	覆土中	PL166 被熱

第24号竪穴建物跡（第78図）

位置 調査区中央部のC3g4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号竪穴建物跡、第585号土坑を掘り込み、第608号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているため、東西径4.98mで、南北径は3.40mしか確認できなかった。楕円形で、長径方向はN-8°-Wと推定できる。壁は高さ10cmほどで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 北西部に付設されている。耕作により攪乱を受けているが、焼土の残存範囲から、長径40cmほどの楕円形と推定でき、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

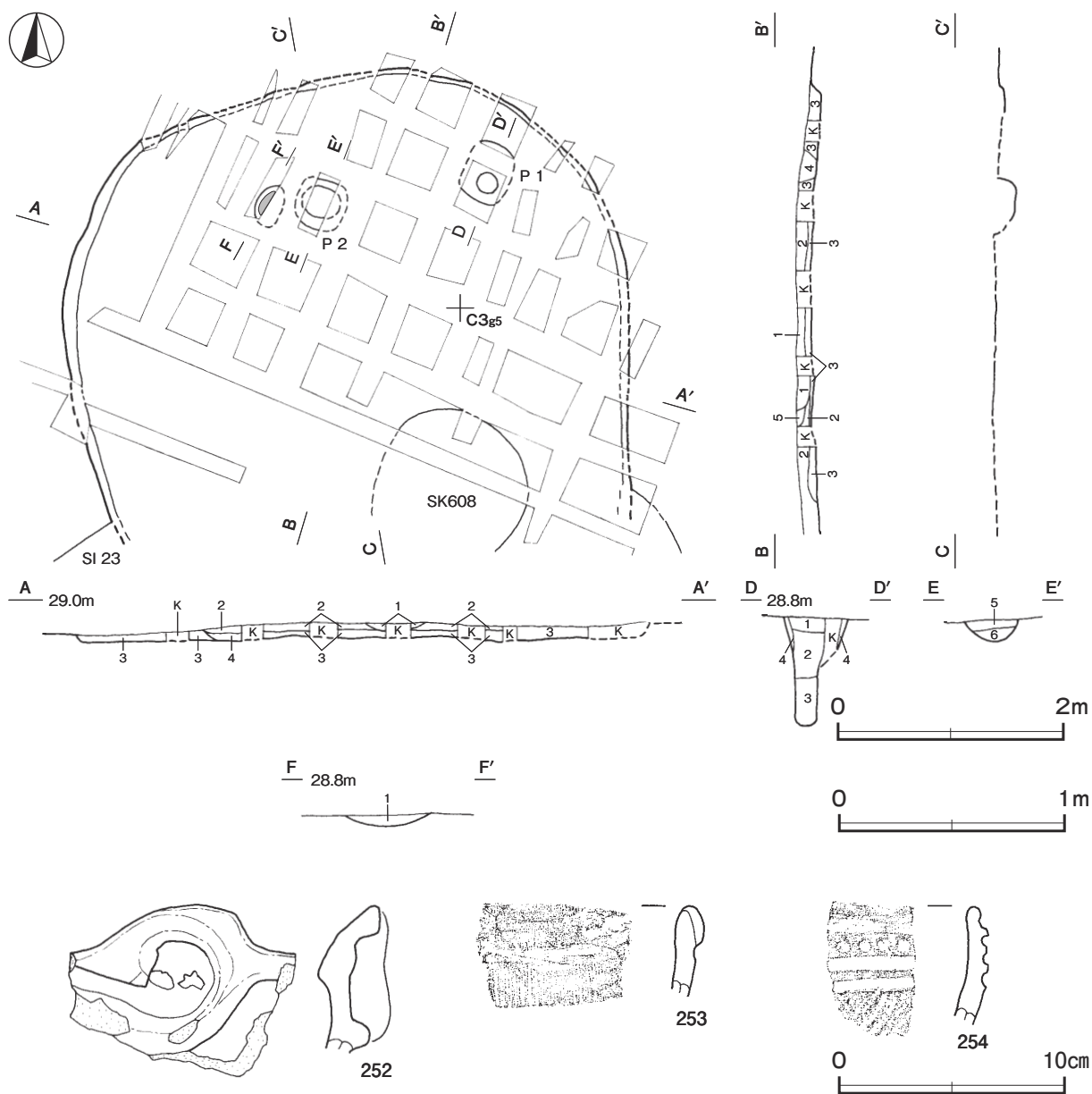
1 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 2か所。P1は深さ100cmで、主柱穴である。P2は深さ20cmで、炉の東側に位置していることから、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量

4 暗褐色 ロームブロック少量
 5 黒褐色 ローム粒子微量
 6 黒褐色 ロームブロック微量



第78図 第24号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------|---|--------|-----------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量 | 4 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 5 | にぶい褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 | 黄褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片 49 点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 24 号 竪穴建物跡出土遺物観察表（第 78 図）

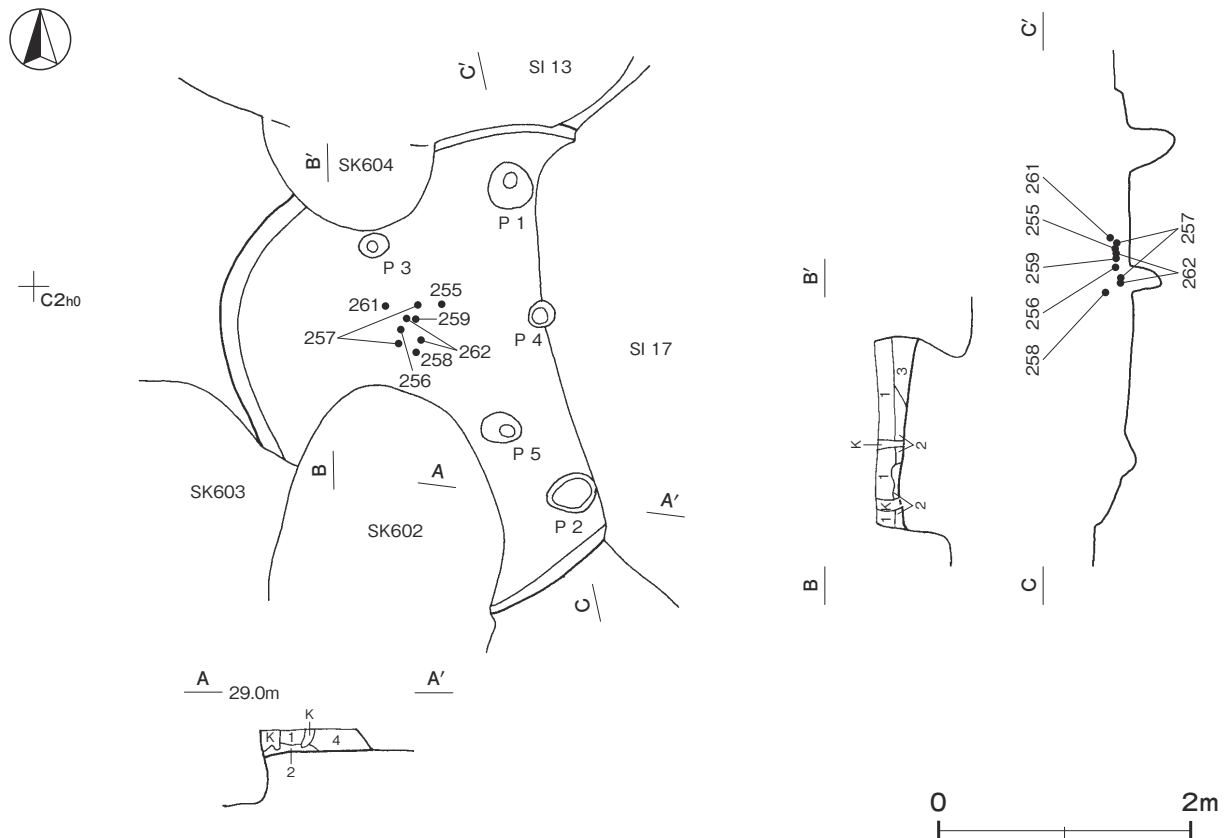
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
252	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯貼付により楕円区画 内面横方向のナデ	覆土中	
253	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 太沈線を巡らせ縦位の条線文	覆土中	
254	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 口縁上部に太沈線・円形刺突文を一巡 2本の太沈線を巡らせ口縁部を区画	覆土中	

第 25 号 竪穴建物跡（第 79・80 図 PL12）

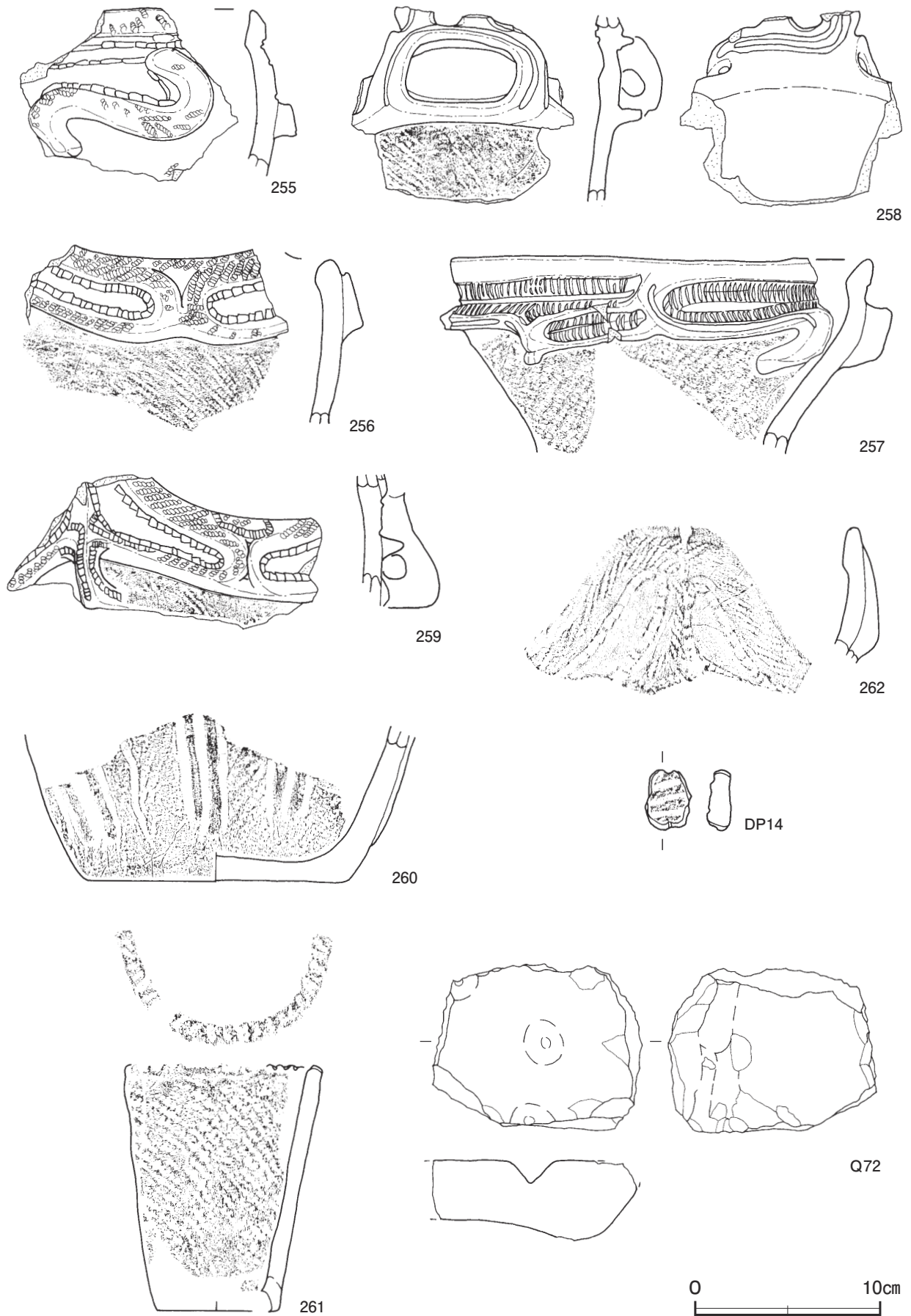
位置 調査区中央部西寄りの C 2h0 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 13・17 号竪穴建物、第 602～604 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第 17 号竪穴建物に掘り込まれているため、北西・南東軸 3.68 m で、北東・南西軸は 3.21 m しか確認できなかった。隅丸方形と推定でき、北西・南東軸方向は N - 33° - W である。壁は高さ 18～30cm で、緩やかに傾斜している。



第 79 図 第 25 号 竪穴建物跡実測図



第 80 图 第 25 号竖穴建物跡出土遺物実測図

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 5か所。P1～P5は、深さ10～30cmである。配置からP1～P3は支柱穴、P4・P5は補助柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片167点（深鉢166，コップ形土器1），土製品1点（土器片錘），石器5点（打製石斧3，磨製石斧1，砥石1），剥片2点（瑪瑙，石英）が出土している。255～257・259・262は覆土下層から、258・261は覆土中層から、260・DP14・Q72は覆土中から出土している。

所見 出土土器から中期中葉と考えられる。

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
255	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰黄褐	普通	口唇部肥厚 隆帯による横S字状文 隆帯上に単節縄文RL（横・斜） 隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
256	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	隆帯による区画文 隆帯上に単節縄文LR（横） 区画隆帯に沿って有節沈線 胴部（縦）	覆土下層	
257	縄文土器	深鉢	[22.3]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁上部無文 隆帯による横S字文及び楕円区画 区画内キヤタピラ文 地文に単節縄文RL（縦）	覆土下層	20% PL110
258	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	楕円状の中空把手 把手上部に沈線 把手内面に並行沈線 地文に無節縄文R（横）	覆土中層	PL110
259	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	隆帯上に単節縄文LR（横）と有節沈線 隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
260	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	[13.8]	長石・石英・雲母	明褐	普通	地文に無節縄文R（縦） 2条の並行隆帯が垂下 隆帯間に蛇行沈線	覆土中	10%
261	縄文土器	コップ形土器	10.7	13.3	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口唇頂部にキザミ目 単節縄文LR（縦）を口唇直下から全面に施文 内面縦方向のナデ	覆土中層	40% PL110
262	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	把手中央部を隆帯により区画 縁辺及び隆帯上に単節縄文LR（横・縦） 区画に沿って有節沈線	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP14	土器片錘	3.2	2.4	1.3	10.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	砥石	(8.9)	(11.2)	4.4	(601.7)	砂岩	表面に平坦な砥面 凹み痕3か所 裏面に皿状の砥面	覆土中	PL175

第26号竪穴建物跡（第81～86図 PL12・13）

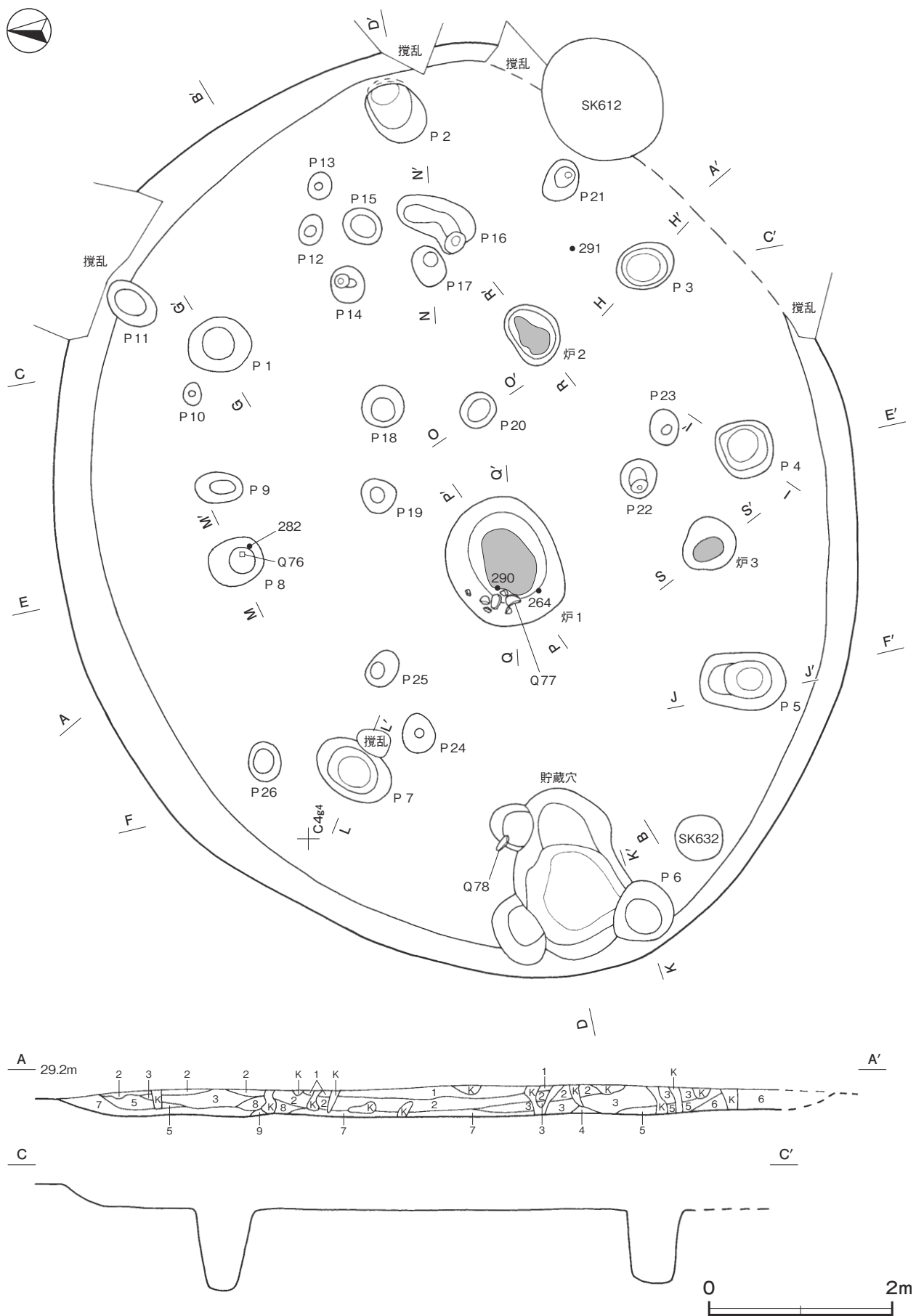
位置 調査区北東部寄りのC4g4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第612・632号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径10.30m，短径8.75mの楕円形で、長径方向はN-74°-Eである。壁は高さ14～24cmで、緩やかに傾斜している。

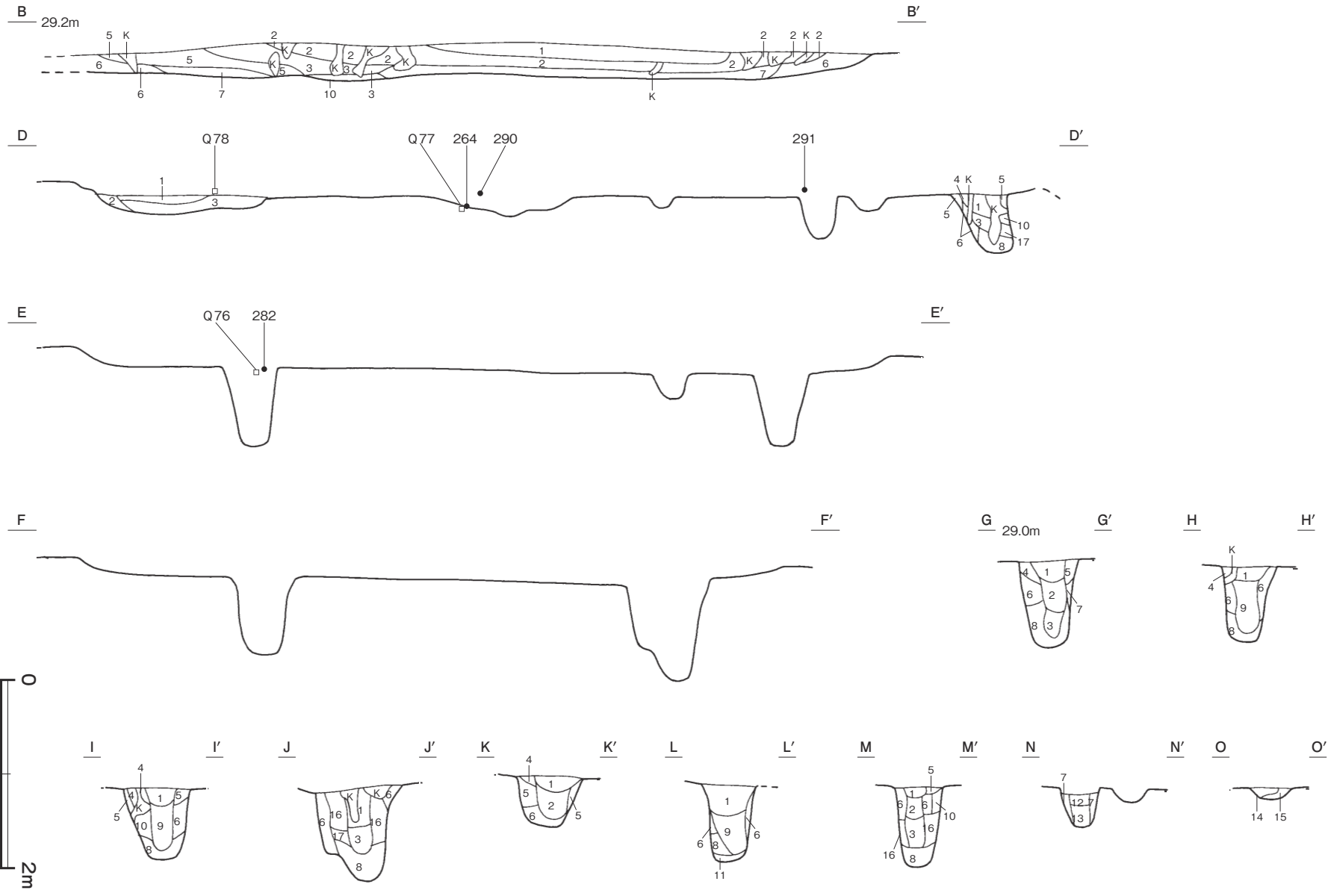
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

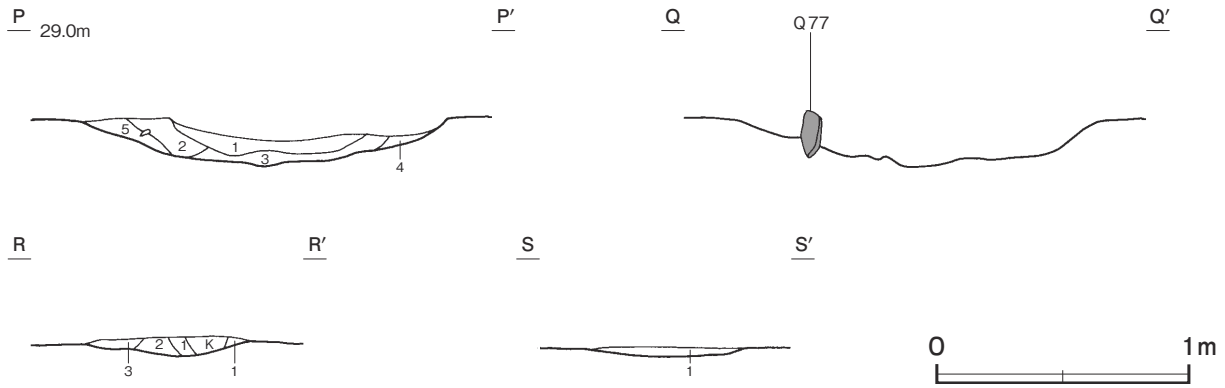
炉 3か所。炉1は中央部に位置し、長径145cm，短径120cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。西部から火熱を受けた礫片が数点出土しており、砥石（Q77）は立てられた状態で出土していることから、石囲い炉であった可能性がある。炉2は炉1の東側に位置し、長径60cm，短径50cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉3は炉1の南側に位置し、直径60cmのほぼ円形で、床面とほぼ同じ高さを使用した地床炉である。炉床は赤変、硬化ともに弱い。礫片の出土状況から、炉1が廃絶時まで機能していたと考えられるが、それぞれの新旧関係は明確でない。



第 81 图 第 26 号竖穴建物跡実测图 (1)

第 82 图 第 26 号竖穴建物跡実測图 (2)





第 83 図 第 26 号竪穴建物跡実測図 (3)

炉 1・2・3 土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | |

ピット 26 か所。P 1～P 8 は深さ 52～100cm で、配置から主柱穴である。P 9～P 26 は深さ 12～45cm で、補助柱穴と考えられる

ピット土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 12 極暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック多量 | 13 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 14 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子多量 | 15 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 7 褐色 ロームブロック多量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 8 黒褐色 ローム粒子少量 | 17 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 9 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | |

貯蔵穴 南西壁際に位置している。長径 180cm, 短径 120cm の不整楕円形である。底面はほぼ平坦で、東部にテラス上の段を有している。深さ 15cm で、壁は緩やかに傾斜している。覆土は、各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

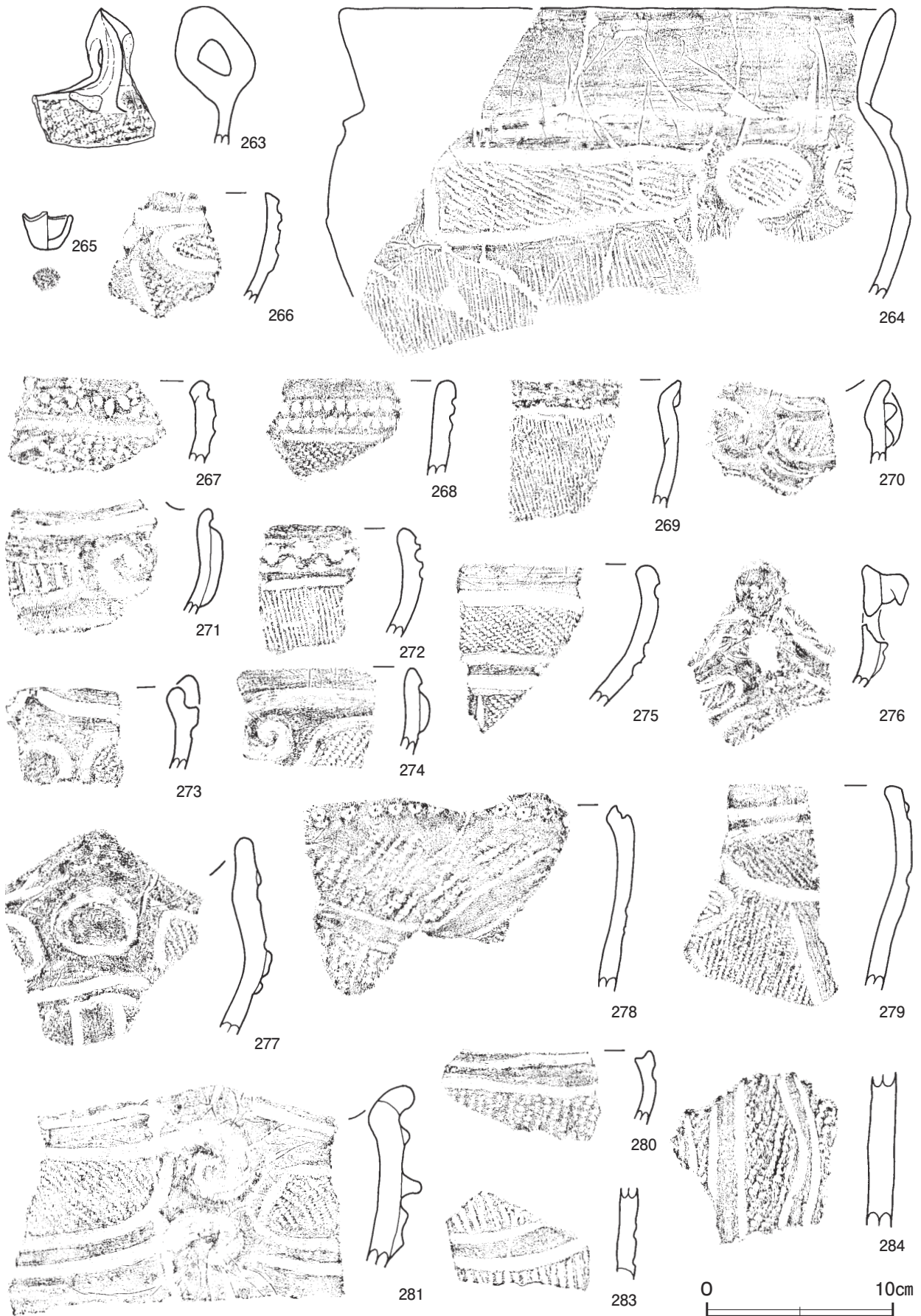
- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

覆土 10 層に分層できる。下層の第 3 層以下は、ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。上層の第 1・2 層は、周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

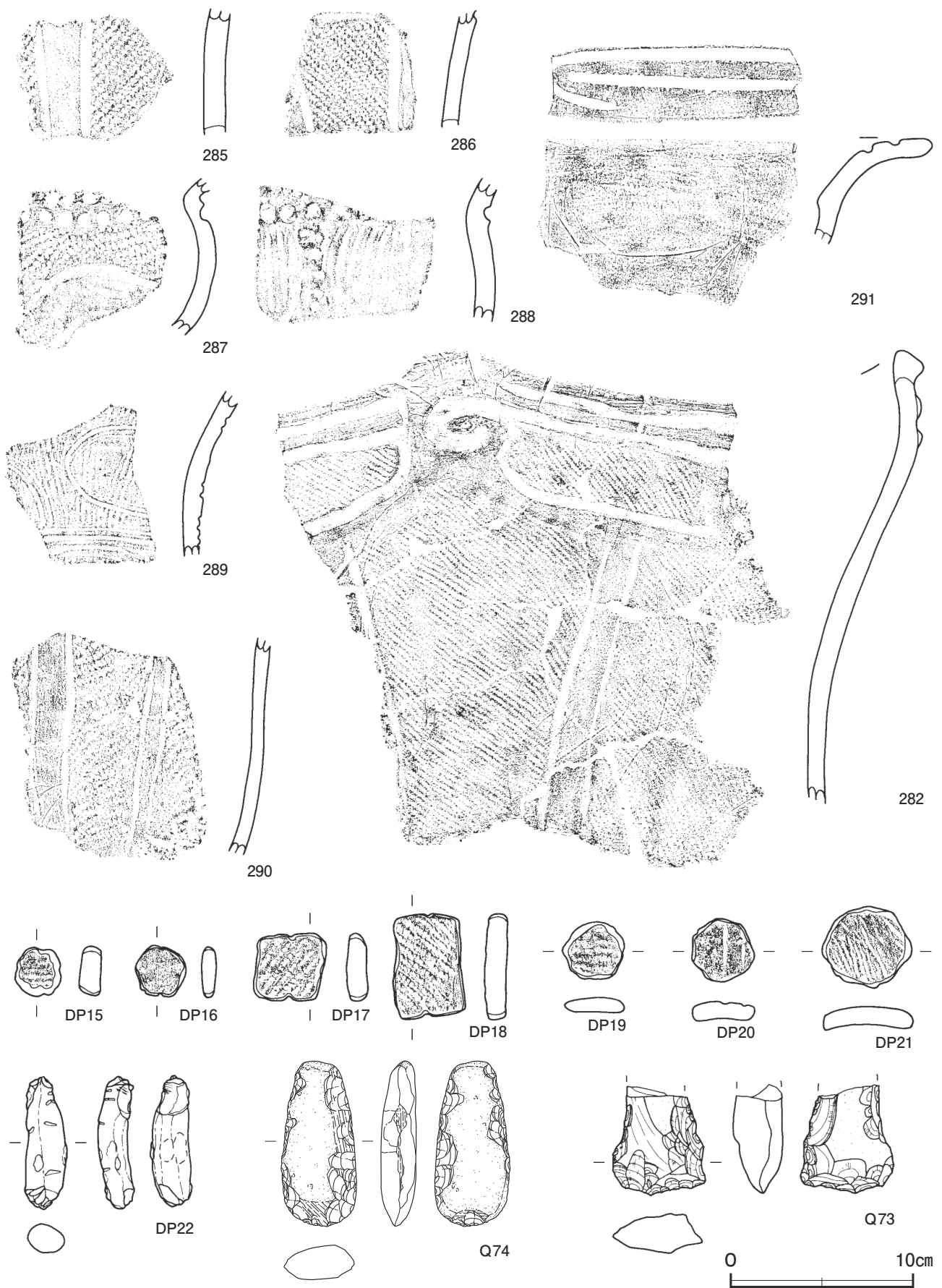
土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |

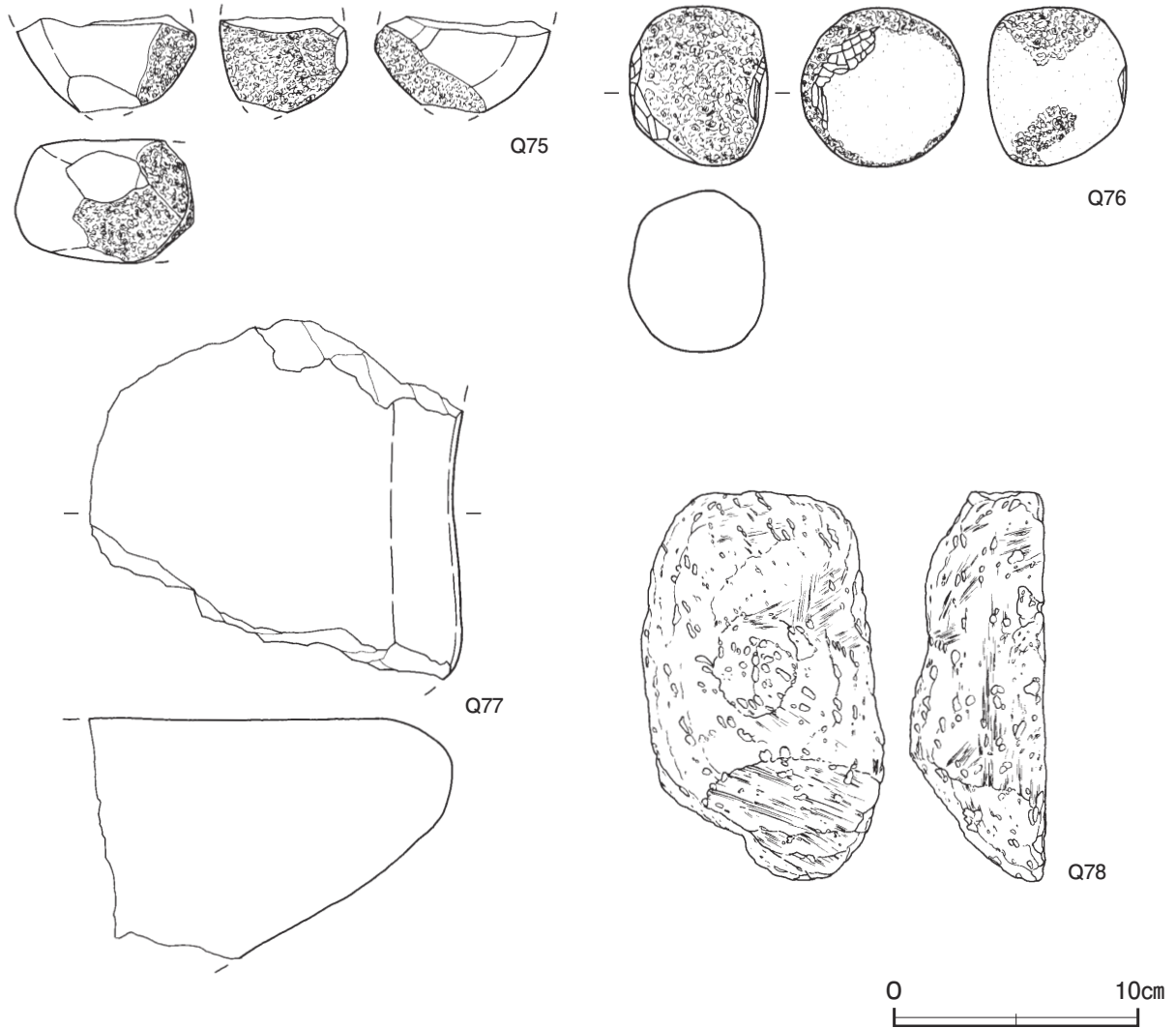
遺物出土状況 縄文土器片 2,244 点 (深鉢 2,227, 浅鉢 15, 壺 1, 手捏土器 1), 土製品 8 点 (土器片錘 4, 土器片円盤 3, 不明土製品 1), 石器 39 点 (打製石斧 3, 磨製石斧 1, 石皿 14, 磨石 7, 敲砥石 2, 砥石 1, 炉石 10, 浮子 1), 剥片 9 点 (瑪瑙 3, 黒曜石 2, チャート 3, 安山岩 1), 自然礫 2 点が出土している。Q 77 は炉 1 の火床部から立てられた状態で出土していることから、石囲い炉の炉石の可能性もある。290 は炉 1 の火床面, 291 は東部, Q 78 は西部の床面から, 282, Q 76 は P 8 の覆土上層から, Q 74 は P 7 の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも廃絶直後に廃棄されたものと考えられる。その他の土器片や土器片錘, 土



第 84 图 第 26 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第 85 图 第 26 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)



第 86 図 第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

器片円盤などの土製品は、主に覆土上・中層からまとまって出土していることから、埋没過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 84 ~ 86 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
263	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	中空の把手 地文に0段多条縄文LR(横)	覆土中	
264	縄文土器	壺	[30.0]	(16.7)	-	長石・石英・雲母・赤色斑点	暗赤褐	普通	口縁部無文 横方向の磨き 頸部低い隆帯による区画文 区画内単節縄文RL(横) 胴部外面縦方向の条線文 内面横方向の磨き 口縁部から頸部にかけて赤彩痕	炉1	15% PL112
265	縄文土器	手捏土器	2.5	2.1	1.3	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面縦方向のナデ 内面横方向のナデ	覆土中	100%
266	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	太沈線による区画 区画内単節縄文RL(横) 区画外(縦)	覆土中	
267	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部交互刺突による波状文が一巡 地文に単節縄文LR(横) 弧状文	覆土中	
268	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・針状鉱物	にぶい橙	普通	口縁部2列の刺突文を巡らせ沈線で区画 地文に単節縄文LR(縦)	覆土中	
269	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部幅広の隆帯貼付により有段 地文に撚糸文(縦)	覆土中	
270	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯による渦巻文 背割れ隆帯による区画 区画内単節縄文RL(縦)	覆土中	
271	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯と太沈線による渦巻文・楕円区画 区画内太沈線による条線文	覆土中	

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
272	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	交互刺突による波状文が一巡 沈線区画 縦位の燃糸文施文	覆土中	
273	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	楕円形の突起貼付 突起間に太沈線を巡らせ区画 区画内単節縄文 RL (縦)	覆土中	
274	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	隆帯と太沈線による渦巻文・区画文 区画内単節縄文 LR (横)	覆土中	
275	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇部肥厚 太沈線による区画文 区画内1段多糸縄文 LR (縦)	覆土中	
276	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	把手頂部指頭による押圧 口唇頂部に細沈線 隆帯による区画文 区画内単節縄文 RL (縦)	覆土中	
277	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	低い隆帯による円や楕円の区画 区画内単節縄文 RL (横) 区画に沿って太沈線 磨消縄文が垂下	覆土中	
278	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	口唇部に円形刺突が一巡 地文に単節縄文 LR (横) 磨消による弧状文を描画	覆土中	
279	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	太沈線による楕円区画 区画内単節縄文 RL (横) 区画下部太沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
280	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 地文に単節縄文 RL (斜) 太沈線で区画	覆土中	
281	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	隆帯及び太沈線による渦巻文・楕円区画文 区画内0段多糸縄文 RL (横)	覆土中	PL112
282	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・小礫	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 波頂部に沈線を巡らし太沈線による渦巻文・楕円区画文を描画 楕円区画から並行沈線が垂下 沈線間磨消	P 8 覆土	PL112
283	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に縦位の燃糸文 2本の太沈線による弧状文	覆土中	
284	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 並行沈線による懸垂文・蛇行線文 沈線間磨消	覆土中	
285	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 太沈線で区画した磨消縄文が垂下	覆土中	
286	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 (多量)	にぶい褐	普通	地文に複節縄文 LRL (縦) 幅広の磨消縄文が垂下	覆土中	
287	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	横位の隆帯貼付 隆帯上及び隆帯に沿って円形刺突 地文に単節縄文 LR (横) 浅い沈線による曲線文 沈線間磨消	覆土中	
288	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	幅広の隆帯上に円形刺突 地文に太い条線文	覆土中	
289	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に縦位の燃糸文 半截竹管による楕円文・並行線文	覆土中	
290	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 並行沈線による懸垂文 沈線間磨消	炉 1	
291	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内面に並行沈線が一巡 外・内面横方向のナデ	床面	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP15	土器片鉢	2.7	2.5	1.2	8.5	長石・石英・雲母	褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	
DP16	土器片鉢	2.8	2.8	0.7	6.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP17	土器片鉢	3.7	4.0	1.2	21.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP18	土器片鉢	5.8	4.1	1.2	41.3	長石・石英・雲母	灰黄褐	縦長の胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP19	土器片皿	3.1	3.4	0.9	10.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 片側縁部を研磨	覆土中	未成品 _カ
DP20	土器片皿	3.5	3.4	1.0	12.1	長石・石英	橙	胴部片 周縁部研磨	覆土中	
DP21	土器片皿	4.6	4.8	0.9	24.9	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片 周縁部粗雑に研磨	覆土中	未成品 _カ
DP22	不明土製品	7.2	2.3	2.1	(28.0)	長石・石英	にぶい赤褐	上部に剥離痕 長軸方向に粗いナデ成形	覆土中	

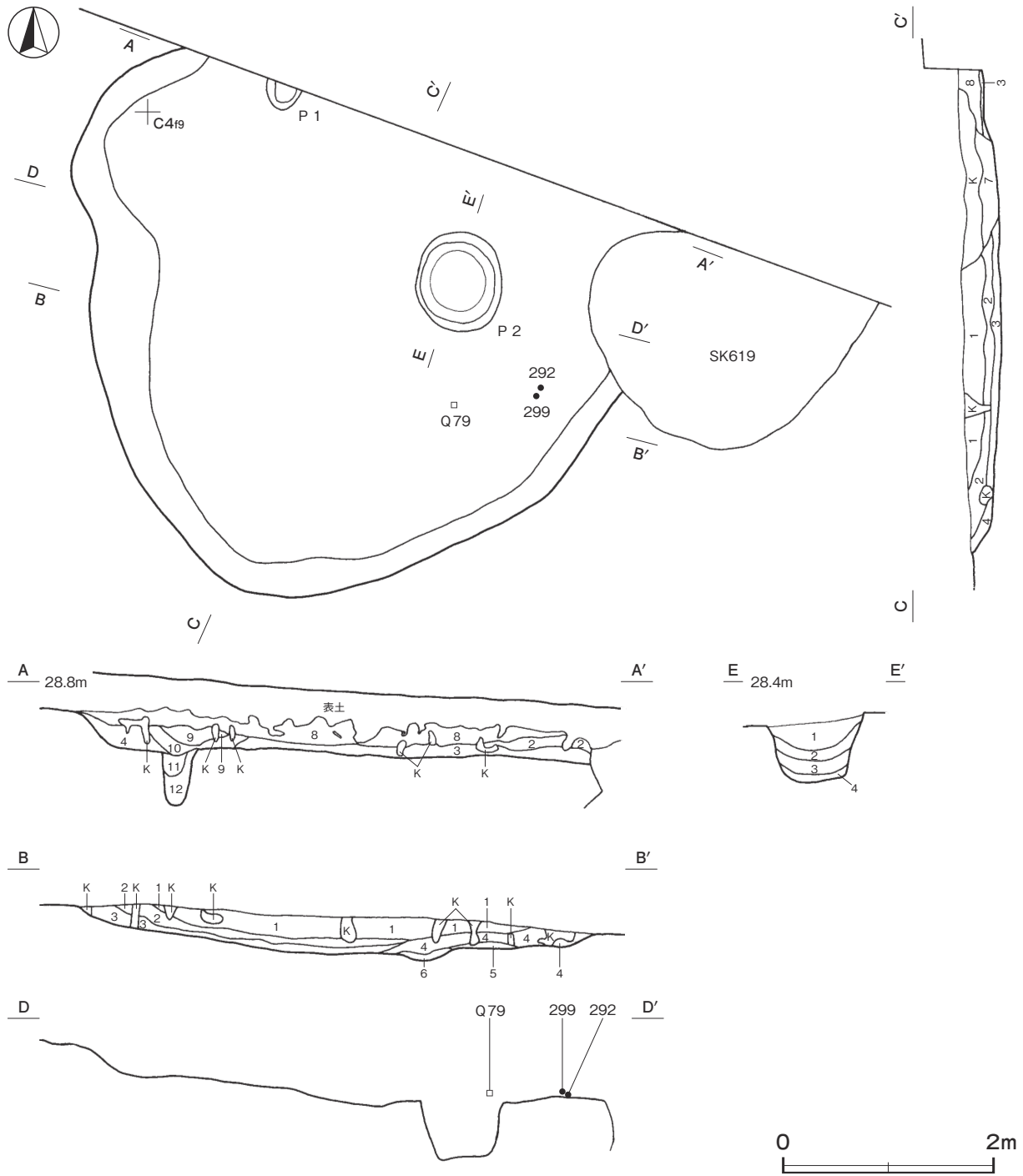
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 73	打製石斧	(6.0)	5.1	2.8	(83.1)	ホルンフェルス	分銅形 刃部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土中	
Q 74	打製石斧	9.1	4.1	1.9	100.2	石英斑岩	撥形 周縁部表裏を敲打 刃部は表裏を研磨	P 7 覆土中	PL163
Q 75	敲砥石	(4.0)	(6.8)	(5.2)	(174.8)	砂岩	円礫の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	
Q 76	敲砥石	6.5	6.6	5.7	372.2	黒色安山岩	円礫の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの砥面をもつ	P 8 覆土中	PL171
Q 77	砥石	(14.8)	(15.1)	(9.5)	(2531.1)	砂岩	表面平坦に研磨	炉 1	被熱 炉石転用 _カ
Q 78	浮子	16.0	9.9	5.4	107.6	軽石	表面に凹み 裏面は平坦に研磨	床面	PL181

第 27 号 竪穴建物跡 (第 87・88 図 PL13)

位置 調査区北東部の C 4 f9 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 621 号土坑を掘り込み, 第 619 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 東部を第 619 号土坑に掘り込まれているため, 東西径は 5.62m, 南北径は 4.60m しか確認できなかった。円形もしくは楕円形と推定でき, 壁は高さ 10 ~ 35cm で, 緩やかに傾斜している。



第 87 図 第 27 号竪穴建物跡実測図

床 中央部に向かって緩やかに低くなっている。硬化面は確認できなかった。

ピット 2か所。P 1は深さ 50cmで、主柱穴と考えられる。P 2は長径 90cm，短径 80cmの楕円形で，深さ 60cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量 |

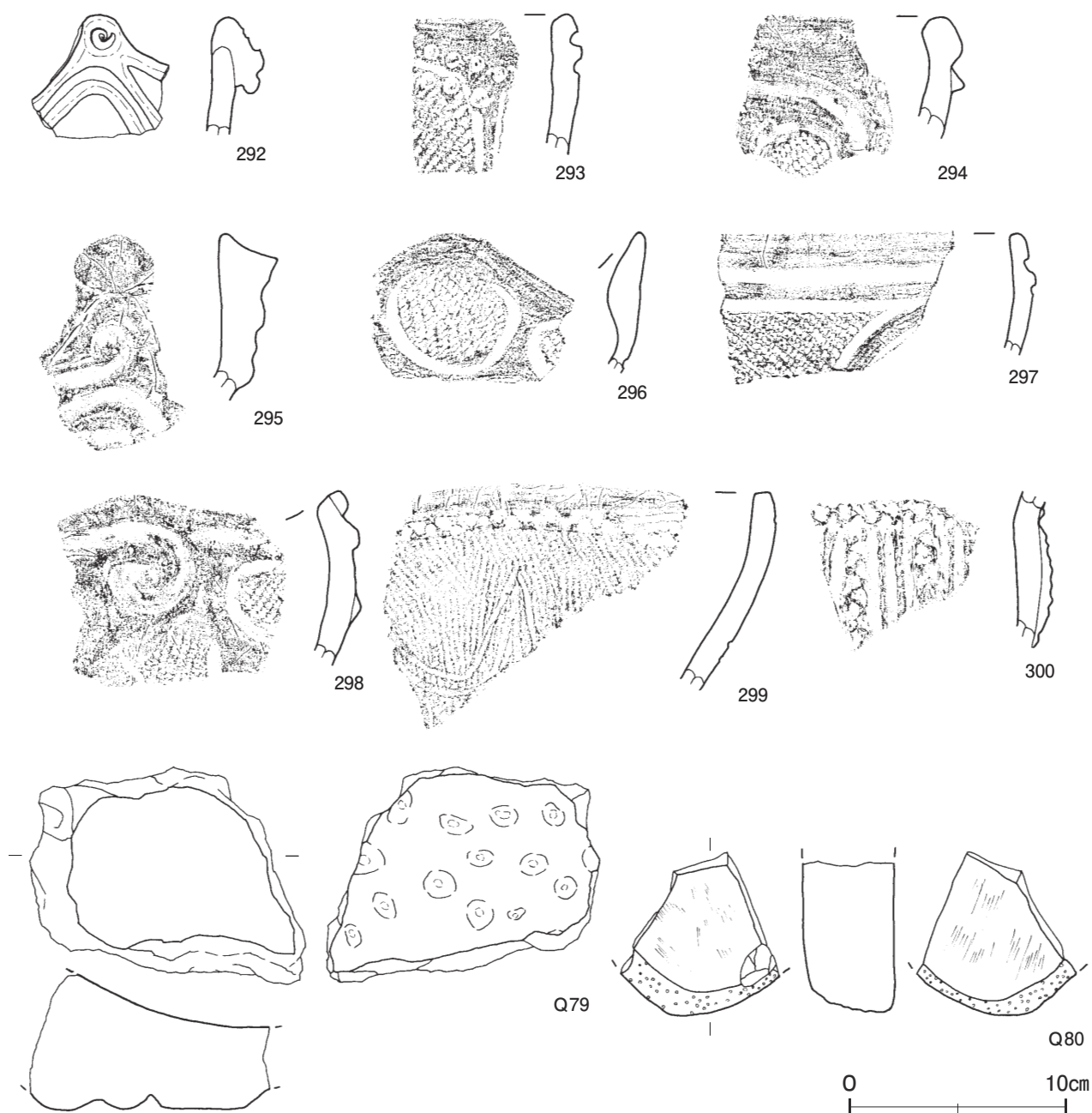
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 11・12層は P 1の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量	11 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量	12 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 345 点 (深鉢 343, 浅鉢 2), 石器 2 点 (石皿, 砥石), 剥片 2 点 (瑪瑙) が出土している。292・299, Q 79 は南東部の覆土下層から出土しており, 埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 88 図 第 27 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 27 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 88 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
292	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	把手頂部に渦巻文 隆帯による区画文 一部隆帯上に沈線	覆土下層	
293	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部2列の円形刺突文 地文に単節縄文 RL (縦) 沈線による懸垂文	覆土中	
294	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 隆帯と太沈線による区画文 区画内単節縄文 LR (横)	覆土中	
295	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	円柱状の把手 太沈線により文様描画	覆土中	
296	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	波状口縁 中央部に沈線による円文を描画 区画内単節縄文 RL (横)	覆土中	
297	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁上部にシャープな沈線が一巡 隆帯による区画文 隆帯に沿って沈線を施文 区画内単節縄文 RL (横)	覆土中	
298	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯による渦巻文・楕円区画 区画内及び地文に単節縄文 LR (横)	覆土中	
299	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	交互刺突による波状文が一巡 地文に単節縄文 RL (横・斜) 並行沈線による弧状文を描画	覆土下層	PL110
300	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒色粒子・赤色斑点	にぶい橙	普通	交互刺突による波状隆帯を横位・縦位に貼付 縦位の隆帯間に太沈線を垂下	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 79	石皿	(10.1)	(12.7)	6.5	(889.7)	安山岩	表面皿状に研磨 裏面多孔石 凹み痕深さ 0.6 ~ 1.2cm	覆土下層	PL178
Q 80	砥石	(7.6)	(7.4)	4.4	(336.5)	雲母片岩	表裏面に平坦な砥面	覆土中	

第 28 号 竪穴建物跡 (第 89・90 図 PL13)

位置 調査区中央部西寄りの C 2 f8 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 31 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 34 号 竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径 5.48m, 短径 3.50m の楕円形で, 長径方向は N - 18° - E である。壁は高さ 30cm 前後で, 緩やかに傾斜している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部南寄りに付設されている。長径 70cm, 短径 60cm の楕円形で, 床面を 15cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は東部に位置し, 火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 焼土ブロック少量
- 4 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット 7か所。P 1 ~ P 4 は深さ 40 ~ 68cm で, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5 ~ P 7 は深さ 20 ~ 25cm で, 補助柱穴と考えられる。

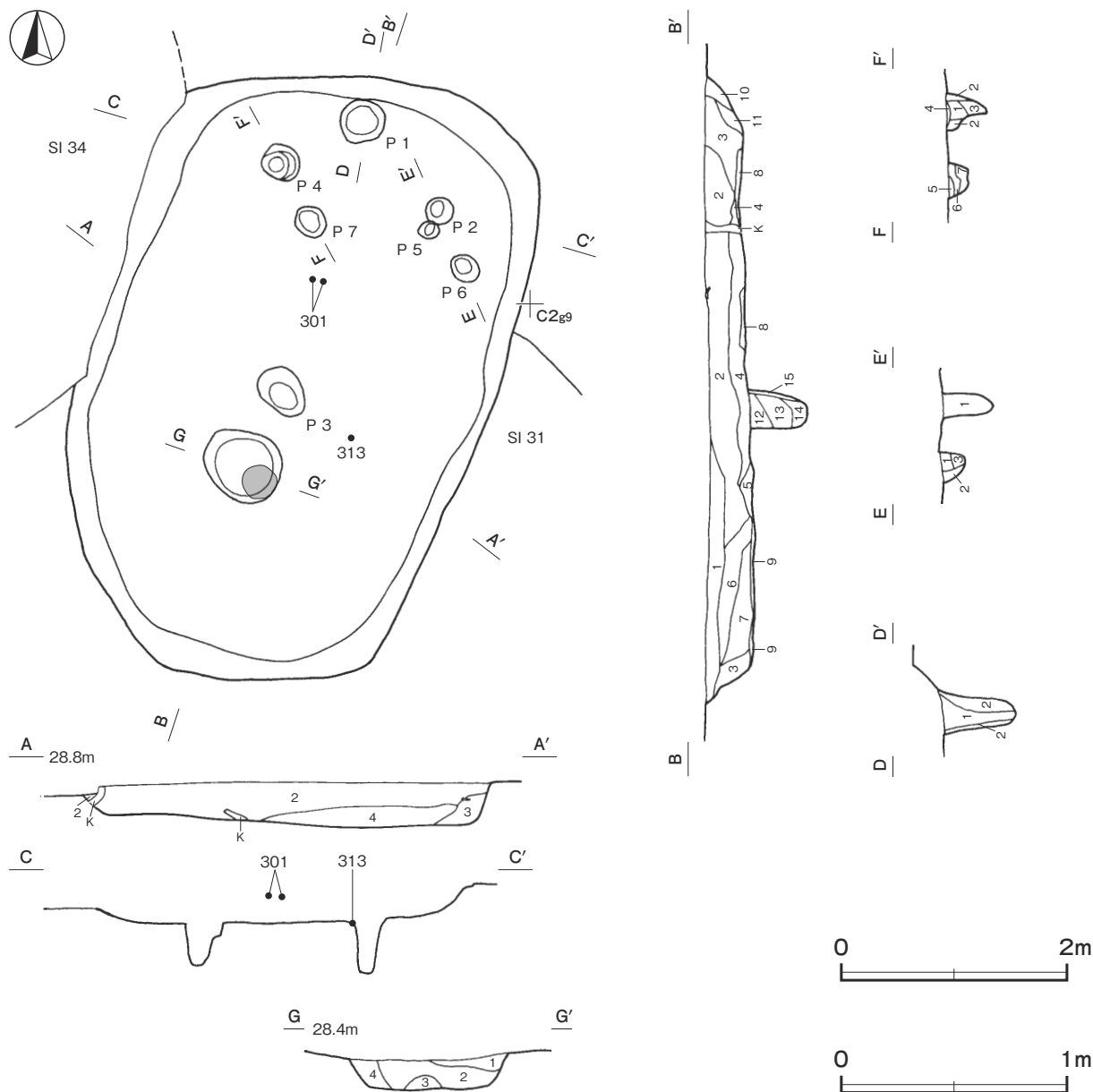
ピット土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 7 にぶい黄褐色 焼土粒子微量

覆土 11 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。第 12 ~ 15 層は P 3 の覆土である。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 褐 色 ロームブロック微量
- 9 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 11 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 12 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 13 暗 赤 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 14 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 15 黒 褐 色 ロームブロック少量



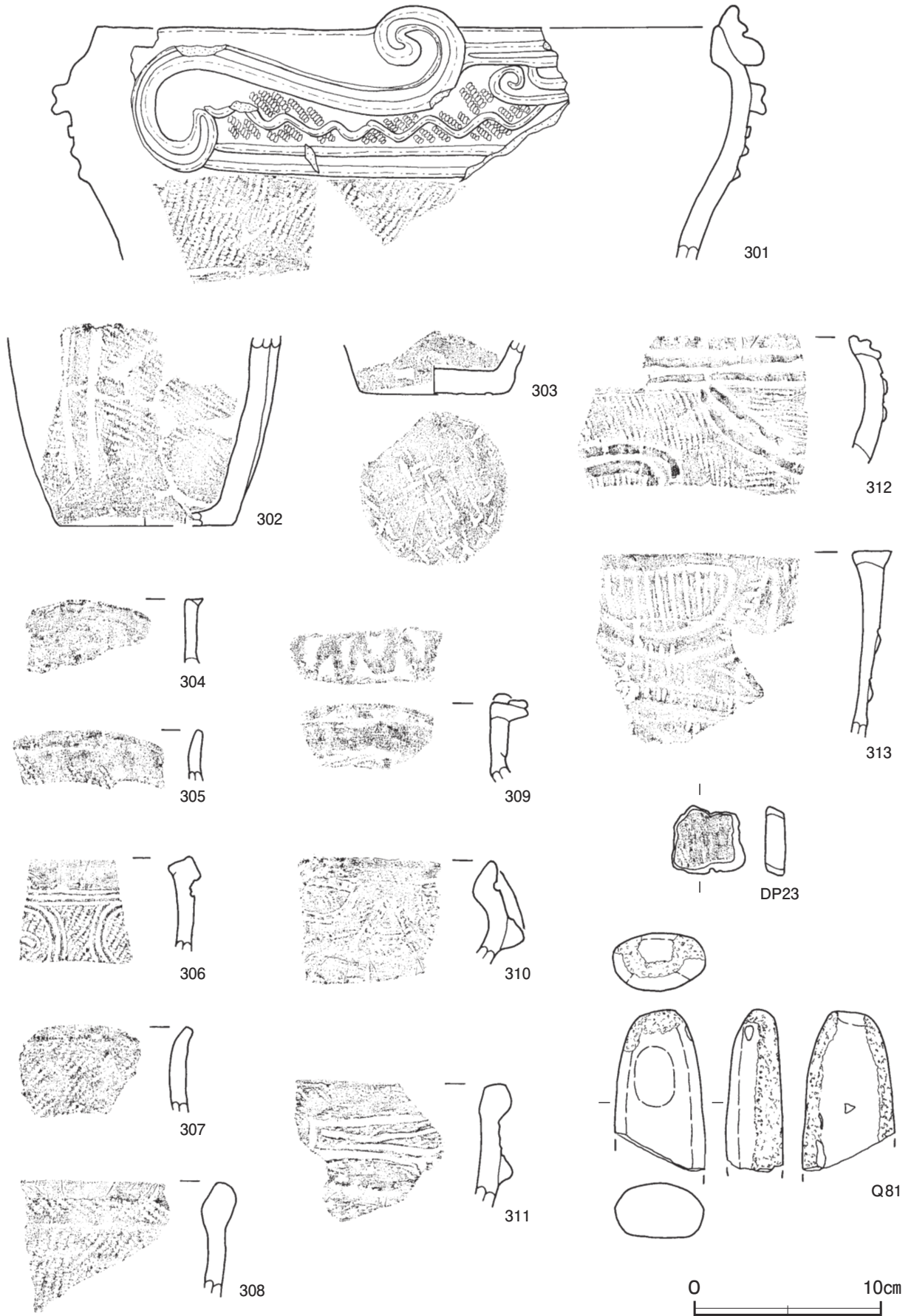
第 89 図 第 28 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 323 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 4 点 (磨製石斧, 磨製石斧未成品, 磨石, 砥石), 剥片 1 点 (石英), 残核 2 点 (チャート・安山岩), 自然礫 1 点 (チャート) が出土している。313 は東部の床面から, 301 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 28 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 90 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
301	縄文土器	深鉢	[33.4]	(13.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	背割れ隆帯による横 S 字状文 隆帯下単節状文 RL (横) 波状隆帯・並行隆帯 頸部同一原体による縦施文	覆土上層	10% PL110
302	縄文土器	深鉢	-	(10.1)	[9.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	蒲鉾状隆帯が垂下 隆帯に沿って沈線を施文 隆帯及び地文に単節縄文 RL (横)	覆土中	10%
303	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	8.1	長石・石英・雲母・赤色斑点	にぶい橙	普通	下端横方向のナデ 底面に網代痕	覆土中	



第 90 図 第 28 号竖穴建物跡出土遺物実測図

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
304	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・黒色 粒子	にぶい橙	普通	口唇頂部に平坦面 外・内面横方向のナデ	覆土中	
305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部は部分的に外反 地文に単節縄文LR (縦)をまばらに施文	覆土中	
306	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に内傾の平坦面 地文に 単節縄文RL(縦)半截竹管により横線文・曲 線文を描画	覆土中	
307	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 上部の欠損面に研磨痕	覆土中	
308	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単節縄文RL(横)肥厚 部以下(縦)	覆土中	
309	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口唇頂部に平坦面 蛇行隆帯が一巡	覆土中	
310	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による区画文 隆帯上に単節縄文LR(縦・ 横) 区画内有節沈線	覆土中	
311	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部肥厚 隆帯と沈線により文様描画 隆帯 上に単節縄文RL(横) 区画内(縦)	覆土中	
312	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	浅黄橙	普通	地文に単節縄文RL(横・斜) 2条の隆帯によ り文様描画	覆土中	
313	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	にぶい赤褐	普通	口唇頂部平坦 隆帯により区画文・横線文を描 画 部分的に隆帯上にキザミ目	床面	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP23	土器片錘	3.7	3.9	1.1	18.2	長石・石英・雲母	赤褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 81	磨製石斧 未成品	(8.7)	4.9	3.1	(194.1)	砂岩	表裏面研磨 両側縁微細な敲打痕 刃部欠損	覆土中	

第 29 号 竪穴建物跡 (第 91 ~ 97 図 PL14・15)

位置 調査区北東部の C 4 e6 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 622・635 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びているため、南北径 5.41m で、東西径は 7.60m しか確認できなかった。楕円形で、長径方向は N - 79° - E である。壁は高さ 25 ~ 40cm で、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 3 か所。炉 1 は中央部に付設されている。径 83cm の円形で、床面を 6cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉 2 は、炉 1 の西側に位置し、炉 1 に掘り込まれている。長軸 105cm、短軸 86cm の長方形の石囲い炉である。26 個の炉石で構築されており、炉石には自然礫のほか、石皿 (Q 90・Q 93) や砥石 (Q 88・Q 89・Q 91・Q 92) が転用されている。炉床は、床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。炉 3 は、炉 1 の東側に位置している。長径 64cm、短径 55cm の楕円形で、床面を 9cm ほど掘りくぼめた地床炉である。中央部がわずかに赤変硬化している。重複関係から炉 2 から炉 1 へ作り替えられており、炉 3 は新旧関係が不明で、灰溜めのような機能も想定できる。

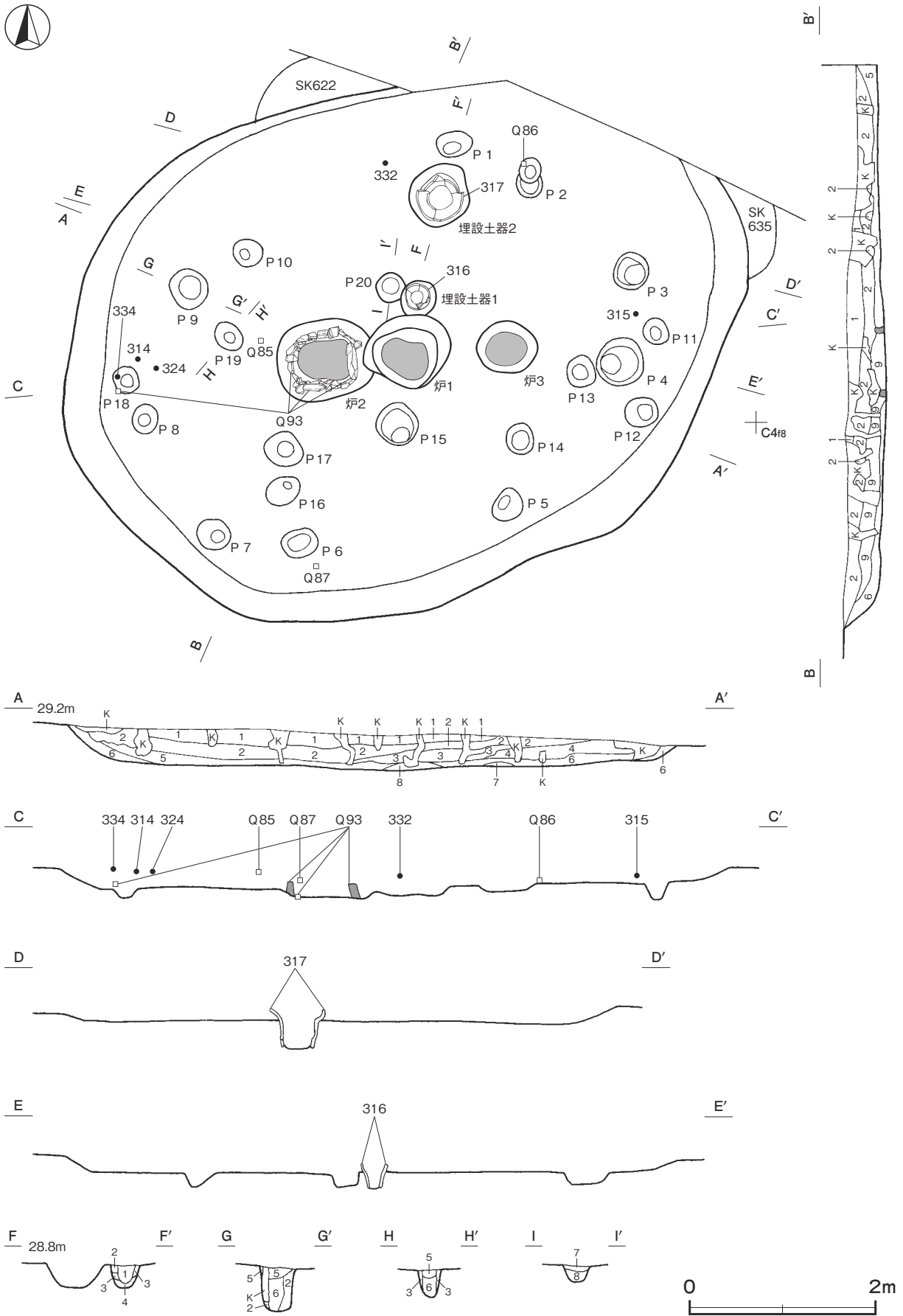
炉 1・2 土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

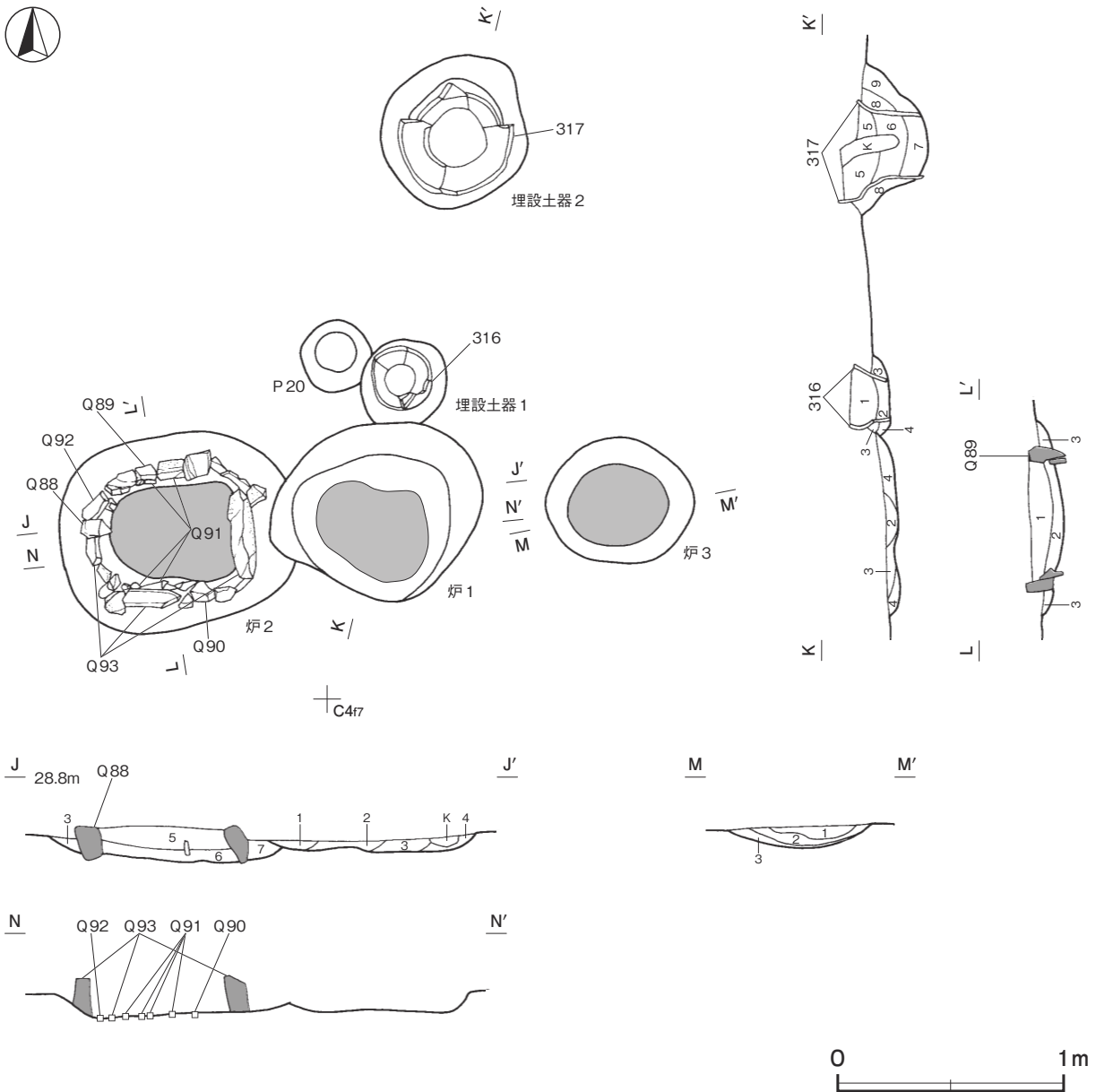
炉 3 土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

埋設土器 2 か所。埋設土器 1 (316) は、中央部の炉 1 の北側に隣接して、埋設土器 2 (317) は北部にそれぞれ位置している。いずれも胴部下半を欠き、正位の状態で埋設されている。掘方は、埋設土器 1 が径 40cm の円形で、深さ 15cm、埋設土器 2 が径 65 ~ 74cm の楕円形で、深さ 40cm である。



第91図 第29号竖穴建物跡実測図(1)



第92図 第29号竪穴建物跡実測図(2)

埋設土器1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

埋設土器2土層解説

- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

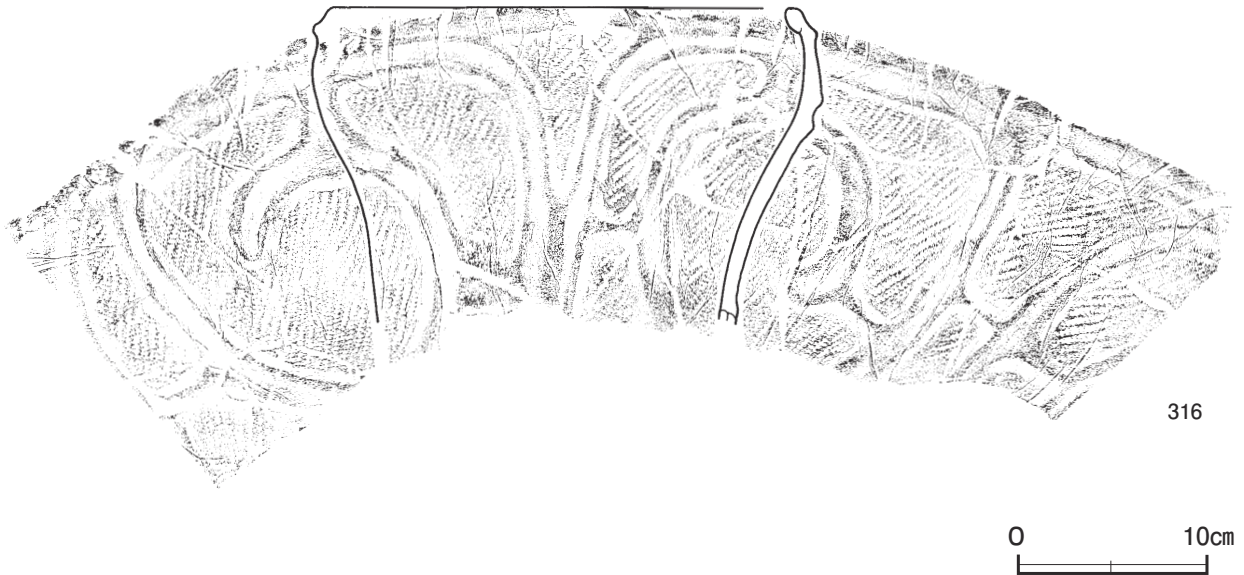
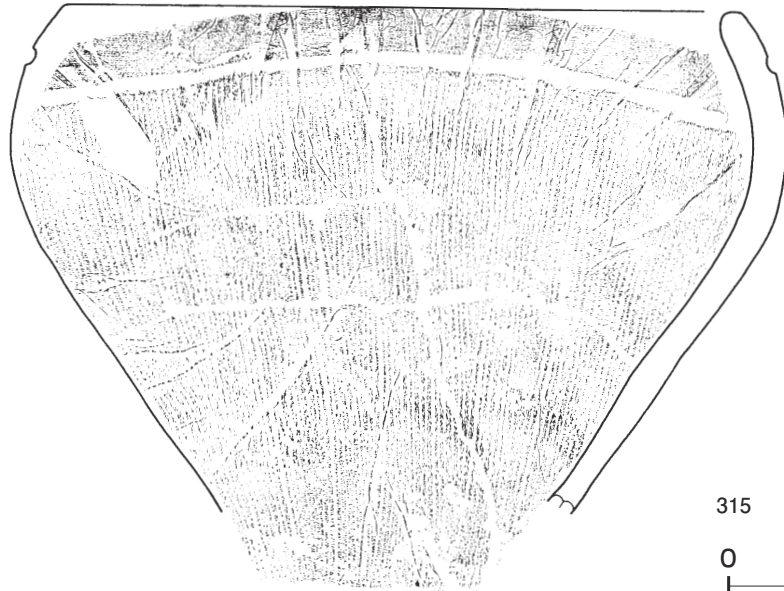
- 8 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子多量

ピット 20か所。P 1～P 9は深さ33～50cmで、配置から主柱穴である。P 10～P 20は深さ8～38cmで、補助柱穴と考えられる。

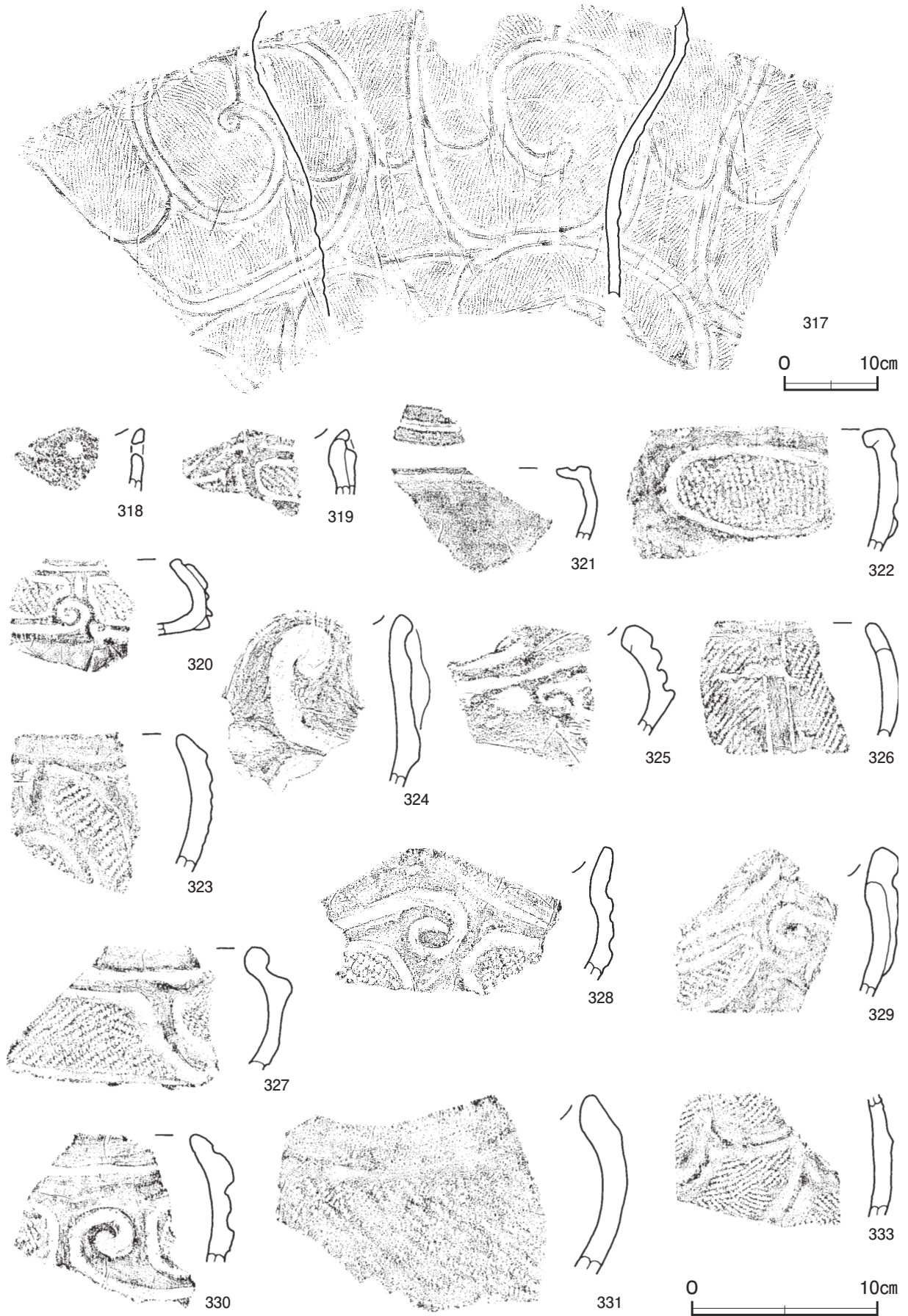
ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

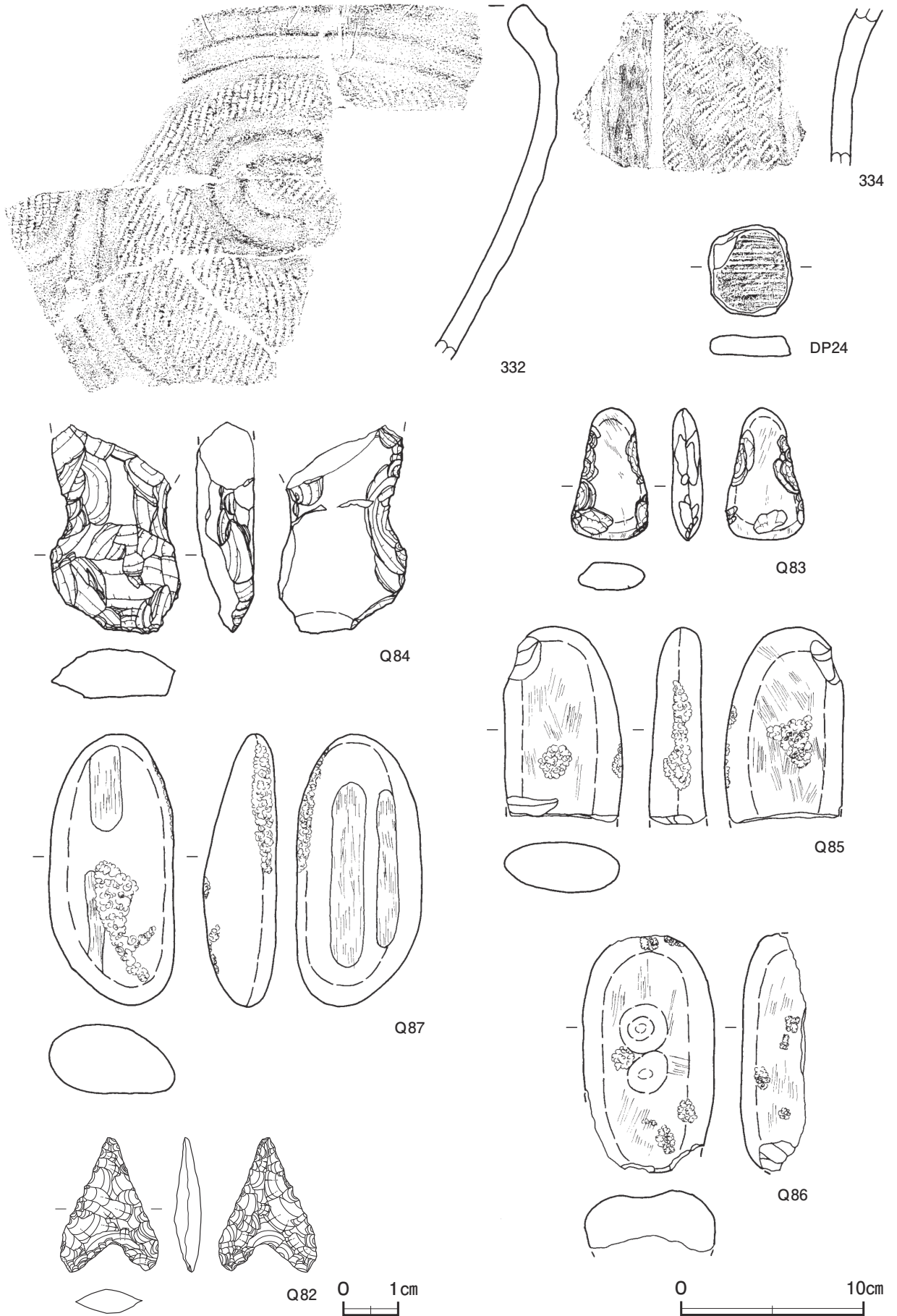
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量



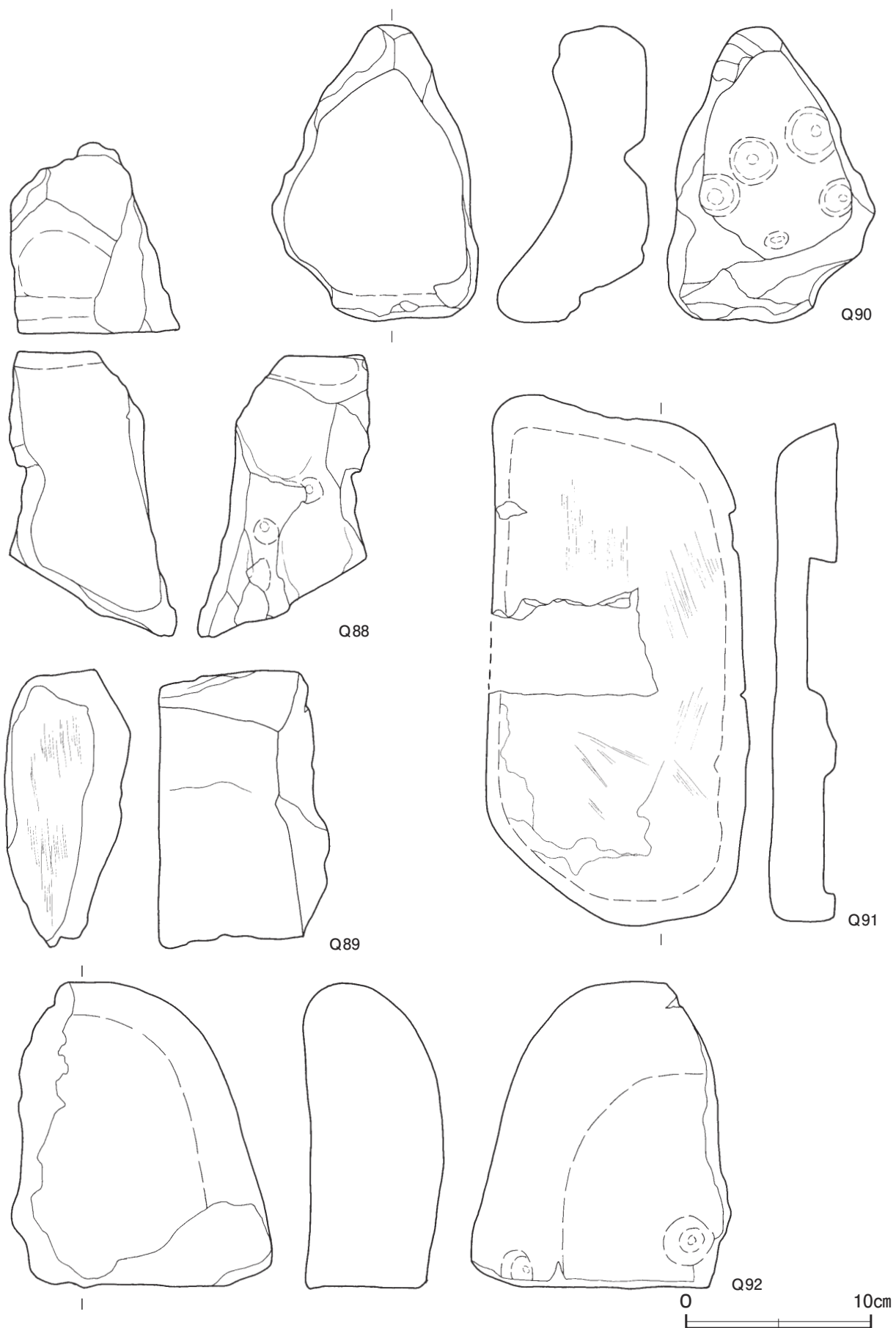
第 93 図 第 29 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



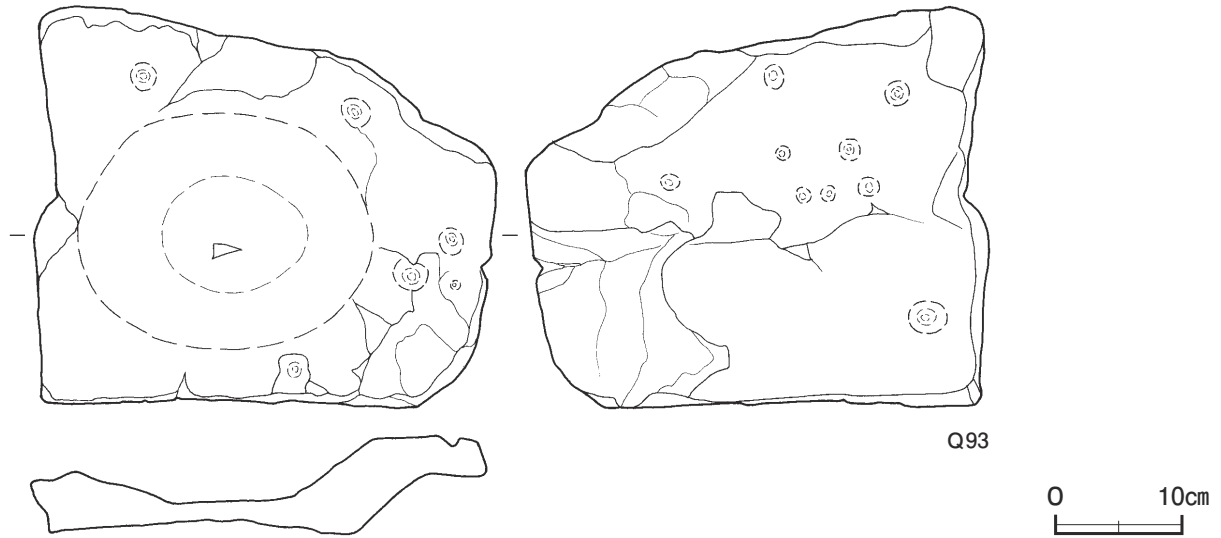
第94图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 95 図 第 29 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第96图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)



第 97 図 第 29 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (5)

覆土 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子，焼土粒子が多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 2,241 点（深鉢 2,218，浅鉢 17，鉢 1，壺 5），土製品 1 点（土器片円盤），石器 43 点（鏃 1，打製石斧 4，磨製石斧 1，石皿 1，磨石 7，敲石 1，凹石 2，砥石 1，炉石 25），石核 2 点（石英），剥片 10 点（瑪瑙 2，チャート 6，粘板岩 2），母岩 1 点（瑪瑙），自然礫 1 点が出土している。316 は埋設土器 1，317 は埋設土器 2，Q 88～Q 93 は石囲い炉の炉石で，石皿・砥石などを転用している。Q 86 は北東部の床面から出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。315 は東部，Q 87 は南部の覆土下層から，314・324・334，Q 85 は西部，332 は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。遺物の多くは覆土上層から中層にかけて出土しており，埋め戻される過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第 29 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 93～97 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
314	縄文土器	壺	[146]	(14.2)	-	長石・石英・白色粒子	褐	普通	口縁部無文，隆帯による横長の中空突起が巡る，胴部無文，低い隆起線により文様描画	覆土中層	15% PL111
315	縄文土器	深鉢	[26.6]	(20.1)	-	長石・石英・雲母・細礫・赤色粒子	橙	普通	口縁部無文，太沈線を巡らし区画，胴部は櫛歯状工具による縦方向の条線文	覆土下層	30% PL111
316	縄文土器	深鉢	24.6	(16.6)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	普通	2条の隆起線により文様描画，隆起線間磨消，区画内単節縄文 RL (縦)	埋設土器 1	50% PL111
317	縄文土器	深鉢	-	(33.3)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (ランダム)，2条の隆起線により文様描画，隆起線に沿って磨消	埋設土器 2	80% PL111
318	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁中央に穿孔，細い沈線が一巡	覆土中	
319	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	波頂部に麻手文，隆帯により区画，区画内単節縄文 RL (横)	覆土中	
320	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	背割れ隆帯による渦巻文・区画文，区画内 0 段，多条縄文 LR (縦)	覆土中	
321	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	口唇頂部に平坦面を作り出し沈線が一巡，外・内面横方向のナデ	覆土中	
322	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	太沈線による楕円区画，区画内単節縄文 RL (横)	覆土中	
323	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部無文帯，隆起線により文様描画，区画内単節縄文 RL (縦)	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
324	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	太沈線による渦巻文 外・内面磨き	覆土中層	
325	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・白色粒子	にぶい黄橙	普通	隆帯貼付 沈線で渦巻文・区画文を描画 区画内単節縄文LR(横)を施文	覆土中	
326	縄文土器	深鉢	-	-	-	白色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部無文帯 地文に単節縄文RL(縦) 口縁直下から2本の並行沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁上部に太沈線が一巡 隆帯による区画文 区画内単節縄文LR(横)	覆土中	
328	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	普通	太沈線により渦巻文・区画文を描画 区画内単節縄文LR(縦)	覆土中	
329	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による蕨手文・区画文を描画 区画内単節縄文RL(横)	覆土中	
330	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上部に沈線が一巡 太沈線により渦巻文・区画文を描画 区画内単節縄文LR(横)	覆土中	
331	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部無文帯 隆起線により口縁部を区画 地文に単節縄文RL(横)	覆土中	
332	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文LR(縦・横) 並行微隆起帯により文様描画 口縁部及び微隆起線間磨消	覆土中層	PL111
333	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に単節縄文RL(ランダム) 微隆起線で文様描画	覆土中	
334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文RL(縦) 幅広の磨消帯が垂下	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP24	土器片円盤	5.0	4.6	1.3	36.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	胴部片 周縁部粗く研磨	覆土中	未成品 _a

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 82	鏃	2.5	1.8	0.5	1.4	チャート	基部中央部深く彎入 両面押圧剥離	覆土中	PL161
Q 83	打製石斧	7.3	4.2	1.6	63.7	角閃岩	小型 両側縁敲打調整 刃部は表裏を研磨 末広がり	覆土中	PL166 被熱
Q 84	打製石斧	(11.5)	7.1	3.1	(291.6)	ホルンフェルス	分銅形 表裏に自然面 挟り部は表裏を敲打 片刃部欠損	覆土中	PL162
Q 85	敲石	(10.8)	6.5	3.2	(292.2)	砂岩	両側縁及び表裏面に微細な敲打痕 側縁頂部敲打による剥離	覆土中層	
Q 86	凹石	(13.0)	7.2	(3.6)	(398.3)	砂岩	両側縁に弱い稜をもつ 表面研磨 中央部に凹み痕2か所 裏面剥離	床面	PL180
Q 87	砥石	14.9	6.8	4.0	582.5	閃緑岩	両側縁及び表面に微細な敲打痕 表裏面に浅い溝状の砥面	覆土下層	
Q 88	炉石	15.4	9.1	10.4	1459.3	砂岩	砥石転用 表面は皿状の砥面 裏面凹み痕3か所	炉2	
Q 89	炉石	15.0	7.9	9.2	1261.8	緑色岩	砥石転用 片面平坦な砥面	炉2	
Q 90	炉石	16.0	11.2	8.6	1283.2	砂岩	石皿転用 表面は皿状に研磨 裏面は多孔石	炉2	PL178
Q 91	炉石	28.7	13.9	4.1	2187.9	石英斑岩	砥石転用 表面は長軸方向の砥面 裏面剥離	炉2	PL178
Q 92	炉石	16.6	14.0	8.8	2572.7	砂岩	砥石転用 表面は皿状の砥面 周縁部砥面 裏面凹み痕2か所	炉2	PL178
Q 93	炉石	31.6	36.4	8.7	11320.0	雲母片岩	石皿転用 表面は皿状に深く研磨 凹み痕6か所 裏面凹み痕9か所	炉2	PL178

第30号竪穴建物跡 (第98・99図 PL15)

位置 調査区南西部奇りのC2h8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第626・652号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.20m、短径3.58mの楕円形で、長径方向はN-81°-Wである。壁は高さ30cm前後で、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。西壁際から焼土ブロックを確認したが、床面との間に間層があり、埋没過程で投棄されたものである。

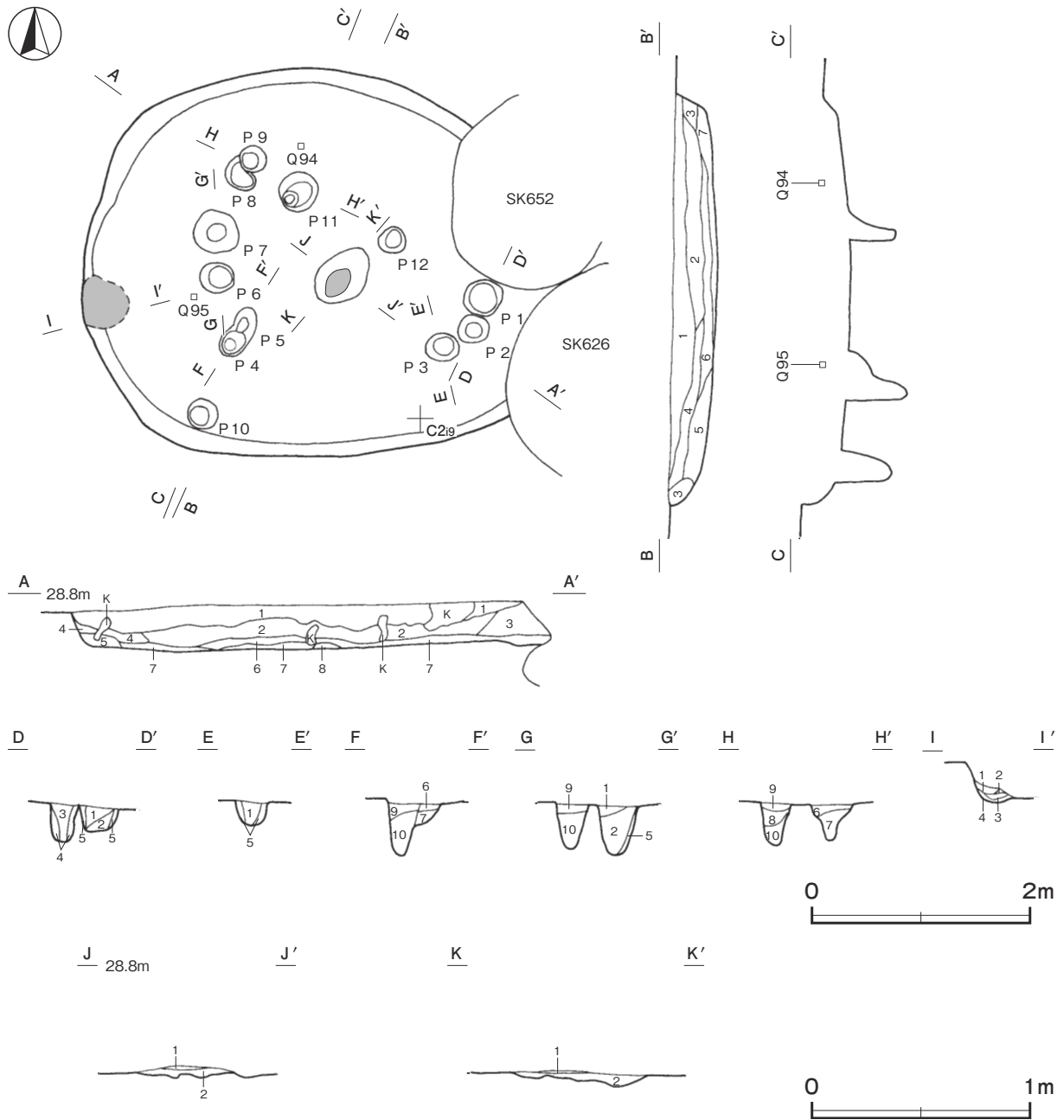
焼土土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 明褐色 焼土粒子中量 | 3 明褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 明赤褐色 焼土ブロック中量 | 4 明褐色 焼土ブロック少量 |

炉 中央部に付設されている。長径60cm、短径40cmの楕円形で、床面とほぼ同じ高さを使用した地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 2 黒褐色 ロームブロック中量 |
|-----------------------|-----------------|



第 98 図 第 30 号竪穴建物跡実測図

ピット 12か所。P 1～P 9は深さ 22～55cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 10は深さ 48cmで、出入口口施設に伴うピットと考えられる。P 11・P 12は深さ 42cm・14cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量 |

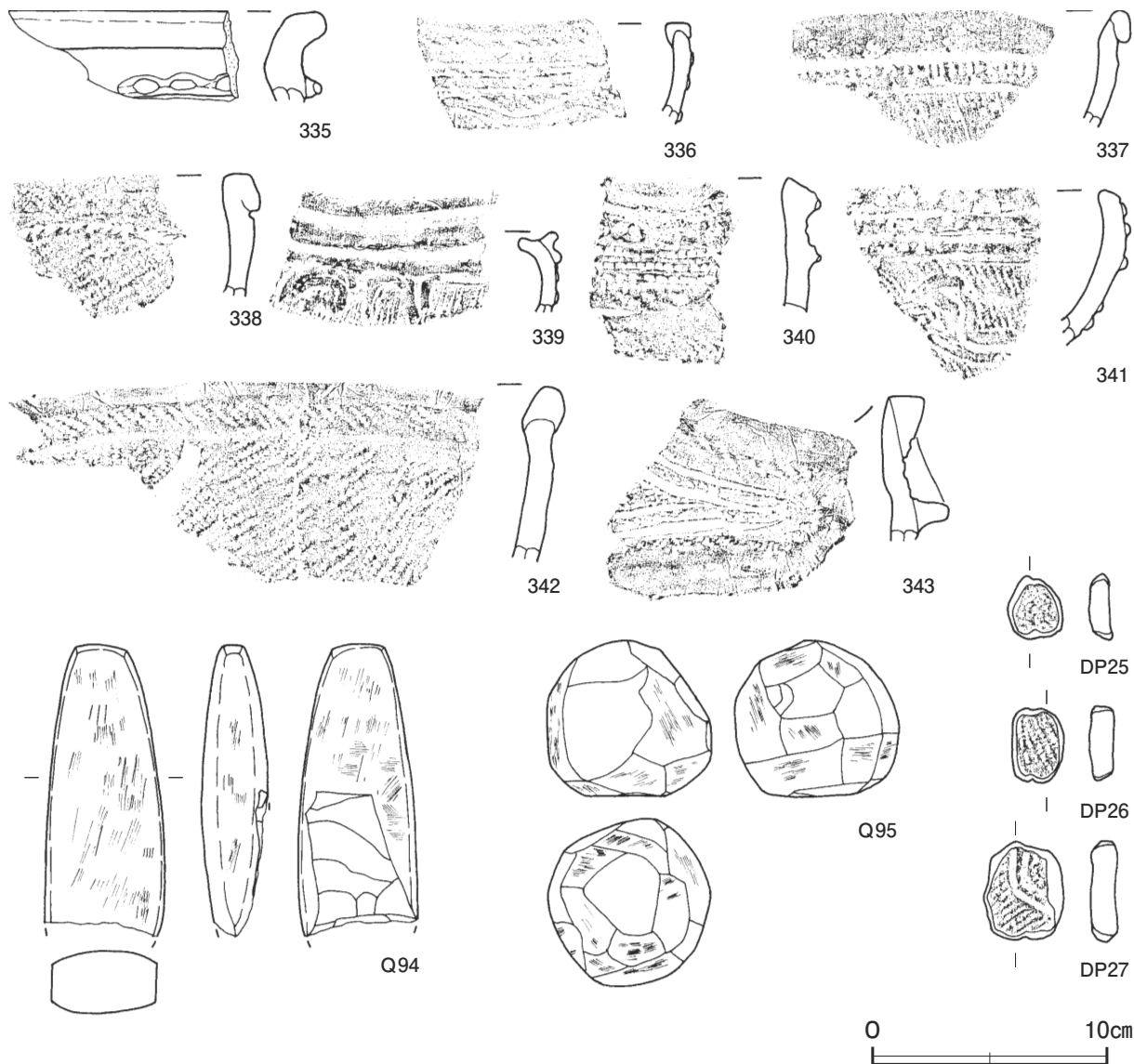
覆土 8層に分層できる。含有物が少なく、周囲から流れ込んでいる堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 697 点 (深鉢 692, 浅鉢 5), 土製品 3 点 (土器片錘), 石器 4 点 (磨製石斧, 石皿, 磨石・敲砥石), 剥片 2 点 (瑪瑙, 石英) が出土している。343 は西壁際の焼土ブロック層から, Q 94 は北部, Q 95 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。遺物は覆土上層から多く出土しており, 埋没する過程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 99 図 第 30 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 30 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 99 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
335	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部肥厚 横位の刺突隆帯が一巡	覆土中	
336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部に平坦面 地文に単節縄文 RL (横) 隆帯による横方向の並行線・蛇行文が一巡	覆土中	
337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上部に蒲鉾状隆帯を巡らせ隆帯下に幅広の連続爪形文が一巡 胴部は斜位の条線文	覆土中	
338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単節縄文 LR (横) 口唇下にペン先状の刺突が一巡 刺突以下 (縦)	覆土中	
339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 針状鉱物	にぶい褐	普通	口唇頂部の平坦面に太沈線が一巡 地文に撚糸文口縁上部に背割れ隆帯を一巡 隆帯により文様描画	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・白色 粒子・赤色粒子	にぶい褐	普通	横位の並行隆帯が一巡 隆帯上に圧痕文 隆帯 間3本の有節沈線が一巡 隆帯下は横位のナデ	覆土中	
341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文LR(縦) 隆帯により文様描画	覆土中	
342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部肥厚 肥厚部に単節縄文RL(横) 肥厚 部以下(縦)	覆土中	
343	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部に平坦面 庇状隆帯により文様描画 隆帯上に単節縄文RL(横) 区画内縄文施文 並行沈線	焼土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP25	土器片錘	2.8	2.4	1.0	6.6	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP26	土器片錘	3.2	2.3	1.1	9.4	長石・石英・雲母	赤褐	胴部片 両端にキザミ目 片側縁部を研磨	覆土中	
DP27	土器片錘	4.2	3.4	1.2	18.9	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部を粗雑に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 94	磨製石斧	(12.5)	5.1	2.8	(265.5)	砂岩	定角式 全面研磨 側縁部に稜 刃部欠損	覆土上層	PL166
Q 95	敲砥石	6.6	7.0	7.1	462.3	チャート	円盤の全面に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土上層	PL171

第31号竪穴建物跡(第100・101図 PL16)

位置 調査区南西部寄りのC2g8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第675号土坑を掘り込み、第28・34号竪穴建物、第655号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 二段掘り込みをもつ有段式竪穴建物である。楕円形で、主軸方向はN-69°-Wである。上段は長径6.20m、短径4.70mである。壁は高さ18~32cmで、外傾している。下段は長径3.25m、短径2.35mで、上段との高低差は16~36cmで、壁は外傾している。

床 上・下段ともにほぼ平坦で、下段のほぼ全体が踏み固められている。上段の壁下には壁溝が全周しており、下段は北壁から東壁にかけて壁溝が巡っている。

ピット 21か所。下段に伴うピットは3か所である。P1・P2は深さ94cm・92cmで、東西に対峙して位置していることから主柱穴である。P3は深さ24cmで、性格は不明である。上段に伴うピットは18か所である。P4~P7は深さ72~130cmで、配置から主柱穴である。P8~P14は深さ15~62cmで、壁際に位置していることから壁柱穴である。P15~P21は深さ22~35cmで、補助柱穴と考えられる。

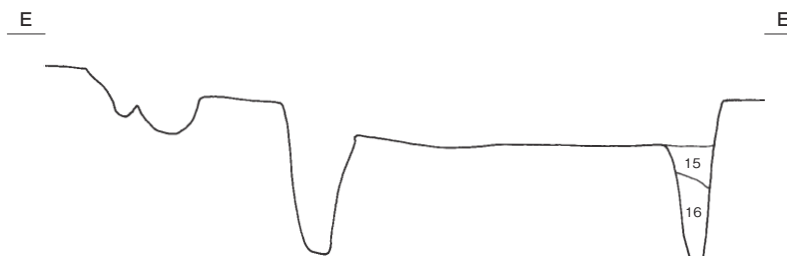
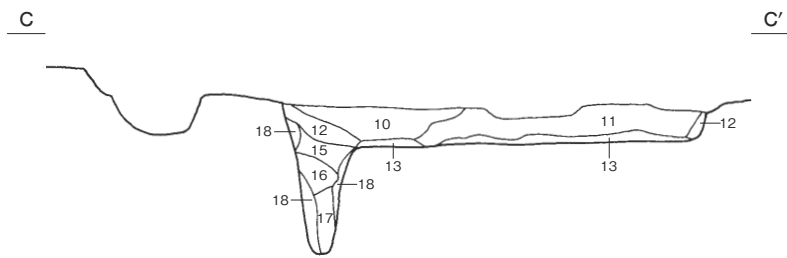
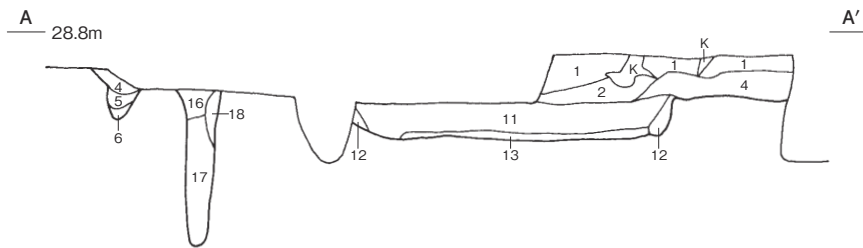
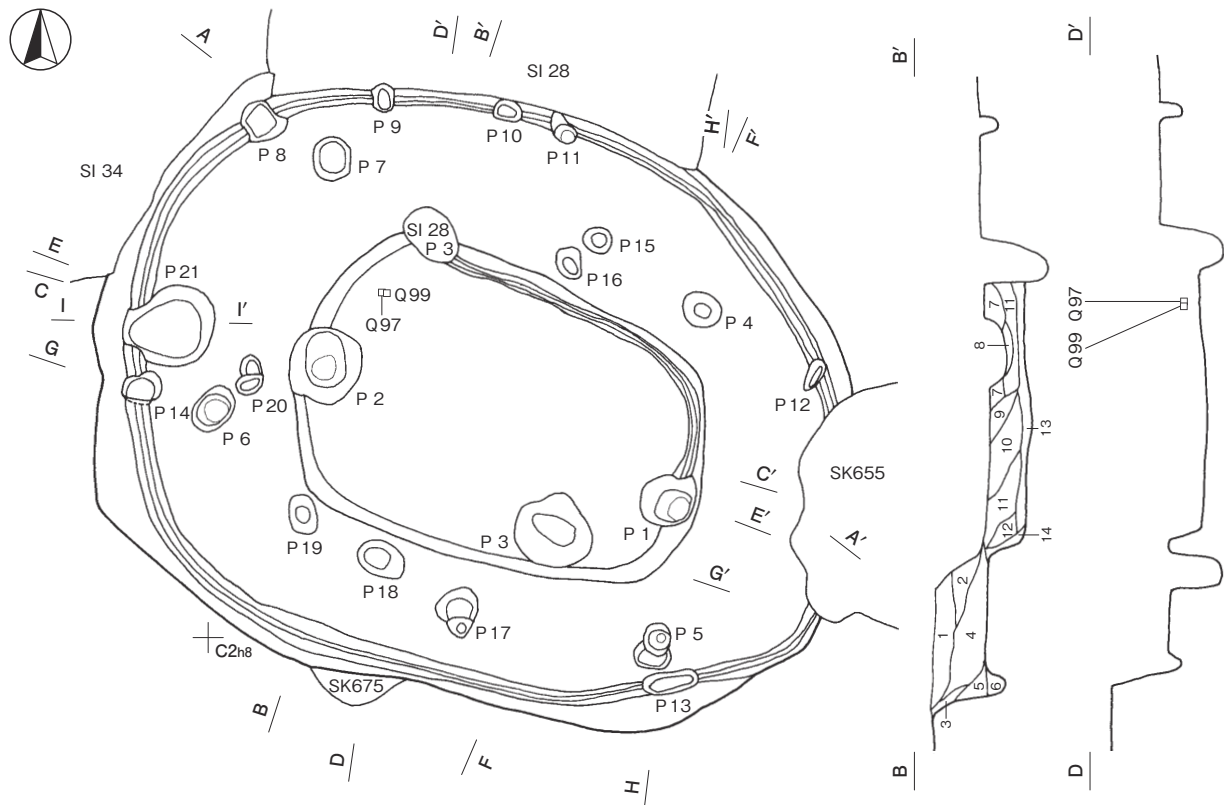
覆土 14層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。第15~18層は、各ピットの覆土である。

土層解説

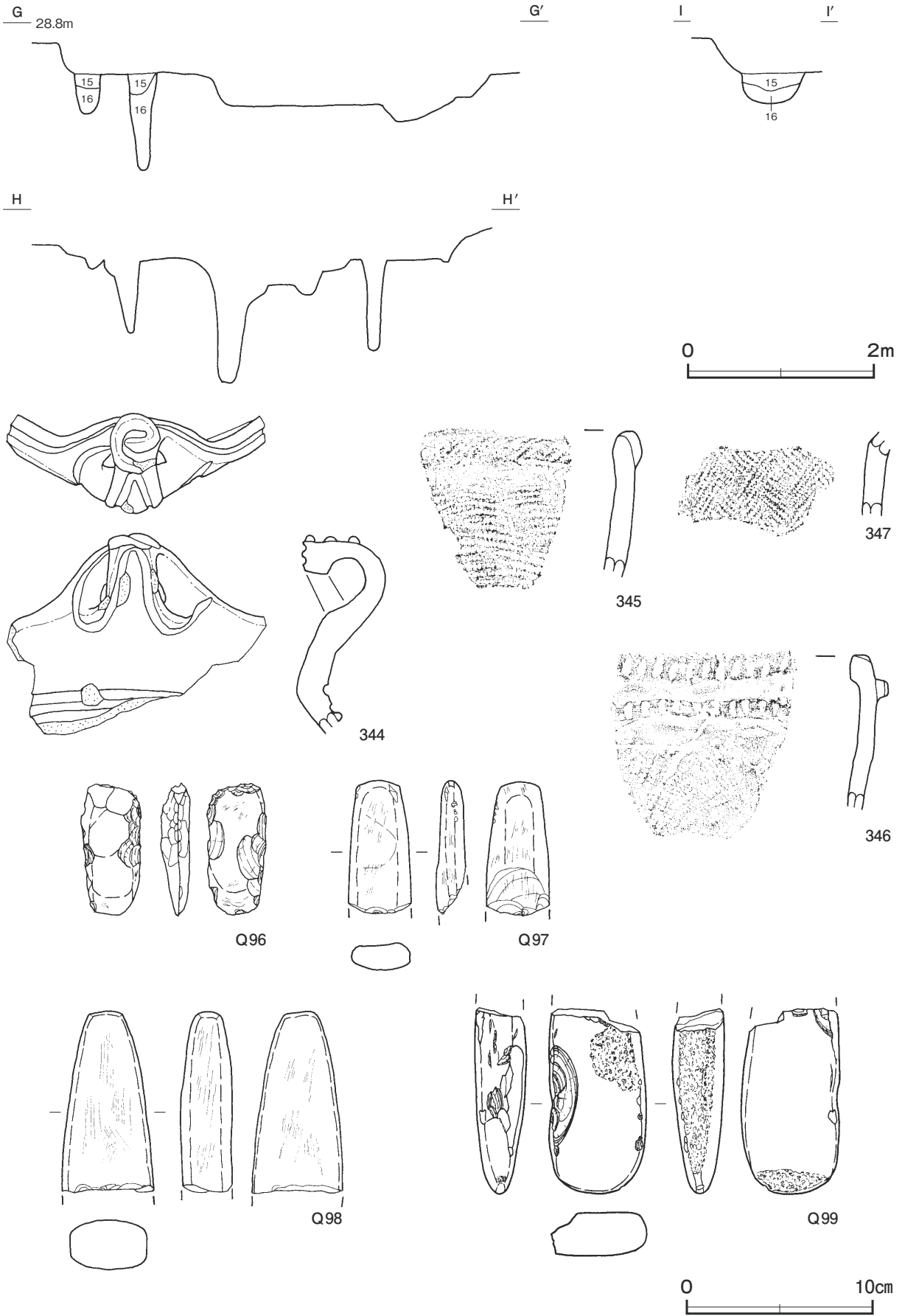
1 黒褐色	ローム粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	12 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック微量	14 暗褐色	ローム粒子中量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	15 明褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	16 にぶい褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	17 にぶい褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	ローム粒子少量	18 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片142点(深鉢)、石器5点(打製石斧1、磨製石斧3、磨製石斧未成品1)、自然礫4点が出土している。Q97・Q99は下段の北西部の床面からまとまって出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。344・346はP1の覆土中から出土しており、主柱穴を抜き取った後の埋土に混入したものと考えられる。

所見 楕円形を呈する有段式竪穴建物であり、時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 100 图 第 31 号竖穴建物跡实测图



第 101 図 第 31 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 31 号 竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 101 図)

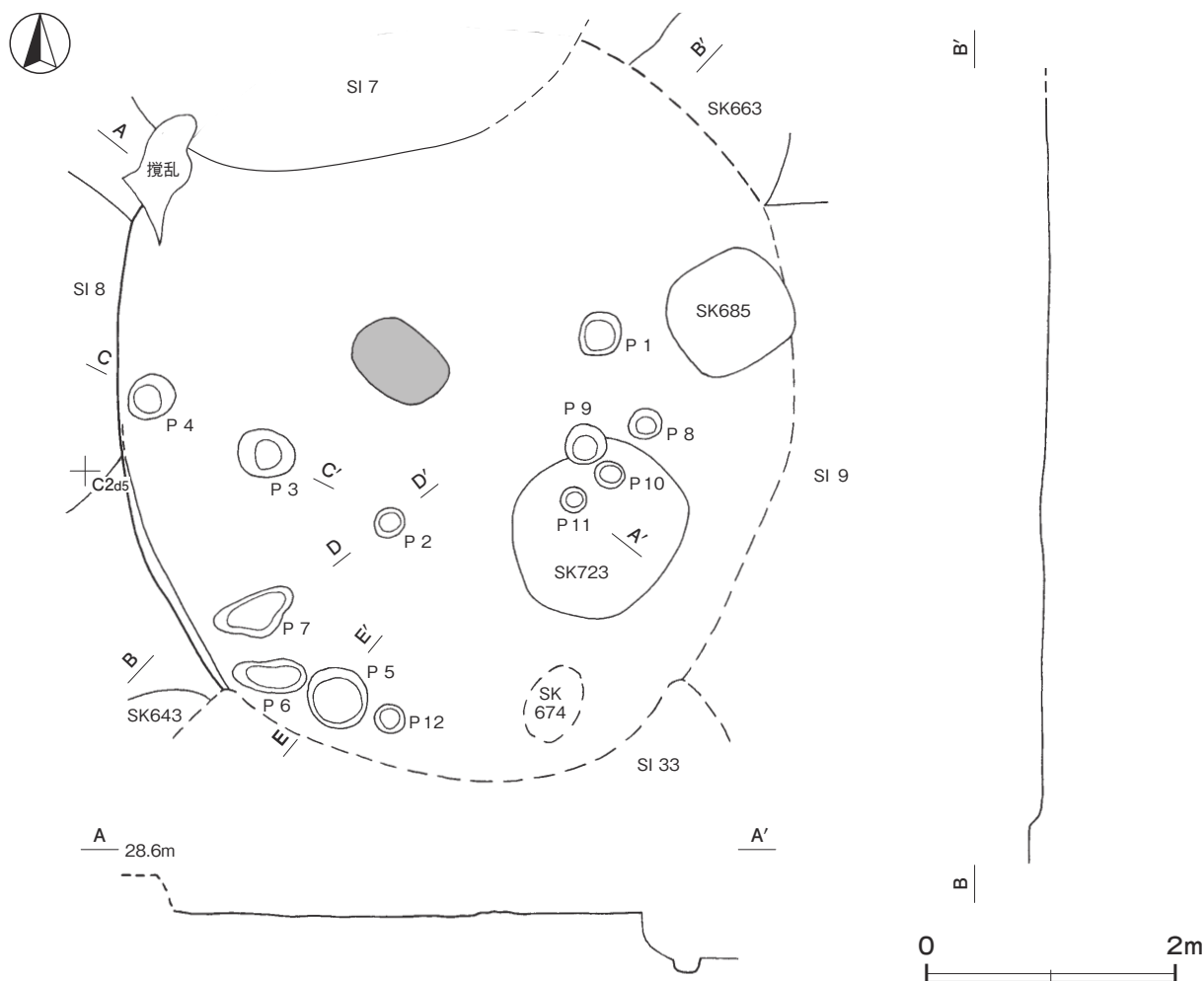
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
344	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	把手頂部に隆帯による渦巻文。頂部に沿って沈線 2本の太沈線を巡らせ頸部を区画	P 1 覆土中	PL112
345	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部肥厚。肥厚部に単節縄文 LR (横) 口唇部以下 (斜)	覆土中	
346	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇頂部及び口縁部にキザミ目隆帯が一巡。地に単節縄文 RL (縦)	P 1 覆土中	PL112
347	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	単節縄文 RL での縦・横施文による菱形構成	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 96	磨製石斧	7.1	3.2	1.5	48.7	角閃岩	小型 表裏面研磨 側縁部敲打調整 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	PL169
Q 97	磨製石斧	(7.2)	3.4	1.6	(59.1)	緑色凝灰岩	小型 全面研磨 周縁部に稜 刃部欠損	床面	PL169
Q 98	磨製石斧	(9.8)	4.9	2.8	(222.2)	安山岩	定角式 全面研磨 側縁部に稜 刃部欠損	覆土上層	PL166 被熱
Q 99	磨製石斧 未成品	(10.0)	5.3	2.8	(237.3)	ホルンフェルス	ほぼ全面を研磨 側縁部に稜 片側縁及び刃部片面に微細な敲打調整 基部欠損	床面	

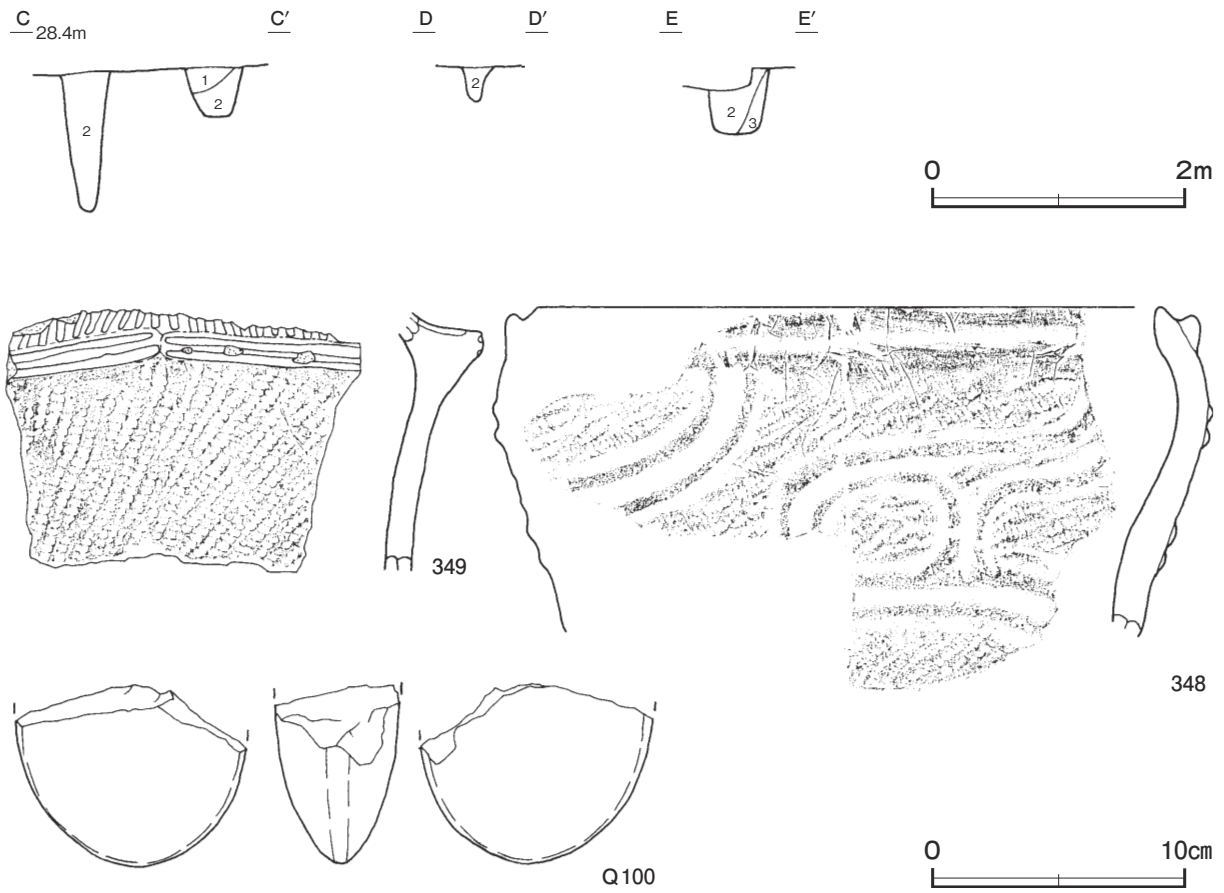
第 32 号 竖穴建物跡 (第 102・103 図)

位置 調査区西部の C 2 c5 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 8 号 竖穴建物跡, 第 642・643・662・663・682 号 土坑を掘り込み, 第 7・9・33 号 竖穴建物, 第 685・723 号 土坑に掘り込まれている。第 674 号 土坑との新旧関係は不明である。



第 102 図 第 32 号 竖穴建物跡実測図



第103図 第32号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 遺構の重複が激しいため明確でないが、壁部の残存状況や炉、ピットの配置から、長径5.90m、短径5.50mの楕円形で、長径方向はN-21°-Eと推定できる。壁は高さ10～30cmで、緩やかに傾斜している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長軸80cm、短軸55cmの隅丸長方形で、床面とほぼ同じ高さを使用している地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 12か所。P1～P4は深さ33～120cmで、配置から支柱穴と考えられる。P5～P7は深さ21～54cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P8～P12は深さ20cm前後で、重複している第9号竪穴建物に伴う可能性もあるが、詳細は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 単一層で、ローム粒子が少量含まれている暗褐色土である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢8，浅鉢1），石器1点（磨石）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 32 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 103 図)

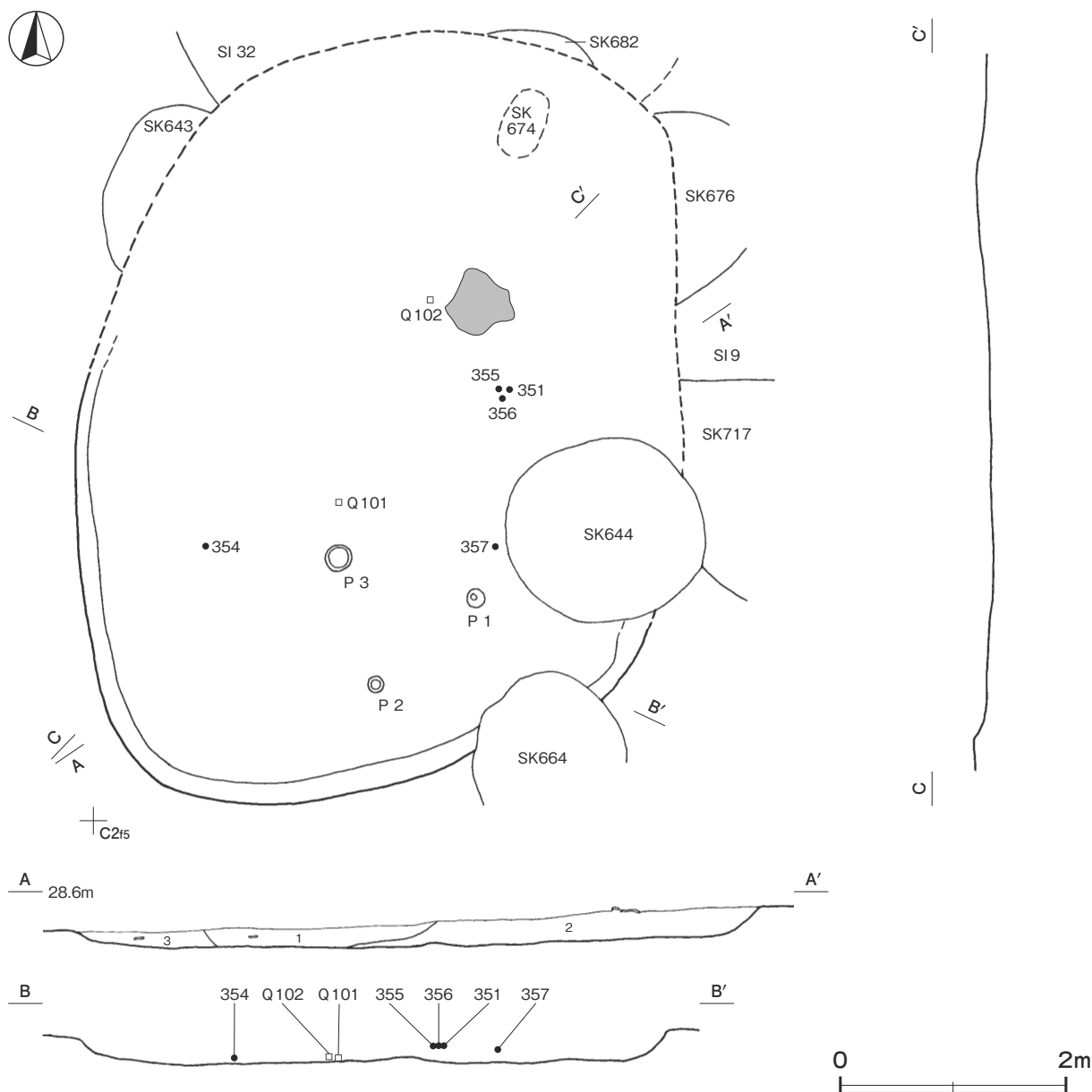
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
348	縄文土器	深鉢	[24.6]	(13.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 地文に単節縄文LR(横) 隆帯による口縁部文様	覆土中	10% PL112
349	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口唇頂部に平坦面 条線文を施文 口縁上部に2本の並行沈線 地文に単節縄文RL(縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 100	磨石	(7.1)	(9.2)	(5.0)	(380.3)	石英斑岩	周縁部を残し表裏面研磨	覆土中	PL180

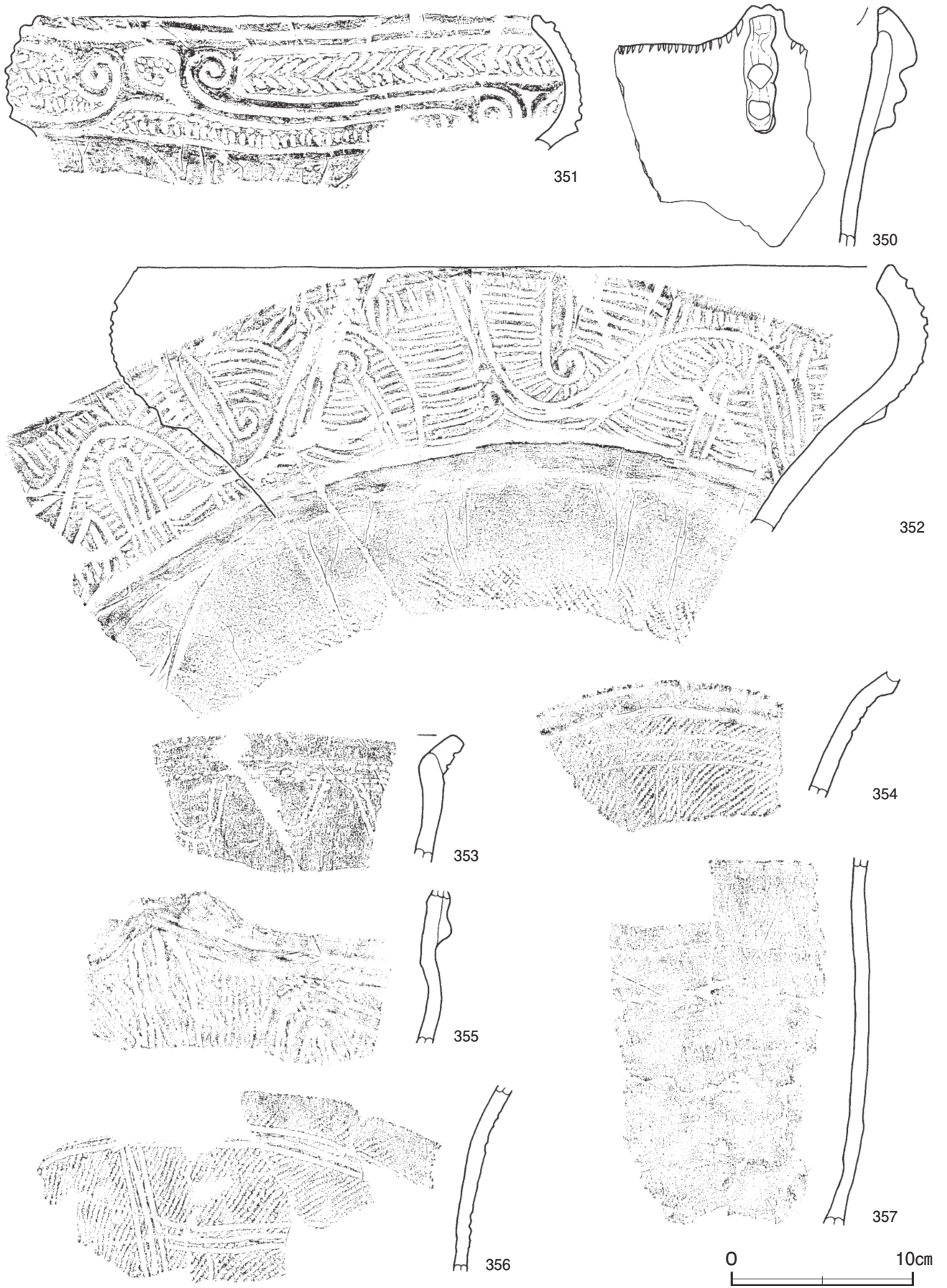
第 33 号 竪穴建物跡 (第 104 ~ 106 図)

位置 調査区西部の C 2 d5 区, 標高 28m ほどの台地平坦部に位置している。

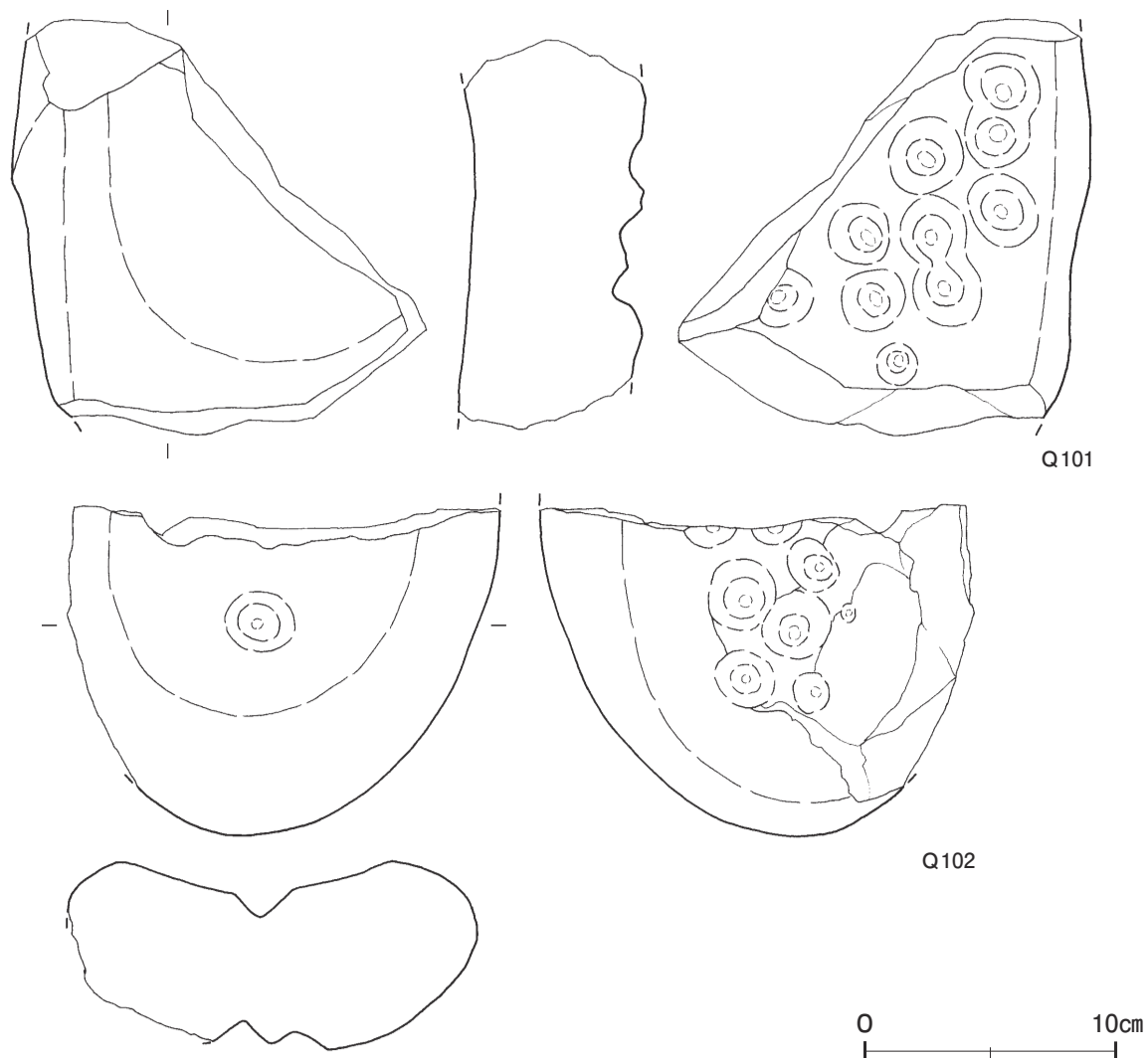
重複関係 第 9・32 号 竪穴建物跡, 第 643・676・682・686・697・717 号 土坑を掘り込み, 第 644・664 号 土坑に掘り込まれている。第 674 号 土坑との新旧関係は不明である。



第 104 図 第 33 号 竪穴建物跡実測図



第 105 図 第 33 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 106 図 第 33 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

規模と形状 複数の遺構が重複しているため、南半部しか確認できなかった。南西壁の残存状況や炉の位置から、長径 7.05m、短径 5.30m の楕円形で、長径方向は $N-8^{\circ}-E$ と推定できる。壁は高さ 10～30cm で、緩やかに傾斜している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部北寄りに付設されている。径 50cm ほどの不定形の地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット 3 か所。P 1～P 3 は、深さ 20～28cm で、性格は不明である。

覆土 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 502 点（深鉢 501，浅鉢 1），石器 5 点（石皿 3，磨石 2）が出土している。Q 101・Q 102 は中央部の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。354 は南西部，357 は南東部の覆土下層から，351・355・356 は中央部の覆土中層からまとまった状態で出土しており，埋没する過程で投棄されたもの，あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 33 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 105 ~ 106 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
350	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口唇部にキザミ目 波頂部に棒状の隆帯貼付 隆帯上にキザミ目 地文に無文	覆土中	
351	縄文土器	深鉢	27.8	(7.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	口縁部沈線が一巡 隆帯による渦巻区画 剣先状渦巻文 区画内横位の矢羽状刺突 区画外一部に矢羽状刺突 頸部は無文	覆土中層	20% PL112
352	縄文土器	深鉢	[41.8]	(14.7)	-	長石・石英・雲母・白色粒子・黒色粒子	橙	良好	沈線による波状区画 区画内縦位の麻手文・沈線 口縁下端隆帯が一巡 頸部無文帯 地文に単節縄文 LR (縦)	覆土中	30% PL112
353	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇外反部に竹管による並行有節沈線が一巡 口縁部は並行有節沈線による U 字状文が巡る	覆土中	
354	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	蒲鉾状隆帯が一巡 地文に 0 段多条縄文 RL (縦) 3 本単位の沈線により縦・横の区画文	覆土下層	
355	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に無節縄文 R (横・斜) 隆帯による文様	覆土中層	
356	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 3 本単位の沈線により縦・横の区画文	覆土中層	
357	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	無文土器 上半部縦位・下半部横位のナデ	覆土下層	内面下半部に炭化物付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 101	石皿	(16.6)	(16.5)	(7.4)	(2281.3)	花崗岩	表面を皿状に研磨 裏面多孔石	床面	PL179
Q 102	石皿	(13.2)	(17.3)	7.8	(2164.9)	砂岩	周縁上部研磨 中央部皿状に研磨 中央に凹み 裏面多孔石	床面	PL179 被熱 炉石転用。

第 34 号 竪穴建物跡 (第 107・108 図)

位置 調査区西部の C 2 f7 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 28・31 号 竪穴建物跡, 第 671 ~ 673・715・716 号土坑を掘り込み, 第 2 号陥し穴に掘り込まれている。

規模と形状 複数の遺構が重複しているため, 西半部しか確認できなかった。西壁の残存状況や炉・ピットの配置から, 長径 5.40m, 短径 4.80m の楕円形で, 長径方向は N - 16° - W と推定できる。壁は高さ 8 ~ 23cm で, 緩やかに傾斜している。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 3 か所。炉 1 は中央部に付設されている。長径 132cm, 短径 95cm の楕円形の土器埋設炉で, 南東部に胴部片の 358 ~ 360 が設置されている。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉 2 は, 中央部を炉 1 に掘り込まれており, 長径 160cm で, 短径は 75cm しか確認できなかった。楕円形で, 床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。南部に赤変硬化した炉床が確認できた。炉 3 は, 炉 2 の南東側に隣接しており, 赤変硬化した炉床面が露出した状態で確認した。長径 55cm, 短径 47cm の楕円形で, 床面とほぼ同じ高さを使用している地床炉である。重複関係や炉床の残存状況から, 炉 2・炉 3 から炉 1 の土器埋設炉へと作り替えられている。

炉土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	8	赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2	赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量	9	暗黄褐色	ローム粒子多量
3	赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量	10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4	赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量	11	黄褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	12	暗赤褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	13	暗褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
7	暗黄褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 6 か所。P 1 は深さ 50cm で, 配置から主柱穴である。P 2 ~ P 6 は深さ 20 ~ 46cm で, 壁際に位置していることから壁柱穴である。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	3	黒褐色	ローム粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック微量	4	黒褐色	ローム粒子少量

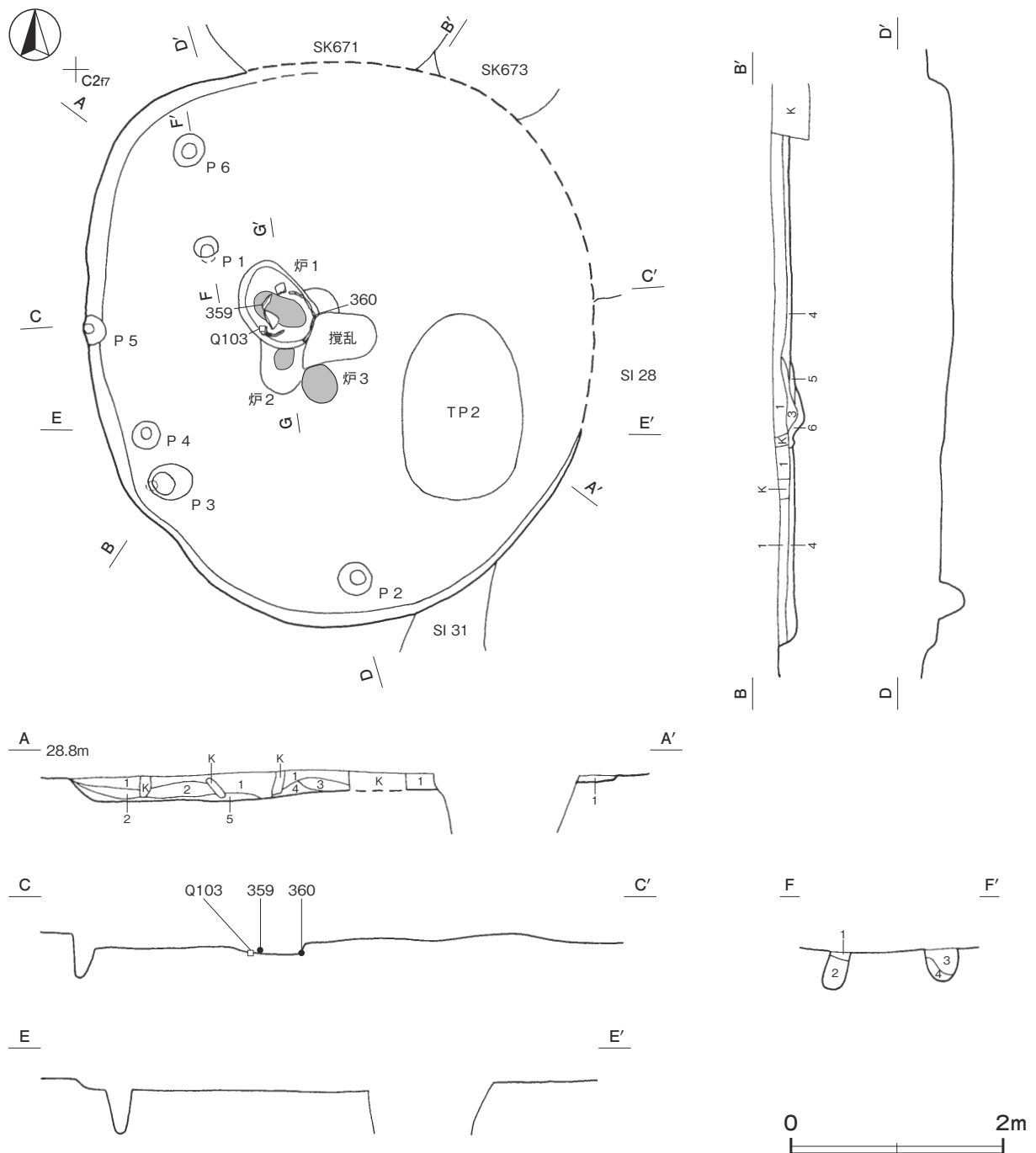
覆土 6 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

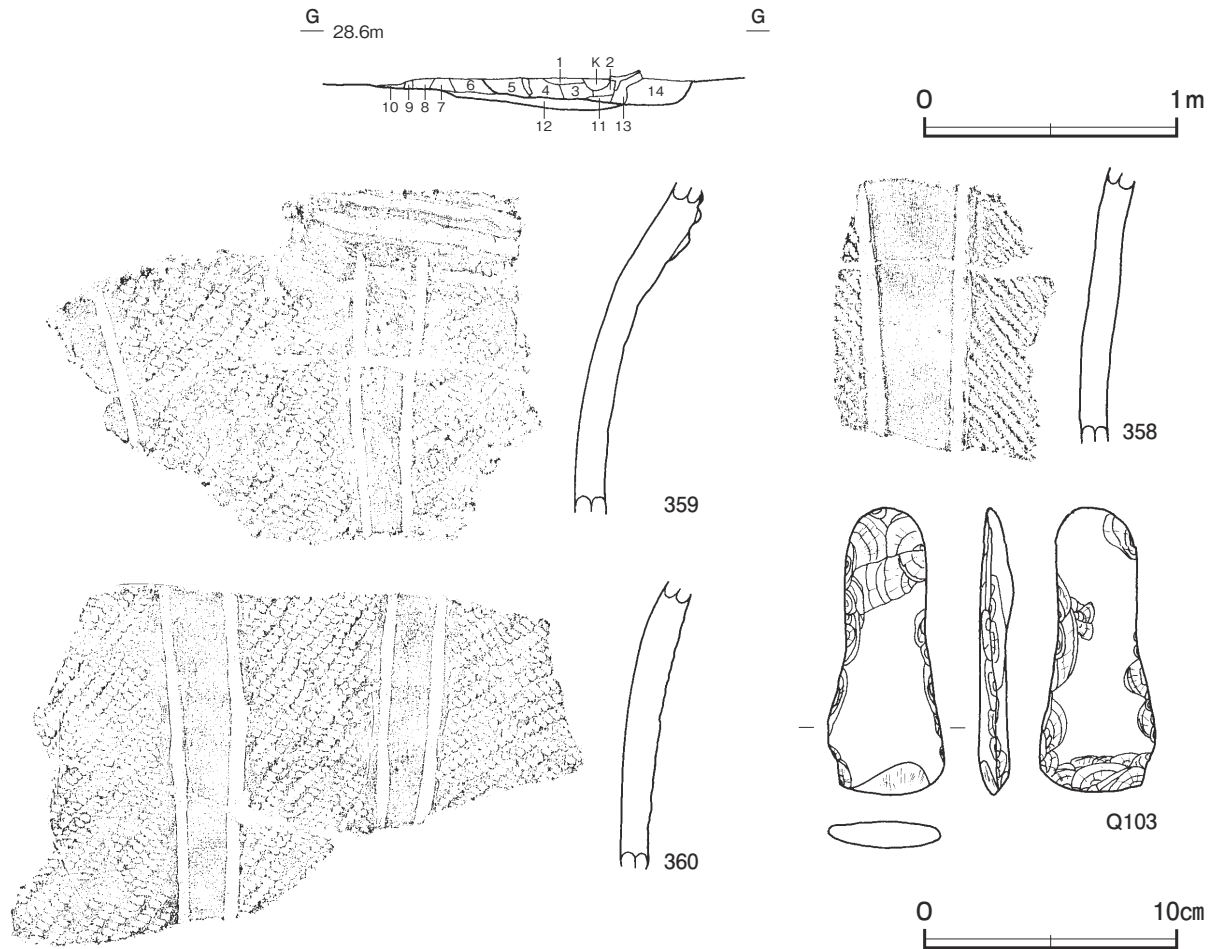
- | | | | |
|--------|--------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 178 点 (深鉢), 石器 3 点 (打製石斧, 磨石, 敲石), 剥片 1 点 (チャート) が出土している。358 ~ 360 は, 土器埋設炉の炉体土器である。Q 103 は, 土器埋設炉内から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 107 図 第 34 号 竪穴建物跡実測図



第 108 図 第 34 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 34 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 108 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
358	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 幅広の磨消縄文が垂下	炉覆土中	
359	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 条の隆帯を巡らせ 幅広の磨消縄文が垂下	土器埋設炉	PL112
360	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 幅広の磨消縄文が垂下	土器埋設炉	PL112

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 103	打製石斧	11.3	4.6	1.5	78.3	石英斑岩	撥形 両側縁敲打調整 刃部は片面を研磨 平刃	土器埋設炉	PL163

第 35 号竪穴建物跡 (第 109・110 図)

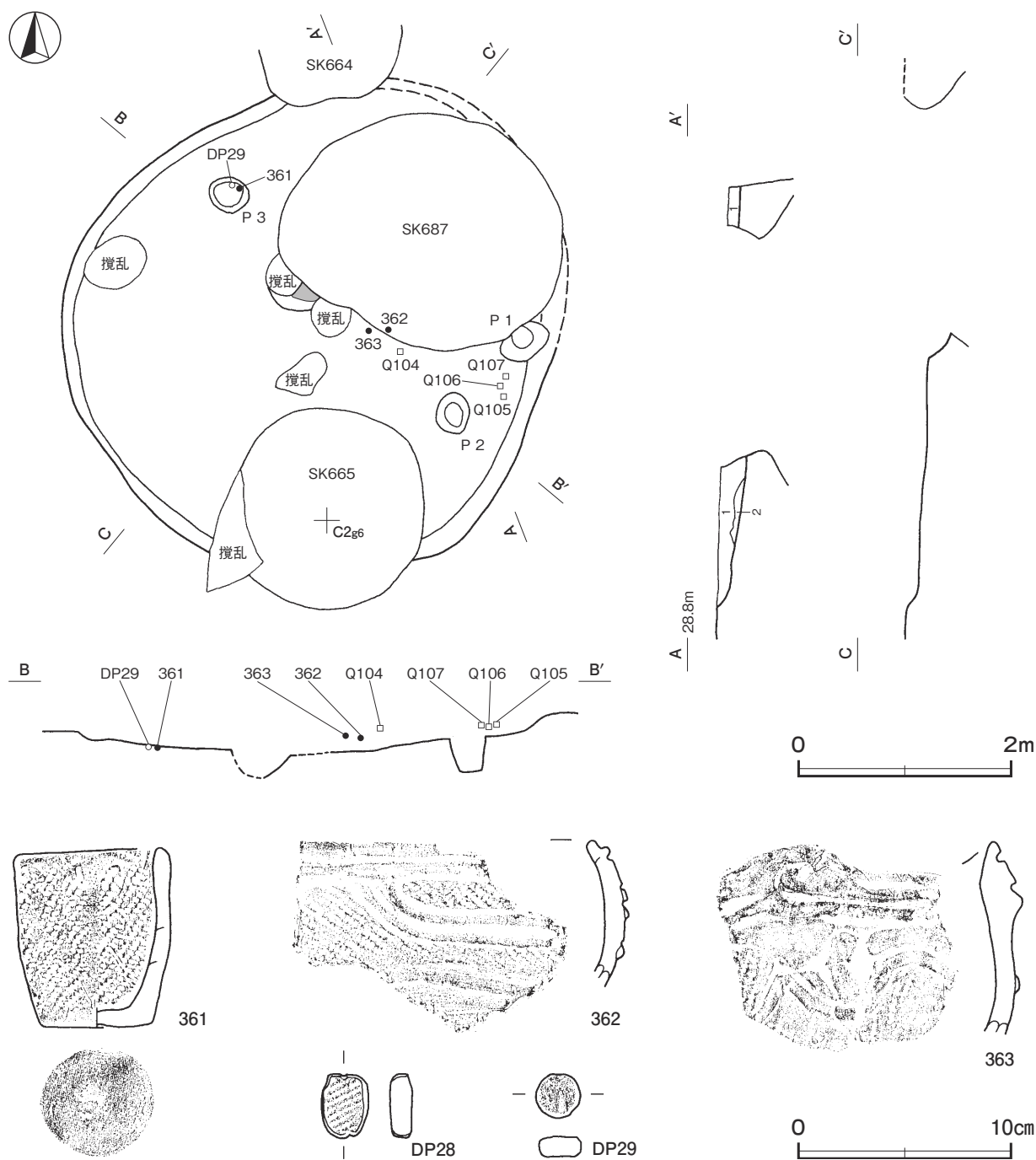
位置 調査区中央部西寄りの C 2 f5 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 657 号土坑を掘り込み、第 664・665・687 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の遺構に掘り込まれているため、西部と東部の一部しか確認できなかった。壁の残存状況から、径 4.55 ~ 4.85m のほぼ円形と推定できる。壁は高さ 10 ~ 20cm で、緩やかに傾斜している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。攪乱により、赤変硬化した炉床の一部しか確認できなかったが、径 60cm ほどの地床炉と考えられる。



第109図 第35号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 3か所。P1～P3は深さ22～42cmで、補助柱穴と考えられる。

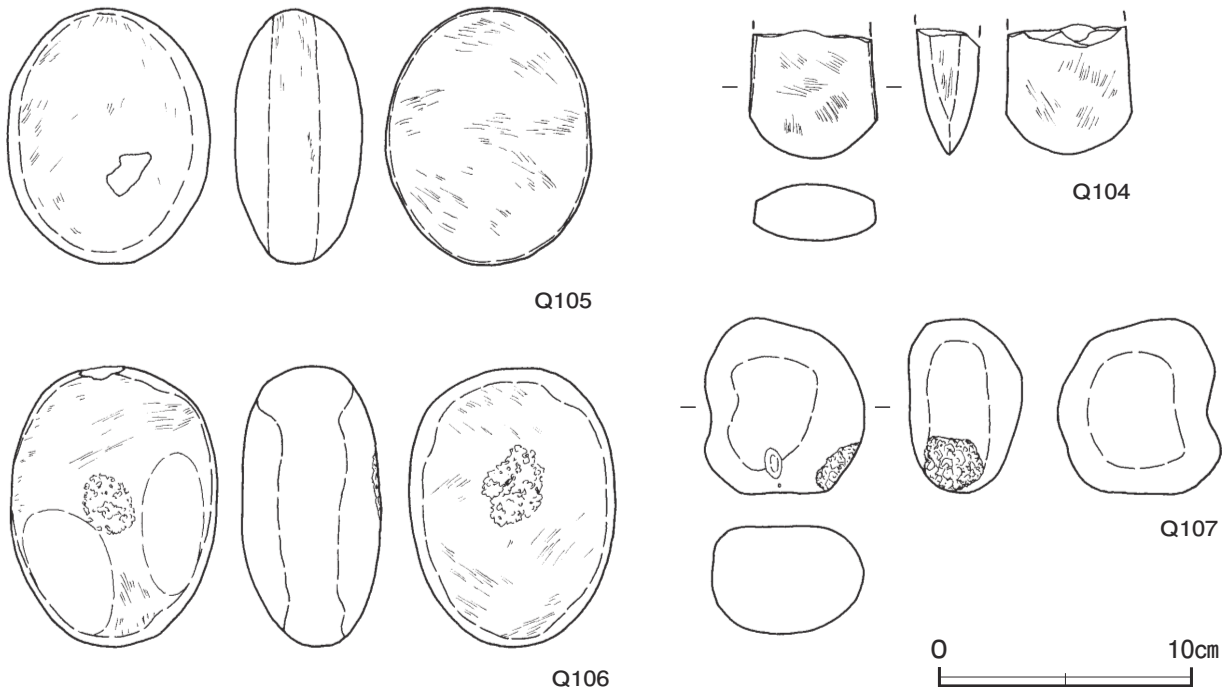
覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片242点（深鉢238，浅鉢2，器台1，コップ形土器1），土製品2点（土器片錘，土器片円盤），石器7点（打製石斧1，磨製石斧1，磨石4，敲石1），剥片3点（石英2，チャート1）が出土している。361, DP29はP3の覆土上層から出土しており，柱の抜き取り後に投棄されたものと考えられる。



第 110 図 第 35 号竪穴建物跡出土遺物実測図

362・363, Q 104～Q 107 は中央部から東部にかけての覆土下・中層からまとも出土していることから、埋没過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 109・110 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
361	縄文土器	コップ形土器	7.2	8.4	5.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	単節縄文 RL (縦) 内・底面横方向の磨き	P 3 覆土上層	100% PL112
362	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 口縁部背割れ隆帯によるクランク文を描画	覆土下層	PL112
363	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	口縁部沈線による渦巻文 (斜) 波状の隆帯 頸部単節縄文 RL	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP28	土器片錘	3.0	2.2	1.0	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	
DP29	土器片円盤	2.0	2.0	1.0	4.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 周縁部を丁寧に研磨	P 3 覆土上層	

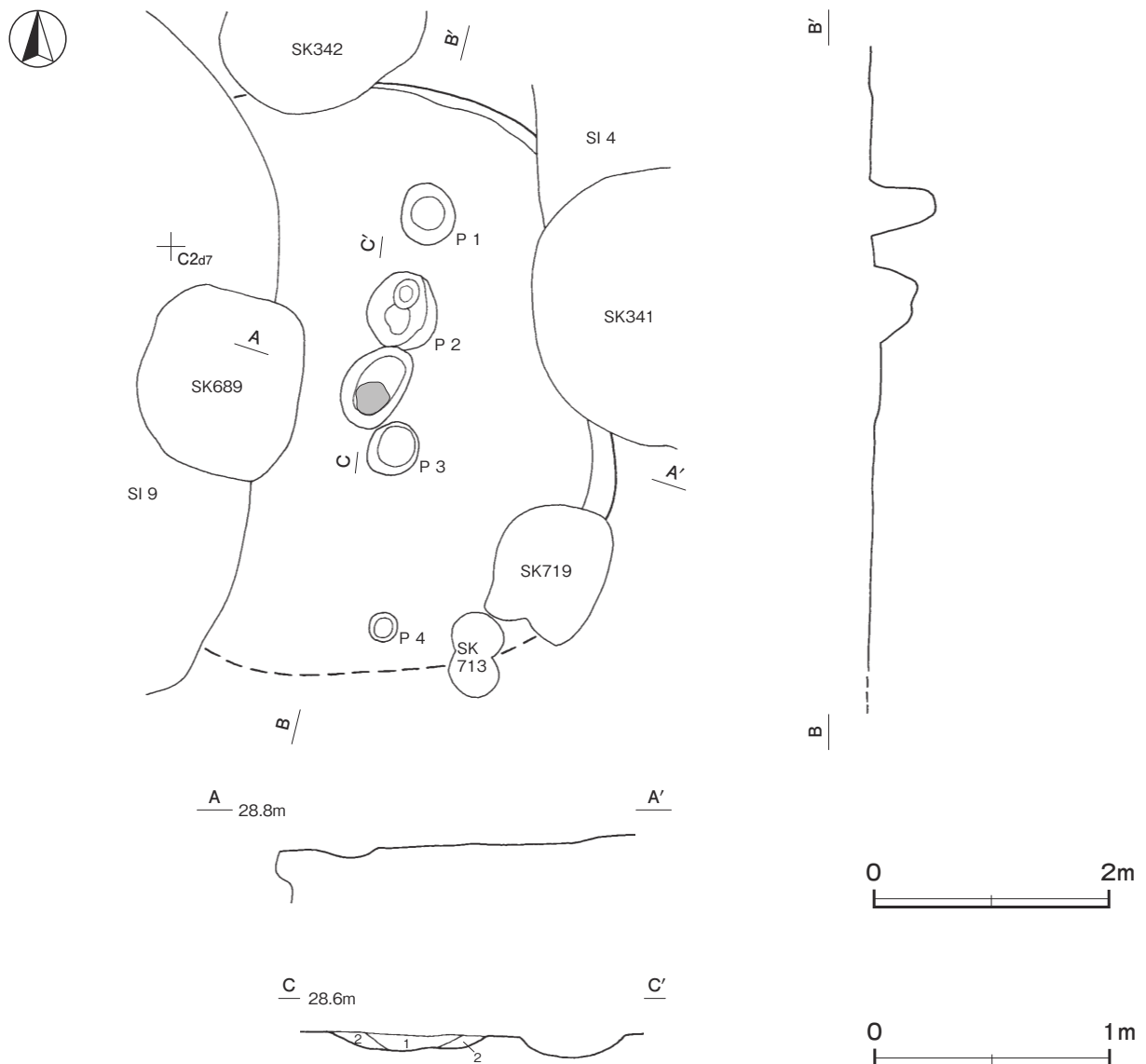
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 104	磨製石斧	(5.1)	5.0	2.5	(84.0)	砂岩	定角式 グリ刃 両側縁に稜 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す ハマ	覆土中層	
Q 105	磨石	10.1	8.0	5.0	563.3	アブライト	側縁部に自然面を残し表裏面研磨	覆土下層	PL180 被熱
Q 106	磨石	11.1	8.2	5.5	(669.1)	安山岩	側縁部に自然面を残し表裏面中央に凹み痕	覆土下層	PL180
Q 107	敲石	6.9	6.4	4.6	285.3	石英	円礫の端部に微細な敲打痕	覆土下層	PL171

第 36 号竪穴建物跡 (第 111・112 図)

位置 調査区西部の C 2 d7 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4・9 号竪穴建物, 第 341・342・689・712・713・719 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面がほぼ露出した状態で, 複数の遺構と重複しているため, 北壁の一部と中央部の炉跡しか確認できなかった。北壁の残存状況や炉・ピットの配置から, 長軸 5.00m, 短軸 4.40m の隅丸長方形で, 主軸方



第111図 第36号竪穴建物跡実測図

向はN-3°-Wと推定できる。壁は高さ3cmほどである。

床 中央部に向かって緩やかに低くなっている。硬化した部分は認められなかった。

炉 中央部に付設されている。長径70cm、短径50cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

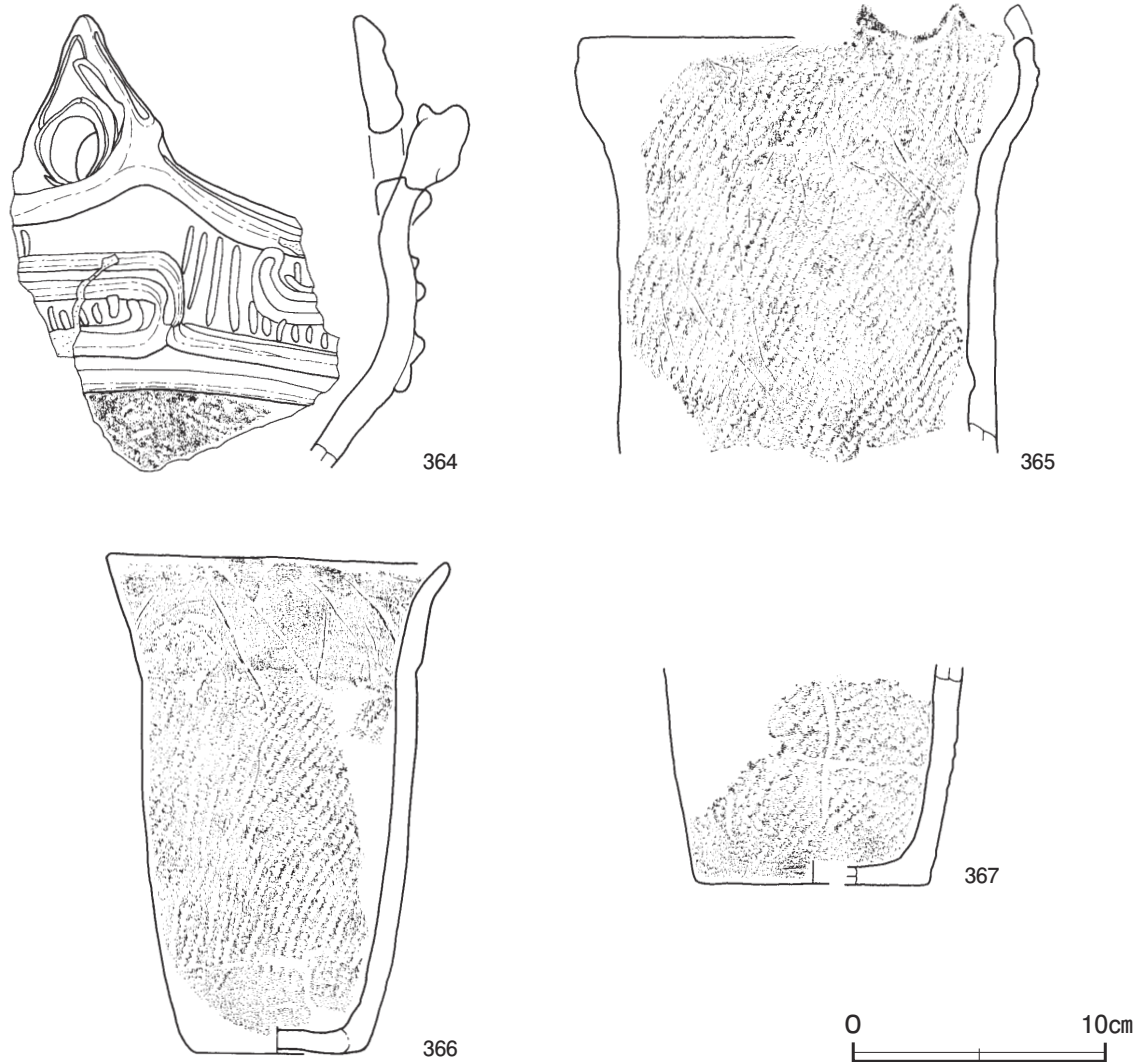
1 暗褐色 ロームブロック少量

2 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

ピット 4か所。P1は深さ52cmで、配置から主柱穴と考えられる。P2～P4は深さ20～30cmで、補助柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片15点（深鉢）が出土している。いずれも床面から破片が散乱した状態で出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 112 図 第 36 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 112 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
364	縄文土器	深鉢	-	(17.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	中空の把手 頂部に沈線が一巡 口縁部は背割れ隆帯によるクランク文と縦の条線 頸部は単節縄文 RL (横)	覆土中	15% PL113
365	縄文土器	深鉢	[17.4]	(17.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	器面全体に単節縄文 RL (縦)	覆土中	10% PL113
366	縄文土器	深鉢	13.6	19.9	[7.0]	長石・石英・雲母・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部緩く外反し無文 頸部以下単節縄文 RL (縦) 胴下半無文	覆土中	50% PL113
367	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	[9.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 沈線が垂下	覆土中	25%

第 37 号竪穴建物跡 (第 113 図)

位置 調査区東部の C 3j0 区, 標高 29 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 456・520・527 号土坑, 第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 3.52 m, 短径 3.08 m の楕円形で, 長径方向は N - 33° - W である。壁は高さ 10 ~ 17cm で, 外傾している。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は確認できなかった。

ピット 深さ 42cmで、性格は不明である。

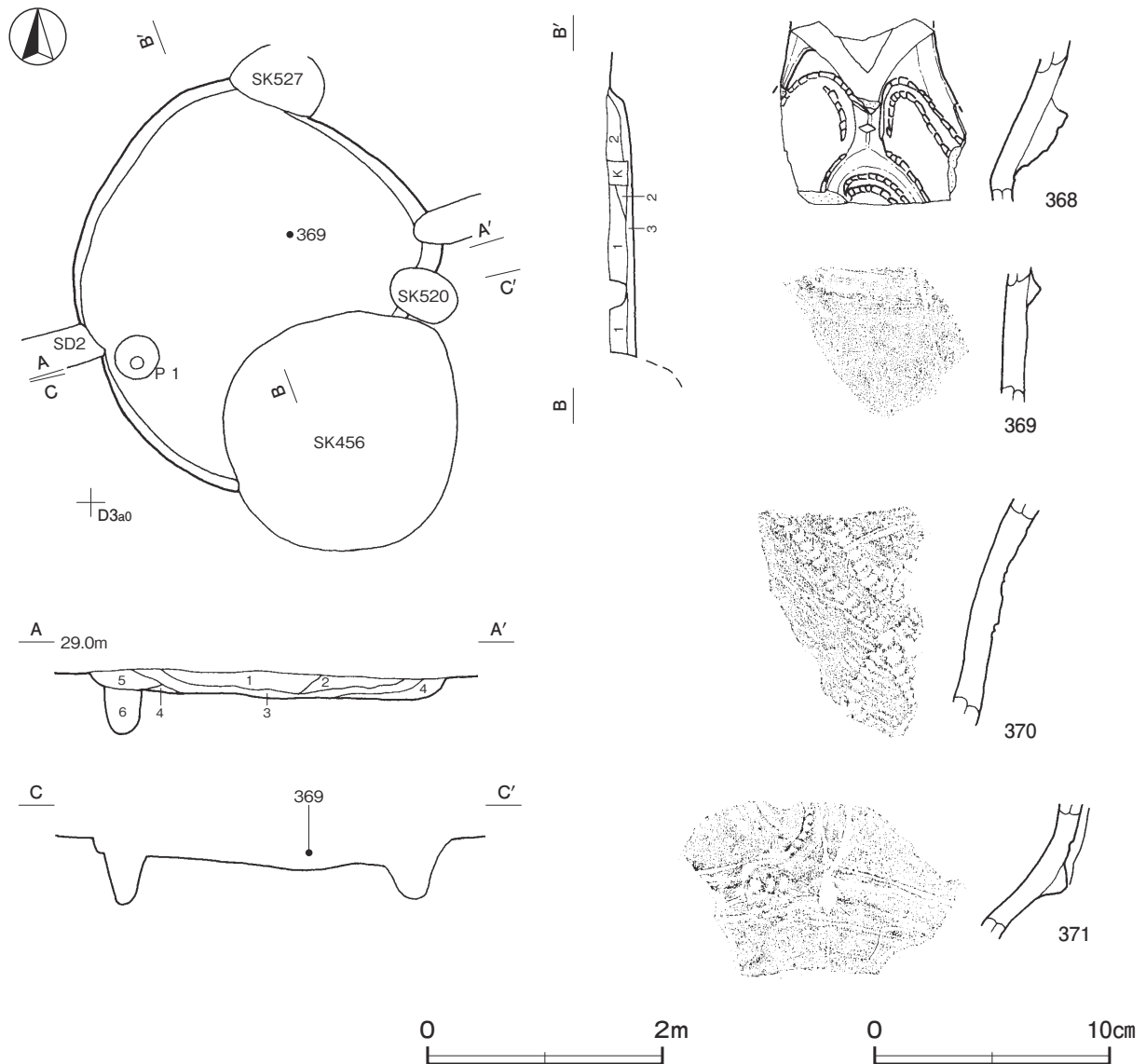
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6層は、P1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 22点 (深鉢), 石器2点 (磨石) が、覆土中からまばらに出土している。369は中央部の覆土上層から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



第 113 図 第 37 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 37 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 113 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
368	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	断面三角形の隆帯により文様描出 隆帯に沿って並行有筋沈線文	覆土中	
369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	断面三角形の隆帯により文様描出	覆土上層	

(2) 炉跡

第1号炉跡 (第114図 PL16)

位置 調査区北部西寄りのB3j1区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号炉に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており, 南北径0.50mで, 東西径は0.31mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定できる。炉床は皿状で, 火熱を受けて赤変硬化している。深さは15cmである。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

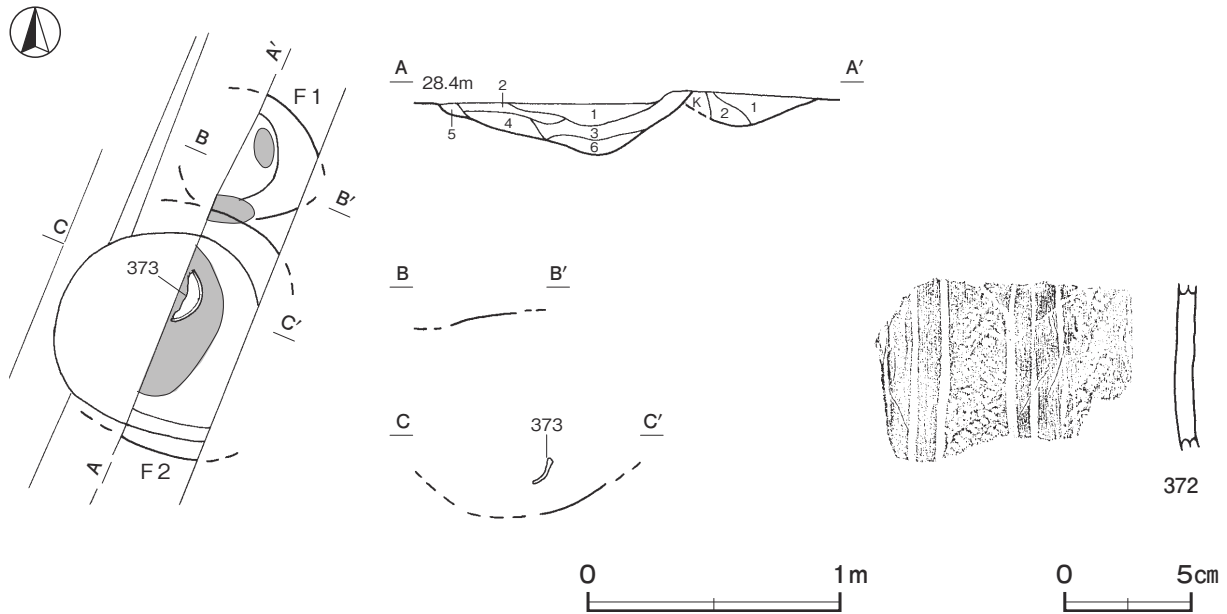
土層解説

1 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が覆土中から出土している。372は覆土中からの出土である。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第114図 第1・2号炉跡, 第1号炉跡出土遺物実測図

第1号炉跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦) 3本の沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	

第2号炉跡 (第114・115図 PL16)

位置 調査区北部西寄りのB3j1区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号炉跡を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており, 径0.96mほどの円形と推定できる。炉床は皿状で, 火熱を受けて赤変硬化している。深さは22cmである。

覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量・焼土粒子微量 | 5 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢), 石器2点(石皿)が出土している。373は、中央部の覆土中層から正位の状態で出土していることから、土器埋設炉の可能性はある。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第115図 第2号炉跡出土遺物実測図

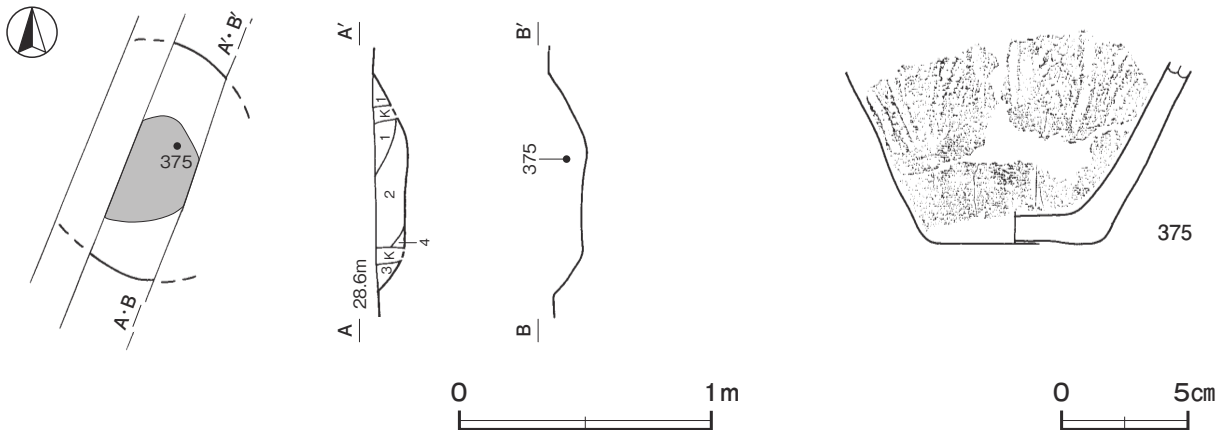
第2号炉跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による区画文 区画内複節縄文 LRL (縦)	覆土中層	PL113

第3号炉跡 (第116図 PL16)

位置 調査区北部西寄りのC3b1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、径0.92mほどの円形または楕円形と推定できる。炉床はほぼ平坦で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは14cmである。



第116図 第3号炉跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 13 点 (深鉢), 石器 2 点 (磨石) が出土している。375 は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 3 号炉跡出土遺物観察表 (第 116 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
375	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	7.0	長石・石英・雲母・細礫	橙	良好	地文に単節縄文 RL (縦) 沈線による懸垂文 下部横方向の磨き	覆土下層	

第 4 号炉跡 (第 117 図 PL17)

位置 調査区西部北寄りの C 2 b8 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており, 径 1.00 m ほどの円形または楕円形と推定できる。炉床は皿状で, 火熱を受けて赤変硬化している。深さは 13cm である。

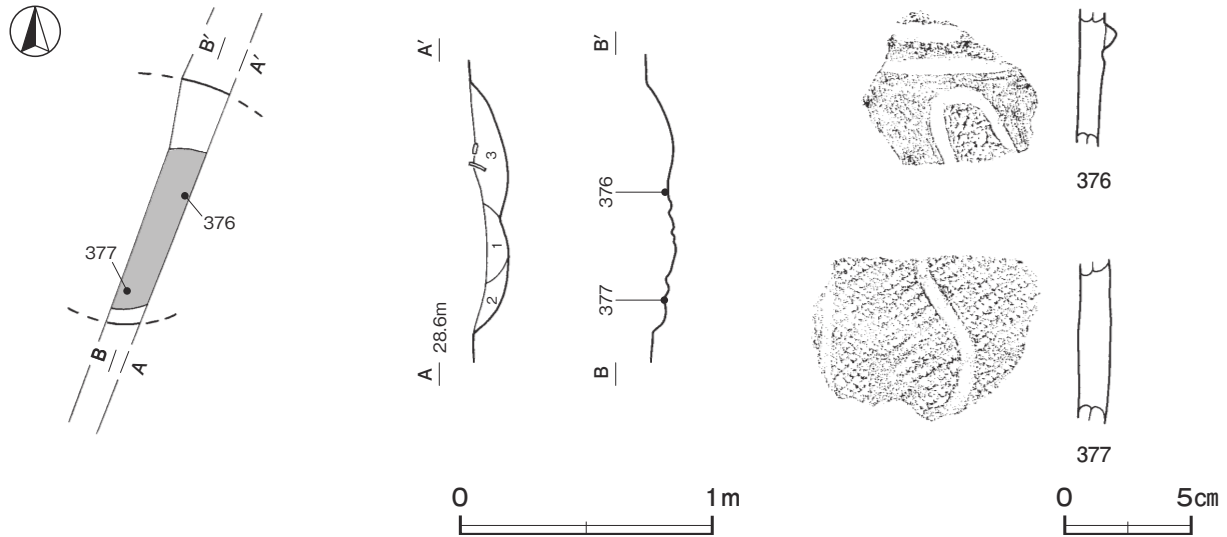
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 12 点 (深鉢) が出土している。376・377 は炉床から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 117 図 第 4 号炉跡・出土遺物実測図

第 4 号炉跡出土遺物観察表 (第 117 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
376	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	横位の隆帯が一巡 地文に単節縄文 RL (縦) 沈線による逆 U 字文 区画外磨消	炉床面	
377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に 0 段多節縄文 RL (縦) 沈線による直線・蛇行線が垂下	炉床面	

第5号炉跡 (第118図)

位置 調査区北部中央のC 3 b7区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第286・337号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており, 径0.93mほどの円形または楕円形と推定できる。炉床は皿状で, 火熱を受けて赤変硬化している。深さは15cmである。

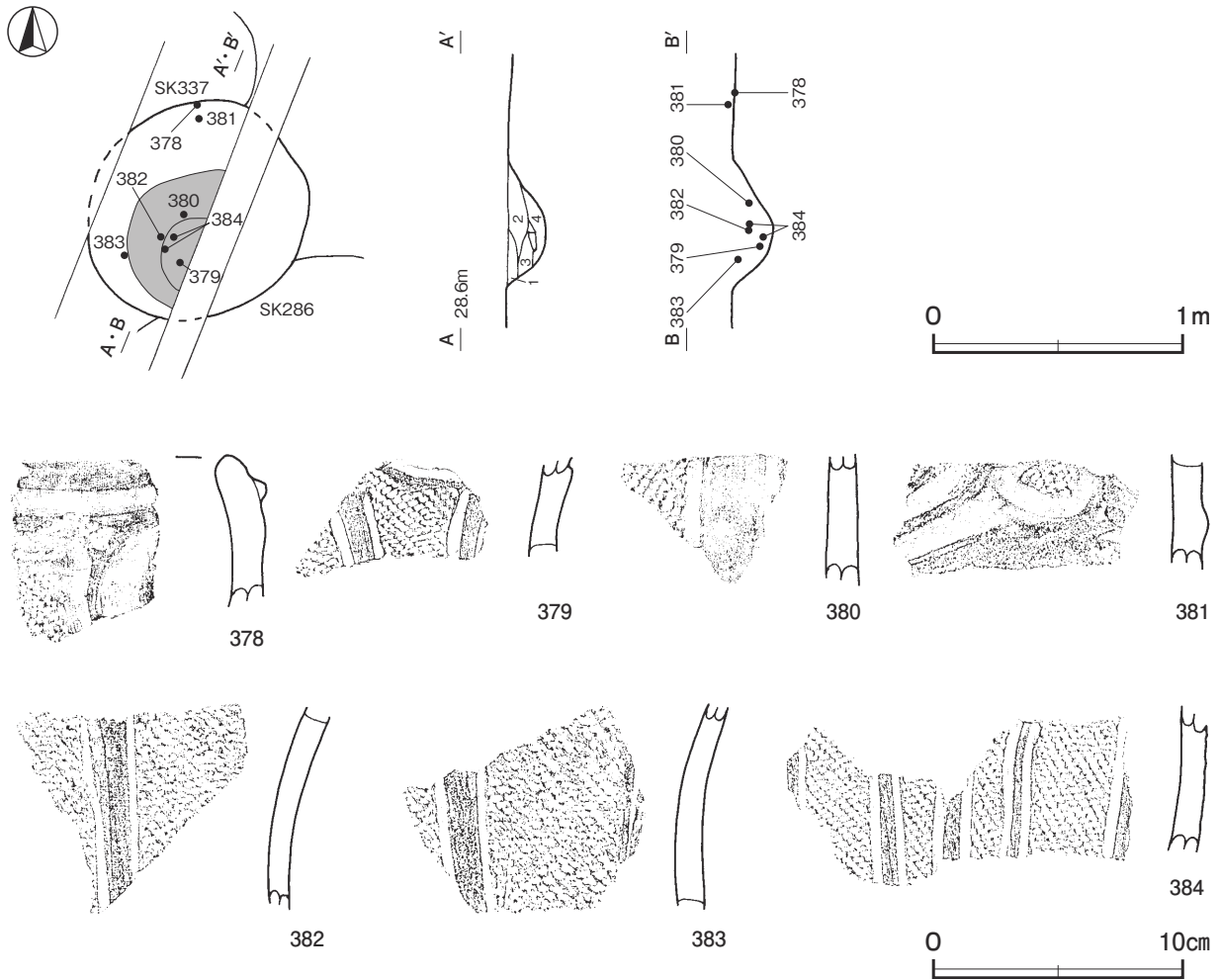
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片34点(深鉢), 石器1点(炉石)が出土している。378～384が炉床を取り巻くように出土していることから, 土器埋設炉または土器片囲い炉であった可能性が高い。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第118図 第5号炉跡・出土遺物実測図

第5号炉跡出土遺物観察表 (第118図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
378	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部沈線が一巡 口縁部隆帯による楕円区画 地文に単節縄文RL(横)	炉床面	
379	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に単節縄文LR(縦) 2本の並行沈線により文様描画 沈線間磨消	炉床面	384と同一個体。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
380	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の太沈線が垂下幅広の沈線間磨消	炉床面	
381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	低い隆帯による円形区画 区画内単節縄文 LR(縦)	炉床面	
382	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に複節縄文 LRL (縦) 並行沈線が垂下並行沈線間磨消	炉床面	383と同一個体。
383	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい褐	普通	地文に複節縄文 LRL (縦) 並行沈線が垂下並行沈線間磨消	炉床面	382と同一個体。
384	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色斑点	にぶい橙	普通	地文に複節縄文 LRL (縦) 並行沈線が垂下並行沈線間磨消	炉床面	PL113 379と同一個体。

第6号炉跡 (第119図)

位置 調査区北部中央のC3c9区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており, 長径0.60mで, 短径は0.40mほどの楕円形と推定できる。長径方向はN-22°-Eである。炉床は皿状で, 火熱を受けて赤変硬化している。深さは10cmである。

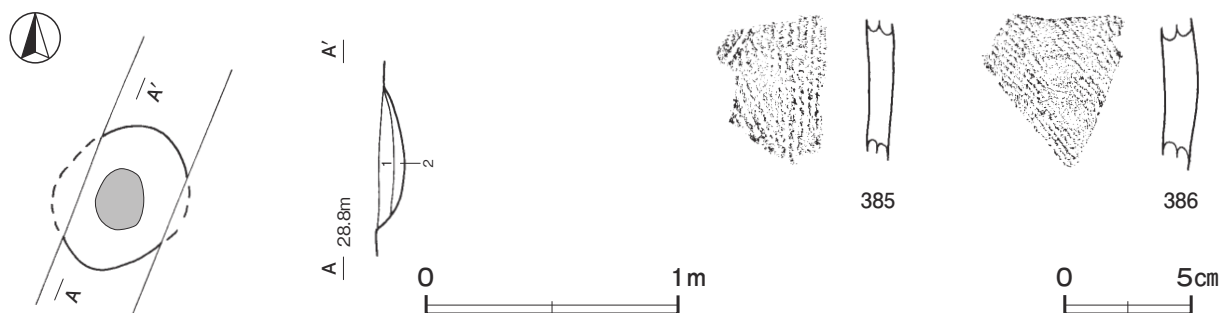
覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。385・386は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第119図 第6号炉跡・出土遺物実測図

第6号炉跡出土遺物観察表 (第119図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に縦・横位の撚糸文 沈線により文様描画	覆土中	
386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に無節縄文 L (縦)	覆土中	

第7号炉跡 (第120図 PL17)

位置 調査区北部中央のC3c5区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

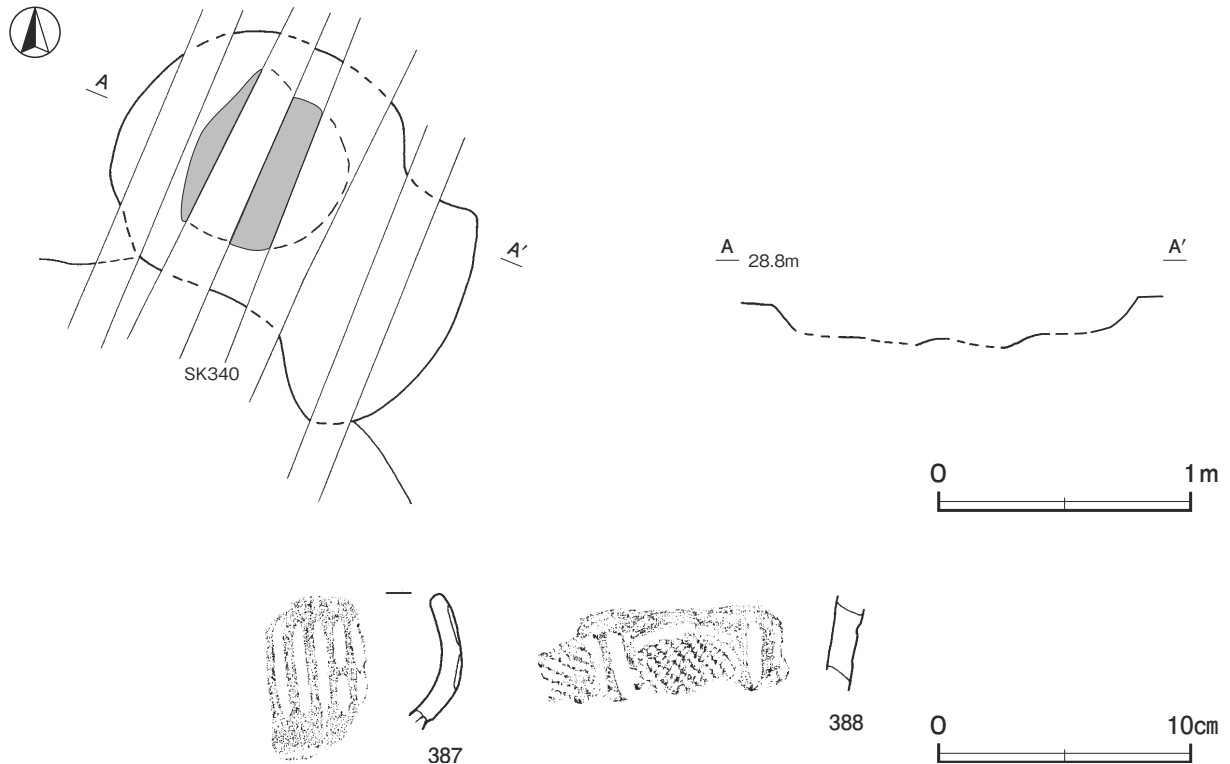
重複関係 第340号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 長軸1.60m, 短軸1.00mの不定形である。長軸方向はN-40°-Wである。炉床は皿状で, 火熱を受けて赤変硬化している。深さは14cmである。

覆土 耕作による攪乱が著しいため, 堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。387・388は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第120図 第7号炉跡・出土遺物実測図

第7号炉跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色斑点	橙	普通	口縁部縦位の沈線 沈線下無文 横位の沈線	覆土中	
388	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	褐灰	普通	地文に単節縄文LR（縦） 低い隆帯による区画文 隆帯上に太沈線	覆土中	

表3 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)				
1	B 3 j1	-	[円形・楕円形]	0.50 × (0.31)	15	皿状	自然	深鉢	本跡→F 2
2	B 3 j1	-	[円形]	[0.96 × 0.96]	22	皿状	自然	深鉢, 石皿	F 1 →本跡
3	C 3 b1	-	[円形・楕円形]	[0.92 × 0.92]	14	平坦	自然	深鉢, 磨石	
4	C 2 b8	-	[円形・楕円形]	[1.00 × 1.00]	13	皿状	自然	深鉢	
5	C 3 b7	-	[円形・楕円形]	[0.93 × 0.93]	15	皿状	自然	深鉢, 炉石	SK286・337 →本跡
6	C 3 c9	N - 22° - E	[楕円形]	0.60 × [0.40]	10	皿状	自然	深鉢	
7	C 3 c5	N - 40° - W	不定形	1.60 × 1.00	14	皿状	不明	深鉢	

(3) 陥し穴

第1号陥し穴（第121図 PL17）

位置 調査区南東部のD 4 c3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第451号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部を第451号土坑に掘り込まれており、長径2.49mで、短径は1.87mしか確認できなかった。楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは190cmで、底面は幅30cmと狭く平坦である。長径方向の断面形はV字状で、壁は底面から高さ約1.6mまでほぼ直立し、くびれ部から上位は外傾している。南壁の底面から高さ約50cmには、斜位に穿たれたピット1か所が確認できた。

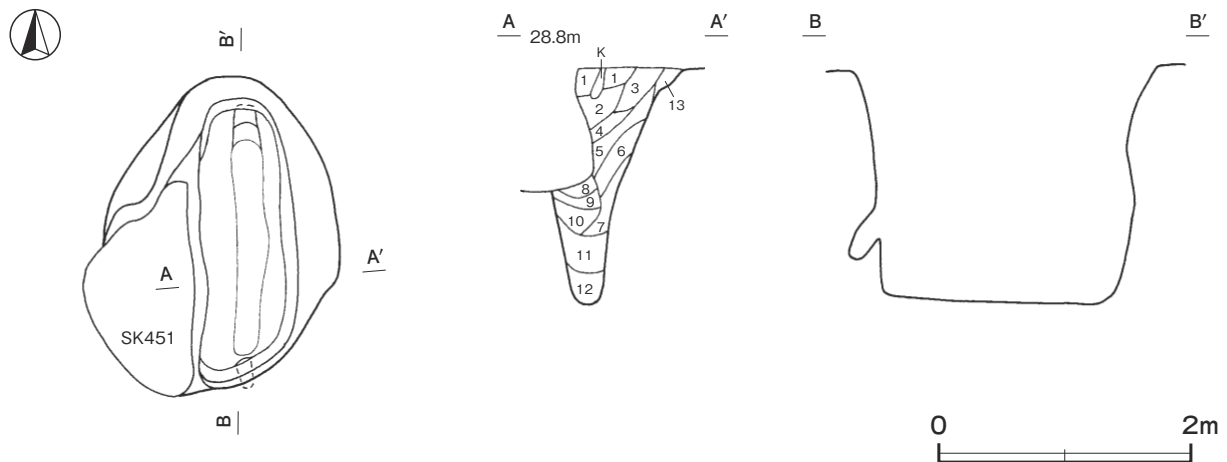
覆土 13層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片27点（深鉢）が覆土中から出土している。いずれも細片で、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器及び第451号土坑との重複関係から、中期中葉と考えられる。



第121図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴（第122図）

位置 調査区西部のC2f7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34号竪穴建物跡、第715号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.79m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは162cmで、底面は幅20cmと狭く平坦である。長径方向の断面形はV字状で、壁はほぼ直立している。

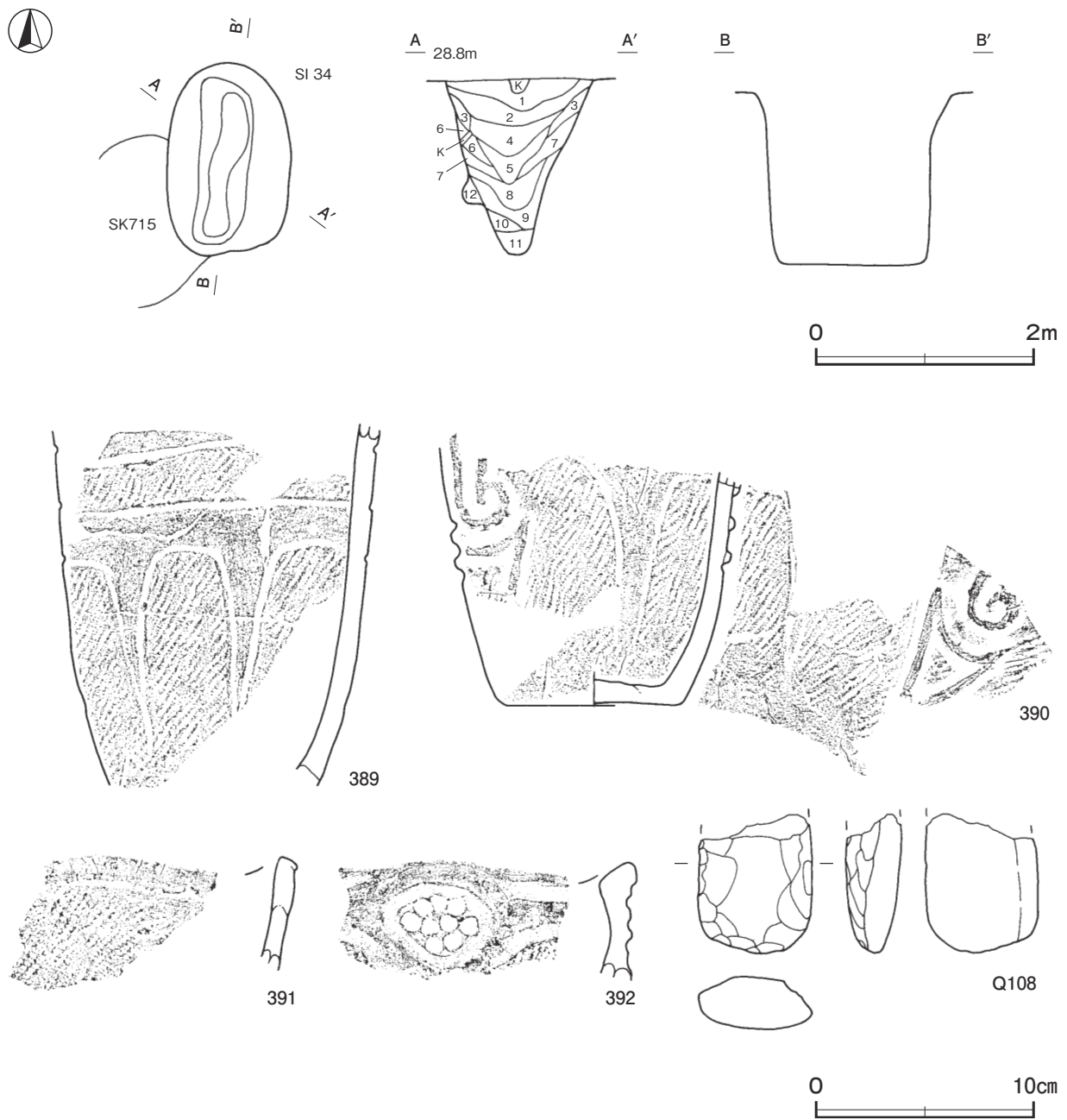
覆土 12層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片142点（深鉢134、浅鉢8）、石器2点（打製石斧、敲石）、剥片1点（黒曜石）が出土している。Q108は覆土上層、389～392はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 122 図 第 2 号陥し穴・出土遺物実測図

第 2 号陥し穴出土遺物観察表 (第 122 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
389	縄文土器	深鉢	-	(16.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) 沈線による横線及び逆U字区画 区画内同一原体(斜)	覆土中	20% 390と同一個体。
390	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) シャープな隆帯による縦位の渦巻文 沈線による逆U字の区画 区画外磨消	覆土中	20% PL113 389と同一個体。
391	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口唇頂部横ナア 口唇直下から単節縄文RL(縦)	覆土中	
392	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状鉱物・細礫	にぶい赤褐色	普通	緩い波状口縁 波頂部太沈線による円形区画 区画内円形刺突文を充填	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 108	打製石斧	(7.0)	5.3	2.6	(100.6)	ホルンフェルス	撥形 表裏に自然面 片側緑研磨 刃部は片面を敲打 基部欠損			覆土上層	

表4 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	断面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	D 4 c3	N - 0°	楕円形	2.49 × 1.87	190	平坦	V字形	自然	深鉢	本跡→SK451
2	C 2 f7	N - 0°	楕円形	1.79 × 1.10	162	平坦	V字形	人為	深鉢, 浅鉢, 打製石斧, 敲石	SI 34・SK715→本跡

(4) 土坑

今回の調査で、縄文時代の土坑 669 基を確認した。形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑 344 基については、文章と実測図、遺物観察表で解説する。その他の形状が特徴的な土坑 125 基については、実測図、土層解説、観察表を掲載する。なお、当時代に帰属すると考えられるが、性格が不明な土坑 200 基については、一覧表のなかで掲載する。

ア) 形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑

第1号土坑 (第123・124図 PL18)

位置 調査区北部西寄りのB 3 j1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号土坑を掘り込んでいる。

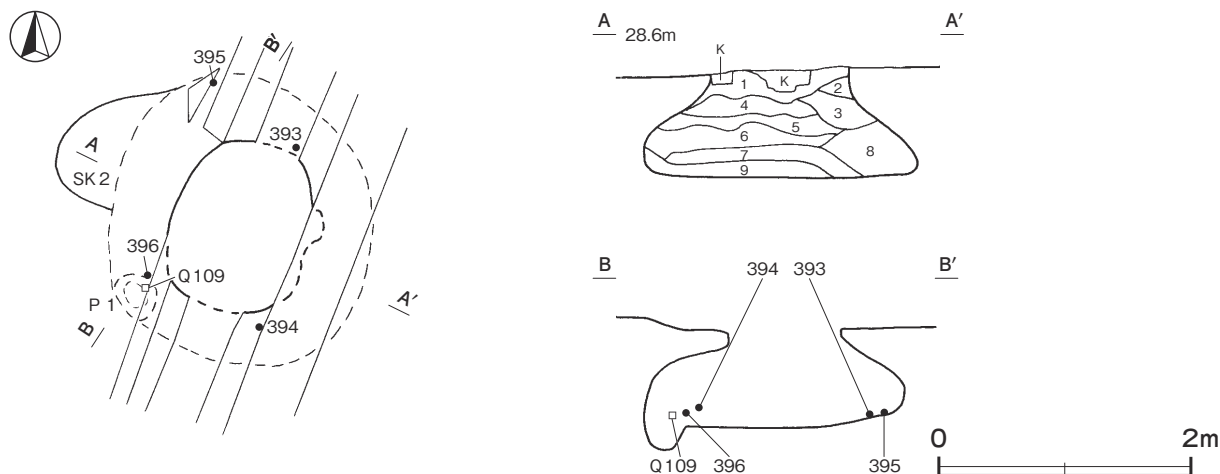
規模と形状 開口部は攪乱を受けているが、長径1.38m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN - 22° - Eである。底面は長径2.34m、短径2.10mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは76cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から62~70cmのところにくびれ、上位は直立している。

ピット 径36cmの円形で、深さ18cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

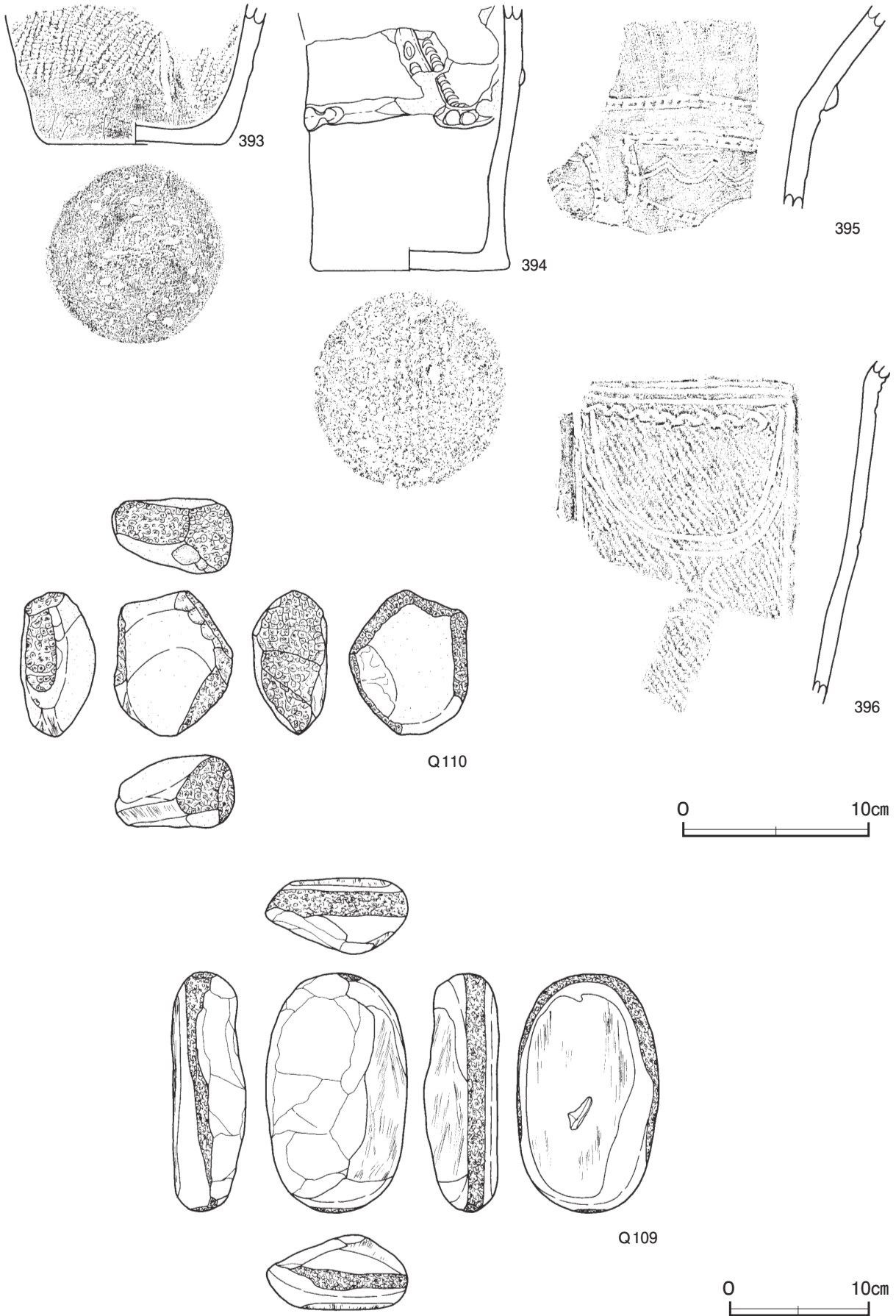
覆土 9層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | |



第123図 第1号土坑実測図



第 124 図 第 1 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 132 点（深鉢 129，浅鉢 3），石器 3 点（打製石斧，磨製石斧未成品，敲砥石），剥片 5 点（瑪瑙 4，チャート 1）が出土している。393・395 は北部の底面から，394・396・Q109 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも破片の状態で，埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 1 号土坑出土遺物観察表（第 124 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
393	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	9.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による懸垂文 地文に単節縄文 RL（縦）	底面	10%
394	縄文土器	深鉢	-	(14.4)	10.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	太い隆帯による区画文 隆帯上に爪形文 隆帯の片側に沿って幅広の有節沈線 底面網代痕	覆土下層	20%
395	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部縦位の条線 隆帯による区画文 隆帯に沿う有節沈線 横位の隆帯と並行して沈線による波状文 内面ナデ	底面	PL113
396	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	懸垂する隆帯による区画文 区画内上部に沈線による小波状文及び 2 本の沈線による弧線文 地文に単節縄文 LR（縦）	覆土下層	PL113

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 109	磨製石斧未成品	17.2	10.2	5.4	1187.6	砂岩	側面に微細な敲打痕 表裏面研磨	覆土下層	PL170 被熱磨石・炭石の再利用
Q 110	敲砥石	7.8	6.4	4.0	258.2	石英斑岩	円礫の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの砥面をもつ	覆土中	PL171

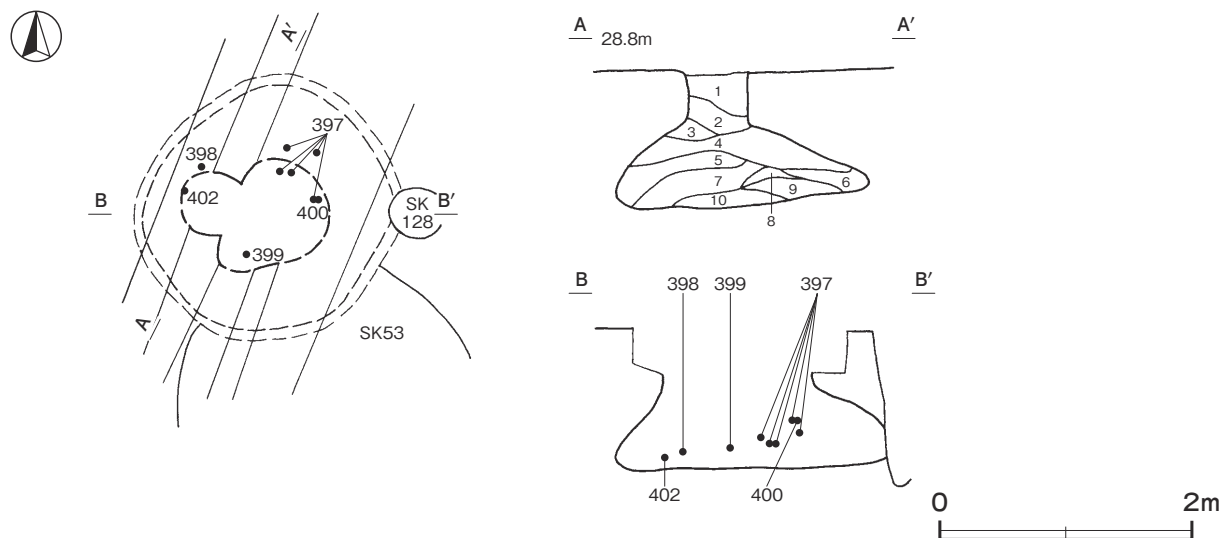
第 3 号土坑（第 125・126 図 PL18）

位置 調査区北部中央の C 3 a2 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

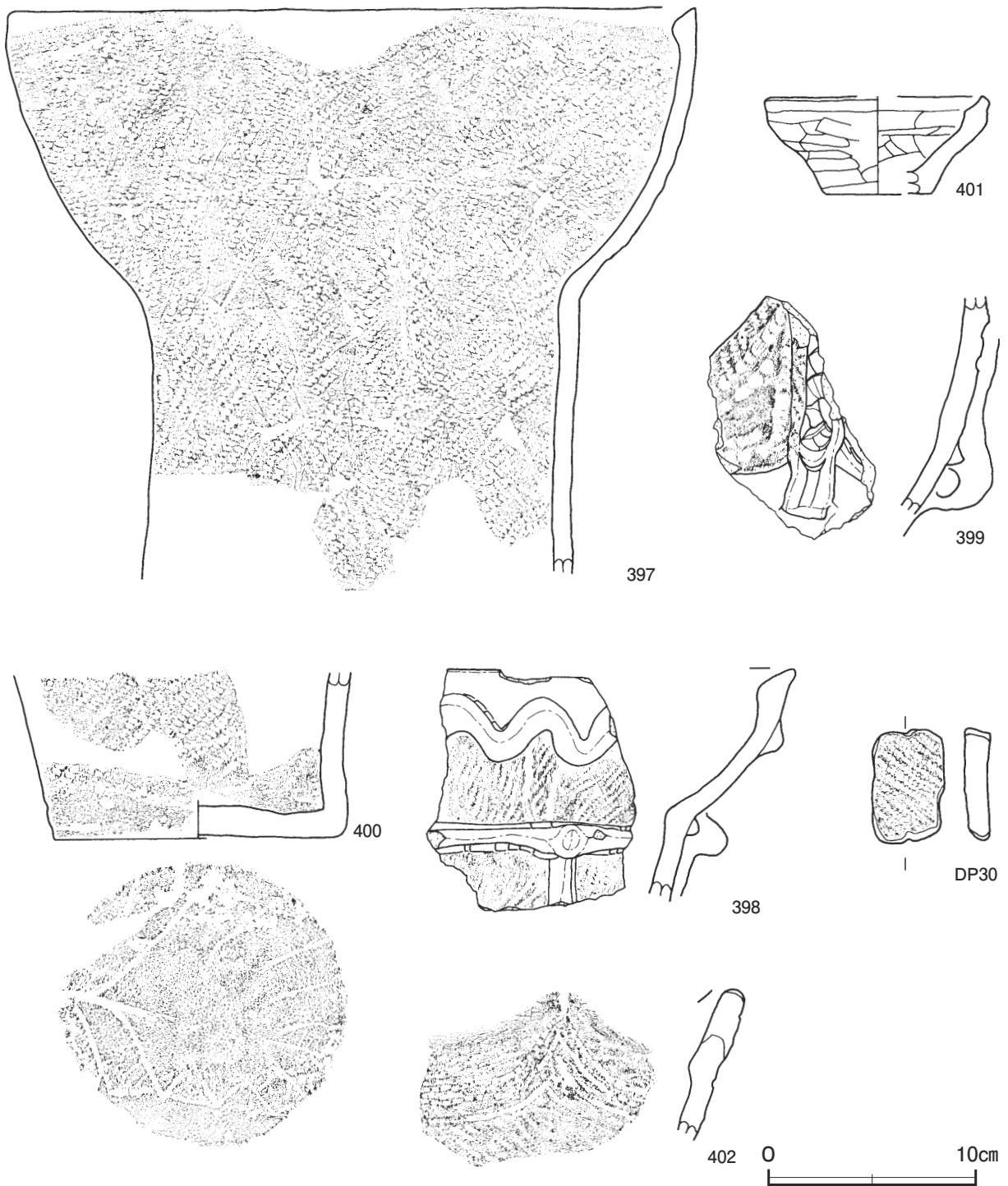
重複関係 第 53 号土坑を掘り込み，第 128 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.20 m，短径 0.94 m の不定形である。底面は長径 2.08 m，短径 1.97 m の円形で，底面は平坦である。確認面からの深さは 111cm である。壁は大きく内彎して，袋状を呈し，底面から 63～67 cm のところでくびれ，上位は直立している。

覆土 10 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。



第 125 図 第 3 号土坑実測図



第126図 第3号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 128 点（深鉢 127, 小型土器 1）, 土製品 1 点（土器片錘）, 石器 4 点（磨製石斧 3, 磨石 1）が出土している。397～400・402 は中央部の覆土下層から中層にかけて、ややまとまった状態で出

土している。埋め戻しの早い段階で、一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第3号土坑出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
397	縄文土器	深鉢	33.0	(27.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内彎 単節縄文 RL (縦)	覆土中～下層	70% PL113
398	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部上端無文 断面三角形の隆帯で横位の蛇行線文 頸部横位と垂下する隆帯で区画 接点部に瘤状の突起 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	10% PL113
399	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	波頂部から背割れ隆帯を懸垂し下端に中空の把手をつける 口唇部・隆帯上に単節縄文 LR (横) 区画内に2本の有節沈線	覆土下層	
400	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	14.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (縦) 底部下端縦方向のナデ 底面木葉痕	覆土中層	10%
401	縄文土器	小型土器	[10.2]	4.7	[5.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内面ヨコナデ 外面・胴部内面ナデ	覆土上層	20%
402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部2本の有節沈線と1本の沈線文 波頂部にキザミ目 地文に無節縄文 L (縦)	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP30	土器片錘	5.5	3.5	1.5	32.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	胴部片 長軸方向の両端にキザミ目	覆土中	

第5号土坑（第127・128図 PL18）

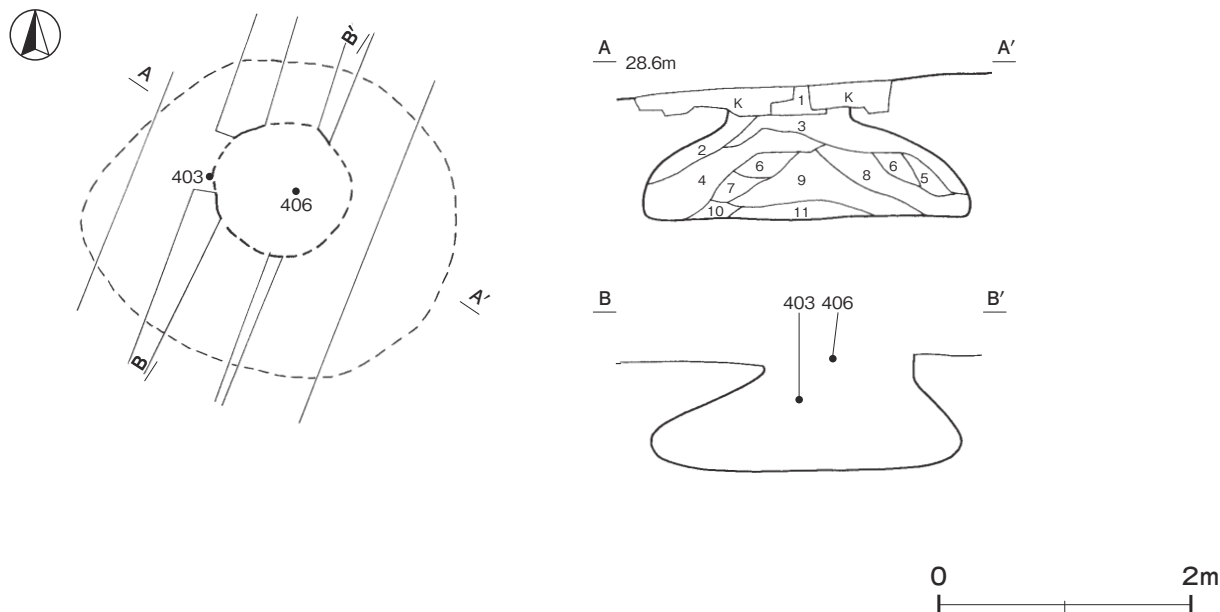
位置 調査区北部西寄りのC3a1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.08～1.09mの円形である。底面は長径2.94m、短径2.49mの不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは107cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から63～67cmのところできびれ、上位は直立している。

覆土 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 ロームブロック中量（締まり強い） |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量 | |



第127図 第5号土坑実測図



第128図 第5号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 62点 (深鉢 56, 浅鉢 6), 土製品 2点 (土器片錘), 石器 4点 (打製石斧, 磨製石斧, 石錘, 凹石), 剥片 1点 (チャート) が出土している。土器片は, いずれも小破片で, 覆土中層から上層にかけて多く出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第5号土坑出土遺物観察表 (第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
403	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部下端に強いナデによる段 口唇部単節縄文LR(横), 胴部(縦)	覆土上層	20% PL113
404	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯による区画文 隆帯に沿って幅広の有節沈線	覆土中	
405	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	幅広の有節沈線と並行する2本の沈線 地文に無節縄文R(縦・斜)	覆土中	
406	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐(外) 明赤褐(内)	普通	口唇部弧状とL字状の太い沈線 外・内面ナデ	覆土上層	PL113
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP31	土器片錘	5.3	4.8	1.2	30.6	長石・石英	黒褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中		
DP32	土器片錘	5.4	5.1	1.3	40.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中		

第6号土坑（第129図 PL19）

位置 調査区北部西寄りのC 3a1区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.48m，短径1.29mの楕円形で，長径方向はN-23°-Eである。底面は平坦で，深さは40cmである。壁は外傾している。

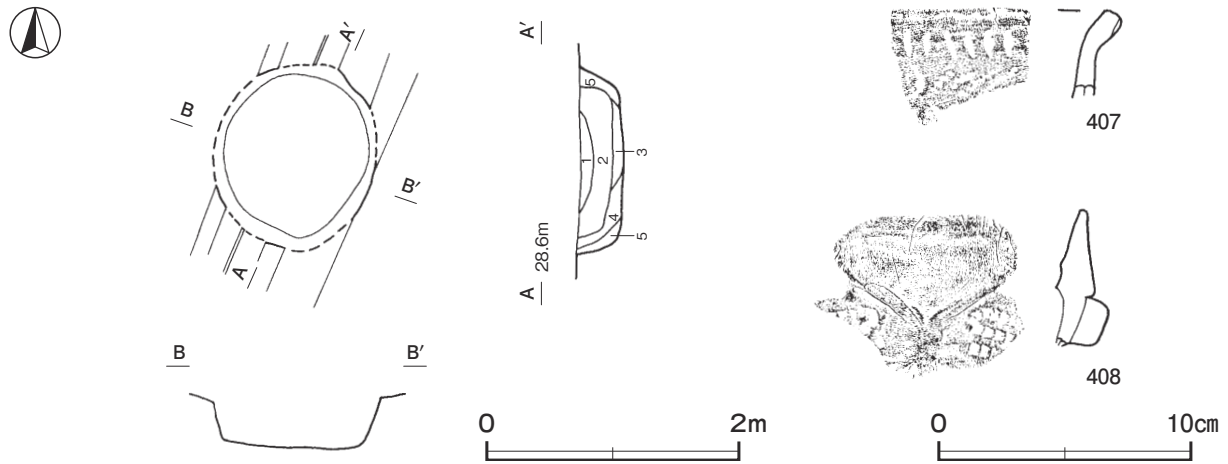
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片12点（深鉢）が出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第129図 第6号土坑・出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
407	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部爪形文 地文に単節縄文LR	覆土中	
408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にふい貫(外) 橙(内)	普通	ハート形の小波状突起 下部に摘み状の突起 口縁部有節沈線	覆土中	

第7号土坑（第130図 PL18）

位置 調査区北部西寄りのB 2j0区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.95～0.97mの円形である。底面は平坦で，深さ28cmである。壁は外傾している。

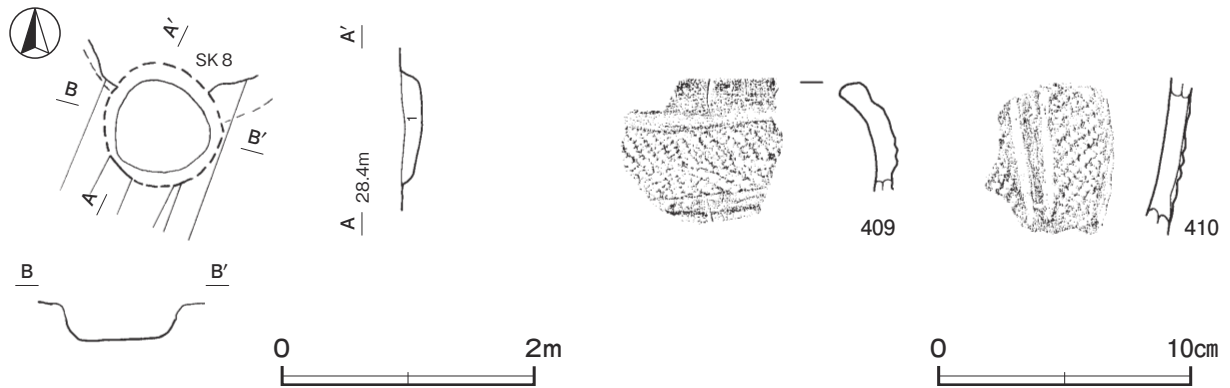
覆土 単一層である。ロームブロック，炭化物，焼土粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片7点（深鉢），剥片1点（チャート）が出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第130図 第7号土坑・出土遺物実測図

第7号土坑出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
409	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部沈線による区画文 区画内0段多条縄文 LR（縦）	覆土中	
410	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙(外) 橙(内)	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 2本の沈線を垂下沈線間磨消	覆土中	

第8号土坑（第131図 PL18）

位置 調査区北部西寄りのB2j0区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第54号土坑を掘り込み，第2・7・38号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.10m，短径1.70mの楕円形で，長径方向はN-14°-Eである。底面は長径1.92m，短径1.74mの不整形円形である。底面は平坦で，確認面からの深さは84cmである。壁は内彎して，袋状を呈し，底面から40～45cmのところにくびれ，上位は直立している。

ピット 径30cmの円形で，深さ11cmである。性格は不明である。

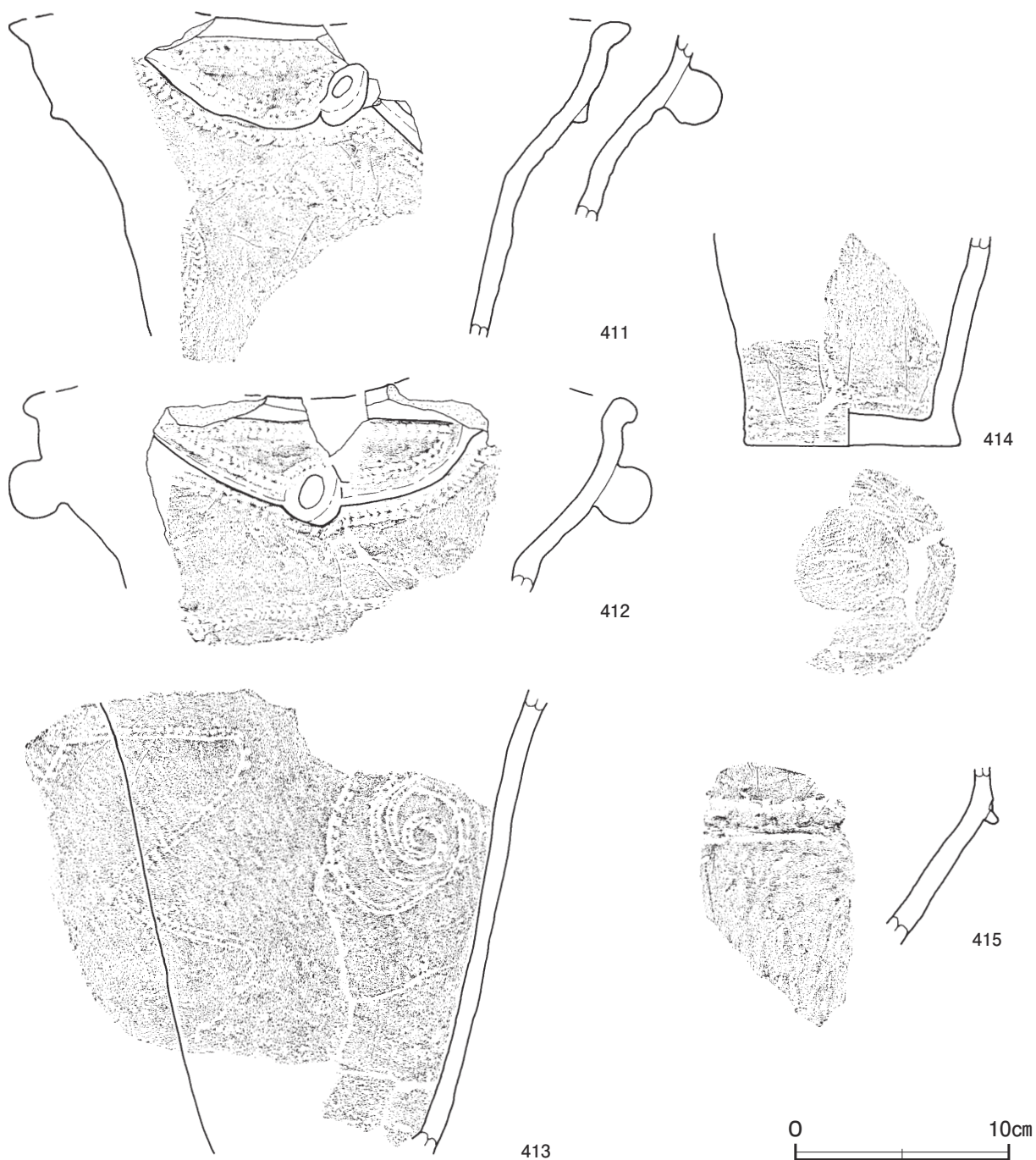
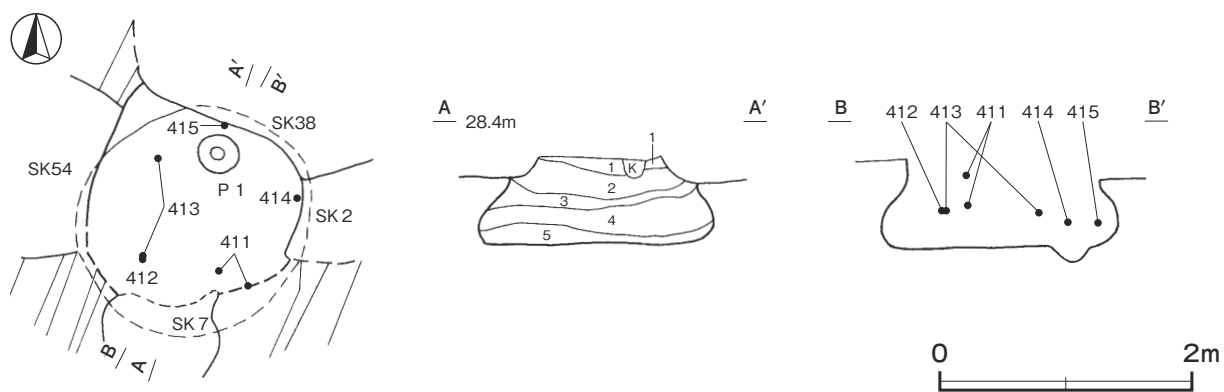
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化物が多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片183点（深鉢），石器2点（敲石，石錘），石核（石英）・剥片（石英）・礫（瑪瑙）各1点が出土している。415は北部，411・414は東部，412・413は西部の覆土中層から，いずれも散乱した状態で出土していることから，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 131 图 第 8 号土坑·出土遗物实测图

第 8 号土坑出土遺物観察表 (第 131 図)

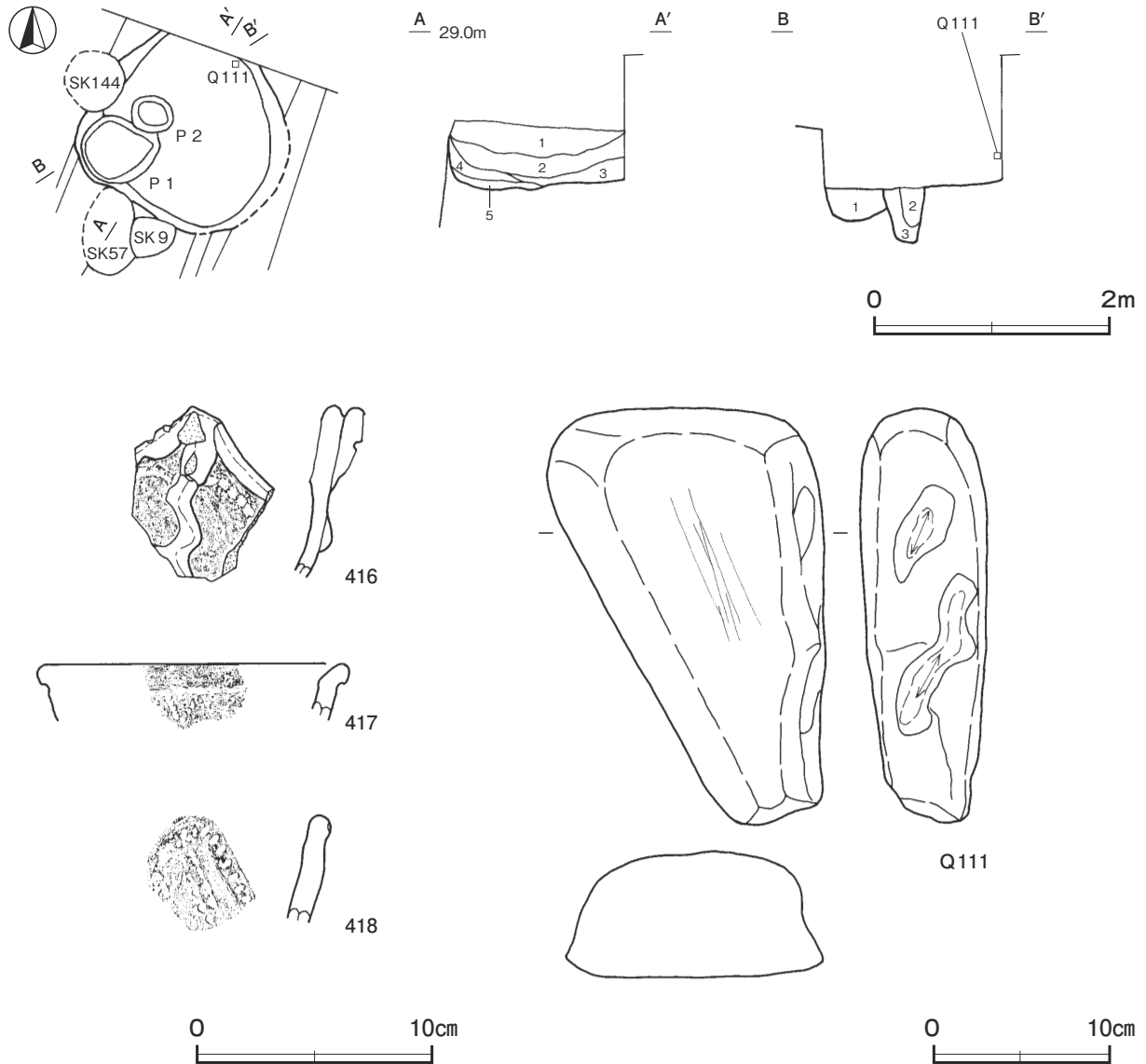
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
411	縄文土器	深鉢	[28.4]	(14.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部上端に隆帯による区画文 摘み状の把手 隆帯両側に沿い有節沈線 (一部ペン先状)	覆土中層	PL114 412と同一個体
412	縄文土器	深鉢	[28.4]	(9.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部上端に隆帯による区画文 摘み状の把手 隆帯両側に沿い有節沈線 (一部ペン先状)	覆土中層	PL114 411と同一個体
413	縄文土器	深鉢	-	(21.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	有節沈線による渦巻文と蛇行状の懸垂文	覆土中層	30% PL114
414	縄文土器	深鉢	-	(18.0)	10.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ 底部外反 底部植物圧痕	覆土中層	
415	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石, 石英, 雲母	黒褐	普通	横際に隆帯を巡らし隆帯上端に角押文	覆土中層	

第 10 号土坑 (第 132 図 PL19)

位置 調査区北西部の B 2i8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 9・57・144 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部の一部が調査区域外へ延びているが, 径 1.74 ~ 1.80 m のほぼ円形と推定できる。底面は平坦で, 深さ 48cm である。壁はほぼ直立している。



第 132 図 第 10 号土坑・出土遺物実測図

ピット 2か所。P 1は南西壁際に位置している。径60cmほどの円形で、深さ24cmである。位置と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2は深さ43cmで、P 1に隣接していることから、補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 5層に分層できる。含有物が少ない暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片42点（深鉢）、石器1点（砥石）、剥片1点（頁岩）が出土している。

所見 補助的な貯蔵施設と考えられるピットが伴うことや規模と形状から、袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第10号土坑出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
416	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	頂部に摘み状の突起。口唇部片側に2つのキザミ目。突起下部に断面三角形の隆帯を蛇行状に垂下。口縁部に弧状の有節沈線。	覆土中	
417	縄文土器	深鉢	[12.8]	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	有節沈線による文様描画	覆土中	
418	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部刺突文。区画内に沿って有節沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 111	砥石	23.6	15.8	7.2	3691.5	閃緑岩	表裏及び周縁部に砥面	覆土上層	PL179 被熱

第11号土坑（第133図 PL19）

位置 調査区北西部のB 2h7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第40・79号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、東西径は2.25m、南北径は1.06mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、南東部に長径1.20m、短径0.66mの楕円形の張り出し部を有している。確認面からの深さは50cmで、壁はほぼ直立している。

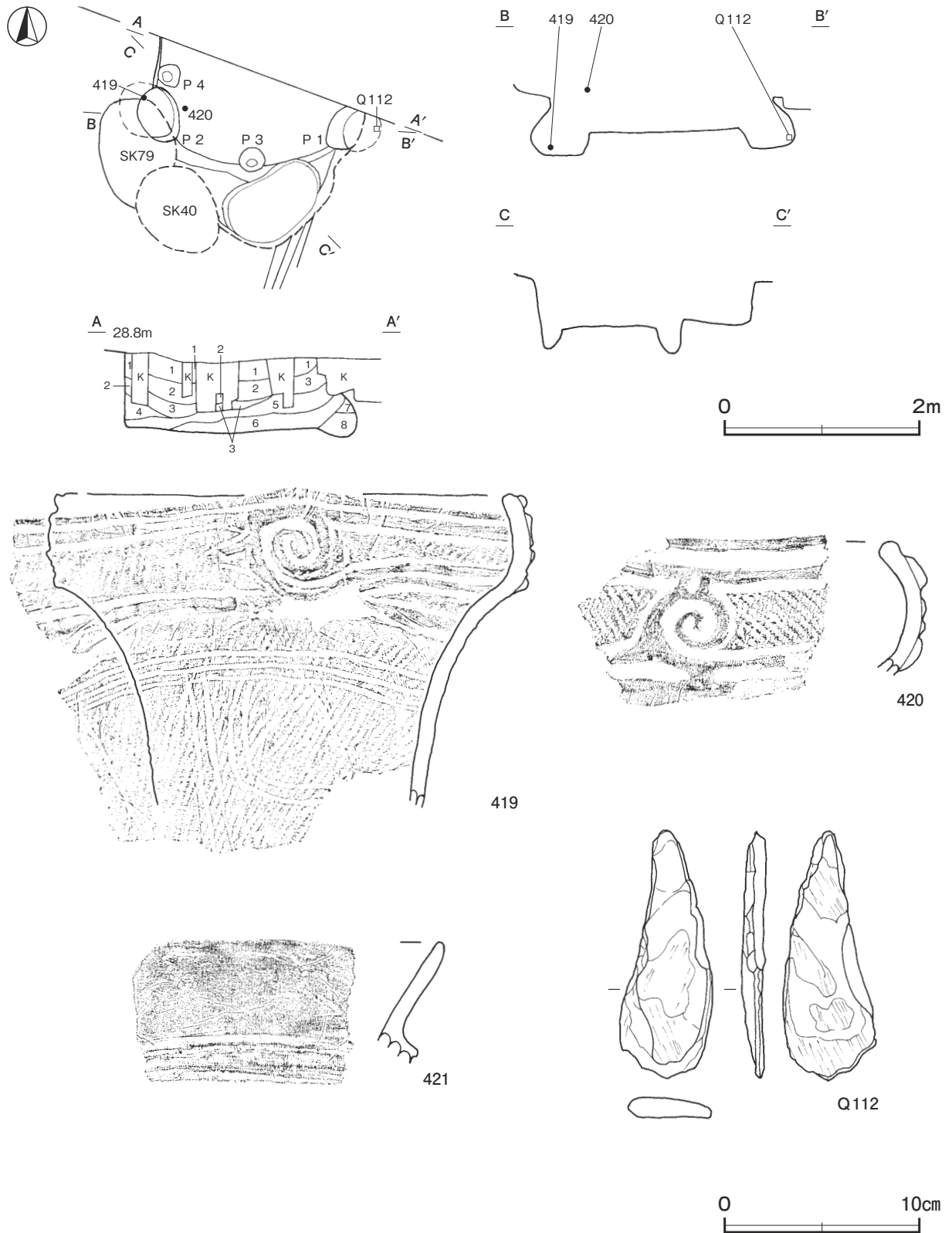
ピット 4か所。P 1・P 2は、径53～73cmほどの楕円形で、深さ21・27cmである。壁は内彎しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。P 3・P 4は、深さ19・29cmで、いずれも壁際に位置していることから、柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片46点（深鉢44、浅鉢2）、石器3点（打製石斧2、磨製石斧1）が出土している。Q 112はP 1の底面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。421はP 1の覆土中、419はP 2の覆土下層、420は南西部の覆土中層から、いずれも破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第133図 第11号土坑・出土遺物実測図

所見 補助的な貯蔵施設と考えられるピットが伴うことや規模と形状から、袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 11 号土坑出土遺物観察表 (第 133 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
419	縄文土器	深鉢	[22.6]	(16.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部に沿って隆帯による渦巻文や剣先状文 胴部2本あるいは3本の沈線による区画文 地 文に単節縄文 RL (縦) 内面磨き	P 2 覆土下層	20% PL114
420	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	隆帯による渦巻文・区画文 地文に0段多糸単 節縄文 RL (横)	覆土中層	
421	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部くの字状に外反 外・内面磨き	P 1 覆土中	口縁部外面 煤付着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 112	打製石斧	12.7	4.8	1.2	97.1	角閃岩	撥形 周縁部敲打調整 刃部に研磨痕と使用痕	P 1 底面	PL163

第 15 号土坑 (第 134 図 PL20)

位置 調査区北部西寄りの B 2 i8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 1.52m, 短径 1.32m の楕円形で, 長径方向は N - 68° - W である。底面は長径 1.92m, 短径 1.72m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 45cm である。壁は内彎しており, 袋状を呈している。

ピット 径 23cm の円形で, 深さ 63cm である。壁際に位置していることから, 柱穴と考えられる。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれ, 不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

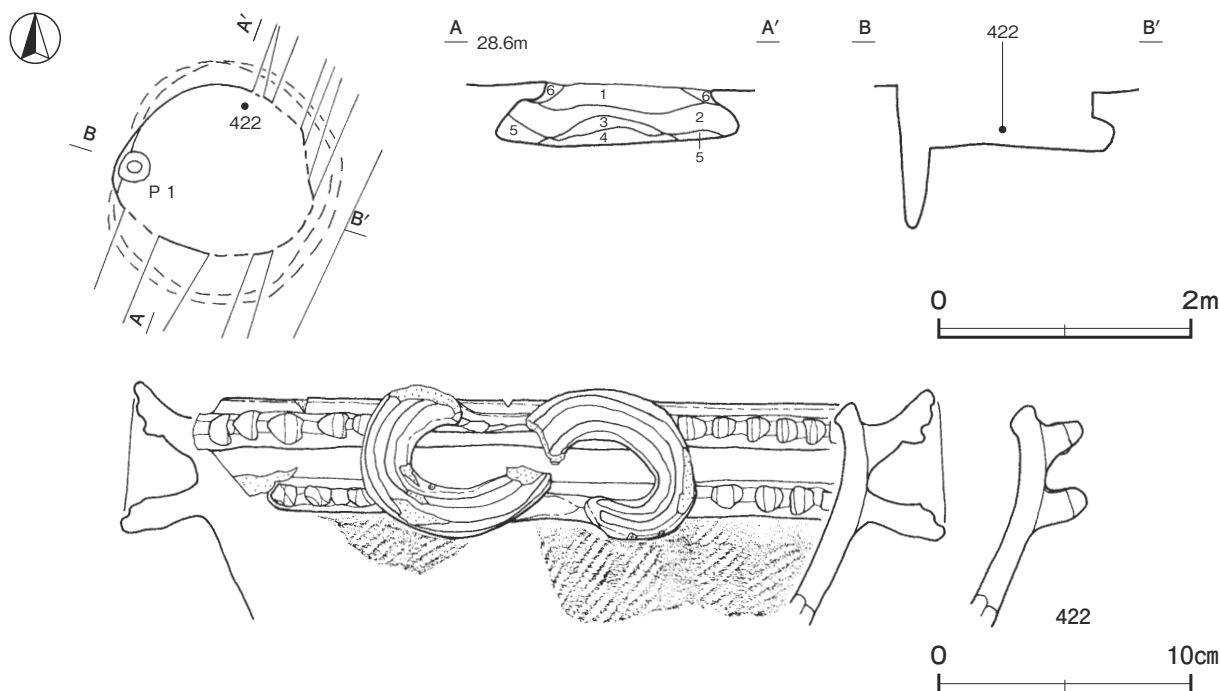
土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 53 点 (深鉢), 石器 1 点 (凹石), 剥片 3 点 (石英, 砂岩, 安山岩) が出土している。

422 は北部の覆土下層から出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 134 図 第 15 号土坑・出土遺物実測図

第 15 号土坑出土遺物観察表 (第 134 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
422	縄文土器	深鉢	[25.2]	(9.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部上半に押圧文を有する2条の隆帯を巡らし、横S字状の把手貼付。口縁部下半以下に0段多糸縄文RL(縦)	覆土下層	10% PL114

第 16 号土坑 (第 135 図)

位置 調査区北部中央の C 3a2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4・17 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 1.05m、短径 0.80m の楕円形で、長径方向は N - 21° - E である。底面は径 1.26 ~ 1.33 m の円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは 52cm である。壁は内彎しており、袋状を呈している。

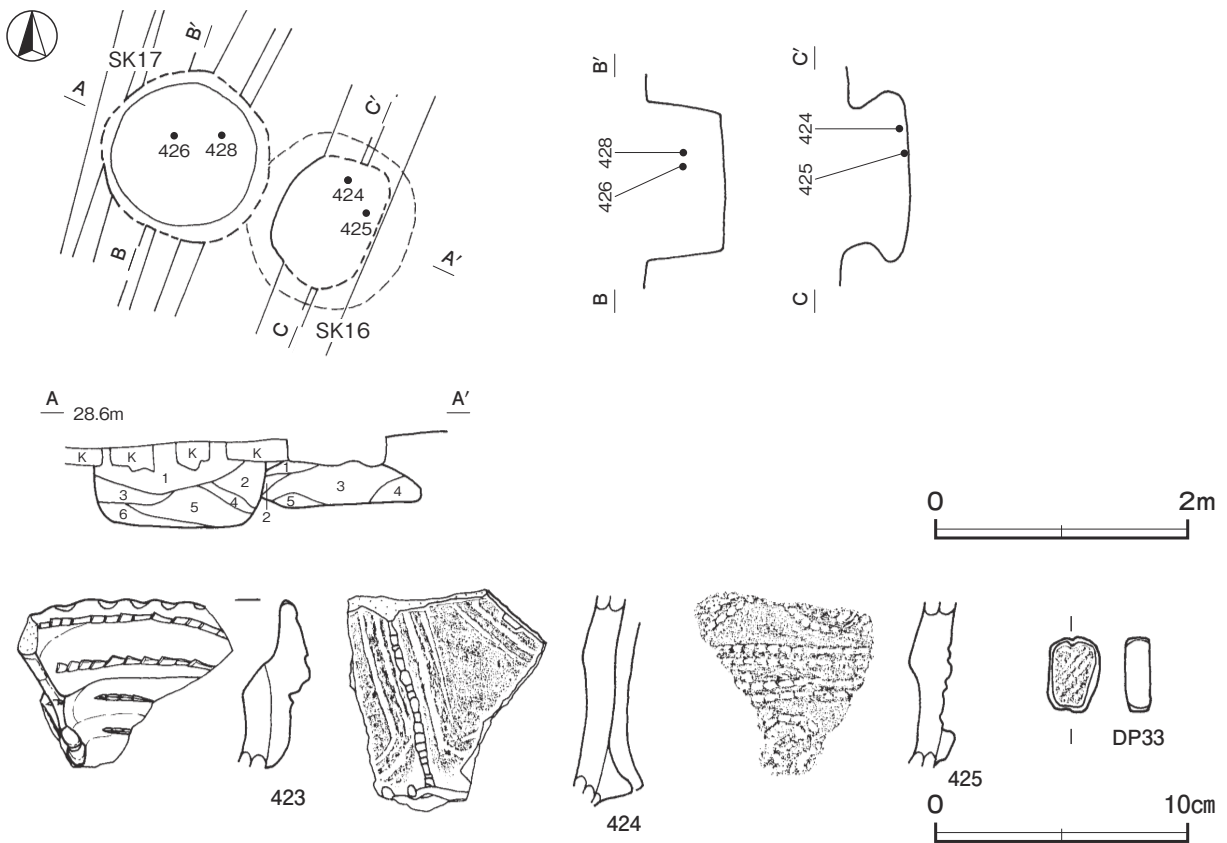
覆土 5 層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 177 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 1 点 (凹石), 剥片 2 点 (石英) が出土している。425 は北東部の底面, 424 は北部の覆土下層から、いずれも破片が散乱した状態で出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



第 135 図 第 16・17 号土坑, 第 16 号土坑出土遺物実測図

第 16 号土坑出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
423	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部に押圧文 横位の有節沈線と断面逆三角形の押引文	覆土中	
424	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯上に押圧文 隆帯に沿って有節沈線	覆土下層	
425	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	半截竹管による押引文 摘み状の貼付	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP33	土器片錘	3.0	2.1	1.0	7.2	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部片 長軸方向1対のキザミ目	覆土中	

第 17 号土坑 (第 135・136 図 PL20)

位置 調査区北部中央の C 3 a2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 16 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.30 ~ 1.31 m の円形である。底面は平坦で、深さは 63cm である。壁はほぼ直立している。

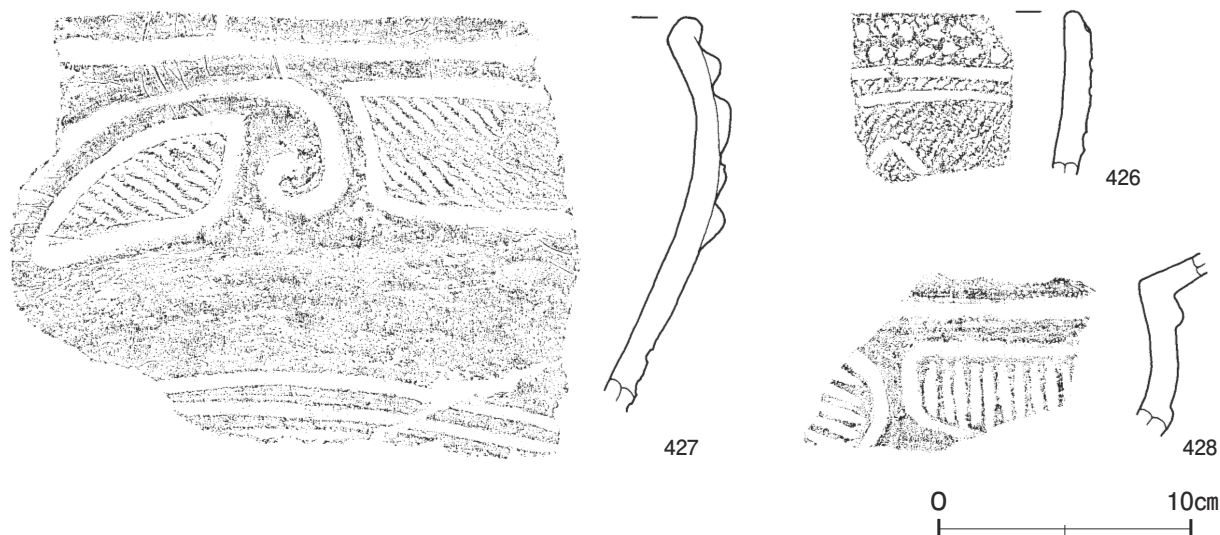
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 46 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨製石斧) が出土している。426 ~ 428 は中央部の覆土中層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 円筒状の土坑で、貯蔵穴と考えられる。時期は、重複関係や出土土器から中期後葉と考えられる。



第 136 図 第 17 号土坑出土遺物実測図

第 17 号土坑出土遺物観察表 (第 136 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
426	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に 0 段多糸縄文 RL (縦) 口縁上部に 2 列の刺突文 2 本の並行沈線及び山形文	覆土中層	
427	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に無節縄文 R (横) 隆帯貼付 太い沈線による渦巻文・区画文 頸部無文 3 本の横位の沈線が巡る	覆土中層	PL114
428	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯貼付による楕円区画文 区画内を沈線で充填	覆土中層	

第 19 号土坑 (第 137 図 PL20)

位置 調査区中央部西寄りの C 3c1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 20 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 長径 2.10 m, 短径 1.90 m の楕円形で, 長径方向は N - 39° - E である。底面は平坦で, 深さは 31cm である。壁は外傾している。

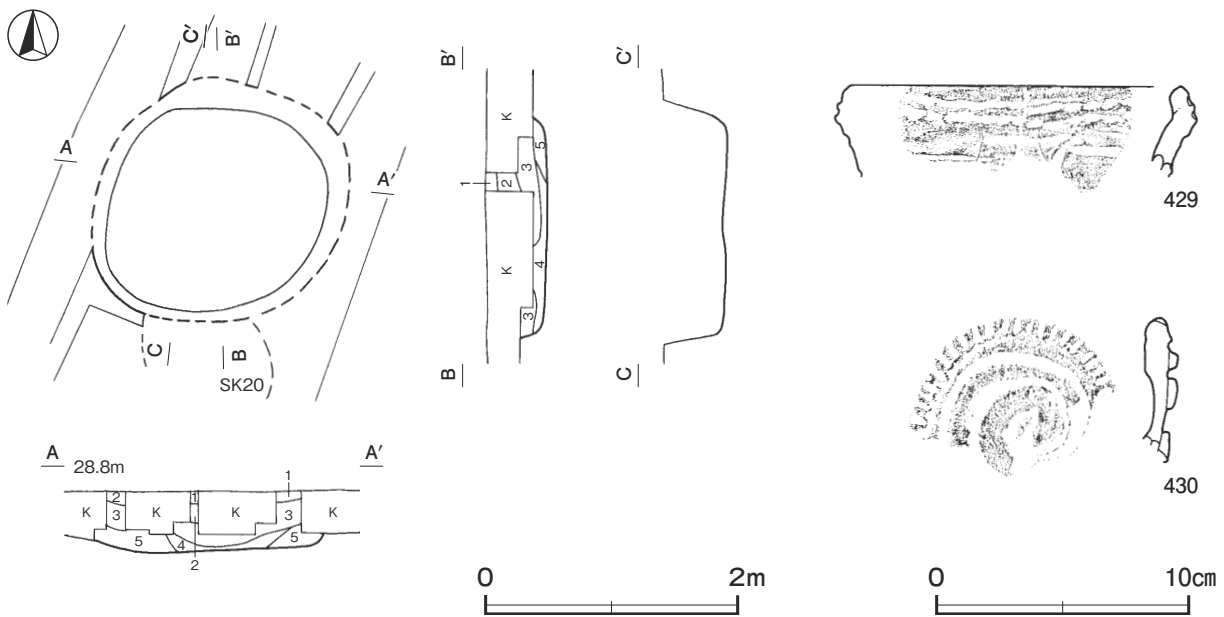
覆土 5 層に分層できる。第 1~2 層は, レンズ状の堆積状況から, 自然堆積で, 第 3~5 層は, ロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 9 点 (深鉢), 剥片 (瑪瑙)・礫各 1 点が出土している。

所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 137 図 第 19 号土坑・出土遺物実測図

第 19 号土坑出土遺物観察表 (第 137 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
429	縄文土器	深鉢	[13.0]	(3.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部 2 本の有節沈線・沈線文 外・内面ナデ	覆土中	20%
430	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	内面中央に指頭による凹み 縁辺部にキザミ目 隆帯貼付による渦巻文	覆土中	

第 30 号土坑 (第 138 図 PL21)

位置 調査区西部の C 2a6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 59 号土坑を掘り込み, 第 58 号土坑, 第 1 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.58 m, 短径 1.72 m の楕円形で, 長径方向は N - 51° - W である。底面は平坦で, 深さは

117cmである。壁は外傾している。

ピット 3か所。いずれも径50cmほどの円形で、深さ21～63cmである。位置と形状から、柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

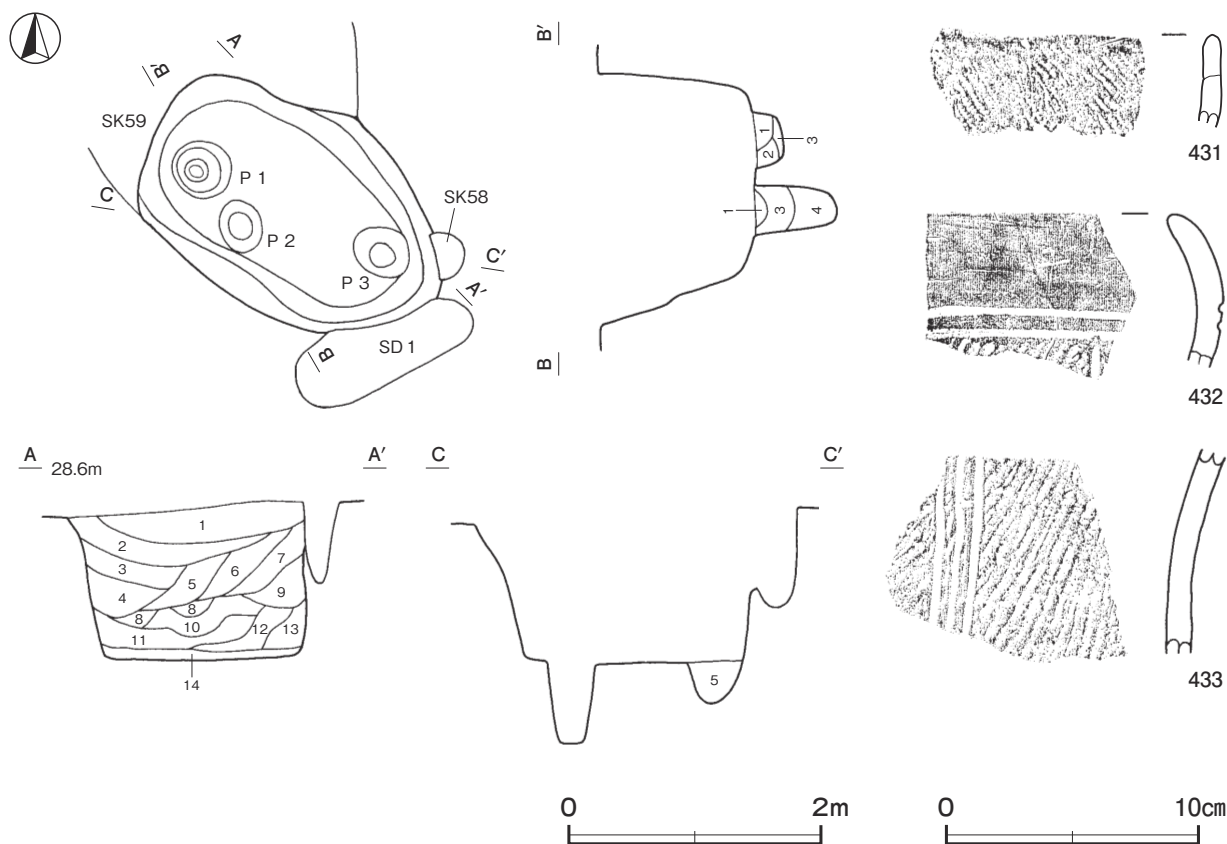
覆土 14層に分層できる。第1～4層は、レンズ状の堆積状況から、自然堆積で、第5～14層は、ロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 (粘性強い) |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック少量 (粘性強い) |

遺物出土状況 縄文土器片316点（深鉢314, 浅鉢2）, 石器2点（磨製石斧, 敲石）, 剥片5点（瑪瑙2, チャート1, 緑泥片岩1, 頁岩1）, 礫1点（瑪瑙）が出土している。土器片はいずれも小破片で、多くは覆土中層から上層にかけて出土していることから、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第138図 第30号土坑・出土遺物実測図

第 30 号土坑出土遺物観察表 (第 138 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
431	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	単節縄文 LR (縦)	覆土中層	
432	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にふい黄褐	普通	口縁は幅広の無文部 2本の並行沈線で区画 下部は無節縄文 R (縦)	覆土中層	
433	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	無節縄文 R (縦) を地文とし 3本の並行懸垂文	覆土中層	

第 31 号土坑 (第 139 図)

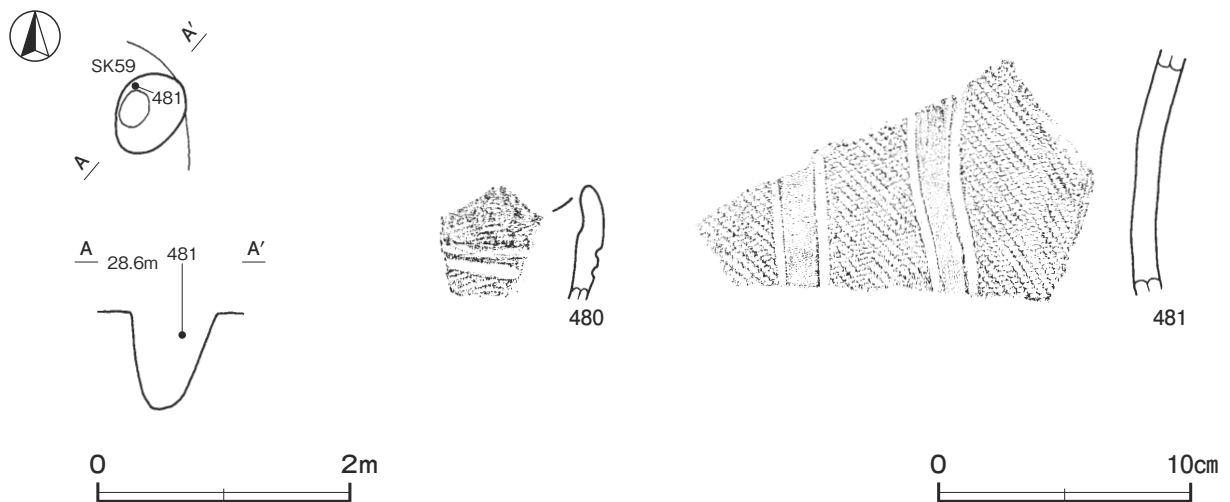
位置 調査区西部の C 2 a6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 59 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.65 m, 短径 0.52 m の楕円形で, 長径方向は N - 30° - E である。底面は皿状で, 深さは 78cm である。壁は外傾している。

遺物出土状況 縄文土器片 48 点 (深鉢), 剥片 2 点 (石英, 蛋白石) が出土している。481 は, 北西部の覆土中層から出土しており, 埋没する過程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 形状から柱穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 139 図 第 31 号土坑・出土遺物実測図

第 31 号土坑出土遺物観察表 (第 139 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
480	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にふい赤褐	普通	地文に無節縄文 L (横) 横位の沈線	覆土中	
481	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 2本の沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中層	

第 32 号土坑 (第 140 図)

位置 調査区西部の C 2 a6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 137・138 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.36 m, 短径 1.06 m の楕円形で, 長径方向は N - 53° - E である。底面は平坦で, 深さは 28cm である。壁は底面から外傾している。

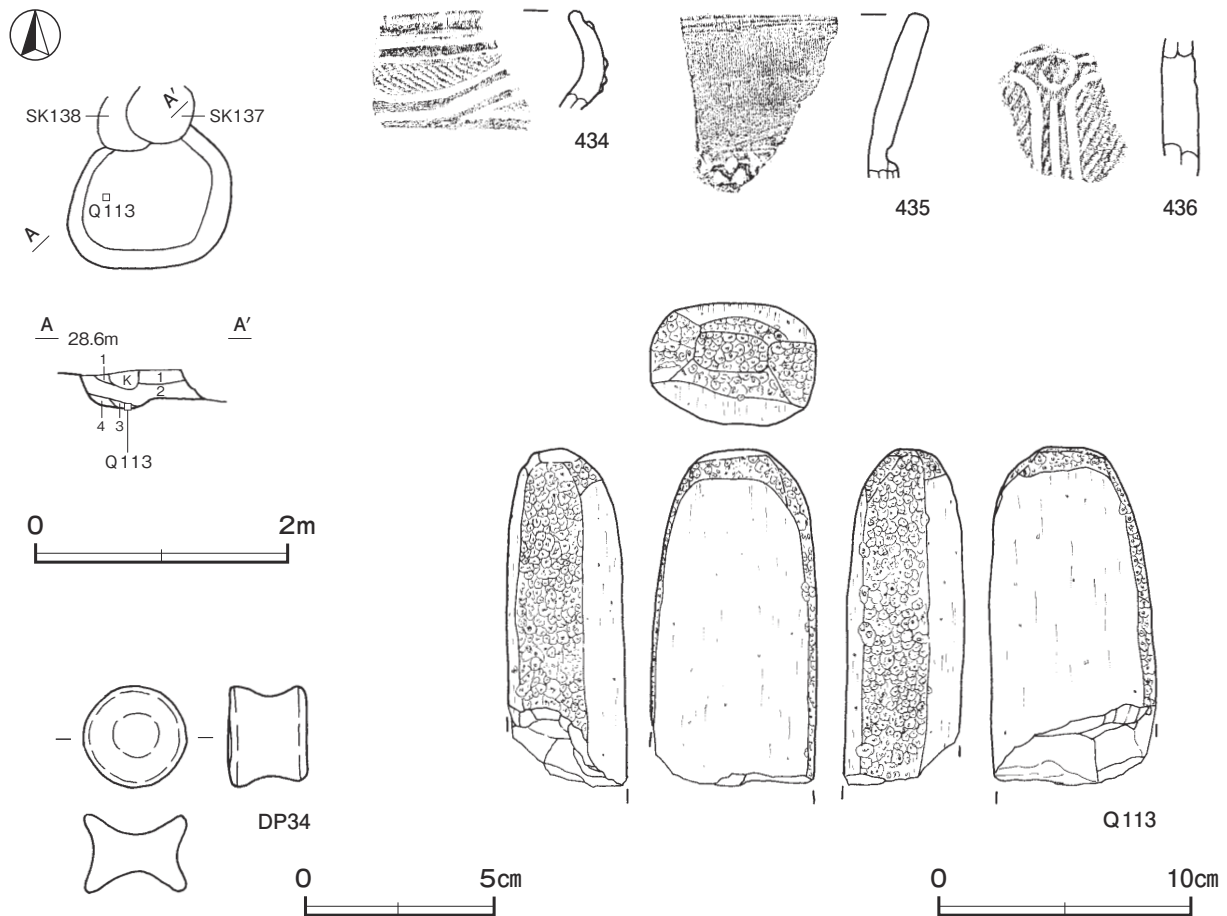
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 65 点 (深鉢), 土製品 1 点 (耳栓), 石器 (磨製石斧未成品)・剥片 (石英) 各 1 点 が出土している。Q 113 は, 西壁際の底面から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 140 図 第 32 号土坑・出土遺物実測図

第 32 号土坑出土遺物観察表 (第 140 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
434	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に1段多糸縄文RL(横)隆帯と沈線により文様描画 頸部は無文帯	覆土中	
435	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	頸部隆帯貼付 交互刺突による波状文が巡る 外・内面磨き	覆土中	
436	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文RL(縦) 沈線による円文・楕円文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP34	耳栓	2.7	2.7	2.1	13.9	長石・石英・雲母	橙	白形 側面ナデ調整	覆土中	PL160

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 113	磨製石斧 未成品	(13.4)	6.5	4.8	(674.0)	アブライト	側面全面微細な敲打調整 表裏に研磨痕 刃部欠損	底面	PL170 被熱

第 35 号土坑 (第 141 ~ 143 図 PL21)

位置 調査区中央部西寄りの C 3d1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は径 1.76 ~ 1.94 m の不整形円形である。底面は, 長径 2.73m, 短径 2.36m の楕円形で, 底面は平坦である。深さは 83cm で, 壁は内傾し, 袋状を呈し, 東部がほぼ直立している。

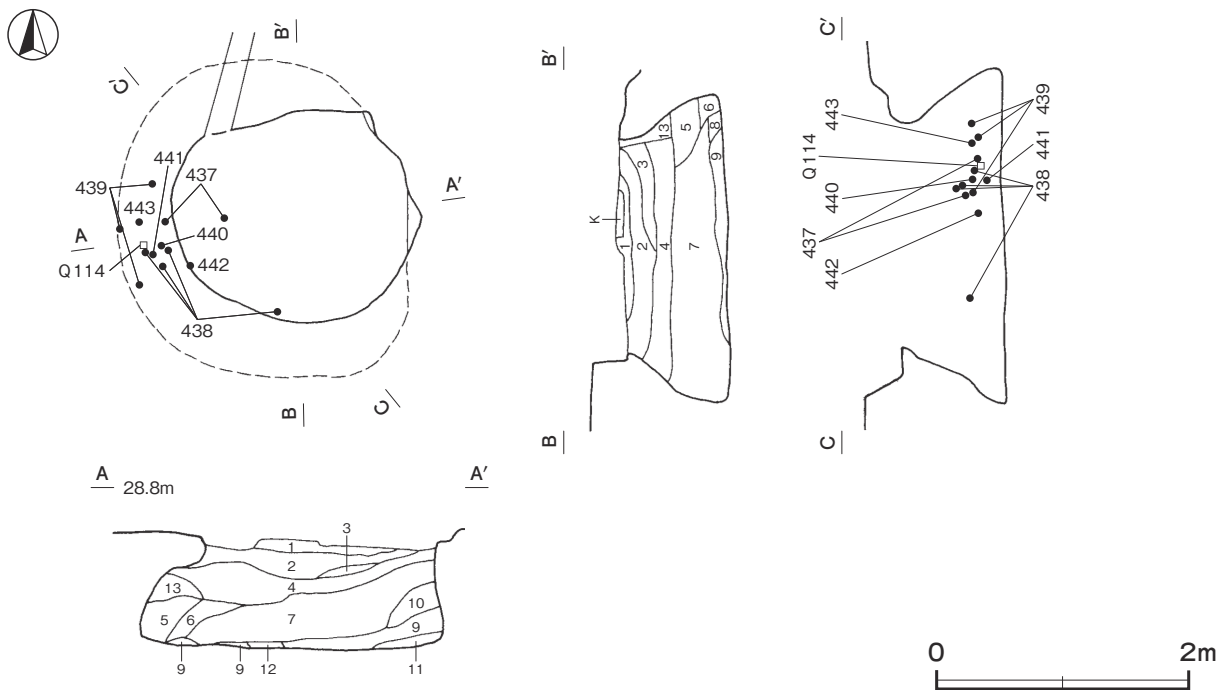
覆土 13 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

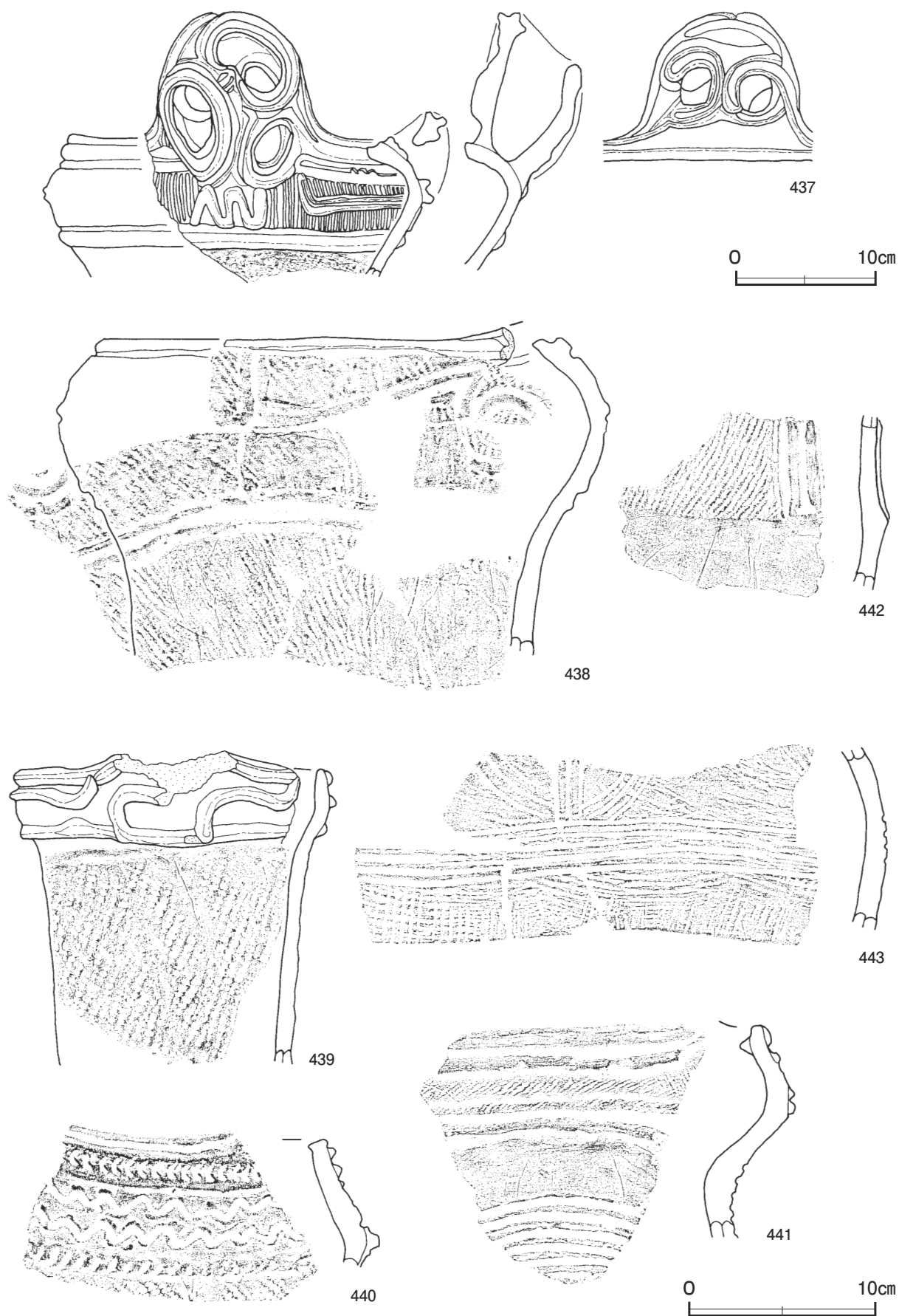
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 299 点 (深鉢 290, 浅鉢 9), 石器 3 点 (打製石斧, 磨石, 凹石), 剥片 1 点 (チャート), 礫 3 点が出土している。437 ~ 443, Q 114 は西部の覆土下層から, まとまって出土しており, 埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

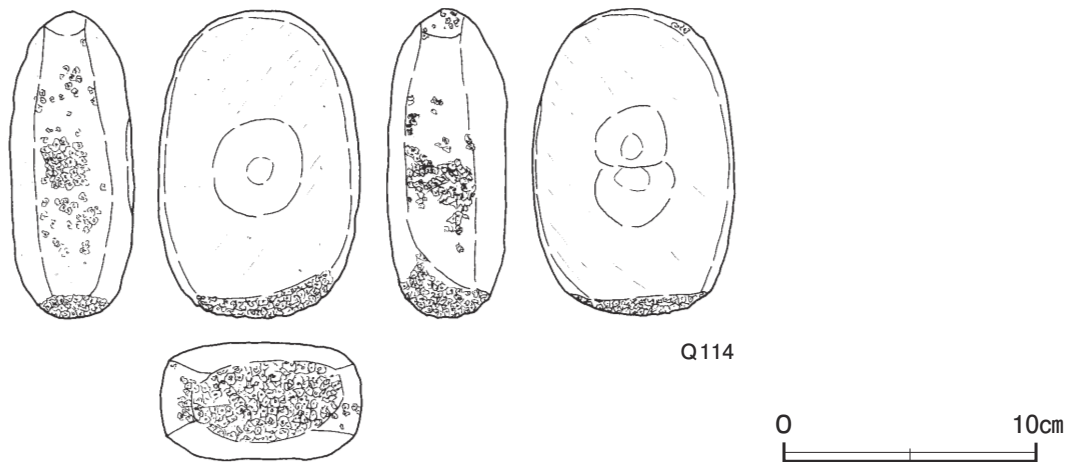
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 141 図 第 35 号土坑実測図



第 142 图 第 35 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 143 図 第 35 号土坑出土遺物実測図 (2)

第 35 号土坑出土遺物観察表 (第 142・143 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
437	縄文土器	深鉢	-	(19.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐(外) 黒褐(内)	普通	口縁部隆帯による区画 区画内沈線文 隆帯によるクランク文・蛇行文 胴部単節縄文 RL	覆土下層	20% PL114
438	縄文土器	深鉢	[24.6]	(17.7)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁端部に太い沈線が一巡 地文に無節縄文 L (斜) 口縁部隆帯による渦巻文 頸部並行する隆帯による区画	覆土下層	20% PL114
439	縄文土器	深鉢	16.2	(16.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部隆帯貼付 隆帯により区画し区画内にクランク文 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層	40% PL114
440	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部隆帯と竹管による爪形文・蛇行文 頸部単節縄文 LR (縦)	覆土下層	PL114
441	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部内面に隆帯による段 二重の背割れ隆帯で区画 区画内無節縄文 L (横) 頸部無文帯 横位の沈線文	覆土下層	PL114
442	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に 0 段多糸縄文 RL (縦) 縦位の背割れ隆帯 胴部下端部くの字状に屈曲 無文	覆土下層	
443	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	地文に燃糸文 (縦) 半載竹管文による並行線・弧線文	覆土下層	PL114

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 114	凹石	12.2	8.0	4.8	667.9	安山岩	表裏中央部に凹み 表裏に研磨痕 側面全面に微細な敲打痕	覆土下層	PL181

第 38 号土坑 (第 144 図 PL18)

位置 調査区北部西寄りの B 2j0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2・8・39・143 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているが、東西径 2.24 m、南北径 1.96m の楕円形と推定できる。長径方向は N - 65° - W である。底面は平坦で、深さは 26cm である。壁は緩やかに傾斜している。

ピット 3 か所。P 1 ~ P 3 は、深さ 12 ~ 27cm である。位置と形状から、柱穴と考えられる。

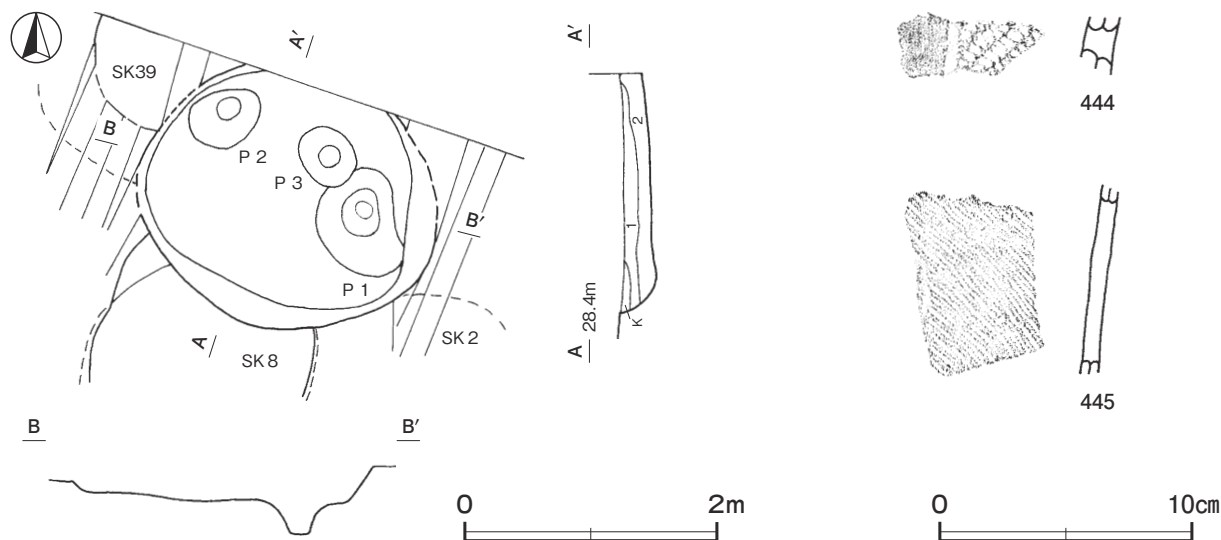
覆土 2 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢) が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第144図 第38号土坑・出土遺物実測図

第38号土坑出土遺物観察表（第144図）

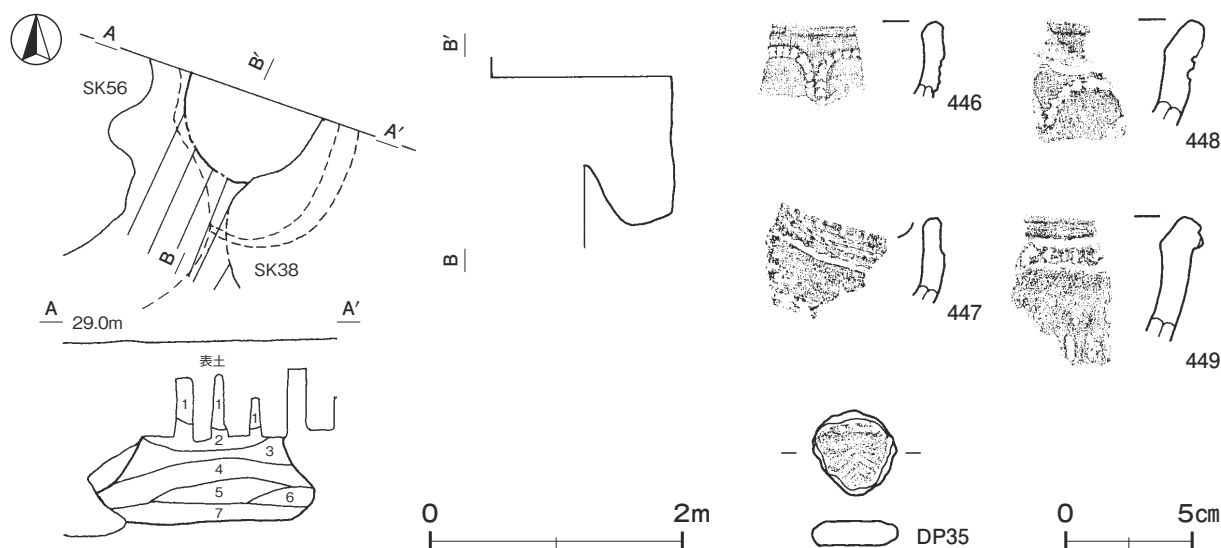
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
444	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文RL（縦） 磨消による懸垂文	覆土中	
445	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文に無節縄文R（横）	覆土中	

第39号土坑（第145図）

位置 調査区北部西寄りのB 2i0区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第38・56号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており，開口部は東西径が1.13m，南北径が0.72mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は東西径が1.38m，南北径が1.10mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき，平坦である。確認面からの深さは70cmである。壁は内彎して，袋状を呈している。



第145図 第39号土坑・出土遺物実測図

覆土 7層に分層できる。ロームや焼土のブロック，炭化物が多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 15 点（深鉢），土製品 1 点（土器片円盤）が出土している。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期前葉と考えられる。

第 39 号土坑出土遺物観察表（第 145 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
446	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	有節沈線による楕円文	覆土中	
447	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口唇部上部にキザミ目 有節沈線	覆土中	
448	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	有節沈線による区画文	覆土中	
449	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆部上部にキザミ目 幅広の爪形文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP35	土器片円盤	3.3	3.4	1.0	11.9	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部片 周縁部研磨	覆土中	

第 40 号土坑（第 146 図 PL19）

位置 調査区北西部の B 2i7 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 11・79 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.00 m，短径 0.76 m の楕円形で，長径方向は N - 40° - W である。底面は平坦で，深さは 72cm である。壁はほぼ直立している。

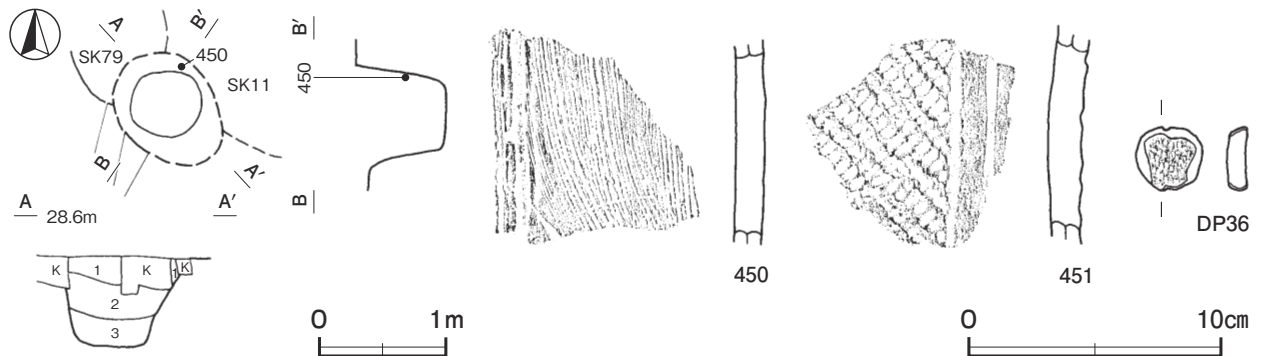
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 15 点（深鉢），土製品（土器片錘）・剥片（流紋岩）各 1 点が出土している。450 は，覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第 146 図 第 40 号土坑・出土遺物実測図

第 40 号土坑出土遺物観察表 (第 146 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
450	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	5本単位の櫛歯状文 並行懸垂文	覆土中層	
451	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地に単節縄文LR(縦) 沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP36	土器片鏝	2.6	2.6	0.8	6.1	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 長軸方向の両端にキザミ目	覆土中	

第 41 号土坑 (第 147・148 図 PL21)

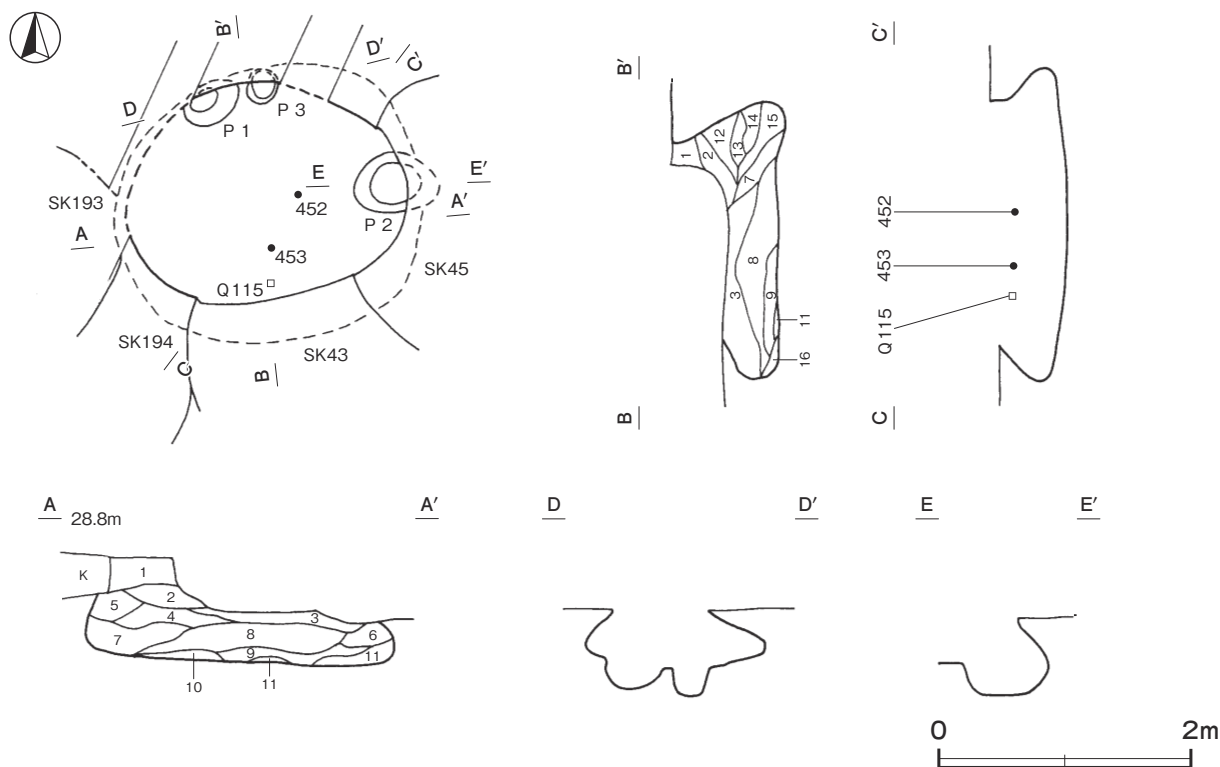
位置 調査区西部の C 2 b0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 193 号土坑を掘り込み, 第 43・45 号土坑に掘り込まれている。第 194 号土坑との新旧関係は不明である。

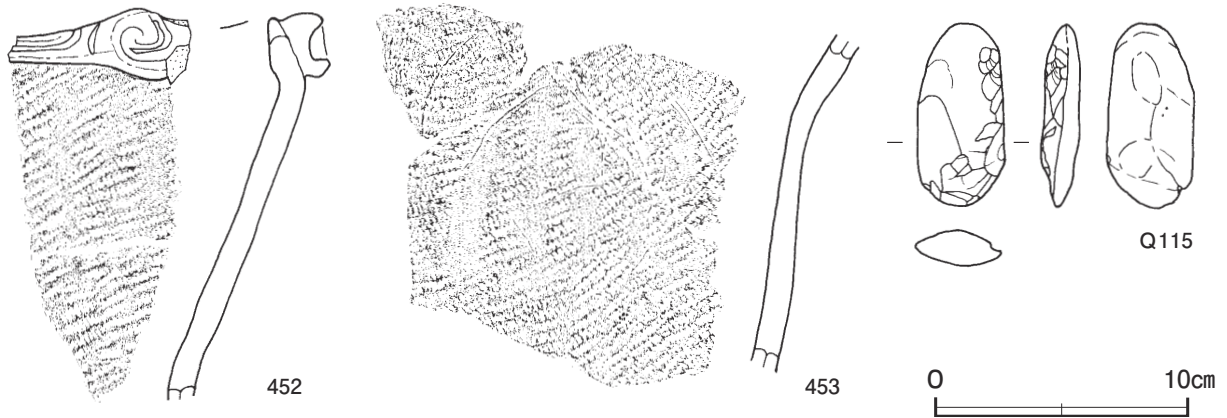
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.24m, 短径 1.74m の楕円形で, 長径方向は N - 89° - W である。底面は径 2.32 ~ 2.45 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 80cm で, 壁は内彎して, 袋状を呈している。

ピット 3 か所。P 1 ~ P 3 は, 長径 25 ~ 65cm の円形または楕円形で, 深さは 17 ~ 26cm である。いずれも規模や配置から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 16 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不自然な堆積状況から, 埋め戻されている。



第 147 図 第 41 号土坑実測図



第148図 第41号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | 鹿沼パミスブロック多量, ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 におい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 (粘性やや強い) | 11 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック中量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量 | 13 褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量 (締まりやや弱い) | 16 におい黄褐色 | 鹿沼パミスブロック多量, ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 48 点 (深鉢), 石器 (磨製石斧)・剥片 (瑪瑙) 各 1 点が出土している。452・453, Q 115 は中央部の覆土上層から出土している。まとまった範囲から出土していることから, ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第41号土坑出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
452	縄文土器	深鉢	-	(15.5)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部隆帯による渦巻文 口縁頂部の平坦面に沈線が巡る。胴部0段多条縄文RL(縦)を間を開けて施文	覆土上層	PL115
453	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に0段多条縄文RL(縦) 一部縦方向の擦痕	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 115	磨製石斧	7.2	3.5	1.5	54.4	緑色岩	小型 扁平な自然礫の片側縁の片面を敲打	覆土上層	PL169

第43号土坑 (第149図 PL22)

位置 調査区西部のC 2b0区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

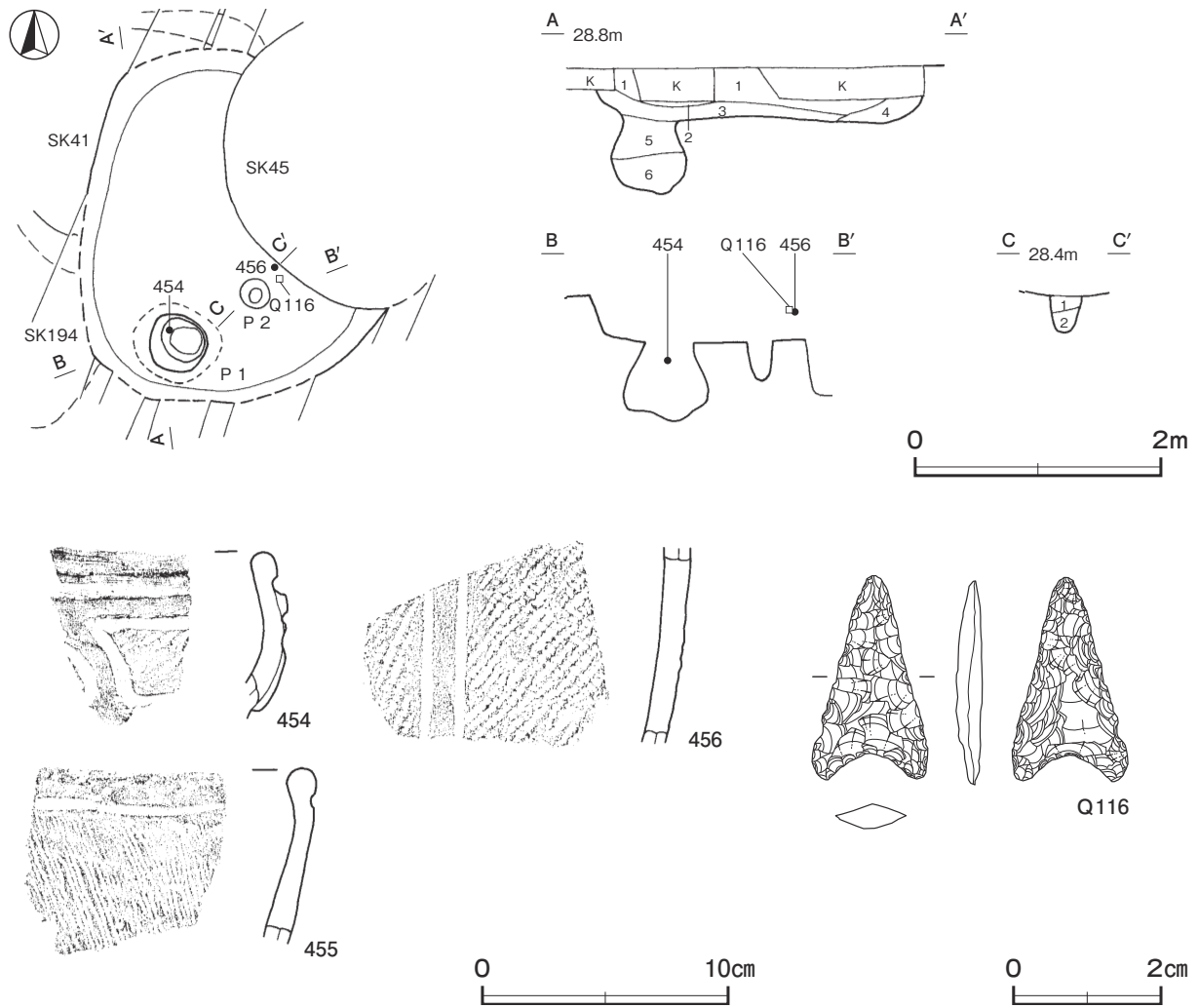
重複関係 第41・194号土坑を掘り込み, 第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第45号土坑に掘り込まれているため, 長径2.92mで, 短径は2.52mしか確認できなかった。楕円形で, 長径方向はN-13°-Eである。底面は平坦で, 深さは41cmである。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は径70cmほどの円形で, 深さ63cmである。壁はやや内彎して, 袋状を呈している。補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は, 深さ31cmで, 位置と形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 黒褐色 | ロームブロック微量 |
|-------|-----------|-------|-----------|



第149図 第43号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。第5・6層は、P1の覆土である。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子多量（締まり弱い） |

遺物出土状況 縄文土器片181点（深鉢），石器1点（鏃），剥片3点（瑪瑙2，安山岩1）が出土している。454はP1の覆土上層から出土しており，埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。456，Q116は中央部の覆土上層から出土しており，埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第43号土坑出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
454	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部太沈線による区画文 区画内単節縄文LR（横）	P1覆土上層	
455	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部1本の沈線 撚糸文（斜）	覆土中	
456	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文RL（縦） 2本の沈線による懸垂文 沈線間磨消	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 116	鎌	2.8	1.6	3.6	1.2	チャート	茎部中央は彎入	覆土上層	PL161

第 45 号土坑 (第 150 図 PL22)

位置 調査区西部の C 3 b1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 41・43・46 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 長径 2.47 m, 短径 2.08 m の楕円形で, 長径方向は N - 10° - W である。底面は平坦で, 深さは 49cm であり, 壁は外傾している。

ピット 3カ所。P 1 は径 35cm の円形で, 深さ 39cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。形状や配置から, 補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2・P 3 は深さ 59・21cm で, 配置から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

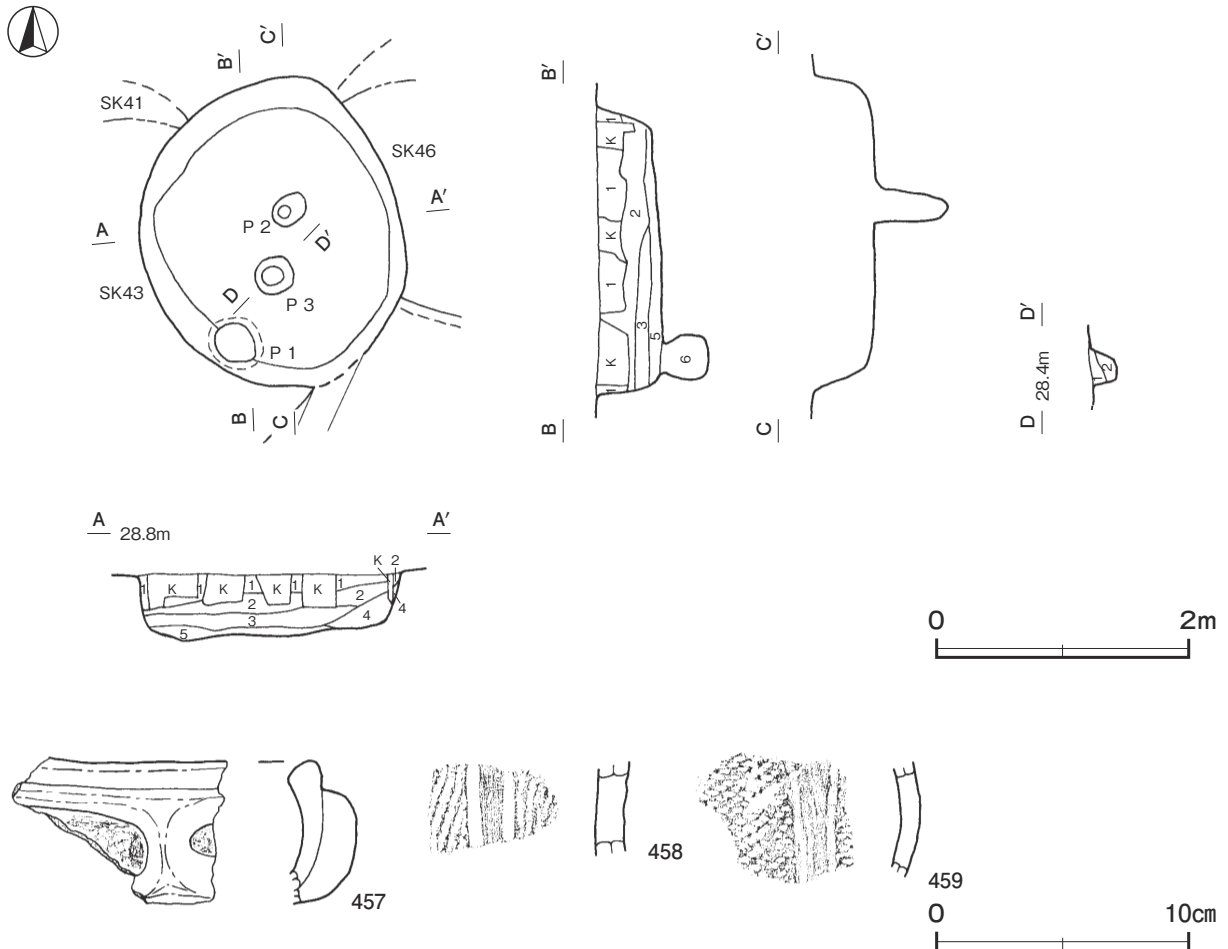
- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

覆土 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

第 6 層は, P 1 の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量 (締まりやや弱い)



第 150 図 第 45 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 58 点（深鉢）が出土している。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 45 号土坑出土遺物観察表（第 150 図）

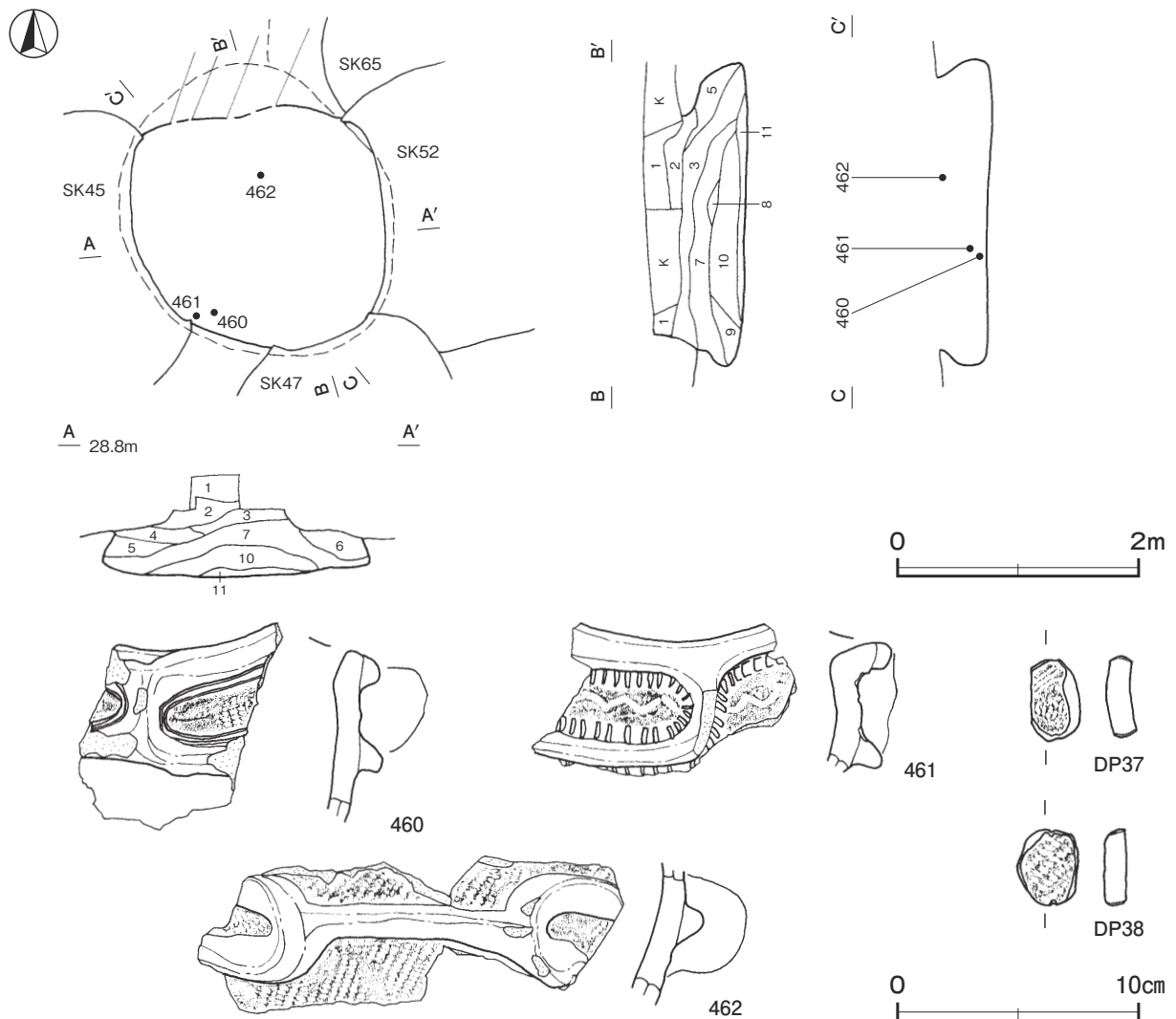
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
457	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面磨き 背の高い隆帯による楕円形区画 区内単節縄文 RL (縦)	覆土中	
458	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に 0 段多条の単節縄文 RL (縦) 2 本の沈 線による懸垂文 沈線間磨消	覆土中	
459	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2 本の沈線による懸 垂文 沈線間磨消	覆土中	

第 46 号土坑（第 151 図 PL22）

位置 調査区西部の C 3 b1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 65 号土坑を掘り込み、第 45・47・52 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径 2.14 ~ 2.35 m の不整形円形である。底面は径 2.26 ~ 2.38m のほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 85cm である。壁は内彎して、袋状を呈している。



第 151 図 第 46 号土坑・出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量(粘性やや強い) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量(粘性やや強い) |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量(粘性やや強い) | 11 暗褐色 | ロームブロック微量(しまり強い) |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 105点(深鉢), 土製品(土器片錘)・礫各2点が出土している。460は南西部の底面から出土しており、廃絶時に投棄されたものと考えられる。461は南西部の覆土下層, 462は中央部の覆土中層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第46号土坑出土遺物観察表(第151図)

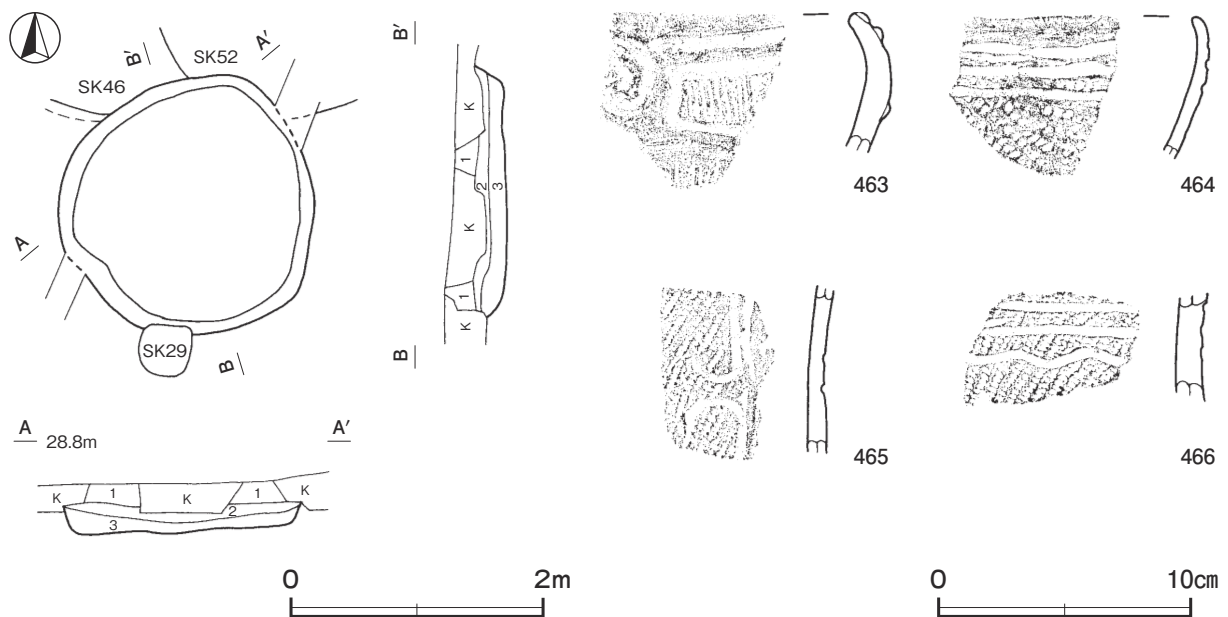
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
460	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による楕円区画 隆帯に沿い並行沈線 区画内単節縄文RL(横)	底面	
461	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	隆帯貼付による楕円区画 隆帯に沿い連続爪形文 区画内浅い沈線による山形文を施文	覆土下層	
462	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 耳朶状の隆帯貼付による文様描画	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP37	土器片錘	3.3	2.1	1.2	9.4	長石・石英・雲母	橙	胴部片 長軸方向1対のキザミ目	覆土中	
DP38	土器片錘	3.2	2.4	0.9	9.2	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 長軸方向1対のキザミ目	覆土中	

第47号土坑(第152図 PL22)

位置 調査区西部のC3c1区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46・52号土坑を掘り込み, 第29号土坑に掘り込まれている。



第152図 第47号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径 2.13 m、短径 2.02 m の円形である。底面は平坦で、確認面からの深さは 45cm である。壁は底面から外傾している。

覆土 3層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 30 点（深鉢 28、浅鉢 2）、石器 1 点（磨製石斧）が出土している。いずれも小破片で覆土中から出土していることから、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 47 号土坑出土遺物観察表（第 152 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
463	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい黄橙	普通	沈線による渦巻文・方形区画 区画内及び地文に条線文（縦）	覆土中	内面炭化物付着
464	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	地文に単節縄文 LR（縦） 口縁直下から 3本の沈線が巡る	覆土中	
465	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい橙	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 沈線による文様描画	覆土中	
466	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい黄褐	普通	地文に単節縄文 RL（縦） 沈線による横位の平行線文・蛇行線文	覆土中	

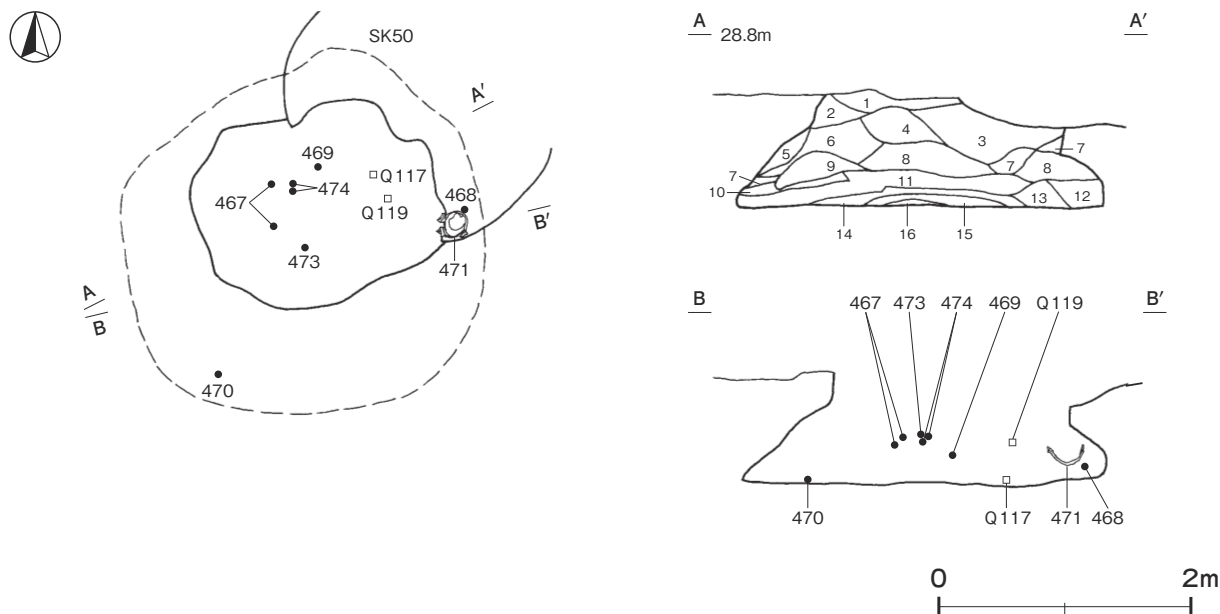
第 49 号土坑（第 153～156 図 PL23）

位置 調査区中央部西寄りの C 3c2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

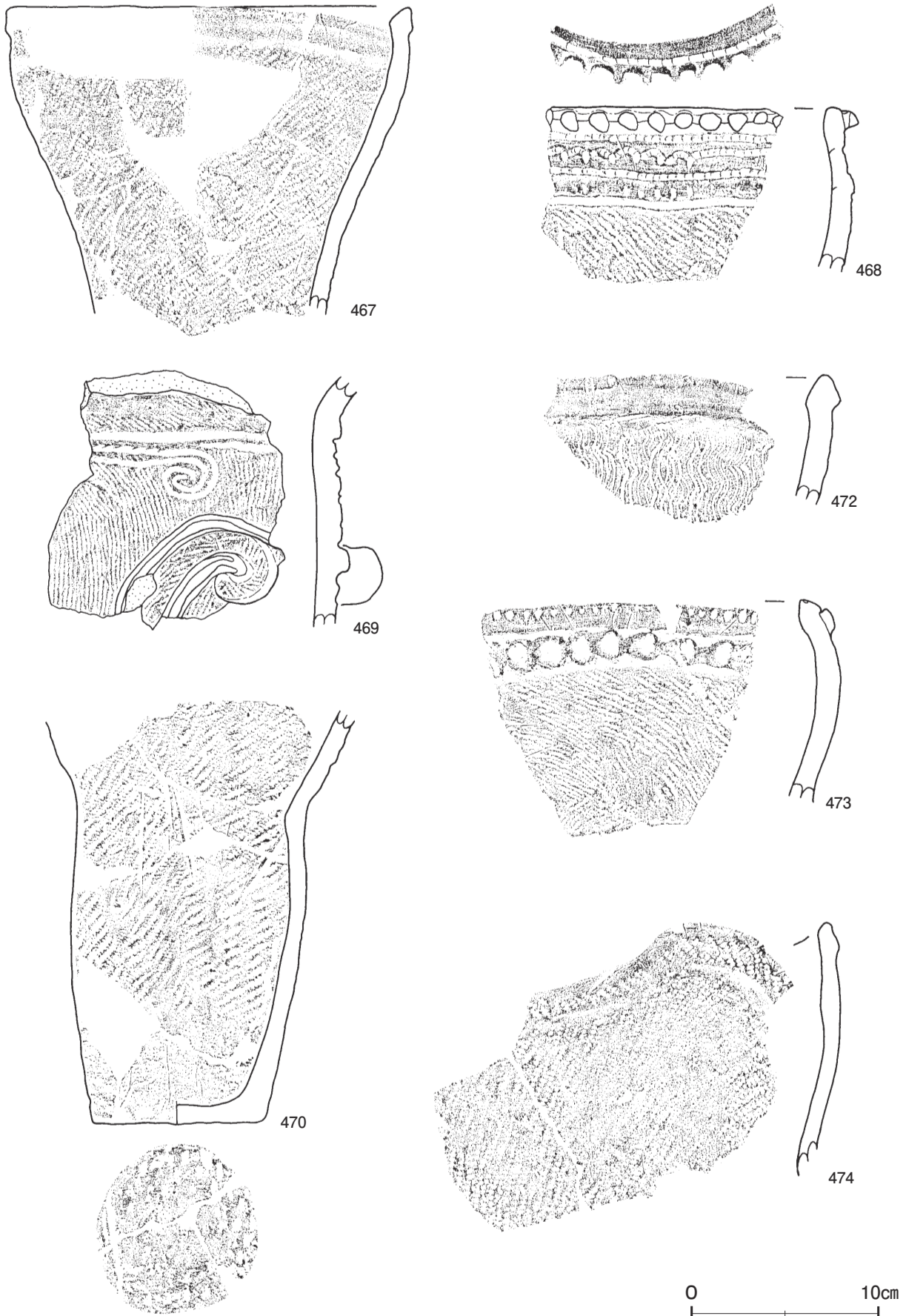
重複関係 第 50 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.91 m、短径 1.50 m の不整楕円形である。底面は径 2.92～3.00m の不整円形で、平坦である。確認面からの深さは 112cm である。壁は大きく内傾して、袋状を呈し、底面から 42～64cm のところでくびれ、上位は直立している。

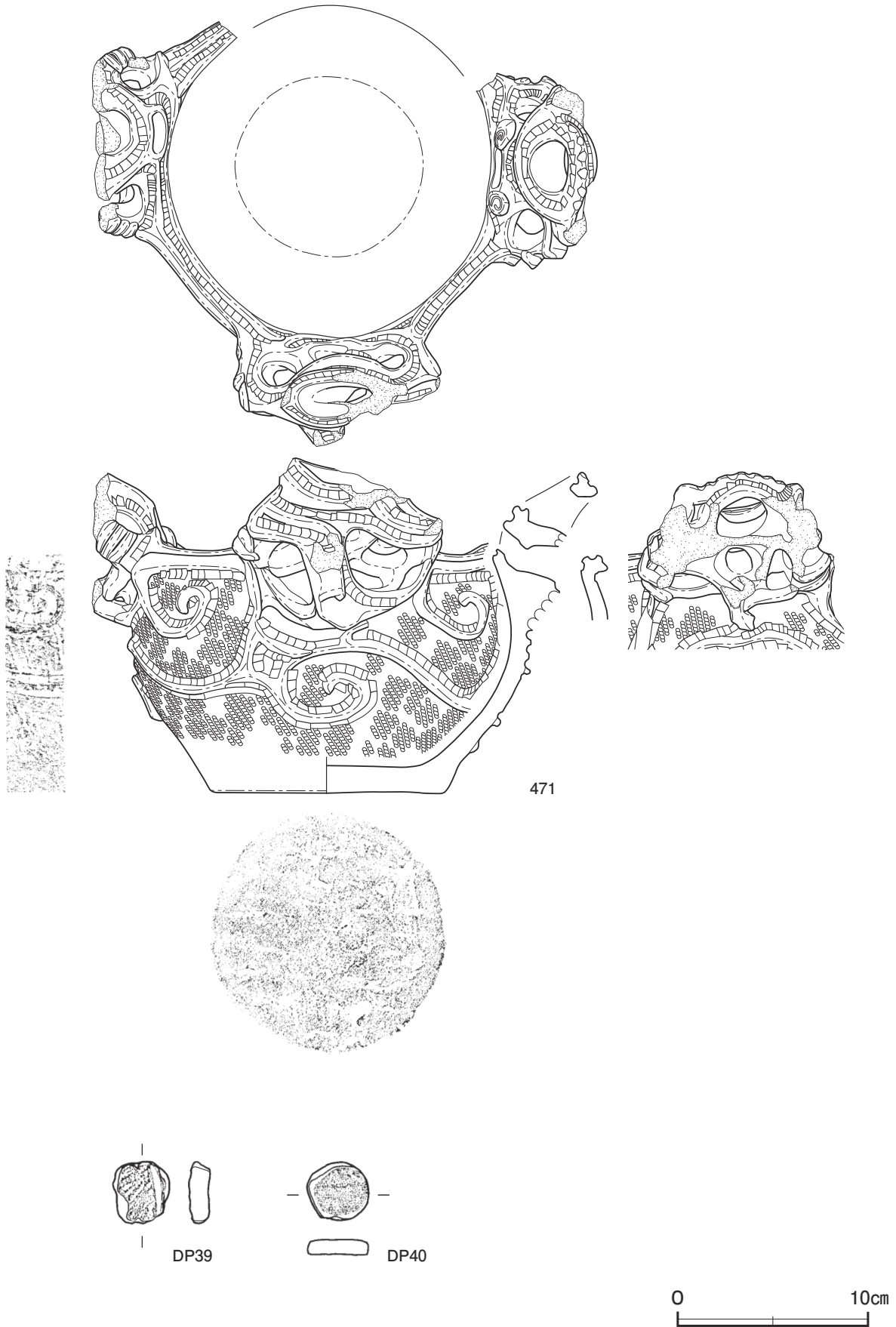
覆土 16層に分層できる。不規則な堆積状況を示しているから、埋め戻されている。



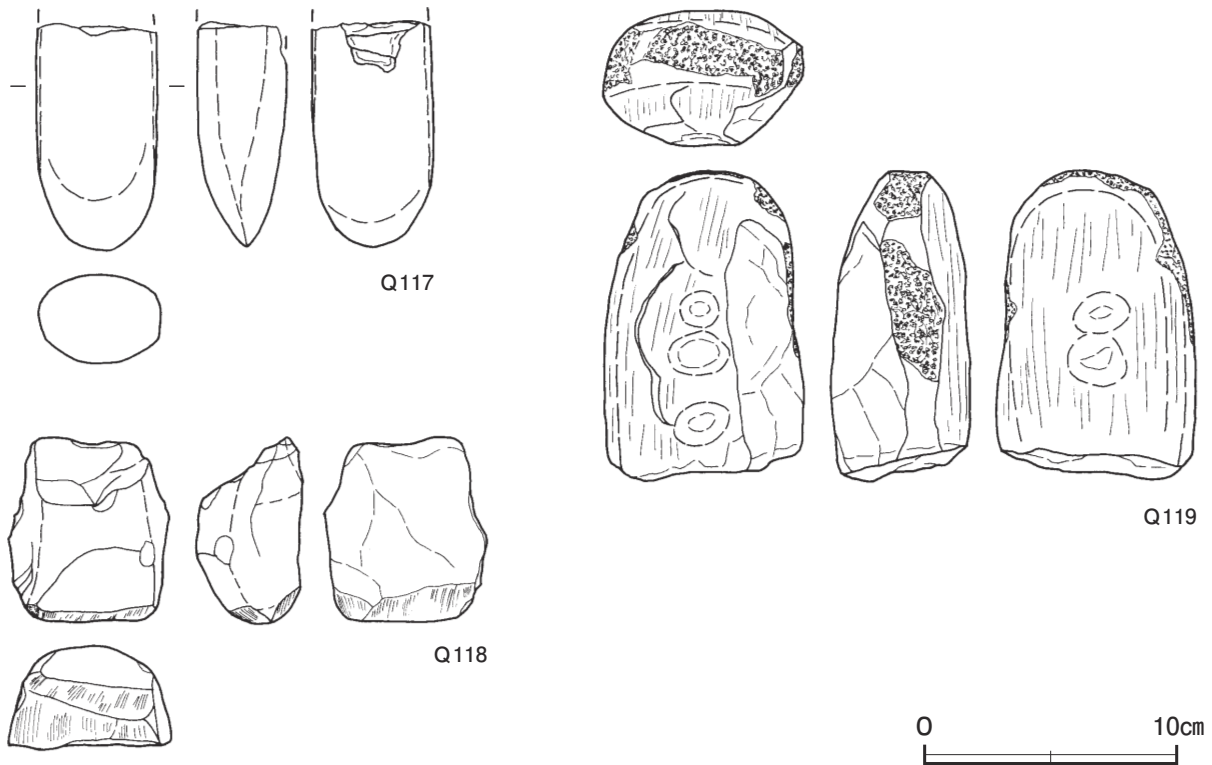
第 153 図 第 49 号土坑実測図



第 154 図 第 49 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 155 图 第 49 号土坑出土遗物实测图 (2)



第 156 図 第 49 号土坑出土遺物実測図 (3)

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 (粘性強い) |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 (縮まりやや強い) |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | 15 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 384 点 (深鉢 378, 鉢 1, 浅鉢 5), 土製品 2 点 (土器片錘, 土器片円盤), 石器 4 点 (磨製石斧, 敲石, 敲砥石, 凹石), 剥片 (瑪瑙)・石核 (チャート) 各 2 点, 原石・自然石各 1 点, 粘土塊 3 点が出土している。470 は南西部の底面から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。468・471, Q 117 は東部の覆土下層から出土しており, 471 は壁際から正位に置かれた状態で出土している。467・469・473・474, Q 119 は, 中央部の覆土中層からまとまって出土しており, いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 49 号土坑出土遺物観察表 (第 154 ~ 156 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
467	縄文土器	深鉢	[21.3]	(16.6)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部無文 胴部単節縄文 RL (縦)	覆土中層	30% PL115
468	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇頂部平坦 有節沈線が一巡 口縁上部を刺突文が施された隆帯が一巡 横位の有節沈線による平行線文・弧線文 地文に無節縄文 L (縦) 地文に無節縄文 R (横・斜) 並行沈線による渦巻文 隆帯に沿ってペン先状の刺突による 2本の沈線文 隆帯上同一原体	覆土下層	PL115
469	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 並行沈線による渦巻文 隆帯に沿ってペン先状の刺突による 2本の沈線文 隆帯上同一原体	覆土中層	PL115
470	縄文土器	深鉢	-	(22.1)	8.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に 0 段多条縄文 RL (縦) 一部縦位の擦痕底面網代痕	底面	30% PL115
471	縄文土器	鉢	19.4	17.6	12.4	長石・石英	黒褐	普通	4 単位の中空把手 隆起帯による渦巻装飾 隆帯に沿って有節沈線 地文に無節縄文 L (縦) 底面網代痕	覆土下層	80% PL115

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
472	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁肥厚部無文 地文に6本単位の櫛歯状工具による波状文(縦)	覆土中	
473	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁頂部に刺突文が巡る 口縁部隆帯貼付後、指頭による凹凸文 地文に無節縄文L(縦)	覆土中層	PL115
474	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁肥厚部に単節縄文RL(横) 地文は同一原体(縦)	覆土中層	PL115

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP39	土器片錘	3.3	2.9	1.1	12.3	長石・石英	黒褐	胴部片 長軸方向1対のキザミ目	覆土上層	
DP40	土器片円盤	3.0	3.2	0.8	9.5	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 側面研磨	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 117	磨製石斧	(9.0)	4.8	3.5	(246.6)	閃緑斑岩	定角式 全面研磨 側縁部に弱い稜 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す ハマグリ刃	覆土下層	PL166
Q 118	敲砥石	7.3	6.4	4.1	248.6	緑色岩	円礫の片端部に微細な敲打痕及び二方向からの砥面をもつ	覆土中	
Q 119	凹石	12.4	8.0	5.5	744.1	砂岩	両面に研磨痕及び凹み 周縁部敲打痕	覆土中層	PL181

第50号土坑 (第157・158図 PL23)

位置 調査区中央部西寄りのC 3c2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49・51号土坑を掘り込み、第37号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、径2.24～2.28mの円形である。底面はほぼ平坦で、深さは35cmである。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は深さ93cmで、形状から柱穴と考えられる。P2は深さ14cmで、性格は不明である。

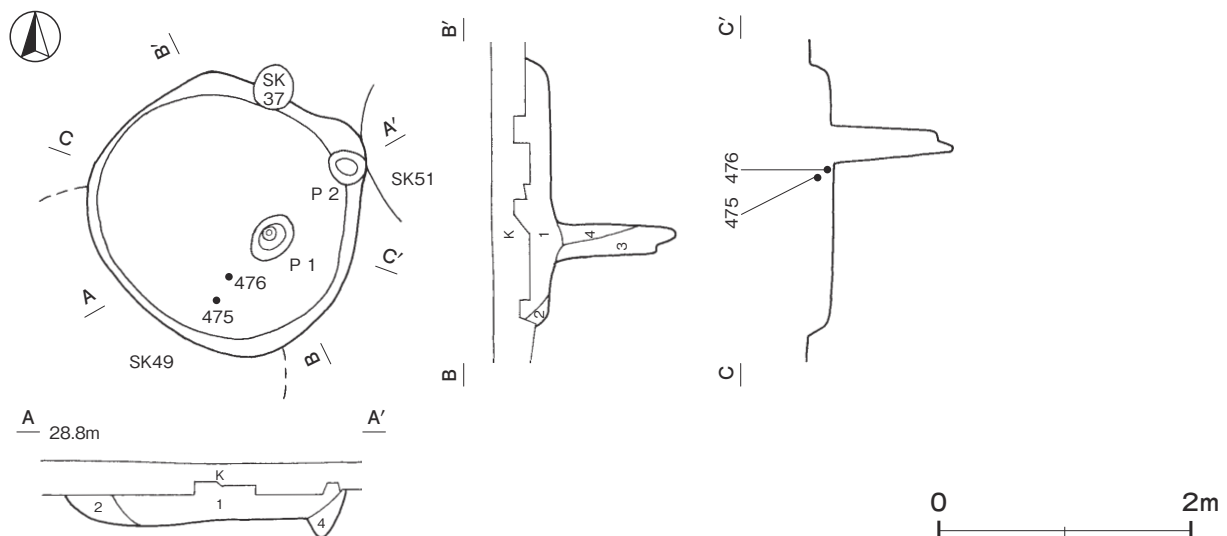
覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第3・4層は、ピットの覆土で、ロームブロックを多量に含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

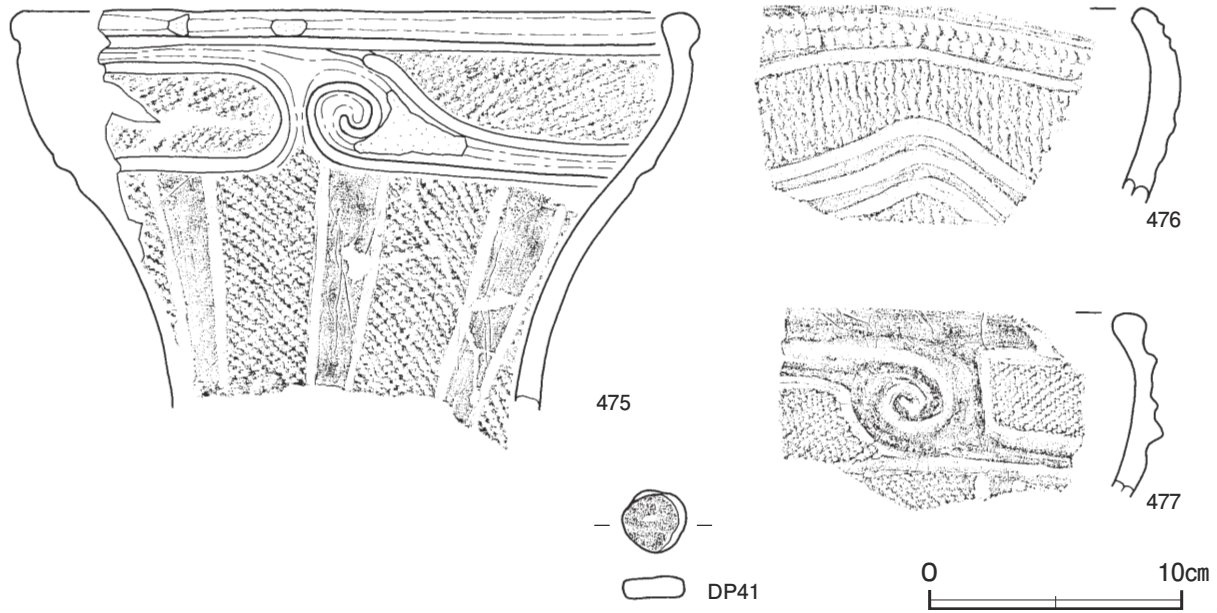
- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片120点(深鉢115, 浅鉢5), 土製品(土器片円盤)・石器(磨石)・剥片(チャート)各1点が出土している。475・476は南部の覆土下層から底面にかけて出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第157図 第50号土坑実測図



第 158 図 第 50 号土坑出土遺物実測図

第 50 号土坑出土遺物観察表 (第 158 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
475	縄文土器	深鉢	[26.0]	(15.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部複節縄文 LRL (横) 隆帯による渦巻文・楕円区画 頸部以下同一原体 (縦) 幅広の磨消懸垂文	覆土下層	10% PL115
476	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁頂部に 2 列の縦長の刺突が巡る 地文に粗い燃糸文 3 本の太い波状文	底面	
477	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部地文に複節縄文 LRL (横) 隆帯による渦巻文・方形区画 頸部地文に同一原体 (縦) 並行沈線間磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP41	土器片円盤	2.5	2.5	0.8	40.8	長石・石英	明褐	胴部片 周縁部研磨	覆土上層	

第 51 号土坑 (第 159 図 PL23)

位置 調査区中央部西寄りの C 3c2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 64 号土坑を掘り込み, 第 50・721 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 長径 2.00 m, 短径 1.84 m の円形である。底面は平坦で, 深さは 67cm である。壁はほぼ直立している。

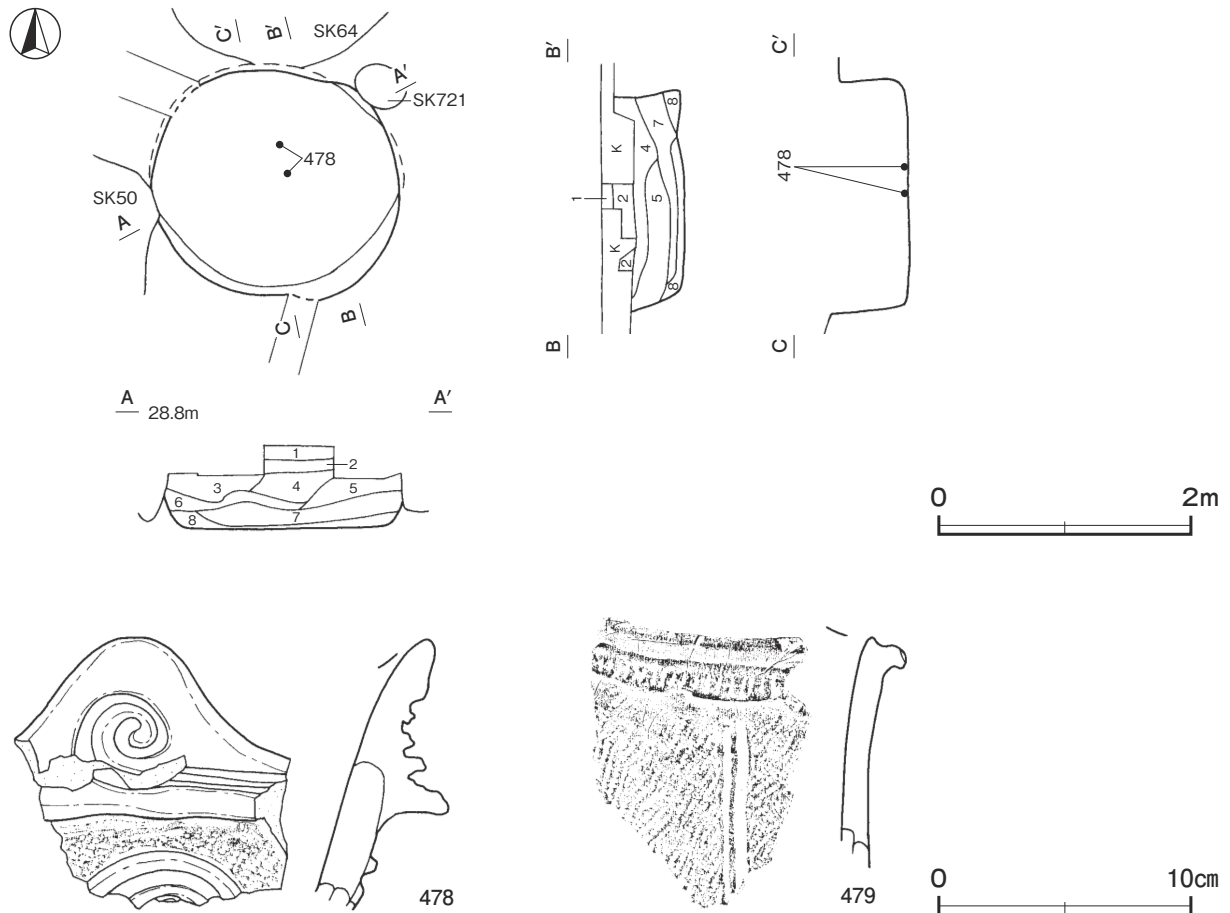
覆土 8 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 (締まりやや強い) | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 (締まりやや弱い) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 (締まり強い) |

遺物出土状況 縄文土器片 60 点 (深鉢), 石核 1 点 (蛋白石) が出土している。478 は, 中央部の底面から破片が散乱した状態で出土しており, 廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第159図 第51号土坑・出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表（第159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
478	縄文土器	深鉢	-	(10.8)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	波頂部に隆帯による渦巻文 地文に単節縄文 LR（横）	底面	
479	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	灰褐	普通	口唇頂部の平坦面に沈線が巡る 隆帯上にキザ ミ目地文に単節縄文LR（横） 並行沈線が垂下	覆土中	

第52号土坑（第160図 PL24）

位置 調査区西部北寄りのC3b2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46・53・65・67・68号土坑を掘り込み、第47・66号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径3.22m、短径2.38mの楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。底面は平坦で、深さは66cmである。壁は外傾している。

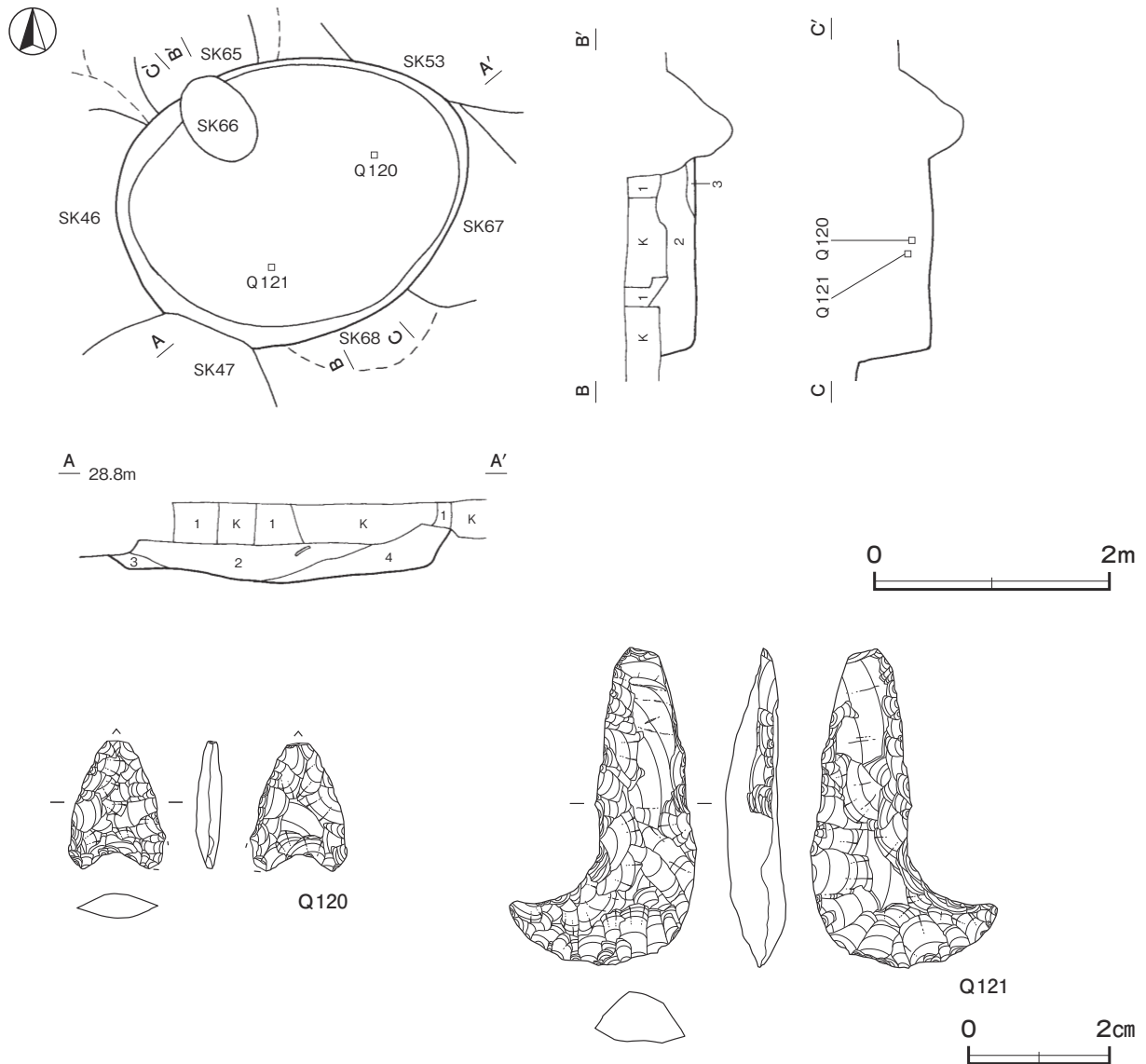
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片154点（深鉢153，浅鉢1），石器2点（鏃，異形石器）が出土している。Q120は北東部，Q121は南部の覆土下層からそれぞれ出土しており，埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期と考えられるが，詳細は不明である。



第 160 図 第 52 号土坑・出土遺物実測図

第 52 号土坑出土遺物観察表（第 160 図）

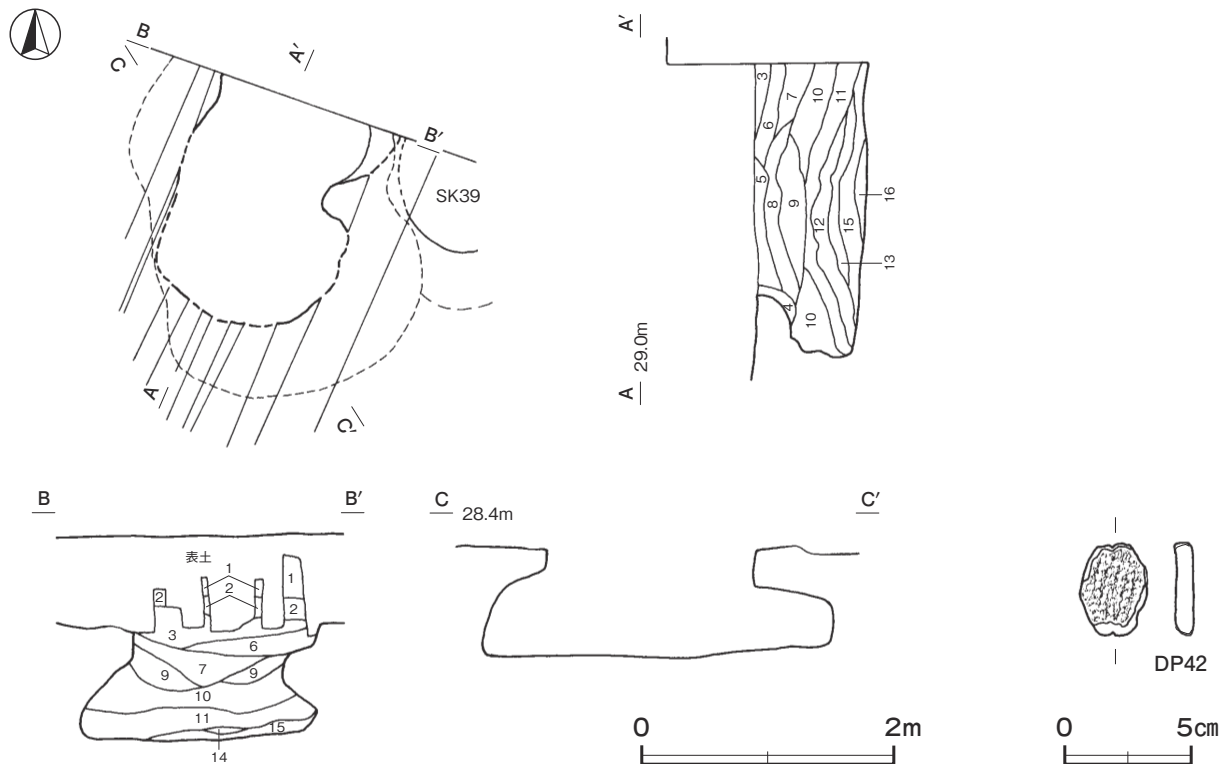
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 120	鏃	(1.83)	(1.38)	0.37	(0.9)	チャート	茎部中央は彎入 基部の一部及び先端部欠損	覆土下層	PL161
Q 121	異形石器	4.54	2.66	8.6	6.8	ホルンフェルス	両面調整 釣針形	覆土下層	PL160

第 56 号土坑（第 161 図 PL25）

位置 調査区北部西寄りの B 2i0 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 39 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており，開口部は，長径が 1.85 m しか確認できなかった。短径 1.47 m の不整楕円形で，長径方向は N - 13° - E である。底面は，長径が 2.80 m しか確認できなかった。短径 2.06 m の不整楕円形で，平坦である。確認面からの深さは 86cm である。壁は内彎し，西部は内傾して，袋状を呈し，底面から高さ 50 ~ 70cm のところでくびれ，上位は直立している。



第 161 図 第 56 号土坑・出土遺物実測図

覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量(締まり弱い) |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量(締まり弱い) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量(締まり弱い) | 12 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量(締まり強い) | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量(締まり強い) | 16 黒褐色 | ロームブロック微量(締まり強い) |

遺物出土状況 縄文土器片 29 点(深鉢), 土製品 1 点(土器片錘)が出土している。土器片は、いずれも小破片で、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。出土土器が少ないため、時期は不明である。

第 56 号土坑出土遺物観察表(第 161 図)

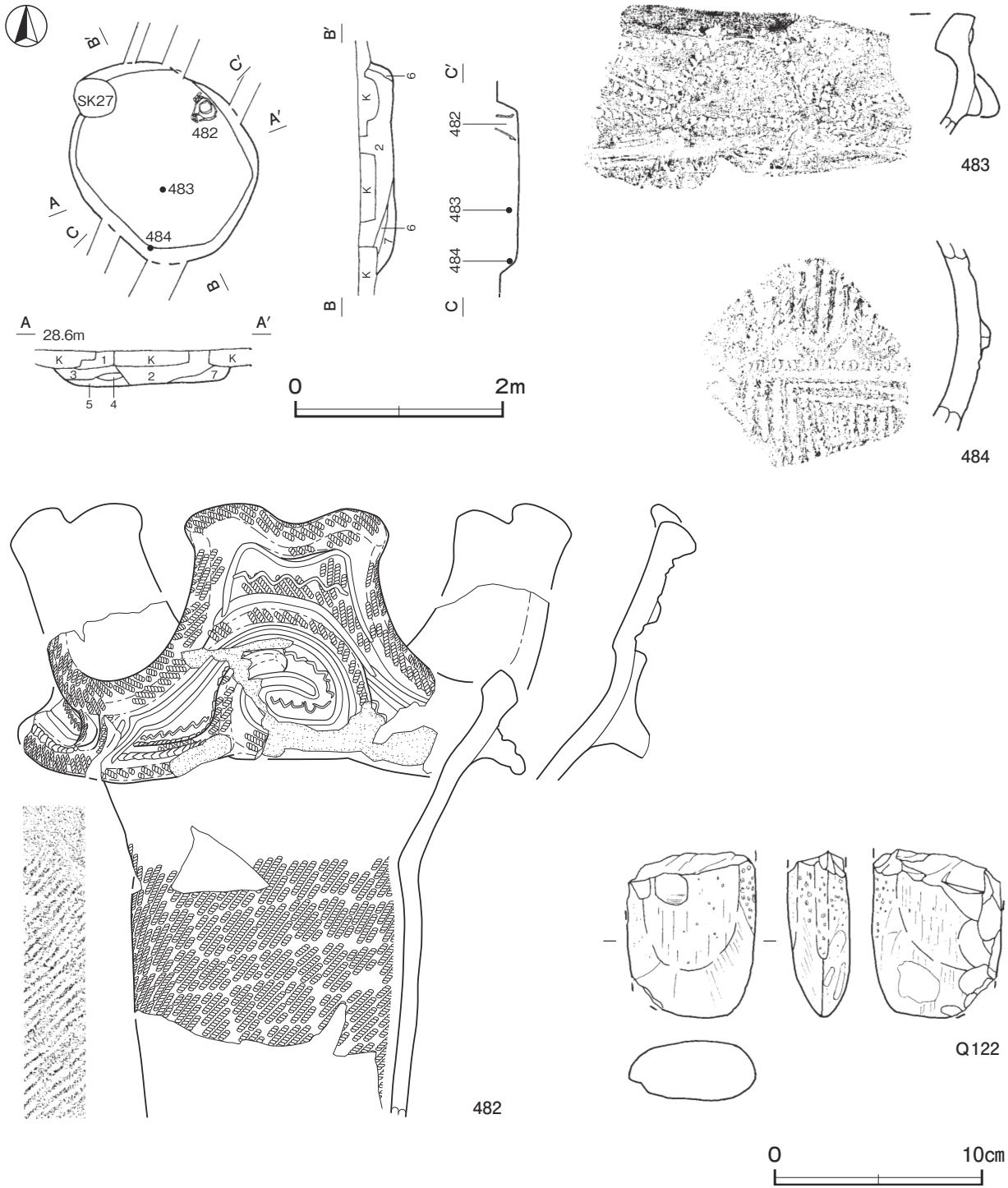
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP42	土器片錘	3.7	2.6	0.8	8.1	長石・石英・雲母	褐灰	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	

第 63 号土坑(第 162 図 PL25)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 d2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 27 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.05 m, 短径 1.64 m の楕円形で、長径方向は N - 35° - W である。底面は平坦で、深さは 35cm である。壁は緩やかに傾斜している。



第 162 図 第 63 号土坑・出土遺物実測図

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量（締まり強い） | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 34 点（深鉢），石器 1 点（磨製石斧未成品）が出土している。482 は，北東壁際の底面から逆位の状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。483 は中央部，484 は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 63 号土坑出土遺物観察表（第 162 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
482	縄文土器	深鉢	24.0	(29.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部隆帯貼付 隆帯上に単節縄文 RL (横) 口縁部上端鐮状の隆帯により区画 隆帯に沿い ペン先状文 胴部単節縄文 RL (縦)	底面	70% PL115
483	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部隆帯による三角区画 隆帯に沿って爪形 文 口縁下部は摘み状突起の隆帯が一巡	覆土下層	PL115
484	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	隆帯による方形区画文・波状文 区画内ペン先 状刺突による並行線を充填	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 122	磨製石斧未成品	(8.1)	6.2	3.0	(225.8)	砂岩	表裏面研磨 両側縁敲打調整 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	

第 64 号土坑（第 163～166 図 PL25）

位置 調査区北部中央の C 3b2 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 51・104・135 号土坑に掘り込まれている。

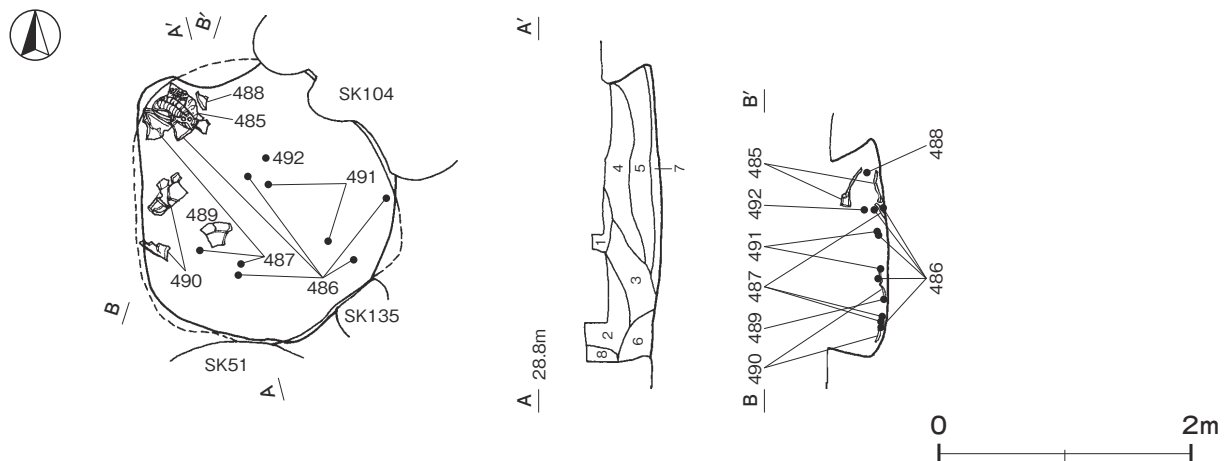
規模と形状 開口部は径 2.07～2.10 m の不整形円形である。底面は長径 2.10～2.26 m の不整形円形で，平坦である。確認面からの深さは 53 cm で，壁はわずかに内傾している。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が多く含まれていることから，埋め戻されている。

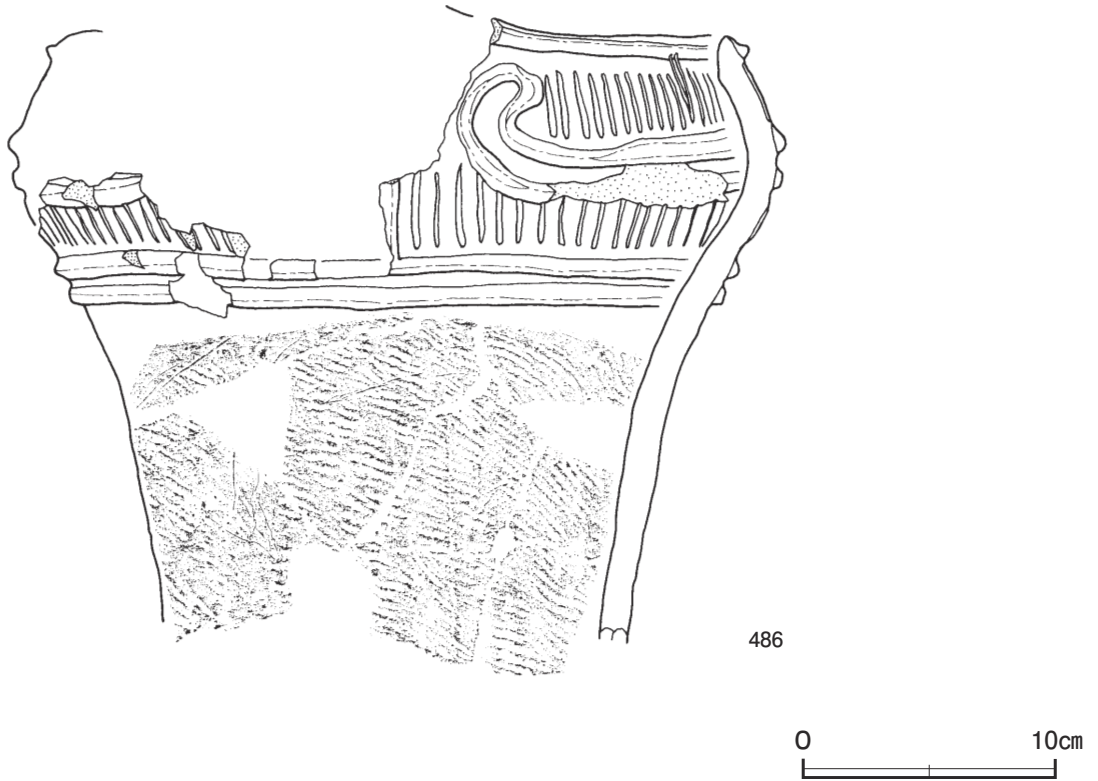
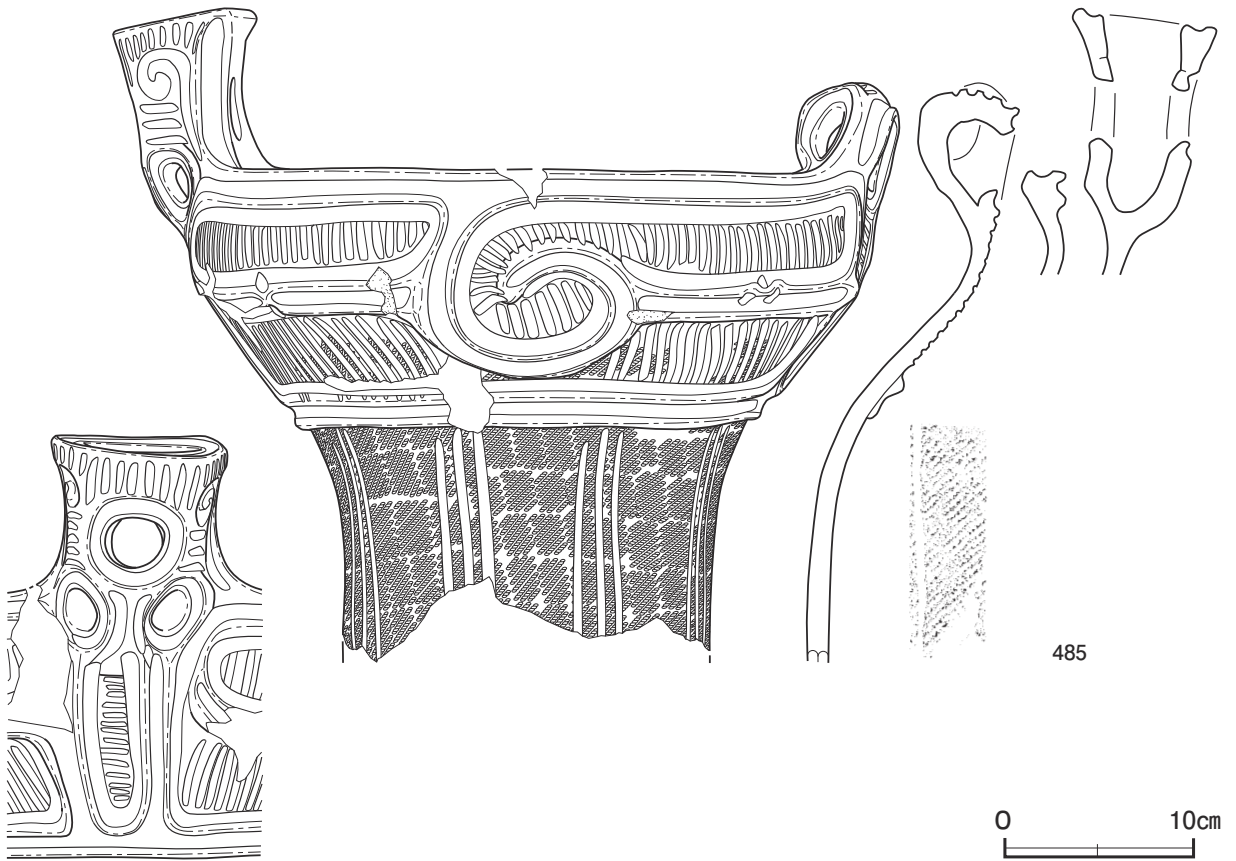
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子中量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量（粘性やや強い） | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

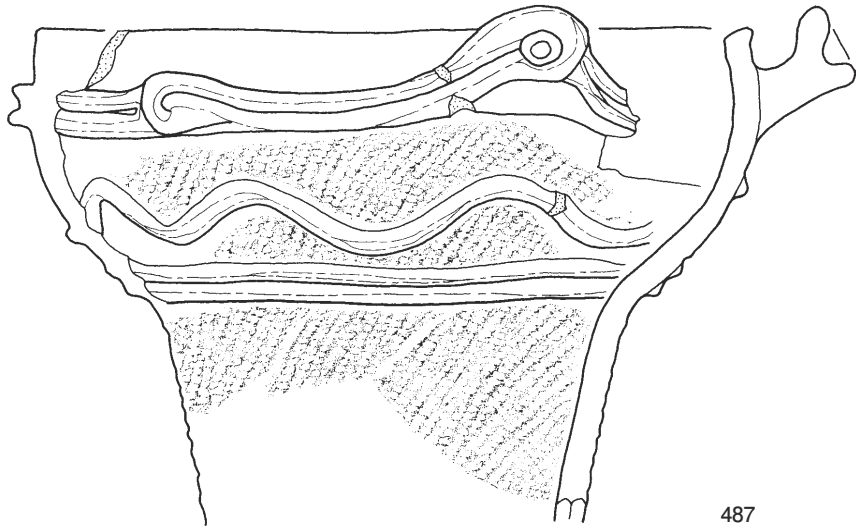
遺物出土状況 縄文土器片 228 点（深鉢 224，浅鉢 4），石器 4 点（磨製石斧 1，磨石 2，凹石 1），剥片 2 点（瑪瑙）が出土している。485 は北西壁際の底面から横位の状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。490 は西壁際，486 は東部から中央部，北西部にかけて，487 は北西部と南部，488 は北西部，489 は



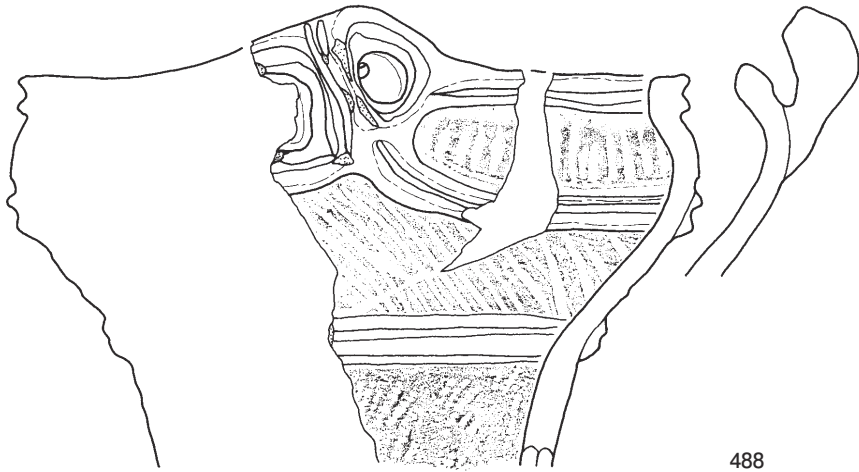
第 163 図 第 64 号土坑実測図



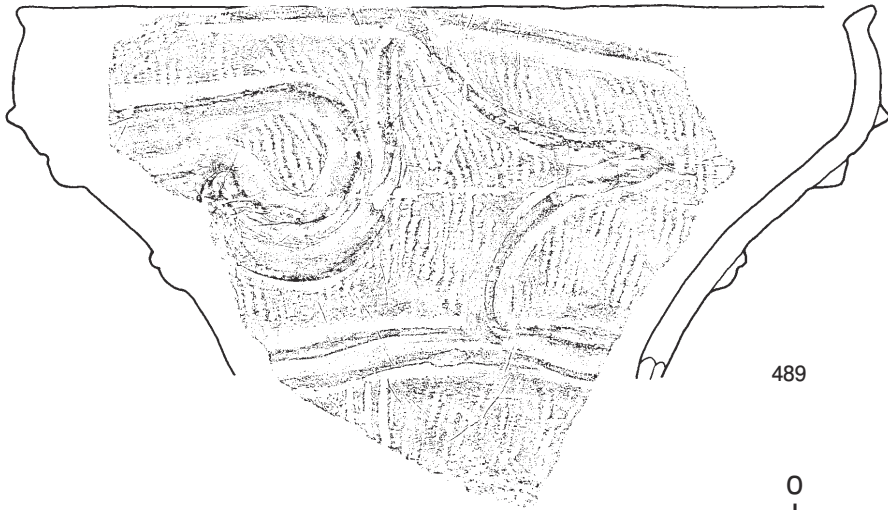
第 164 図 第 64 号土坑出土遺物実測図 (1)



487



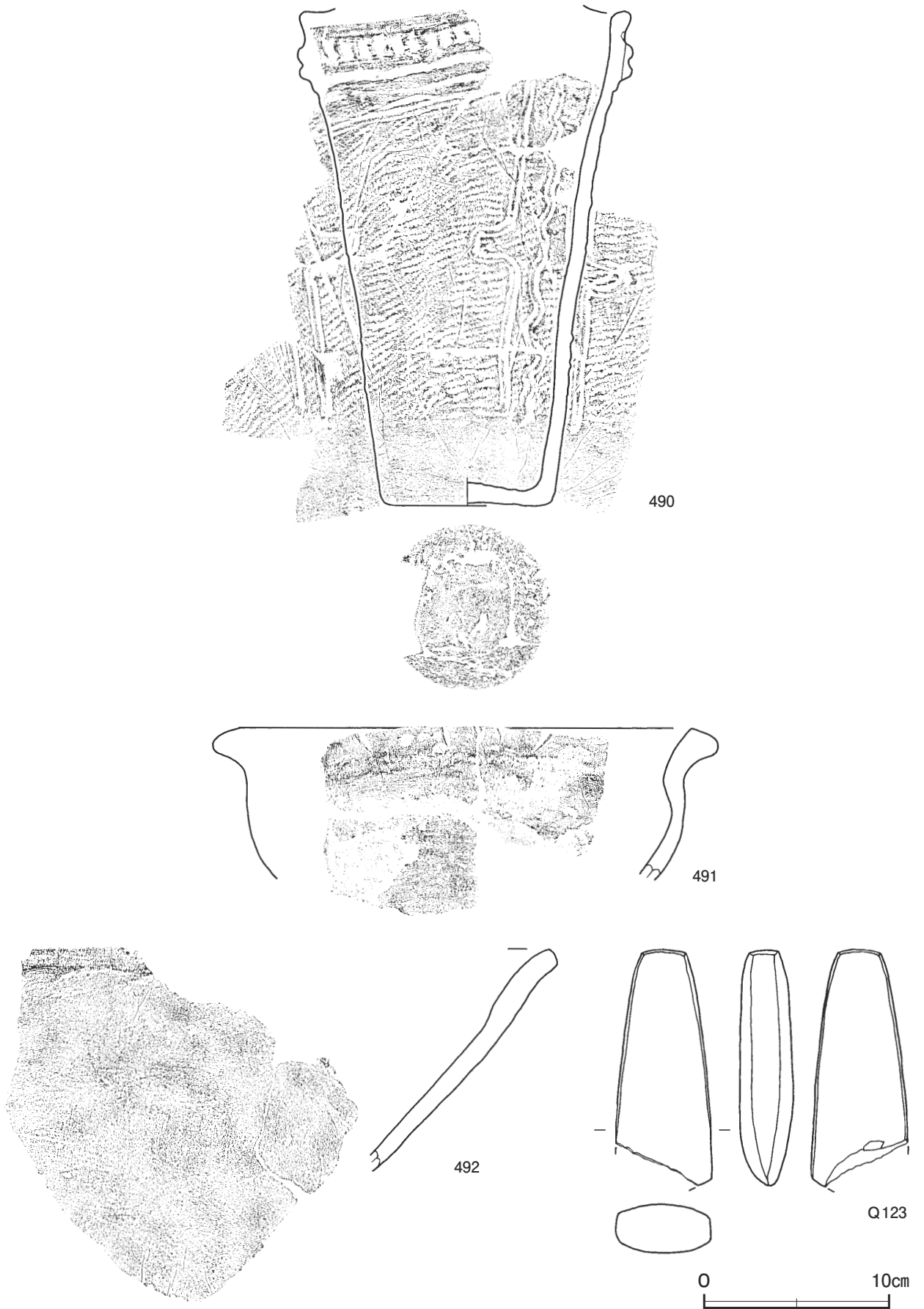
488



489



第 165 图 第 64 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 166 図 第 64 号土坑出土遺物実測図 (3)

西部, 491 は中央部と南東部の底面から, いずれも大型の破片が散乱した状態で出土しており, 廃絶直後に投棄されたものと考えられる。492 は中央部の覆土下層から出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 64 号土坑出土遺物観察表 (第 164 ~ 166 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
485	縄文土器	深鉢	34.3	(34.6)	-	長石・雲母	褐灰	普通	大小1対の中空把手 穿孔に沿って沈線 背割れ隆帯による渦巻文 区画内縦位の沈線を充填 胴部単節縄文RL(縦) 3本の1単位の沈線が垂下	底面	60% PL116
486	縄文土器	深鉢	[25.8]	(24.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁上部に隆帯が一巡 2条の隆帯による変形クランク文 縦位の条線文 頸部を並行隆帯で区画 頸部以下無節縄文L(縦)	底面	30%
487	縄文土器	深鉢	[28.4]	(20.4)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部直立 隆帯を一巡させ 部分的に摘み状の突起 突起頂部に渦巻文 地文に単節縄文RL(縦) 蛇行隆帯・背割れ隆帯が巡る	底面	30% PL116
488	縄文土器	深鉢	[26.0]	(18.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	把手周縁に沈線 把手間背割れ隆帯による楕円形区画 区画外斜位・内縦位の沈線 背割れ隆帯を一巡させ区画 胴部単節縄文RL(縦)	底面	30% PL116
489	縄文土器	深鉢	[34.0]	(14.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	地文に0段多条縄文LR(縦・斜) 口唇部隆帯が一巡 断面三角形の隆帯による区画文 胴部3本の並行沈線が垂下	底面	30%
490	縄文土器	深鉢	[18.0]	26.2	9.0	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部幅広い有節沈線と背割れ隆帯が一巡 地文に0段多条縄文RL(縦) 半截竹管による縦位の沈線で文様描画	底面	60% PL116
491	縄文土器	浅鉢	[24.4]	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇頂部に平坦面 外・内面磨き 口唇頂部及び内面に赤彩痕	底面	
492	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外・内面磨き 口縁部内面に緩い段	覆土下層	PL116

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 123	磨製石斧	(12.8)	5.2	2.9	(289.1)	砂岩	定角式 全面研磨 側縁部に稜 刃部欠損	覆土下層	PL167

第 65 号土坑 (第 167・168 図 PL26)

位置 調査区北部西寄りの C 3b1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

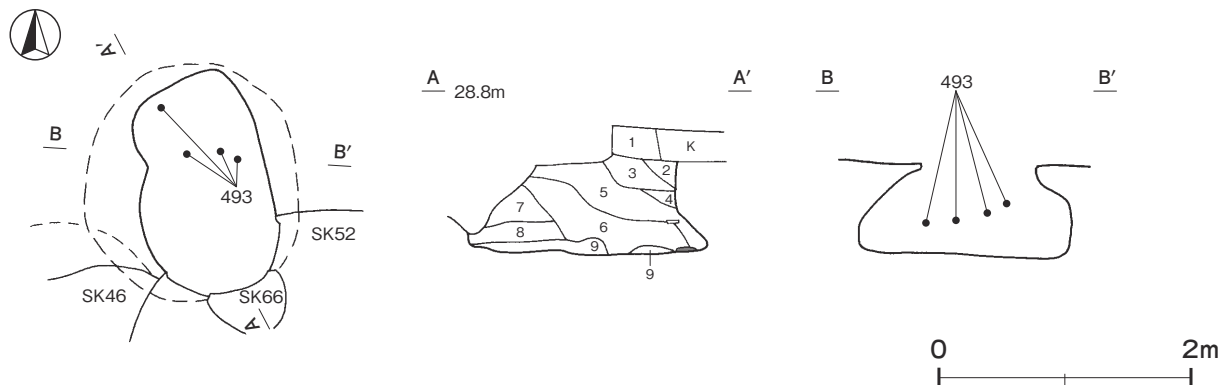
重複関係 第 46・52・66 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.70m, 短径 1.03m の楕円形で, 長径方向は N - 12° - W である。底面は, 長径 1.88m, 短径 1.69m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 110cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。

覆土 9 層に分層できる。南側から埋め戻された堆積状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子中量 (粘性やや強い) |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量 (粘性やや強い) |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量 | 9 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子中量 (締まりやや強い) | |



第 167 図 第 65 号土坑実測図



第 168 図 第 65 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 83 点（深鉢），剥片 2 点（チャート，石英）が出土している。493 は，中央部の覆土中層から，大型破片が散乱した状態で出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 65 号土坑出土遺物観察表（第 168 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
493	縄文土器	深鉢	[34.5]	36.8	[11.0]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部凹孔 横位・胴部縦位の低い隆帯による文様区画 隆帯に沿って沈線 地文に無節縄文L (縦・横) 底面網代痕	覆土中層	PL117

第 68 号土坑 (第 169・170 図 PL26・97)

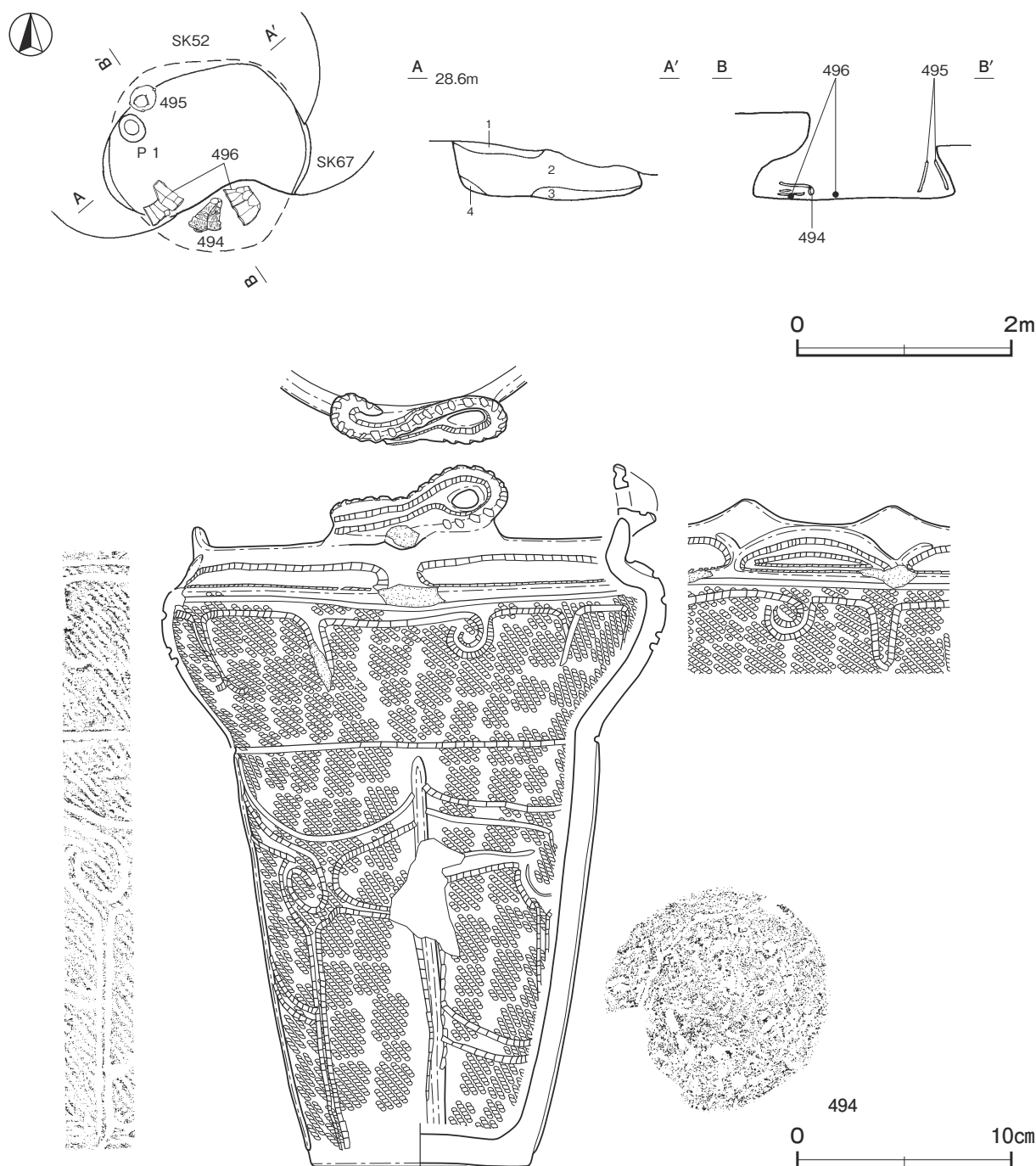
位置 調査区西部北寄りの C 3 b2 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 52・67 号土坑に掘り込まれている。

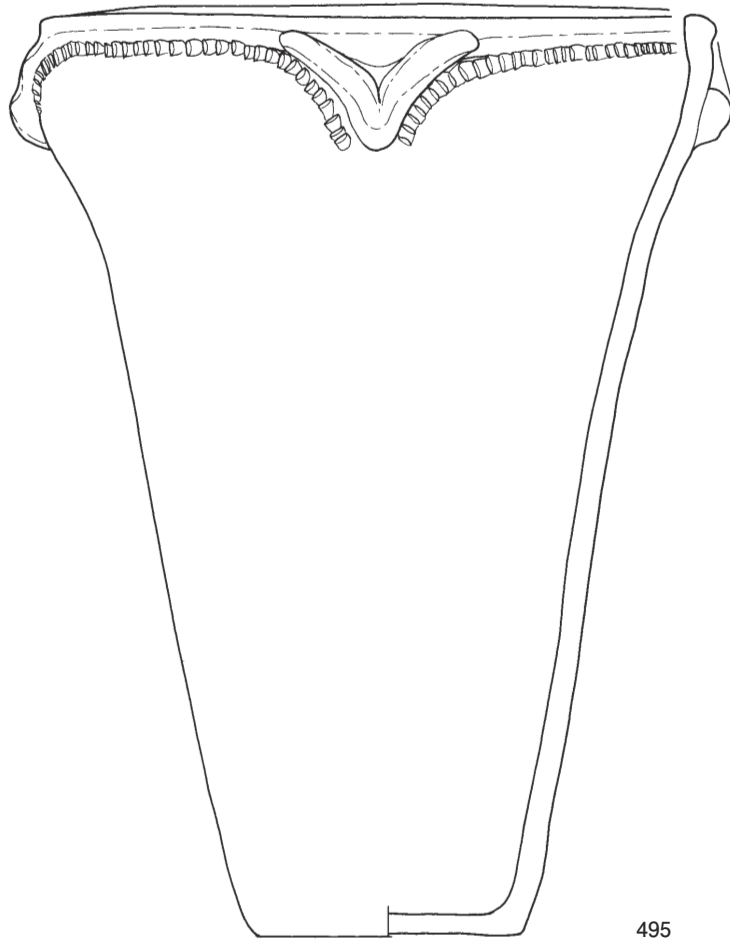
規模と形状 上部を第 52 号土坑に掘り込まれており, 開口部は径 1.80 ~ 1.94m しか確認できなかったが, 不整楕円形である。底面は, 径 1.81 ~ 1.93 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 106cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。

ピット 北西壁際に位置し, 径 25cm ほどの円形で, 深さ 20cm である。性格は不明である。

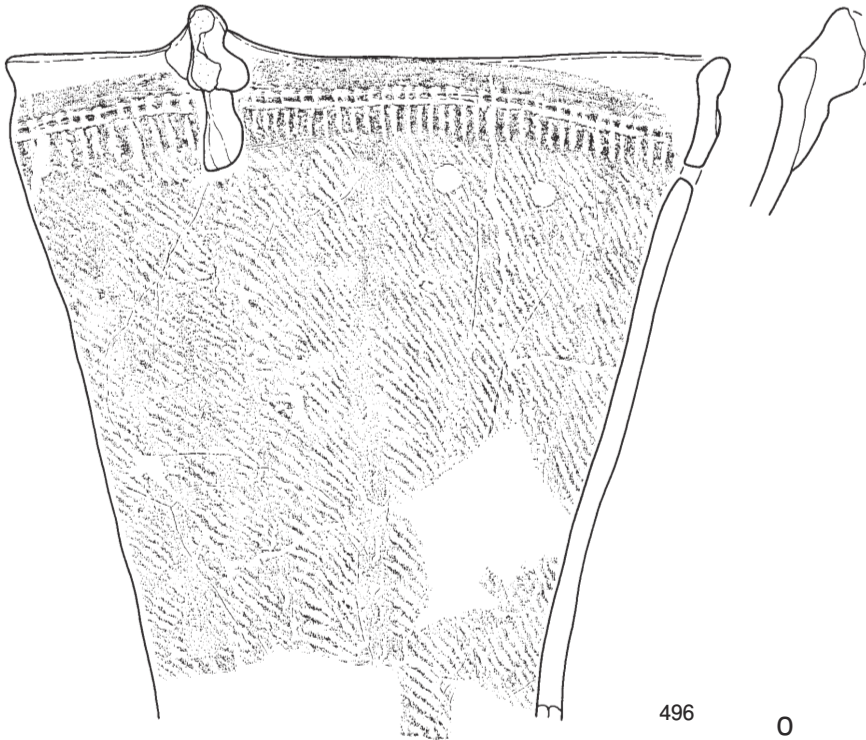
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから, 埋め戻されている。



第 169 図 第 68 号土坑・出土遺物実測図



495



496



第 170 図 第 68 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 鹿沼パミスブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 78 点 (深鉢), 剥片 (ホルンフェルス)・石核 (瑪瑙) 各 1 点が出土している。494 は, 南部の底面から, 横位で押しつぶされた状態で出土している。本来, 壁際に逆位で置かれていたものが, 埋め戻される過程で倒れた可能性がある。495 は, 北西壁際の底面から逆位で, 496 は, 南部の底面から半分に割れて, 内面を上に向けた状態で出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 68 号土坑出土遺物観察表 (第 169・170 図)

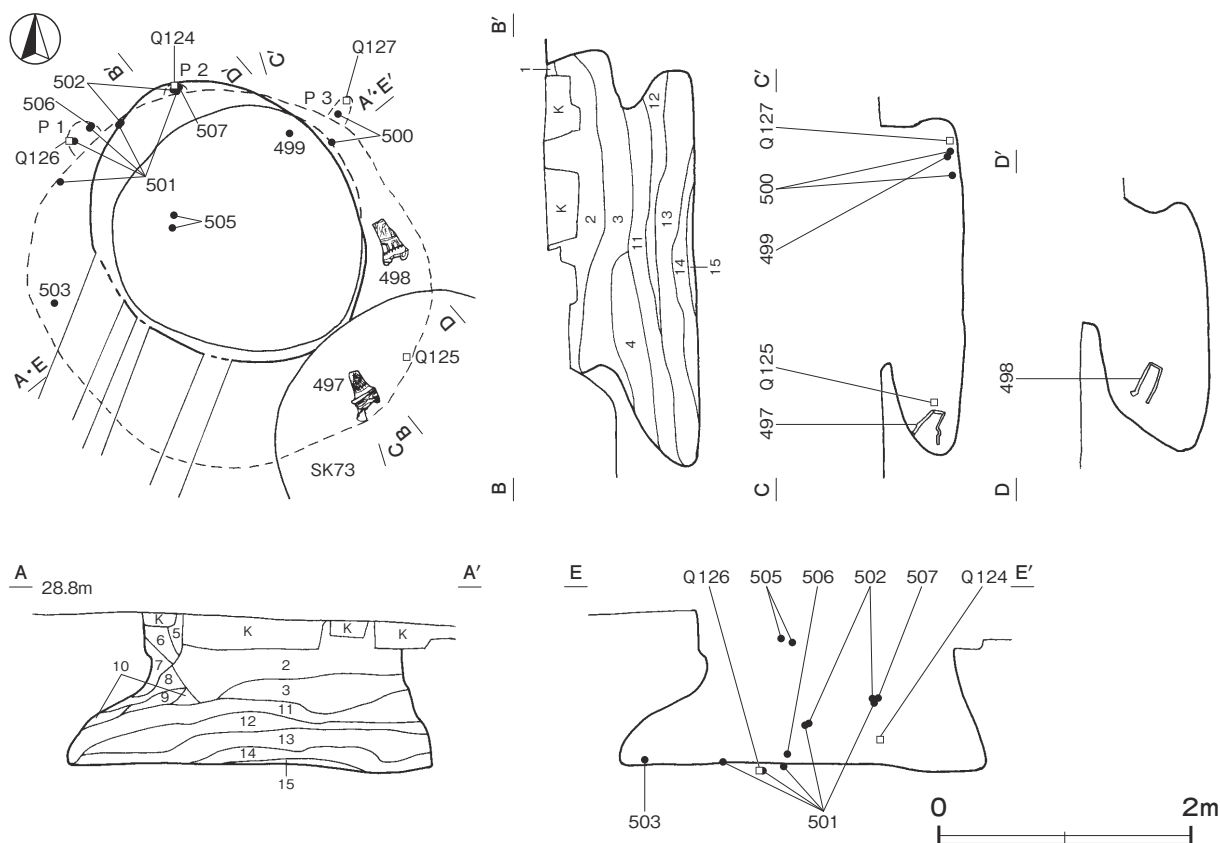
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
494	縄文土器	深鉢	20.2	32.8	10.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 有節沈線で装飾された捻り状の把手と 4 単位の小波状 口縁部上端平坦面 有節沈線による文様描画 底面網代痕	底面	80% PL117
495	縄文土器	深鉢	26.0	37.1	10.5	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯貼付による V 字状の摘み 摘みと口縁部に沿って幅広の有節沈線 ナデ調整	底面	90% PL117
496	縄文土器	深鉢	28.0	28.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) 口縁上端無文帯 4 単位の縦長の摘み状把手 無文帯下部に有節沈線と爪形文が巡る 補修孔あり	底面	PL117

第 72 号土坑 (第 171 ~ 175 図 PL26・27)

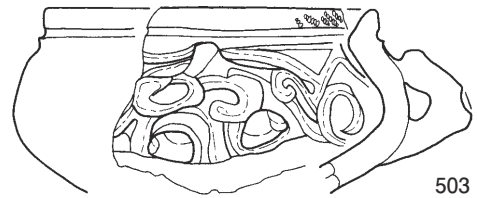
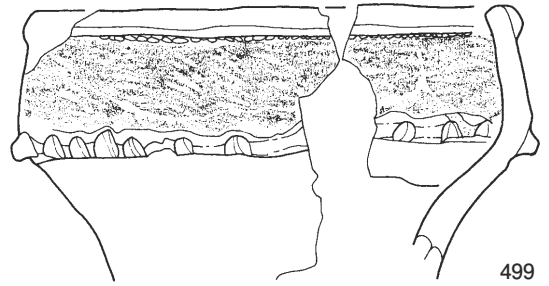
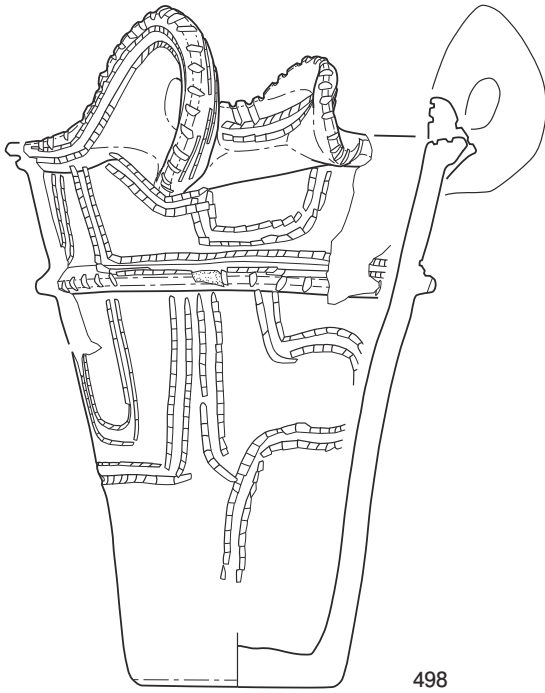
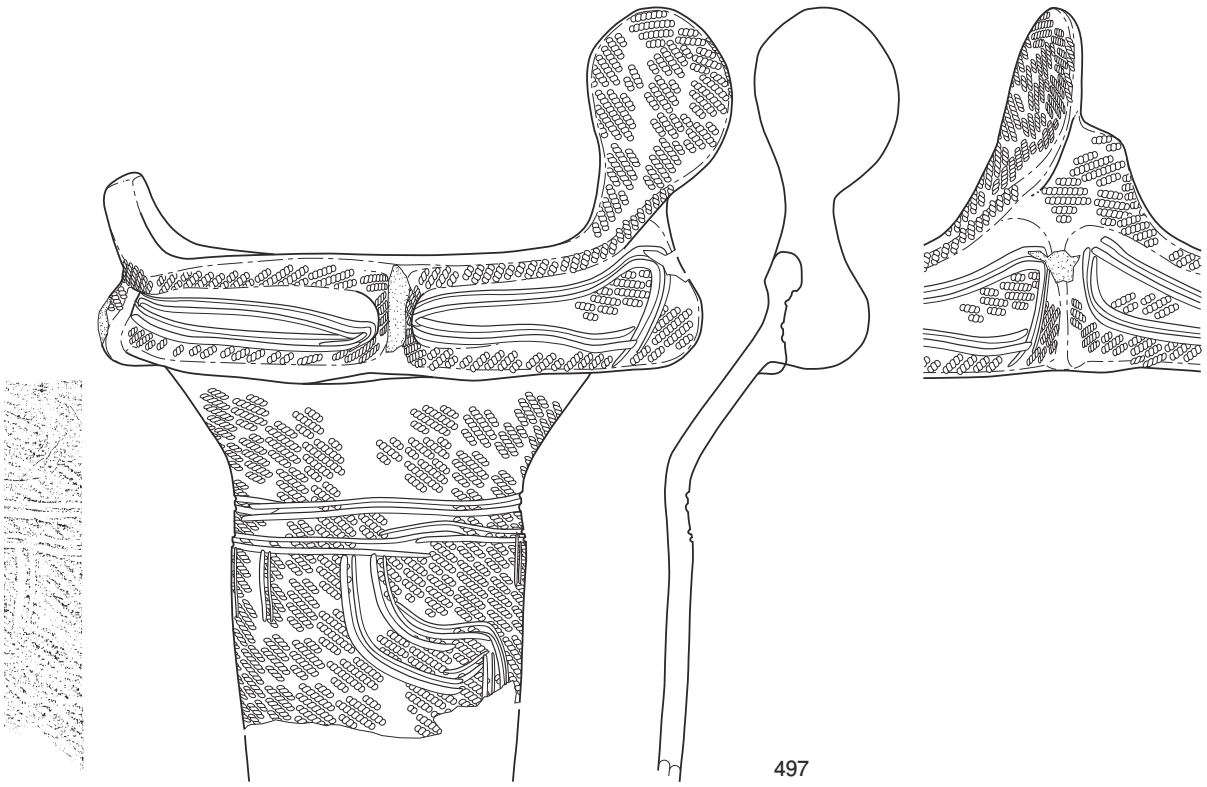
位置 調査区中央部西寄りの C 3c3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 73 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.48 m, 短径 2.00 m の楕円形で, 長径方向は N - 37° - W である。底面は径 2.90



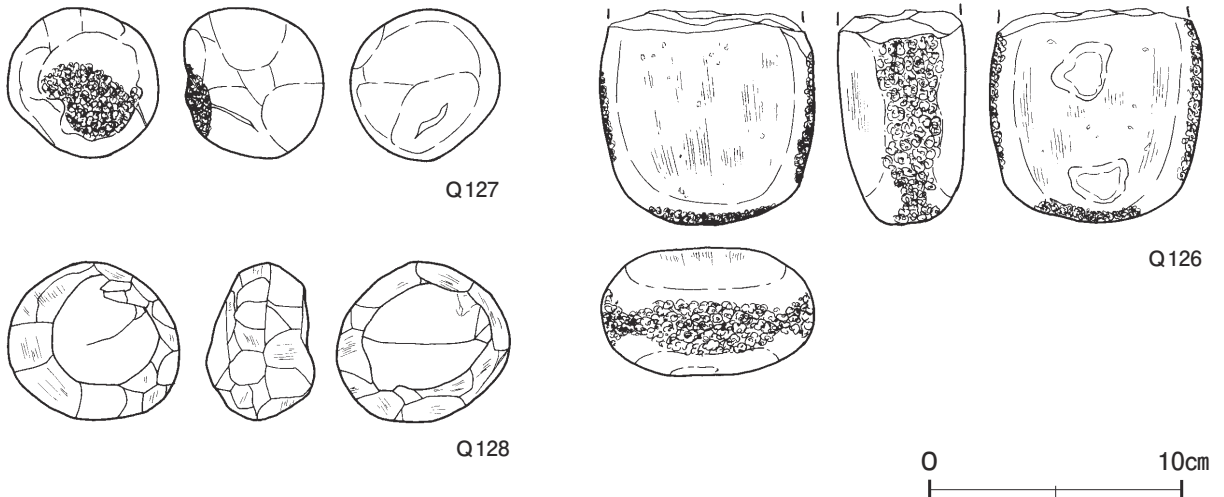
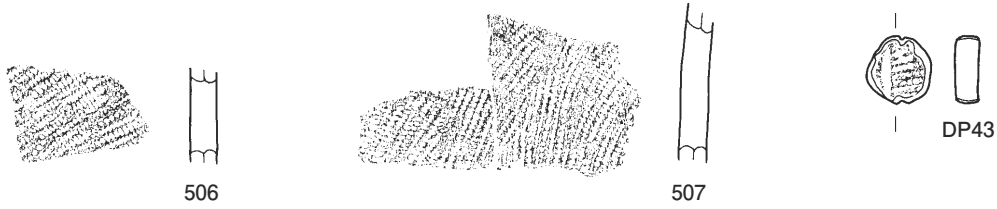
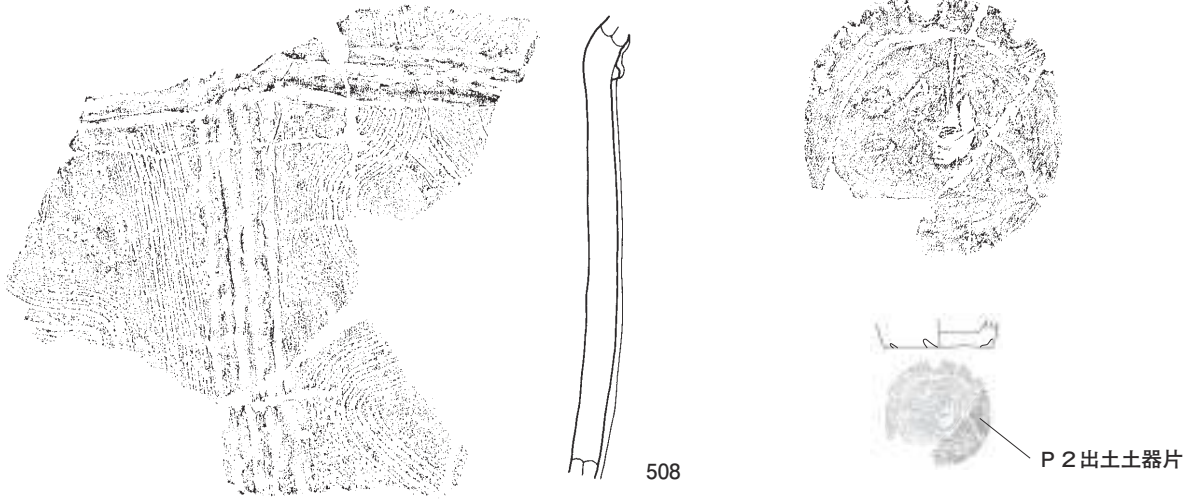
第 171 図 第 72 号土坑実測図



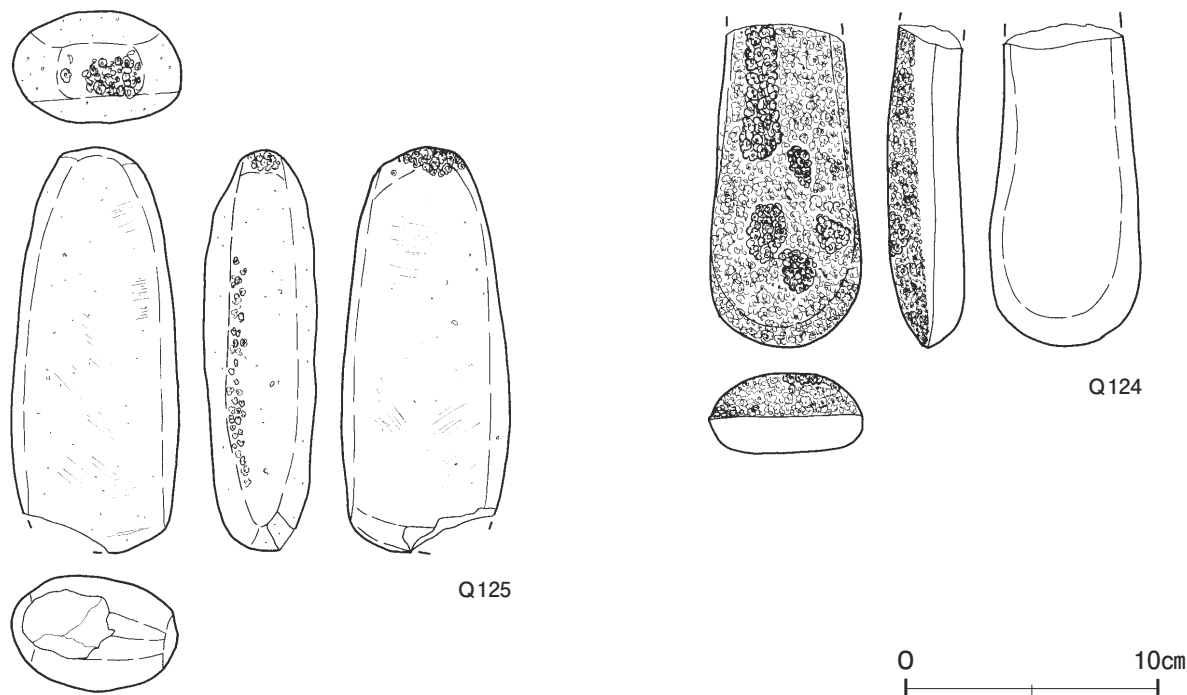
第 172 図 第 72 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 173 图 第 72 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 174 図 第 72 号土坑出土遺物実測図 (3)



第 175 図 第 72 号土坑出土遺物実測図 (4)

～3.10mの円形で、平坦である。確認面からの深さは116cmである。壁は、北部がやや内傾し、その他は大きく内傾して、袋状を呈し、底面から高さ80cmのところにくびれ、上位はほぼ直立している。

ピット 3か所。P1～P3は、壁部に水平方向に掘り込まれており、径16～28cm、奥行き8～26cmである。各ピットの奥部から、石器（Q124・Q126・Q127）が埋納したように置かれた状態で出土しており、その手前には、石器を塞ぐように土器片数枚が重ねられている。

覆土 15層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積で、第7・8層は壁の崩落土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量（粘性弱い） | 9 におい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量（粘性やや弱い） | 10 黒褐色 | ロームブロック少量（締まりやや弱い） |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量（粘性弱い） | 13 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック微量（粘性・締まりやや弱い） | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック多量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量（締まり強い） |
| 8 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片478点（深鉢464、浅鉢13、小型浅鉢1）、土製品1点（土器片錘）、石器10点（打製石斧4、磨製石斧未成品2、磨石1、敲石1、敲砥石2）、石核1点（瑪瑙）、剥片8点（瑪瑙6、黒曜石1、チャート1）、礫3点が出土している。北西壁のP1からQ126、北壁のP2からQ124、北東壁のP3からQ127が、それぞれピットの奥部に置かれた状態で出土している。また、501・506はP1とP2及びその周辺の底面、502・507はP2、500はP3から出土しており、いずれも石器の手前に土器片を数枚重ねて、石器を塞ぐような状態で出土している。497は南東壁際の覆土下層、498は東壁際の覆土中層から、いずれも口縁部を南東に向けた横位で出土しており、埋没がある程度進んだ段階で、それぞれ遺棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。また、壁部に穿たれた小横穴状のピットからは、石器の未成品や製作に関連する敲砥石が土器片で塞がれたような状態で出土しており、埋納行為があったと考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 72 号土坑出土遺物観察表 (第 172 ~ 175 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
497	縄文土器	深鉢	18.0	(30.3)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	大小1対の把手。大把手は筒状を呈し、単節縄文LR(縦)を施す。隆帯による長楕円形区画隆帯の交点は摘み状。隆帯上同一原体(横)胴部同一原体(縦)並行沈線により頸部を区画	覆土下層	80% PL118
498	縄文土器	深鉢	(15.5)	27.0	8.0	長石・石英・雲母	褐	普通	1対の扇状把手。把手周縁にキザミ目。把手・口縁部・胴部2本の有節沈線による文様描画。頸部刺突隆帯が一巡	覆土中層	80% PL118
499	縄文土器	深鉢	[18.4]	(10.8)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口縁部肥厚。肥厚部直下に有節沈線。口縁部無節縄文L(縦)指頭隆帯一巡。胴部横位のナデ	底面	10%
500	縄文土器	深鉢	[19.0]	(23.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇頂部に平坦面。口縁上端に押圧隆帯が一巡。2か所穿孔の把手。地文に櫛歯状工具による縦位の波状文	底面・P3覆土中	30% PL118
501	縄文土器	深鉢	[26.3]	(20.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部幅広の隆帯貼付によるV字区画。隆帯上に単節縄文RL(横)胴部同一原体(ランダム)	底面・P1・P2覆土中	20% PL118
502	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	10.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部側面に3か所の棒状圧痕。中央部に縄文の圧痕	覆土中層・P2覆土中	
503	縄文土器	小型浅鉢	[13.0]	(7.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部の一部に単節縄文RL(横)中空の把手。細い隆帯で文様描画	底面	20% PL117
504	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	頂部に平坦面。半截竹管による連続爪形文が巡る。把手縁部キザミ目。把手外面粘土塊の貼付痕	覆土下層	
505	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部幅広の無文帯。背割れ隆帯による区画文区画内単節縄文RL(縦)外・内面赤彩痕	覆土上層	PL117
506	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文RL(縦)	P1覆土中	
507	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文RL(縦)	P2覆土中	
508	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	2条の隆帯による区画。地文に櫛歯状工具による直線文・波状文(縦)	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP43	土器片錘	2.7	2.5	1.0	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 124	磨製石斧 未成品	(12.8)	6.0	3.1	(380.5)	砂岩	片面全面に微細な敲打痕 一部研磨痕 基部欠損	P2覆土中	PL170
Q 125	磨製石斧 未成品	16.0	6.6	4.4	(760.6)	閃緑岩	側面及び基部頂部敲打痕 表裏に研磨痕 刃部欠損	覆土下層	PL170
Q 126	磨石	(8.5)	8.5	5.0	(600.0)	安山岩	側面敲打痕 表裏に研磨痕 基部欠損	P1覆土中	敲石兼用
Q 127	敲砥石	6.0	6.0	5.5	274.2	アブライト	円礫の端部に微細な敲打痕 周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	P3覆土中	PL171
Q 128	敲砥石	6.3	6.8	4.3	234.2	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL171

第 73 号土坑 (第 176 図 PL28)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 d3 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 72 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、径 2.40 ~ 2.56 m の円形と推定できる。底面は平坦で、深さは 67cm である。壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1 は径 43cm、深さ 42cm で、中央部に位置していることから柱穴と考えられる。P 2 は径 29cm、深さ 24cm で、P 1 に隣接していることから、補助的な柱穴と考えられる。

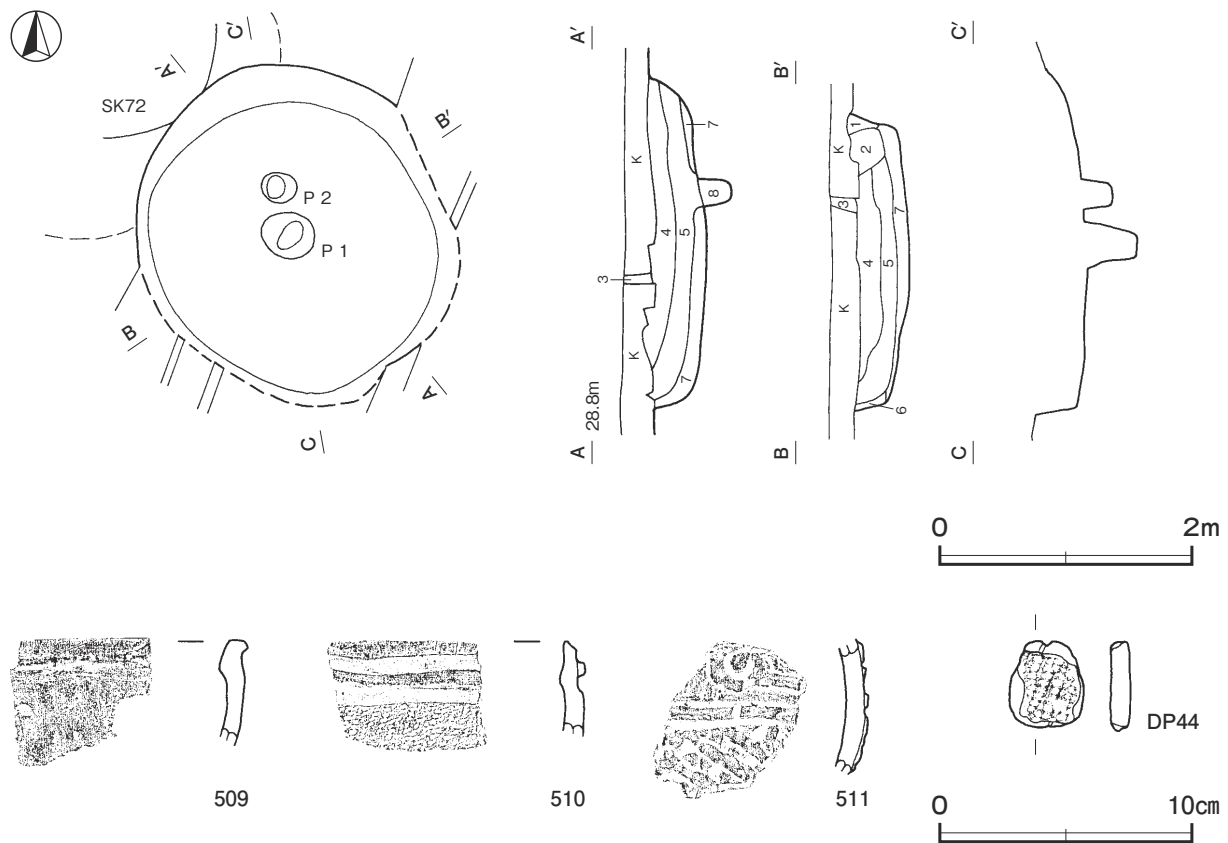
覆土 7 層に分層できる。含有物の少ない黒褐色土がレンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積である。第 8 層は、P 2 の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|---------|----------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒 褐 色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子中量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 39 点 (深鉢)、土製品 1 点 (土器片錘) が出土している。各層から細片が散乱した状態で出土していることから、埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 耕作による攪乱を受けているため明確でないが、規模と形状から袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第176図 第73号土坑・出土遺物実測図

第73号土坑出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
509	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部下部強い横ナテ 内面磨き	覆土中層	
510	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 口縁部上端に隆帯 隆帯に沿って太い沈線文	覆土上層	
511	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙黒(外) 黒(内)	普通	粘土紐貼付による渦巻文・格子目文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP44	土器片錘	3.5	3.0	0.8	10.9	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部部分的に研磨	覆土上層	

第74号土坑 (第177図 PL28)

位置 調査区北西部のB 2i5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径2.10m、短径1.44mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。底面は長径1.98m、短径1.79mの楕円形である。底面は平坦で、確認面からの深さは85cmである。壁は底面から内傾し、底面より高さ50cmのところから外傾し、袋状を呈している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

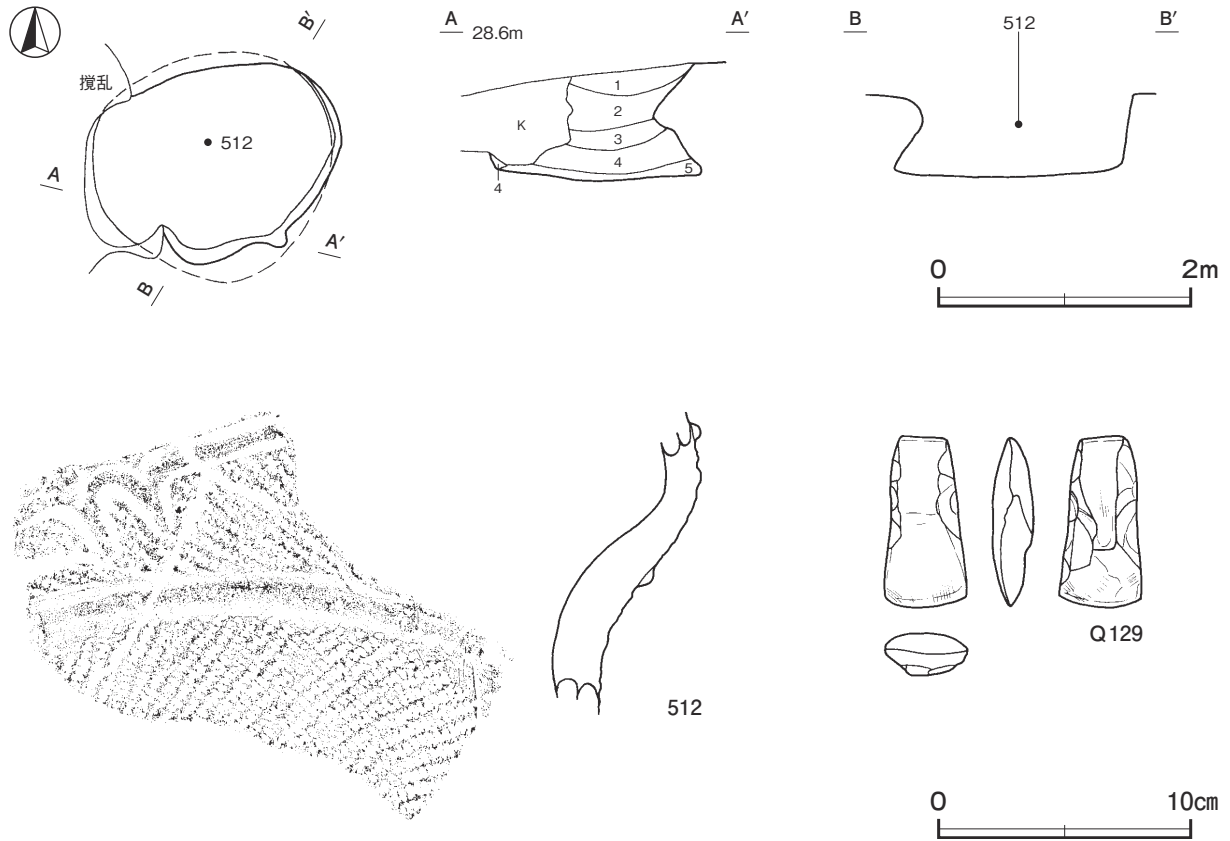
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 134 点（深鉢 132, 浅鉢 2）, 石器 1 点（磨製石斧）, 剥片 4 点（瑪瑙）が出土している。

512 は, 中央部の覆土中層から出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 177 図 第 74 号土坑・出土遺物実測図

第 74 号土坑出土遺物観察表（第 177 図）

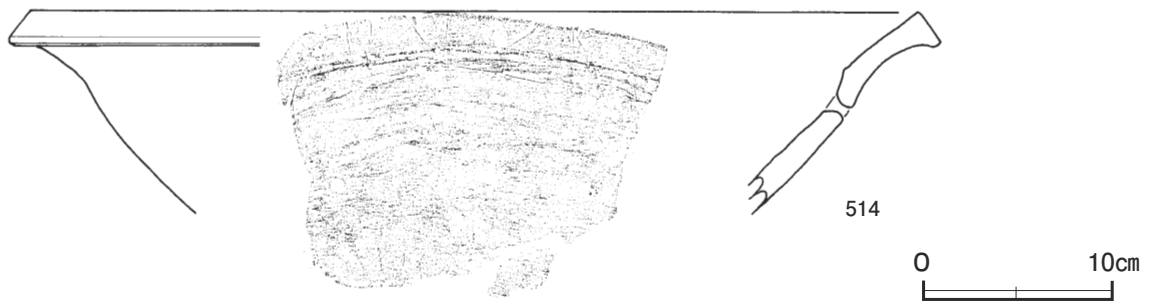
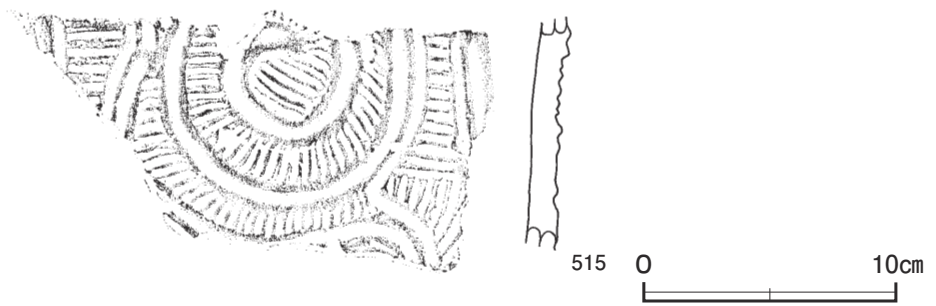
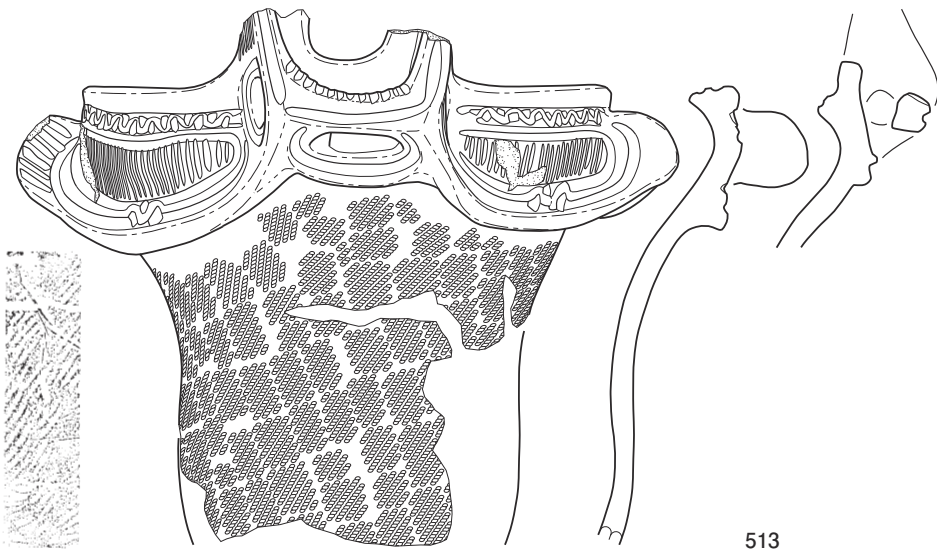
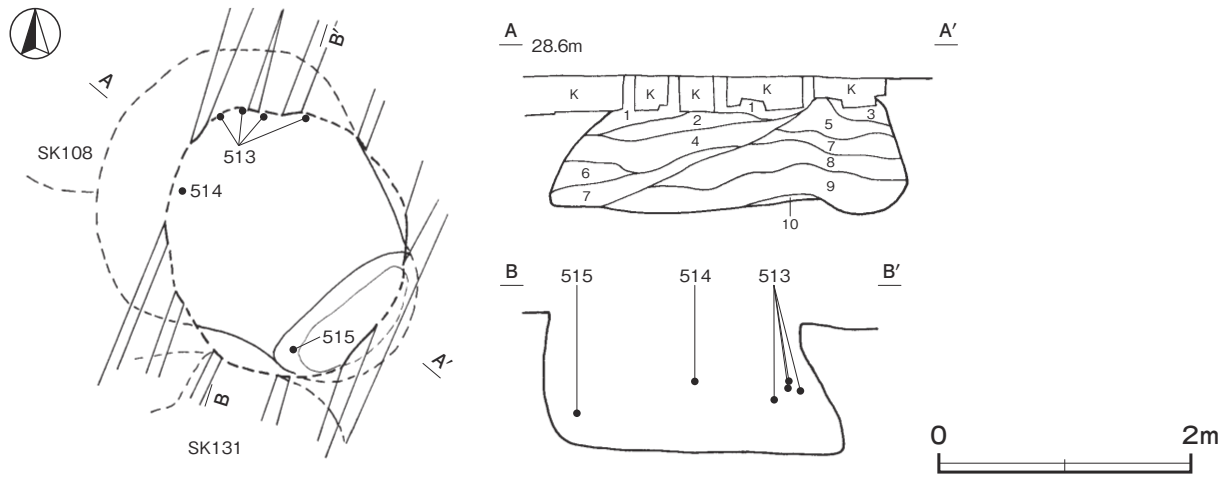
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
512	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部地文に単節縄文 RL (横) 隆帯により文様描画 頸部以下同一原体 (縦)	覆土中層	PL117
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 129	磨製石斧	6.8	3.3	1.7	52.2	緑色岩	小型 表裏面研磨	側縁部敲打調整後研磨	刃部は表裏から研	覆土中	PL169

第 75 号土坑（第 178 図 PL28）

位置 調査区西部北寄りの B 2j9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 108・131 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.22 m, 短径 1.90 m の楕円形で, 長径方向は N - 39° - W である。底面は長径 2.85 m, 短径 2.22 m の楕円形である。平坦で, 南東部に長径 1.41 m, 短径 0.59 m の楕円形で, 深さ 10 cm ほどの浅い掘り込みがある。確認面からの深さは 106 cm である。壁は北部から西部にかけて大きく内傾して, 袋状を呈しており, 南東部は緩やかに内傾し, 東部や南部は直立している。



第 178 图 第 75 号土坑·出土遗物实测图

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。最下層の第10層は、踏み固められたように硬化している。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 (縮まり強い) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 (縮まり強い) |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 (粘性・縮まり強い) |

遺物出土状況 縄文土器片 73点 (深鉢 72, 浅鉢 1), 礫 1点が出土している。515は南壁際の覆土下層, 513は北壁際の覆土中層から破碎された状態で, 514は北西壁際の覆土中層からそれぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

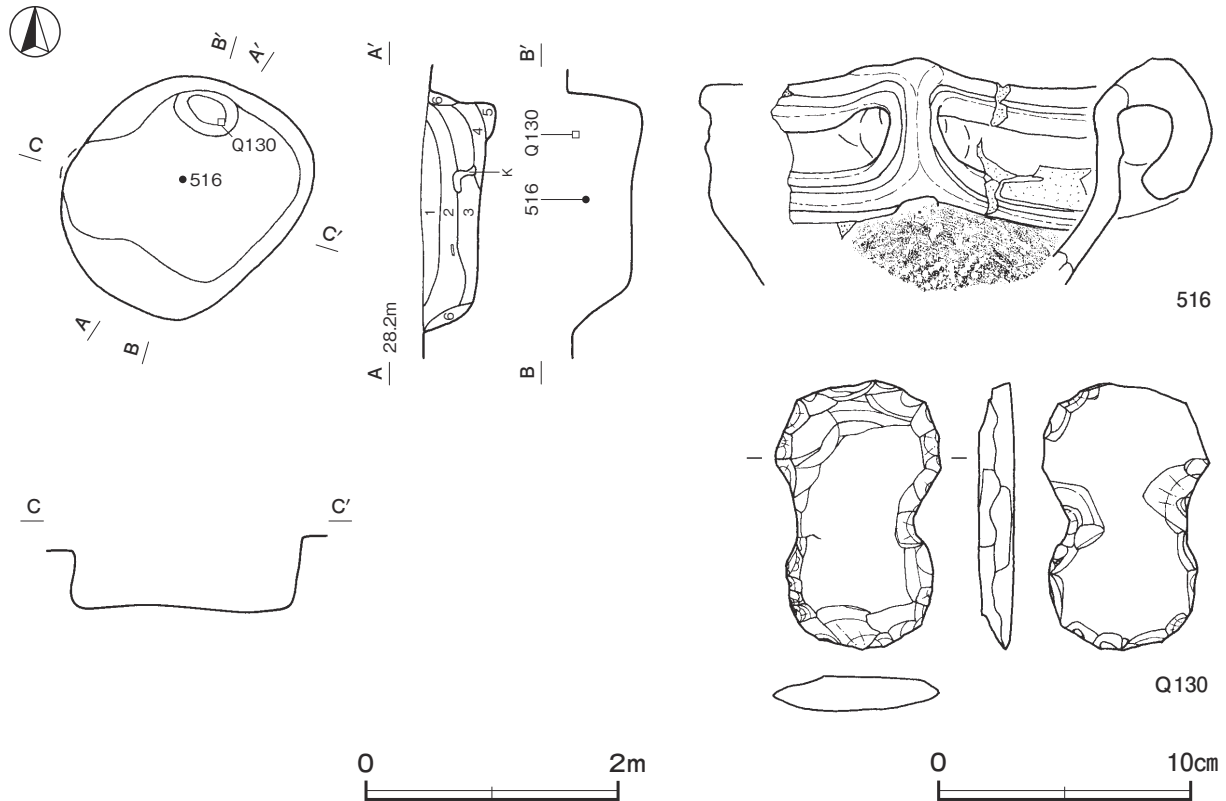
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第75号土坑出土遺物観察表 (第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
513	縄文土器	深鉢	20.7	(21.3)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に単節縄文RL(縦) 口唇部平坦面、口縁部2単位ずつの橋状把手と摘みによる区画沈線・条線・交互刺突文による文様描画	覆土中層	70% PL118
514	縄文土器	浅鉢	[47.0]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇頂部平坦面、外面横位のナデ 補修孔1か所 口縁部外面赤彩痕	覆土中層	10% PL118
515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	背割れ隆帯による渦卷文 隆帯間連続沈線文	覆土下層	

第76号土坑 (第179図 PL29)

位置 調査区北西部のB 2h4区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。



第179図 第76号土坑実測図

規模と形状 長径 1.93 m, 短径 1.68 m の楕円形で, 長径方向は N - 36° - E である。底面はほぼ平坦で, 北壁際寄りに, 長径 51cm, 短径 34cm の楕円形で, 深さ 10cm の凹みがある。深さは 58cm で, 壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック微量 (締まり弱い) |

遺物出土状況 縄文土器片 159 点 (深鉢), 石器 3 点 (打製石斧 1, 磨石 2) が出土している。516 は中央部, Q 130 は北部の覆土上層からそれぞれ出土しており, 埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 76 号土坑出土遺物観察表 (第 179 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
516	縄文土器	深鉢	[16.0]	(9.0)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部背割れ隆帯による区画, 区画内無文, 把手部下部に穿孔, 口縁下部単節縄文 RL (縦)	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 130	打製石斧	10.6	6.6	1.4	131.2	ホルンフェルス	分銅形 表裏に自然面 挟り部及び刃部は表裏を敲打	覆土上層	PL162

第 77 号土坑 (第 180 図 PL29)

位置 調査区北西部の B 2i7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 167・278 号土坑を掘り込み, 第 78 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.20, 短径 2.00 m の楕円形で, 長径方向は N - 31° - W である。底面は径 2.15 ~ 2.33m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 115cm である。壁は内彎して, 袋状を呈し, 底面から高さ 75 cm のところでくびれ, 上位は外傾している。

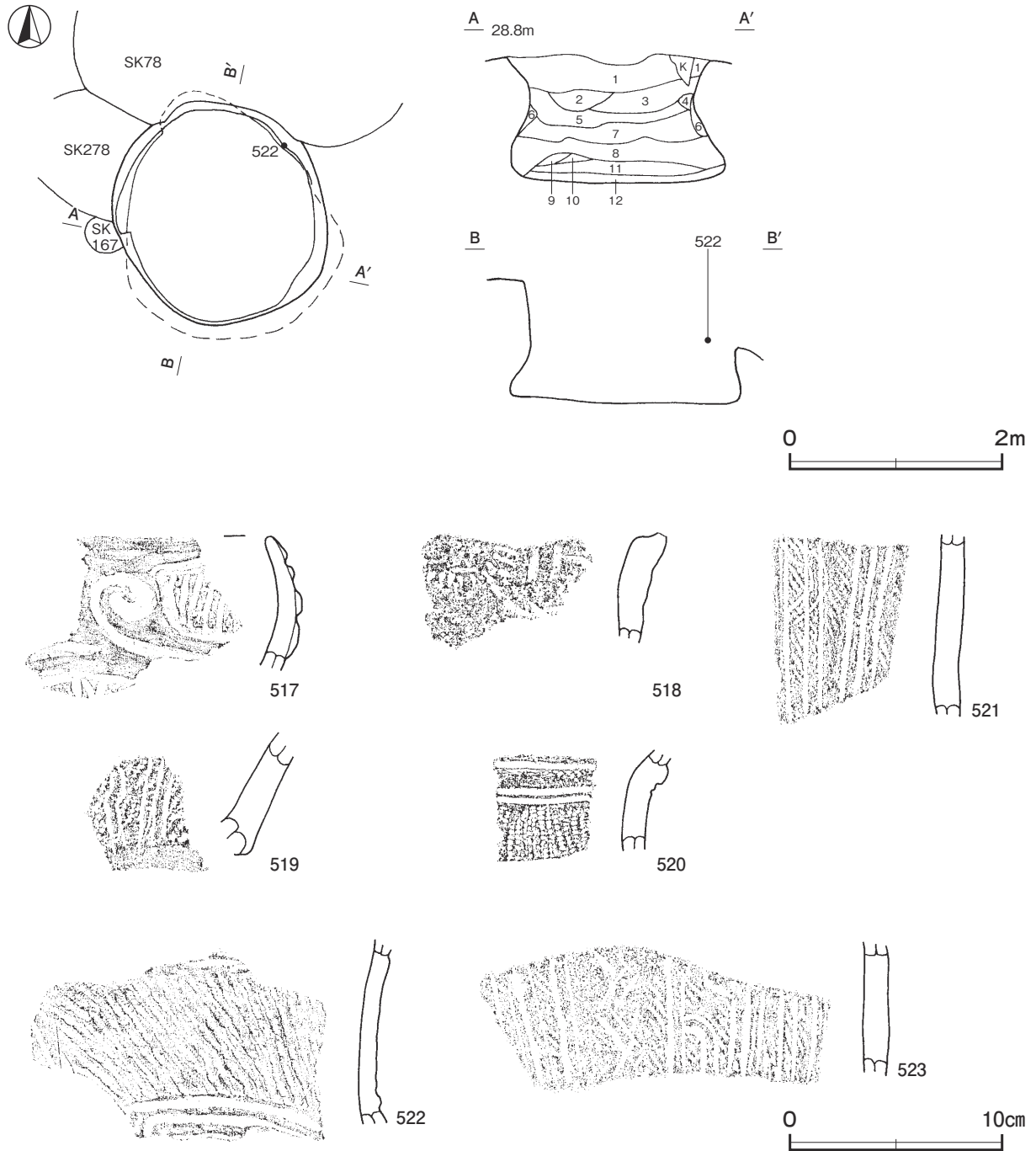
覆土 12層に分層できる。ロームブロック, 炭化物, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化材微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 (締まり強い) |

遺物出土状況 縄文土器片 234 点 (深鉢), 石器 8 点 (磨石 7, 不明 1), 剥片 (水晶, チャート)・石核 (チャート) 各 2 点が出土している。518・520・521 は覆土下層, 517・519・522・523 は覆土中層から, 散乱した状態で出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 180 図 第 77 号土坑・出土遺物実測図

第 77 号土坑出土遺物観察表 (第 180 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
517	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	隆帯及び沈線による渦巻文・区画文を描画 区画内沈線	覆土中層	
518	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯貼付 隆帯上に太い沈線 隆帯に沿って爪形文	覆土下層	
519	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 半截竹管により並行線・蛇行線を描画 下端は横方向のナデ	覆土中層	
520	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯に沿って半截竹管による並行沈線 隆帯上に単節縄文 RL (横) 地文に同一原体 (斜)	覆土下層	
521	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 半截竹管による並行線文・曲線文を描画	覆土下層	
522	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文に無節縄文 L (縦) 太い沈線による文様描画	覆土中層	
523	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 半截竹管による並行線文・鋸歯文を描画	覆土中層	

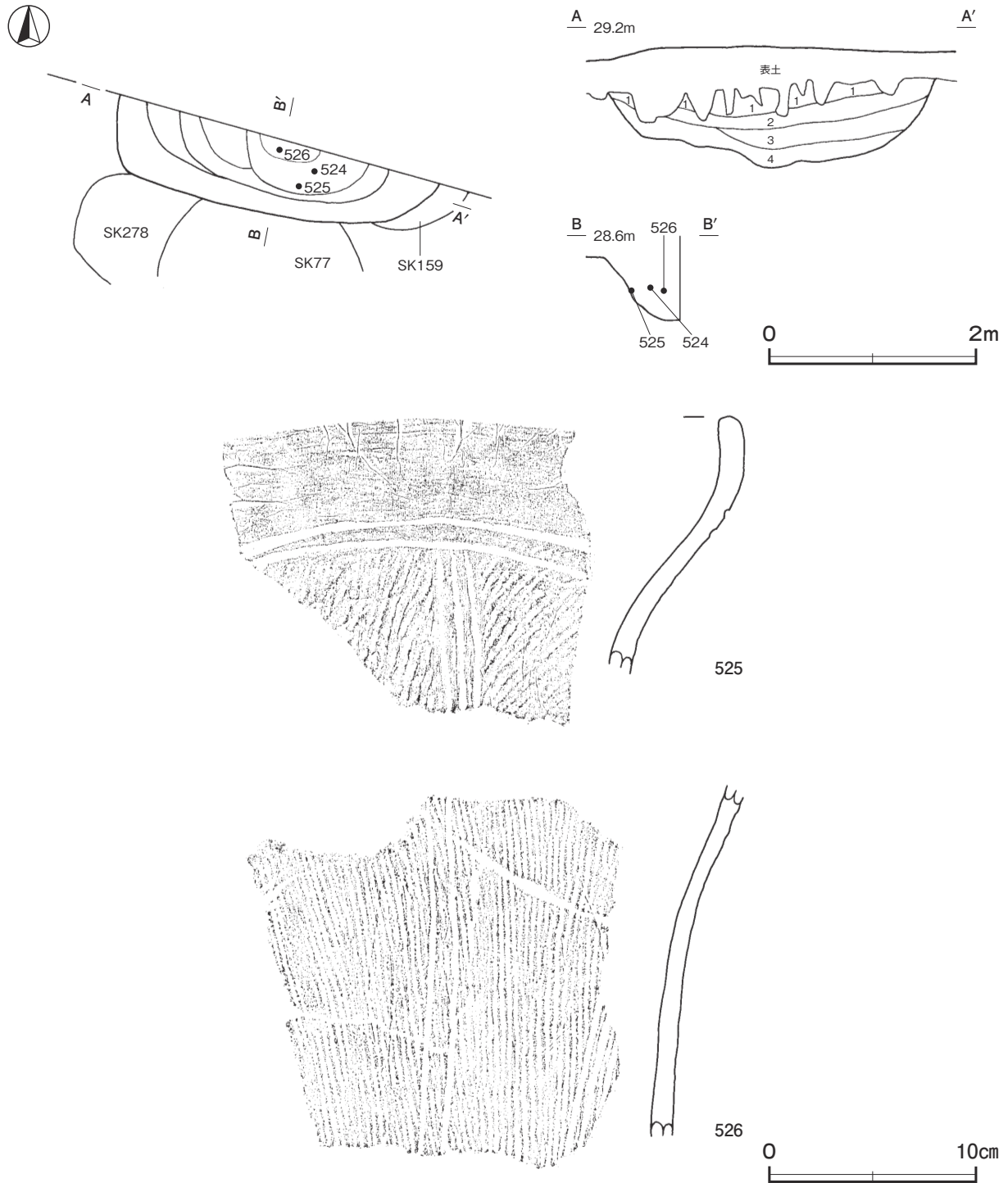
第78号土坑 (第181・182図 PL29)

位置 調査区北西部のB 2h7区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第77・159・278号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 東西径は3.15m, 南北径は0.64mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は皿状で, 西部に一段高くなったテラス状の部分有している。深さは80cmで, 壁は緩やかに傾斜している。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。



第181図 第78号土坑・出土遺物実測図



第 182 図 第 78 号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片 34 点（深鉢 33, 浅鉢 1）, 石器 1 点（炉石）が出土している。524～526 は中央部の覆土中層からまともに出ており, 埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 78 号土坑出土遺物観察表（第 181・182 図）

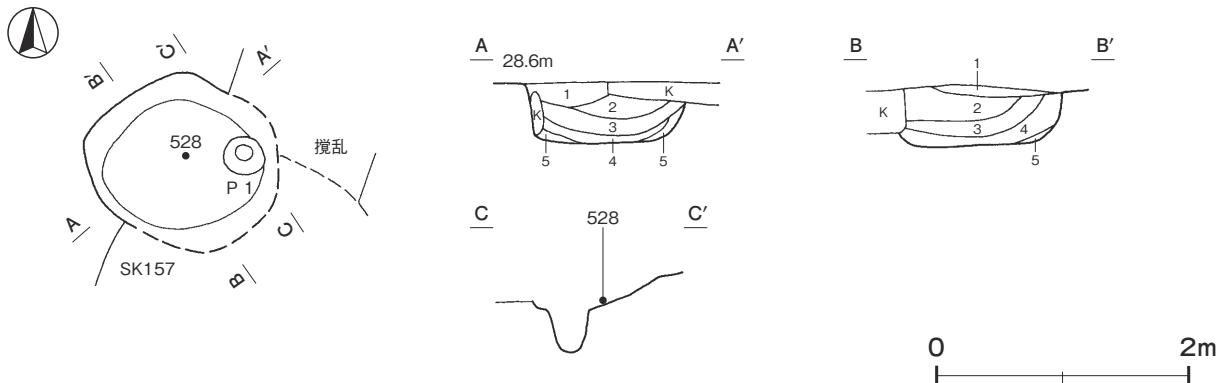
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
524	縄文土器	浅鉢	[37.2]	(9.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面磨き 赤彩痕	覆土中層	10%
525	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	地文に無節縄文 R（縦） 口縁部上端無文 無文帯下部に 2 本の横走る沈線文及び 3 本の垂下する沈線文	覆土中層	
526	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に撚糸文（縦） 並行沈線による懸垂文	覆土中層	

第 80 号土坑（第 183・184 図）

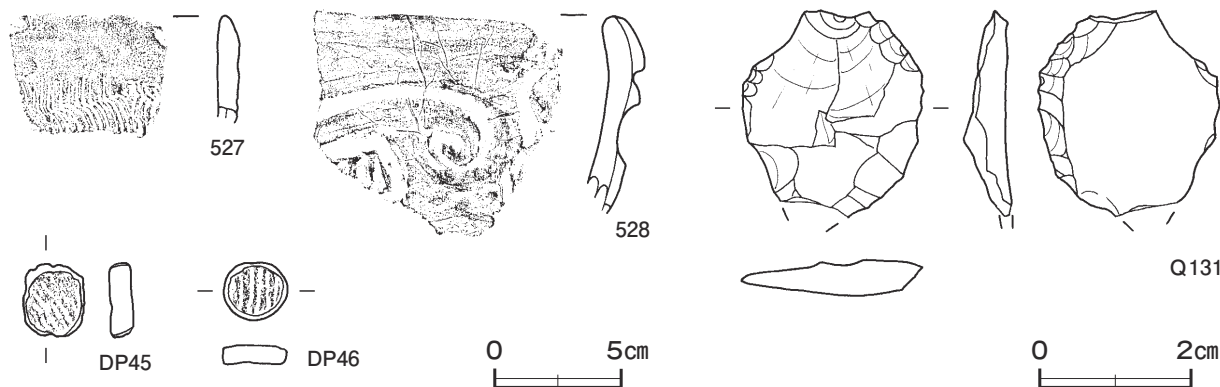
位置 調査区北西部の B 2i7 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 157 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 長径 1.58 m, 短径 1.34 m の楕円形で, 長径方向は N - 45° - W である。底面は平坦で, 深さは 50cm である。壁は外傾している。



第 183 図 第 80 号土坑実測図



第 184 図 第 80 号土坑出土遺物実測図

ピット 深さ 34cm で、性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロック、炭化材、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化材・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 91 点（深鉢 90，浅鉢 1），土製品 2 点（土器片錘，土器片円盤），加工痕のある剥片 1 点（黒色安山岩）が出土している。528 は中央部の底面から出土しており，廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第 80 号土坑出土遺物観察表（第 184 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
527	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上端無文帯 無文帯以下櫛歯状工具による波状文(縦)	覆土中	
528	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	明赤褐	普通	粘土貼付による渦巻文・区画文 区画内竹管による並行線文を充填	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP45	土器片錘	2.9	2.4	0.9	7.4	長石・石英・雲母	橙	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP46	土器片円盤	2.3	2.5	0.8	5.0	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 周縁部研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q131	加工痕のある剥片	(2.8)	2.4	0.7	(3.3)	黒色安山岩	両側縁押圧剥離による調整	覆土中	

第 84 号土坑（第 185・186 図 PL24・29）

位置 調査区北部西寄りの B 2j9 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

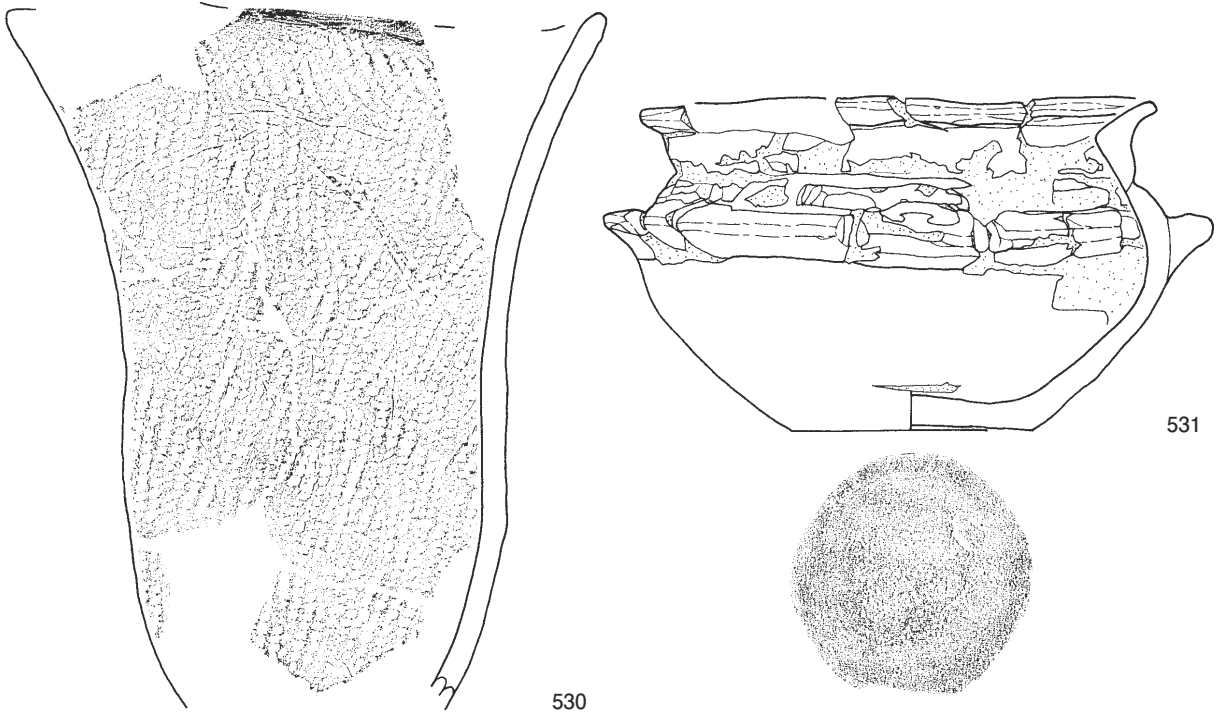
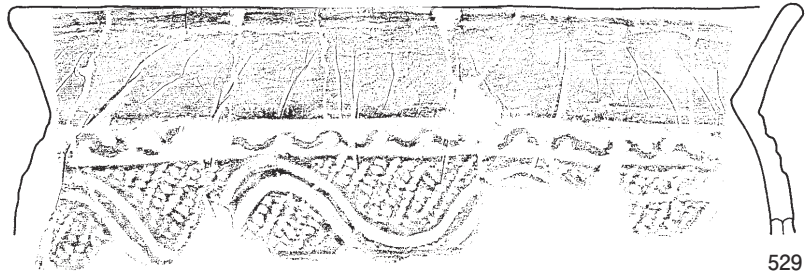
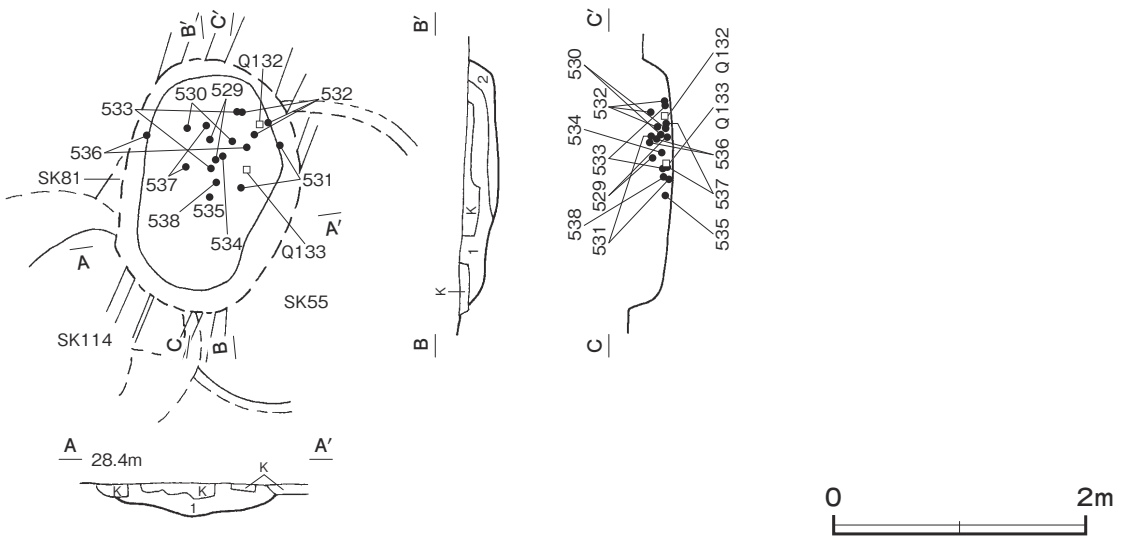
重複関係 第 55・81・114 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが，長径 1.98 m，短径 1.39 m の楕円形で，長径方向は N - 12° - E である。底面は平坦で，深さは 30cm である。壁は外傾している。

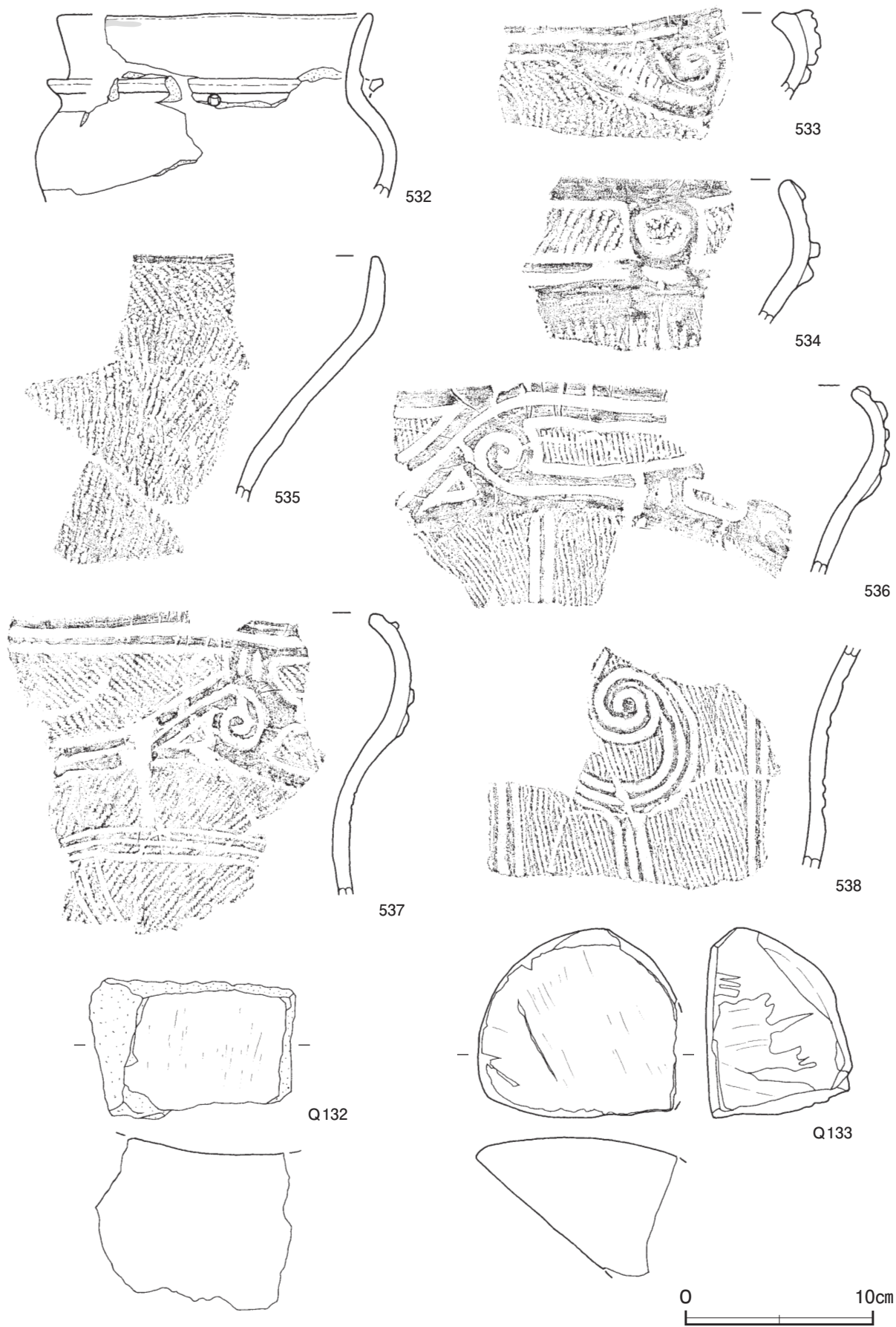
覆土 2層に分層できる。ロームや焼土のブロック，炭化材が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化材微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量



第 185 図 第 84 号土坑・出土遺物実測図



第 186 图 第 84 号土坑出土遗物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 159 点（深鉢 156, 小型浅鉢 1, 有孔鏝付土器 2), 石器 3 点（磨製石斧 1, 砥石 2), 剥片（瑪瑙）・石核（瑪瑙）・礫各 1 点が出土している。531 は東部の底面から正位で置かれた状態で出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。529～538, Q 132・Q 133 は, いずれも北半部の底面から覆土下層にかけて, 破碎された状態で出土しており, 埋め戻しの早い段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 84 号土坑出土遺物観察表（第 185・186 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
529	縄文土器	深鉢	[30.6]	(9.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部無文 交互刺突による波状文 地文に単節附加条縄文 RL (縦) 2本の並行沈線による波状文外・内面磨き	覆土下層～底面	20%
530	縄文土器	深鉢	[23.4]	(28.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部無文 地文に粗い単節縄文 RL (斜)	覆土下層～底面	60%
531	縄文土器	小型浅鉢	19.8	13.2	9.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	鏝状に隆帯貼付 隆帯上に太い沈線で文様描画 口縁部外・内面赤彩痕	底面	30% PL119
532	縄文土器	有孔鏝付土器	[16.6]	(10.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外・内面磨き 口縁下部に鏝が巡り垂直方向に穿孔	覆土下層～底面	10%
533	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇頂部に沈線 隆帯による渦巻文 隆帯間条線文 地文に単節縄文 LR (縦・横) で口縁部で羽状構成	覆土下層～底面	
534	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	隆帯による凹文・方形区画 区画内単節縄文 RL (縦) 3本の沈線が垂下	覆土下層	
535	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	褐	普通	口縁部上端単節縄文 RL (横) 口縁部以下同一原体を斜位に施文	覆土下層	
536	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	地文に撚糸文 (縦) 隆帯による文様描画 口縁直下から2条の懸垂文	覆土下層	
537	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部下端沈線 隆帯により口縁部文様描画 地文に単節縄文 RL (横) 頸部3本の沈線 口縁下端から胴部同一原体 (縦)	覆土下層	
538	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	地文に撚糸文 (縦) 3本の沈線により渦巻文・並行線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 132	砥石	(7.5)	(11.0)	(9.2)	(979.3)	花崗岩	表面に皿状の砥面 周縁部欠損	覆土下層	
Q 133	砥石	(10.2)	10.7	7.8	(914.9)	花崗岩	表面全体に砥面 側面一部に砥面	覆土下層	一部煤付着

第 85 号土坑（第 187 図 PL30）

位置 調査区北部西寄りの B 2 i9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 86・87・169 号土坑を掘り込み, 第 170 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.08 m, 短径 1.72 m の楕円形で, 長径方向は N - 86° - W である。底面は平坦で, 深さは 50cm である。壁はほぼ直立している。

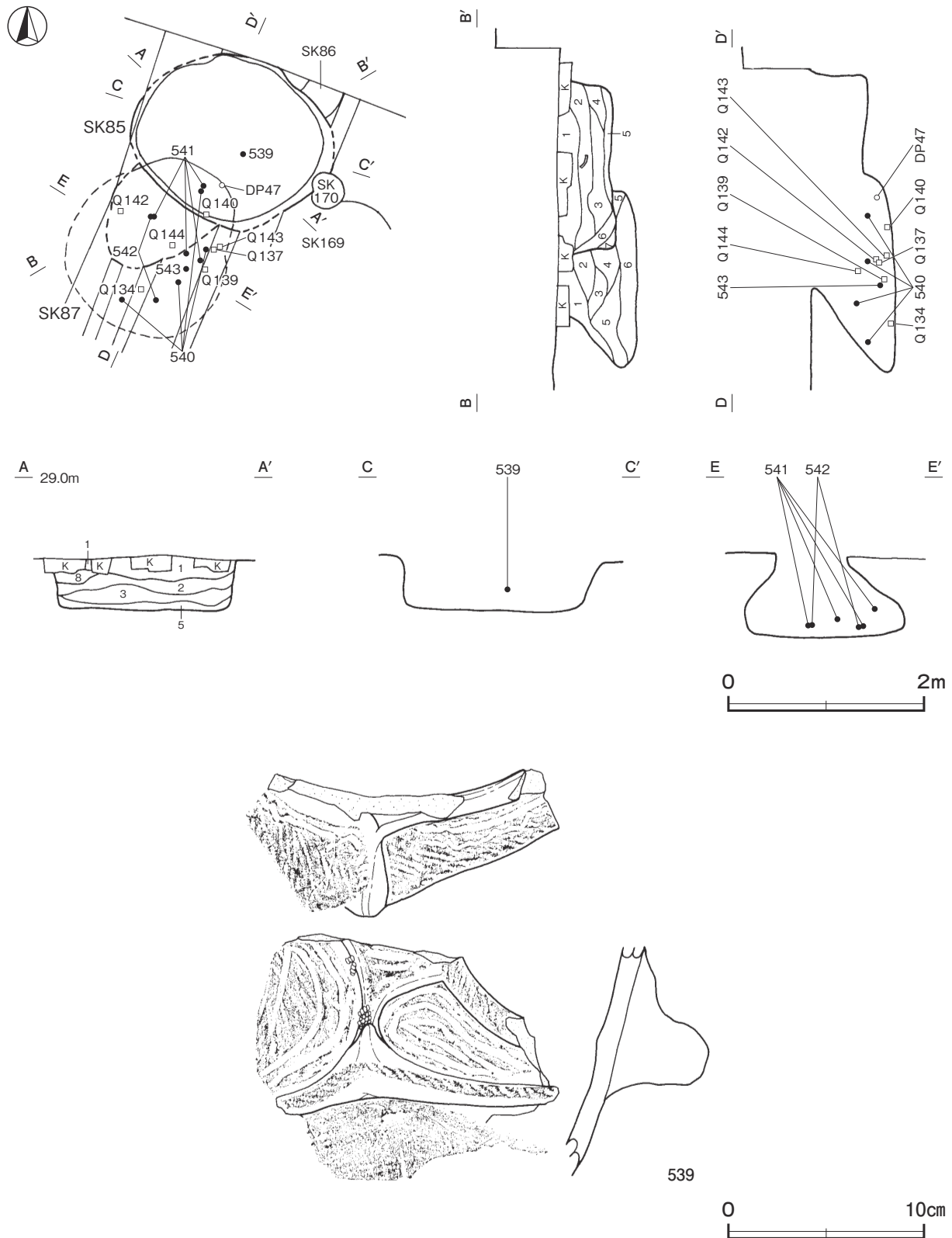
覆土 8 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック微量 (締め強い) |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子多量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 44 点（深鉢）, 土製品 1 点（不明土製品）が出土している。539 は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 187 図 第 85・87 号土坑，第 85 号土坑出土遺物実測図

第 85 号土坑出土遺物観察表（第 187 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
539	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	此状の隆帯が巡る 把手中央部摘み状 区画内 2本の沈線 隆帯上及び地文に0段多糸縄文 RL(横)	覆土中層	10%

第 87 号土坑 (第 187 ~ 190 図 PL30・97)

位置 調査区北部西寄りの B 2 i9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 85 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 1.46 m, 短径 0.98 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 50° - E である。底面は長径 1.85 m, 短径 1.58 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 84 cm である。壁は大きく内傾して, 袋状を呈している。

覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 127 点(深鉢 121, 甕 6), 土製品 1 点(耳栓), 石器 6 点(磨製石斧 4, 敲石 1, 砥石 1), 磨製石斧素材 5 点, 石核 3 点(瑪瑙)が出土している。540 ~ 543 は, 大型破片が東壁際にまとまっており, 小破片がその周辺から散乱した状態で出土している。DP47 は北壁際, Q 134 ~ Q 142 は極小型・小型の磨製石斧とその素材で, 坑内全体の覆土下層を中心に, 散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で, 一括投棄されたものと考えられる。

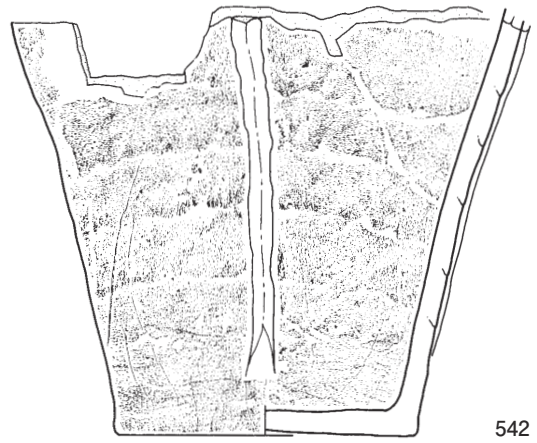
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。廃絶後には, 残存率の高い土器とともに, 極小型・小型の磨製石斧とその素材が一括投棄されている。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



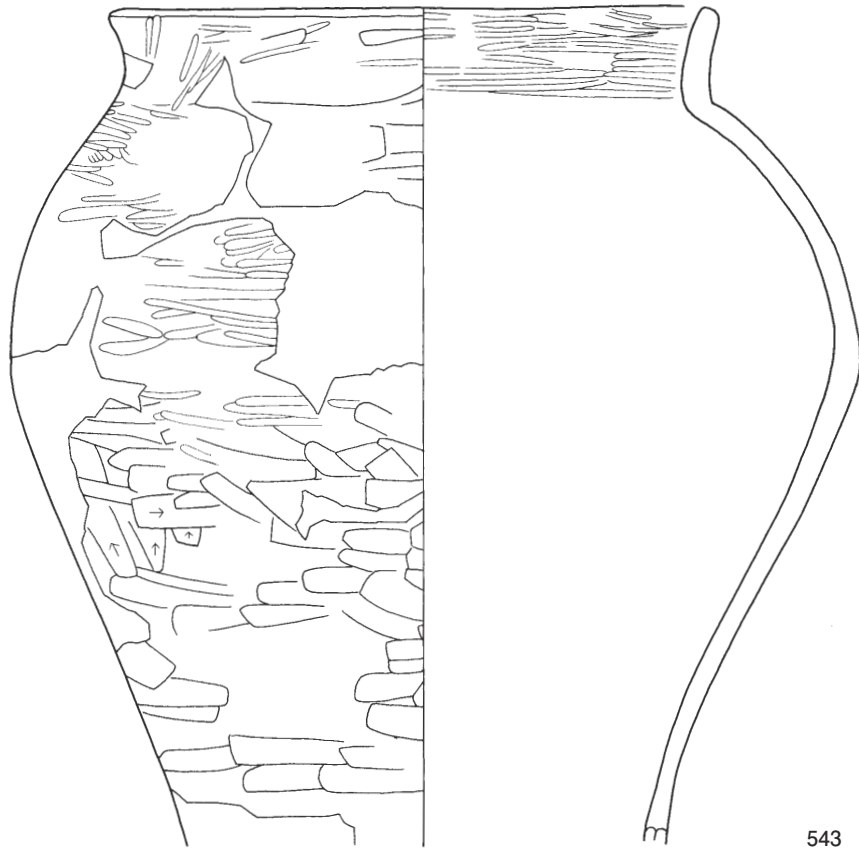
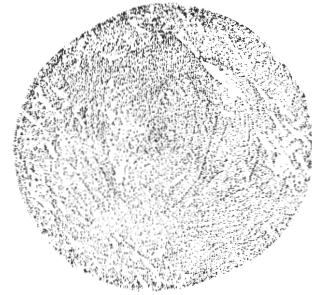
第 188 図 第 87 号土坑出土遺物実測図 (1)



541



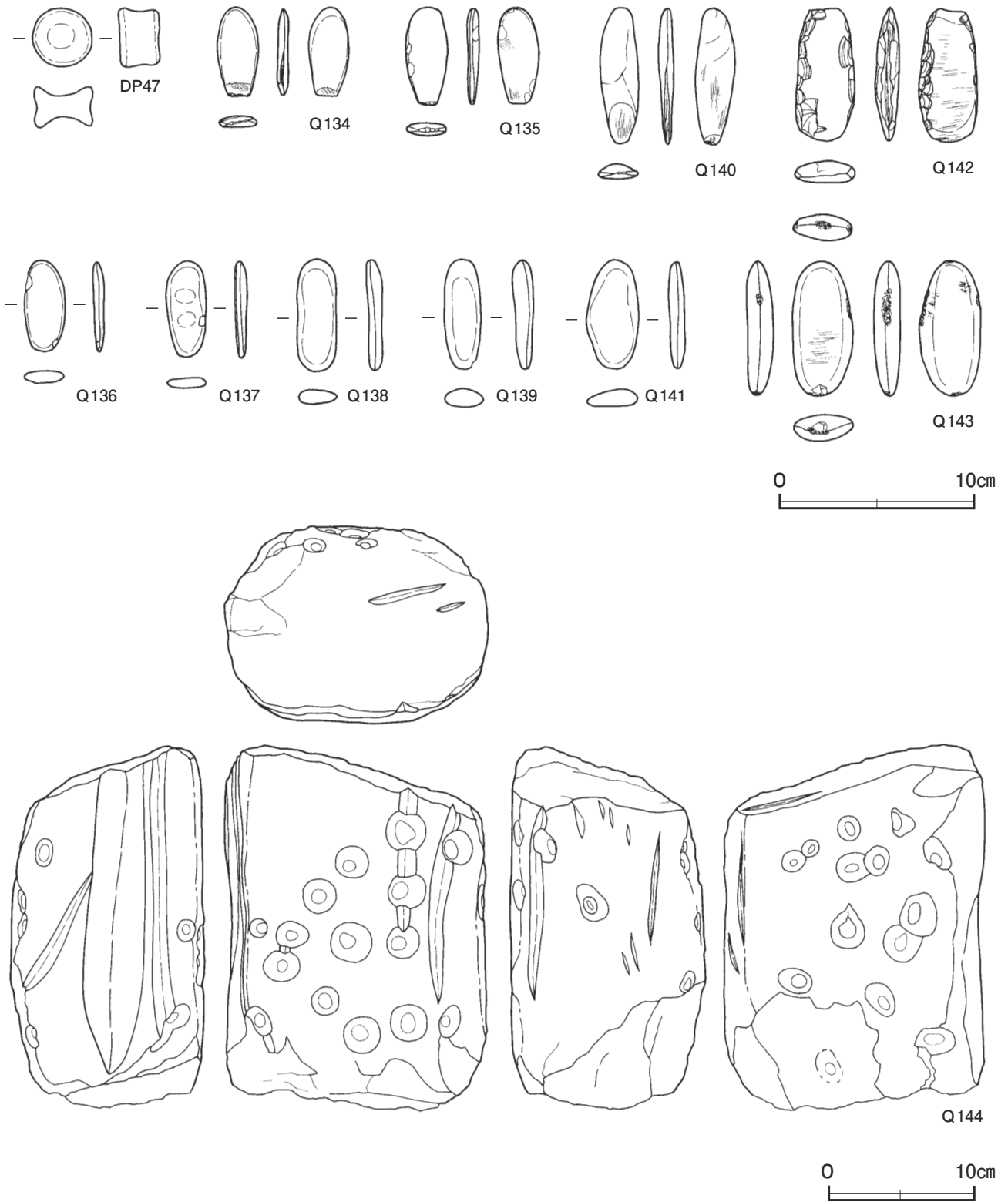
542



543



第 189 图 第 87 号土坑出土遺物実測図 (2)



第 190 図 第 87 号土坑出土遺物実測図 (3)

第 87 号土坑出土遺物観察表 (第 188 ~ 190 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
540	縄文土器	深鉢	29.1	34.4	[10.0]	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁上端部隆帯貼付による無文帯 地文に細かい反捲り縄文 LLR (縦) 4 単位の指頭隆帯垂下	覆土下層	70% PL119
541	縄文土器	深鉢	23.7	(29.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部ナデ (横) 口唇頂部刺突文 4 単位の隆帯貼付による縦長の突起 胴部縦方向の磨き	覆土下層	60% PL119

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
542	縄文土器	深鉢	-	(17.0)	11.8	長石・石英・雲母	明褐色	普通	輪積痕を残し断面三角形の隆帯垂下 胴下半及び底部は磨き 底面網代痕	覆土下層	30% PL119
543	縄文土器	甕	22.8	33.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面磨き(横) 胴部ナデ及び磨き	覆土下層	70% PL119

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP47	耳栓	2.0	2.0	1.4	5.7	長石・石英	明赤褐色	表裏面に凹み 側面ナデ	覆土下層	PL160

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 134	磨製石斧	4.6	2.0	0.6	8.5	角閃岩	極小型 扁平な自然石 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	PL169
Q 135	磨製石斧	(4.9)	2.1	0.6	(10.7)	角閃岩	極小型 刃部一部欠損 扁平な自然礫 両側縁に稜	覆土中	PL169
Q 136	磨製石斧 素材	4.7	2.1	0.6	8.1	頁岩	極小型 扁平な自然礫	覆土中	PL169
Q 137	磨製石斧 素材	5.0	2.0	0.7	9.1	頁岩	極小型 扁平な自然礫	覆土下層	PL169
Q 138	磨製石斧 素材	5.7	2.1	0.8	14.0	ホルンフェルス	極小型 扁平な自然礫	覆土中	PL169
Q 139	磨製石斧 素材	5.7	2.0	1.1	19.6	変質閃緑斑岩	極小型 扁平な自然礫	覆土下層	PL169
Q 140	磨製石斧	7.0	2.1	0.8	(14.6)	角閃岩	極小型 扁平な自然礫 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す	底面	PL169
Q 141	磨製石斧 素材	5.6	2.7	0.9	19.9	角閃岩	極小型 扁平な自然礫	覆土中	PL169
Q 142	磨製石斧	6.9	3.1	1.1	41.2	角閃岩	小型 全面研磨	覆土下層	PL169
Q 143	敲石	6.9	3.1	1.4	44.1	ホルンフェルス	周縁の一部に敲打痕 表裏の一部に擦痕	覆土下層	
Q 144	砥石	25.1	18.1	13.3	8770.0	花崗岩	表裏・側面に溝状の砥面 側面3面に砥面	覆土中層	PL179

第 88 号土坑 (第 191・192 図 PL30)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 c2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

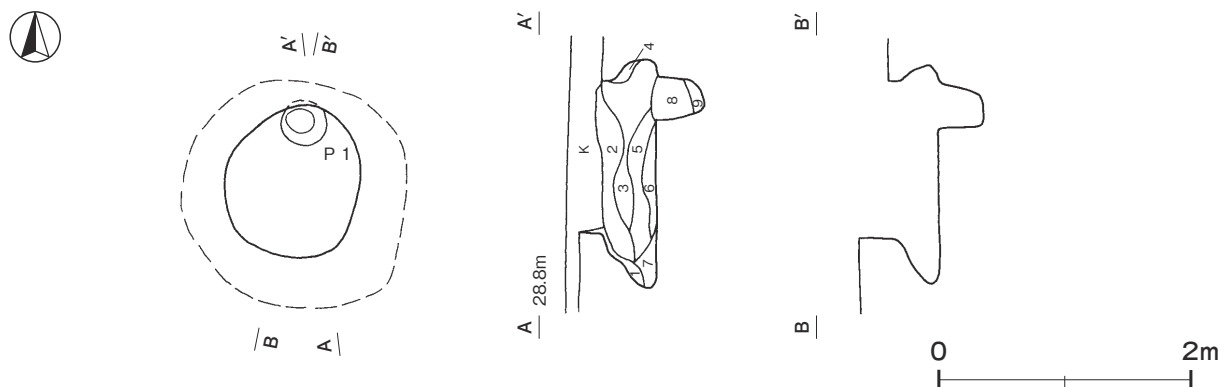
規模と形状 開口部は長径 1.18 m, 短径 1.06 m の楕円形で, 長径方向は N - 15° - E である。底面は径 1.78 ~ 1.92m のほぼ円形で, 平坦である。確認面からの深さは 72cm である。壁は内傾して, 袋状を呈している。

ピット 径 38.0cm の円形で, 深さ 35cm である。補助的な貯蔵施設と考えられる。

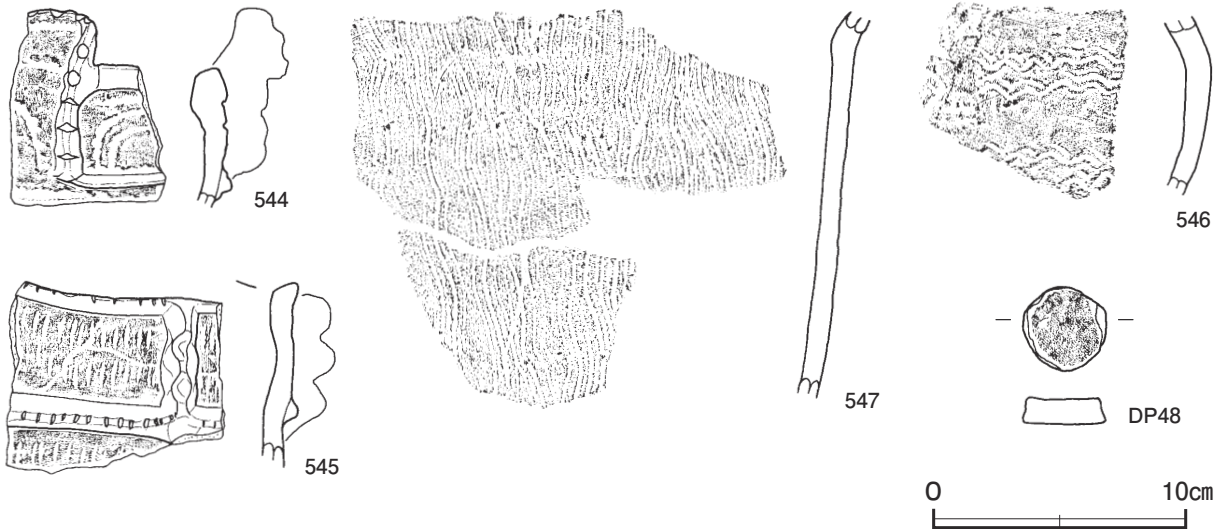
覆土 7 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 8・9 層は P 1 の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック微量 (粘性やや強い) |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量, 焼土粒子少量 | | |



第 191 図 第 88 号土坑実測図



第 192 図 第 88 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 152 点（深鉢），土製品 1 点（土器片円盤），石器 1 点（磨製石斧），剥片 4 点（頁岩 1，石英 3），粘土塊 1 点が出土している。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期前葉と考えられる。

第 88 号土坑出土遺物観察表（第 192 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
544	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	扇状把手 有節沈線による文様描画 断面三角形の隆帯貼付 隆帯上に押形文	覆土中	
545	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	断面三角形の隆帯貼付 隆帯上にキザミ目 横位の爪形文	覆土中	
546	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	摘み状の貼付 半截竹管による横位の並行波状文	覆土中	
547	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	半截竹管による縦位の波状文を全体に施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP48	土器片円盤	3.4	3.3	1.0	13.2	長石・石英	にぶい褐	胴部片 周縁粗く調整	覆土中	

第 89 号土坑（第 193 図 PL31）

位置 調査区中央部北寄りの C 3c3 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 129・271 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.75 ～ 1.87 m の円形で，底面は平坦である。深さは 47cm で，壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 ～ P 3 は深さ 27 ～ 39cm で，性格は不明である。

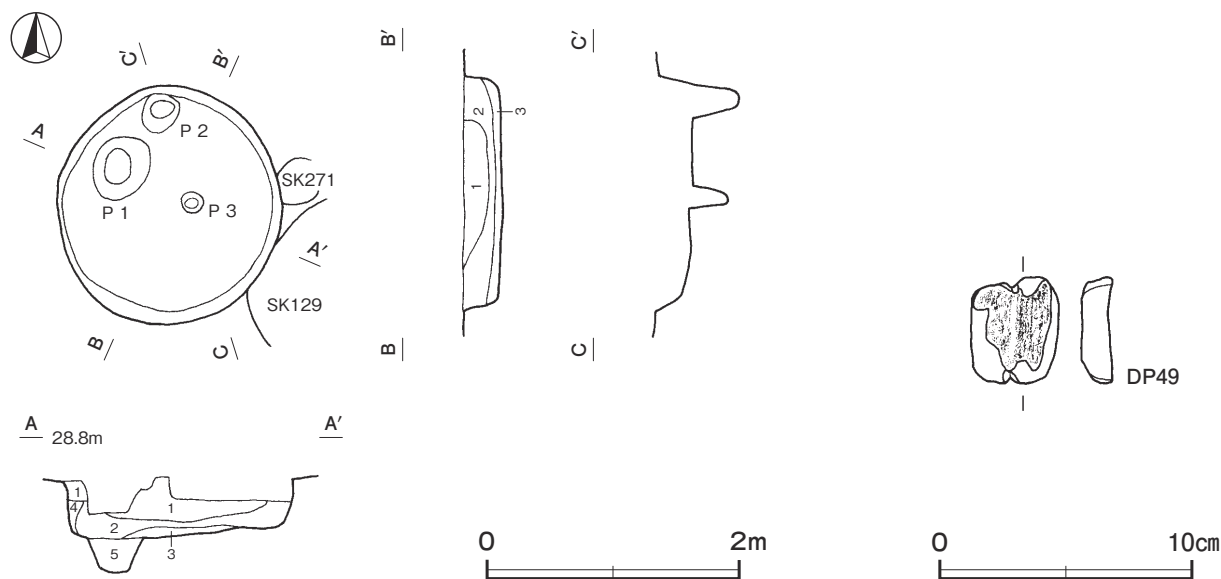
覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 5 層は P 1 の覆土で，ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 43 点（深鉢），土製品 1 点（土器片錘）が出土している。

所見 時期は，中期と考えられるが，詳細は不明である。



第 193 図 第 89 号土坑・出土遺物実測図

第 89 号土坑出土遺物観察表（第 193 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP49	土器片鏝	4.2	3.4	1.2	19.1	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

第 91 号土坑（第 194 図 PL31）

位置 調査区北部西寄りの B 3j3 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 124・134 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており，開口部は東西軸が 1.75 m，南北軸が 0.76 m，底面は東西軸が 2.08 m，南北軸が 0.80 m しか確認できなかったが，ともに円形または楕円形と推定できる。平坦で，確認面からの深さは 122 cm である。壁は内彎して，袋状を呈している。

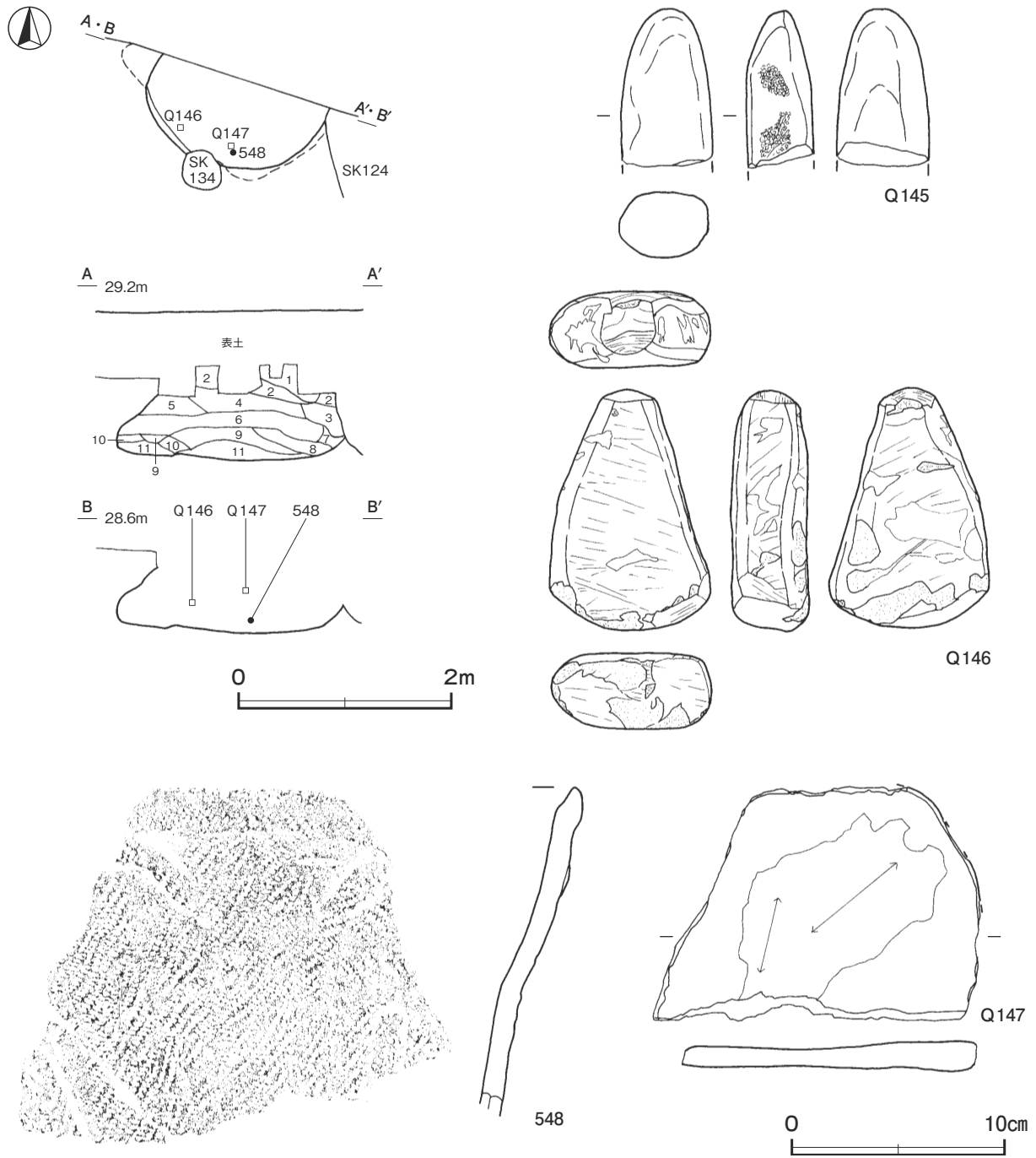
覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8 にぶい黄褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック少量（粘性やや強い）	9 黒褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック中量	10 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片 92 点（深鉢），石器 3 点（磨製石斧未成品，敲砥石，砥石），剥片 3 点（瑪瑙 1，石英 2），残核（瑪瑙）・礫各 1 点が出土している。548 は南壁際の覆土下層，Q 146 は南西壁際，Q 147 は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 194 図 第 91 号土坑・出土遺物実測図

第 91 号土坑出土遺物観察表 (第 194 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
548	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	口唇部肥厚 低い隆帯によるV字状の貼付 口唇部単節縄文 RL (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 145	磨製石斧 未成品	(7.4)	4.4	3.1	(161.0)	緑色岩	表裏面研磨 周縁部敲打調整 刃部欠損			覆土下層	
Q 146	敲砥石	11.6	7.5	3.6	522.2	角閃岩	楕円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ			覆土中層	PL172
Q 147	砥石	(10.9)	(15.4)	1.4	(252.6)	砂岩	片面に砥面			覆土中層	被熱

第 93 号土坑 (第 195 図 PL32)

位置 調査区北西部の B 2h5 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 94・214 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.41 m, 短径 1.98m の楕円形で, 長径方向は N - 56° - E である。底面は平坦である。確認面からの深さは 30cm で, 壁は外傾している。

ピット 北東部に位置しており, 長径 40cm, 短径 33cm の楕円形で, 深さ 13cm である。性格は不明である。

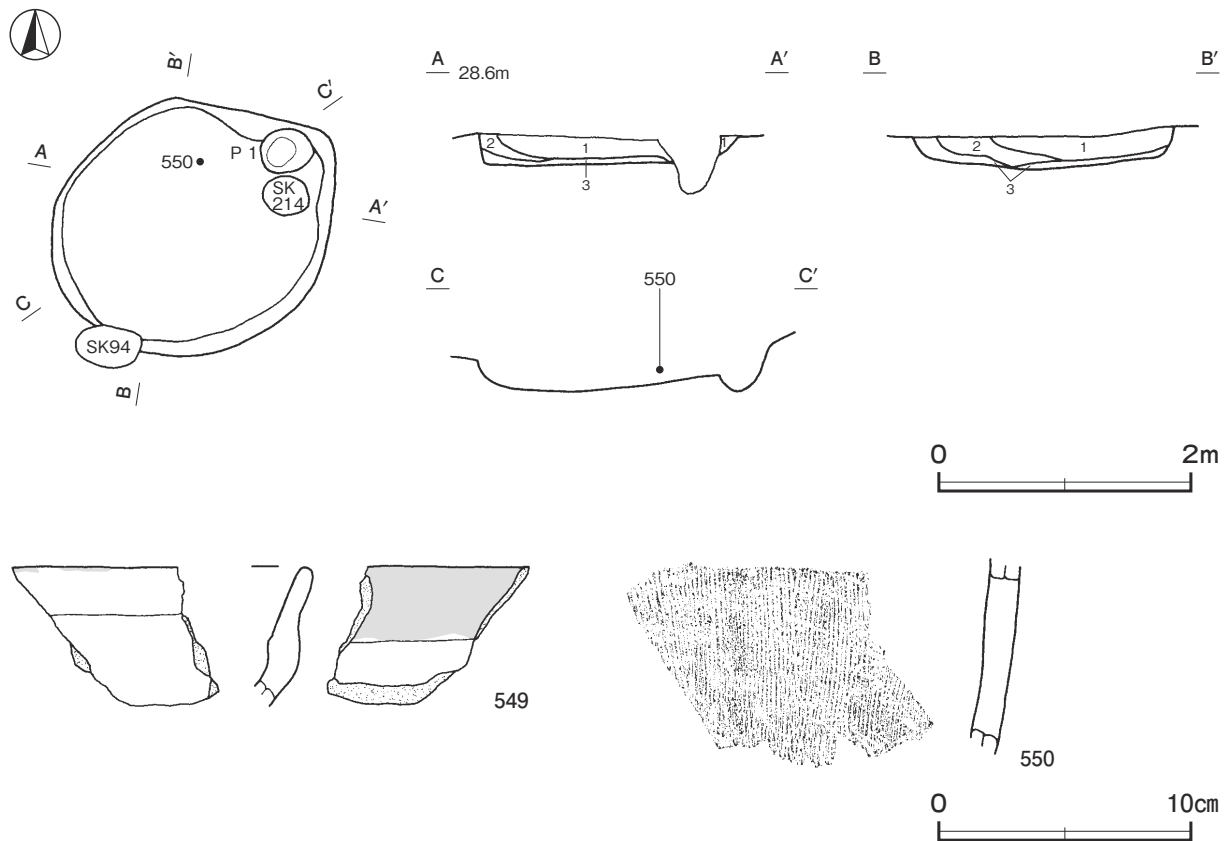
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 39 点 (深鉢 28, 浅鉢 11) が出土している。550 は, 北部の覆土下層から出土している。埋め戻す過程で投棄あるいは混入したものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 195 図 第 93 号土坑・出土遺物実測図

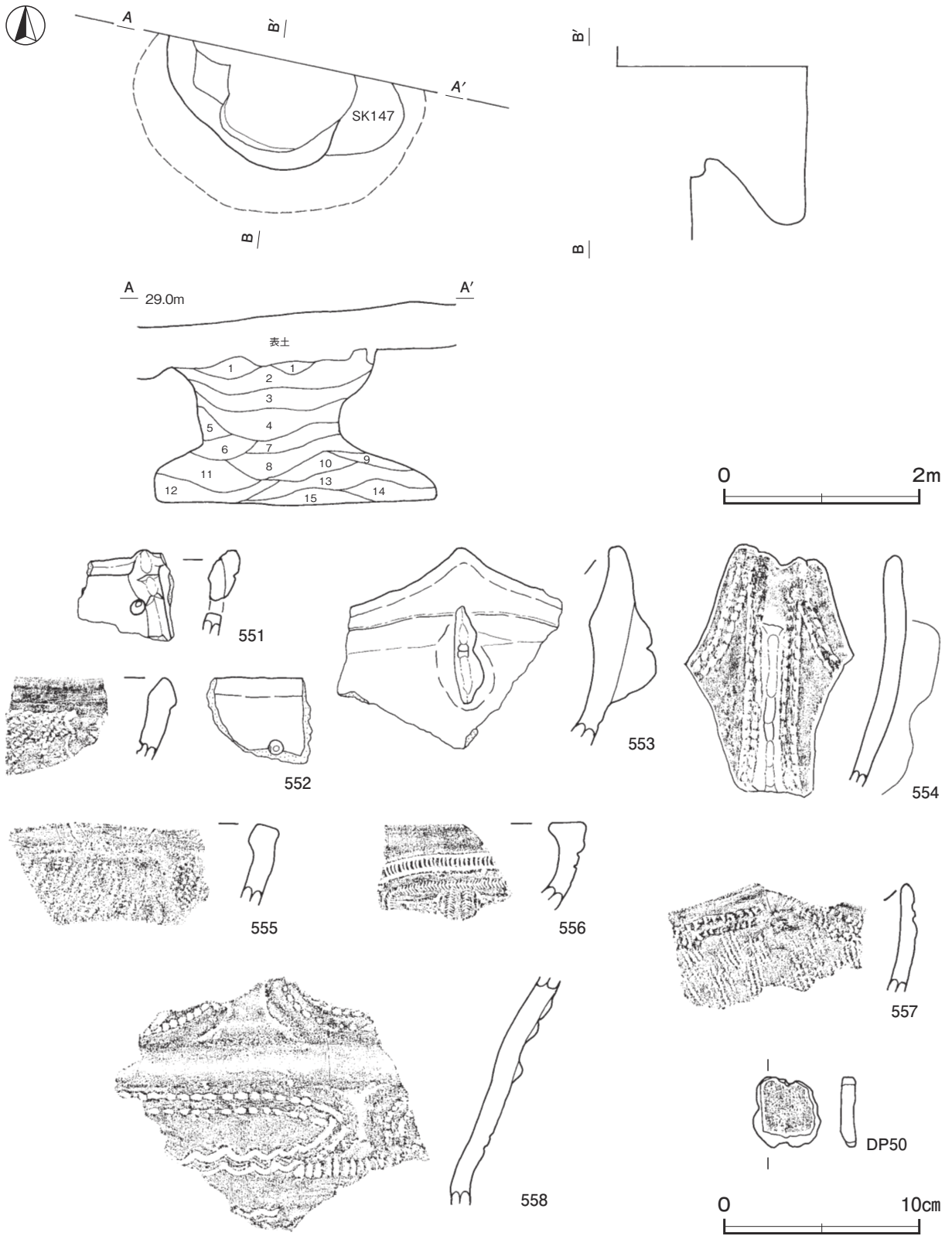
第 93 号土坑出土遺物観察表 (第 195 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
549	縄文土器	浅鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外・内面磨き	覆土中	
550	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	縦位の条線文	覆土下層	

第 95 号土坑 (第 196 図)

位置 調査区北西部B 2h4 区, 標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 147 号土坑を掘り込んでいる。



第 196 図 第 95 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、開口部は東西径が1.94m、南北径が1.14mで、底面は東西径が2.76m、南北径が1.60mしか確認できなかった。平面形は円形もしくは楕円形と推定できる。底面は平坦で、確認面からの深さは152cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から高さ63～82cmのところできびれて、上位は外傾している。

覆土 15層に分層できる。多くの層にロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	11	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	12	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	15	褐色	ロームブロック中量（締まり強い）
8	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片90点（深鉢86，浅鉢4），土製品1点（土器片錘）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第95号土坑出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
551	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	断面三角形の隆帯貼付 補修孔あり	覆土中	
552	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部無文 結節縄文RL(縦) 内面に穿孔途中の痕跡	覆土中	
553	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	縦長の瘤状の突起貼付 外・内面横位のナデ	覆土中	
554	縄文土器	深鉢	-	(12.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	断面三角形の隆帯貼付 把手部周縁・隆帯に沿って2本の有節沈線	覆土中	
555	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇頂部に平坦面 口唇直下から単節縄文RL(縦)	覆土中	
556	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇頂部に平坦面 連続爪形文とベン先状の刺突により文様描画 三角形の印刻あり	覆土中	
557	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁上部に2本の有節沈線 瘤状の突起貼付 地文に燃糸文(縦)	覆土中	
558	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による楕円区画文 隆帯に沿い2本の有節沈線 波状沈線文・キャタピラ文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP50	土器片錘	3.7	3.5	0.8	11.2	長石・石英	灰黄褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

第96号土坑（第197図）

位置 調査区北西部のB2h5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第246・249号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.16m、短径0.97mの楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。底面は平坦で、確認面からの深さは32cmである。壁は底面から外傾している。

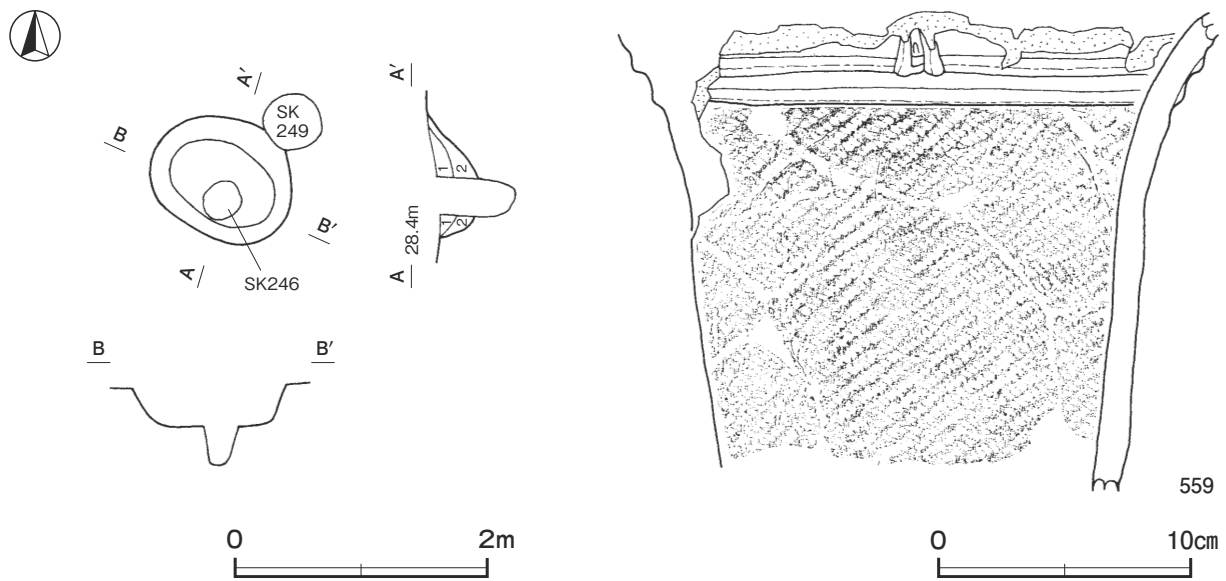
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
---	-----	----------------------	---	-----	------------------------

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 197 図 第 96 号土坑・出土遺物実測図

第 96 号土坑出土遺物観察表 (第 197 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
559	縄文土器	深鉢	-	(19.0)	-	長石・石英・赤色 粒子	灰褐	普通	頸部2条の隆帯が一巡 地文に単節縄文RL(縦)	覆土中	60% PL119

第 101 号土坑 (第 198 図 PL32)

位置 調査区西部の C 2 b6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 343・360 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.25 m, 短径 1.90 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 23° - W である。底面は長径 2.92m, 短径 2.62m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 127cm である。壁は大きく内傾して, 袋状を呈し, 底面から高さ 88 ~ 92cm のところでくびれて, 上位は外傾している。

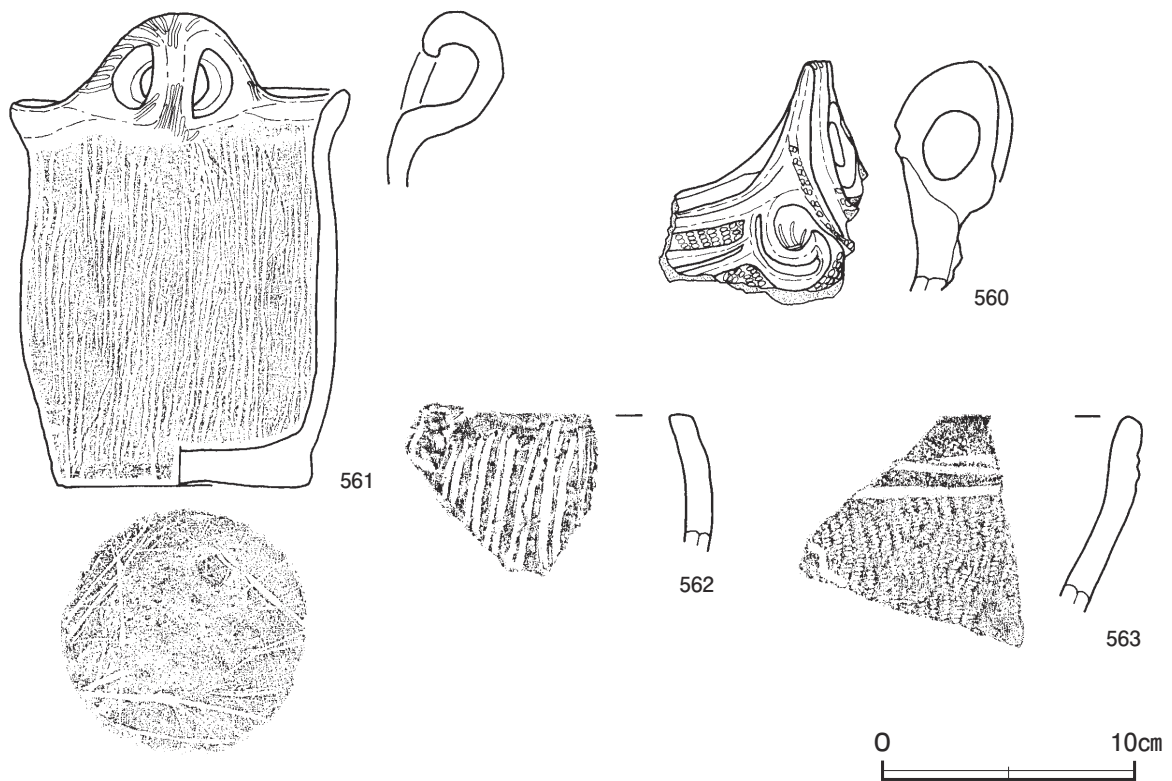
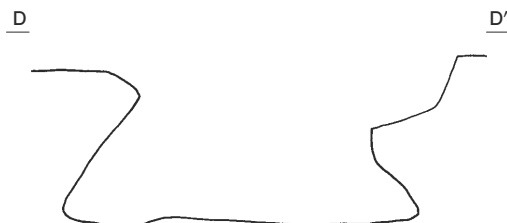
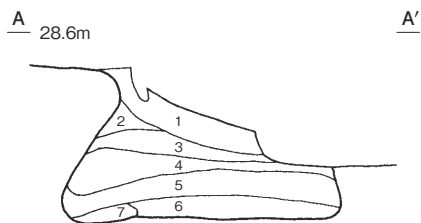
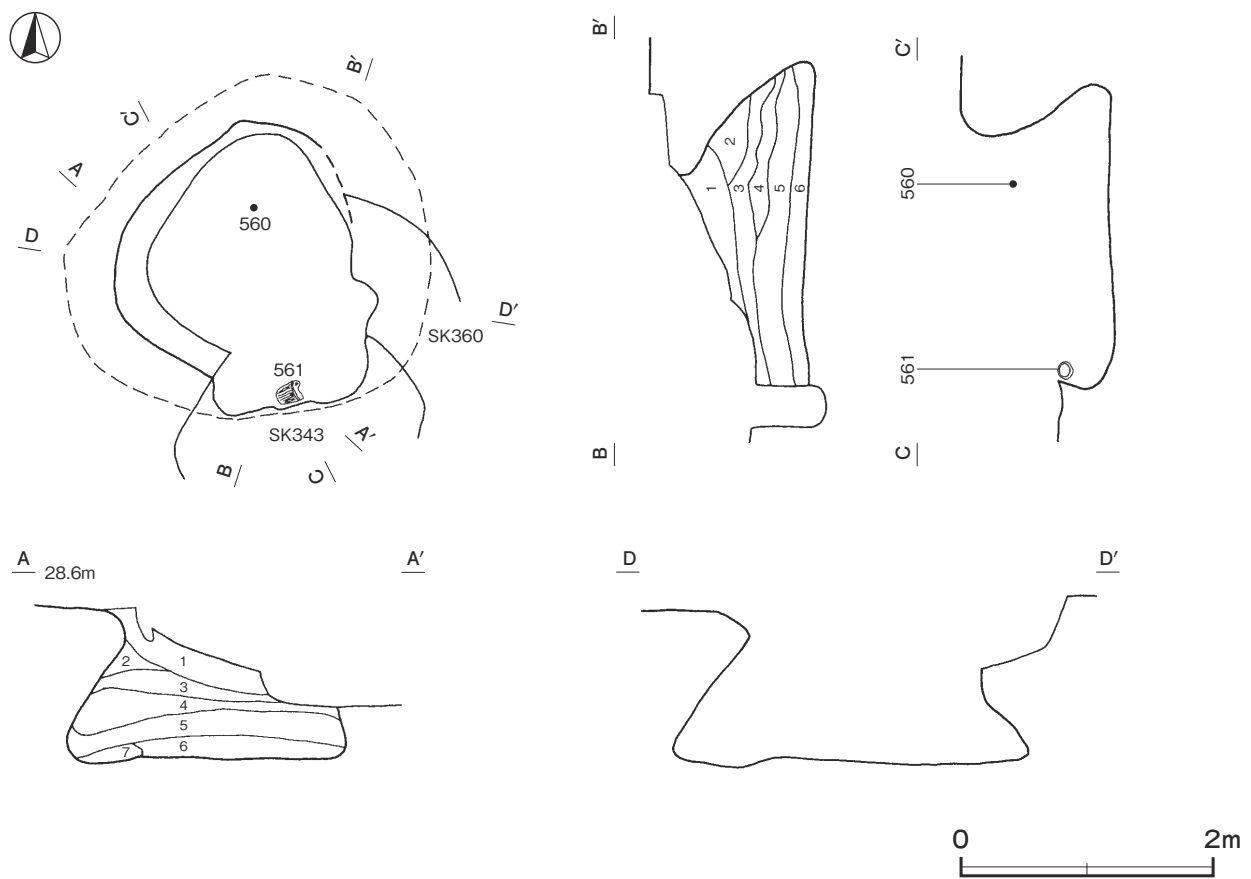
覆土 7 層に分層できる。各層にロームや焼土のブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------|---|-----|--------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 | 5 | 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化材微量 | 6 | 褐色 | ロームブロック多量, 炭化物微量 (締まり強い) |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片 99 点 (深鉢 97, 浅鉢 2) が出土している。561 は南壁際の覆土下層から, 口縁部を北東に向けた横位の状態で出土している。560 は中央部の覆土中層から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 198 图 第 101 号土坑·出土遗物实测图

第 101 号土坑出土遺物観察表 (第 198 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
560	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	背割れ隆帯による文様描画 区画内・隆帯上に単節縄文 RL (縦)	覆土中層	
561	縄文土器	深鉢	13.0	18.8	9.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	把手部及び口縁部下端に縦位の擦糸文 底面木葉痕	覆土下層	100% PL120
562	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇頂部から縦位の隆帯貼付 縦位の並行沈線	覆土中層	
563	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇部 0 段多糸縄文 RL (横) 並行沈線 地文に同一原体による斜位の施文	覆土中層	

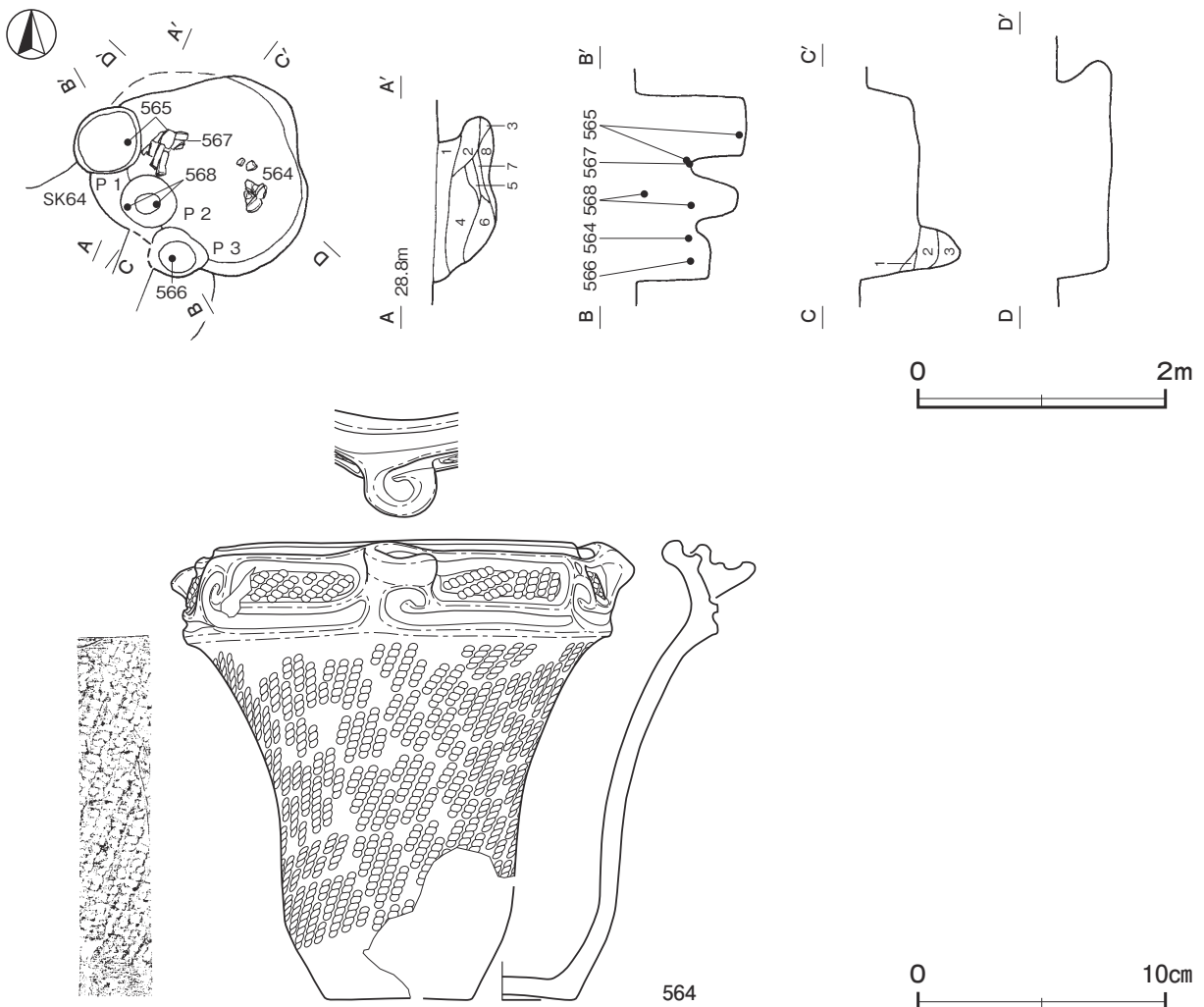
第 104 号土坑 (第 199 ~ 201 図 PL33)

位置 調査区北部中央の C 3 b3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

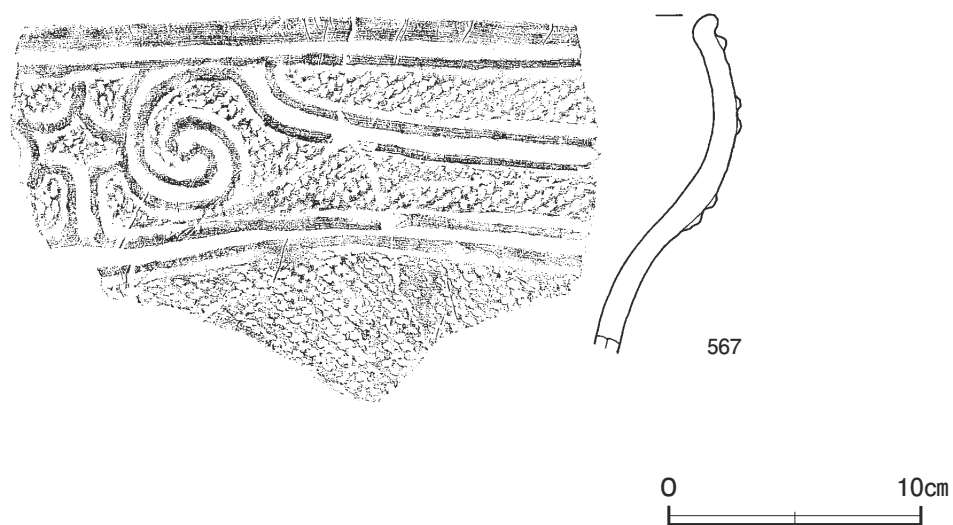
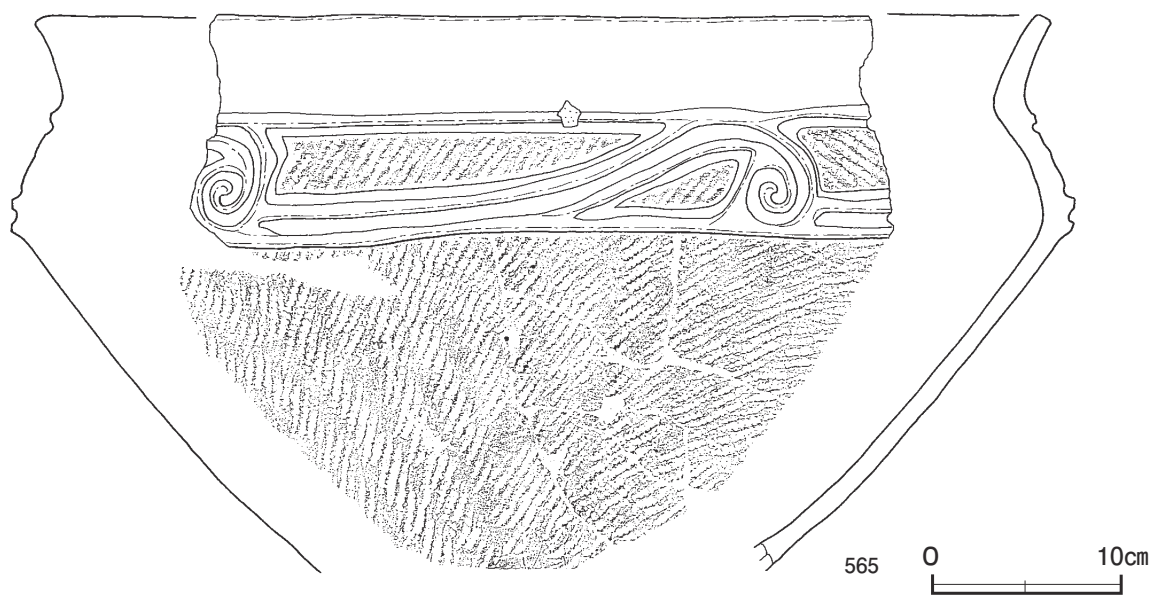
重複関係 第 64 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径 1.67 m, 短径 1.49 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 50° - W である。底面は長径 1.73 m, 短径 1.33 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 50 cm である。壁は, 北部が内彎して, 袋状を呈し, その他は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 ~ P 3 は, 径 45 ~ 60 cm の円形で, 深さ 12 ~ 44 cm である。いずれも壁際に位置していることから, 補助的な貯蔵施設と考えられる。



第 199 図 第 104 号土坑・出土遺物実測図



第 200 图 第 104 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 201 図 第 104 号土坑出土遺物実測図 (2)

ピット土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量 (粘性やや強い)
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 75 点 (深鉢 73, 浅鉢 2), 石核 2 点 (瑪瑙) が出土している。564 は東部の底面から横位の状態で出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。565 は北西部の覆土下層と P 1 の底面から出土した破片が接合している。565・567 は折り重なった状態で, 566 は南部の覆土下層からそれぞれ出土しており, いずれも廃絶直後に投棄されたものと考えられる。568 は南西部の覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 104 号土坑出土遺物観察表 (第 199 ~ 201 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
564	縄文土器	深鉢	14.5	18.6	6.0	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部背割れ隆帯による区画文・渦巻文, 3 単位の渦巻状の把手, 地文に単節縄文 RL (縦), 胴部下端横方向のナデ	底面	90% PL120
565	縄文土器	浅鉢	[51.8]	(29.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部無文, 口縁下部隆線による区画と渦巻文, 地文に単節縄文 RL (縦)	覆土下層・P 1 底面	30% PL120
566	縄文土器	浅鉢	[36.7]	(14.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇頂部沈線による長楕円形区画及び円文外・内面磨き	覆土下層	10%
567	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部 2 本の並行隆帯による区画文・渦巻文, 地文に複節縄文 LRL (横), 頸部以下同一原体による縦位の施文	覆土下層	
568	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	背割れ隆帯による区画, 隆帯上に単節縄文 LR (横) を施文, 胴部単節縄文 RL (斜)	覆土上・下層	

第 105 号土坑 (第 202 図 PL33)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 d2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 121 号土坑を掘り込み, 第 107・185・186 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 径 1.56 ~ 1.62 m ほどの円形である。底面は平坦で, 深さは 32 cm である。壁は外傾している。

ピット 径 20cm ほどの円形で, 深さ 17cm である。中央部に位置していることから, 補助柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。

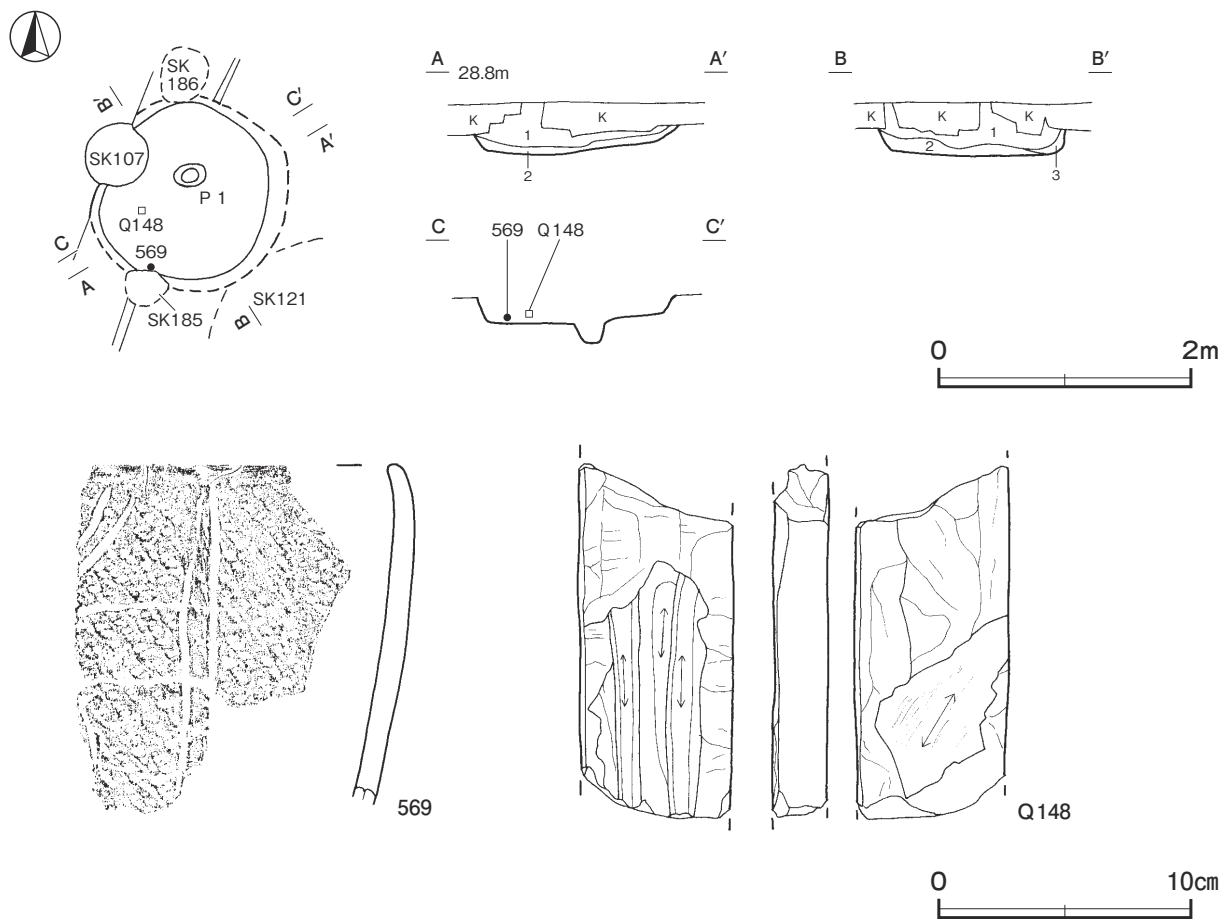
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 63 点 (深鉢 62, 浅鉢 1), 石器 1 点 (砥石) が出土している。569 は南部, Q 148 は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 202 図 第 105 号土坑・出土遺物実測図

第 105 号土坑出土遺物観察表 (第 202 図)

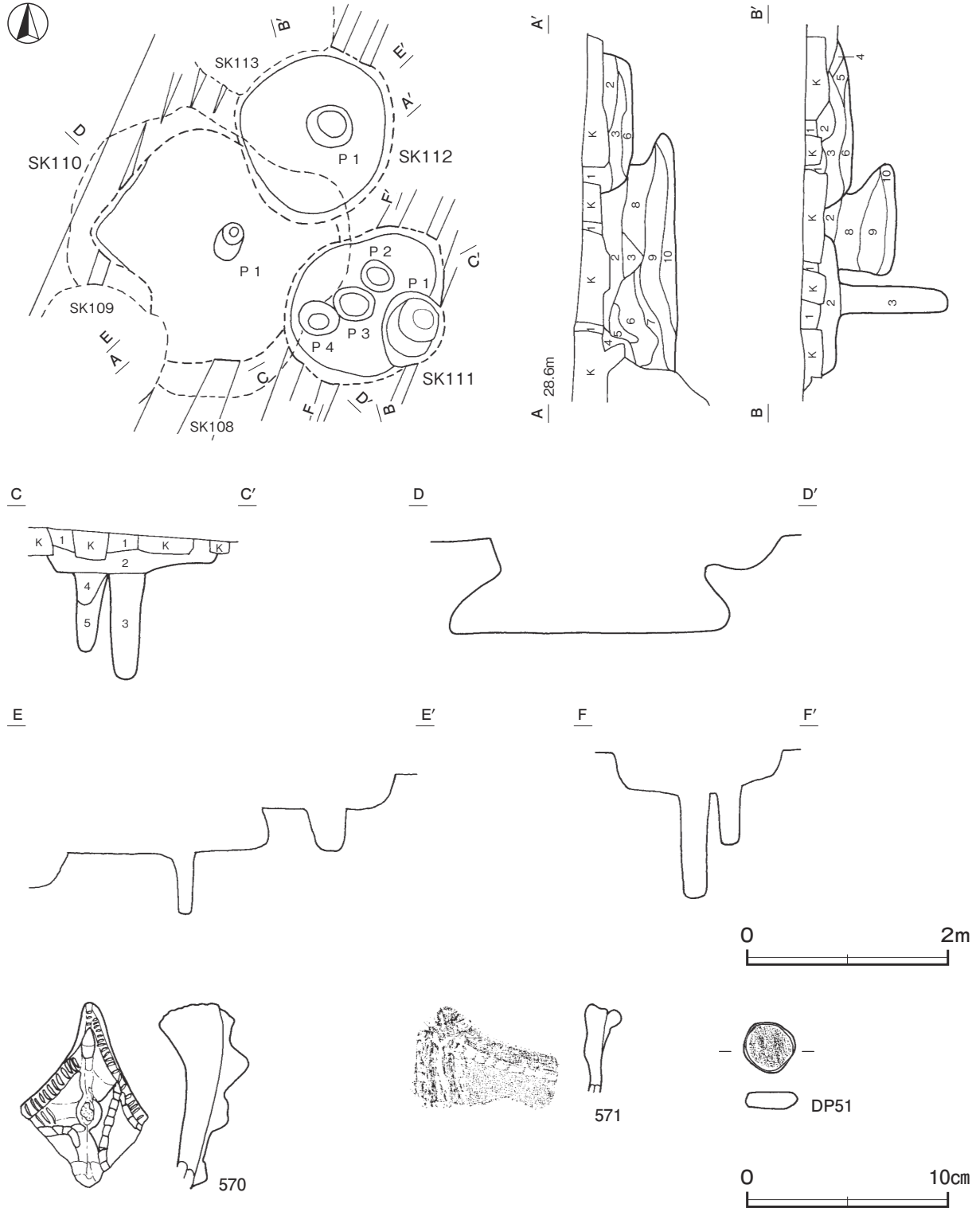
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
569	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	地文に単節縄文LR(縦) 2本の沈線による懸垂文・弧状文 内面磨き	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 148	砥石	(14.0)	6.1	2.2	(347.7)	砂岩	表面浅い溝状の砥面	裏面平坦な砥面	覆土下層	PL179	

第 110 号土坑 (第 203 図 PL34)

位置 調査区北部西寄りの B 2j8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 108・109・111・112 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は径 2.53 m の不整円形である。底面は長径 2.90 m, 短径 2.62 m の不整楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 97 cm である。壁は内傾して, 袋状を呈し, 底面



第 203 図 第 110・111・112 号土坑, 第 110 号土坑出土遺物実測図

から高さ 60～63cmのところできびれ、上位はほぼ直立している。

ピット 長径 39cm, 短径 23cmの楕円形で、中央部に径 18cmの円形の掘り込みを有している。深さは 63cmである。土坑の中央部に位置していることから、柱穴と考えられる。

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 180 点 (深鉢), 土製品 (土器片円盤)・石器 (スクレイパー)・石製品 (不明)・石核 (ホルンフェルス) 各 1 点, 剥片 3 点 (砂岩, 瑪瑙, 流紋岩) が出土している。DP51 は覆土下層, 570 は覆土上層からそれぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄, あるいは混入したものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第 110 号土坑出土遺物観察表 (第 203 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
570	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	把手中央に断面三角形の突起を貼付して有筋沈線 周縁部にキザミ目	覆土上層	
571	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	波頂部から 2 条の隆帯が垂下 隆帯及び口縁に沿って有筋沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP51	土器片円盤	2.4	2.5	0.8	6.2	長石・石英	にぶい褐	胴部片 側縁の一部を除いて研磨	覆土下層	

第 111 号土坑 (第 203・204 図 PL34)

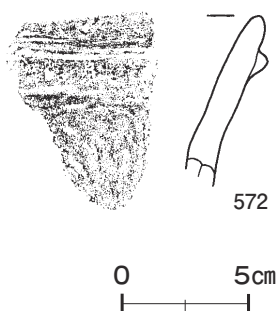
位置 調査区北部西寄りの B 2j9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 108・110 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 長径 1.80 m, 短径 1.50 m の楕円形で, 長径方向は N - 40° - E である。底面は平坦で, 深さは 40cm である。壁は外傾している。

ピット 4 か所。P 1 は長径 73cm, 短径 53cm の楕円形で, 深さ 98cm である。壁際に位置していることから, 補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2～P 4 は, 深さ 57～103cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。第 3～5 層は, P 3・P 4 の覆土で, ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。



土層解説

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 32 点 (深鉢) が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 中期と考えられるが, 詳細は不明である。

第 204 図 第 111 号土坑出土遺物実測図

第 111 号土坑出土遺物観察表 (第 204 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
572	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁上部に隆帯が一巡 外・内面磨き	覆土中	

第 112 号土坑 (第 203・205 図 PL34)

位置 調査区北部西寄りの B 2i8 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 110 号土坑を掘り込み, 第 113 号土坑に掘り込まれている。

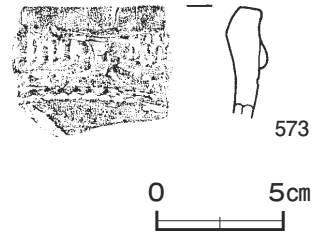
規模と形状 耕作により攪乱を受けているが, 長径 1.82 m, 短径 1.57 m の楕円形で, 長径方向は N - 7° - E である。底面は平坦で, 深さは 50cm である。壁は外傾している。

ピット 径 45cm の円形で, 深さ 41cm である。中央部に位置していることから柱穴と考えられる。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量 (締まり強い)



遺物出土状況 縄文土器片 39 点(深鉢)が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 205 図 第 112 号土坑出土遺物実測図

第 112 号土坑出土遺物観察表 (第 205 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
573	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇頂部に平坦面作出 隆帯により楕円区画 区画内幅広の爪形文 隆帯に沿って並行有節沈線	覆土中	

第 114 号土坑 (第 206 図 PL34)

位置 調査区北部西寄りの B 2j9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 55・81 号土坑を掘り込み, 第 84 号土坑に掘り込まれている。

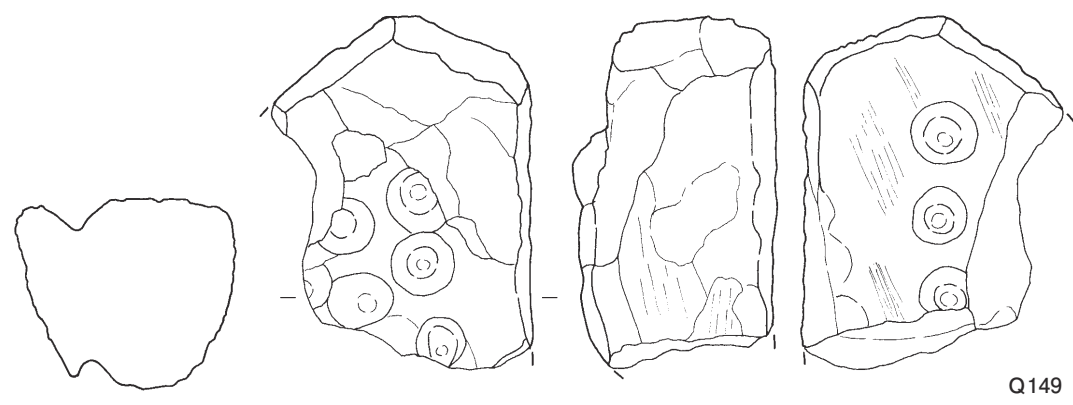
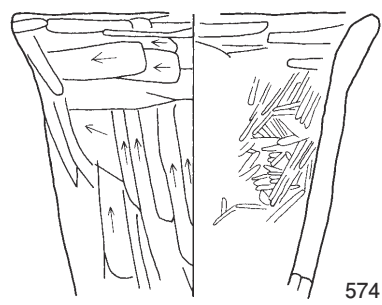
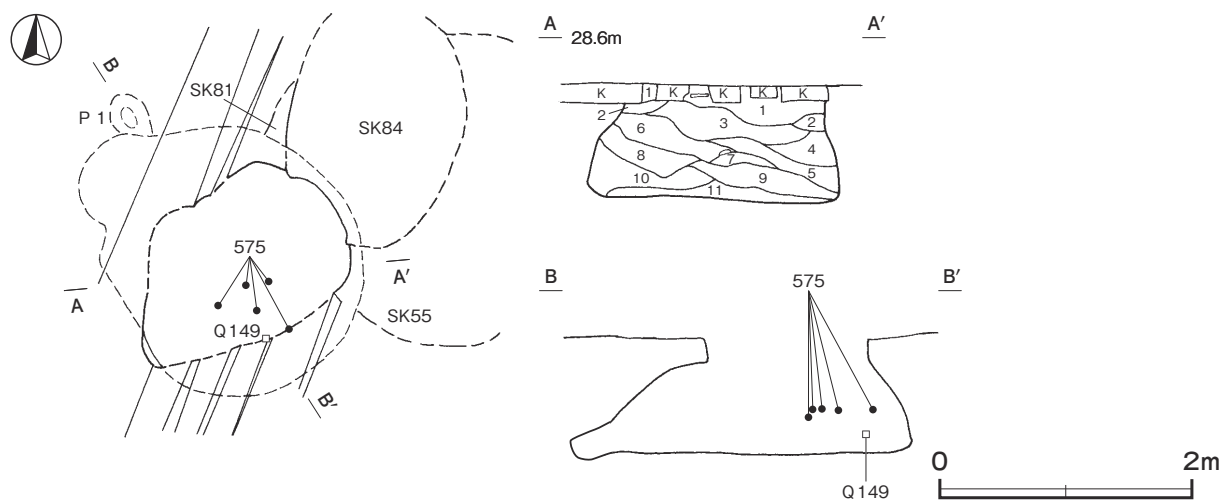
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 1.97 m, 短径 1.29 m の不定形で, 長径方向は N - 38° - E である。底面は長径 2.47cm, 短径 2.05cm の不整楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 95cm である。壁は内傾して, 袋状を呈し, 底面から 65 ~ 78cm のところでくびれ, 上位はほぼ直立している。

ピット 北壁に掘り込まれており, 幅 38cm, 奥行 34cm で, 底面は緩やかに下降している。形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロック, 炭化物, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 9 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 10 褐 色 ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 褐 色 ロームブロック中量 (締まり強い)



第 206 图 第 114 号土坑·出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 83 点（深鉢），石器 5 点（磨石 2，敲石 1，凹石 1，多孔石 1）が出土している。Q 149 は南東部の覆土下層から，575 は中央部の覆土中層から，破片が散乱した状態で，それぞれ出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 114 号土坑出土遺物観察表（第 206 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
574	縄文土器	深鉢	[14.4]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部横位のナデ 胴部外面縦位のナデ 内面横・斜位の磨き	覆土中	10% PL120
575	縄文土器	深鉢	[27.6]	(27.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部無文帯 無文帯下部に有節沈線 胴部無節縄文 L（縦）	覆土中層	PL120

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q149	多孔石	(14.0)	(10.4)	8.1	(1481.2)	花崗岩	表裏面に凹み痕 側面及び裏面の一部に研磨痕	覆土下層	PL179

第 116 号土坑（第 207・208 図 PL35）

位置 調査区北西部の B 2h4 区，標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

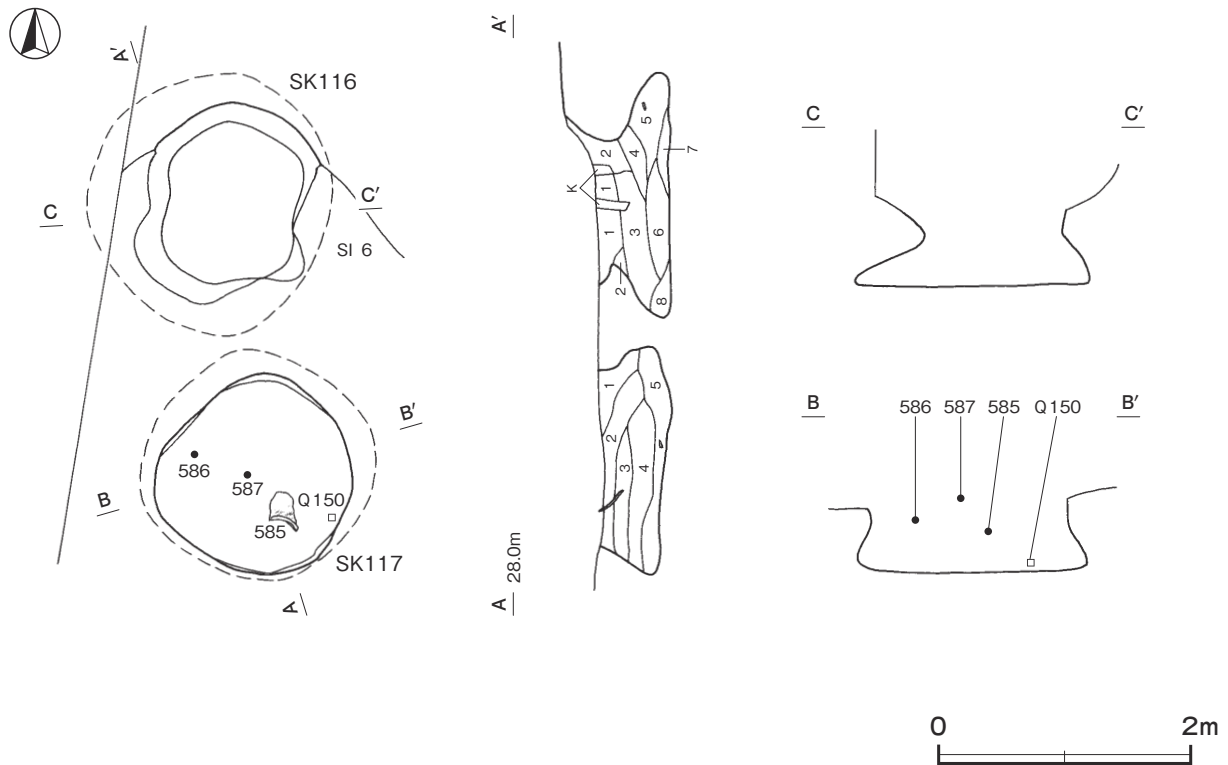
重複関係 第 6 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.62 m，短径 1.34 m の不定形で，長径方向は N - 9° - E である。底面は径 1.92 ~ 2.08 m の円形で，平坦である。確認面からの深さは 82 cm である。壁は内傾して，袋状を呈している。

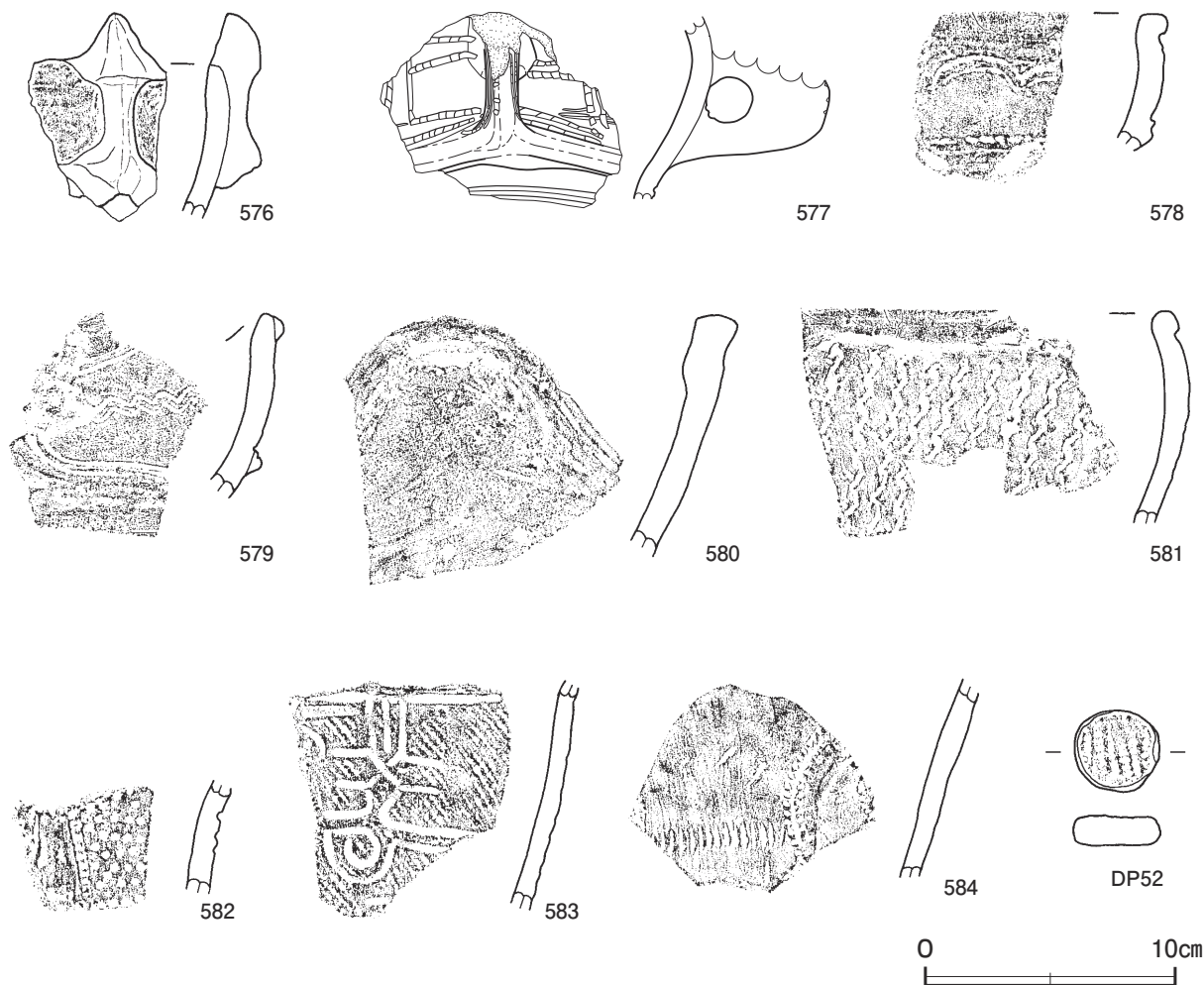
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量（縮まりやや弱い） |



第 207 図 第 116・117 号土坑実測図



第 208 図 第 116 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 125 点（深鉢 123, 浅鉢 2），土製品 1 点（土器片円盤）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 116 号土坑出土遺物観察表（第 208 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
576	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	突起中央部から断面三角形の隆帯垂下	覆土中	
577	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英	黒褐	普通	把手先端にキザミ目 2本の有節沈線 胴部横位の並行沈線	覆土中層	PL120
578	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	並行有節沈線による弧文・並行線文	覆土中	
579	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	断面三角形の隆帯による区画文 隆帯に沿って並行沈線 区画内並行沈線による波状文	覆土中	
580	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	周縁部肥厚 外・内面斜位の磨き	覆土中	
581	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇部紐状の隆帯貼付により肥厚 隆帯下部から結節縄文（縦）	覆土中	
582	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	断面三角形の隆帯が垂下 隆帯に沿って有節沈線 区画内凹形刺突文	覆土中	
583	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 LR（縦） 並行沈線により文様描画	覆土中	
584	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	隆帯に沿って並行刺突文 輪積を意識した幅広爪形文（横） 外・内面磨き	覆土中	
DP52	土器片円盤		3.2	3.5	1.2	15.5	長石・石英・雲母	暗赤褐	胴部片 周縁部研磨	覆土中	

第 117 号土坑 (第 207・209・210 図 PL35)

位置 調査区北西部の B 2 i4 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

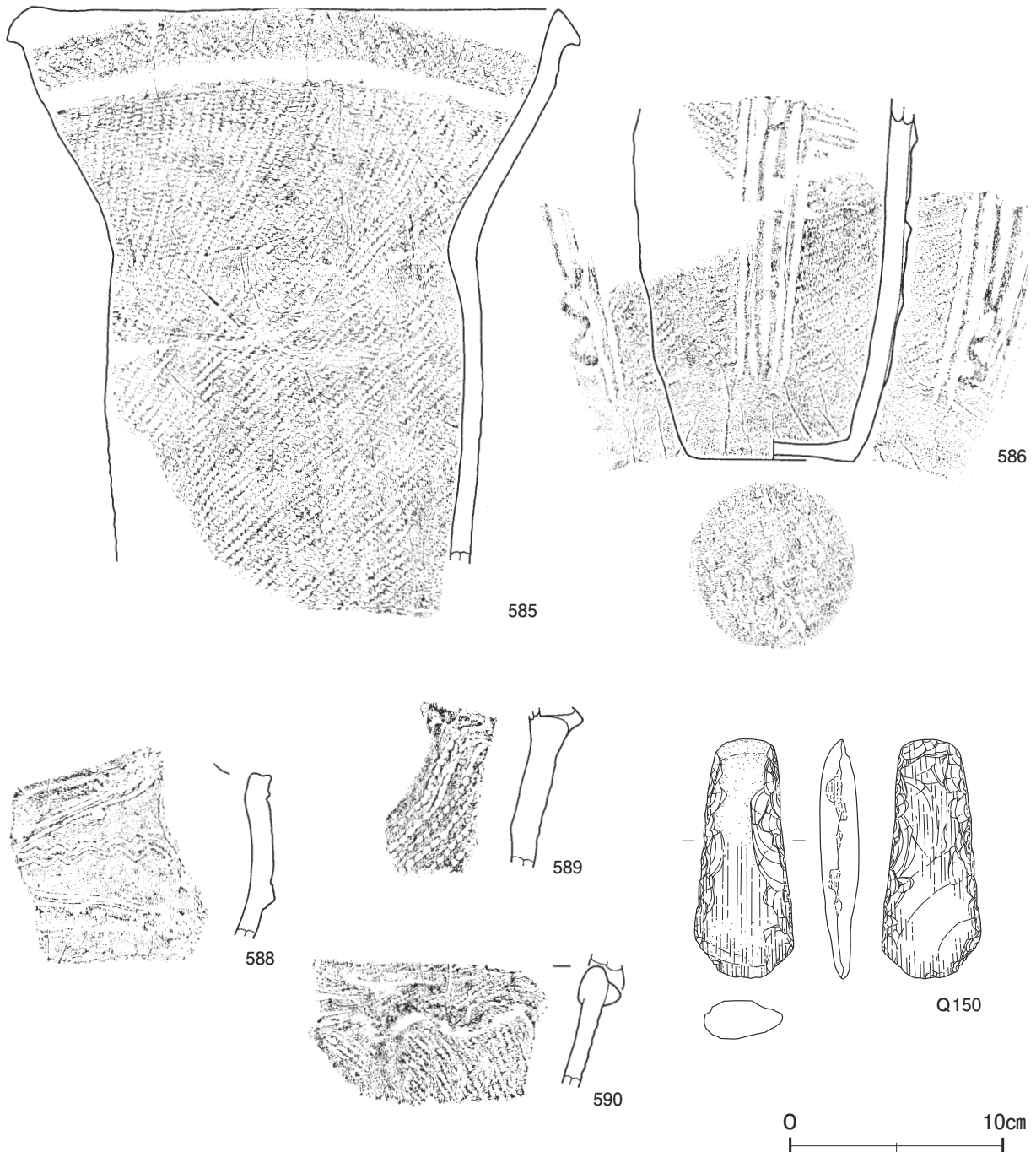
重複関係 第 6 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.50 ~ 1.57 m の円形で, 底面は径 1.82 ~ 1.90 m, 短径 1.82 m の円形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは 59 cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。

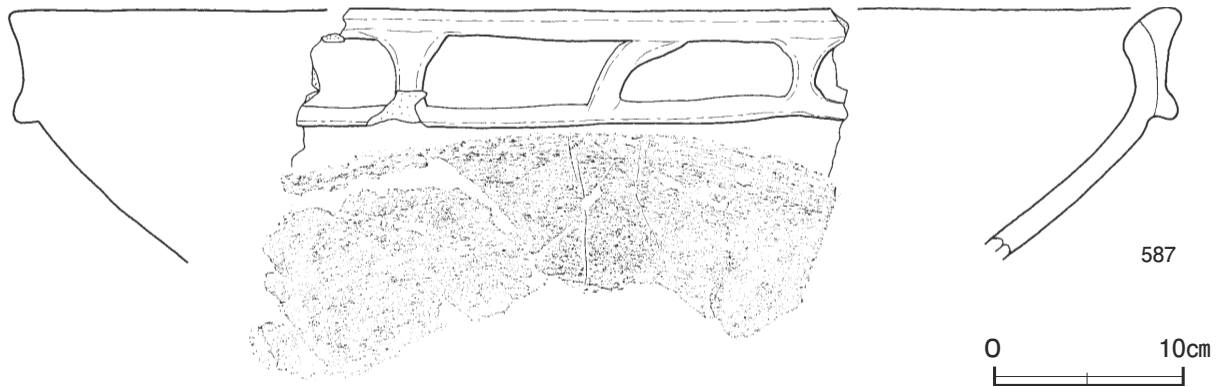
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第 209 図 第 117 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 210 図 第 117 号土坑出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 縄文土器片 75 点 (深鉢 73, 浅鉢 2), 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。Q 150 は南東壁際の覆土下層, 585 は中央部の覆土中層, 586 は西部, 587 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 117 号土坑出土遺物観察表 (第 209・210 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
585	縄文土器	深鉢	24.8	(26.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部単節縄文 RL (横) 口縁部以下同一原体 (縦)	覆土中層	30% PL120
586	縄文土器	深鉢	-	(17.0)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 縦位の U 字状隆帯と蛇行状隆帯を交互に描画 隆帯に沿って並行沈線 底面網代痕	覆土上層	
587	縄文土器	浅鉢	[60.0]	(13.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部肥厚 隆帯による横位の区画 外・内面横位の磨き	覆土上層	10%
588	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	断面三角形の隆帯による区画 隆帯に沿って並行沈線 区画内並行沈線による波状文	覆土中	
589	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	波状把手に沿って半截竹管による並行有節沈線	覆土中	
590	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部上端隆帯貼付による波状文 口唇部及び隆帯上に単節縄文 LR (横) 胴部同一原体 (縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 150	打製石斧	11.3	4.7	1.9	117.0	ホルンフェルス	撥形 片面に自然面 両側縁敲打調整 刃部は表裏を研磨 ハマグリ刃	覆土下層	PL163

第 120 号土坑 (第 211 図 PL35)

位置 調査区北部中央の C 3 a3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

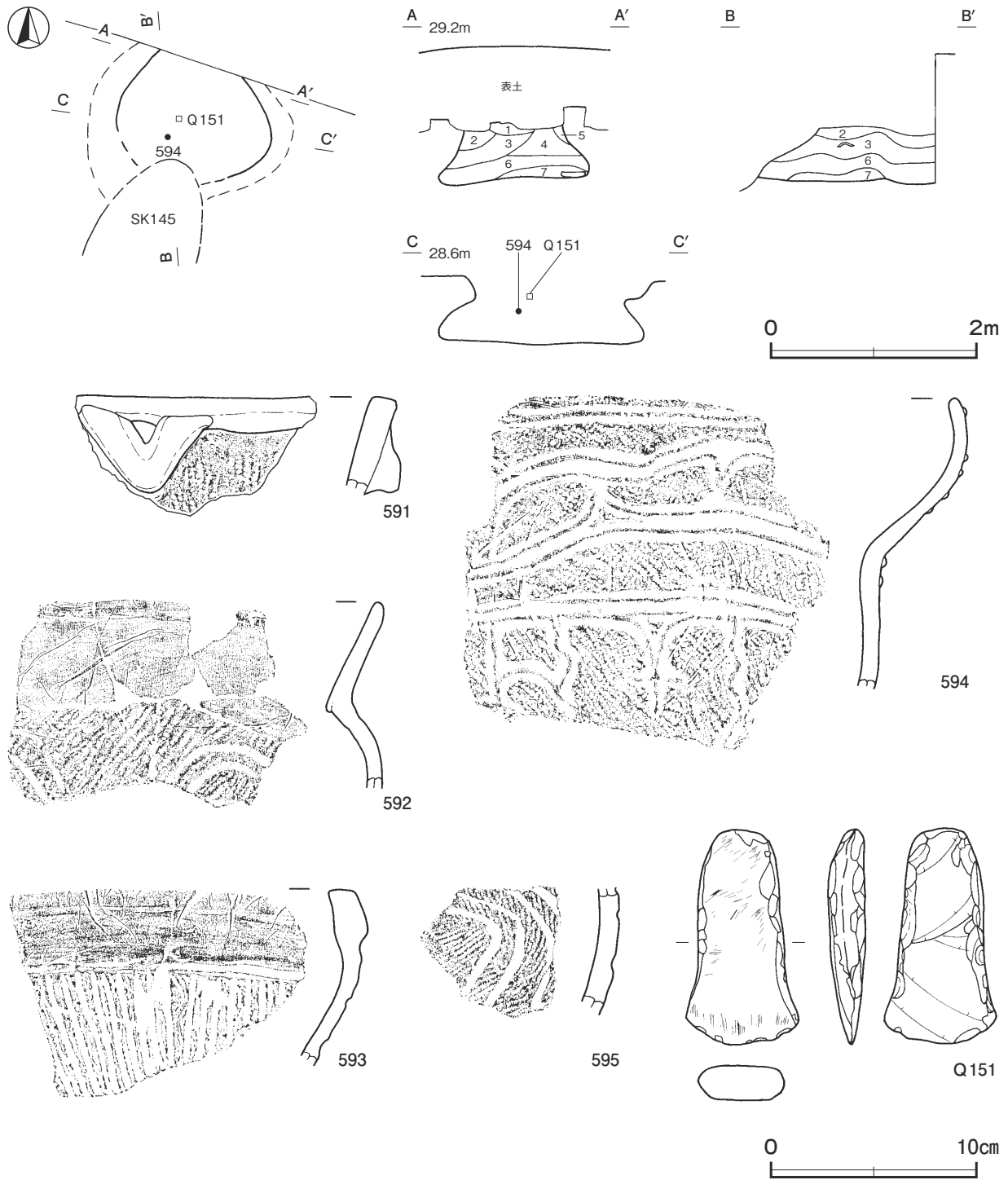
重複関係 第 145 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 開口部は東西径 1.52 m で, 南北径が 1.21 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は東西径 1.95 m で, 南北径が 1.68 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき, 平坦である。確認面からの深さは 54 cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |



第 211 図 第 120 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 131 点（深鉢），石器 2 点（打製石斧，石皿），剥片 1 点（石英）が出土している。594 は中央部の覆土中層，Q 151 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 120 号土坑出土遺物観察表 (第 211 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
591	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部肥厚 単節縄文 LR (斜) 太い隆帯をV字状に貼付 地文に	覆土中層	
592	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部無文 胴部単節縄文 RL (縦) 沈線により文様描画 口唇部外・内面わずかに赤彩痕	覆土中層	
593	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	口縁部無文 太沈線が一巡 半截竹管による縦方向の条線文	覆土中層	
594	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 細い隆帯により文様描画	覆土中層	
595	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に0段多条縄文 LR (縦・横) 沈線により文様描画	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 151	打製石斧	10.5	5.4	1.8	119.1	砂岩	鉞形 片面に自然面 周縁部微細な敲打調整 刃部は末広がり	覆土上層	PL166

第 121 号土坑 (第 212・213 図 PL36)

位置 調査区中央部西寄りの C 3d3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 105・122 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は径 1.76 ~ 1.80 m の円形である。底面は長径 1.92 m, 短径 1.73 m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 52 cm である。壁は南西部が内彎して, 袋状を呈し, その他はほぼ直立している。

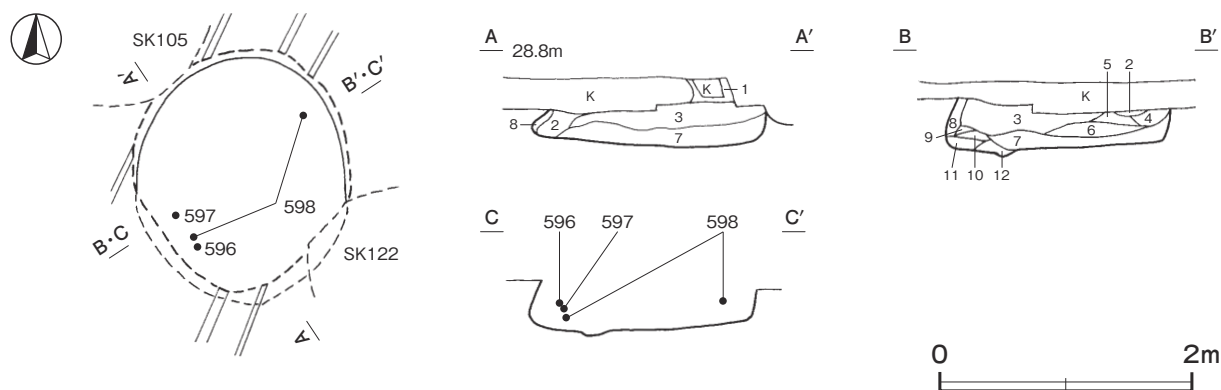
覆土 12 層に分層できる。ロームブロック, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

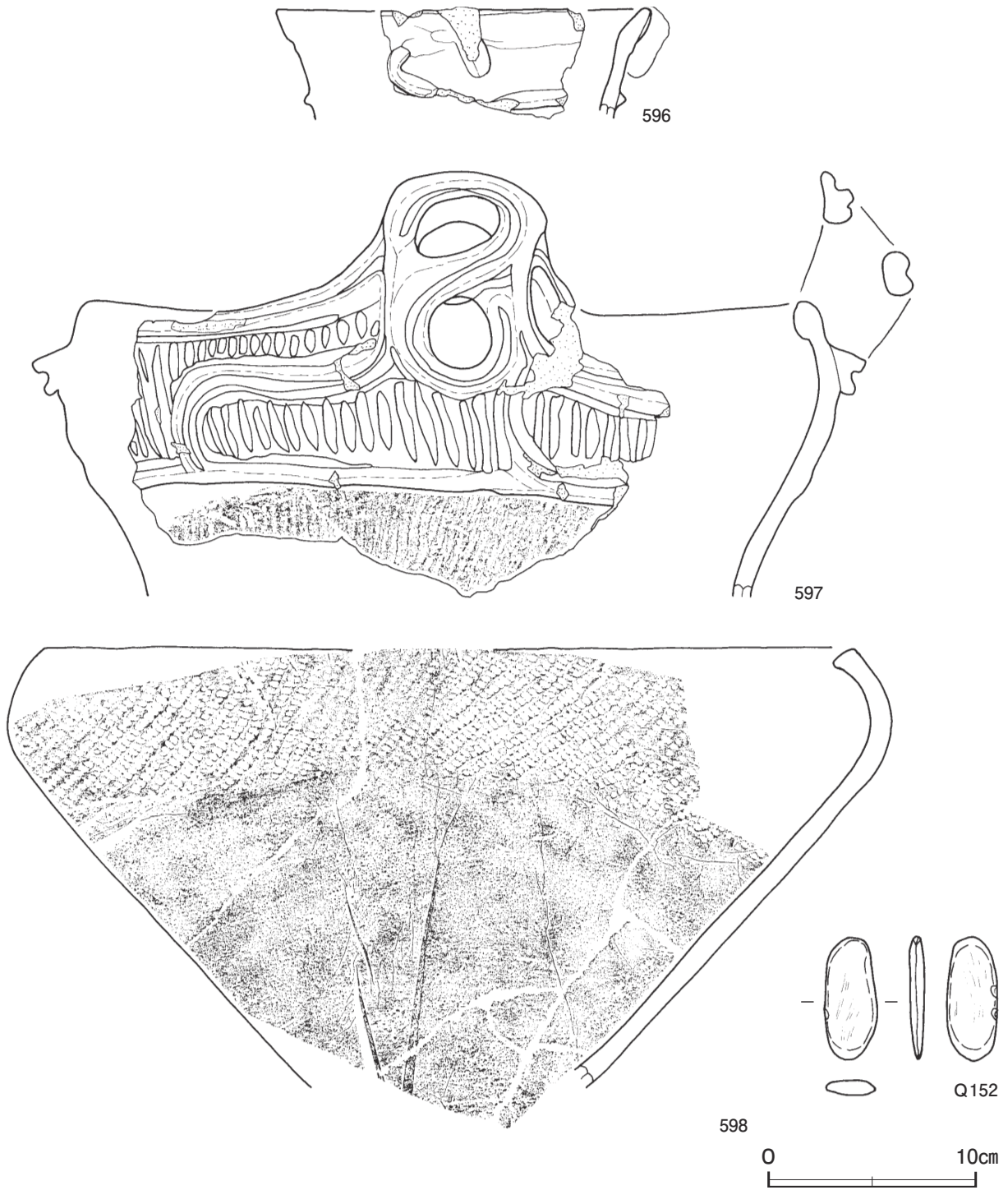
- | | | | |
|--------|-----------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 130 点 (深鉢 129, 浅鉢 1), 石器 2 点 (磨製石斧, 磨石), 礫 3 点 (瑪瑙 1, 砂岩 2) が出土している。598 は北東部と南西部の覆土中層から出土した破片が接合している。596・597 は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 212 図 第 121 号土坑実測図



第 213 図 第 121 号土坑出土遺物実測図

第 121 号土坑出土遺物観察表 (第 213 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
596	縄文土器	深鉢	[18.0]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい濁(外) 黒褐(内)	普通	口縁部縦位の棒状突起貼付による区画文	断面三角形の隆帯	
597	縄文土器	深鉢	[34.0]	(20.5)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	背割れ隆帯による中空把手によるクランク文・条線文 R(斜)	口縁部背割れ隆帯 頸部以下無節縄文	10% PL121
598	縄文土器	浅鉢	[39.0]	(21.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部単節縄文 RL(縦)	胴部横位のナデ	25% PL121

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 152	磨製石斧	5.9	2.5	0.8	17.4	角閃岩	極小型 表裏面研磨 刃部は片面を研ぎ出す	覆土中	PL169

第 123 号土坑 (第 214 ~ 217 図 PL35・36)

位置 調査区北部中央の C 3 a3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 142・145・223・241・725・727 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.74m, 短径 2.34 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 47° - W である。底面は径 2.78 ~ 2.94m のほぼ円形で, 平坦である。確認面からの深さは 86cm である。壁は内彎して, 袋状を呈している。

ピット 長径 44cm, 短径 33cm の楕円形で, 深さ 5 cm である。性格は不明である。

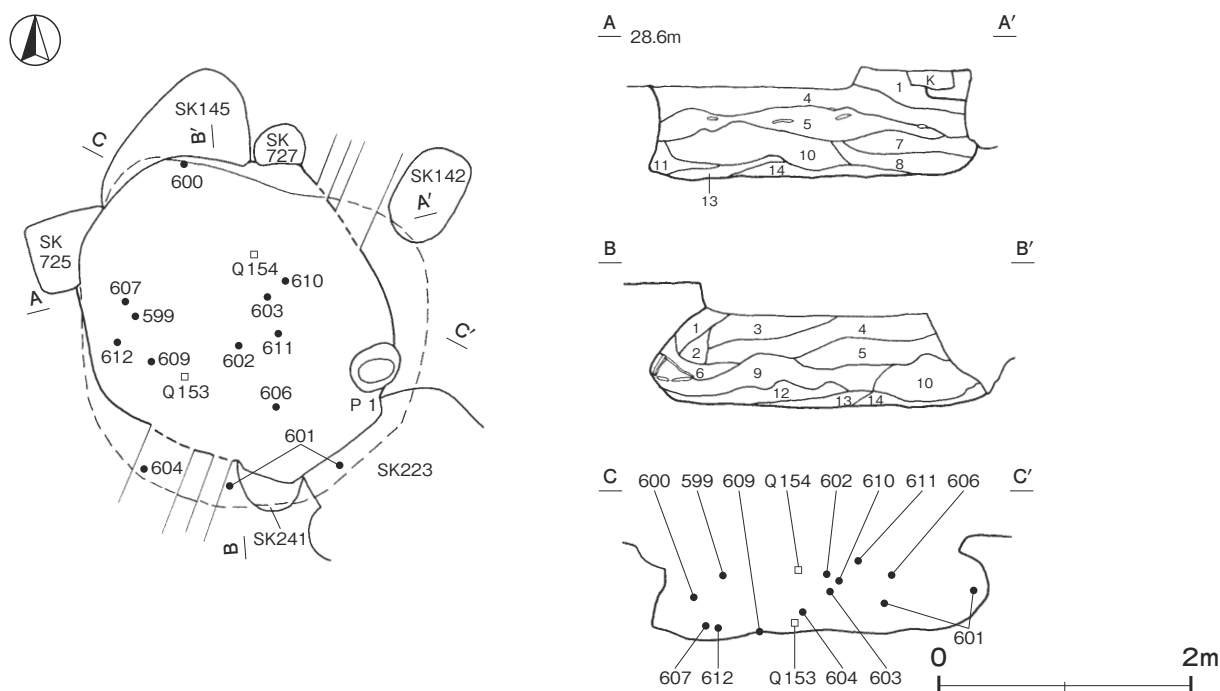
覆土 14 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

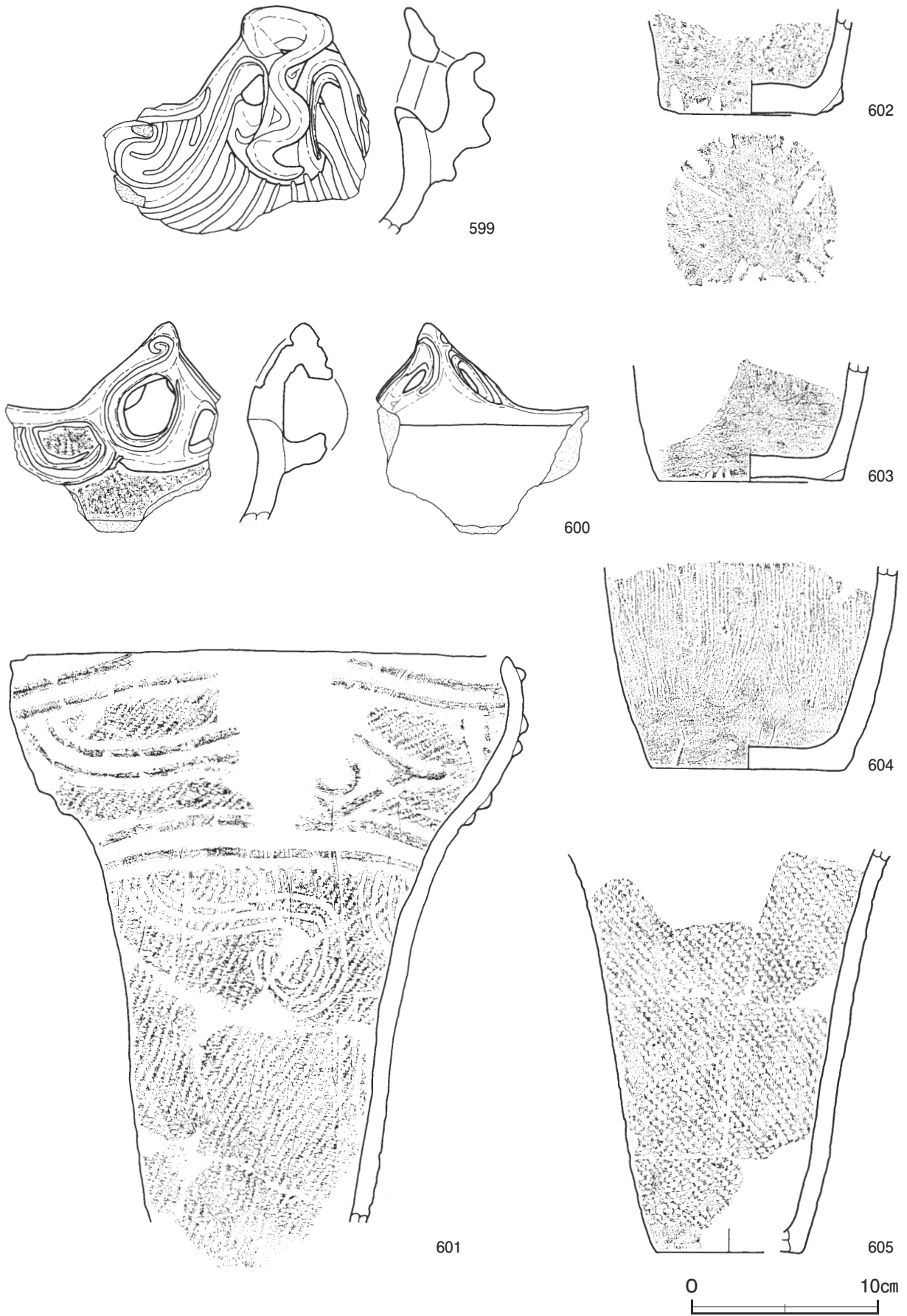
- | | | | |
|-------|-----------------|-----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼バミスブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼バミスブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量 | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 (締まり強い) |

遺物出土状況 縄文土器片 488 点 (深鉢 456, 浅鉢 32), 石器 2 点 (打製石斧), 剥片 (石英, 黒曜石, 粘板岩)・礫各 3 点が出土している。601 は南壁際の覆土中層から, 口縁部を南側に向けた横位の状態で出土している。その他は, 土坑全体から散乱した状態で出土しており, 609・612, Q 153 は底面, 604・605・607 は覆土下層, 600・603・608 は覆土中層, 599・602・606・610・611, Q 154 は覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

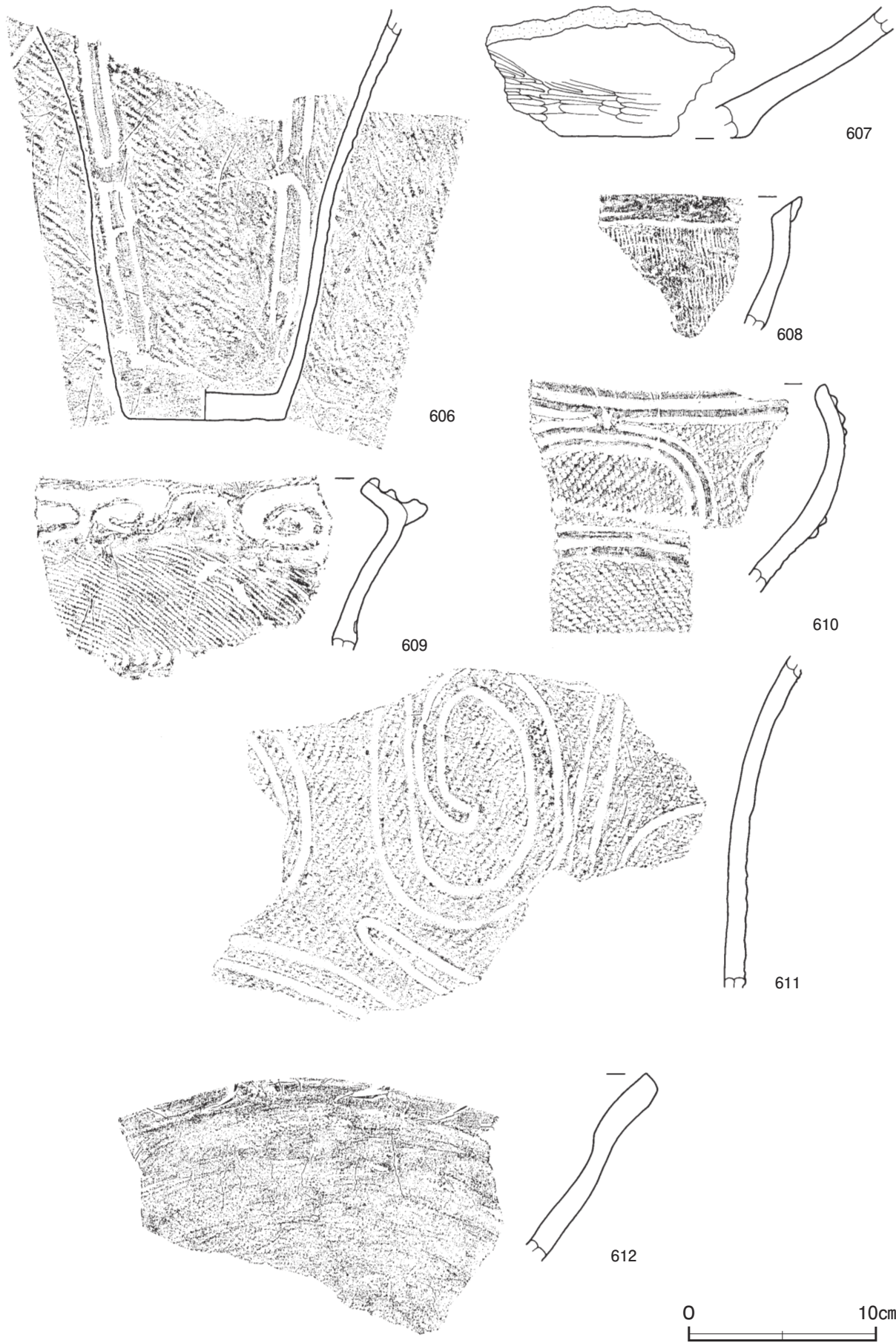
所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



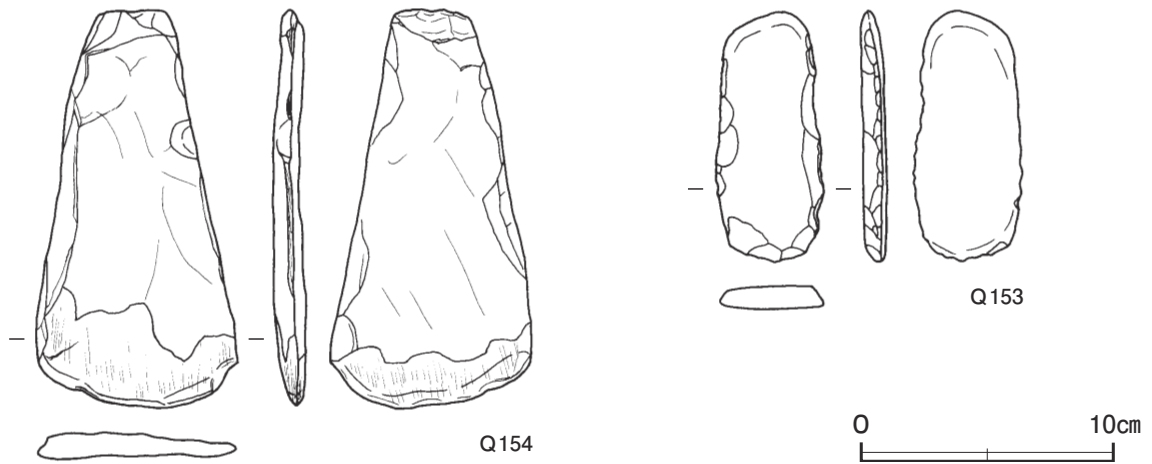
第 214 図 第 123 号土坑実測図



第 215 図 第 123 号土坑出土遺物実測図(1)



第 216 图 第 123 号土坑出土遗物实测图 (2)



第 217 図 第 123 号土坑出土遺物実測図 (3)

第 123 号土坑出土遺物観察表 (第 215 ~ 217 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
599	縄文土器	深鉢	-	(12.2)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	中空の把手。中央に太い隆帯による蛇行文・区画文。区画内太い沈線による弧状文	覆土上層	PL121
600	縄文土器	深鉢	-	(10.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 背割れ隆帯による区画文。中空把手部に沈線	覆土中層	PL121
601	縄文土器	深鉢	25.9	(30.9)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 口縁部 2 本の太い隆帯による区画文・渦巻文。胴部 3 本の沈線による文様描画	覆土中層	70% PL121
602	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	9.2	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 底面棒状圧痕	覆土上層	10%
603	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	9.8	長石・石英・雲母	橙(外) 黒褐(内)	普通	胴部外面横方向の丁寧な磨き。底面周縁 4 方向に圧痕。丁寧な磨き	覆土中層	
604	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	10.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部半截竹管による縦位の条線文。胴部下端及び底部丁寧な磨き	覆土下層	30%
605	縄文土器	深鉢	-	(21.7)	[7.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 LR (縦) 胴部下端磨き	覆土下層	20% PL121
606	縄文土器	深鉢	-	(22.0)	8.5	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文に無節縄文 L (縦) U 字状の懸垂文が 3 単位で垂下。底面棒状圧痕	覆土上層	40% PL121
607	縄文土器	浅鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母	黒(外) にぶい黄橙(内)	普通	外・内面磨き	覆土下層	外面炭化物付着
608	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部上端部粘土貼付により肥厚。肥厚部下部から撚糸文(縦)	覆土中層	
609	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部上端隆帯による渦巻文。隆帯上 1 段多条縄文 LR (横) 口縁下部同一原体(縦) 頸部半截竹管による爪形文	底面	PL121
610	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部地文に単節縄文 LR (横) 背割れ隆帯による区画文・半楕円文。頸部以下口縁部と異なる単節縄文 LR (縦)	覆土上層	PL121
611	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 並行沈線による楕円渦巻文	覆土上層	PL121
612	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面磨き	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 153	打製石斧	9.9	4.2	0.8	64.0	ホルンフェルス	撥形 両側縁及び端部片面を敲打調整 未成品	底面	PL163
Q 154	打製石斧	15.7	7.9	1.2	187.7	角閃岩	撥形 表裏面及び周縁研磨 刃部は表裏を研磨 薄型の平刃	覆土上層	PL164

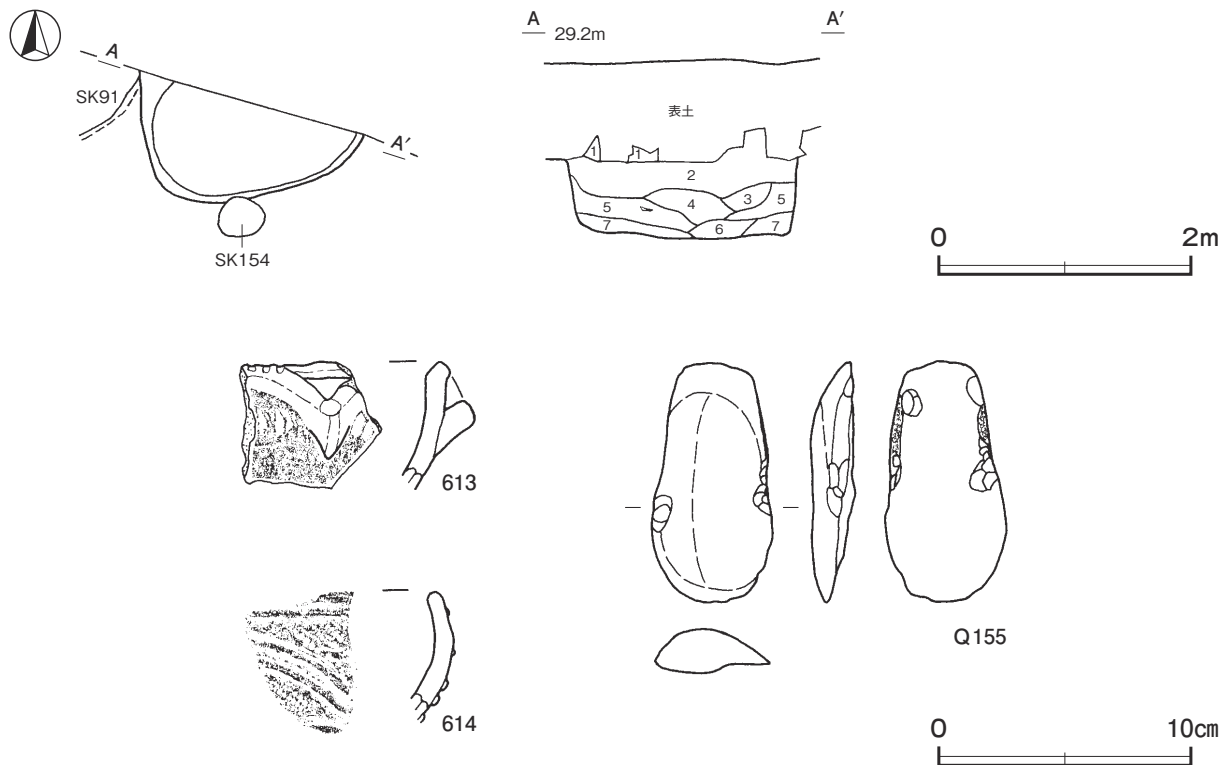
第 124 号土坑 (第 218 図 PL37)

位置 調査区北部中央の B 3j3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 91 号土坑を掘り込み, 第 154 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 東西径は 1.64m, 南北径は 0.97m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で, 深さ 86cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



第 218 図 第 124 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 (粘性やや弱い) | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片点 42 点 (深鉢), 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 124 号土坑出土遺物観察表 (第 218 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考		
613	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯による Y 字状の貼付。口唇頂部にキザミ目口縁部上端横方向の爪形文	覆土中層			
614	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (横) 細い隆帯により文様描画	覆土上層			
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴			出土位置	備考		
Q 155	打製石斧	9.6	4.9	1.7	94.5	ホルンフェルス	撥形 ダリ刃	片面に自然面	両側縁部微細な敲打調整	片刃	刃部ハマ	覆土上層	PL164

第 126 号土坑 (第 219 図 PL37)

位置 調査区北部西寄りの C 3a1 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 127 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.50m, 短径 1.28m の楕円形で, 長径方向は N - 45° - W である。底面は長径 2.36m, 短径 1.82m の楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 81cm である。壁は内傾して, 袋状を呈している。

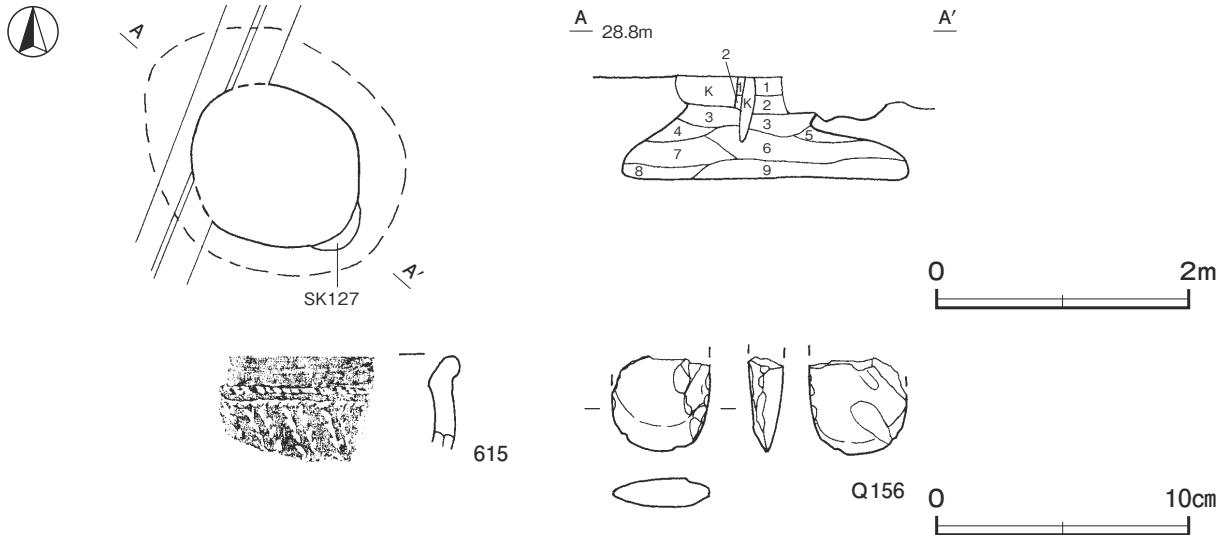
覆土 9 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 (縮まり強い) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 (縮まり強い) |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 25 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨製石斧), 礫 1 点 (砂岩) が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。



第 219 図 第 126 号土坑・出土遺物実測図

第 126 号土坑出土遺物観察表 (第 219 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
615	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口唇部肥厚。口唇部下部に半截竹管による矢羽状の有節沈線が一巡。下部に同じような矢羽状の有節沈線を斜位に施文	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q156	磨製石斧	(3.9)	3.9	1.4	(29.6)	蛇紋岩	小型	全面研磨	基部欠損	ハマグリ刃	覆土下層	

第 129 号土坑 (第 220 図 PL37)

位置 調査区中央部北寄りの C 3c3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 130・182 号土坑を掘り込み, 第 89・125 号土坑に掘り込まれている。

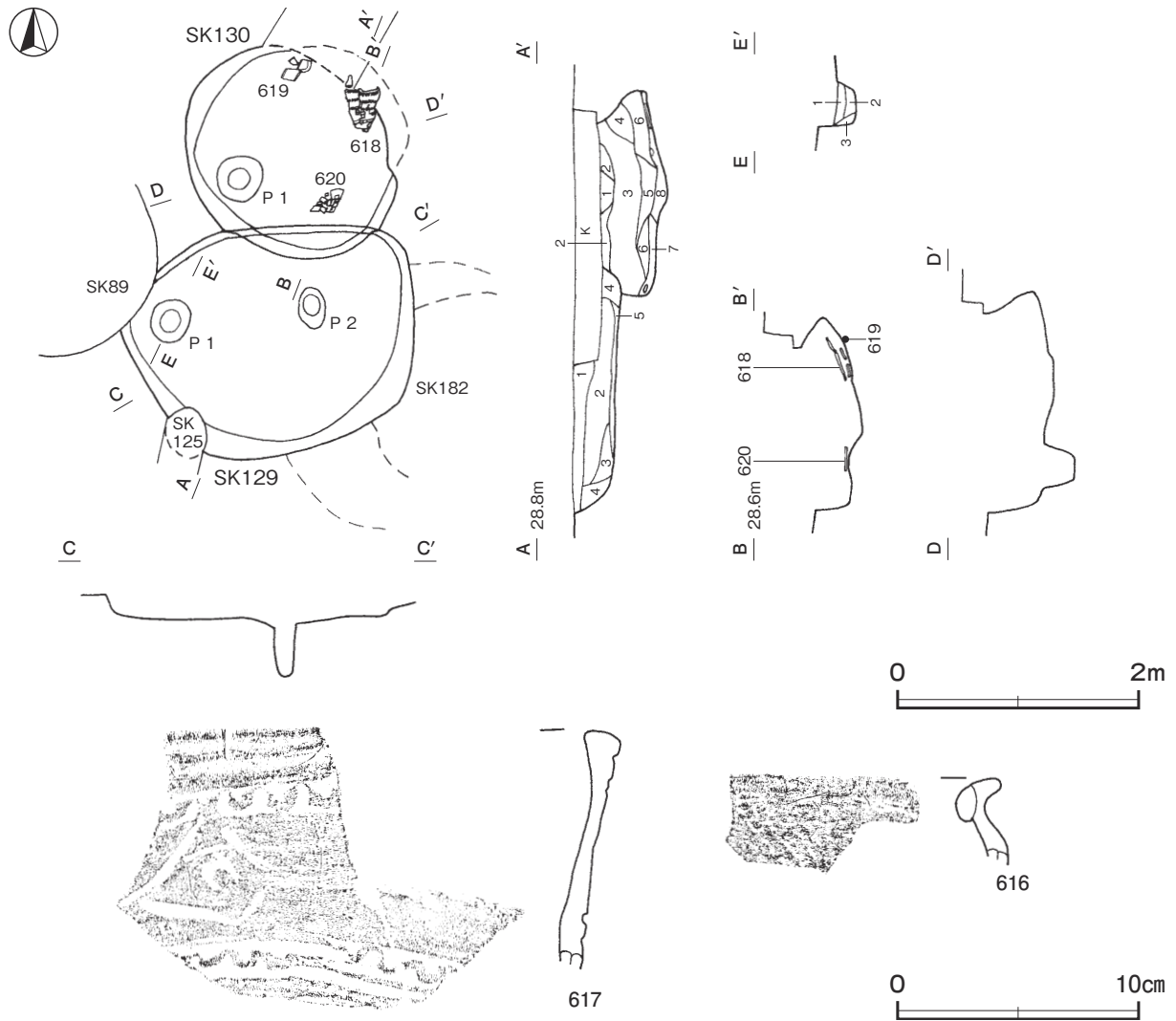
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.41m, 短径 1.95m の楕円形で, 長径方向は N - 58° - E である。底面は平坦で, 確認面からの深さは 34cm である。壁は底面から緩やかに傾斜している。

ピット 2 か所。P 1 は径 39cm の円形で, 深さ 19cm である。P 2 は長径 34cm, 短径 23cm の楕円形で, 深さ 47cm である。P 1 は西部の壁寄りに, P 2 は中央部やや北東寄りに位置している。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

覆土 5 層に分層できる。ロームブロック, 炭化物が含まれていることから, 埋め戻されている。



第220図 第129・130号土坑，第129号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片26点（深鉢）が出土している。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第129号土坑出土遺物観察表（第220図）

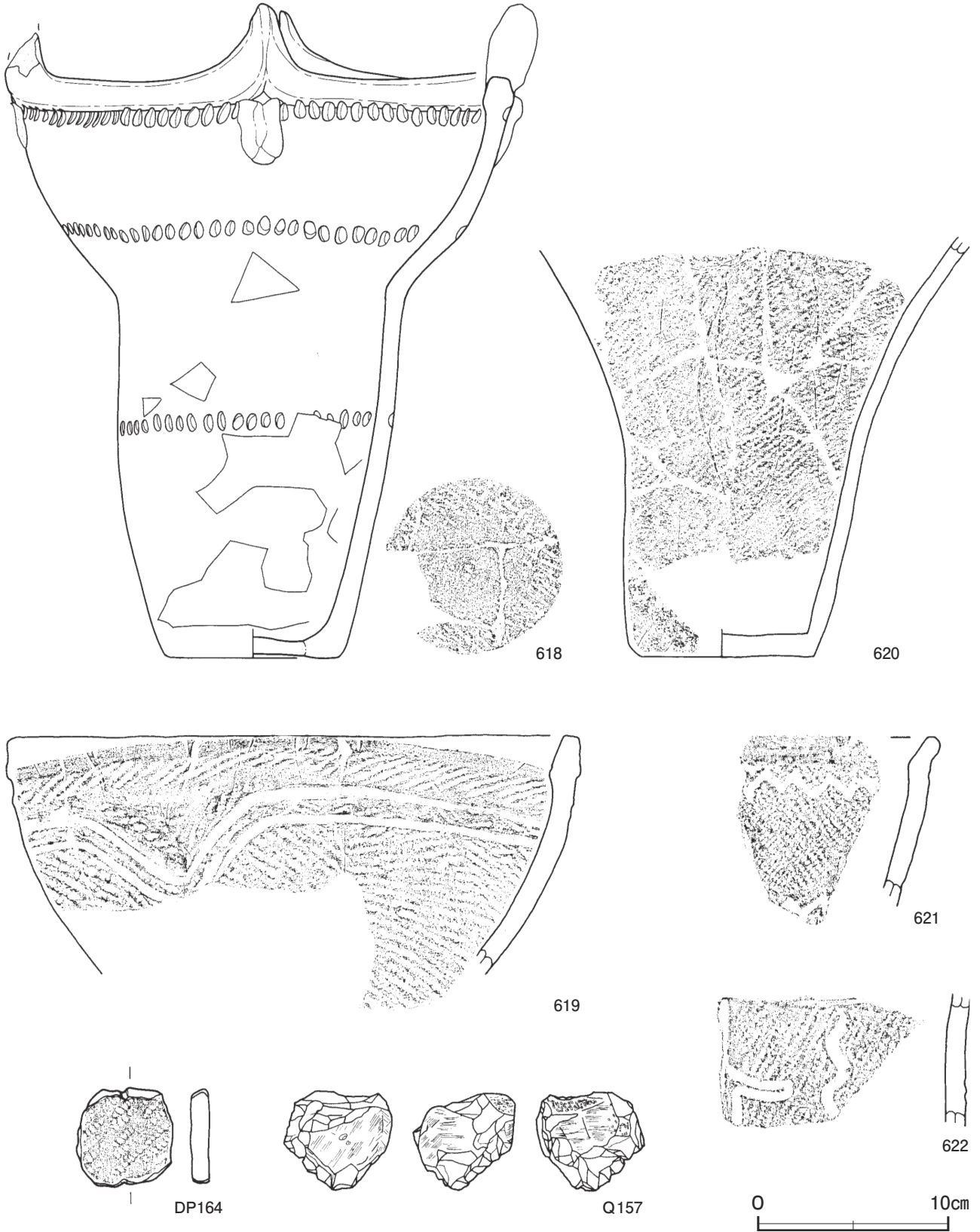
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
616	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部肥厚 地文に無節縄文L（縦）	覆土中	
617	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇頂部沈線 口縁部に交互刺突文 沈線による菱形文	覆土中	PL121

第130号土坑（第220・221図 PL37・38）

位置 調査区中央部北寄りのC3b4区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第129号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.88m, 短径1.58mの楕円形で, 長径方向はN - 51° - Wである。底面は長径1.71m, 短径1.69mの不整形円形である。底面は凹凸があり, 確認面からの深さは80cmである。壁は底面から内傾し, 袋状を呈している。



第 221 図 第 130 号土坑出土遺物実測図

ピット 径40cmの円形で、深さ29cmである。南西壁際に位置しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 8層に分層できる。各層にロームや鹿沼パミスのブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 鹿沼パミスブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 黒褐色 鹿沼パミスブロック中量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片122点(深鉢), 土製品1点(土器片錘), 石器2点(打製石斧, 敲砥石)が出土している。618は北東壁際の底面から、口縁部を北側に向けて押しつぶされた状態で、619は北壁際、620は南東部の底面から、それぞれ大型破片がまとまって出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第130号土坑出土遺物観察表(第221図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
618	縄文土器	深鉢	26.5	34.4	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上端部肥厚 4単位の筒み状の突起 突起下部に棒状の隆帯貼付 口縁下部・胴部中位に爪形文一巡 底部網代痕	底面	90% PL122
619	縄文土器	深鉢	[29.0]	(12.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部肥厚し無節縄文L(横)施文 V字状の隆帯貼付 隆帯に沿って並行沈線 隆帯上及び胴部無節縄文L(縦・斜)	底面	10% PL122
620	縄文土器	深鉢	-	(22.0)	9.4	長石・石英・雲母	橙(外)黒褐(内)	普通	地文に無節縄文R(縦) 胴部下端無文	底面	20% PL122
621	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁上部に薄針状隆帯貼付 地文に単節縄文LR(縦) 鋸歯状文一巡	覆土中層	
622	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単節縄文RL(縦) 沈線により文様描画	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP164	土器片錘	5.2	5.1	1.0	34.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q157	敲砥石	5.2	5.7	5.4	149.0	瑪瑙	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL172

第131号土坑(第222～224図 PL38)

位置 調査区西部北寄りのC2a8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75・198号土坑に掘り込まれている。

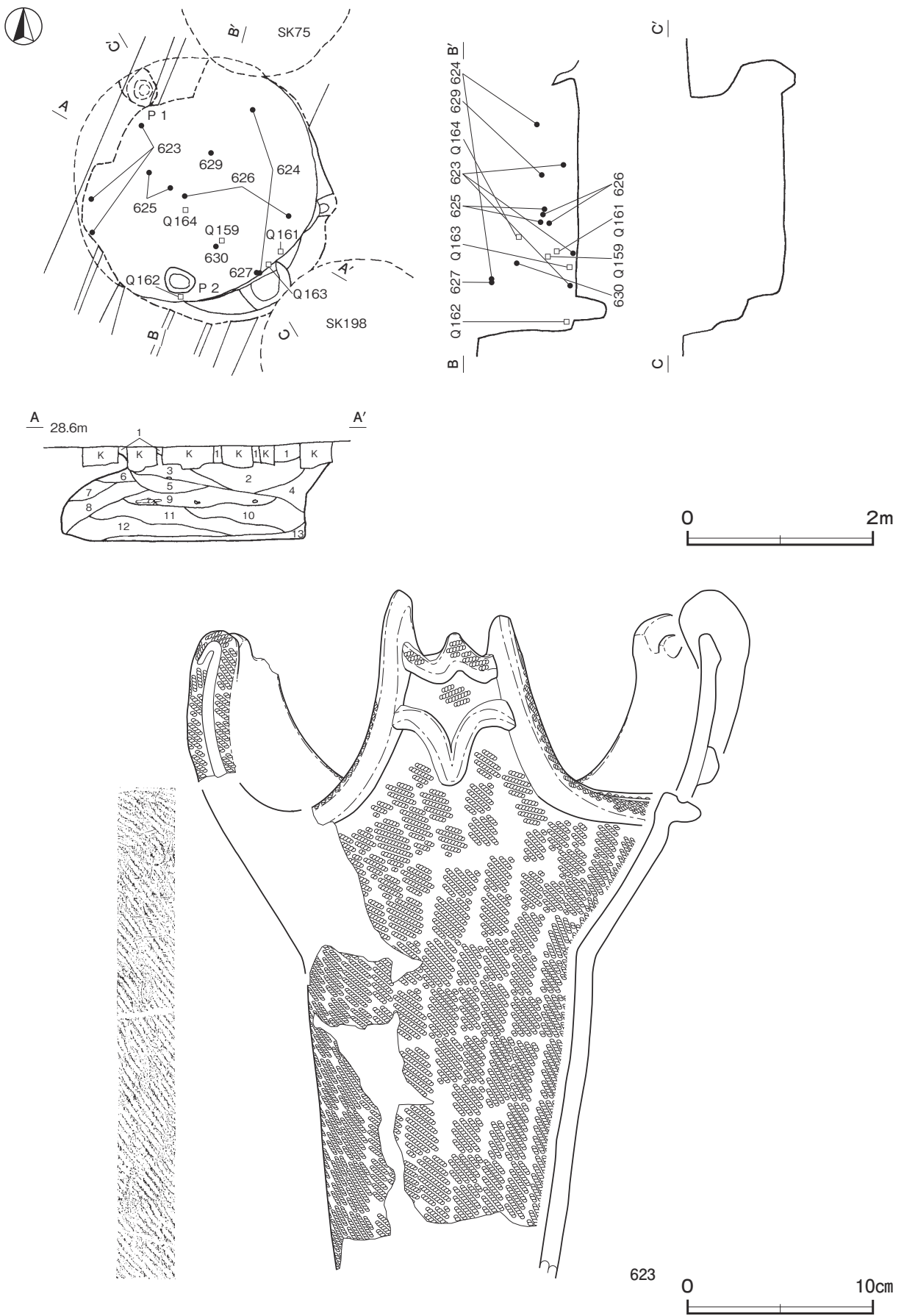
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径2.72～2.86mの円形である。底面は径2.58～2.78mの円形で、平坦である。確認面からの深さは107cmである。壁は北半部が内彎して、袋状を呈し、南半部は直立している。南東壁の底面から高さ38cmのところに、幅1.73m、奥行き30cmで、平面三日月形の平坦部を有している。

ピット 2か所。P1は長径40cm、短径35cmの楕円形で、深さ16cmである。P2は長径33cm、短径27cmの楕円形で、深さ34cmである。いずれも壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。

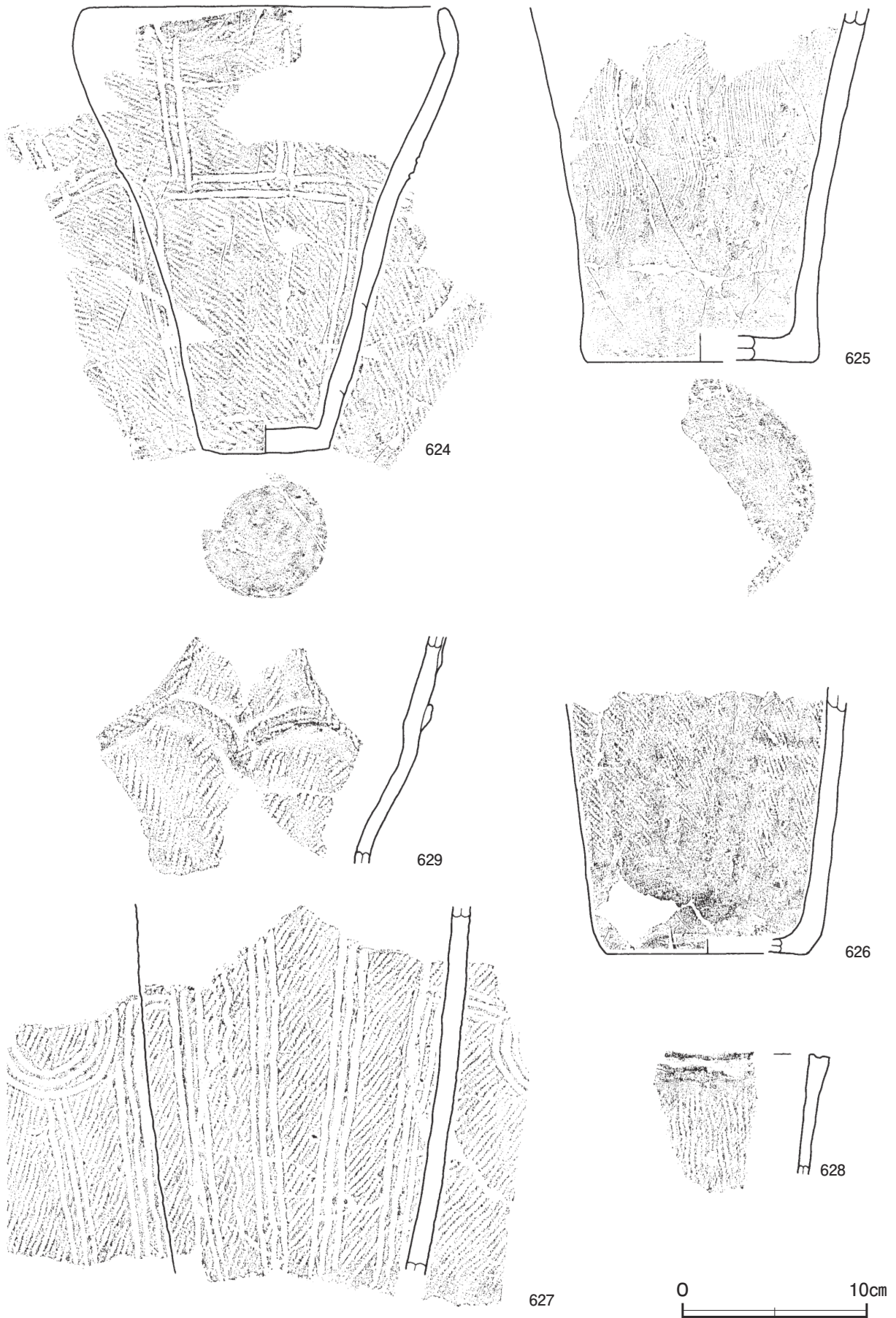
覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

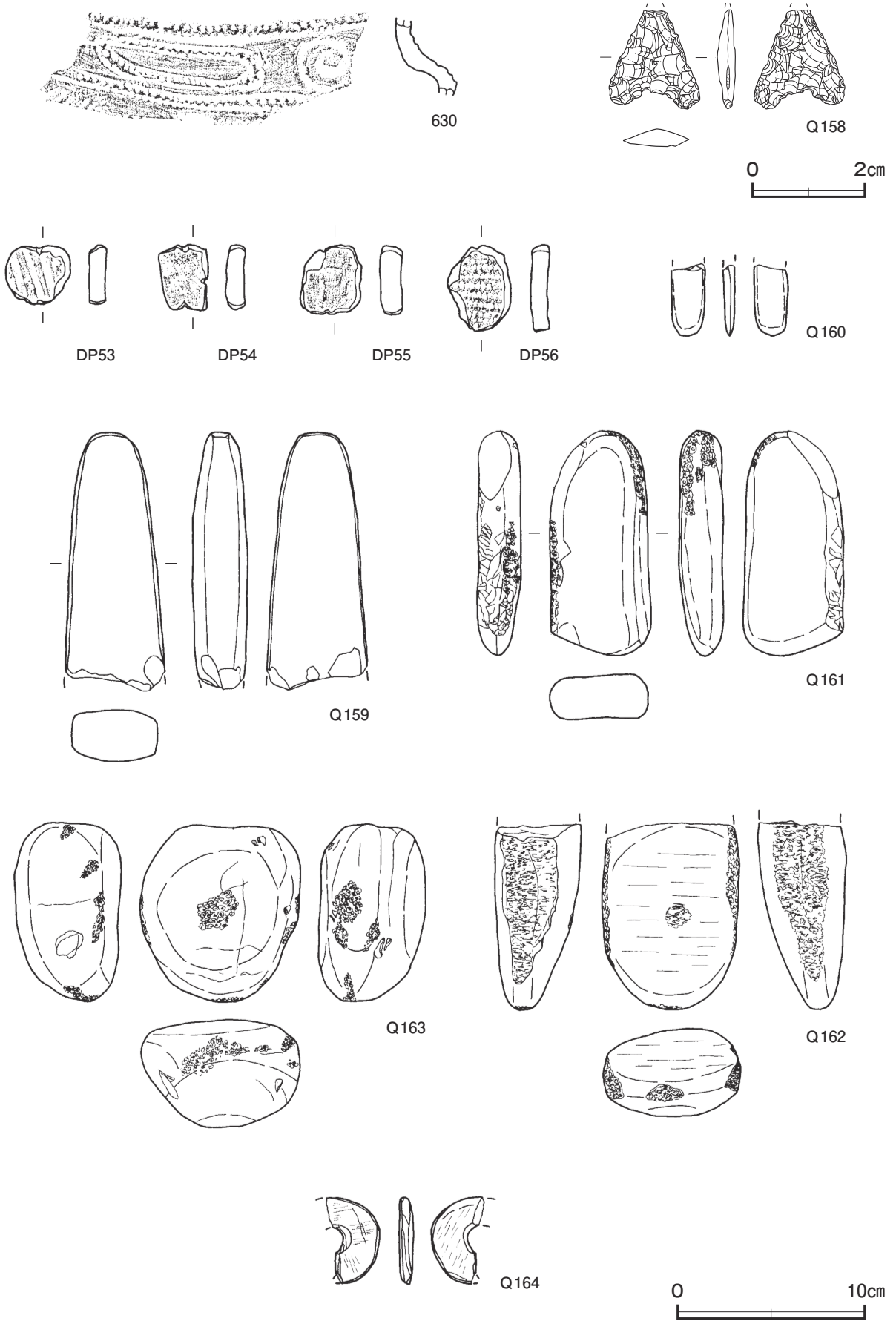
- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック中量 | 13 暗褐色 ロームブロック中量(締まり強い) |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量 | |



第 222 図 第 131 号土坑・出土遺物実測図



第 223 图 第 131 号土坑出土遗物实测图(1)



第 224 図 第 131 号土坑出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 縄文土器片 490 点（深鉢 481, 浅鉢 9）, 土製品 4 点（土器片錘）, 石器 6 点（鏃 1, 磨製石斧 2, 敲石 1, 磨製石斧未成品 2）, 石製品（球状耳飾り）・剥片（安山岩）・母岩（瑪瑙）各 1 点, 礫 2 点が出土している。623 は北西壁際と西部壁際の覆土下層から半截された状態で, Q 161・Q 163 は南東壁際, Q 162 は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており, 廃絶後間もなく一括投棄されたものと考えられる。625・629, Q 164 は中央部, 630・Q 159 は南部の覆土中層, 626 は中央部と東壁際の覆土中層から散乱した状態でそれぞれ出土している。624 は北部の覆土中層と南壁際の覆土上層から出土した破片が接合している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 131 号土坑出土遺物観察表（第 222 ～ 224 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
623	縄文土器	深鉢	27.5	(37.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部の平坦部に太い沈線 隆帯上に単節縄文 LR (横) 波状口縁部に V 字状の隆帯 地文は同一原体 (縦)	覆土下層	90% PL122
624	縄文土器	深鉢	[19.4]	(24.3)	6.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁上端無節縄文 L (横) 以下同一原体 (縦) 口縁直下から並行沈線垂下 逆し字状の並行沈線	覆土上・中層	70% PL122
625	縄文土器	深鉢	-	(19.3)	[12.4]	長石・石英・雲母	黒	普通	9 本 1 単位の鋸歯状工具による縦位の蛇行線文 底部下端横方向の磨き 底面丁寧な磨き	覆土中層	10%
626	縄文土器	深鉢	-	(14.5)	[11.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	地文に単節縄文 LR (縦) 胴部下端及び底部丁寧な磨き	覆土中層	10%
627	縄文土器	深鉢	-	(20.1)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	地文に 0 段多糸縄文 RL (縦) 3 本の沈線により文様描画	覆土上層	30% PL122
628	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇頂部の平坦面に太い沈線 地文に撚糸文 (縦)	覆土中	
629	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部蒲鉾状隆帯貼付 隆帯上及び地文に単節縄文 RL (縦)	覆土中層	
630	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	有節沈線による横線・楕円区画文 沈線による渦巻文	覆土中層	PL122

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP53	土器片錘	3.2	3.4	0.9	11.4	長石・石英・雲母	灰褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部一部研磨	覆土中	
DP54	土器片錘	3.5	2.7	1.0	10.3	長石・石英・赤色粒子	褐	胴部片 両端と片側縁にキザミ目	覆土中	
DP55	土器片錘	3.7	3.3	1.2	15.3	長石・石英・雲母	灰黄褐	口縁部片 両端にキザミ目 キザミ目のある側面を研磨	覆土中	
DP56	土器片錘	4.6	3.5	1.0	17.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 158	鏃	(1.7)	1.6	0.3	(0.8)	チャート	基部中央は彎入 先端部欠損	覆土中	PL161
Q 159	磨製石斧	(13.8)	(5.3)	3.0	(352.9)	砂岩	定角式 全面研磨 側縁部に稜 刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 160	磨製石斧	(3.8)	1.8	0.6	(7.9)	角閃岩	極小型 全面研磨 両側縁に弱い稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	
Q 161	磨製石斧未成品	12.0	5.4	2.4	(263.2)	砂岩	側縁部に敲打痕 表裏面研磨	覆土下層	PL170
Q 162	磨製石斧未成品	(10.0)	7.3	4.7	(515.4)	砂岩	周縁部微細な敲打痕	覆土下層	PL170
Q 163	敲石	9.5	8.5	5.7	677.0	石英	側縁部及び表面に敲打痕	覆土下層	PL172
Q 164	球状耳飾り	4.6	(2.9)	0.7	(13.0)	角閃岩	表裏面及び側縁部研磨痕	覆土中層	PL160

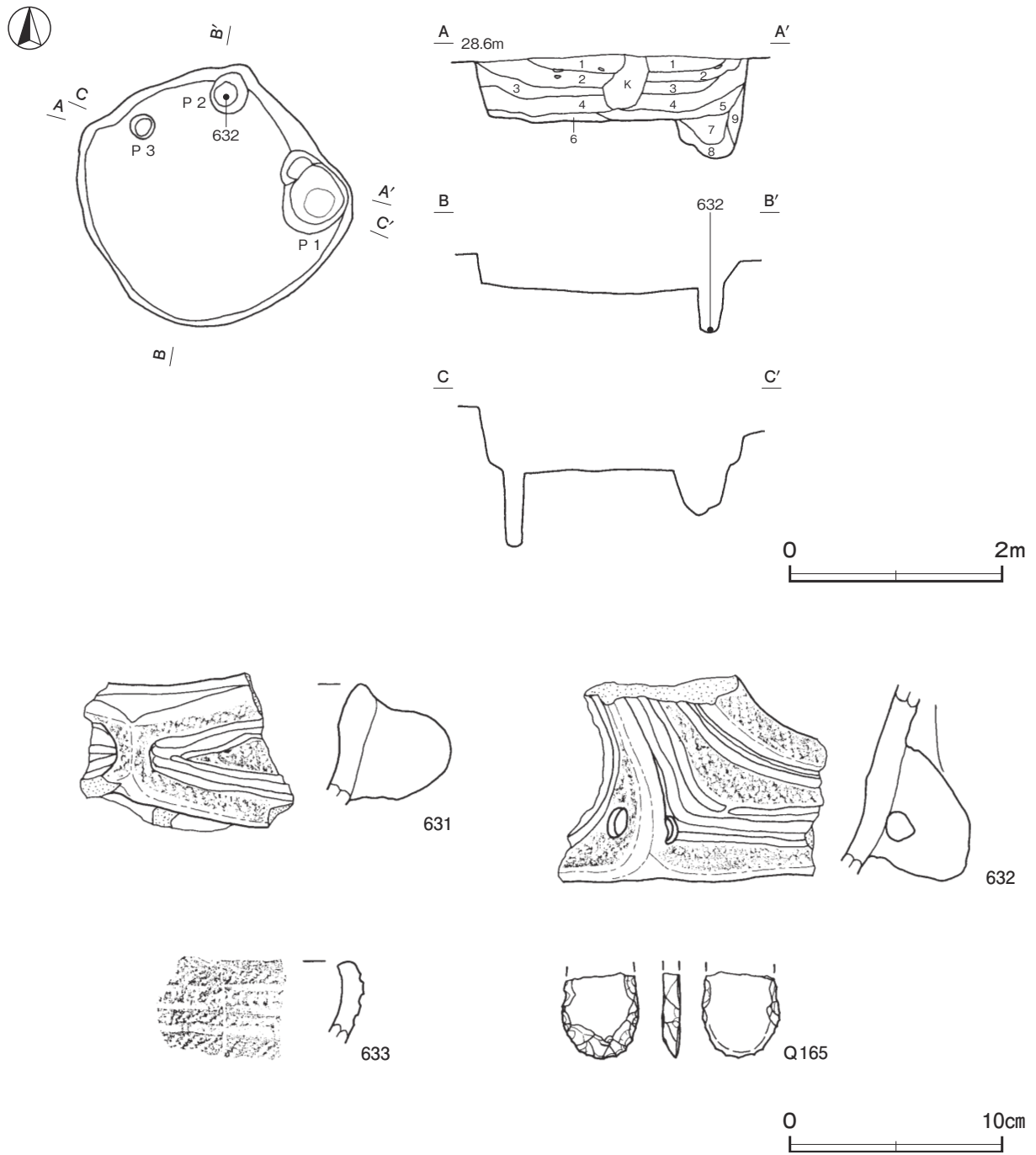
第 146 号土坑（第 225 図 PL38）

位置 調査区北西部の B 2 i6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.22 ～ 2.37 m の円形で, 底面は平坦である。深さ 63 cm で, 壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 は径 65 cm の円形で, 深さ 43 cm である。補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2・P 3 は, 径 34・23 cm の円形で, 深さ 41・71 cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 6 層に分層できる。各層に含有物が多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 7～9 層は P 1 の覆土である。



第 225 図 第 146 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 45 点（深鉢），石器（打製石斧）・剥片（石英）各 1 点が出土している。631・632 は P 2 の底面及び覆土中からそれぞれ出土している。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 146 号土坑出土遺物観察表 (第 225 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
631	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇部肥厚 庇状の隆帯貼付 隆帯上と地文に単節縄文 RL (縦・横) 施文 隆帯に沿って2本の並行沈線	P 2 覆土中	632と同一体。
632	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇部肥厚 庇状の隆帯貼付 隆帯上と地文に単節縄文 RL (縦・横) 施文 隆帯に沿って2~3本の並行沈線	P 2 底面	631と同一体。
633	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 横方向の沈線・爪形文が一巡	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 165	打製石斧	(4.0)	3.7	0.9	(21.4)	石英斑岩	撥形リ刃 扁平な自然稜の両側縁敲打 基部欠損 刃部は片面を敲打 ハマグ	覆土中	

第 150 号土坑 (第 226・227 図)

位置 調査区北西部の B 2 i6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 280 号土坑を掘り込んでいる。

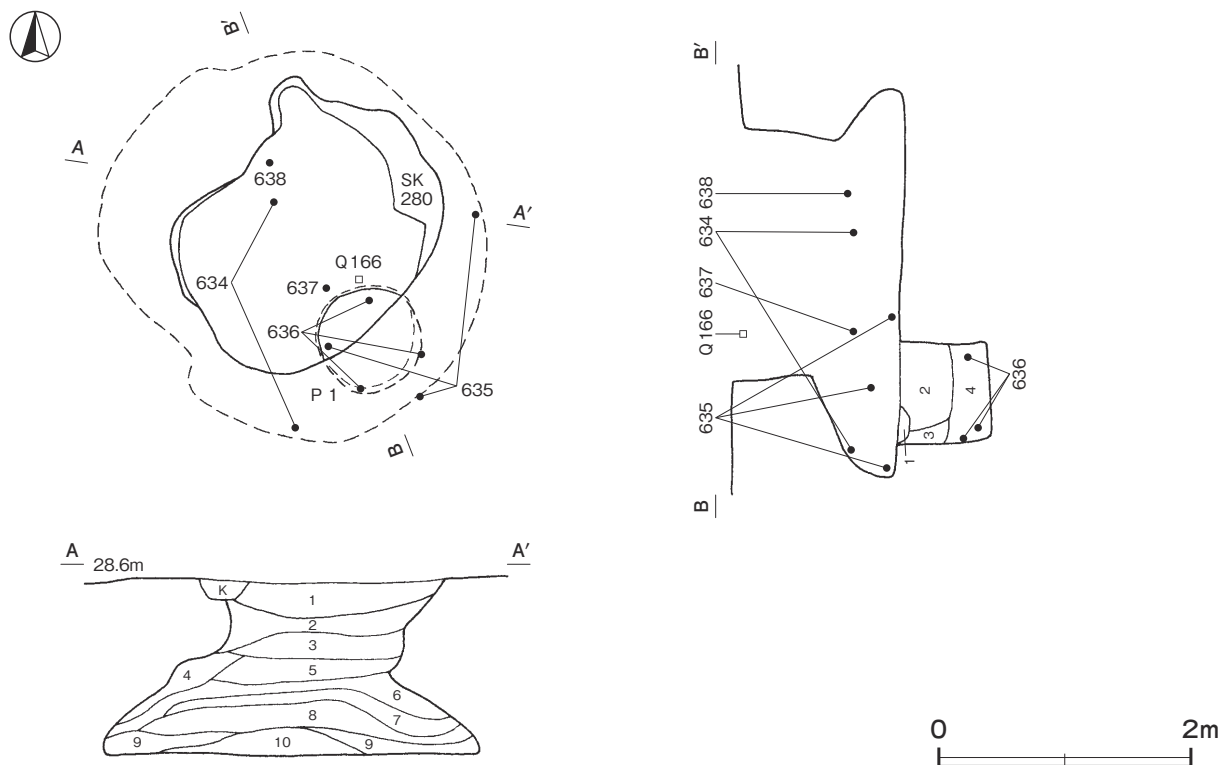
規模と形状 開口部は長径 2.30m, 短径 1.58m の楕円形で, 長径方向は N - 39° - E である。底面は長径 3.10m, 短径 2.81m の不整楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは 137cm である。壁は大きく内彎して, 袋状を呈し, 底面から高さ 56 ~ 72cm のところでくびれ, 上位は外傾している。

ピット 径 82cm の円形で, 深さ 68cm である。形状から, 補助的な貯蔵施設と考えられる。

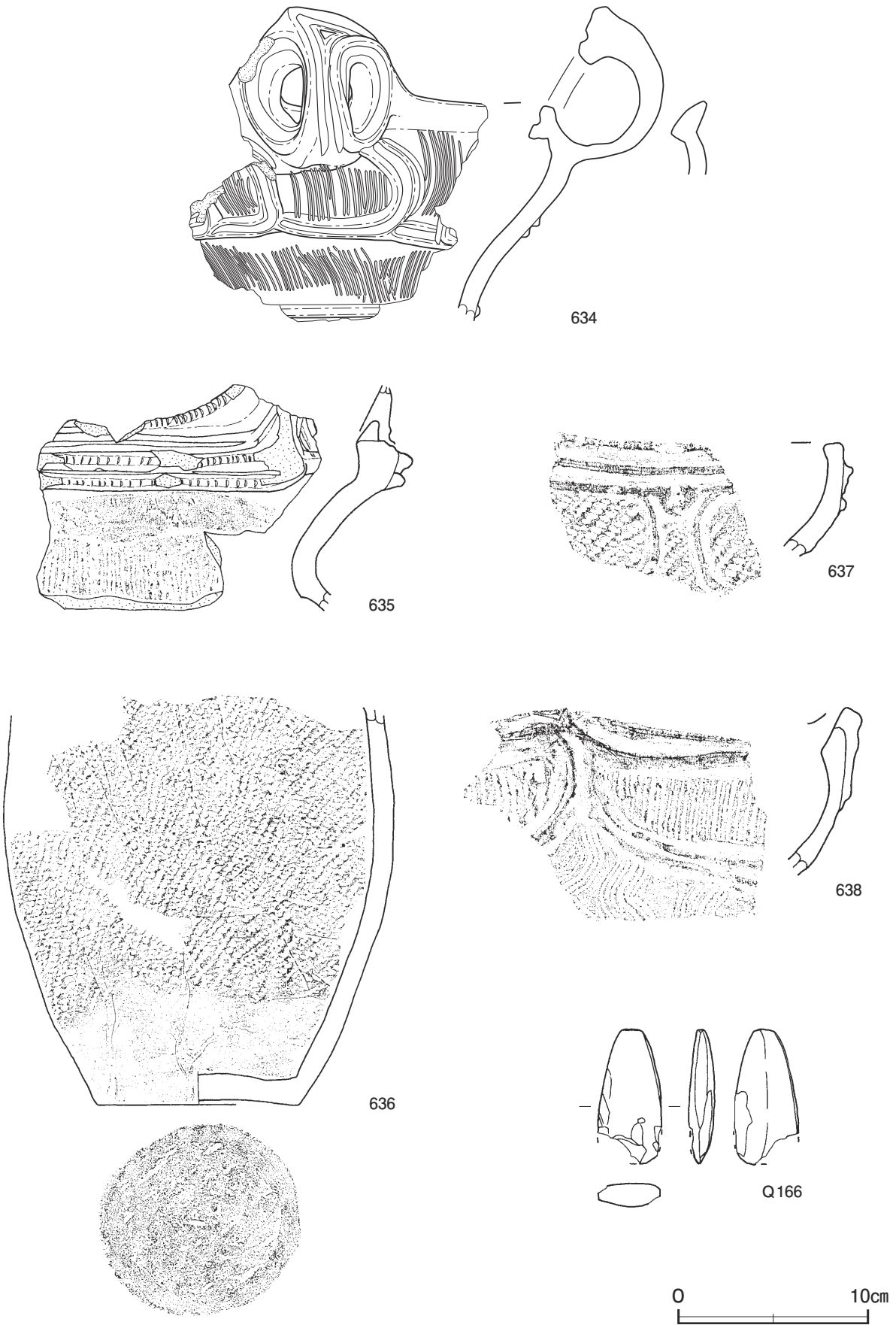
ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

覆土 10 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。



第 226 図 第 150 号土坑実測図



第 227 図 第 150 号土坑出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	黒褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 223 点 (深鉢 222, 浅鉢 1), 石器 3 点 (磨製石斧 1, 打製石斧 2), 剥片 4 点 (瑪瑙 1, 石英 2, チャート 1), 母岩 1 点 (瑪瑙) が出土している。636 は P 1 の覆土下層から破碎された状態で, 635 は南東部の覆土下層から破片が散乱した状態で, 634・637・638 は覆土中層, Q 166 は覆土上層からそれぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 150 号土坑出土遺物観察表 (第 227 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
634	縄文土器	深鉢	-	(16.6)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	中空の把手及び口縁部に背割れ隆帯による区画文 区画内縦位の条線	覆土中層	10% PL123
635	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐色	普通	口唇頂部平坦面作出し並行沈線が一巡 背割れ隆帯を巡らし隆帯上にキザミ目 胴部縦位の条線	覆土下層	10%
636	縄文土器	深鉢	-	(21.0)	10.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	器面全体に単節縄文 RL (縦) 胴部下端及び底部磨き	P 1 覆土下層	40% PL123
637	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部上端太い沈線が一巡 地文に単節縄文 RL (縦) 隆帯により文様描画	覆土中層	
638	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部及び口縁部背割れ隆帯による区画文 区画内縦位の条線 頸部 5 本単位の鋸歯状工具による蛇行沈線	覆土中層	PL123

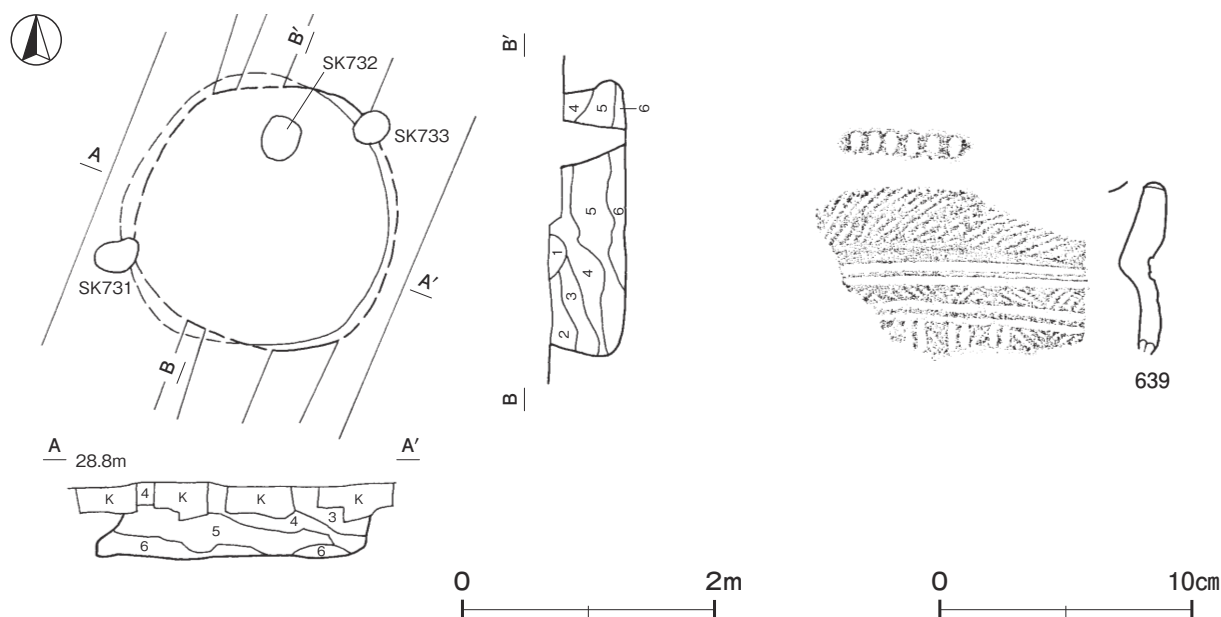
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 166	磨製石斧	(7.1)	3.3	1.3	(47.8)	緑色岩	小型欠損 全面研磨 側縁部に稜 刃部は表裏から研ぎ出す 一部	覆土上層	PL169

第 151 号土坑 (第 228 図 PL39)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 e2 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 731 ~ 733 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は径 2.14 ~ 2.20 m の円形である。底面は径 2.10 ~ 2.15



第 228 図 第 151 号土坑・出土遺物実測図

mの円形で、平坦である。確認面からの深さは57cmである。壁は西半部が内彎して、袋状を呈し、東半部が外傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 80 点 (深鉢) が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第151号土坑出土遺物観察表(第228図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
639	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部にキザミ目。地文に単筋縄文LR(横)胴部同一原体による綾杉状施文。並行沈線を2本巡らせ下部沈線から縦位の並行沈線を垂下	覆土下層	

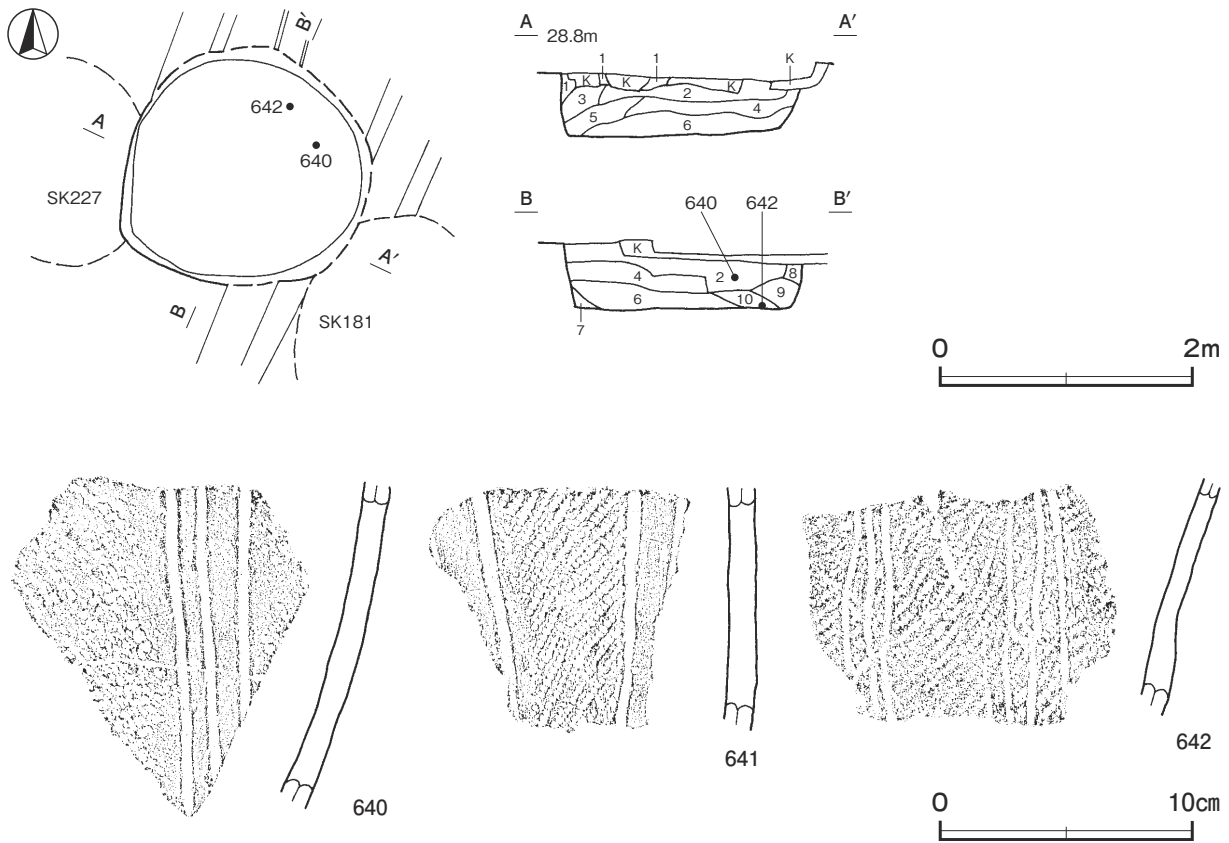
第152号土坑 (第229図 PL39)

位置 調査区中央部のC 3e3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第181・227号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.90～1.93mの円形で、底面は平坦である。深さは53cmで、壁は外傾している。

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



第229図 第152号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 (粘性やや強い) | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 98 点 (深鉢 96, 浅鉢 2), 石器 (鏃)・剥片 (瑪瑙) 各 1 点が出土している。642 は、北東部の覆土下層, 640 は北東部の覆土上層からそれぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 152 号土坑出土遺物観察表 (第 229 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
640	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に複節縄文 LRL (縦) 縦位に磨消後 3 本の沈線が垂下	覆土上層	PL123
641	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 並行沈線が垂下 沈線間磨消	覆土中	
642	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 並行沈線が垂下	覆土下層	

第 157 号土坑 (第 230・231 図 PL39)

位置 調査区北西部の B 2i7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 80・160・161・245 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の遺構と重複しているため, 東西径は 2.33m で, 南北径は 1.51m しか確認できなかった。楕円形で, 長径方向は N - 76° - E である。底面は平坦で, 深さは 58cm である。壁は外傾している。

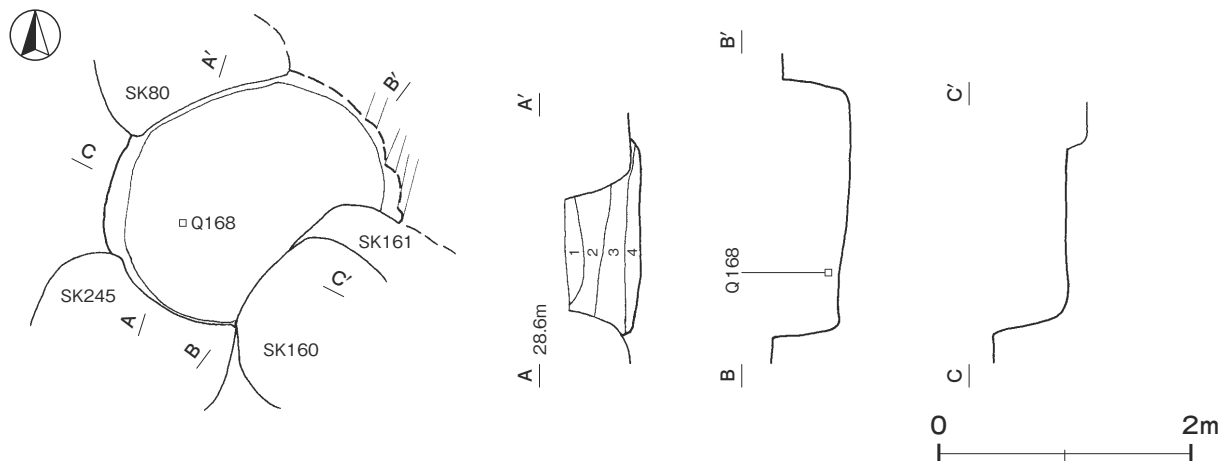
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックや炭化物, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

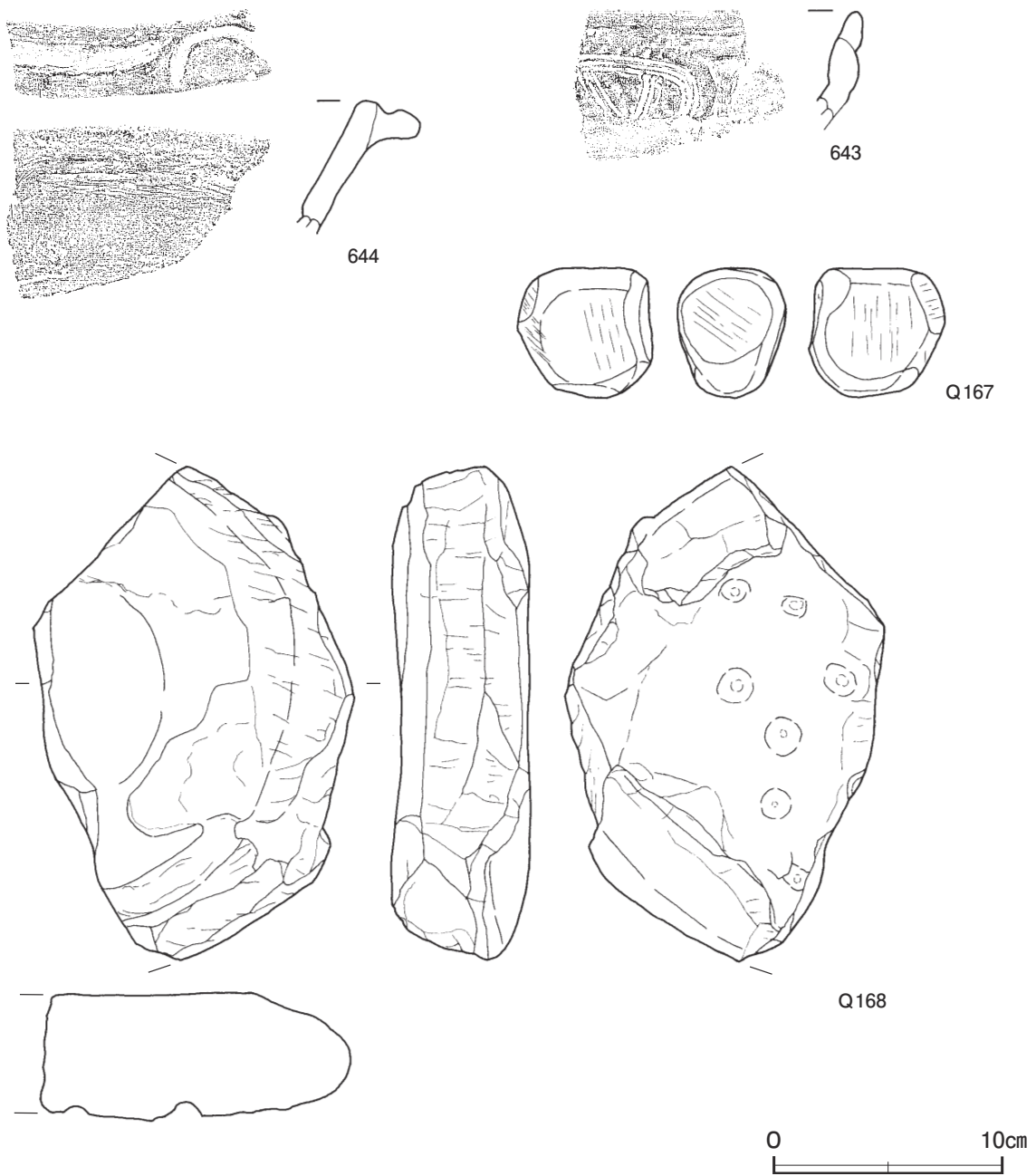
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 69 点 (深鉢 68, 浅鉢 1), 石器 2 点 (敲砥石, 砥石) が出土している。Q 168 は西部の覆土下層から出土しており, 廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 230 図 第 157 号土坑実測図



第 231 図 第 157 号土坑出土遺物実測図

第 157 号土坑出土遺物観察表 (第 231 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
643	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁上端無節縄文L(横) 隆帯による楕円区画 区画内半截竹管による文様描画	覆土中	
644	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇頂部の平坦面に太い沈線が巡る 沈線内赤彩痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 167	敲砥石	5.7	6.0	4.8	236.1	アブライト	円礫を用い周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	PL172 被熱
Q 168	砥石	(21.6)	(14.0)	6.1	(2152.0)	砂岩	表面皿状の砥面 裏面に凹み痕	覆土下層	被熱

第 160 号土坑 (第 232 図 PL40)

位置 調査区北西部の B 2j7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 157・161 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は径 1.17 ~ 1.20m の円形である。底面は径 1.32m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 70cm である。壁はやや内傾し, 袋状を呈している。

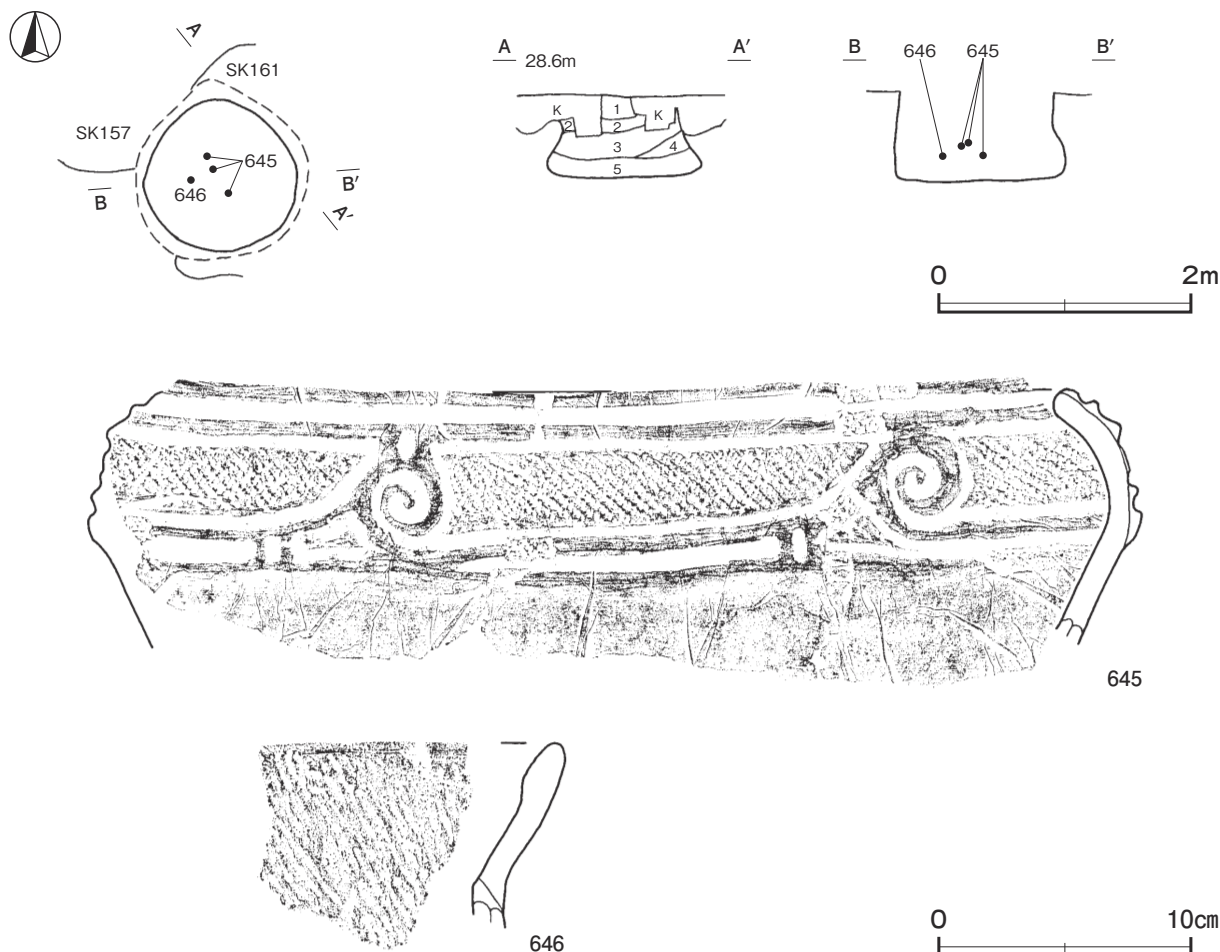
覆土 5層に分層できる。ロームブロック, 炭化物, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 43 点 (深鉢), 石器 1 点 (スクレイパー) が出土している。645・646 は中央部の覆土中層から, それぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 232 図 第 160 号土坑・出土遺物実測図

第 160 号土坑出土遺物観察表 (第 232 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特征ほか	出土位置	備考
645	縄文土器	深鉢	[36.0]	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部背割れ隆帯及び渦巻文による区画文 区画内O段多条縄文RL(横)	覆土中層	
646	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	無節縄文R(横)	覆土中層	

第 162 号土坑 (第 233 図 PL40)

位置 調査区北西部の B 2j7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 161・176 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第 161 号土坑に掘り込まれており, 南北径は 2.65m, 東西径は 2.36m しか確認できなかった。楕円形で, 長径方向は N - 32° - W である。底面は平坦で, 深さは 32cm である。壁は外傾している。

ピット 5 か所。P 1 は径 75cm の円形で, 深さ 52cm である。南東壁際に位置していることから, 補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は, 径 40cm ほどの円形で, 深さ 69cm である。配置から柱穴と考えられる。P 3 ~ P 5 は, 深さ 20 ~ 27cm で, 配置から補助柱穴と考えられる。

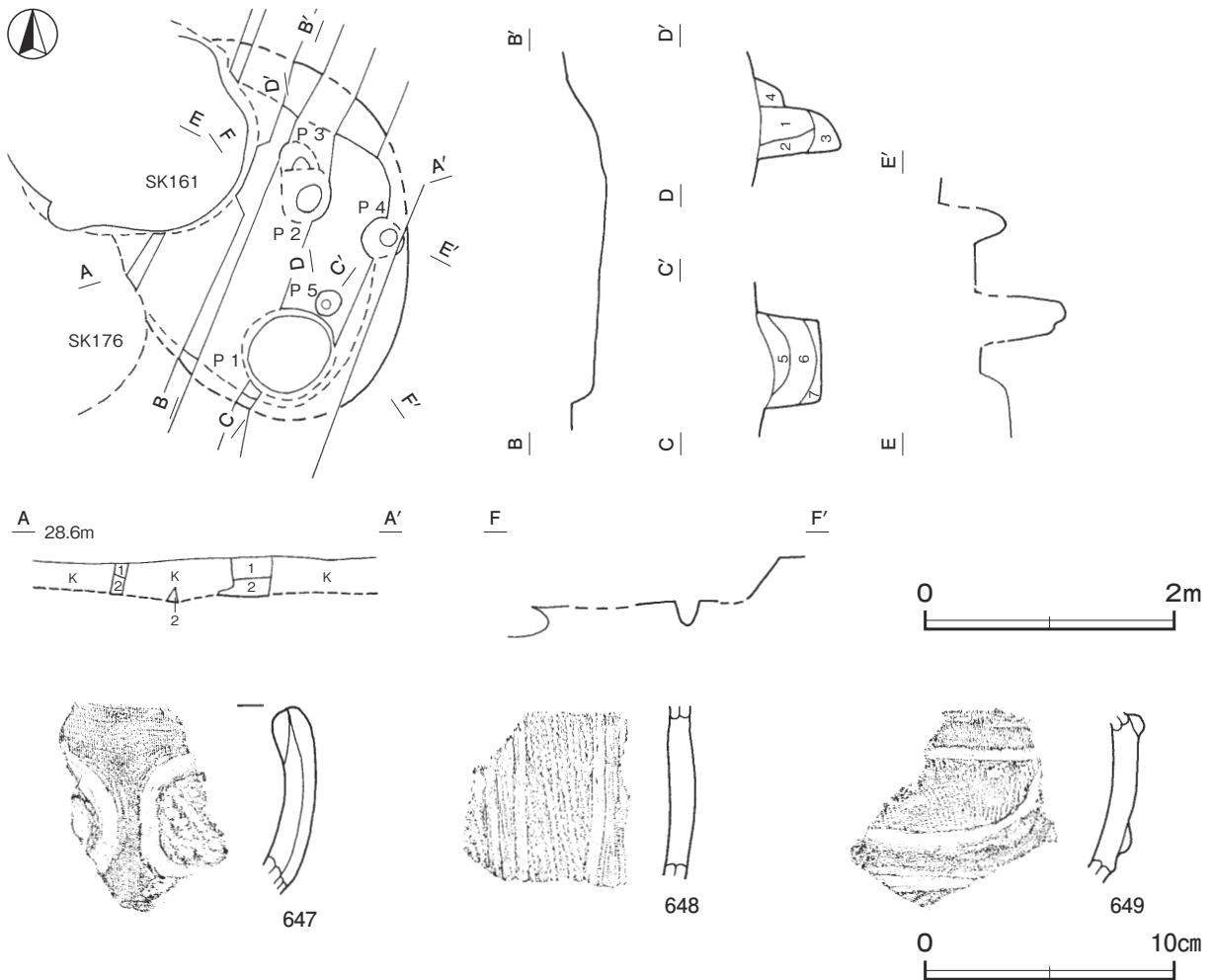
ピット土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 (締まり強い) | 7 褐色 ロームブロック多量 (締まり強い) |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | |

覆土 2層に分層できる。ロームブロック, 炭化物, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
|---------------------------|-------------------------|



第 233 図 第 162 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 89 点（深鉢 88, 浅鉢 1）, 剥片 3 点（泥岩 1, 安山岩 2）が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

第 162 号土坑出土遺物観察表（第 233 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
647	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	太い沈線により区画 区画内複節縄文 RLR(横)	覆土中	
648	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に捺糸文(縦) 並行沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
649	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	隆帯により文様区画 区画内捺糸文(縦)	覆土中	

第 164 号土坑（第 234・235 図 PL41）

位置 調査区北西部の B 2h6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

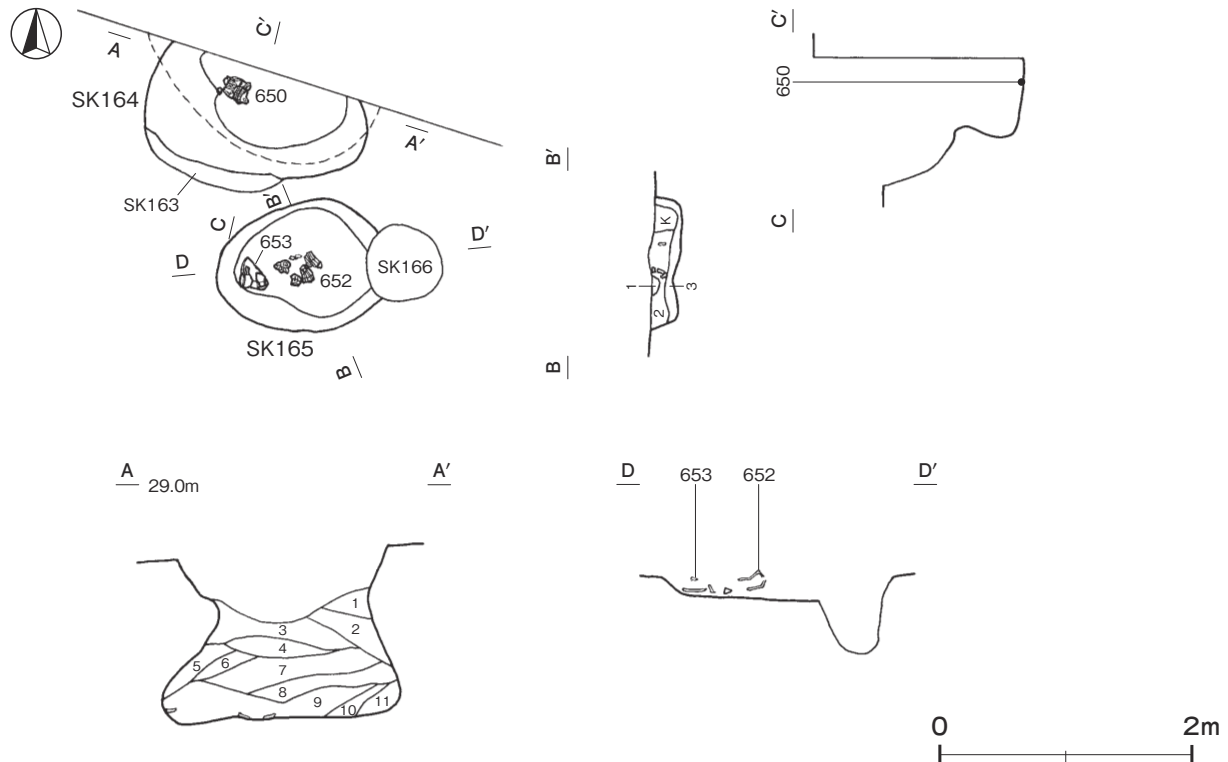
重複関係 第 163 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 開口部は東西径が 1.74m, 南北径が 0.78m しか確認できなかった。楕円形と推定できる。底面は東西径が 1.88m, 南北径が 0.68m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき, 平坦である。確認面からの深さは 137cm である。壁は底面から内傾して, 袋状を呈し, 底面から高さ 82~97cm のところでくびれ, 上位は外傾している。

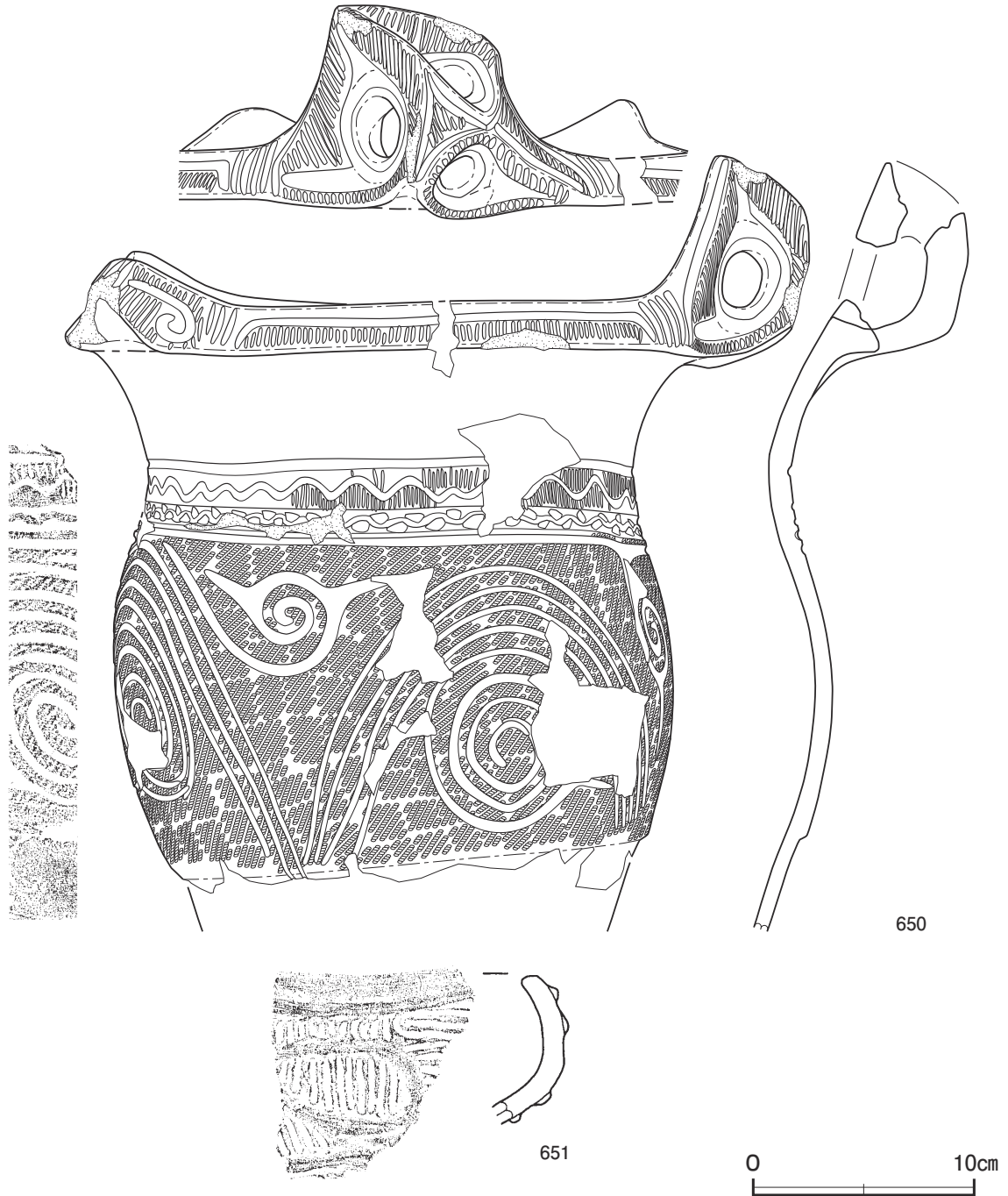
覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |



第 234 図 第 164・165 号土坑実測図



第 235 図 第 164 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 54 点（深鉢 49，浅鉢 5）が出土している。650 は，中央部の底面から口縁部を南東側に向けた横位の状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 164 号土坑出土遺物観察表（第 235 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
650	縄文土器	深鉢	26.2	(35.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部上端太い沈線と条線で文様描画 頸部無文帯 胴部沈線・条線・交互刺突文・渦巻文 地文に0段多糸縄文RL（縦） 胴部下端有段	底面	80% PL123
651	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	隆帯による区画 区画内条線文（縦・横）	覆土中	

第 165 号土坑 (第 234・236 図)

位置 調査区北西部の B 2h6 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 166 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.20m, 短径 1.05m の楕円形で, 長径方向は N - 83° - E である。底面は平坦で, 深さは 22cm である。壁は外傾している。

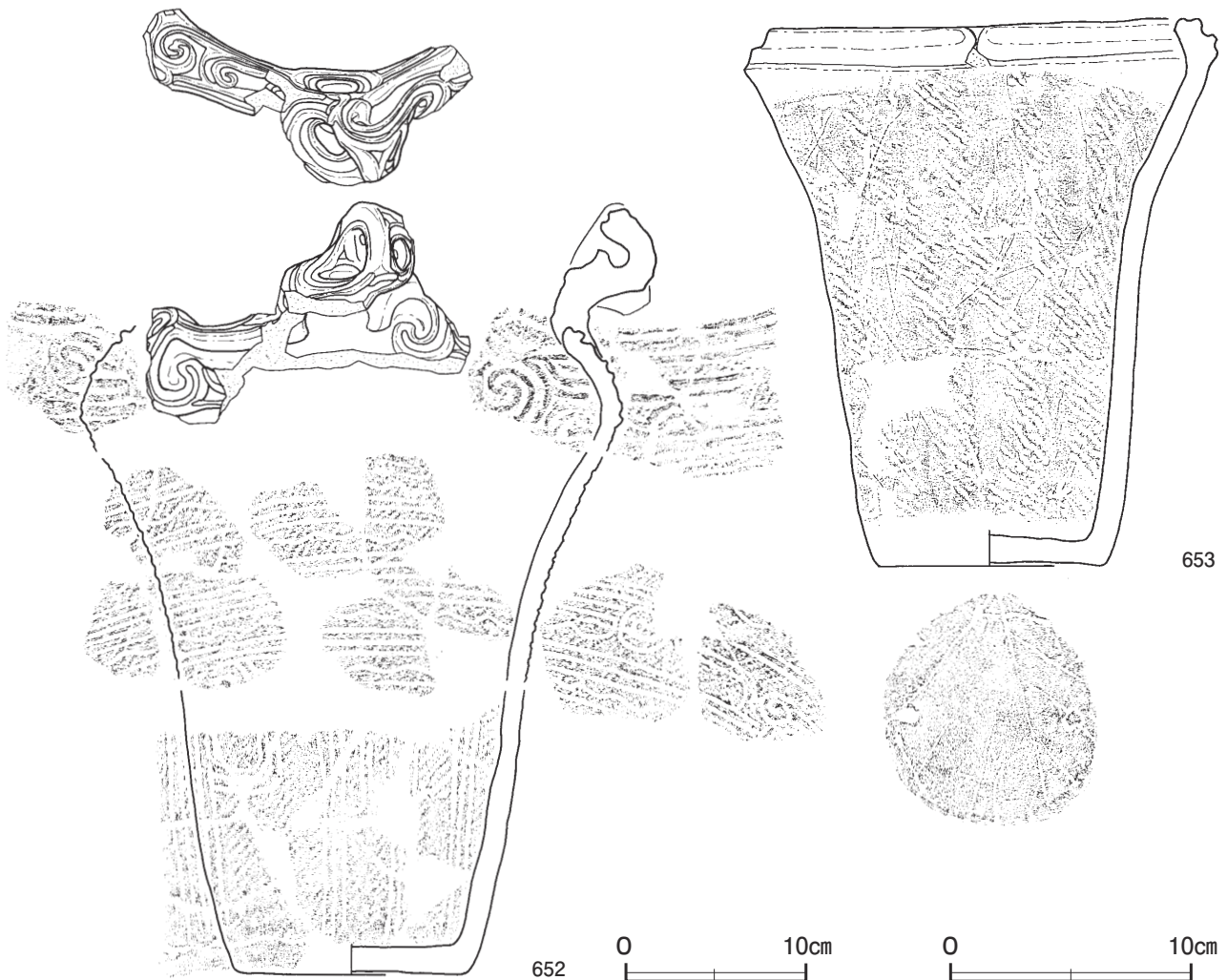
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 6 点 (深鉢) が出土している。652 は中央部, 653 は西部の覆土下層から, いずれも口縁部を西側に向けた横位の状態で出土している。埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 236 図 第 165 号土坑出土遺物実測図

第 165 号土坑出土遺物観察表 (第 236 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
652	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇頂部に平坦面 細い隆帯による渦巻文 中空の把手部にも文様描画 地文に単節縄文 RL (縦) 沈線による文様描画	覆土下層	50%
653	縄文土器	深鉢	16.0	22.6	9.2	長石・石英	暗褐色～ にぶい褐色	普通	口唇頂部に沈線が一巡 隆帯による楕円形区画 胴部無節縄文 L (縦) を間隔をあけて施文 胴 部下端横方向のナデ 底面木葉痕	覆土下層	90% PL123

第 169 号土坑 (第 237 図 PL41)

位置 調査区北部西寄りの B 2j9 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 85・170 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 1.42m, 短径 0.84m の楕円形で, 長径方向は N - 45° - W である。底面は径 1.80 ~ 1.84m の不整形円形で, 平坦である。確認面からの深さは 67cm である。壁は大きく内傾し, 袋状を呈している。

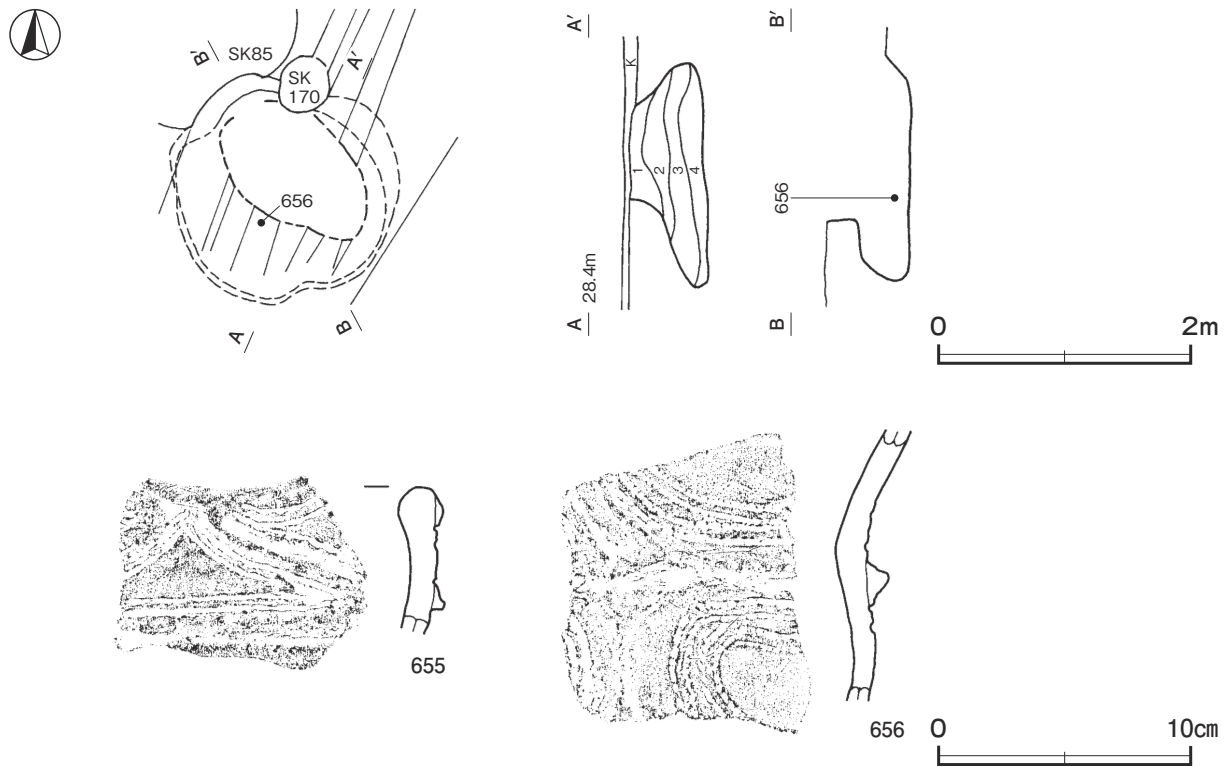
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 18 点 (深鉢) が出土している。656 は中央部の覆土下層から出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。



第 237 図 第 169 号土坑・出土遺物実測図

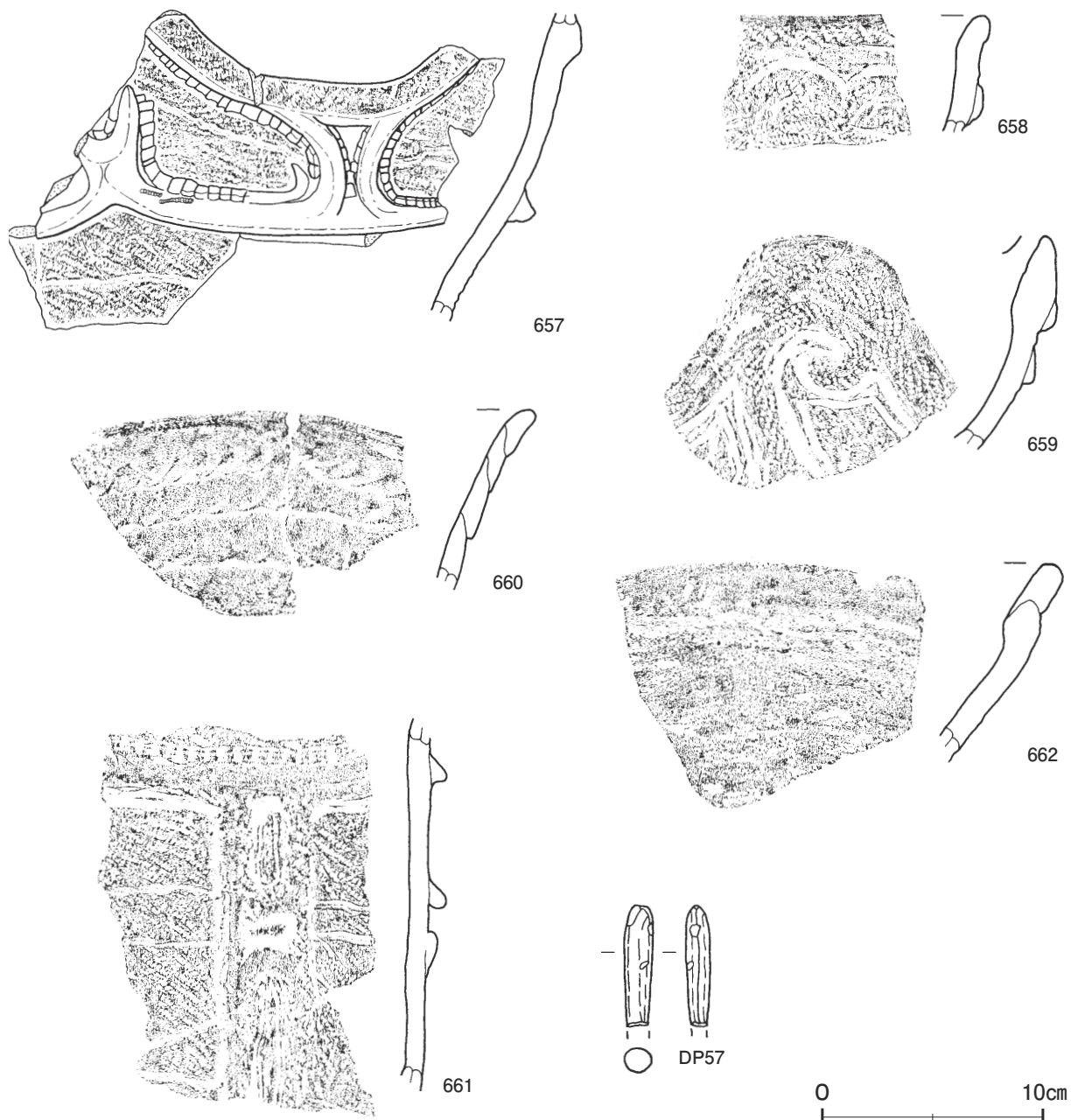
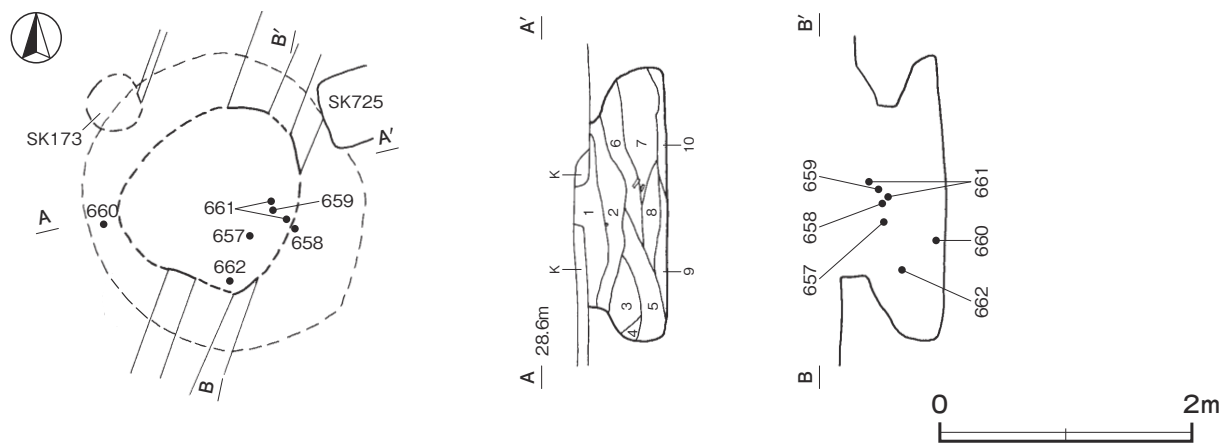
第 169 号土坑出土遺物観察表 (第 237 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
655	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯による区画文 隆帯に沿い 2本の有節沈線	覆土中	
656	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	断面三角形の隆帯により文様描画 隆帯に沿い 4本の有節沈線	覆土下層	

第 171 号土坑 (第 238 図 PL41)

位置 調査区北部中央の C 3a3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 173・725 号土坑に掘り込まれている。



第 238 图 第 171 号土坑·出土遺物実測図

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 1.50m、短径 1.29m の楕円形で、長径方向は N - 30° - E である。底面は長径 2.38m、短径 2.13m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 87cm である。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から高さ 48 ~ 62cm のところでくびれ、上位は直立している。

覆土 10 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子多量	6 黒褐色	ロームブロック微量
2 にぶい黄褐色	ロームブロック少量 (粘性やや弱い)	7 黒褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子微量 (締まりやや弱い)	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子微量	9 にぶい黄褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック少量	10 にぶい黄褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 236 点 (深鉢 235, 浅鉢 1), 土製品 (不明土製品)・石器 (打製石斧)・剥片 (瑪瑙) 各 1 点が出土している。660 は西壁際の覆土下層, 662 は南部の覆土中層, 657 ~ 659・661 は、東部の覆土上層からまとまって出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 171 号土坑出土遺物観察表 (第 238 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
657	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	幅広の隆帯による区画文 隆帯に沿い幅広の有節沈線 区画内と頸部に沈線描画 地文に 0 段多糸縄文 LR (横・斜)	覆土上層	PL123
658	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による弧状文 口縁上端及び隆帯上に単節縄文 RL (横) 隆帯間同一原体 (斜)	覆土上層	
659	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	隆帯による蹠手文 隆帯に沿い並行沈線 隆帯上に単節縄文 RL (縦・横)	覆土上層	PL123
660	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	輪積痕を残し指頭による押圧	覆土下層	
661	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	断面三角形の隆帯により区画文 横方向の隆帯に沿いキョウピラ文と沈線文 地文に 0 段多糸縄文 RL (横) 区画内横位の沈線文	覆土上層	PL123
662	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部強いナデによる凹みが一巡 外面ナデ内面磨き	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP57	不明土製品	(5.6)	1.3	1.1	(8.4)	長石・石英・雲母	橙	全面丁寧なナデ 端部欠損	覆土上層	

第 174 号土坑 (第 239 図 PL42)

位置 調査区西部北寄りの B 2j8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、径 3.05 ~ 3.07m の不整形円形で、底面は平坦である。深さは 55cm で、壁はほぼ直立している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は、長径 37 ~ 40cm、短径 30cm ほどの楕円形で、深さ 40cm ほどである。規模と配置から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

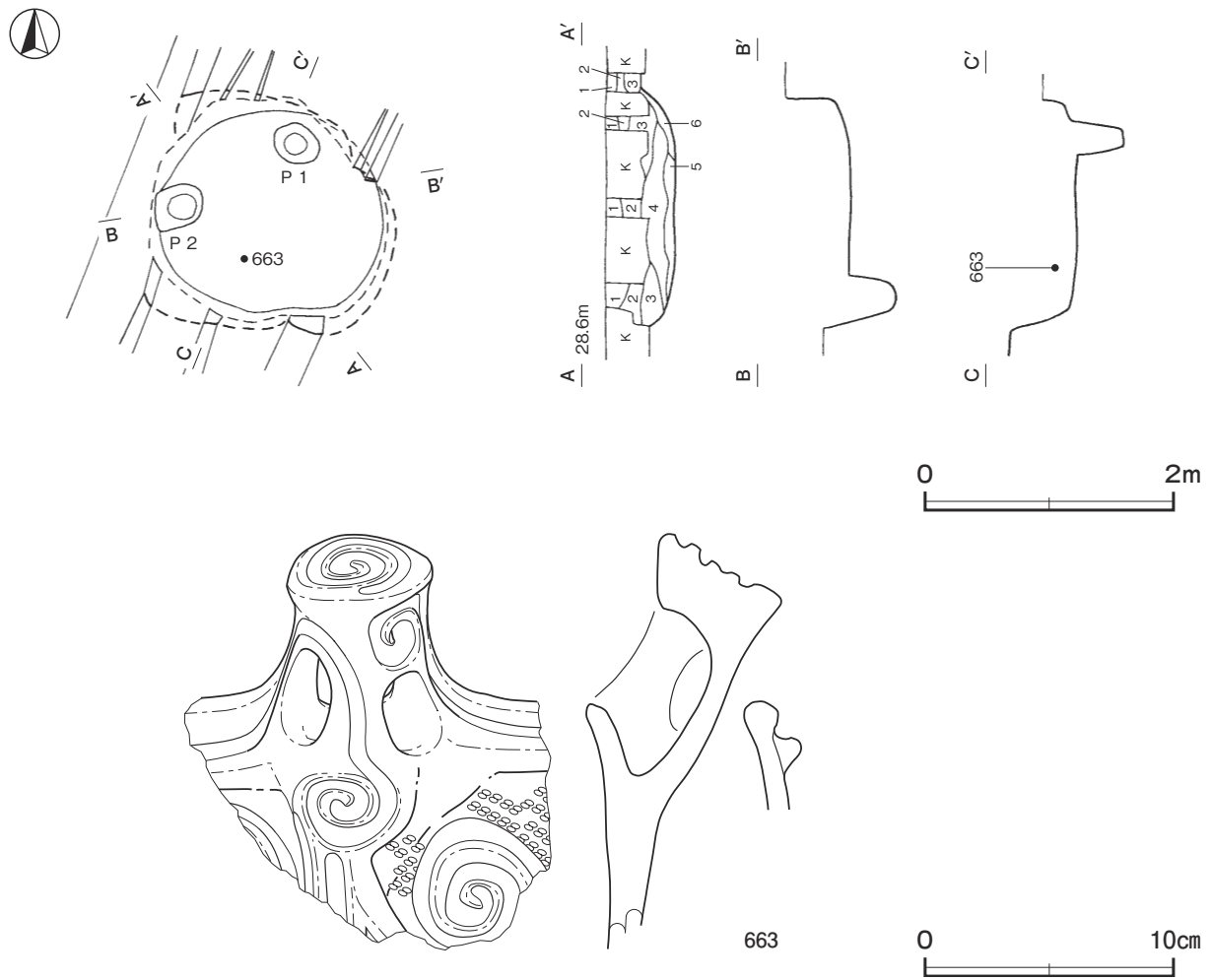
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	4 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	5 褐色	ロームブロック中量 (締まり強い)
3 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 94 点 (深鉢), 石器 (磨製石斧)・石核 (石英)・剥片 (緑泥片岩) 各 1 点が出土している。663 は南部の覆土中層から出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 耕作による攪乱を受けているため明確でないが、形状や補助的な貯蔵施設と考えられるピットが伴うことから、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 239 図 第 174 号土坑・出土遺物実測図

第 174 号土坑出土遺物観察表 (第 239 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
663	縄文土器	深鉢	-	(16.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	把手・胴部に隆帯による渦巻文 地文に複節縄文 RLR (横)	覆土中層	PL123

第 175 号土坑 (第 240 図)

位置 調査区西部の C 2d9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

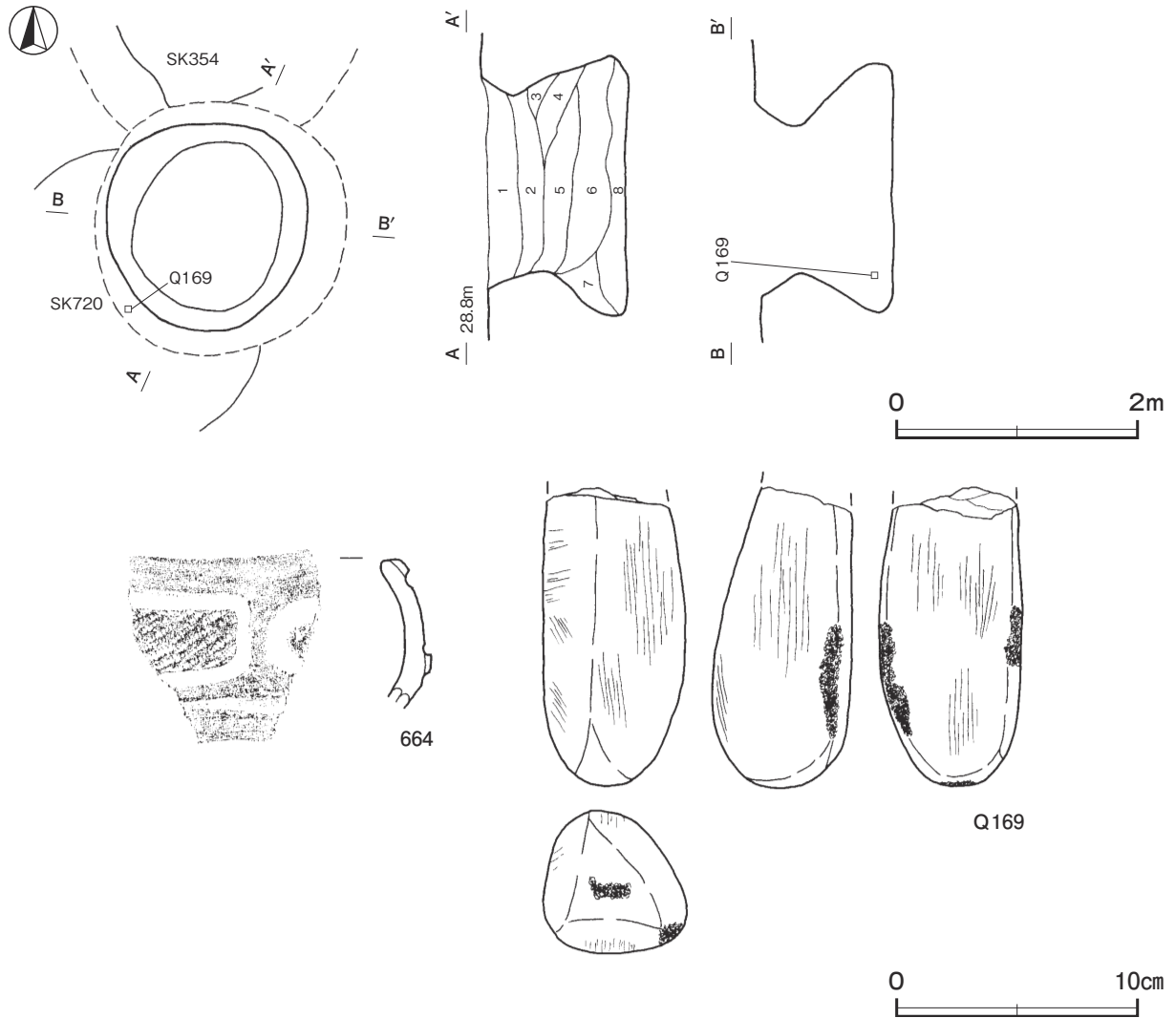
重複関係 第 354・720 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.69 ~ 1.78m の円形である。底面は長径 2.20m, 短径 2.14m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 119cm である。壁は内彎し, 袋状を呈し, 底面から高さ 70 ~ 90cm のところでくびれ, 上位は外傾している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第 240 図 第 175 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 154 点（深鉢），石器（敲石）・剥片（チャート）各 1 点が出土している。Q 169 は南西部の覆土下層から出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。

第 175 号土坑出土遺物観察表（第 240 図）

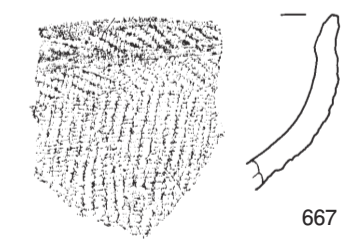
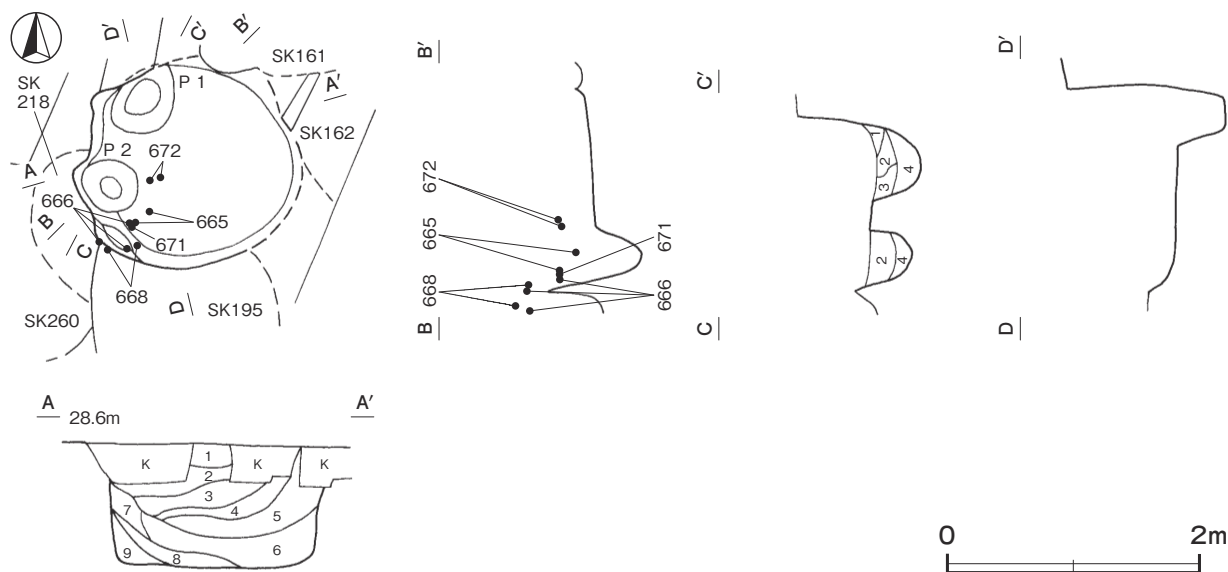
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
664	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に 0 段多糸縄文 LR（横） 文 隆帯に沿った沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 169	敲石	(12.4)	6.0	5.8	(671.4)	石英斑岩	側縁の一部及び端部に微細な敲打痕 一部研磨痕	覆土下層	

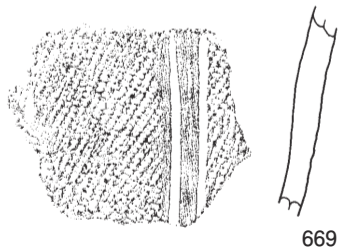
第 176 号土坑（第 241・242 図 PL40・42）

位置 調査区北西部の B 2j7 区，標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

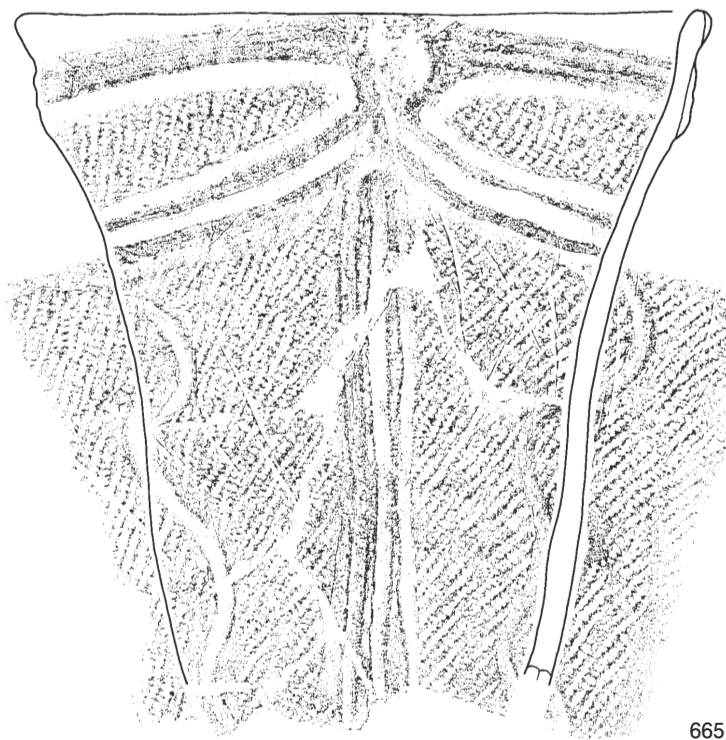
重複関係 第 162・195・218・260 号土坑を掘り込み，第 161 号土坑に掘り込まれている。



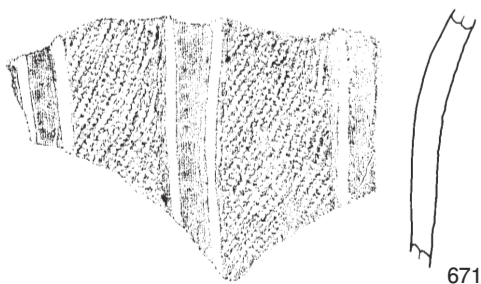
667



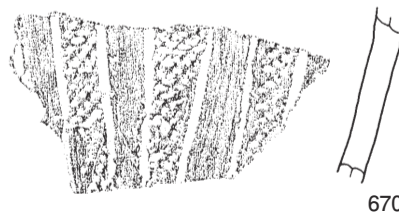
669



665



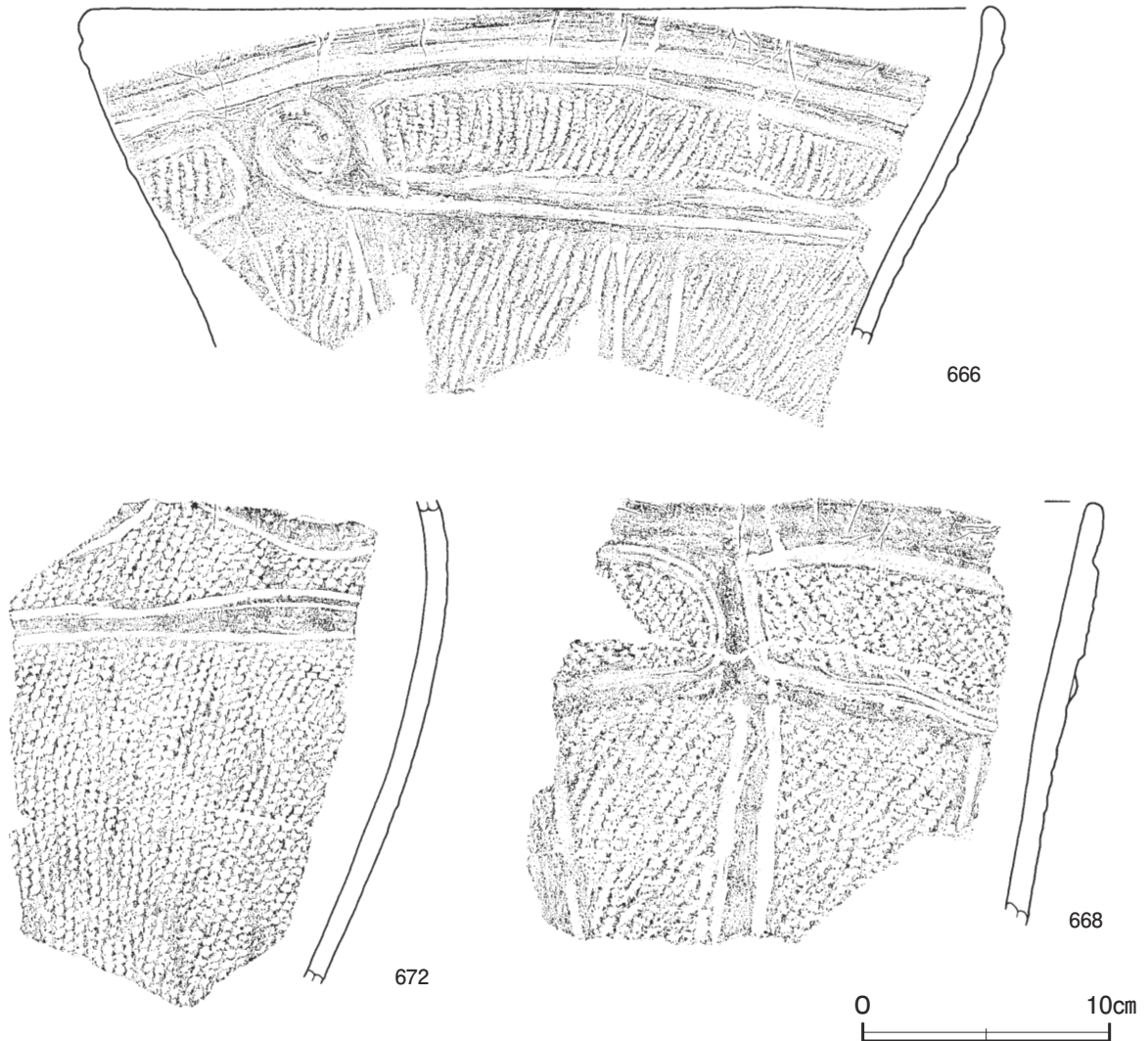
671



670

0 10cm

第 241 图 第 176 号土坑·出土遗物实测图



第 242 図 第 176 号土坑出土遺物実測図

規模と形状 径 1.60～1.62m の円形で、底面は平坦である。深さは 97cm である。壁は直立している。

ピット 2 か所。P 1 は長径 62cm、短径 43cm の楕円形で、深さ 39cm である。P 2 は長径 50cm、短径 40cm の楕円形で、深さ 36cm である。いずれも壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |

覆土 9層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 314 点（深鉢 313、浅鉢 1）、石器（打製石斧）・剥片（瑪瑙）・礫各 1 点が出土している。

672 は中央部、665・666・668・671 は南西部の壁際の覆土中層から覆土下層にかけてまとまって出土しており、埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 円筒状の土坑で、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 176 号土坑出土遺物観察表 (第 241・242 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
665	縄文土器	深鉢	27.0	(26.7)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 口縁部幅広の背割れ隆帯による弧状区画 胴部浅い並行沈線と蛇行沈線が垂下 並行沈線間磨消	覆土下層	30% PL124
666	縄文土器	深鉢	[36.6]	(13.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 LR (横) 口縁部低い隆帯による楕円区画 渦巻文を描画 口縁部から沈線が垂下 部分的に沈線間磨消	覆土中～下層	20% PL124
667	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部0段多条縄文 RL (横) 指頭により磨消 胴部同一原体 (斜)	覆土中	
668	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部隆帯による楕円区画 区画内複節縄文 RLR (横) 胴部同一原体 (縦) 胴部2本の沈線垂下 沈線間磨消	覆土中層	PL124
669	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に複節縄文 LRL (横) 並行沈線垂下 沈線に沿って磨消	覆土中	
670	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 LR (横) 並行沈線垂下 沈線間磨消	覆土中	
671	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 LR (横) 並行沈線垂下 沈線間磨消	覆土下層	
672	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 2本の沈線を横位・弧状に描画し沈線間磨消	覆土下層	PL124

第 178 号土坑 (第 243 図)

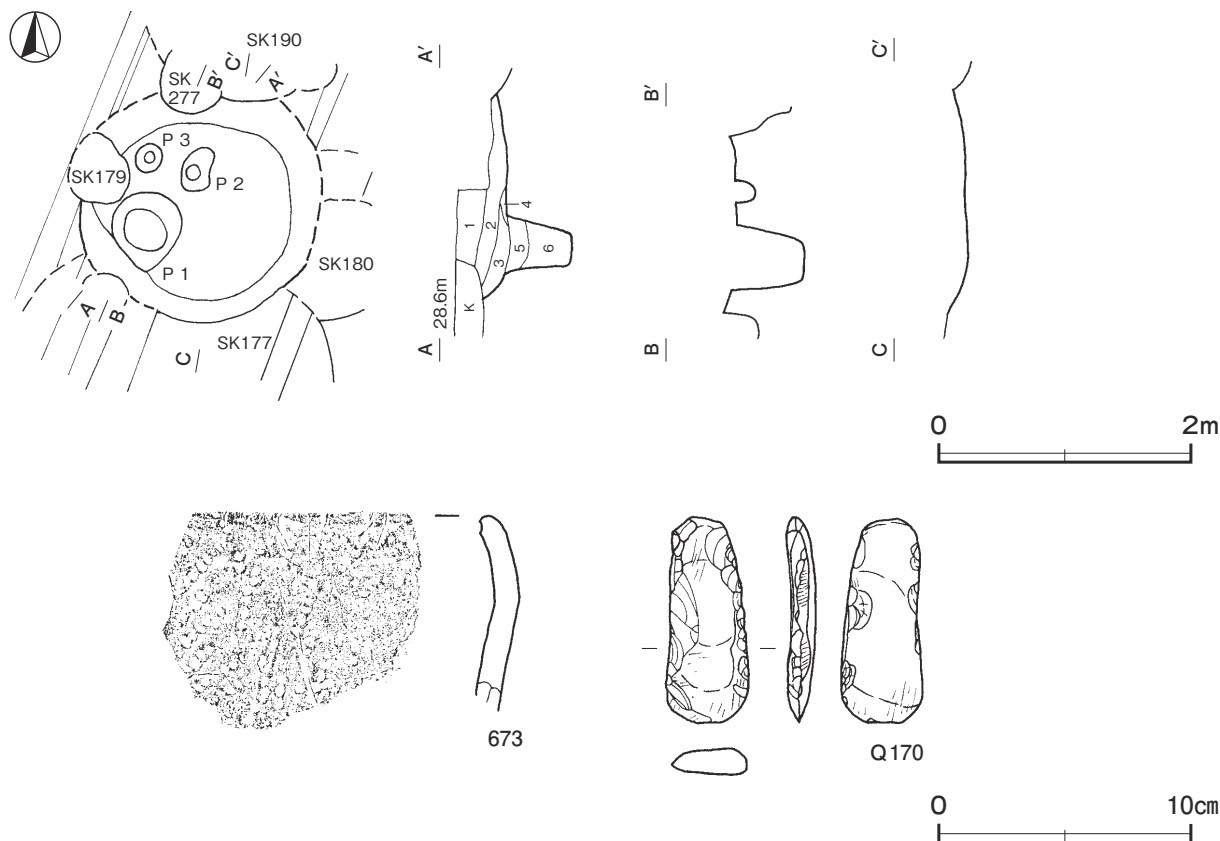
位置 調査区西部の C 2 a0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 180 号土坑を掘り込み, 第 177・179・190・277 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.95m ほどの円形で, 底面は平坦である。深さは 38cm で, 壁は緩やかに傾斜している。

ピット 3 か所。P 1 は長径 61cm, 短径 51cm の楕円形で, 深さ 57cm である。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は深さ 51cm で, 規模から柱穴と考えられる。P 3 は深さ 18cm で, 性格は不明である。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 5・6 層は, P 1 の覆土である。



第 243 図 第 178 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢), 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。

所見 時期は, 中期と考えられるが, 詳細は不明である。

第 178 号土坑出土遺物観察表 (第 243 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
673	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	黒褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦・斜)	覆土中	

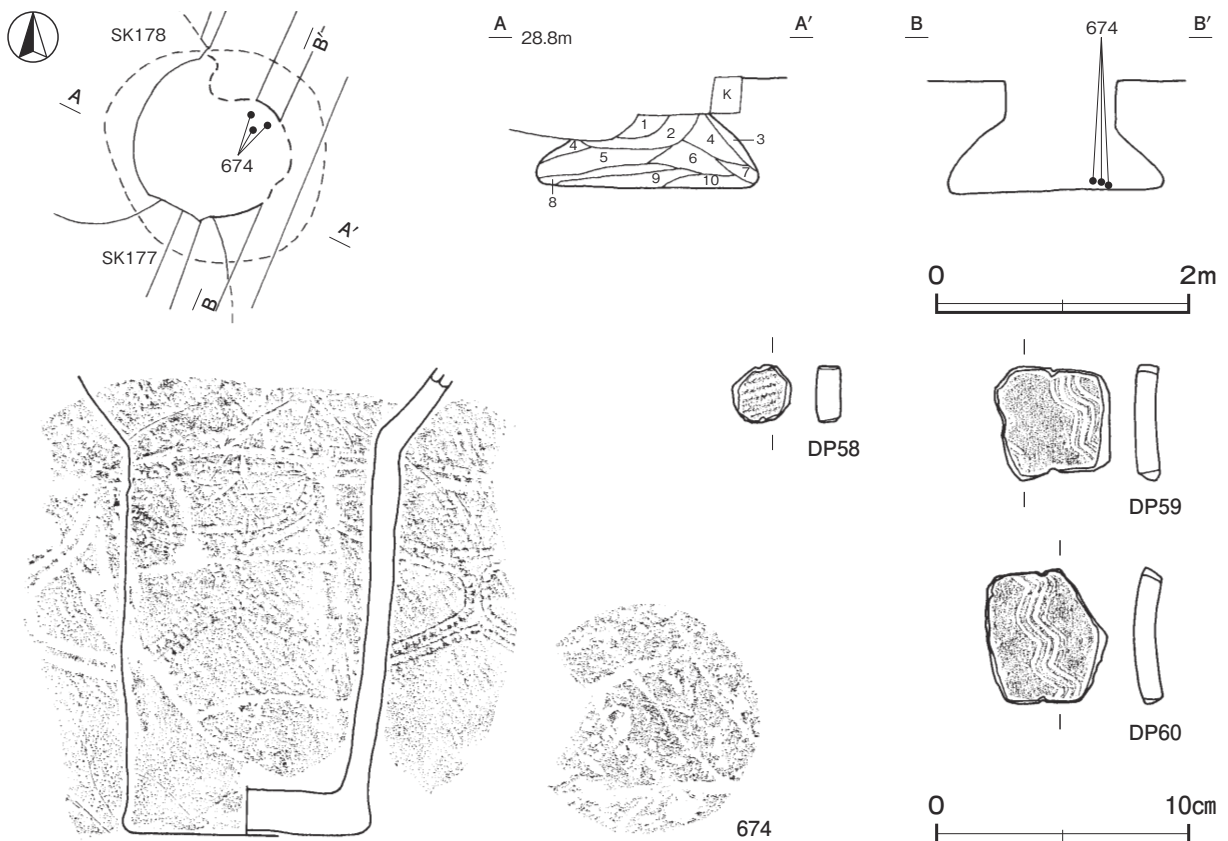
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 170	打製石斧	8.2	3.3	1.2	41.4	ホルンフェルス	小型 両側縁敲打調整 刃部は表裏を研磨 ハマグリ刃	覆土中	PL166

第 180 号土坑 (第 244 図 PL43)

位置 調査区西部の C 2 b0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 177・178 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 1.28m, 短径 1.20m の不定形である。底面は長径 1.80m, 短径 1.68m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 88cm である。壁は内傾して, 袋状を呈し, 底面から高さ 58 ~ 62cm のところでくびれ, 上位は直立している。



第 244 図 第 180 号土坑・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化物・焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 106 点（深鉢 105, 浅鉢 1）, 土製品（土器片錘）・石器（打製石斧 2, 敲石 1）各 3 点が出土している。674 は、北東部の覆土下層から散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で放棄されたものと考えられる。DP58～DP60 は、覆土中から出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

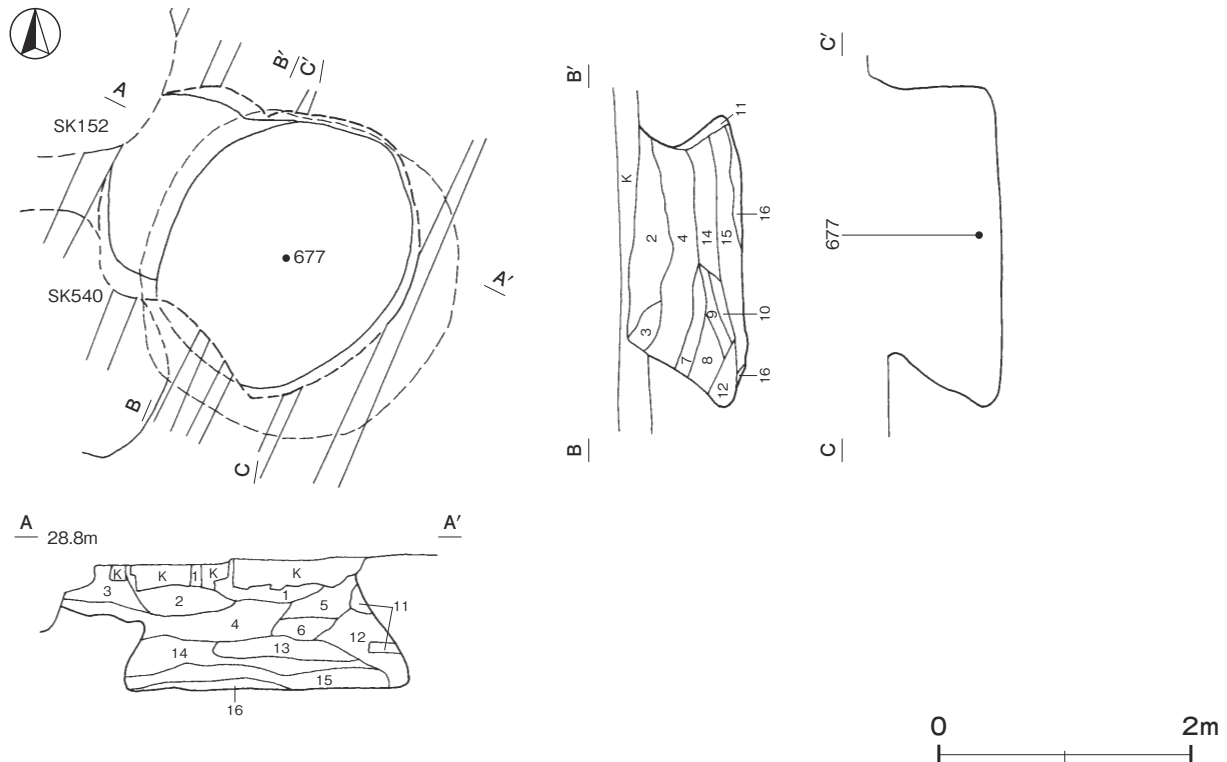
第 180 号土坑出土遺物観察表（第 244 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
674	縄文土器	深鉢	-	(18.7)	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	地文に無節縄文R（縦）頸部から隆帯垂下し区画 区画内 2本の有節沈線によるX字状文底面棒状圧痕と木葉痕	覆土下層	80% PL124

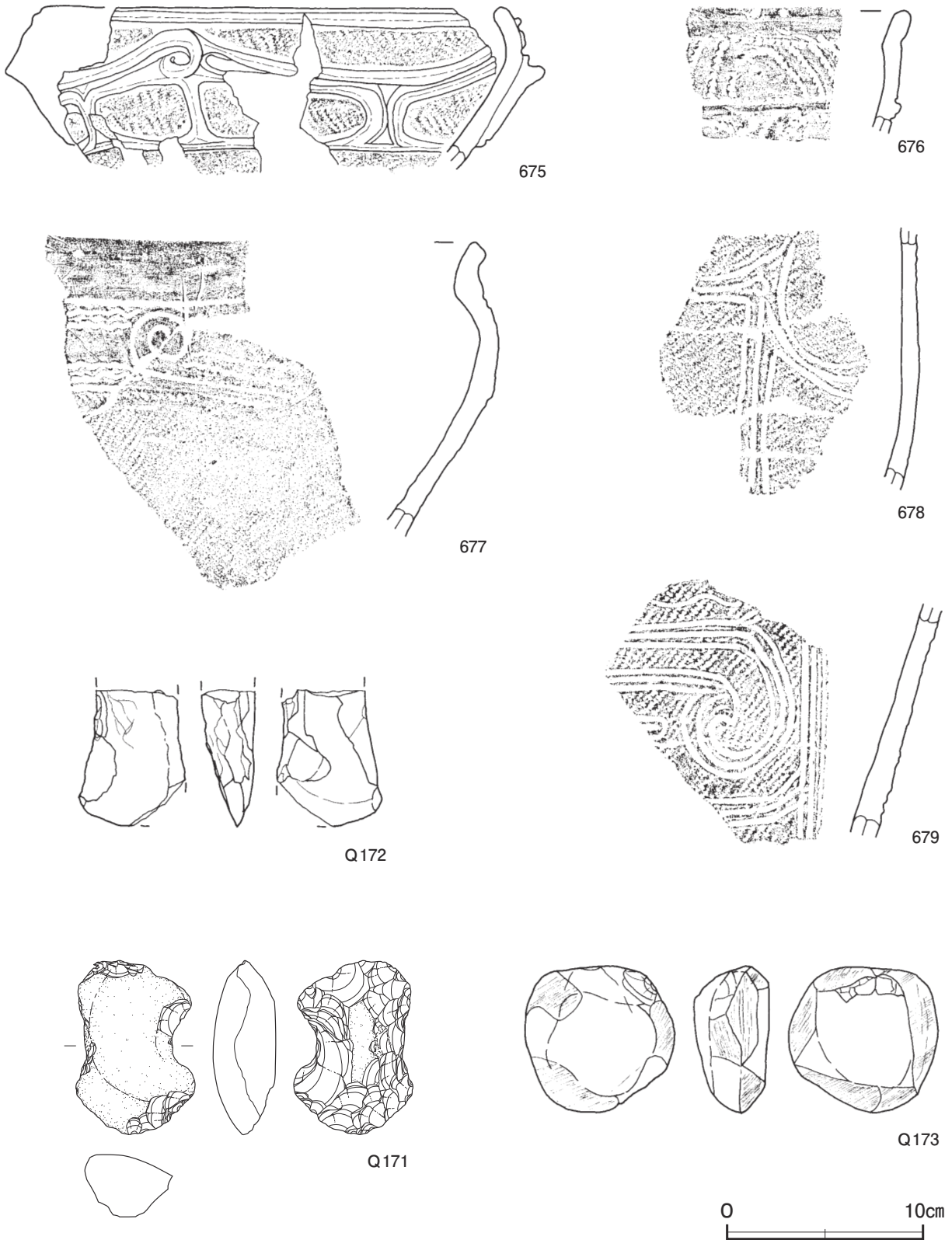
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP58	土器片錘	2.3	2.4	1.0	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP59	土器片錘	4.6	4.5	1.0	25.5	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部一部研磨	覆土中	
DP60	土器片錘	5.4	4.8	1.2	31.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	胴部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	

第 181 号土坑（第 245・246 図 PL43）

位置 調査区中央部の C 3 e3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 245 図 第 181 号土坑実測図



第 246 図 第 181 号土坑出土遺物実測図

重複関係 第 152・540 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 2.52 m，短径 2.15 m の楕円形で、長径方向は N - 38° - E である。底面は長径 2.93 m，短径 2.48 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 108cm であ

る。壁は底面から内傾して、袋状を呈し、底面から高さ 48～82cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 16層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子中量	9 におい褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 極暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	ロームブロック中量	13 におい黄褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ローム粒子中量	14 黒褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ロームブロック少量	15 におい黄褐色	ロームブロック多量
8 極暗褐色	ロームブロック中量	16 黒色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 246点（深鉢 242, 浅鉢 4）、石器 4点（打製石斧 2, 磨石 1, 敲砥石 1）、石核（安山岩）・剥片（石英）各 1点、礫 2点（瑪瑙）が出土している。675・677・679, Q 173 は覆土下層から出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。Q 172 は覆土上層, 676・678, Q 171 はいずれも覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 181 号土坑出土遺物観察表（第 246 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
675	縄文土器	深鉢	[22.2]	(8.0)	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 地文に単節縄文 RL(横) 隆帯による文様描画 摘み状の渦巻文	覆土下層	10% PL124
676	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口唇部肥厚 断面三角形の隆帯により文様描画 区画内半截竹管による有節沈線	覆土中	
677	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい橙	普通	口縁上部無文 口縁部横位に区画し沈線による渦巻文・波状文 頸部に隆帯が一巡 胴部単節縄文 RL(縦)	覆土下層	PL124
678	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい黄褐	普通	地文に単節縄文 RL(縦) 3本単位の沈線で文様描画	覆土中	
679	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単節縄文 RL(縦) 3本単位の沈線で文様描画	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 171	打製石斧	8.9	6.1	3.2	183.8	ホルンフェルス	分銅形 表裏に自然面 挟り部は片面を敲打	覆土中	PL162
Q 172	打製石斧	(7.0)	5.4	2.8	(114.9)	安山岩	撥形 片面に自然面 側縁部表裏を敲打 刃部片面を敲打 基部欠損 刃部半分欠損	覆土上層	
Q 173	敲砥石	7.5	7.6	3.8	300.9	チャート	円礫の周縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL172

第 182 号土坑（第 247・248 図 PL43）

位置 調査区中央部北寄りの C 3c4 区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 129 号土坑に掘り込まれている。

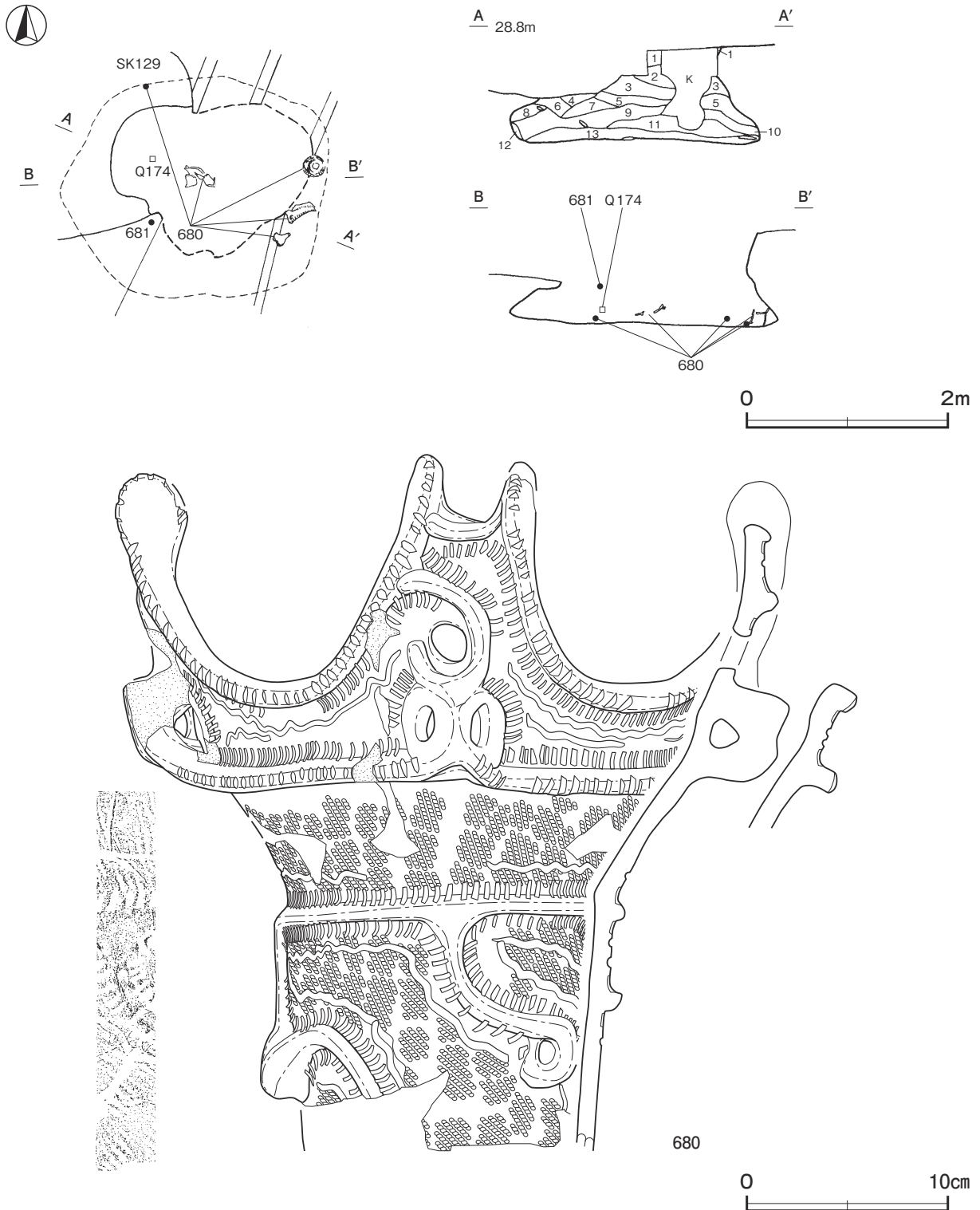
規模と形状 開口部は東西軸 2.01 m、南北軸 1.51 mの不定形で、長軸方向は N - 76° - Wである。底面は長径 2.63 m、短径 2.21 mの不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 94cmである。壁は底面から大きく内傾して袋状を呈し、底面から高さ 58～70cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 13層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	8 極暗褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子多量	9 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量	10 黒褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子少量	11 におい黄褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ローム粒子中量
6 黒褐色	ローム粒子多量	13 黒褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量		

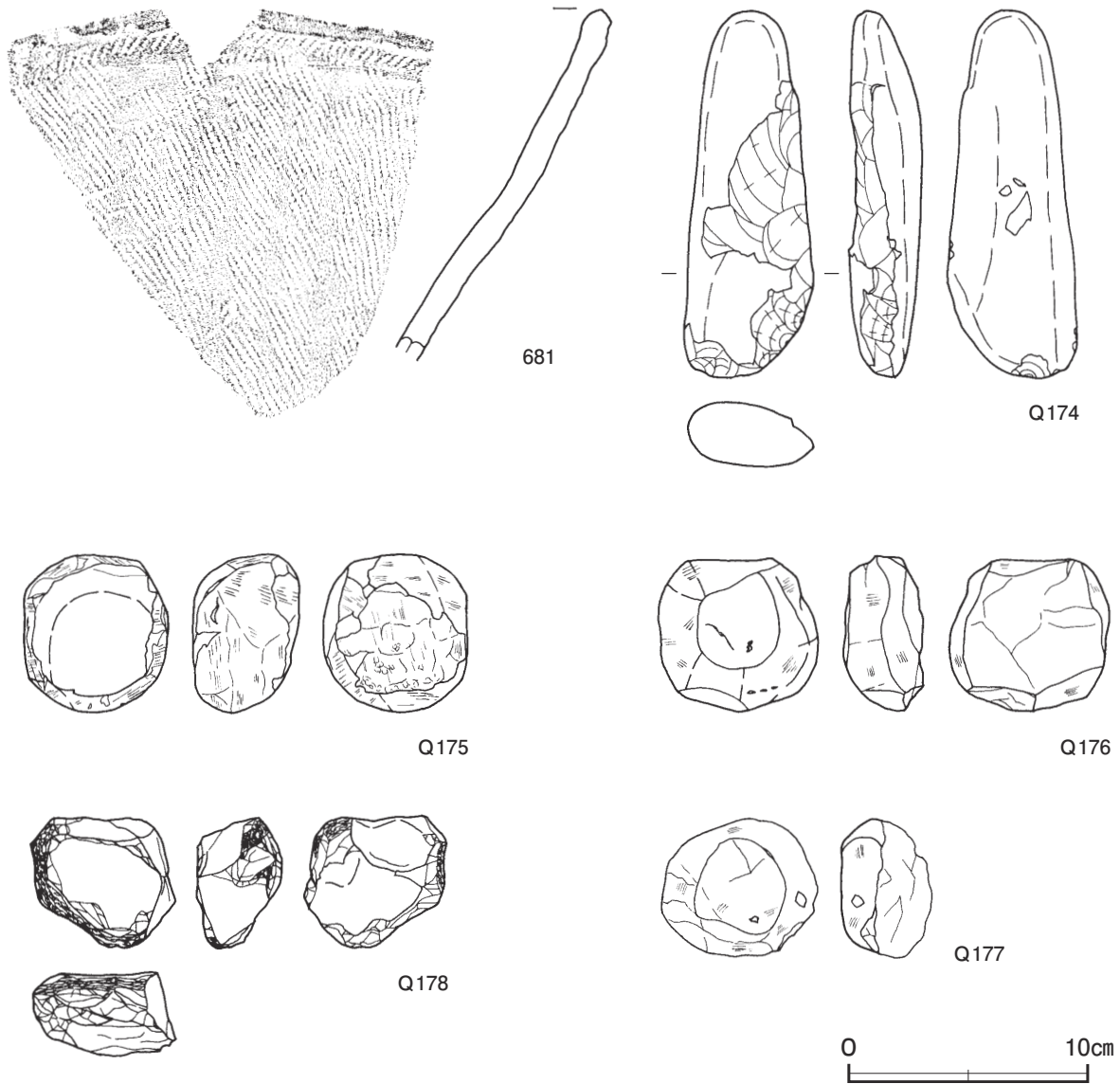
遺物出土状況 縄文土器片 212点（深鉢）、石器 6点（磨製石斧未成品 1, 磨石 1, 敲石 1, 敲砥石 3）、剥片



第 247 図 第 182 号土坑・出土遺物実測図

(ホルンフェルス)・石核 (チャート) 各 1 点が出土している。680 は中央部から東部壁際にかけての覆土最下層から、大形の破片が散乱した状態で出土している。廃絶直後に投棄されたものと考えられる。Q 174・Q 177・Q 178 は覆土下層，681，Q 176 は覆土中層からそれぞれ出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第 248 図 第 182 号土坑出土遺物実測図

第 182 号土坑出土遺物観察表（第 247・248 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
680	縄文土器	深鉢	27.0	[34.6]	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	極暗赤褐	普通	把手周縁及び口縁下に庇状隆帯。隆帯上にキザミ目。胴部無節縄文 R（横）隆帯に沿ってキヤタビラ文・波状沈線文	覆土最下層	70% PL124
681	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口唇部ナデ 肥厚部上に単節縄文 LR（横）胴部同一原体（縦）	覆土中層	PL124
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考
Q 174	磨製石斧 未成品	15.4	5.4	3.1	323.6	閃緑岩	自然礫の側縁部片面を敲打			覆土下層	PL170 被熱
Q 175	敲砥石	6.6	6.0	4.5	267.0	石英	円礫の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの砥面により稜をもつ			覆土中層	PL172
Q 176	敲砥石	6.5	6.7	3.4	195.5	チャート	円礫の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの砥面により稜をもつ			覆土中層	PL172
Q 177	敲砥石	(5.8)	(6.5)	(3.8)	(166.7)	石英	円礫の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの砥面により稜をもつ 裏面欠損			覆土下層	
Q 178	敲石	5.5	3.6	6.1	147.0	チャート	円礫の周縁部に微細な敲打痕			覆土下層	PL172

第 190 号土坑（第 249・250 図 PL44）

位置 調査区北部西寄りの C 2 a0 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第178号土坑を掘り込み、第274号土坑に掘り込まれている。第192・210・277号土坑との新旧関係は不明である。

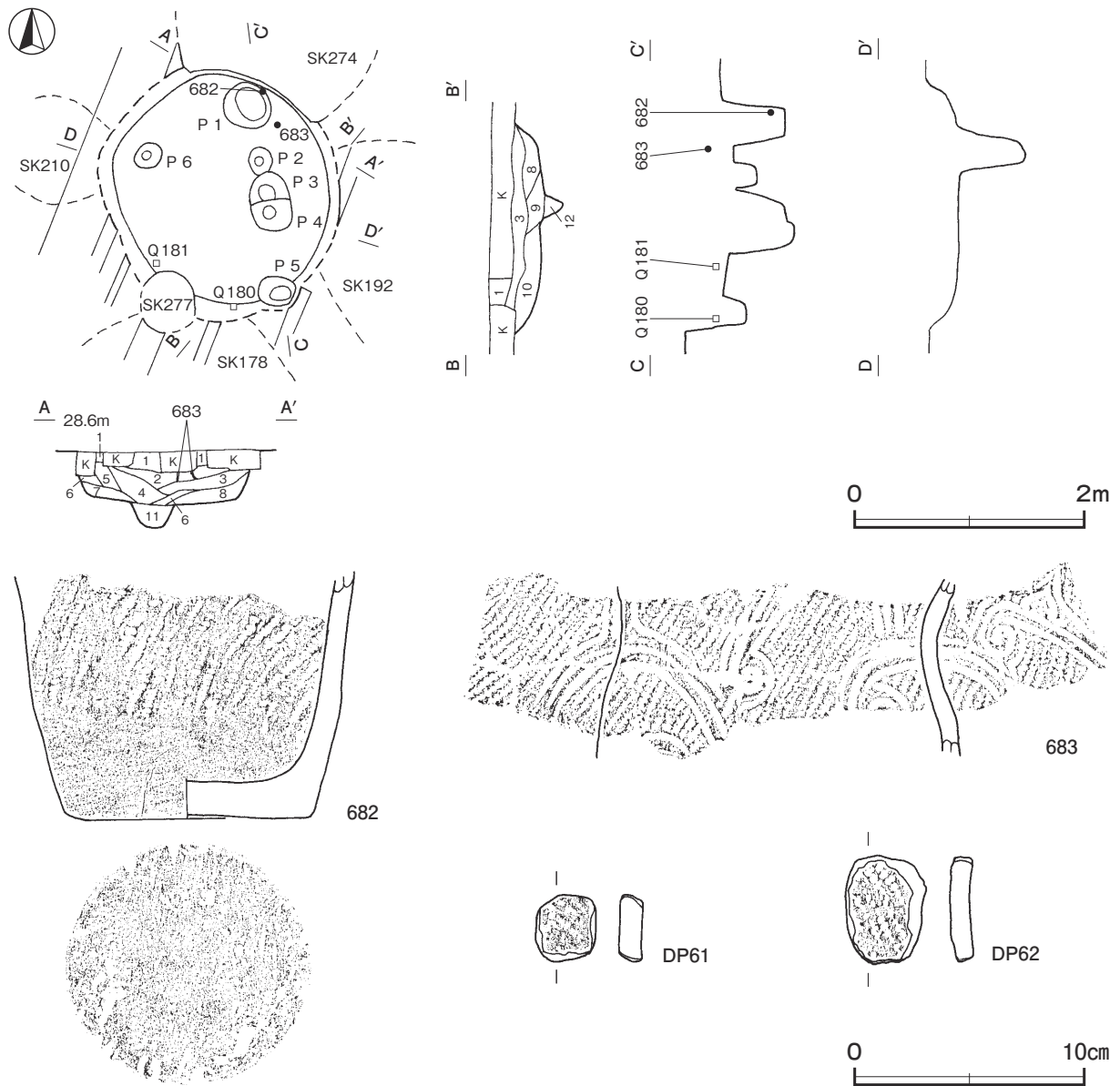
規模と形状 長径2.23m、短径2.00mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。底面は平坦である。深さは49cmである。壁は外傾している。

ピット 6か所。P1～P6は、深さ20～54cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。

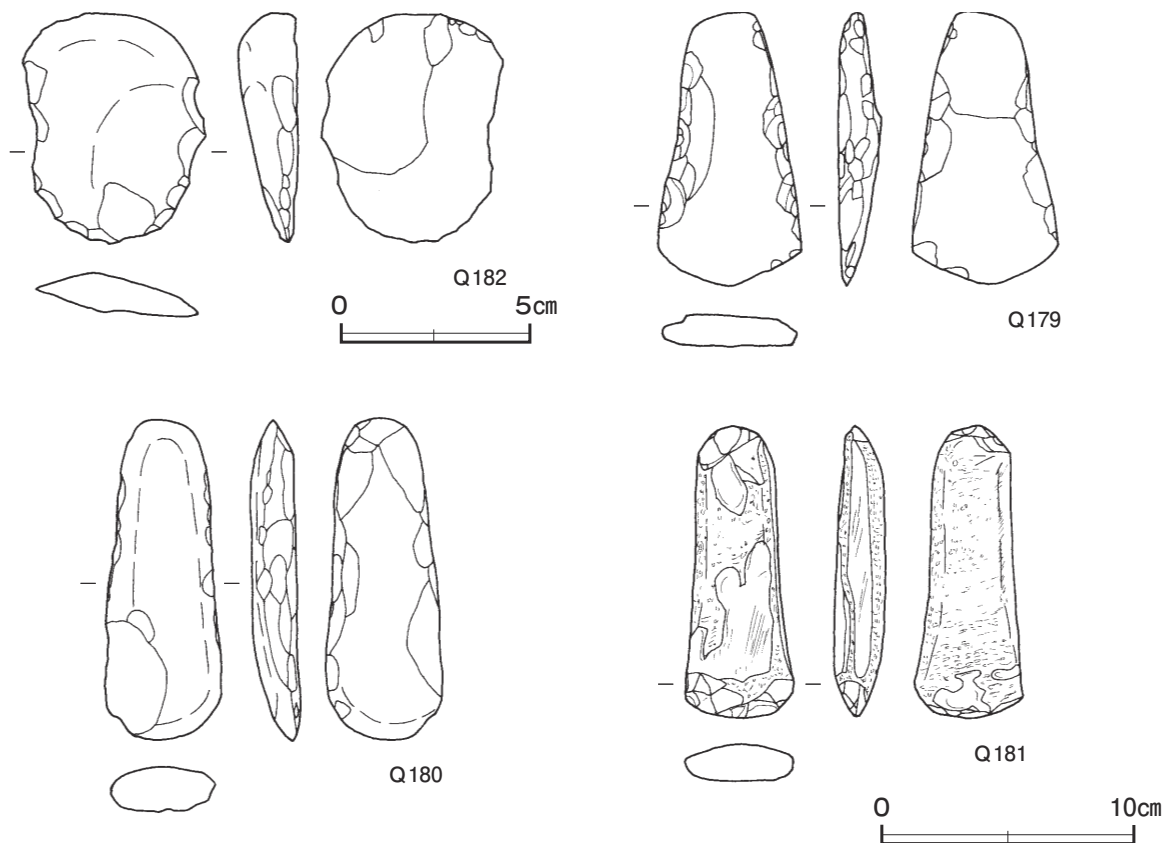
覆土 10層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。第11層はP1、第12層はP4の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化物・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |



第249図 第190号土坑・出土遺物実測図



第 250 図 第 190 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 68 点（深鉢），土製品 2 点（土器片錘），石器 3 点（打製石斧 2，磨製石斧未成品 1），加工痕のある剥片 1 点（黒色安山岩），剥片 3 点（石英 1，瑪瑙 2）が出土している。682 は P 1 の覆土下層，Q 180・Q 181 は覆土下層からそれぞれ出土している。683 は，覆土中層の第 2 層から出土しており，ある程度埋め戻された段階で，焼土塊とともに投棄されたものと考えられる。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが，規模から貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 190 号土坑出土遺物観察表（第 249・250 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
682	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	10.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 胴部下端ナデ (横) 底面網代痕	P 1 覆土下層	15%
683	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母	ぶい橙	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 3本の並行沈線による渦巻文・剣先文	覆土中層	10% PL125

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP61	土器片錘	3.0	2.6	1.0	9.6	長石・石英・雲母	褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	
DP62	土器片錘	5.4	5.1	1.3	19.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 179	打製石斧	10.8	5.8	1.7	122.7	安山岩	鉞形 両側縁部敲打調整後研磨 刃部末広がり	覆土中	PL166
Q 180	打製石斧	7.8	6.4	4.0	(157.1)	ホルンフェルス	撥形 片面に自然面 周縁部微細な敲打痕 刃部は表裏を研磨 ハマクリ刃	覆土下層	PL164
Q 181	磨製石斧未成品	11.6	4.3	2.1	137.6	砂岩	全面に微細な敲打痕 基部未調整 刃部は片面を敲打	覆土下層	
Q 182	加工痕のある剥片	6.2	4.9	1.7	46.3	黒色安山岩	自然面を残し，両側縁及び先端部を片面を敲打	覆土中	

第 193 号土坑 (第 251 図)

位置 調査北西部の C 2 b0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 194 号土坑を掘り込み, 第 41・177・200 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の土坑と重複しているため, 北東・南西径は 1.98 m, 北西・南東径は 1.52 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき, 北東・南西径方向は N - 18° - E である。底面は中央部が皿状にくぼんでおり, 深さは 53cm である。壁は直立している。

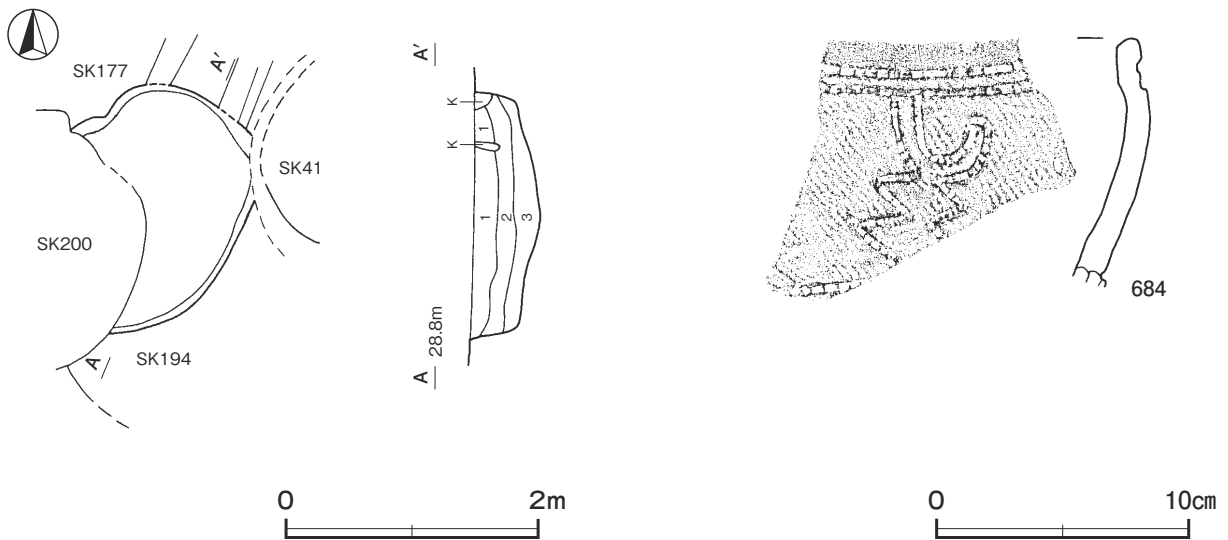
覆土 3 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 99 点 (深鉢), 剥片 2 点 (チャート, 黒曜石) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 251 図 第 193 号土坑・出土遺物実測図

第 193 号土坑出土遺物観察表 (第 251 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
684	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部直下に並行有節沈線が一巡。地文に単節縄文 RL (横) 有節沈線による文様描画	覆土中	

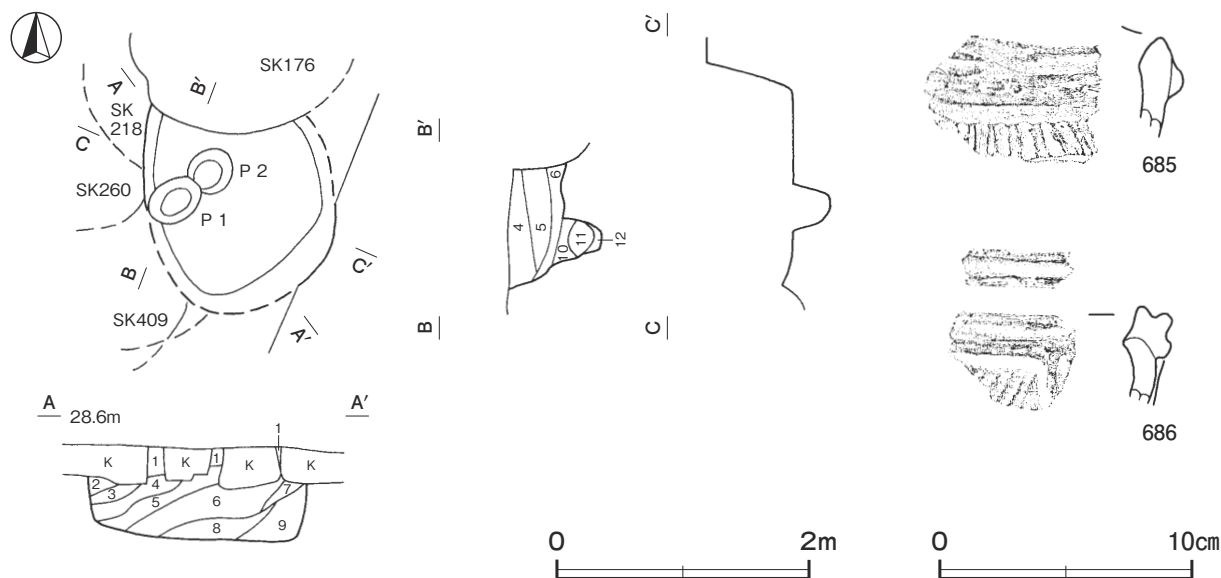
第 195 号土坑 (第 252 図)

位置 調査区北西部の B 2 j7 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 218・260・409 号土坑を掘り込み, 第 176 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第 176 号土坑に掘り込まれており, 南北径は 1.78 m しか確認できなかった。東西径は 1.50 m で, 楕円形と推定できる。南北径方向は N - 2° - W である。底面は平坦で, 深さは 90cm である。壁は外傾している。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は, 深さ 30・34cm で, 性格は不明である。



第 252 図 第 195 号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が多く含まれていることから、埋め戻されている。第10～12層は、P1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 19 点（深鉢）が、各層から散乱して出土している。

所見 円筒状の土坑で、貯蔵穴の可能性はある。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 195 号土坑出土遺物観察表（第 252 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
685	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部上端に隆帯 太い沈線による縦位の条線	覆土中	
686	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇頂部に平坦面を作出し太い沈線が一巡 隆帯による区画 区画内単節縄文 RL（縦）	覆土中	

第 198 号土坑（第 253 図 PL44）

位置 調査区西部北寄りの C 2 a9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

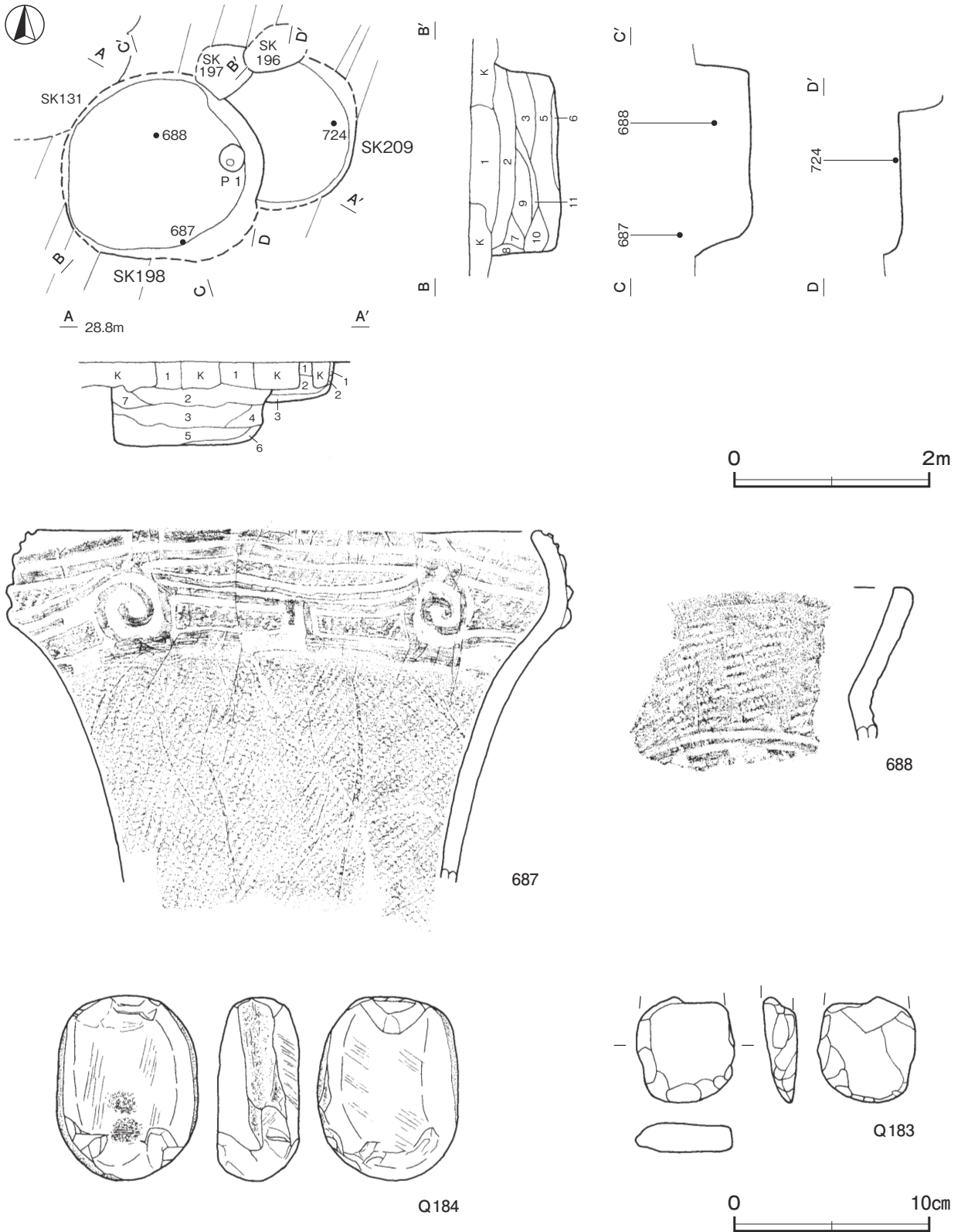
重複関係 第 131・209 号土坑を掘り込み、第 197 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径 2.01～2.10 m の円形である。底面は平坦で、確認面からの深さは 92 cm である。壁は直立している。

覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量，炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量，炭化物・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |



第 253 図 第 198・209 号土坑，第 198 号土坑出土遺物実測図

ピット 深さ 10cm ほどで，性格は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片 90 点（深鉢 51，浅鉢 39），石器 2 点（打製石斧，敲砥石）が出土している。688 は覆土中層，687 は覆土上層，Q 183・Q 184 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 円筒状の土坑で，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 198 号土坑出土遺物観察表 (第 253 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
687	縄文土器	深鉢	[25.6]	(18.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 口唇頂部に沈線が一巡 背割れ隆帯による区画・渦巻文	覆土上層	PL125
688	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に0段多条縄文 RL (斜) 頸部並行沈線が一巡	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 183	打製石斧	(5.5)	5.0	1.7	(58.3)	安山岩	撥形 表裏に自然面 周縁部表裏を敲打 刃部は片面を敲打 片刃部欠損	覆土中	
Q 184	敲砥石	9.5	7.3	4.2	447.6	砂岩	円礫の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの砥面をもつ	覆土中	PL172

第 199 号土坑 (第 254・255 図 PL44)

位置 調査区西部の C 2 b9 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 233 号土坑を掘り込み, 第 177・200・208 号土坑に掘り込まれている。

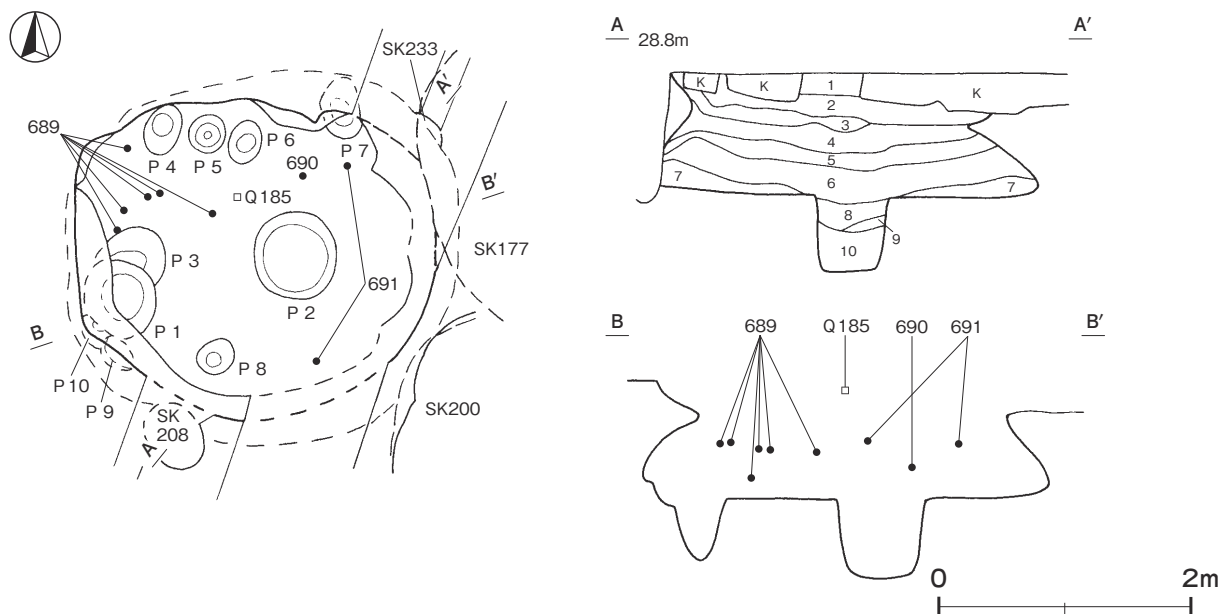
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.98 m, 短径 2.55 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 60° - W である。底面は径 3.10 ~ 3.24 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 98cm である。壁は大きく内傾して袋状を呈し, 底面から高さ 56 ~ 64cm のところでくびれ, 上位は外傾している。

ピット 10 か所。P 1 は深さ 49cm で西壁際に位置しており, 補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は深さ 64 cm で中央部に位置しており, 柱穴と考えられる。P 3 ~ P 10 は深さ 4 ~ 27cm である。いずれも壁際に位置しているが, 性格は不明である。

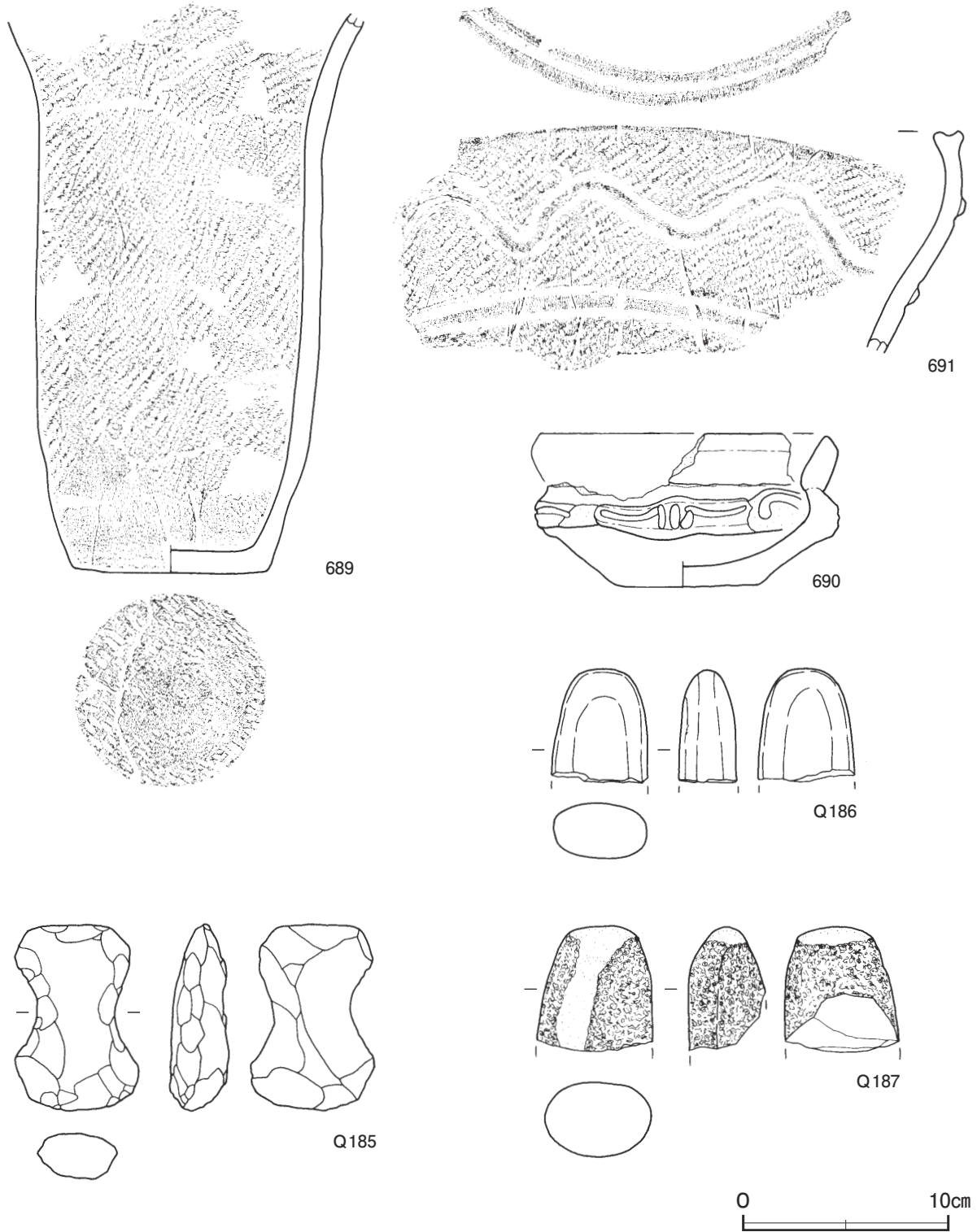
覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 8 ~ 10 層は, P 2 の覆土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 4 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック多量 |



第 254 図 第 199 号土坑実測図



第 255 図 第 199 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 146 点（深鉢 145，浅鉢 1），石器 4 点（打製石斧 1，磨製石斧未成品 2，磨石 1），剥片 5 点（石英 1，チャート 1，頁岩 2，瑪瑙 1）が出土している。689～691 は覆土中層から下層にかけて、破片が散乱した状態で出土しており，埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 199 号土坑出土遺物観察表 (第 255 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
689	縄文土器	深鉢	-	(27.4)	9.3	長石・石英	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL (縦) 胴部下端ナデ (横) 底面網代痕	覆土中～下層	60% PL125
690	縄文土器	浅鉢	[14.0]	7.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部張出部に隆帯貼付 隆帯上に沈線で文様描画	覆土中層	70% PL125 内面煤付着
691	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口唇頂部に沈線が一巡 地文に単節縄文 LR (横) 口縁部隆帯による蛇行文 頸部隆帯が一巡	覆土中層	PL125

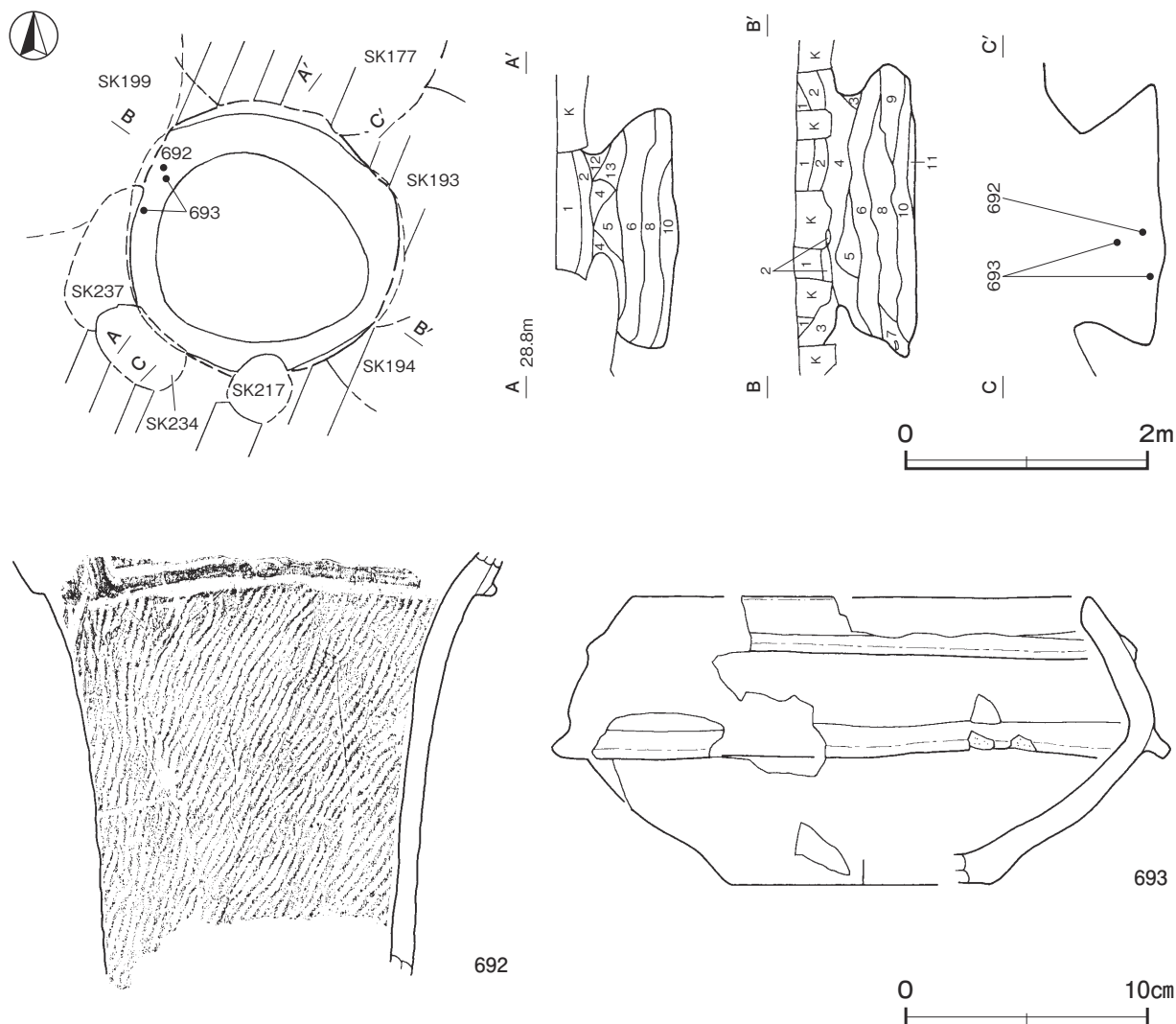
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 185	打製石斧	9.1	6.1	2.9	171.6	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 挟り部・刃部は表裏を敲打	覆土上層	PL162
Q 186	磨製石斧 未成品	(5.5)	4.7	2.9	(117.7)	石英斑岩	全面研磨 側縁部弱い稜 刃部欠損	覆土中	
Q 187	磨製石斧 未成品	(6.1)	(5.6)	3.7	(173.0)	砂岩	一部自然面を残し全面に微細な敲打痕 刃部欠損	覆土下層	PL170

第 200 号土坑 (第 256 図 PL45)

位置 調査区西部の C 2 b0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 193・194・199 号土坑を掘り込み, 第 177・217・234・237 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は径 2.24 ~ 2.28 m の円形である。底面は径 2.15 ~ 2.35



第 256 図 第 200 号土坑・出土遺物実測図

mの円形で、平坦である。確認面からの深さは102cmである。壁は内彎して袋状を呈し、底面から高さ58～68cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 13層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子多量
3	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物微量	11	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	13	褐色	ロームブロック多量
7	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片 66点（深鉢65, 浅鉢1）、石器1点（磨石）、剥片2点（泥岩, 瑪瑙）、石核1点（石英）が出土している。692・693は、北西壁際の覆土下層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第200号土坑出土遺物観察表（第256図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
692	縄文土器	深鉢	-	(17.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	地文に単節縄文RL（縦）頸部隆帯を一巡	覆土下層	30%
693	縄文土器	浅鉢	[19.0]	10.9	[10.6]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁上部と頸部に隆帯が一巡 外面丁寧な磨き	覆土下層	40% PL125

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
	図面類	RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡 (第1分冊)

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成29(2017)年 3月15日 印刷

平成29(2017)年 3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505